鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　22

平成17年度発掘調査報告

（第１分冊）

田楽辻子周辺遺跡
大倉幕府周辺遺跡群
西瓜ヶ谷遺跡
名越ヶ谷遺跡
今小路西遺跡

平成18年３月

鎌倉市教育委員会

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　22

平成17年度発掘調査報告

（第１分冊）

田楽辻子周辺遺跡
大倉幕府周辺遺跡群
西瓜ヶ谷遺跡
名越ヶ谷遺跡
今小路西遺跡

平成18年３月

鎌倉市教育委員会

大倉幕府周辺遺跡群

今小路西遺跡

総　目　次

(第1分冊)

ごあいさつ …… I

例　言 …… II

平成17年度調査の概観 …… VI

1　田楽辻子周辺遺跡（No.033）雪ノ下五丁目555番1地点

第1章　歴史的環境 …… 4

第2章　遺跡の位置と調査の経過、層序 …… 5

第3章　検出した遺構と遺物 …… 8

第4章　まとめ …… 9

2　大倉幕府周辺遺跡群（No.49）二階堂字荏柄27番3の一部地点

第1章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 17

第2章　調査の概要 …… 20

第3章　検出遺構と出土遺物 …… 25

第4章　まとめ …… 76

3　西瓜ヶ谷遺跡（No.213）山ノ内字東瓜ヶ谷1294番 4・5地点

第1章　調査地点の概観 …… 114

第2章　調査の概略 …… 118

第3章　調査結果 …… 120

第4章　まとめ …… 123

4　名越ヶ谷遺跡（No.231）大町四丁目2395番2の1部外1筆

第1章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 138

第2章　調査経過・ｸﾞﾘｯﾄﾞ配置・基本土層 …… 140

第3章　検出遺構と出土遺物 …… 141

第4章　まとめ …… 151

5　今小路西遺跡（No.201）御成町200番2地点

第1章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 164

第2章　調査の概要 …… 169

第3章　検出遺構と出土遺物 …… 174

第4章　まとめ …… 266

第5章　今小路西遺跡の花粉化石 …… 268

(第2分冊)

6　極楽寺旧境内遺跡（No.291）極楽寺三丁目358番外地点

第1章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 5

第2章　調査の概要 …… 9

第３章　検出遺構と出土遺物 ……14
第４章　まとめ ……30
7　西ノ台遺跡（No.378）台字西ノ台1595番ほか地点
第１章　調査の概略 ……43
第２章　調査結果 ……43
第３章　まとめ ……45
8　公方屋敷跡（No.268）浄明寺四丁目273番地点
第１章　遺跡概観 ……55
第２章　検出した遺構と遺物 ……59
第３章　まとめ ……93
9　光明寺旧境内遺跡（No.316）材木座六丁目855番21外地点
第１章　遺跡の位置と歴史的環境 ……108
第２章　調査の経過と層序 ……113
第３章　検出した遺構と遺物 ……113
第４章　まとめ ……153
10　若宮大路周辺遺跡群（No.242）雪ノ下一丁目161番33の一部地点
第１章　調査地点の概観 ……180
第２章　調査の概要 ……187
第３章　調査の成果 ……189
第４章　まとめと考察 ……233
11　浄妙寺旧境内遺跡（No.408）浄明寺三丁目101番13地点
第１章　遺跡の位置と歴史的環境 ……257
第２章　調査の経過と堆積土層 ……260
第３章　検出された遺構と遺物 ……261
第４章　まとめ ……271
12　若宮大路周辺遺跡群（No.242）由比ガ浜一丁目127番1地点
第１章　遺跡の位置 ……288
第２章　発見された遺構と遺物 ……293
第３章　まとめ ……305
13　下馬周辺遺跡（No.200）大町二丁目975番6地点
第１章　遺跡の位置と歴史的環境 ……314
第２章　調査経過・グリッド配置・基本層序 ……317
第３章　検出遺構と出土遺物 ……319
第４章　まとめ ……332
14　永福寺跡（鎌倉市No.61）二階堂字亀ヶ渕247番13地点
第１章　環境と立地 ……342
第２章　調査の概要 ……345
第３章　遺構と遺物 ……347
第４章　調査成果 ……360

15　米町遺跡（No.245）大町二丁目992番7外地点

第１章　遺跡の位置と歴史的環境 ……374
第２章　調査経過・ｸﾞﾘｯﾄﾞ配置・基本土層 ……376
第３章　検出遺構と出土遺物 ……378
第４章　まとめ ……391

平成17年度調査の概観

平成１７年度の緊急調査実施件数は、前年度からの継続調査３件を含む３０件であり、調査面積は1,535.99㎡であった。これを前年度の32件、1,442.09㎡と比較すると件数は２件減少（対前年度比6.3%減）し、調査面積では93.90㎡の増加（対前年度比6.5%増）となっているが、ここ数年間の傾向としてはほぼ横ばいの状態とみることができる。調査面積は平均で１件あたり51.19㎡（前年度は45.06㎡）であり、１件あたりの調査面積については前年度より若干、増加の傾向が窺われる。

調査原因は個人専用住宅の建設が２９件、自己用店舗併用住宅の建設が１件である。これら３０件の工種別内訳は、鋼管杭打ち工事が１６件（53.3%）、地盤改良工事が８件（26.7%）、車庫、擁壁等の築造が４件（13.3%）、その他が２件（6.7%）となっている。今年度も鋼管杭打ち工事や地盤改良工事が発掘調査の主体的な原因（２４件：80%）になっている傾向が顕著にみられた。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。（調査原因、面積及び期間等については「平成17年度調査地点一覧」を参照。）

1　大楽寺跡（No.262）

市内中心部の東に位置する浄明寺地区の通称、胡桃ヶ谷と呼ばれる谷戸の南側入り口部分となる浄明寺四丁目に所在する。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、13世紀後半代の礎石建物跡が部分的に発見されるなど、谷戸内における土地利用の一端を知ることが出来ることとなった。

2　長谷小路周辺遺跡（No.236）

市内中心部のやや西側となる長谷一丁目に位置し、県道鎌倉葉山線が東から西に向かう道筋の北側に所在する。基礎工事に際して地盤の柱状改良工事を実施する自己用店舗併用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、砂丘上に営まれた方形竪穴建築址等の遺構が発見された。

3　佐助ヶ谷遺跡（No.203）

市内中心部のやや西側となる佐助一丁目に位置し、通称御成山と呼ばれる丘陵の西麓に対面するかたちの丘陵の東側裾部分に所在する。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、旧地形となる丘陵を大きく切り崩して形成された平場に中世の遺構が営まれている状況が判明した。

4　円覚寺門前遺跡（No.434）

市内北部の山ノ内に所在し、ＪＲ北鎌倉駅前を南北にはしる主要地方道横浜鎌倉線から瓜ガ谷に向かって約70ｍ程西側に入った場所に位置している。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、土壙、柱穴、溝跡等のおおむね14世紀代の遺構が確認された。

5　若宮大路周辺遺跡群（No.242）

市内中心部の由比ガ浜一丁目に所在し、今小路と呼ばれる街路の東側に位置している。個人専用住宅の建築に付帯する車庫の築造により敷地の一部が切り下げられることにともない発掘調査を実施した。

調査の結果、砂丘上に立地する方形竪穴建築址、土壙、溝跡等の遺構が確認された。

6　極楽寺旧境内遺跡（No.291）

市内中心部の平野部の西方に存する丘陵を越えた極楽寺二丁目に所在し、真言律宗寺院の極楽寺からは北東約300ｍの場所にあたる谷戸内に位置している。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設に発掘調査を実施した。

調査の結果、破砕した泥岩を版築して造った基壇状遺構をはじめ、土壙、柱穴、溝跡等の遺構が確認された。

7　宝蓮寺跡（No.374）

市内中心部からやや北寄りの佐助二丁目に所在し、南から北に向かって樹枝上に広がる谷戸のうち西から東にのびる支谷の東側最奥部に位置する。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、が発見された。調査区北側の山裾に幅２ｍ、深さ1.5ｍの規模を有する堀跡が確認された。さらに堀跡の南側には幅1.8ｍの築地の基底部も発見され、谷戸内の土地利用についての新たな知見を得ることが出来た。

8　若宮大路周辺遺跡群（No.242）

前述の調査地点５の南側に隣接する場所である。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、北側隣接地の調査成果とほぼ同様に砂丘上に立地する方形竪穴建築址、土壙、溝跡等の遺構が確認された。

9　天神山城（No.384）

市内中心部から北西の山崎字宮廻に位置し、地元で天神山と呼ばれる独立丘陵の西側裾部に立地している。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、調査区の北東側において背後の丘陵から連なる岩盤面が確認され、この岩盤上に堆積するような状況で古墳時代後期の土師器が一定量まとまって出土した。

10　高徳院周辺遺跡（No.327）

市内中心部のやや西側に所在し、南北に長大な谷戸のほぼ中央部東側にあたる長谷五丁目に位置している。地盤の改良工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、土壙、柱穴、井戸等の遺構が確認された。

11　覚園寺旧境内遺跡（No.435）

市内中心部の東側にあたる二階堂字会下に所在し、鎌倉宮から覚園寺に至る細長い谷戸内の西側に位置している。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、土壙、柱穴等の遺構を確認した。なお、当該地北側隣接地においては平成16年度にも発掘調査が実施されているが、ほぼ同様な遺構が連綿として展開している状況であることが判明した調査であった。

12　若宮大路周辺遺跡群（No.242）

市内中心部の小町二丁目に位置し、商店街として賑わいをみせる小町通りから小さな路地を西に入った場所に所在する。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、掘立柱建物跡、土壙、井戸、溝跡等の遺構を確認した。

13　清涼寺跡（No.183）

市内中心部のやや北側となる扇ガ谷四丁目の谷戸内に位置している。海蔵寺からは東側の丘陵をはさんで約160ｍほどの場所に所在する。基礎工事に際して地盤の柱状改良工事を実施する個人専用住宅の建設が実施されることとなり発掘調査を実施した。

調査の結果、大規模な構造を有する南北方向の溝跡を確認した。この溝跡は凝灰岩の切石を４段以上に積んだ構造であり、数度にわたって改修された状況が判明した。谷戸内の土地利用を検討するにあたり、大きな区画施設が設けられている状況を把握することが可能となった調査であった。

14　浄妙寺旧境内遺跡（No.408）

市内中心部の東側にあたる浄明寺三丁目に位置している。個人専用住宅の建設にともなう車庫及び擁壁の築造にともなって発掘調査を実施した。

調査の結果、道路状遺構、土壙、柱穴、溝跡等の遺構が確認された。調査区の西側で確認された南北方向の溝跡は木組みの構造を有するものであり、敷地の南側に存する六浦道に直交する方向性を有していることが判明した。

15　天神山城（No.383）

市内北部となる山崎字宮廻に所在し、前述の調査地点９とは独立丘陵をはさんだ反対側の東側山裾部分に立地している。個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、土壙、柱穴等の遺構が確認されたが、それぞれの遺構の埋没深度がきわめて深いにもかかわらず、その分布は稀薄な状況にあることが把握された調査であった。

16　名越山王堂跡（No.234）

市内中心部の南東側にあたる大町三丁目に所在し、山王堂ヶ谷と呼ばれる谷戸の入口部分の東側山裾に位置する。個人専用住宅の建設にともなう地盤の柱状改良工事を原因として発掘調査を実施した。

調査の結果、礎石建物跡、土壙、柱穴、井戸等の遺構が発見された。

17　材木座町屋遺跡（No.261）

市内中心部の南東側にあたる材木座一丁目に所在し、昨年度も東側隣接地では発掘調査が実施されている場所に位置している。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、土壙、柱穴、溝跡等の遺構が発見された。これらの遺構のうち、14世紀代の遺構群は火

災に遭った痕跡が確認されるものである。

18　最明寺北亭跡（No.137）

市内北部の山ノ内字明月谷に所在し、国指定史跡明月院境内の北側約180ｍの場所に位置している。基礎工事に際して地盤の柱状改良工事を実施する個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、岩盤上に掘られた溝跡、柱穴等の遺構が発見された。

19　由比ガ浜中世集団墓地遺跡（No.372）

市内中心部の南側となる由比ガ浜四丁目に所在し、由比ガ浜の海岸線からは270ｍほど内陸（北側）に入った場所に位置している。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、海浜部から続く砂丘上に方形竪穴建築址、土壙等の遺構が確認された。

20　佐助ヶ谷遺跡（No.203）

市内中心部のやや西側となる佐助一丁目に所在し、御成山と称される丘陵の西側の谷戸内に位置している。前述の調査地点３とは同じ谷戸内に位置し、ほぼ向かい合う位置関係にある。基礎工事に際して地盤の柱状改良工事を実施する個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、土壙、柱穴、溝跡等の遺構が発見された。

21　大倉幕府跡（No.253）

市内中心部のやや東側にあたる雪ノ下三丁目に位置し、源頼朝によって開府された最初の幕府である大倉幕府の推定地と考えられている市立清泉小学校とは路地をはさんで西側に隣接する場所に所在している。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、掘立柱建物跡、柱穴、石列、土壙、溝跡等の遺構が発見された。湧水の激しい場所であったため、出土品には形代や漆盆等の木製品が多く含まれている。

22　今小路西遺跡（No.201）

市内中心部のやや南側にあたる由比ガ浜一丁目に位置し、鎌倉郡衙跡と推定される奈良時代の遺構が発見された今小路西遺跡（御成小学校内地点）の南西約200ｍに位置する。個人専用住宅の建設にともない埋蔵文化財に影響が及ぶことを原因として発掘調査を実施した。

調査の結果、土壙、柱穴、溝跡等の遺構が発見された。溝跡は調査区の北側で発見され、東西方向の軸線を有するものであることが明らかにされた。

23　若宮大路周辺遺跡群（No.242）

市内中心部の東側となる小町二丁目に位置し、小町大路と称される中世鎌倉の主要な街路の東側に所在している。基礎工事に際して地盤の柱状改良工事を実施する個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、方形竪穴建築址等の遺構が発見された。特筆すべきは、当該調査地点で発見された方形竪穴建築址は、これまでの鎌倉市街地における発見例のうち最北に所在する事例となったことである。遺構は13世紀代の年代が考えられる事例である。

24　瑞泉寺周辺遺跡（No.338）

市街地中心部の北東にあたる二階堂字紅葉ヶ谷に位置し、国指定史跡瑞泉寺境内の西側約320ｍの場所に所在する。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、南から北に向かって広がる小さな谷戸内において礎石建物跡、柱穴、土壙等の遺構が発見された。

25　覚園寺旧境内遺跡（No.435）

前述の調査地点11の東側に隣接する。基礎工事に際して地盤の柱状改良工事を実施する個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、調査地点11とほぼ同様の様相が確認された。当該地における遺構の全体像については、今後の資料整理作業において地点11の調査成果とともに総合的に考察をすることとしたい。

26　笹目遺跡（No.207）

市街地中心部の西側にあたる笹目町に位置し、前述の調査地点22から西に約180ｍの場所に所在する。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、丘陵の東側裾部に方形の区画をもつ建物跡等の遺構が発見された。この建物跡は四周に切石を立て、寺院建築に見られるような基壇に類似した遺構を構成している点に特徴を有するものであった。

27　玉縄城跡（No.63）

市内北西部の植木字植谷戸に位置し、玉縄城跡の縄張りにおいては南東外郭部として位置付けられる丘陵の東側山裾に所在する。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

調査の結果、玉縄城跡に関わる16世紀代の年代が考えられる土壙、柱穴、溝跡等の遺構が発見された。

28　名越ヶ谷遺跡（No.231）

市内中心部の南東側にあたる大町三丁目に位置し、日蓮宗寺院大宝寺の参道の南側に所在する。鋼管杭の設置による基礎工事を内容とする個人専用住宅の建設（増築）にともない発掘調査を実施した。

調査面積は極めて小規模な範囲に限定されたものとなったが、土壙、柱穴、溝跡等の遺構を部分的ながらもが確認することができた調査であった。

29　甘縄神社遺跡群（No.177）

市内中心部からやや西寄りの長谷一丁目に位置し、遺跡名の由来となった甘縄神明社東側約150ｍの場所に所在する。個人専用住宅の建設に付帯して実施される車庫の築造にともない発掘調査を実施した。

30　大倉幕府周辺遺跡群（No.49）

市内中心部から東側にあたる二階堂字荏柄に所在し、調査地点の北側に鎮座する荏柄天神社の参道の西側に位置している。基礎工事に際して地盤の柱状改良工事を実施する個人専用住宅の建設にともない発掘調査を実施した。

本誌所収の平成11・14・15年度発掘調査地点一覧

第1分冊

No.	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
① ■	田楽辻子周辺遺跡 (N0.33)	雪ノ下五丁目555番1	個人専用住宅	都市	51.00㎡	平成12年1月7日 ～平成12年1月11日
② ★	大倉幕府周辺遺跡群 (N0.49)	二階堂字荏柄27番3の一部	個人専用住宅	都市	52.39㎡	平成14年9月27日 ～平成14年11月27日
③ ★	西瓜ヶ谷遺跡 (N0.213)	山ノ内字東瓜ヶ谷1294番4外	個人専用住宅	都市	71.19㎡	平成14年9月30日 ～平成14年11月7日
④ ★	名越ヶ谷遺跡 (N0.231)	大町四丁目2395番2の一部	個人専用住宅	都市	30.00㎡	平成15年2月12日 ～平成15年3月17日
⑤ ◎	今小路西遺跡 (N0.201)	御成町200番2の一部	自己用店舗併用住宅 (杭基礎構造)	都市	124.00㎡	平成15年3月3日 ～平成15年6月19日

第2分冊

No.	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
⑥ ★	極楽寺旧境内遺跡 (N0.291)	極楽寺三丁目358番外	個人専用住宅 (地下室)	社寺	75.88㎡	平成14年12月2日 ～平成15年2月6日
⑦ ▲	西ノ台遺跡 (N0.378)	台字西ノ台1595番外	個人専用住宅	都市	35.15㎡	平成15年4月11日 ～平成15年4月22日
⑧ ▲	公方屋敷跡 (N0.268)	浄明寺四丁目273番	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	73.13㎡	平成15年4月30日 ～平成15年7月5日
⑨ ▲	光明寺旧境内遺跡 (N0.316)	材木座六丁目855番21外	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	社寺	77.00㎡	平成15年5月1日 ～平成15年6月30日
⑩ ▲	若宮大路周辺遺跡群 (N0.242)	雪ノ下一丁目161番33の一部	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	24.00㎡	平成15年5月9日 ～平成15年6月11日
⑪ ▲	浄妙寺旧境内遺跡 (N0408)	浄明寺三丁目101番13	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	社寺	40.00㎡	平成15年6月10日 ～平成15年7月9日
⑫ ▲	若宮大路周辺遺跡群 (N0.242)	由比ガ浜一丁目127番1	個人専用住宅	都市	30.00㎡	平成15年7月15日 ～平成15年8月6日
⑬ ▲	下馬周辺遺跡 (N0.200)	大町二丁目975番6	個人専用住宅	都市	25.00㎡	平成15年10月8日 ～平成15年10月17日
⑭ ▲	永福寺跡 (N0.61)	二階堂字亀ヶ渕247番13	個人専用住宅	都市	42.25㎡	平成15年9月10日 ～平成15年10月14日
⑮ ▲	米町遺跡 (N0.245)	大町二丁目922番7外	個人専用住宅	都市	42.55㎡	平成15年8月9日 ～平成15年9月22日

■印は平成11年度実施の発掘調査。
★印は平成14年度実施の発掘調査。
◎印は平成14年度～平成15年度実施の発掘調査。
▲印は平成15年度実施の発掘調査。

平成17年度発掘調査地点一覧

No.	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1★	大楽寺跡 (N0.262)	浄明寺四丁目246番1	個人専用住宅 (杭基礎構造)	社寺	41.50㎡	平成17年2月22日 ～平成17年4月12日
2★	長谷小路周辺遺跡 (N0.236)	長谷一丁目265番19	自己用店舗併用住宅 (杭基礎構造)	社寺	56.00㎡	平成17年2月25日 ～平成17年4月11日
3★	佐助ヶ谷遺跡 (N0.203)	佐助一丁目496番5	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	56.00㎡	平成17年3月7日 ～平成17年5月18日
4	円覚寺門前遺跡 (N0.434)	山ノ内字藤源治947番6外	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	36.00㎡	平成17年4月5日 ～平成17年5月13日
5	若宮大路周辺遺跡群 (N0.242)	由比ガ浜一丁目126番1の一部	個人専用住宅 (車庫の築造)	都市	27.00㎡	平成17年4月7日 ～平成17年5月9日
6	極楽寺旧境内遺跡 (N0,291)	極楽寺二丁目948番8	個人専用住宅 (杭基礎構造)	社寺	50.50㎡	平成17年4月7日 ～平成17年5月20日
7	宝蓮寺跡 (N0,374)	佐助二丁目905番3	個人専用住宅 (杭基礎構造)	社寺	72.99㎡	平成17年4月7日 ～平成17年7月8日
8	若宮大路周辺遺跡群 (N0,242)	由比ガ浜一丁目126番11	個人専用住宅 (車庫の築造)	都市	34.50㎡	平成17年5月10日 ～平成17年5月21日
9	天神山城 (N0,384)	山崎字宮廻689番1	個人専用住宅 (杭基礎構造)	集落	45.25㎡	平成17年6月2日 ～平成17年6月17日
10	高徳院周辺遺跡 (N0,327)	長谷五丁目382番7の一部	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	50.00㎡	平成17年6月20日 ～平成17年8月19日
11	覚園寺旧境内遺跡 (N0,435)	二階堂字会下351番1	個人専用住宅 (杭基礎構造)	社寺	30.00㎡	平成17年6月22日 ～平成17年8月31日
12	若宮大路周辺遺跡群 (N0,242)	小町二丁目11番2	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	44.00㎡	平成17年7月12日 ～平成17年8月31日
13	清涼寺跡 (N0,183)	扇ガ谷四丁目556番4外	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	社寺	60.00㎡	平成17年7月21日 ～平成17年9月30日
14	浄妙寺旧境内遺跡 (N0,408)	浄明寺三丁目948番8	個人専用住宅 (車庫・擁壁築造)	社寺	28.50㎡	平成17年7月25日 ～平成17年9月30日
15	天神山城 (N0,383)	山崎字宮廻745番の一部	個人専用住宅	城館	16.00㎡	平成17年8月23日 ～平成17年9月2日

No.	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
16	名越山王堂跡 (N0,234)	大町三丁目1362番1	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	社寺	27.50㎡	平成17年8月23日 ～平成17年10月20日
17	材木座町屋遺跡 (N0.261)	材木座一丁目149番4	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	39.50㎡	平成17年8月31日 ～平成17年10月17日
18	最明寺北亭跡 (N0.137)	山ノ内字明月谷295番4外	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	城館	15.00㎡	平成17年9月14日 ～平成17年9月27日
19	由比ガ浜中世集団墓地遺跡 (N0.372)	由比ガ浜四丁目1107番32	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	73.50㎡	平成17年9月16日 ～平成17年10月25日
20	佐助ヶ谷遺跡 (N0.203)	佐助一丁目496番4	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	44.00㎡	平成17年10月4日 ～平成17年10月27日
21	大倉幕府跡 (N0.253)	雪ノ下三丁目704番3外	個人専用住宅 (杭基礎構造)	官衙	56.00㎡	平成17年10月25日 ～平成18年1月27日
22	今小路西遺跡 (N0.201)	由比ガ浜一丁目157番7外	個人専用住宅	都市	63.75㎡	平成17年10月31日 ～平成18年1月18日
23	若宮大路周辺遺跡群 (N0.242)	小町三丁目422番2外	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	78.00㎡	平成17年11月2日 ～平成18年2月6日
24	瑞泉寺周辺遺跡 (N0.338)	二階堂字紅葉ヶ谷674番1	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	56.00㎡	平成17年11月8日 ～平成18年1月18日
25	覚園寺旧境内遺跡 (N0.435)	二階堂字会下351番2外	個人専用住宅 (杭基礎構造)	社寺	53.00㎡	平成17年12月5日 ～平成18年3月2日
26	笹目遺跡 (N0.207)	笹目町423番2外	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	144.75㎡	平成17年12月1日 ～平成17年3月24日
27 ◎	玉縄城跡 (N0.63)	植木字植谷戸198番	個人専用住宅 (杭基礎構造)	城館	98.00㎡	平成18年2月6日 ～平成18年4月4日
28	名越ヶ谷遺跡 (N0.231)	大町三丁目1230番4外	個人専用住宅	都市	12.25㎡	平成18年1月25日 ～平成18年3月9日
29 ◎	甘縄神社遺跡群 (N0.177)	長谷一丁目227番24	個人専用住宅 (車庫の築造)	都市	93.50㎡	平成18年2月23日 ～平成18年3月31日
30	大倉幕府周辺遺跡群 (N0.49)	二階堂字荏柄76番8	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	33.00㎡	平成18年2月23日 ～平成18年3月31日

★印は平成16年度からの継続調査を示す。
◎印は平成18年度への継続調査を示す。

鎌倉市全図
1：50，000
平成17年度の緊急発掘調査地点 （1～31）
本書掲載の平成11・14・15年度発掘調査地点 （①～⑮）
※遺跡名は一覧表を参照
横浜市
逗子市

田楽辻子周辺遺跡（No.033）

雪ノ下五丁目555番１地点

例　　言

1. 本報は鎌倉市雪ノ下五丁目555番１地点に所在する個人専用住宅建築に先だち行われた田楽辻子周辺遺跡（県遺跡台帳№33）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は平成12年１月７日から同年１月11日にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
3. 本報使用の位置図及び遺構図作成、遺構図トレース、観察表作成は菊川 泉が、遺物実測、遺物実測図トレースは福田が分担作成した。
   第１章歴史的環境、第２章遺跡の位置と調査の経過、層序・第３章検出した遺構と遺物・第４章まとめは福田 誠が執筆し文責を負うものとする。編集は福田が行った。
4. 本報に使用した遺構写真は須佐仁和が、出土遺物写真撮影は古田土俊一が行った。
5. 発掘調査・整理の体制は以下の通りである。
   主任調査員　福田 誠（鎌倉市教育委員会嘱託）　原 廣志（鎌倉市教育委員会嘱託）
   調　査　員　須佐仁和　早坂伸市　菊川 泉　古田土俊一
6. 発掘調査資料（記録図面・写真・出土遺物）は、鎌倉市教育委員会が一括保管している。

目　　次

本 文 目 次

第１章　歴史的環境 ……4
第２章　遺跡の位置と調査の経過、層序 ……5
第３章　検出した遺構と遺物 ……8
第４章　まとめ ……9

挿 図 目 次

図１　遺跡位置図 ……5
図２　調査地点位置図 ……6
図３　遺構全測図 ……7
図４　出土した遺物 ……8

図版１　検出した遺構……10
図版２　出土した遺物……10

第１章　歴史的環境

調査地点は滑川と支流の大御堂川の合流地点、東西に通る田楽辻子と勝長寿院のある南に延びる大御堂ヶ谷入り口の辻付近に面している。遺跡名「田楽辻子周辺遺跡」の「田楽」の由来として「相良家文書」正応三年（1290）五月八日　相良頼俊の譲状に「鎌倉の釈迦堂の前地事」として、その四至を注して「東限てんかくか地、北限やのとの々地、西限ミそ、南限太郎殿地」と見え、釈迦堂前に田楽を生業としている人々が居住していたためであろうと推定している（註１）。また「田楽」の名は、『吾妻鏡』では二ヶ所挙げることが出来る。

『吾妻鏡』

嘉祿三年（1227）正月二日条　戊の刻、田楽辻子の東西一町餘焼亡す。

正嘉元年（1257）十一月廿二日条　癸酉　晴る。丑の刻、若宮大路焼亡す。籐次郎左衛門入道が家失火す。花山院新中納言（通雅）・陸奥七郎（北条業時）・下野前司（宇都宮泰綱）・内蔵権頭（親家）・式部大夫入道（伊賀光西）が舊宅・壹岐前司（後藤基政）・伊豆太郎（實保）左衛門尉・前縫殿頭文元等が館、ことごとくもつて災す。田楽辻子に至りて、火止まる。

嘉祿三年の記事から、田楽辻子は東西に通ずる小路と思われ、ある程度道路沿いに町並みを形成していたと考えられる。また正嘉元年の記事から、鎌倉を南北に貫く道路である若宮大路の東に近接し、東方に延びる小路と見ることが出来よう。

このことから田楽辻子は、鎌倉時代には北条屋敷（宝戒寺）の北、筋替橋辺りから宅間ヶ谷に至りここで六浦路に接していたと考えられる。現在、滑川の左岸を大御堂橋から報国寺のある宅間ヶ谷に至る小道がこの田楽辻子の道筋に当たると考えられる。滑川の右岸には併走して六浦路が東西に通り朝比奈を経て六浦に至っている。田楽辻子沿いの調査はこれまでに７ヶ所（田楽辻子周辺遺跡３ヶ所、釈迦堂跡３ヶ所、上杉氏憲邸跡１ヶ所）行われている。

1. 田楽辻子周辺遺跡
   『釈迦堂田楽辻子遺跡発掘調査報告書』「浄明寺字釈迦堂658番外地点」1990年
   『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書８』「浄明寺字宅間562番33地点」1992年３月
   『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1』「浄明寺字一丁目661番外地点」2000年３月
2. 釈迦堂跡
   『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』「浄明寺字釈迦堂ヶ谷642番地点」1983年３月
   『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』二次調査「浄明寺字釈迦堂ヶ谷642番地点」1983年３月
   『浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡』「浄明寺字釈迦堂597番１地点・628番１外地点」1989年３月
3. 上杉氏憲邸跡
   『上杉氏憲邸跡』「浄明寺一丁目699番外地点」1995年３月

第２章　遺跡の位置と調査の経過、層序

図1　遺跡位置図

遺跡の位置と調査の経緯

調査地点は鎌倉市雪ノ下五丁目555番1、北緯35° 19′ 09″ 、東経139° 33′ 58″ に位置する。

発掘調査は、個人専用住宅建設に伴い道路面に接する切り土部分に対し、平成12年１月７日に調査を開始、同年１月11日まで行った。対象面積およそ60㎡の内、調査は撹乱されていない部分約12㎡を対象として行ったものである。調査中に使用した水準は鎌倉市三級水準点BM.35（L=12.7773ｍ）から仮原点に移動したもので、仮原点の海抜は15.686ｍである。

層序

地表（海抜13.4～13.3ｍ）から下に1.2ｍ～1.3ｍまで表土と耕作土で覆われている。耕作土により遺物包含層は失われている。第１面（海抜12.2ｍ）の１層は約10㎝の厚さで砂利、炭化物、土丹粒を含む淡褐色粘質土。２層は褐色粘質土。３層は約20㎝の厚さで良く締まった灰褐色粘質土、４層は地山面（海抜12ｍ）で黒褐色粘質土層である。調査開始する以前に重機により地山面まで掘削されており、第１面の調査は行えなかった。

検出した遺構・遺物の詳細は次章に譲る。

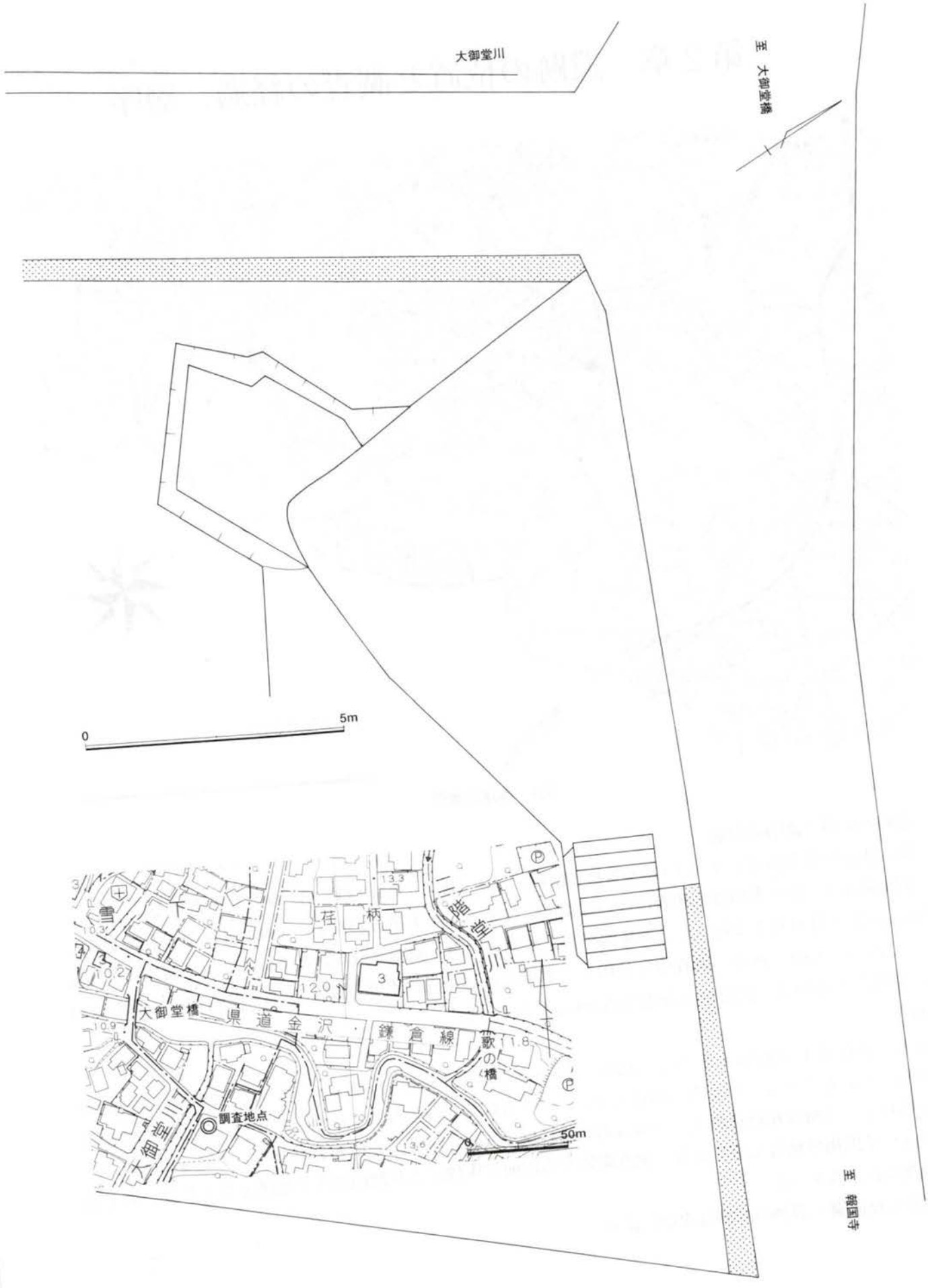


図2　調査地点位置図

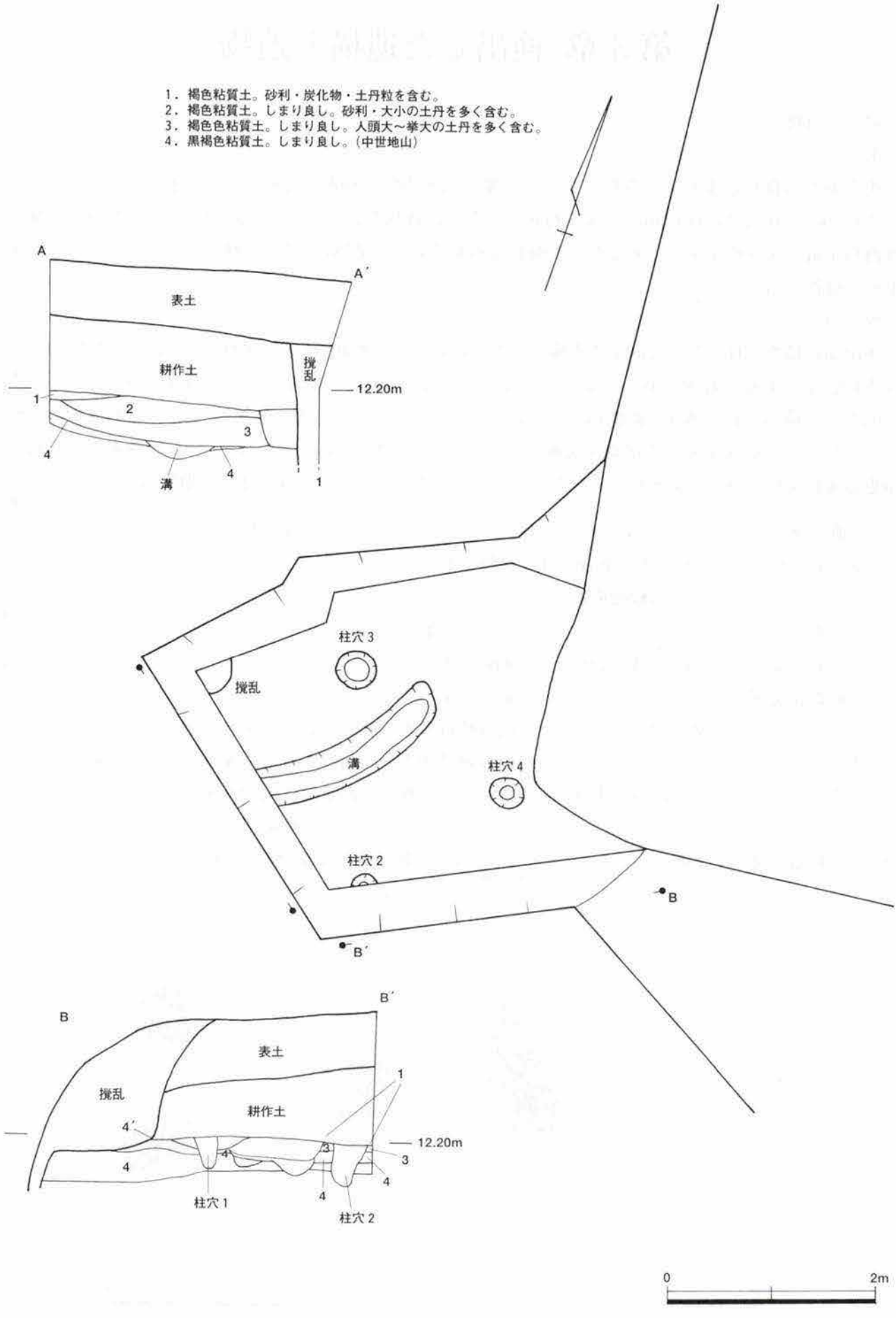

1．褐色粘質土。砂利・炭化物・土丹粒を含む。
2．褐色粘質土。しまり良し。砂利・大小の土丹を多く含む。
3．褐色色粘質土。しまり良し。人頭大～拳大の土丹を多く含む。
4．黒褐色粘質土。しまり良し。(中世地山)
A
A´
表土
耕作土
撹乱
12.20m
1
2
3
4
溝
4
1
柱穴 3
撹乱
溝
柱穴 4
柱穴 2
B
B´
B
B´
表土
撹乱
耕作土
1
4´
4
3
12.20m
3
4
4
柱穴 1
柱穴 2
0
2m

図3　遺構全側図

第３章 検出した遺構と遺物

遺構と遺物

第１面

第１面から掘り込まれている柱穴２穴と土壙１穴を南壁土層断面で確認した。柱穴１は径約20㎝、深さ約30㎝。柱穴２は径約30㎝、深さ約40㎝で覆土に砂利を含んでいた。遺物の出土はない。土壙は東西約１ｍ、深さ約20㎝程であるが、平面形は不明である。遺物は（1）轆轤成形のかわらけ、(3) キセルの雁首が出土している。

地山面

地山面の精査で柱穴２穴と溝１条を検出した。柱穴３は径約40㎝、深さ約20㎝。柱穴４は径約30㎝、深さ約20㎝である。遺物の出土はない。２穴とも１面の遺構の可能性もある。調査区中央付近から南に向かって検出された溝は、幅約40㎝、深さ15㎝、長さ約２ｍである。遺物は（2）手捏ね成形のかわらけ小片、(4) 龍泉窯系の青磁劃花文碗、(5) ・ (6) 鎌倉Ⅰ期の女瓦２片と (7) 短頸壷と思われる須恵器壷底部片、(8) 土師器甕の小片が地山面から出土している。遺構に伴った遺物はない。

（ ）は復元数値

	遺 物 名	法 量(cm)	特 徴 等
1	か わ ら け	口径(11.9)底径(6.4) 器高3.7轆轤成形	轆轤成形。
2	か わ ら け		手捏ね成形。
3	煙 管（雁首）	口径1.5残高1.0	銅製。近世。
4	青磁劃花文碗		龍泉窯系。
5	平 瓦	厚さ2.1	凸面縄目叩き。凹面に若干の布目痕が残る。
6	平 瓦	厚さ2.0	凸面縄目叩き。凹面にも若干の縄目の圧痕が認められる
7	須恵器(短頸壷か) ８世紀中～後半	高台径10.2 残高5.7	内底に自然釉。外面下部は幅約１cm程のヘラ削り。高台は貼り付けで外反する。轆轤回転方向は時計回り。
8	土 師 器（甕）	不明	0.5㎜程の砂粒多数。体部厚さ２mm、外面ヘラ削り。

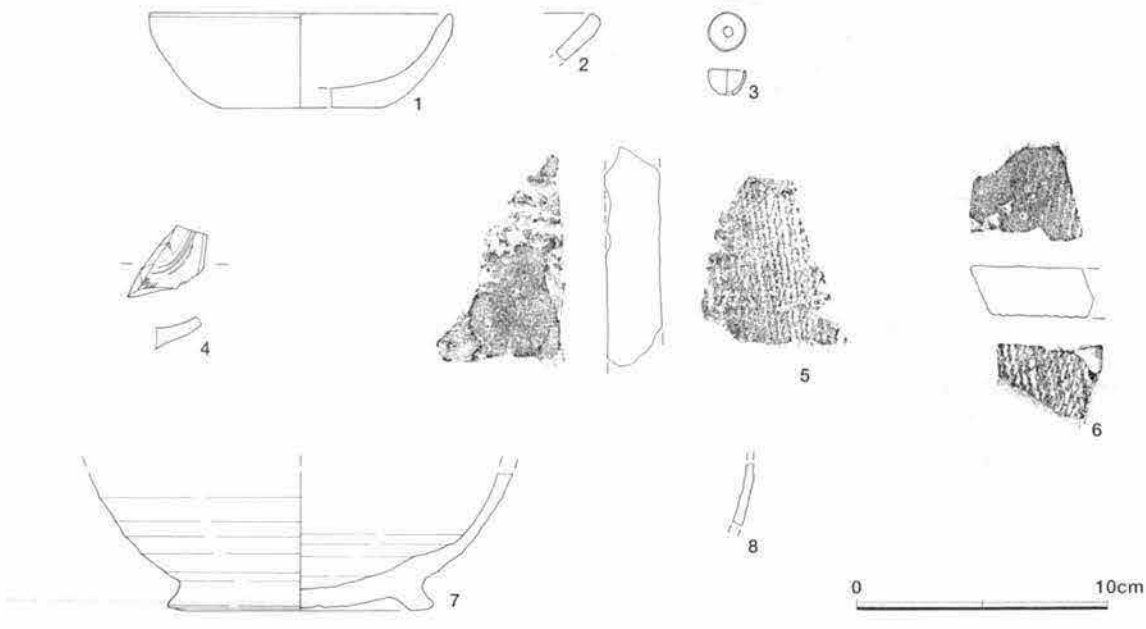


図4 出土した遺物

第4章　まとめ

遺跡の立地が勝長寿院のあった大御堂ヶ谷入り口に当たることから、鎌倉時代初期から開けていた事は疑いようのないことと思われる。田楽辻子がいつ整備されたかは明らかでないが、「吾妻鏡」嘉祿三年（1227）条に見られるように13世紀前半には街区を形成していたと推察できよう。周辺の調査（『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1』「浄明寺字一丁目661番外地点」他）から田楽辻子と考えられる「道路」の検出が報告されている。その詳細は、土丹を突き固めた20㎝程の硬化面。二度に渡る貼り増し。溝を伴う。などと報告され、13世紀の早い段階から15世紀前半までの年代観が与えられている。

出土遺物は少ないが、龍泉窯系青磁劃花文碗や手捏ねかわらけの存在から見ても、鎌倉初期には開発が行われ、勝長寿院を中心に賑わっていた地域と思われる。また、須恵器や土師器が出土することから、源頼朝入府以前から人々の生活が営まれていた地域とも考えられよう。田楽辻子周辺遺跡の調査件数は周辺の調査を含めても７件程である。調査件数が増えてくれば滑川左岸地域の様子がより明らかになると考えられる。

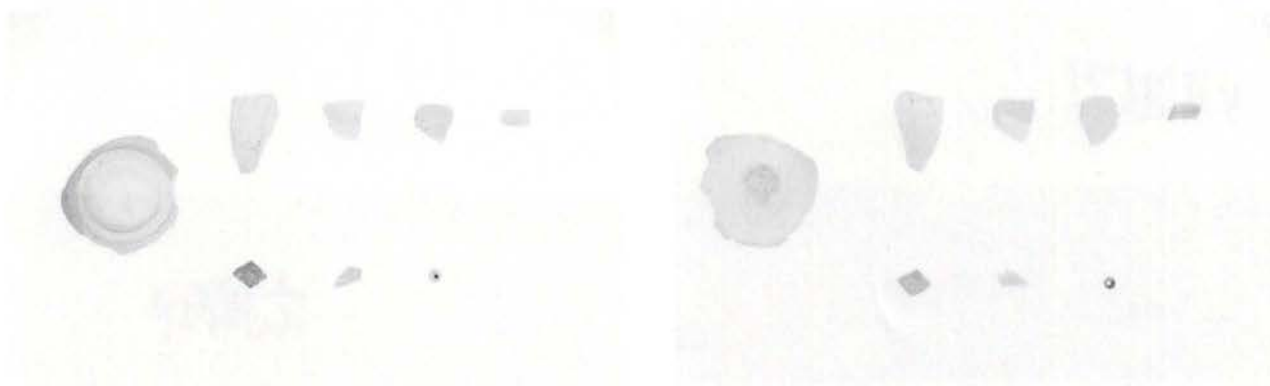
1．南壁断面（北から）

3．地山面全景（南から）

2．南壁に残る第１面の遺構断面

4．地山面全景（東から）

図版1　検出した遺構



表（外）面　　裏（内）面

図版2　出土した遺物

大倉幕府周辺遺跡群（No.49）

二階堂字荏柄27番3の一部地点

例　　言

1. 本報文は、大倉幕府周辺遺跡群（№49）のうち二階堂字荏柄27番3地点における個人専用住宅（表層地盤改良）建設に伴う緊急調査報告書である。
2. 発掘調査は、平成14年9月27日から同年11月27日にかけて鎌倉市教育委員会が実施した。
3. 調査体制は以下の通りである。
   調査担当者：原　廣志
   調　査　員：須佐直子、太田美智子、須佐仁和、早坂伸市、中川健二、栂岡渓音
   調査補助員：宇都洋平・高橋拓也・野崎美帆・山口正紀（鶴見大学生）、銘苅春也、橋本和之・原　考史（国士舘大学生）
   調査作業員：荻野　勲、奥山利平、山崎一男　（社）鎌倉市シルバー人材センター
   協力機関名：（社）鎌倉市シルバー人材センター、鎌倉考古学研究所、東国歴史考古学研究所
4. 本報の執筆は、第1・3章を原が執筆、第2章を須佐直子がそれぞれ分担執筆し、第4章については調査員協議のもと原が稿を草した。作図作成には太田、早坂、中川、栂岡、宇都、高橋、野崎、山口、銘苅、橋本が行い、法量表を宇都が行った。
5. 本報掲載の写真は全景・遺構を原・須佐（仁）、出土遺物を須佐（仁）が撮影した。
6. 発掘調査における出土遺物・図面類・写真などの資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。
7. 本報の凡例は以下の通りである。
   図版縮尺　　全測図：1/100
   　　遺構図：1/20、1/40
   　　遺物図：1/3、1/6（常滑窯製品の一部）
   遺構図版　　遺構のレベルは海抜標高の数値を示している。
   遺物図版　　－・－・－は釉薬の範囲を示す。黒塗りは灯明皿に付着した油煙煤を表現している。
   　　手捏ねかわらけ底径の法量は外底指頭痕と口縁部との稜部の数値を表している。
8. 現地調査及び資料整理においては、多くの方々からご助言、並びにご援助を賜った。記して感謝の意を表します。（敬称略、五十音順）
   秋山哲雄、大三輪龍彦、岡　陽一郎、小野正敏、河野眞知郎、菊川　泉、小林康幸、斉藤慎一、佐藤仁彦、汐見一夫、宗臺秀明、宗臺富貴子、田代郁夫、玉林美男、塚本和弘、継　実、手塚直樹、福田　誠、松尾宣方、馬淵和雄、桃崎祐輔

目　　次

本 文 目 次

第１章　遺跡の位置と歴史的環境……17
1. 遺跡の位置 ……17
2. 歴史的環境 ……18
第２章　調査の概要……20
1. 調査の経緯と経過 ……20
2. 測量軸の設定 ……21
3. 層序と生活面 ……22
第３章　検出遺構と出土遺物……25
1. 第1面の遺構・遺物……25
2. 第2面の遺構・遺物……44
3. 第3面の遺構・遺物……61
4. 中世地山トレンチ ……75
第４章　まとめ……76

挿 図 目 次

図1　調査地点と周辺遺跡 ……16
図2　グリット設定・配置図 ……21
図3　調査区西壁土層図 ……22
図4　第1a・b面全測図……24
図5　土壙（1）……26
図6　土壙（2）……27
図7　第1面土壙出土遺物（1）……29
図8　第1面土壙出土遺物（2）……30
図9　第1面土壙出土遺物（3）……32
図10　第1面土壙出土遺物（4）……33
図11　第1面土壙出土遺物（5）……34
図12　第1面柱穴出土遺物（1）……36
図13　第1面柱穴出土遺物（2）……37
図14　第1面柱穴出土遺物（3）……38
図15　第1面柱穴出土遺物（4）……39
図16　第1面上出土遺物（1）……40
図17　第1面上出土遺物（2）……41
図18　第1面上出土遺物（3）……43
図19　第1面上出土遺物（4）……44
図20　第2面全測図……45
図21　建物1……46
図22　第2面建物1出土遺物 ……46
図23　土壙（1）……47
図24　土壙（2）……48
図25　第2面土壙出土遺物（1）……50
図26　第2面土壙出土遺物（2）……51
図27　第2面土壙出土遺物（3）……52
図28　第2面土壙出土遺物（4）……54
図29　第2面土壙出土遺物（5）……55
図30　第2面柱穴出土遺物（1）……56
図31　第2面土壙出土遺物（2）……57
図32　第2面土壙出土遺物（3）……58
図33　第1面下～第2面出土遺物（1）……59
図34　第1面下～第2面出土遺物（2）……60
図35　第3面全測図……62
図36　土壙2・5～7……63
図37　第3面土壙出土遺物……64
図38　溝1……65
図39　第3面溝1出土遺物 ……66
図40　第3面柱穴出土遺物（1）……67
図41　第3面柱穴出土遺物（2）……68
図42　第3面柱穴出土遺物（3）……69
図43　第3面柱穴出土遺物（4）……70
図44　第2面下～第3面出土遺物（1）……71
図45　第2面下～第3面出土遺物（2）……73
図46　第2面下～第3面出土遺物（3）……74
図47　中世地山トレンチ ……75
図48　中世地山トレンチ出土遺物 ……75

表 目 次

表1. 出土遺物法量表 (1) ……77
表2. 出土遺物法量表 (2) ……78
表3. 出土遺物法量表 (3) ……79
表4. 出土遺物法量表 (4) ……80
表5. 出土遺物法量表 (5) ……81
表6. 出土遺物法量表 (6) ……82
表7. 出土遺物法量表 (7) ……83
表8. 出土遺物法量表 (8) ……84
表9. 出土遺物法量表 (9) ……85
表10. 出土遺物法量表 (10) ……86
表11. 出土遺物法量表 (11) ……87
表12. 出土遺物法量表 (12) ……88

写 真 図 版

図版1－ a.Ⅰ区第1面全景 b.Ⅱ区第1面全景 c.土壙8覆土堆積 d.土壙8 ……89
図版2－ a.山皿出土状況 b.土壙5白磁出土状況 c.土壙10・37 d.土壙11硯出土状況
e.土壙12 f.土壙14 g.土壙15 h.土壙22砥石出土状況 ……90
図版3－ a.第1b面全景 b.P47かわらけ出土状況 c.P43火鉢出土状況 ……91
図版4－ a.Ⅰ区第2面全景 b.Ⅱ区第2面全景 c.第2面建物1……92
図版5－ a.柱穴ロ—1 b.柱穴ロ—2 c.柱穴ロ—3 d.柱穴ハ—1 e.柱穴ハ—2
f.柱穴ハ—3 ……93
図版6－ a.土壙19 b.土壙20 c.土壙11・12、P33・34 ……94
図版7－ a.Ⅰ区3面全景 b.Ⅱ区第3面全景 c.溝1 d.溝1覆土堆積 ……95
図版8－ a.土壙2 b.土壙2覆土堆積 c.土壙5 d.土壙5覆土堆積 e.土壙6
f.土壙6覆土堆積 g.土壙7 h.土壙7覆土堆積 ……96
図版9－ a.P40 b.P48 c.49 d.P63 ……97
図版10－a.Ⅰ区中世以前全景 b.Ⅱ区中世以前トレンチ c.土壙1 d.土壙2
e.古代遺物出土状況 ……98
図版11－a.Ⅰ区西壁土層堆積 b.Ⅱ区西壁土層堆積 c.調査区北壁土層堆積
d.調査区東壁土層堆積 ……99
図版12－a.土壙1・2 b.土壙4・5 c.土壙6～8 d.土壙10～13・15・17……100
e.土壙19・20・22・26 f.土壙27～29・31
図版13－a.土壙32・35 b.土壙37 c.柱穴1～8 ……101
図版14－a.柱穴11・12・14・16 b.柱穴17～19 c.柱穴20～24・26・27
d.柱穴31・34・38・39・41・43 e.柱穴44・45・47～50・52～54・57……102
図版15－a.第1面上 b.青白磁香炉 c.白磁花瓶……103
図版16－a.第1面上 b.鳥形木製品 c.第1a面下～第1b面……104
図版17－a.建物1、土壙1・3～6 b.土壙7・9～11 c.土壙15 d.土壙12～14・18
e.土壙19……105
図版18－a.土壙20 b.柱穴1・2・5・9・11・12・17～19・22・27・30 c.柱穴31・34・35・45・
47・49・51・53・54・56 d.柱穴61・66・69・71・72・75……106
図版19－a.第1面下～第2面……107

図版20－a.土壙1・3・5・6　b.土壙7・9、溝状土壙1、溝1　c.柱穴1・2・7・10・12・14
d.柱穴15・22・24・33・37・39・43　e.柱穴44・46・49～53　f.柱穴61・69・74～76
g.柱穴77・83……108
図版21－a.第2面下～第3面　b.中世地山トレンチ……109

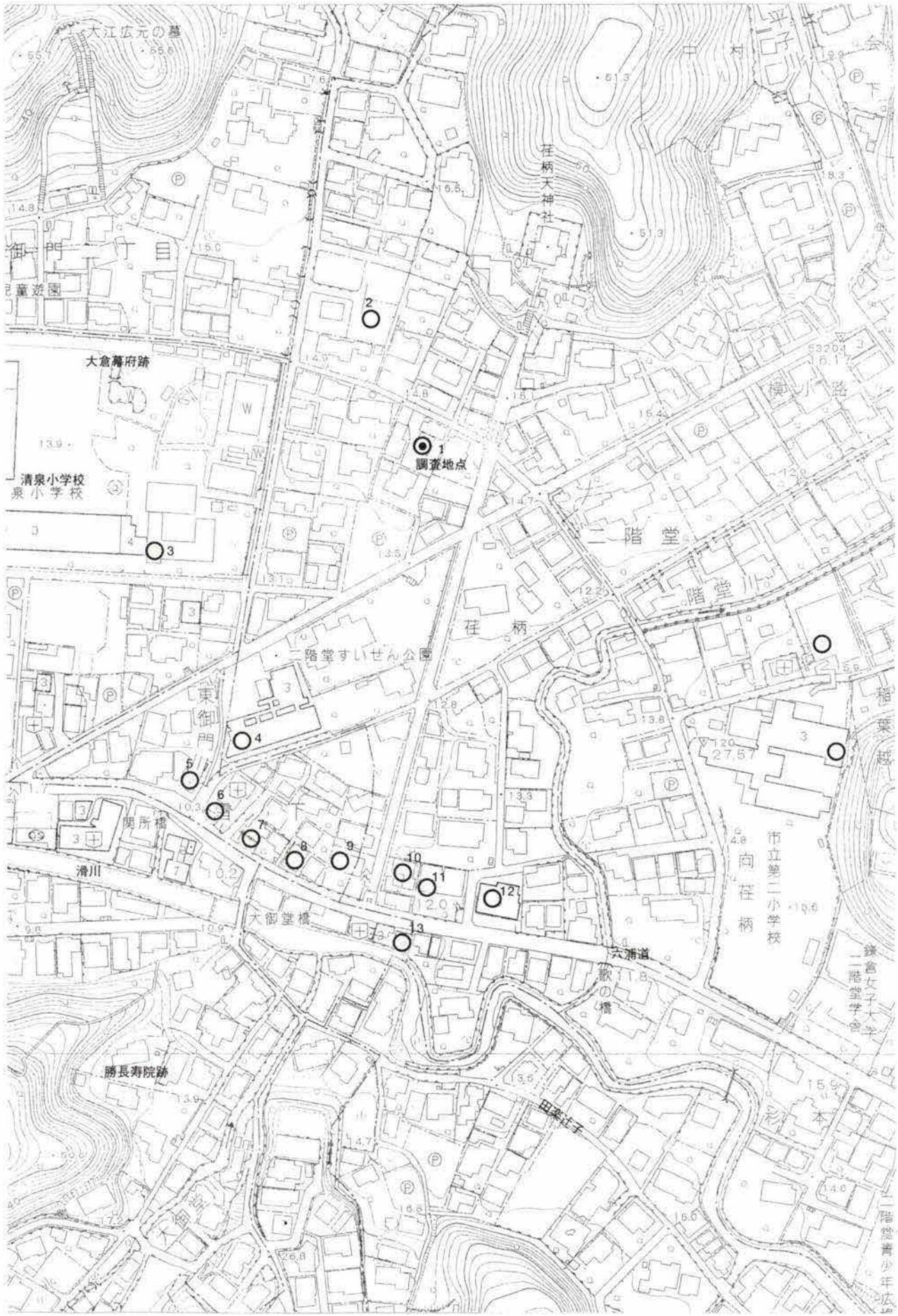


図1　調査地点と周辺遺跡

▽遺跡周辺の主な調査地点（図1の各調査地点と周辺遺跡一覧）

1. 調査地点：二階堂字荏柄27番3地点
2. 大倉幕府周辺遺跡：二階堂字荏柄58番4外地点
3. 大倉幕府跡：私立清泉小学校を含む一帯の地域
4. 大倉幕府周辺遺跡：二階堂字荏柄38番1地点
5. 大倉幕府周辺遺跡：雪ノ下字大倉耕地562番1地点
6. 関取場碑：東御門川に架かる関所橋付近（角田医院の南西隅）
7. 大倉幕府周辺遺跡：雪ノ下字大倉耕地562番16地点
8. 大倉幕府周辺遺跡：雪ノ下字大倉耕地562番29地点
9. 大倉幕府周辺遺跡：雪ノ下字大倉耕地565番4地点
10. 横小路周辺遺跡：二階堂字荏柄10番1地点
11. 横小路周辺遺跡：二階堂字荏柄10番6階地点
12 横小路周辺遺跡：二階堂字荏柄9番1外地点
13 横小路周辺遺跡：雪ノ下5丁目557番1地点
14 勝長寿院跡：大御堂ヶ谷一帯の地域

第１章　遺跡の位置と歴史的環境

1. 遺跡の位置

本調査地点は、JR鎌倉駅から北東に約1.3㎞程のところに位置している（図1）。一帯は、東御門川や二階堂川などが鎌倉最大の河川である滑川に合流する地域で、それらの河川開析によって平坦な土地が形成されており、北側を標高50m前後の丘陵が延び、南側を滑川で囲まれた地帯である。その平地の南側前面を県道金沢鎌倉線（以下では中世の呼称に従い「六浦道」と表記する）が東西に走っている。六浦道は、鶴岡八幡宮東側の筋替橋交差点（現横浜国立大付属小学校の校門あたり）からほぼ真東に延びているが、その北側に源頼朝・頼家・実朝の三代にわたる将軍御所が所在していた土地にあたり、そこは大倉御所、あるいは大倉幕府と呼ばれた鎌倉時代初期の中枢地域である。大倉御所の西限は、現在の付属小学校の校庭を南北に横切る形であったと推定されている（八幡1974・手塚1994・山村1997）。一方で東限は関所橋（六浦道と旧二階堂大路との交差点）から北に延びている路であり、現在は東御門川がこの道路に沿って脇を流れている。東御門という地名は、御所の東側に門があったことに由来しているようである。本調査地点は、このような位置にあった大倉御所の東側に隣接した場所にあり、さらに北側山裾には頼朝の鎌倉入府以前に創建された荏柄天神社が鎮座している。この地域は古代において鎌倉郡荏柄郷にあたり、発掘調査により中世以前に遡る奈良・平安時代の遺構・遺物が発見されており、鎌倉の中でも早くから人々の生活が営まれていた地域でもあった（馬渕1998・原2002）。

2. 歴史的環境

荏柄天神社は、社伝によると長治元年（1104）に菅原道真公を祭神として開かれたもので、後に鎌倉幕府の鬼門鎮守として崇められたと伝える。弘安四年（1281）将軍惟康親王社殿を造営したことがみられ、足利公方成氏のたびたびの参詣が知られる。その後小田原城主北条氏康により天文年間の社殿造営には、関を設けて関銭を徴収したという。場所はその地名の由来となった関所橋付近であろう。また六浦道沿いには、行基が創建したという伝説をもつ杉本寺があり、六浦道が古代より鎌倉の主要な幹線道路のひとつ（武蔵国久良木郡六浦＝横浜市金沢区六浦への往来道）だったと理解される。このように本遺跡の周辺は、源頼朝の鎌倉入府の以前から鎌倉の中心軸であり、六浦道沿いの地域は三浦（和田氏）一族が把握していたという指摘もあり（石井1986・石丸1993・馬淵1998）、『吾妻鏡』の健保元年（1213）に和田義盛の甥の和田胤長の屋敷が「荏柄前」「御所東隣」に所在したことが知られ、本調査地点に近接する地域であったことがそうした傍証になろう。現在の県道金沢鎌倉線を東進すると朝比奈峠を超えて国道16号線方面へ至る県道六浦原宿線になるが、朝比奈の先に大道という地名があり（現在の横浜市金沢区大道）、大道小学校がある西側の一帯は和田氏の名字の由来になったという「和田の谷」の地である（石井1986・岡1995）。それを裏付ける可能性のある平安時代末期の阿弥陀三尊像が小学校と同じ谷戸内の西側に位置した宝樹院（高栄山高照寺）から発見された（金沢区役所2001）。平成二年に実施された仏像修理の際、各尊の頭部からは鎌倉時代後期の仏像修理願文、般若心経の摺経、印佛、仏舎利などの納入品が発見された。願文から三尊像が久安三年（1147）に創建された常福寺（宝樹院の崖下に所在か）の本尊であり、弘安五年（1282）に称名寺開山の審海が北条実時の追善供養の際、修理したことがはっきりした。このように常福寺が平安時代まで遡れる寺院であることが明らかになり、造寺・造仏の影響は在地勢力の三浦氏の外護によるものとして捉えられ、その一族和田氏との関係が推測されよう。

ところで頼朝がこの地に邸宅（大倉御所）を造営すると、有力な御家人たちは周辺に宿館を建てている。『吾妻鏡』によると、御所の西側には三浦義村の邸宅があり貞応三年（1224）に火災で焼けた記事がみられまた六浦道を挟んだ南側（南御門）に八田知家の邸宅があったようで御所終焉の火事により延焼しており、さらに畠山重忠の邸宅も南御門在って京都から来た医師時長の滞在先に指定されている。また御所東側には和田胤長邸の他に比企能員も屋敷を構えており、後に将軍になる頼経が鎌倉到着後、北条義時の大倉邸に入っているので周辺に在ったことが考えられる（貫1971）。さらに本調査地点の周辺には、源頼朝の創建による御願寺が存在している。南方の六浦道から滑川に架かる大御堂橋をわたると、頼朝が父義朝を弔うために建立された源氏の菩提寺である勝長寿院の旧跡が大御堂ヶ谷にあり、また関取橋から北東方向に延びる旧二階堂大路を進むと二階堂の地名由来ともなった永福寺が所在していた。なお御所が若宮大路東側に移転した後の鎌倉時代中期以降は関取橋の辺りを大倉辻とも呼ばれ、建長三年（1251）と文永二年（1265）に幕府による商業地域の規制が行われた際、小町屋ならびに売買の施設を作ることが許可された地域であり、さらに降って天文十一年（1542）には荏柄天神社の再興造営のために関所が設けられていた場所でもある。江戸時代末期の荏柄天神社のかつての様子を伝える絵図が残る（鎌倉市1969）。この絵図は文政十年（1827）に鶴岡八幡宮再建のため、鎌倉を訪れた隅田大隅守の組下、海老原孫三郎利啓によって描かれたもので、山裾に社殿と石段下に別当一乗院と思わしき建物、六浦道に接した参道入口に鳥居がみられるが、調査地点も含めて一面に田畑が拡がっているだけの風景であったことがわかる。荏柄天神社に隣接する本調査地点も同社と何らかの関わりをもつ地域と思われる。

【引用・参考文献】

秋山　哲雄　1997「都市鎌倉における北条氏の邸宅と寺院」『史学雑誌』第106編 第9号　東京大学史学会

石井　進　1986「中世六浦の歴史」『三浦古文化』40

石井　進　1999『〔もののふの都〕鎌倉と北条氏』石井進編 新人物往来社

石丸　熙　1993『都市鎌倉の武士たち』 新人物往来社

岡　陽一郎　1995「中世居館再考 - その性格をめぐって - 」『中世の空間を読む』五味文彦編　吉川弘文館

河野眞知郎　1995『中世都市鎌倉 - 遺跡が語る武士の都 - 』講談社選書メチエ49

鎌　倉　市　1969『図説 鎌倉回顧』

菊川　泉　2001「大倉幕府周辺遺跡（No.49）雪ノ下字大倉耕地562番16地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17　平成12年度発掘調査報告書（第2分冊）』 鎌倉市教育委員会

菊川　英政　1991「大倉幕府周辺遺跡（No.49）雪ノ下字大倉耕地565番4地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊 急調査報告書7　平成2年度発掘調査報告書』　鎌倉市教育委員会

菊川　英政　1991『神奈川県鎌倉市　横小路周辺遺跡発掘調査報告書 - 二階堂字荏柄9番1地点 - 』横小路周辺遺跡発掘調査団

手塚　直樹　1994「中世都市鎌倉の成立」『中世都市鎌倉を掘る』鎌倉考古学研究所編　日本エディタースクール出版部

野本　賢二　1998「横小路周辺遺跡（No.259）雪ノ下字五丁目557番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14 平成9年度発掘調査報告書（第2分冊）』 鎌倉市教育委員会

西岡　芳文　2001『図説　かなざわの歴史』金沢区制五十周年記念事業実行委員会 神奈川新聞社出版局

盛本　昌広

貫　達人　1971「北条氏亭址考」『金沢文庫研究』第8号 神奈川県立金沢文庫

馬淵和雄他　1985「向荏柄遺跡発掘調査報告書」同遺跡発掘調査団

馬淵　和雄　1990『大倉幕府周辺遺跡 雪ノ下字大倉耕地569番1地点発掘調査報告書』同発掘調査団

馬淵　和雄　1993「大倉幕府周辺遺跡（No.49）二階堂字荏柄38番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9 平成4年度発掘調査報告書（第2分冊）』 鎌倉市教育委員会

馬渕　和雄　1998「大倉幕府周辺遺跡（No.49）雪ノ下四丁目620番5地点」鎌倉市埋蔵文化財緊急調査 報告書14 平成9年度発掘調査報告書（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

原　廣志　2002「大倉幕府周辺遺跡（No.49）二階堂字荏柄58番4外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 平成13年度発掘調査報告書（第1分冊）』鎌倉市教育委員会

原　廣志　2003「横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字荏柄10番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19 平成14年度発掘調査報告書』 鎌倉市教育委員会

福田　誠・菊川　泉　2000「横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字荏柄10番6外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急発掘調査報告書16 平成11年度発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会

第２章　調査の概要

1.　調査の経緯と経過

本調査地点は、市内北東域の鶴岡八幡宮東方にあたる大倉幕府周辺遺跡（県遺跡台帳№49）の一角に位置しており、荏柄天神社が指呼の距離に鎮座した鎌倉市二階堂字荏柄27番3地点に所在している。今回の現地調査に先立ち平成14年7月に個人専用住宅建設の事前相談があり、住宅の基礎工事に伴って表層地盤の改良を含んで実施する計画があったため、工事の実施により埋蔵文化財に影響を及ぼす恐れのあることが予想された。このため確認調査を実施したところ現地表50cm以下に中世遺物包含層及び遺構面の具体的な埋蔵文化財の存在することが判明した。これにより当該建設工事の実施による埋蔵文化財への影響は避けられないものと判断した。このため事業者との協議を行ったところ、当初の計画に基づき工事を実施したいとの意向が示されたので、文化財保護法に基づく届出手続きを行い、施工者との調査実施による工程・方法調整の協議及び発掘調査の準備が整った後、平成14年9月27日から2ヶ月の予定で調査面積52.39㎡を対象として発掘調査を開始する運びとなった。

調査地は、残土の場外搬出が困難であり、さらに狭い敷地であるため表土の重機掘削による排土及び調査で発生する排土処理の問題から調査区を南北二区に分割して残土置場を確保した。まずⅠ区（南半部）の調査を終了した後、残土を移動してからⅡ区（北半部）の調査を行った。平成14年9月27日にⅠ区の表土を重機で掘削除去した後、人力により掘り下げで調査を実施した。その結果、鎌倉時代を中心とした4時期以上の生活面と、それに伴う遺構・遺物が発見された。同年11月27日までの間に緊急調査に必要な記録保存を行い現地調査を無事終了した。その間の調査経過については、調査日誌の抜粋を記すことにする。

【日　誌　抄】

9月27日　Ⅰ区調査開始。調査区を設定し重機による表土掘削。
30日　機材搬入してテント設営。台風接近に伴う安全処置。
10月2日　市4級基準点を基にして敷地内に測量用基準点を設置、海抜標高を多角点から移動。
5日　Ⅰ区第1面の調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第1面全測図作成。
11日　Ⅰ区第2面の調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第2面全測図作成。
18日　Ⅰ区第3面の調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第3面全測図作成。
22日　中世地山トレンチの調査終了。調査区西壁土層図作成。
24日　Ⅰ区埋戻し後、Ⅱ区の重機による表土掘削。第1面検出作業開始。
11月2日　Ⅱ区第1面の調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第1面全測図作成。
6日　Ⅱ区第1b面の全景及び個別遺構の写真撮影。第1b面全測図作成。
15日　Ⅱ区第2面の調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第2面全測図作成。
22日　Ⅱ区第3面の調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第3面全測図及び調査区西壁土層図作成。中世地山トレンチによる調査開始。
27日　現地調査終了。関係各方面に発掘調査を終了したとの旨を説明して機材撤収。

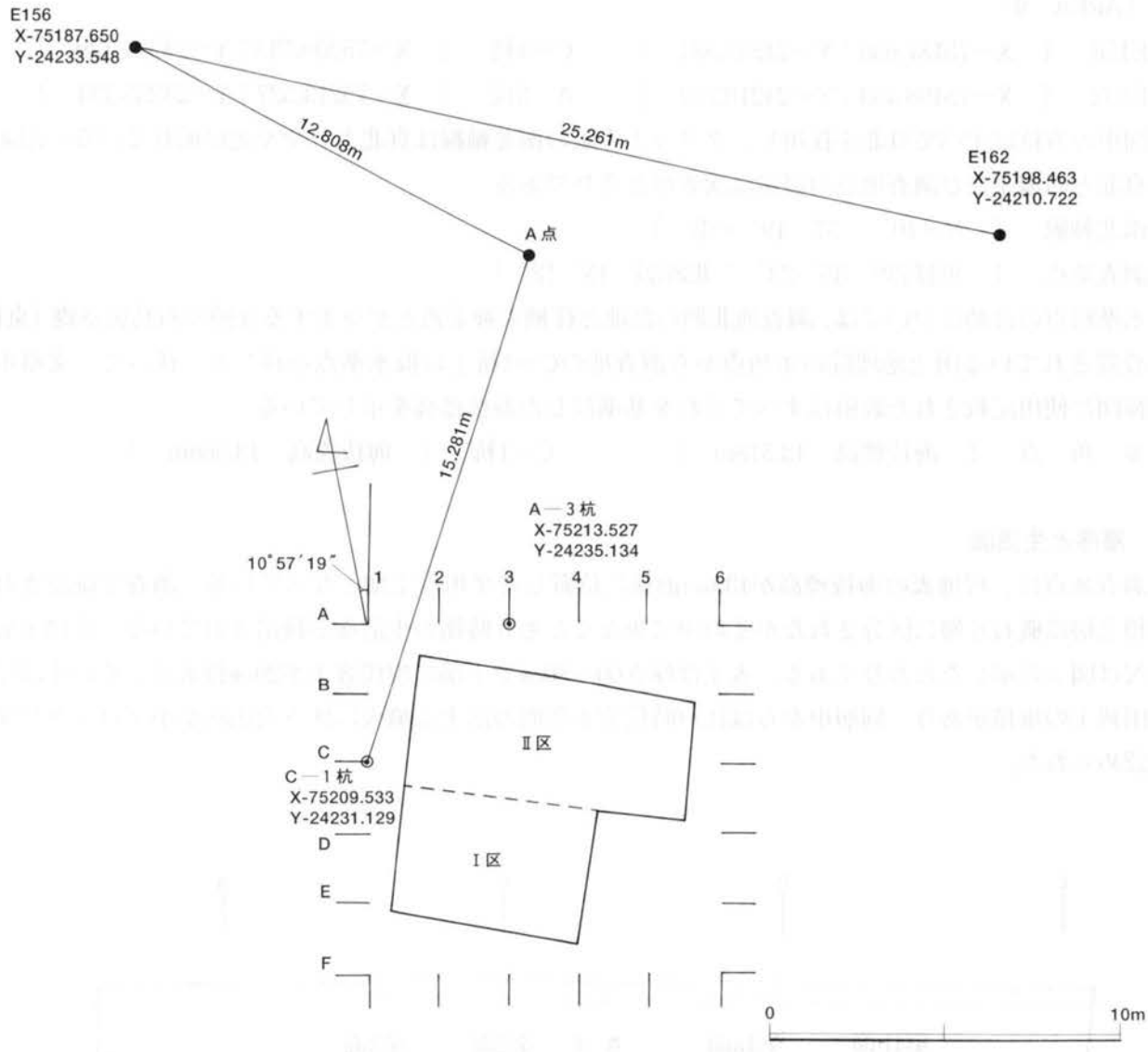


図2　グリット設定・配置図

2.　測量軸の設定

測量軸のためのグリット設定は、調査地北側に隣接した荏柄天神社参道に向かって東西に走る路地上に鎌倉市道路管理課が設置した鎌倉市4級都市基準点のE156とE162を確認することができた。この両基準点の国土座標から敷地内に任意の測量A点を設け、そこから南へ15.281mの位置でC－1杭を基準杭として、図2のように国土座標の数値を求めて東西軸と南北軸をそれぞれ2m方眼により軸線を配し、東西軸線にはアルファベットの名称を付し、南北軸には算用数字をそれぞれ付してグリット設定を行った。各グリットの名称は北西角の軸交点により呼称される。なお測量に用いたグリットは敷地の範囲や測量のサイの利便性を優先させたため国土座標には一致していない。また平成12年（2000）4～9月にかけて発掘調査を実施した近隣に位置する図1－2地点（二階堂字荏柄58番4外）とはグリット軸は共有してないが、方位は一致している。

以下に市4級基準点（E156・E162）と、グリット杭のC－1・A－3の国土座標数値をしるすことにする。

〔AREA　9〕

E156　〔　X−75187.650：Y−24233.584　〕　　C−1杭　〔　X−75209.533：Y−24231.129　〕

E162　〔　X−75198.463：Y−24210.722　〕　　A−3杭　〔　X−75213.527：Y−24235.134　〕

図中の方位はすべて真北を採用し、グリット方眼の南北軸線は真北よりやや北に振れている。南北軸と真北との偏差及び調査地点の経緯は次ぎのとうりである。

南北軸線　〔　N−10°　57′ 19″ —E　〕

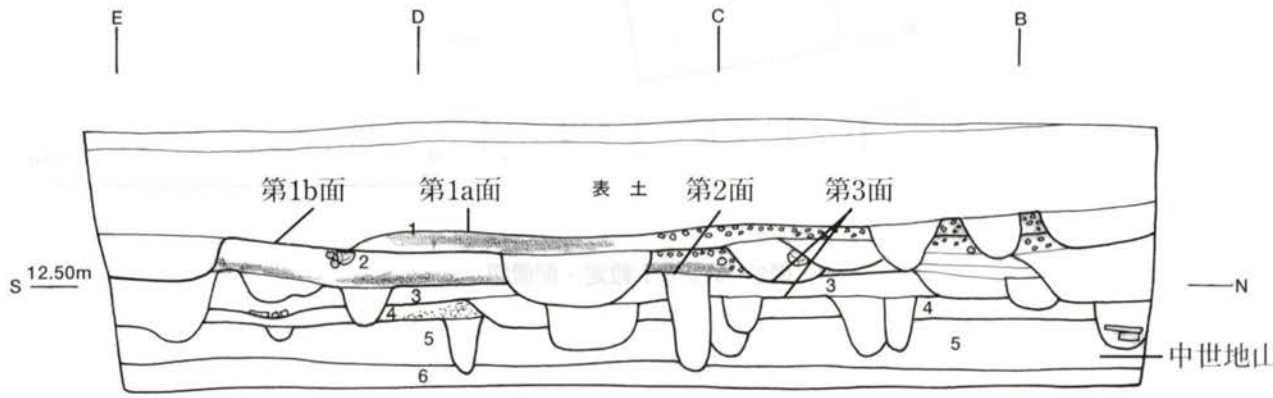
調査地点　〔　東経139° 35′ 23″ ：北緯35° 15′ 12″ 〕

水準原点の移動については、調査地北側の路地と荏柄天神参道とが交差する社頭の石鳥居基礎（東側）に設置されている国土地理院の多角点から調査地のC−1杭上に仮水準点を移した。従って、文章中及び挿図に使用記載された数値はすべてこれを基準にした海抜標高を示している。

多　角　点　〔　海抜標高　13.518m　〕　　C−1杭　〔　海抜標高　13.566m　〕

3.　層序と生活面

調査地点は、現地表の海抜標高が13.6m前後に位置した平坦な宅地となっている。調査で確認された堆積土層は概ね６層に区分されたがその中で少なくとも３時期の生活面が検出されている。堆積土層の状況は図３に示したとおりである。表土は厚さ60～80cmで上部に現代客土が20cm程あり、その下は厚い水田耕土の堆積があり、同層中からは江戸時代宝永年間の富士山噴火に伴う火山灰が小ブロックで僅かに認められた。



▼調査区西壁堆積土層注記

表　土		部分的に宝永火山灰の小ブロックを含んだ水田耕土。
1．暗褐色砂質土		2cm角～拳大土丹塊を多く含む。炭化物・かわらけ粒を多く部分的に帯状になる。粘性・締まり弱い。
2．茶褐色粘質土		2cm角～拳大土丹塊の堅牢な版築による地業層。上面に薄い炭化物層と、かわらけ粒・小片が堆積。第１面構築土
3．茶褐色弱粘質土		小土丹塊を多めに混入した地業層。かわらけ小片を含み粘性やや弱いが締まりある。第２面構築土。
4．暗茶褐色粘質土		土丹粒・炭化物・かわらけ小片を多めに含む。北東側に貝砂層の薄い堆積があり、粘性弱いが締まりややある。第３面
5．暗茶褐色粘質土		土丹粒・炭化物・土器小片は少量、褐鉄分を多く含み上面が硬化する。粘性・締まり強い。中世地山
6．暗灰褐色粘質土		土丹粒・白色粒（火山灰か）を少量含む。無遺物層。

0　4m

図3　調査区西壁土層堆積図

表土を除去すると、小土丹塊・かわらけ小片が多く帯状の炭化物を含んだ暗褐色砂質土で厚さ約15㎝程の中世遺物包含層の第１層が認められた。この層は堆積土層の観察から水田耕作によって削平を受けられたものであり、第１層を掘り込んだ中世前期の遺構も存在している（図３）。従って、第1面で検出された遺構は上層の生活面から掘り込まれたものも含まれている。

この中世遺物包含層を取り除くと、小土丹塊やかわらけ小片を突き固めて版築した地業層の第2層を確認した。この上面が第1面にあたるが第2層は土丹版築の地業層が薄い帯状の炭化物層を挟んで比較短期間に少なくとも2度以上の整地が認められた。従って、図４に示したように遺構は第1a・b面の二時期の掘り込み面からのものとして捉えそれぞれの確認された遺構を分けて図示している。この生活面の海抜標高12.65～75m前後で北東域は南西域に比べて少し高めに整地されている。第2面は第3層の上面に相当し、小土丹塊をやや多めに混入した地業によった構成土であり、海抜標高12.50m前後である。この生活面で検出した遺構には掘立柱建物・土廣と多数の柱穴などである。

第4層は、土丹粒・炭化物・かわらけ小片を多めに含んでいるが調査区全体に豊富な湧水が浸み出して生活面としては軟弱なものであった。しかし北東域を中心にして灰白色の薄い貝砂層による平坦な面の拡がりをみせていたので精査を実施すると、土廣や柱穴などの遺構を確認することができた。この貝砂層以外の整地面はかなりの希薄で遺構の確認が難しいものと判断された。検出した遺構の平面図を作成した後、厚さ10㎝前後の第4層を除去して表出した暗茶褐色粘質土（第5層）の中世基盤層である地山上面で検出した遺構を含めて第3面として調査を行った。第5層は褐鉄分を多く含んで上面が硬化していた。第5層の上面は海抜標高12.25m前後でほぼ平坦である。この層を掘り込んだ中世遺構の壁面中に中世以前に遡る焼土と土師器小片が認められたので調査区壁沿いにトレンチを入れて確認調査を実施した。

第6層は海抜標高12.00m以下に堆積している無遺物土層で土丹塊や白色石粒（火山灰か）を含んだ締りの強い暗灰褐色粘質土である。

1
2
3
4
5
6
A
B
C
D
E
F
土壙11
P20
P16
土壙12
土壙18
P21
P23
土壙16
P35
土壙10
P15
P24
P17
P31
土壙13
P28
P22
土壙19
土壙21
土壙14
土壙26
土壙17
P32
土壙15
土壙37
P26
P19
P27
土壙22
P34
土壙23
P18
土壙24
土壙7
P11
土壙2
山皿
土壙6
土壙4
土壙3
P5
土壙1
土壙5
P7
P6
P4
P1
P8
P2
土壙8
鎌倉石
P3
P12
▲第1a面
土壙35
土壙27
P45
土壙28
P52
P50
P36
P53
P49
P47
土壙29
P39
P48
P54
土壙31
P57
P38
土壙33
P41
土壙32
P44
P43
▲第1b面
0
4m

図4　第1a・b面全測図

第３章　検出遺構と出土遺物

1.第1面の遺構・遺物

この面で検出した遺構は、a・b面を合わせてかわらけ溜りを含んだ土廣32基、柱穴約60口などが確認された。出土遺物には多量のかわらけ、舶載磁器、瀬戸、常滑窯製品、瓦類、土器、瓦質製品、金属製品、石製品などがみられた。

a. 土　壙（図4～11、図版1・2・12・13）

土廣1：Ⅰ区D－3グリットの位置で検出され、P4を壊して掘り込まれている。楕円形を呈するもので確認された規模は南北軸135㎝、東西軸103㎝、確認面からの深さ20㎝を測る。掘り方は断面が浅い皿状を呈しており、覆土は中位に薄い炭化物層を挟んで上下2層に分けられる。上層は炭化物を多めに含む締りのない茶灰色弱粘質土、下層は締りが弱く土丹粒・炭化物の多い茶褐色粘質土である。出土遺物は図7－1～4がロクロ成形のかわらけ、5・6が青磁劃花文碗・折腰皿、7・8が常滑窯甕、9が鉄釘などである。

土壙2：調査区中央C－2グリットに位置しており、土壙37に北側を壊されている。楕円形を呈し、規模は南北軸115㎝以上、東西軸80㎝深さが35㎝を測り、断面が摺鉢状を呈している。覆土は炭化物、かわらけ小片を多く締りのない暗茶褐色弱粘質土である。この遺構に伴う遺物は図8－10・11がロクロ成形のかわらけ小皿、12が青白磁蓋、13が瀬戸窯四耳壺、14・15が常滑窯捏鉢・甕である。

土壙4：Ⅱ区北西域D－3杭に位置している。土壙3に東端一部を壊されている。ほぼ円形を呈し、規模は径80㎝前後、深さは38㎝を測る。掘り方は断面が逆台形状を呈しており、覆土は炭化物、土丹粒を多めに含んだ締りのない茶褐色弱砂質土である。出土遺物は図7－16～20がロクロ成形のかわらけ小・大皿であり、21が常滑窯捏鉢である。

土壙5：調査区南西隅D－1グリットに位置しており、東端のP8に壊され西側は調査区外に拡がっている。楕円形を呈し、確認された規模は東西軸115㎝以上、南北軸90㎝、深さが45㎝を測り、掘り方の断面が逆台形状を呈する。覆土は炭化物、かわらけ小片が多く締りのない暗茶褐色弱砂質土である。この遺構に伴う遺物は図7－22・23がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、24・25が手捏ね成形のかわらけ小皿、26が手捏ね成形の白かわらけ大皿、27が青白磁梅瓶、28が土器質火鉢、29が女瓦（平瓦）である。

土壙6：Ⅰ区D－3杭で土壙1と土壙2の間に挟まれた位置にあたる。ほぼ円形を呈し、規模は径65㎝、深さが40㎝を測り、掘り方の断面が逆台形状を呈する。覆土は炭化物、かわらけ小片を含む締りのない暗茶褐色弱砂質土である。出土遺物は図8－1が常滑窯甕、2が滑石製温石である。

土壙7：調査区中央西端C－1・2グリットに位置し、西側は調査区外に拡がっている。楕円形を呈する大型の土壙で確認された規模は南北軸163㎝以上、東西軸125㎝、深さは30㎝を測る。掘り方は断面が皿状を呈しており、覆土は炭化物、土丹粒を多めに含んだ締りのない茶褐色弱砂質土である。出土遺物は図8－3～6がロクロ成形のかわらけ小皿、7・8が手捏ね成形のかわらけ小皿、9が青磁蓮弁文碗、10が白磁水注の底部片、11が常滑窯捏鉢、12が土器質火鉢である。

土壙8：調査区南西隅E－2杭の位置で検出され、南側が調査区外に拡がっている。楕円形を呈するもので確認された規模は南北軸133㎝、東西軸70㎝以上、深さ35㎝を測る。掘り方は断面が摺鉢状を呈しており、覆土は炭化物を多めに含む締りのない茶褐色粘質土である。掘方東側の上端に南北位の鎌倉石切石が検出されたが本土壙に伴うものかは不明である。出土遺物は図8－13～19がロクロ成形かわらけ小・大皿、20が青磁蓮弁文碗、21が白磁口兀皿、22が常滑窯甕、23が女瓦（平瓦）、24が滑石製石鍋などである。

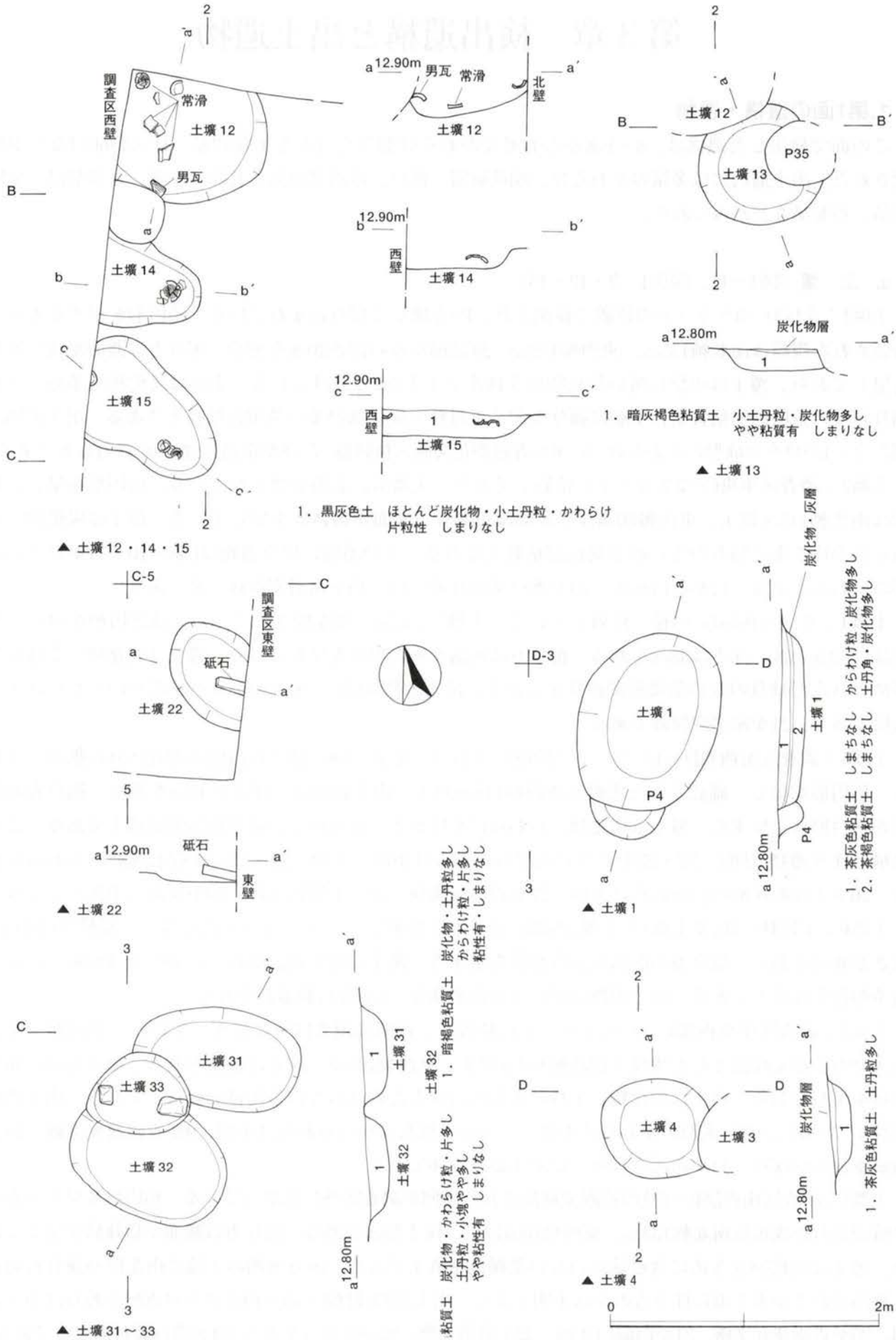

調査区西壁
常滑
土壙 12
男瓦
土壙 14
土壙 15
a 12.90m
男瓦 常滑
北壁
土壙 12
b 12.90m
西壁
土壙 14
c 12.90m
西壁
1
土壙 15
1．黒灰色土 ほとんど炭化物・小土丹粒・かわらけ
片粒性 しまりなし
▲ 土壙 12・14・15
土壙 12
P35
土壙 13
炭化物層
a 12.80m
1
1．暗灰褐色粘質土 小土丹粒・炭化物多し
やや粘質有 しまりなし
▲ 土壙 13
C-5
調査区東壁
砥石
土壙 22
a 12.90m
砥石
東壁
▲ 土壙 22
D-3
土壙 1
P4
炭化物・灰層
土壙 1
P4
a 12.80m
1．茶灰色粘質土 しまちなし からわけ粒・炭化物多し
2．茶褐色粘質土 しまちなし 土丹角・炭化物多し
▲ 土壙 1
土壙 31
土壙 33
土壙 32
土壙 31
1
土壙 32
1
a 12.80m
土壙 32 1．暗褐色粘質土 炭化物・土丹粒多し
からわけ粒・片多し
粘性有・しまりなし
粘質土 炭化物・かわらけ粒・片多し
土丹粒・小塊やや多し
やや粘性有 しまりなし
▲ 土壙 31 ～ 33
土壙 4
土壙 3
炭化物層
a 12.80m
1．茶灰色粘質土 土丹粒多し
▲ 土壙 4
0
2m

図5 土壙（1）

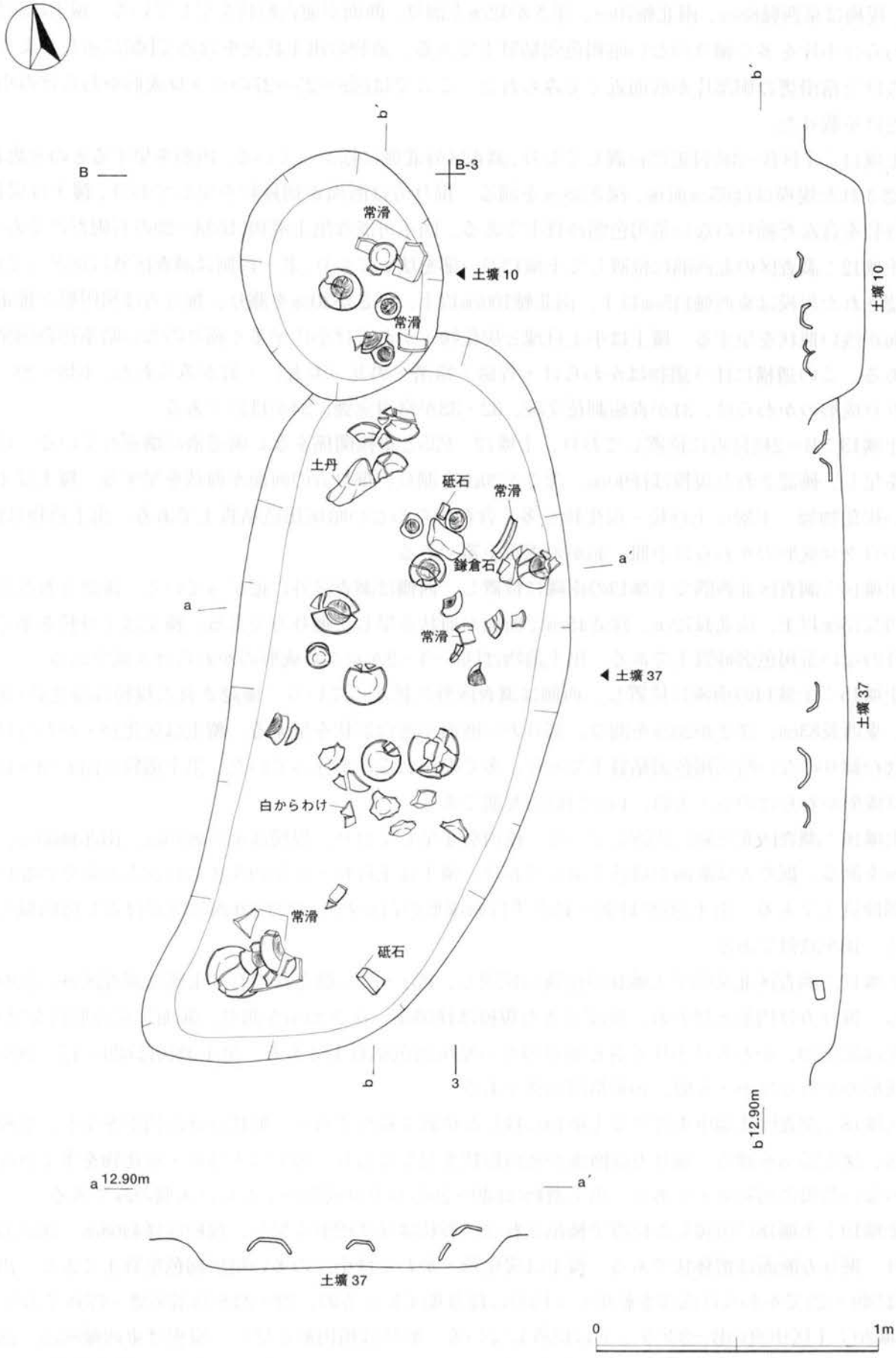

B
B-3
b´
常滑
◀ 土壙 10
常滑
土丹
砥石
常滑
鎌倉石
a´
a
常滑
◀ 土壙 37
白からわけ
常滑
砥石
b
3
a 12.90m
a´
土壙 37
b´
土壙 10
土壙 37
b 12.90m
0
1m

図6　土壙（2）

土壙10：調査区北西域B－3杭の西隣に位置しており、土壙37の北端一部を壊している。楕円形を呈し、規模は東西軸88cm、南北軸70cm、深さが42cmを測り、断面が逆台形状を呈している。覆土は炭化物、かわらけ小片を多く締りのない暗褐色弱粘質土である。遺物の出土状況を含めて図6に示したようにかわらけと常滑甕の胴部片が底面近くでみられた。ここでは図8－25～27のロクロ成形かわらけの小・大皿だけを載せた。

土壙11：Ⅰ区B－3杭付近に位置しており、調査区外北側に拡がっている。円形を呈するものと思われ、確認された規模は径65cm前後、深さ38cmを測る。掘り方は断面が摺鉢状を呈しており、覆土は炭化物、土丹粒を含んだ締りのない茶褐色弱砂質土である。図示可能な出土遺物は図8－28の石硯だけである。

土壙12：調査区の北西隅に位置して土壙13の一部を壊しており、北・西側は調査区外に拡がっている。確認された規模は東西軸115cm以上、南北軸100cm以上、深さが20cmを測り、掘り方は楕円形と推定され断面が浅い皿状を呈する。覆土は小土丹塊と炭化物・かわらけ小片が多く締りのない暗茶褐色弱粘質土である。この遺構に伴う遺物はかわらけ・青磁・常滑・男瓦（丸瓦）・釘がみられた。図8－29・30がロクロ成形のかわらけ、31が青磁劃花文碗、32・33が常滑窯甕、34が鉄釘である。

土壙13：B－2杭付近に位置しており、土壙12・P35と重複関係をなし両遺構に壊されている。ほぼ円形を呈し、確認された規模は径90cm、深さが20cmを測り、掘り方の断面が皿状を呈する。覆土は上層に薄い炭化物層、下層に土丹粒・炭化物を多く含む締りのない暗灰褐色粘質土である。出土遺物は図8－35がロクロ成形のかわらけ小皿、36が須恵質土器である。

土壙14：調査区北西隅で土壙13の南隣に位置し、西側は調査区外に拡がっている。確認された規模は東西長75cm以上、南北長72cm、深さ15cmで断面が皿状を呈した掘り方である。覆土は土丹粒を多く含み締りのない茶褐色弱砂質土である。出土遺物は図9－1・2がロクロ成形のかわらけ大皿である。

土壙15：土壙14の南隣に位置し、西側は調査区外に拡がっている。確認された規模は南北長130cm以上、東西長83cm、深さが20cmを測り、掘り方の断面が逆台形状を呈する。覆土は炭化物・かわらけ小片を含む締りのない暗灰褐色弱粘質土であり、多くのかわらけを伴っていた。出土遺物は図9－3～13がロクロ成形かわらけの小・大皿、14が白磁口兀皿である。

土壙16：調査区北東隅に位置している。楕円形を呈しており、規模は東西軸75cm、南北軸60cm、深さ30cmを測る。掘り方は断面が皿状を呈しており、覆土は土丹粒・炭化物を多めに含んだ締りのない茶褐色弱砂質土である。出土遺物は図9－15が手捏ね成形の白かわらけで内外面に煤が付着し燈明皿と思われる。16が鉄釘である。

土壙17：調査区北東隅で土壙16の南隣に位置し、P31・32に壊されており東側は調査区外に拡がっている。掘り方は円形と思われ、確認できた規模は径95cm、深さ30cmを測り、断面は逆台形状を呈する。覆土は炭化物、かわらけ小片を含む締りのない暗灰褐色粘質土である。出土遺物は図9－17・18がロクロ成形のかわらけ小・大皿、19が常滑窯甕である。

土壙18：調査区北端中央寄りで土壙19に接した位置で検出された。形状はほぼ円形を呈し、規模は径75cm、深さ25cmを測る。掘り方は断面が逆台形状を呈しており、覆土は土丹粒・炭化物を多く含んだ締りのない茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図9－20のロクロ成形のかわらけ大皿のみである。

土壙19：土壙18に南接した位置で検出された。形状はほぼ円形を呈し、規模は径約68cm、深さ35cmを測り、掘り方断面は摺鉢状である。覆土は炭化物・かわらけ小片の多い暗灰褐色粘質土である。出土遺物は図9－21でかわらけ底部を転用して円形に擦り加工したもの、22・23が常滑窯甕・捏鉢である。

土壙20：Ⅰ区中央のB－3グリットに位置している。形状は楕円形を呈し、規模は東西軸80cm、南北軸56cm、深さ35cmである。掘り方の断面は逆台形状を呈し、覆土は上下2層からなり下層は粘性や締りの

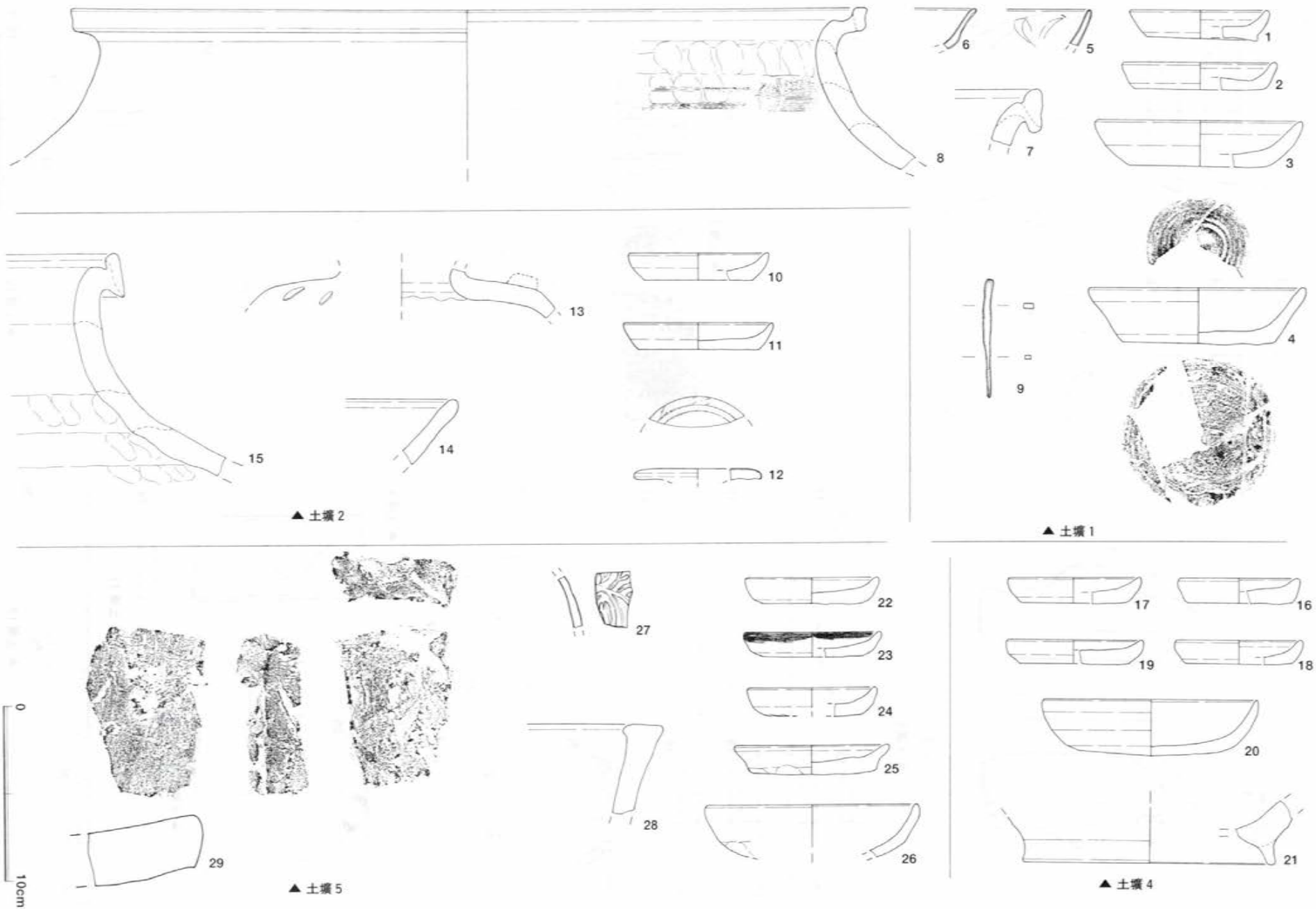


図7　第1面土壙出土遺物（1）

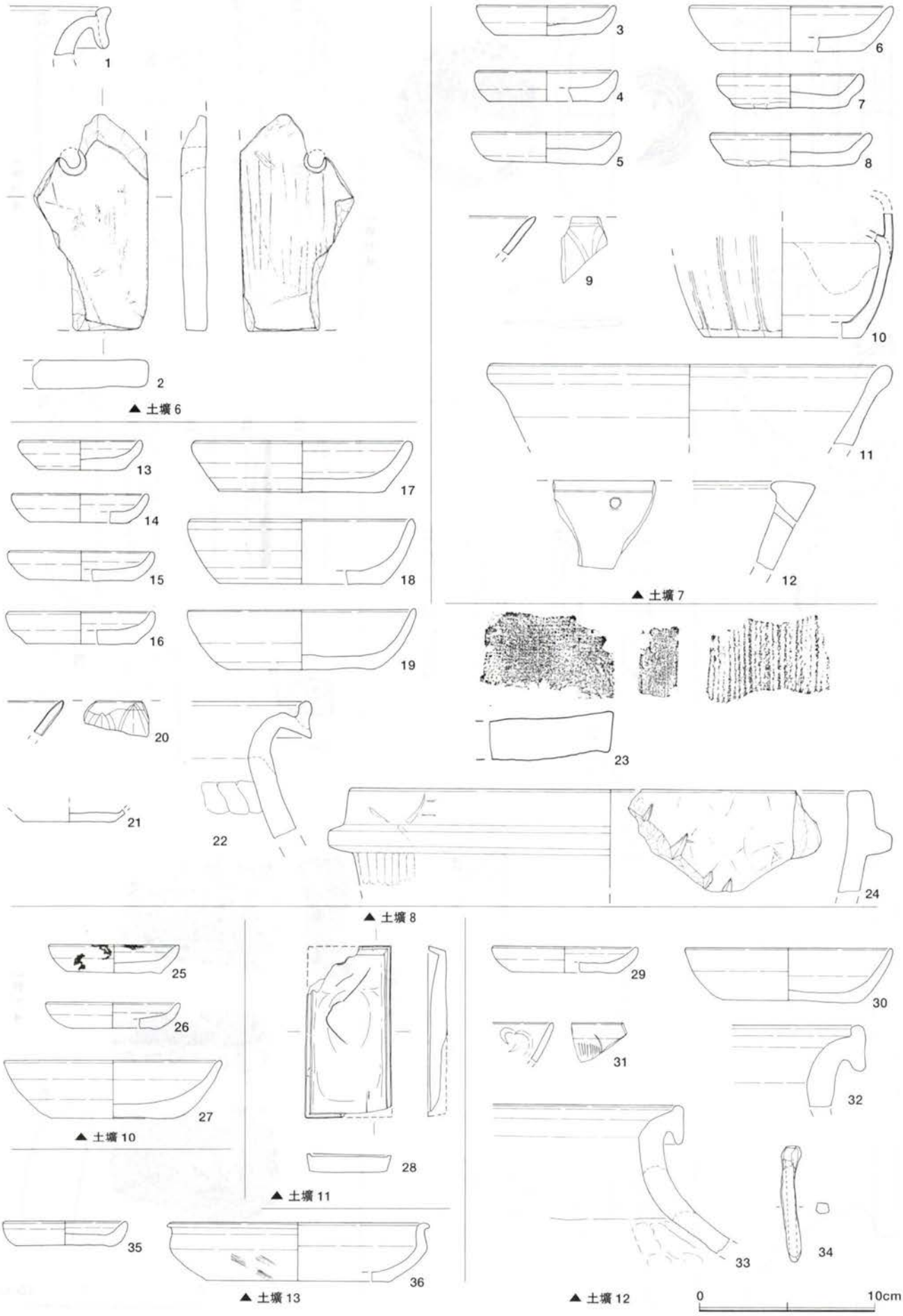


図8　第1面土壙出土遺物（2）

弱い暗茶褐色土、上層は暗灰褐色粘質土で土丹粒・炭化物を多めに含む。出土遺物は図9－24がロクロ成形のかわらけ大皿、25が白磁口兀皿、26が常滑窯甕、27が鉄釘である。

土壙21：Ⅰ区北東隅で土壙17に西接した位置にあたり、土壙26の一部を壊して掘り込んでいる。楕円形を呈し、規模は南北軸97㎝、東西軸58㎝、深さ35㎝、掘り方の断面は逆台形状である。覆土は炭化物を多く含む茶褐色粘質土である。出土遺物は図9－28・29がロクロ成形のかわらけ大皿、30が常滑窯甕である。

土壙22：Ⅰ区南東隅で土壙17に南接した位置にあたり、東側は調査区外に拡がっている。楕円形を呈すると思われ確認した規模は南北軸95㎝以上、東西軸65㎝、深さ15㎝と浅い掘り方を有し底面の壁際から大型の砥石が出土した。(図5の左中段)。覆土は炭化物を多く含む茶褐色粘質土である。出土遺物は図10－1がロクロ成形のかわらけ小皿、2が砥石である。

土壙23：Ⅰ区C－4グリットに位置している。楕円形を呈し、規模が南北軸105㎝、東西軸85㎝、深さ35㎝を測り、底面に扁平な大・小土丹塊2個が据えられていた。掘り方は断面が逆台形状を呈し、覆土は炭化物・拳大土丹塊を含む暗灰褐色粘質土でやや締りがある。出土遺物は図10－3・4がロクロ成形のかわらけ小・大皿、5が常滑窯捏鉢、6が銅銭の文字不明である。

土壙24：土壙23の東隣して検出された。形状は楕円形を呈し、規模は東西軸75㎝、南北軸58㎝、深さ35㎝を測り、掘り方断面が摺鉢状を呈し、覆土は茶褐色砂質土で土丹粒・炭化物を多めに含み締りのないもの。出土遺物は図10－7がロクロ成形のかわらけ小皿、8が常滑窯捏鉢である。

土壙26：Ⅰ区中央東寄りに位置しており、土壙21に東端一部を壊されている。掘り方は楕円形を呈し、規模が東西軸130㎝、東西軸90㎝、深さ35㎝を測り、断面が皿状を呈している。覆土は炭化物・かわらけ小片を多く含む締りのない暗灰褐色弱粘質土である。出土遺物は図9－31がロクロ成形のかわらけ小皿、32が手捏ね成形のかわらけ大皿である。33が青磁無文碗、34が女瓦である。

土壙27：第1b面（図4の下段）のⅡ区北端西寄りに位置しており、北側は調査区外に拡がっている。確認された規模は東西長150㎝、南北長40㎝以上、深さ30㎝で浅い掘り方の大型土壙である。覆土は粗砂・炭化物を多めに含む締りのない茶褐色弱砂質土である。出土遺物は図10－9～11がロクロ成形のかわらけ小・大皿である。

土壙28：第1b面（図4の下段）のⅡ区北端東寄りに位置しており、北側は調査区外に拡がっている。確認された規模は東西長120㎝、南北長40㎝以上、深さ25㎝で浅い掘り方の土壙である。覆土は炭化物・かわらけ粒を多く含む締りのない暗茶褐色砂質土である。出土遺物は図10－12～15がロクロ成形のかわらけ小・大皿、16が青白磁瓜型水注である。

土壙29：第1b面（図4の下段）のⅡ区東寄りに位置しており、土壙17に一部を壊されている。掘り方は楕円形を呈し、規模が東西軸60㎝、南北軸50㎝、深さ35㎝である。覆土は炭化物・かわらけ粒を多く含む締りのない茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図10－17～19がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、20が手捏ね成形のかわらけ大皿、21が常滑窯甕である。

土壙31：土壙11の西隣で検出された。形状は楕円形を呈し、規模は南北軸85㎝、東西軸58㎝、深さ38㎝である。掘り方断面は逆台形、覆土は上下2層からなり、下層は粘性や締りの弱い茶褐色土、上層暗褐色粘質土で炭化物・かわらけ小片を多めに含む締りのないもの。出土遺物は図10－22～28がロクロ成形のかわらけ小・中・大皿、29が青磁蓮弁文碗、30が常滑窯甕である。

土壙32：第1b面のⅠ区中央に位置しており、土壙33により一部が壊されている。形状は楕円形を呈し、規模は東西軸123㎝、南北軸90㎝、深さが20㎝で浅い掘り方をもち、断面が皿状を呈する。覆土は暗褐色弱粘質土で炭化物・土丹粒・かわらけ小片を多めに含む締りのないもの。出土遺物は図11－1が

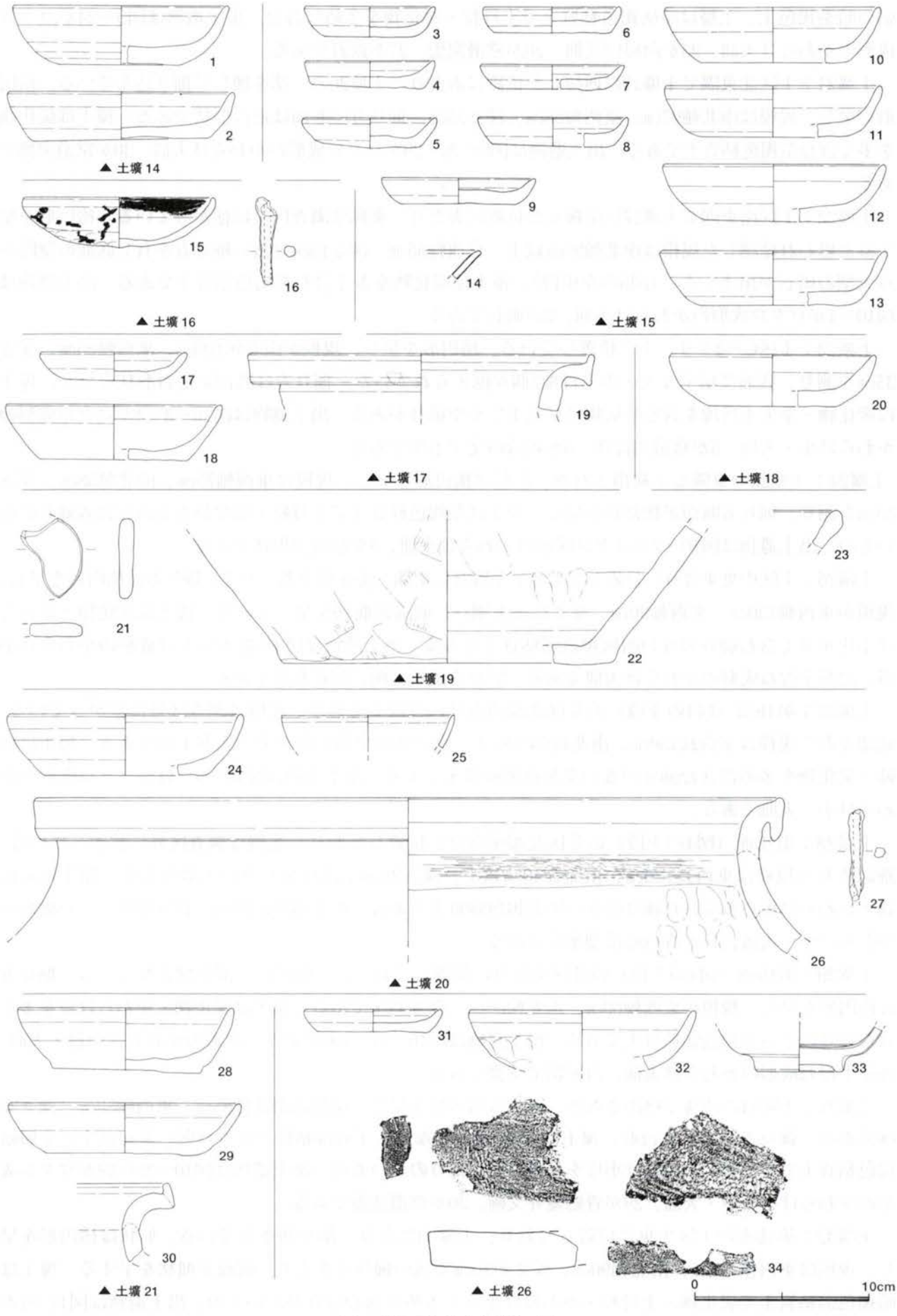


図9　第1面土壙出土遺物（3）

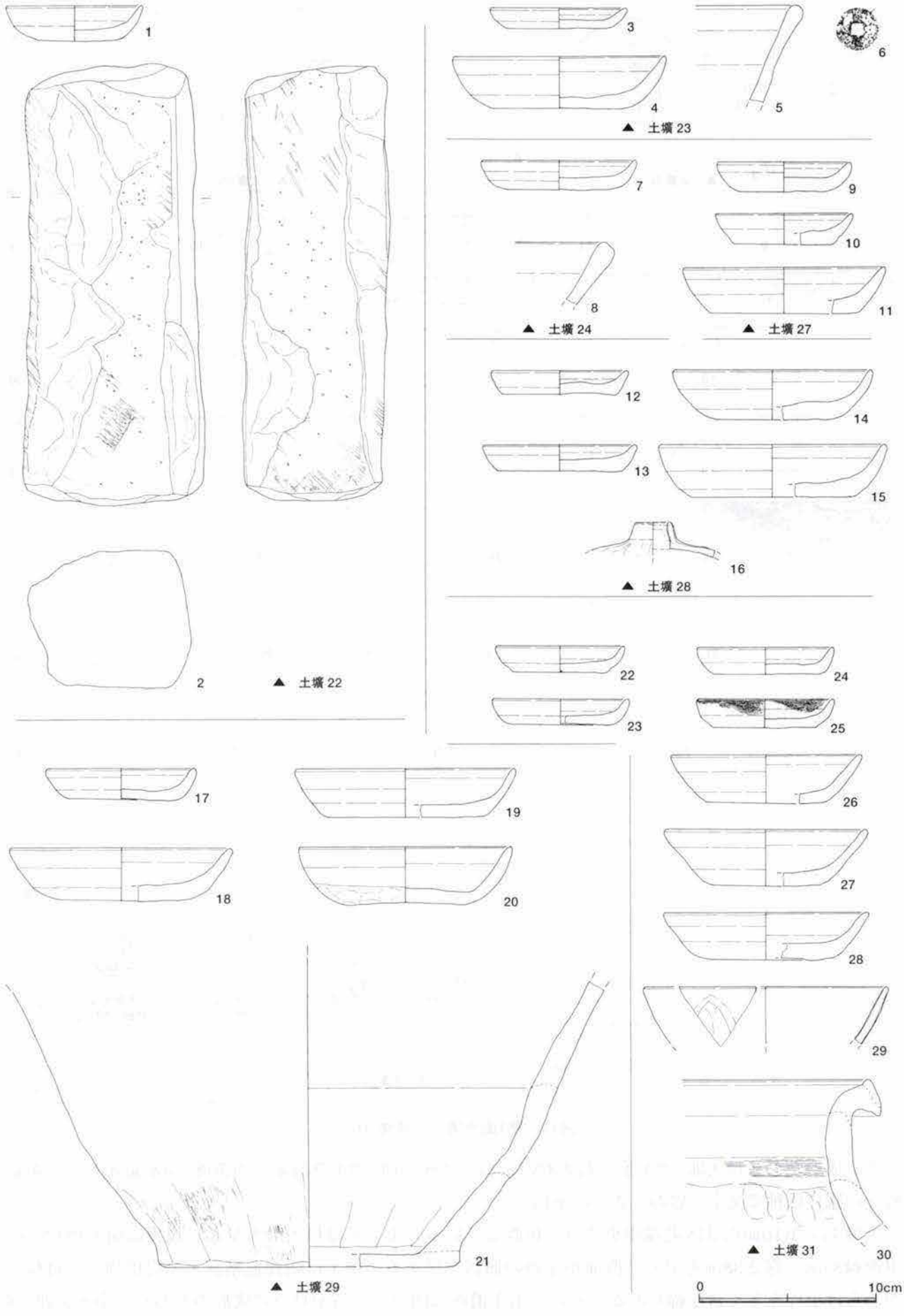


図10　第1面土壙出土遺物（4）

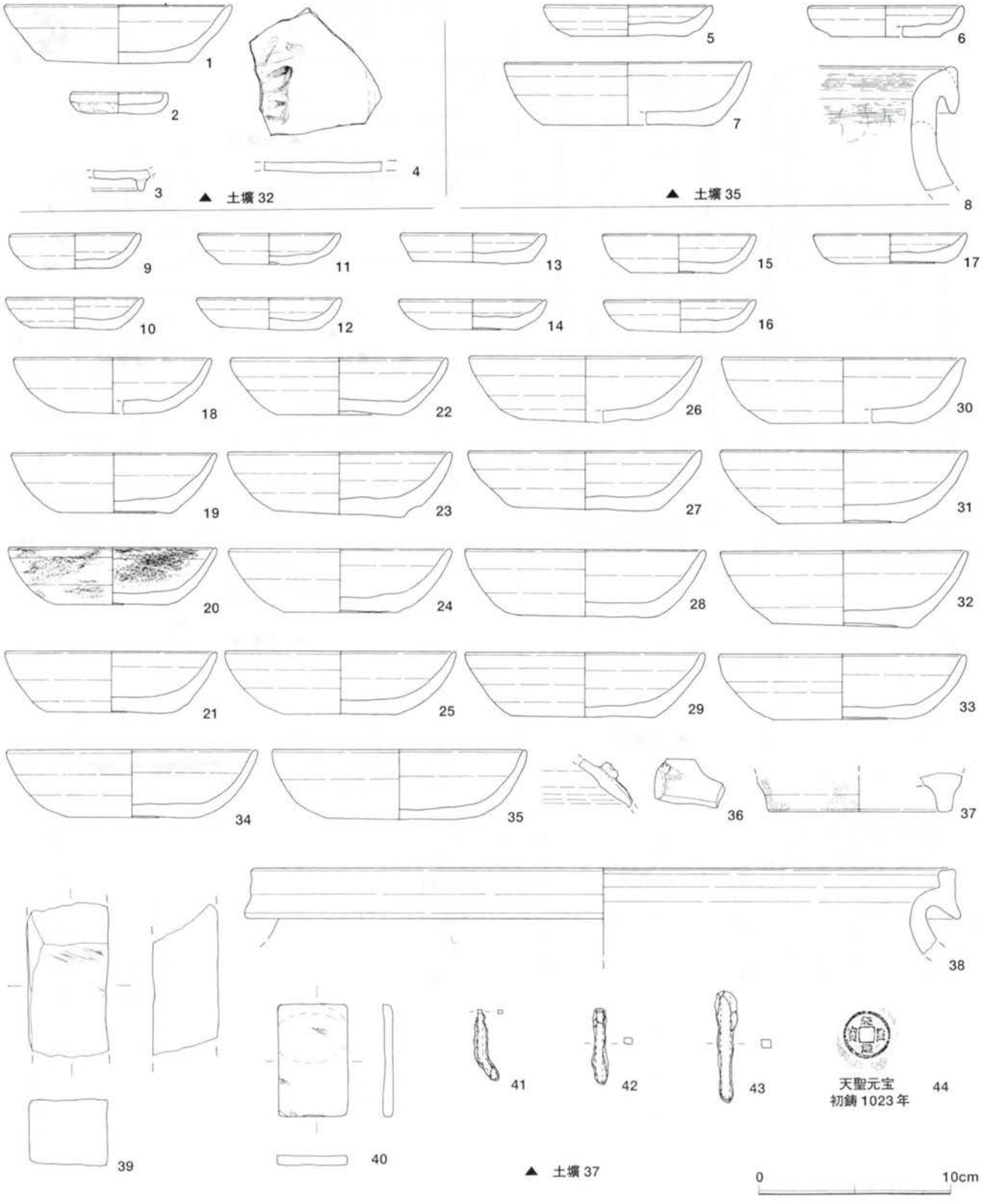


図11　第1面土壙出土遺物（5）

ロクロ成形かわらけ大皿、2が手捏ね成形のかわらけ極小皿、3が常滑系の山茶碗、4が泉州窯系の黄釉盤で内底に鉄釉で文字と思わしきものを描く。

土壙35：第1b面のⅡ区北端中央寄りに位置している。掘り方は楕円形を呈し、規模は南北軸120㎝、東西軸85㎝、深さ38㎝を呈し、断面が深めの皿状を呈する。覆土は暗褐色粘質土で炭化物・土丹粒・かわらけ小片を多く含む締りのないもの、出土遺物は図11－5～7がロクロ成形のかわらけ小・大皿、8

が常滑窯甕である。

土壙37：調査区北側西寄りB・C−2・3グリットにまたがった位置で検出された大型の土壙である。本土壙は、土壙2・10と重複関係にあるが土壙10より古く土壙2よりも新しいものである。形状は南北位の長楕円形を呈し、規模は南北軸165㎝、東西軸115㎝、深さ13㎝と浅い皿状の掘り方である。覆土は暗褐色砂質土で小土丹塊・炭化物を多く含み、かわらけを主体に常滑窯甕片がある程度まとまって遺物溜りを構成した状況で出土した（図6）。出土遺物は図11−9〜35がロクロ成形のかわらけ小・中・大皿、36が白磁四耳壺、37が瀬戸窯四耳壺、38が常滑窯甕、39・40が砥石、41〜43が鉄釘、44が銅銭の「天聖元宝」（北宋　初鋳1023年）である。

b. **柱穴**（図4・12〜15、図版1—3・13−14）

この面で検出した各柱穴（ピット）は掘立柱建物を構成するような配置は認められなかかた。掘り方は平面形状が円形または楕円形を呈しており、規模は径30〜60㎝、確認面からの深さ15〜40㎝である。柱穴の底面にはP13・15・25・45が伊豆石片（安山岩質）、P21・24・28・31・32・49が鎌倉石（鎌倉周辺丘陵で産出する粗粒凝灰岩）、P5・27が扁平な土丹塊、P1・5に礎板が検出されており、それぞれ柱を受けるために据えられていた。またP12・34の底面には常滑窯片や瓦板が認められたが同じく柱受けとして使われた可能性が考えられよう。以下に柱穴出土の遺物について簡単に触れる（図12〜15に掲載した柱穴出土の遺物は以下に図を省略して図番号と遺物番号のみを掲載、例えば：図12−1＝12−1と表現する）。

各柱穴の出土遺物は、P1：12−1がロクロ成形のかわらけ大皿、2が銅銭「熙寧通宝」（北宋　初鋳1068年）である。P2：12−3がロクロ成形のかわらけ小皿、4が手捏ね成形の白かわらけ小皿、5が白かわらけ質小壺、6が常滑窯甕である。P3：12−7がロクロ成形のかわらけ小皿8が手捏ね成形の小皿、9が常滑窯甕、10が鉄釘である。P4：12−11・12がロクロ成形のかわらけ小・中皿、P5：12−13がロクロ成形のかわらけ小皿、P6：12−14〜16がロクロ成形のかわらけ小・大皿である。P7：12−17・18がロクロ成形のかわらけ大皿、19が男瓦である。P8：12−20〜23がロクロ成形のかわらけ小・大皿、24・25が青磁折縁皿・青磁劃花文碗、26が土器質火鉢である。P11：12−27・28がロクロ成形のかわらけ小・大皿、29が銅銭「皇宋通宝」（北宋　初鋳1039年）である。P12：12−30〜34がロクロ成形のかわらけ小・大皿、35が青磁蓮弁文碗。P14：12−36〜39がロクロ成形のかわらけ小・大皿、40が常滑窯甕。P16の13−1〜3がロクロ成形のかわらけ小・大皿、4が手捏ね成形のかわらけ大皿、5が女瓦、6・7が滑石製石鍋・温石、8が砥石である。P17：13−9・10が常滑窯甕、11が銅銭「皇宋通宝」（北宋　初鋳1039年）。P18：13−12〜15がロクロ成形のかわらけ小・大皿、16が女瓦、P19：14−1がロクロ成形のかわらけ小皿、2が常滑窯捏鉢、3・4が女瓦である。P20：13−17がロクロ成形のかわらけ小皿である。P21：14−5・6が常滑窯鳶口壺・甕、7が銅銭「景徳元宝」（北宋　初鋳1004年）、8が須恵器の坏蓋である。P22：14—9がロクロ成形のかわらけ大皿、10が手捏ね成形のかわらけ小皿、P23：14−11がロクロ成形のかわらけ小・大皿、P24：14−12〜15がかわらけ小・大皿、16が女瓦である。P26：14−17がロクロ成形のかわらけ中皿、18が白磁口兀碗、19が常滑窯捏鉢である。P27：14−20がロクロ成形のかわらけ小皿、21が手捏ね成形のかわらけ大皿、22が手捏ね成形の白かわらけ小皿、P31：14−23が手捏ね成形のかわらけ小皿である。P34：14−24がロクロ成形のかわらけ中皿、25・26が手捏ね成形の白かわらけ大皿、27が青磁蓮弁文碗である。P35：14−28がロクロ成型のかわらけ小皿、29が常滑窯甕、P36：14−30がロクロ成型のかわらけ小皿、P38：14−31〜33がロクロ成型のかわらけ小皿・大皿、34が手捏ね成型のかわらけ小皿、P39：15−1が手捏ね成形のかわらけ小皿、P41：15−2がロクロ成型の

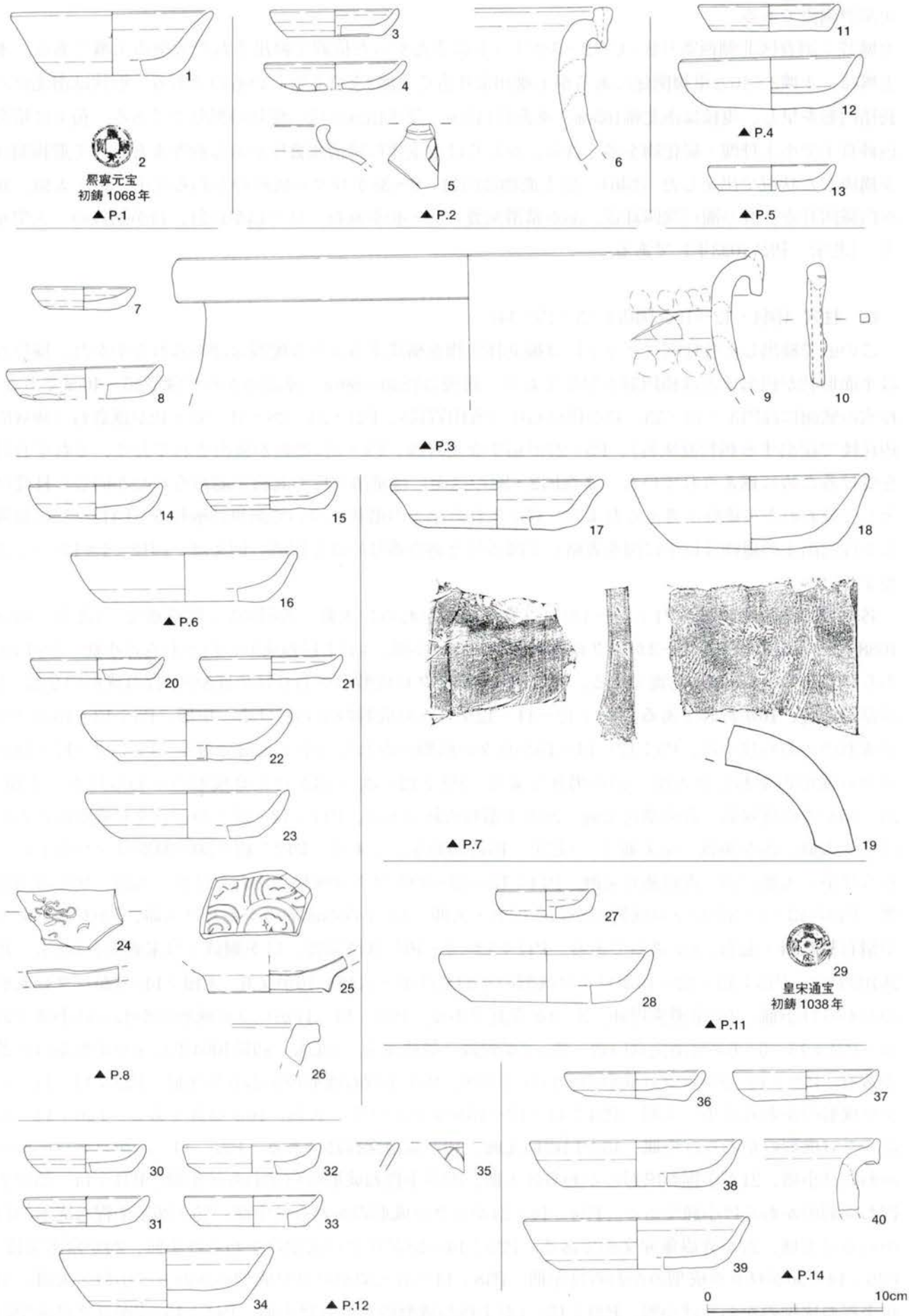


図12　第1面柱穴出土遺物（1）

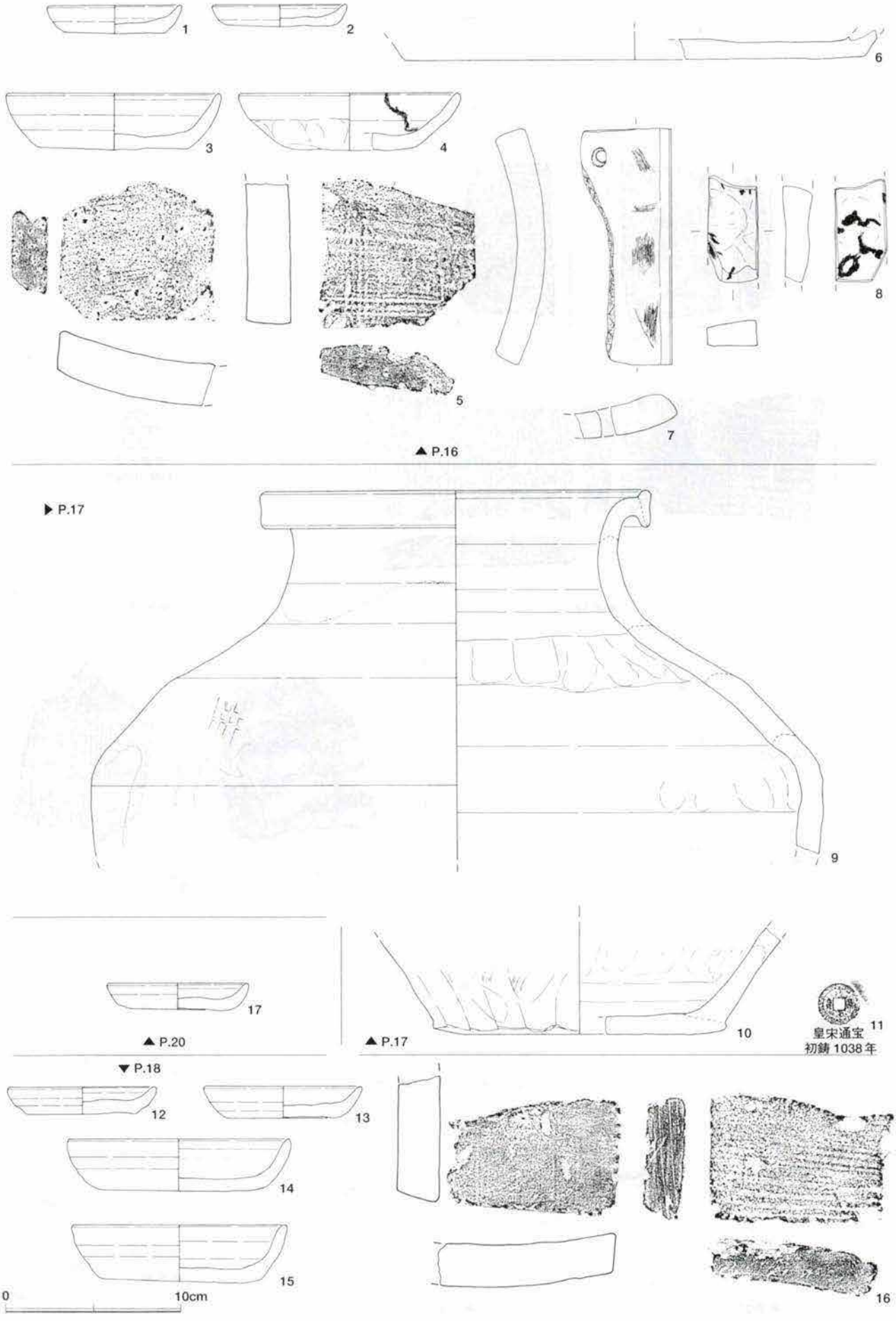


図13　第1面柱穴出土遺物（2）

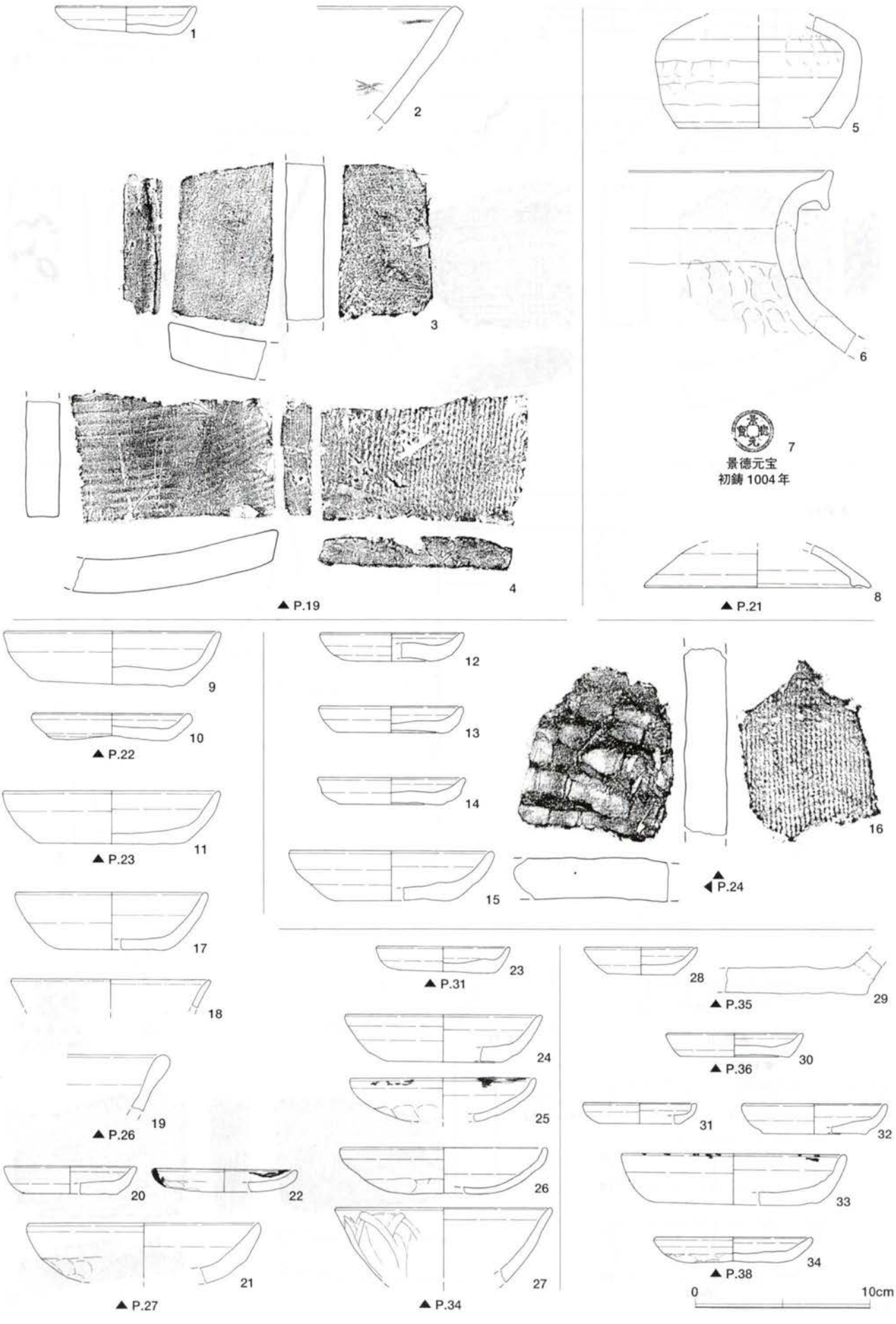


図14　第1面柱穴出土遺物（3）

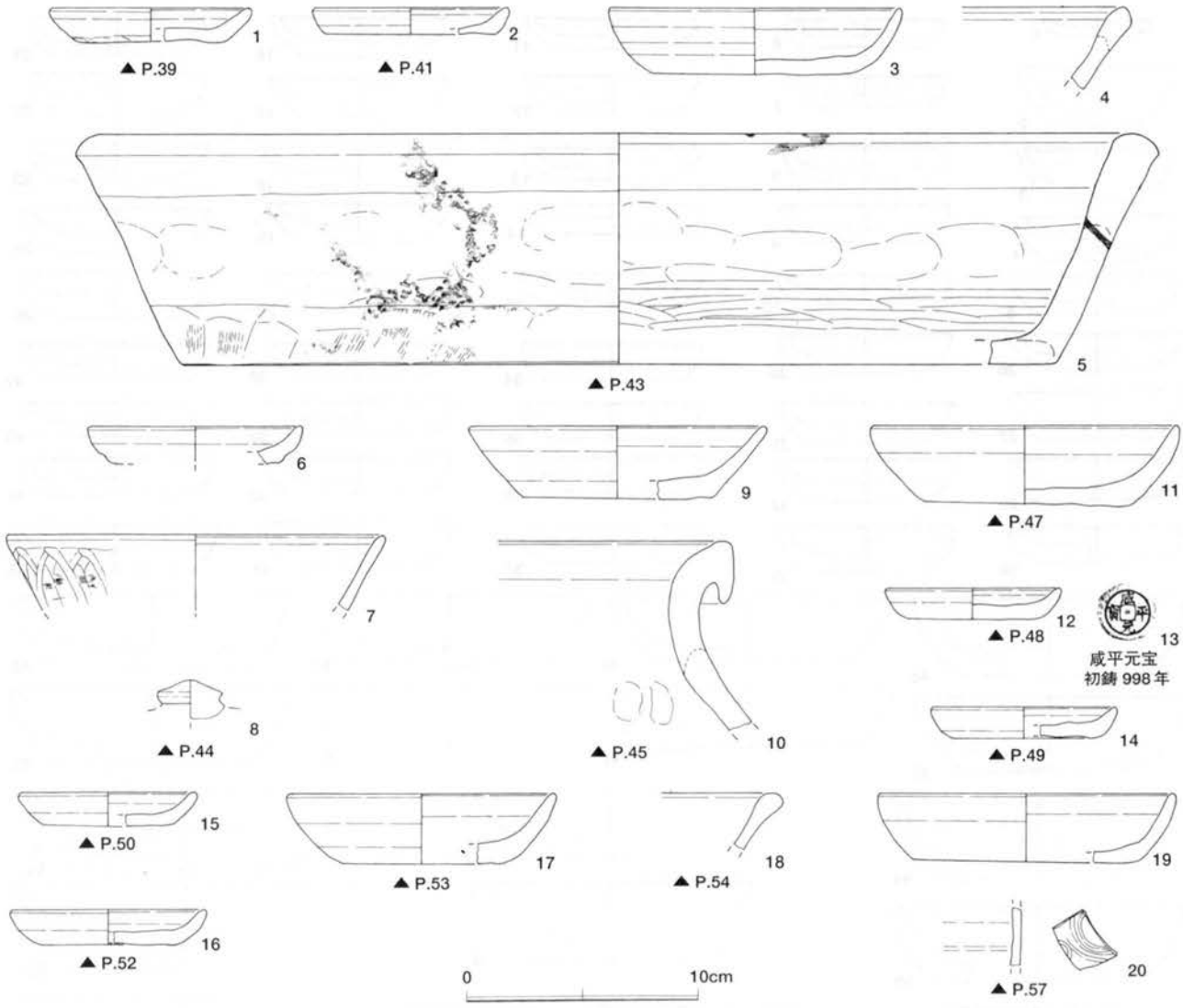


図15　第1面柱穴出土遺物（4）

かわらけ小皿である。P43：15−3がロクロ成型のかわらけ大皿、4が常滑窯捏鉢、5が土器質火鉢、P44：15−6が手捏ね成形のかわらけ中皿、7が青磁蓮弁文碗、8が須恵器の坏蓋、P45：15−9がロクロ成型のかわらけ大皿、10が常滑窯甕。P47・48：15−11〜13がロクロ成型のかわらけ大皿・小皿と銅銭「咸平元宝」（北宋　998年）、P49・P50・P52・P53・P54：15−14〜18がロクロ成型のかわらけ小皿・大皿と常滑窯捏鉢、P57：15−19がロクロ成型のかわらけ大皿、20が青白磁梅瓶である。

c.　遺構外出土遺物（第1面上〜包含層）（図4・16〜19、図版1・15・16）

ここでは第1a・b面の面上及び包含層（第1層）より出土したもので遺構に伴わない遺物を一括して述べることにする（図16〜19）。図16−1〜60がロクロ成形の回転糸切底によるかわらけ、61〜65が手捏ね成形によるかわらけである。1が口径4.4cm、底径3.4cm、器高0.7cmの極小タイプである。2〜45は小皿の一群であるが、2・3だけは口径6.8cm、底径3.7・3.5cm、器高2.7・2.4cmと底径が小さめで器高が高くその他の例とは異なる特徴を有する。4〜45の小皿の一群は口径6.5〜8.6cm、底径4.2〜6.5cm、器高1.1〜2.1cmの法量を示している。46〜60が大皿になる一群であるが、57・59・60は口縁部が外反気味の器形を呈している。さらに59・60は口径が14.5cm以上で底径が9cmを超える資料で器形・法量とも他の大皿例とは異なっている。

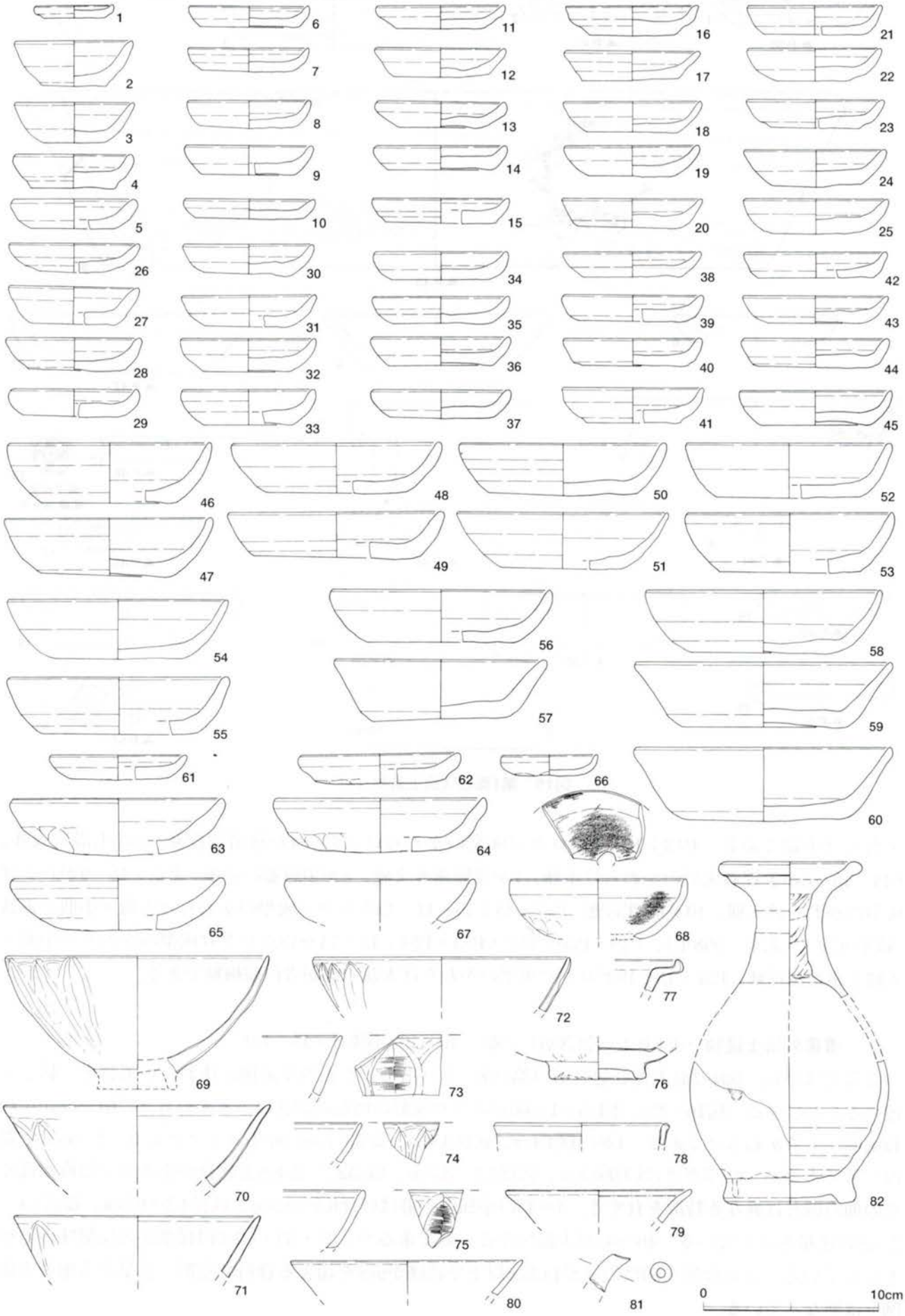


図16　第1面上出土遺物（1）

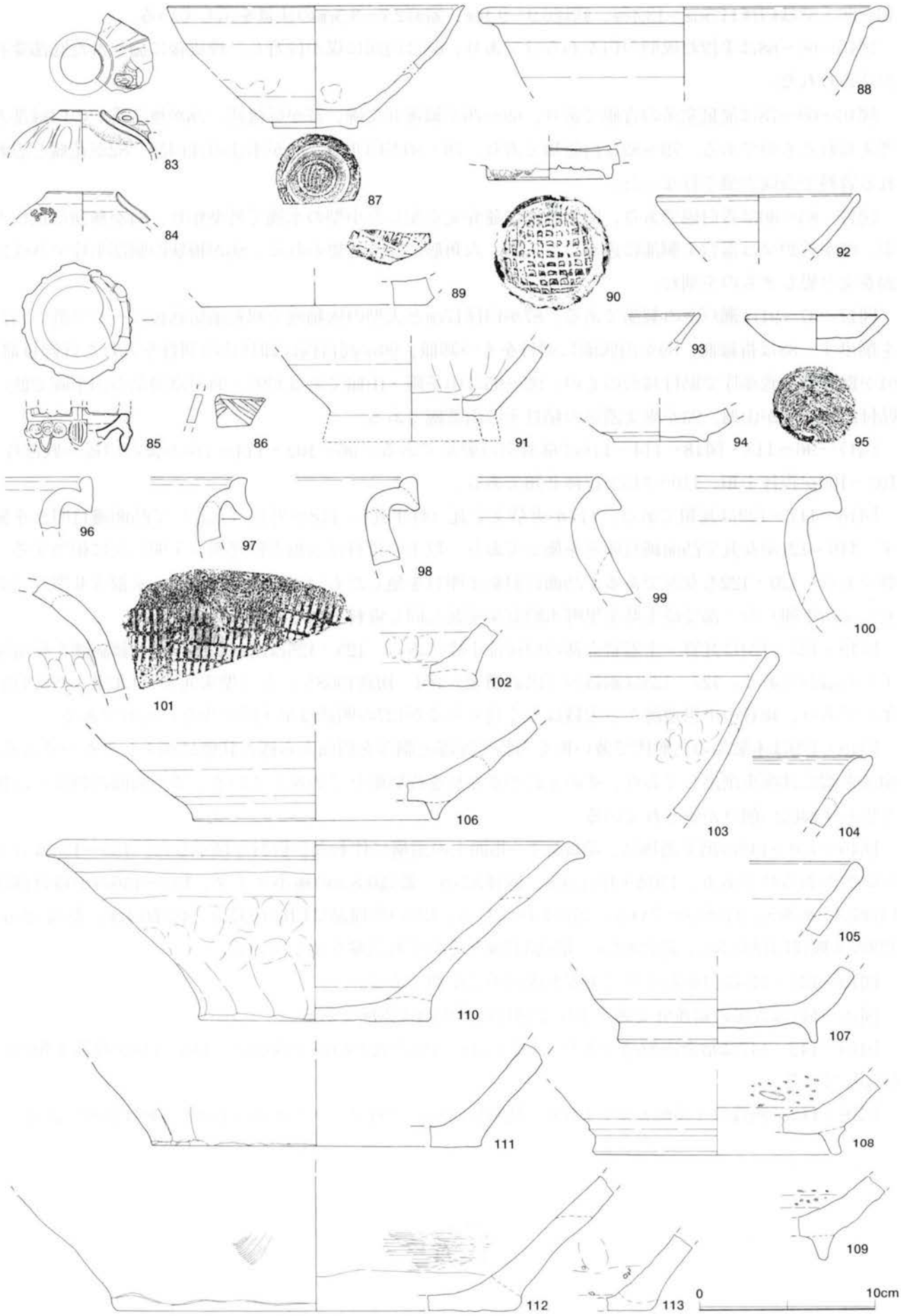


図17　第1面上出土遺物（2）

46～56・58は口径11.5cm～13.4cm、底径6.9～9.1cm、器高2.7～3.5cmの法量を示している。

図16－66～68は手捏ね成形の白かわらけであり、68は内面に煤が付着し、焼成後に施された底部穿孔が認められた。

図16－69～78は龍泉窯系の青磁であり、69～76が鎬蓮弁文碗、77が折縁皿、78が無文香炉の口縁部と考えられるものである。79～82は白磁類であり、79・80が口兀皿、81が水注の注口部、82が花瓶と思われる資料で合成実測を行なった。

図17－83～86は青白磁であり、83が外面に蓮弁文を配した小型の水滴で外型作り、84が無頸に近い小壷、85が香炉又は器台で胴部に透かしを入れ、六角形になると思われる。86が梅瓶の胴部小片で外面に渦巻文と思しきものを刻む。

図17－87～91は瀬戸窯の製品である。87が口径17cmと大型の灰釉碗で回転糸切底後にヘラで低い高台を削出す。88は折縁皿、89が内底面に刻目をもつ卸皿、90が高台内に卸目状の刻目を入れた底卸目皿、91が四耳壷の底部片で貼付高台のもの。92～95は山茶碗・山皿であるが92・94が常滑系の山茶碗で低い貼付高台と95が山皿、93が東美濃系の精良土の山茶碗である。

図17－96～113・図18－114～116は常滑窯の製品である。96～102・114～116が甕の口縁～底部片、103～109が捏鉢Ⅰ類、110～113が捏鉢Ⅱ類である。

図18－117～122は瓦類である。117が唐草文宇瓦（軒平瓦）、118が男瓦（丸瓦）で凸面縄目明きを施す、119・121が女瓦で凸面縄目叩きを施しており、以上の資料は永福寺創建期（Ⅰ期）瓦に相当する一群である。120・122も女瓦であるが凸面に斜格子叩目を施したもので、その特徴から永福寺Ⅱ期瓦（寛元・宝治年間）の一部で埼玉県美里町水殿瓦窯産瓦と同じ資料である。

図19－123・124は瓦質・土器質火鉢の口縁部小片である。125・126は滑石製品の鍋と鍋胴部を転用加工した温石である。127・128は銅銭の「洪武通宝」（明　初鋳1368年）と「聖宋元宝」（北宋　初鋳1101年）であり、鎌倉の中世遺跡から宋銭は多く見られるが127の明銭は出土例が少ないものである。

図19－129は木製品の鳥形代で薄い板を刃物で頭部と胴部を側面から観た状態に加工したものである。頭部先端には嘴を削出しており、その上に小さな目を片切彫りで表現している。また両面の胴部には翼を思わす幅広い削りが施されている。

図19－130～149の出土遺物は、第Ia面下～Ib面上の遺構に伴わない資料を図示した。130～138はロクロ成形かわらけである。130が口径4.6cm、底径3.7cm、器高0.8cmの極小タイプ、131～136の小皿資料は口径7.4～8.8cm、底径5.0～7.0cm、器高1.4～2.0cm、137の中皿品は口径10.0cm、底径6.4cm、器高3.2cm、138の大皿は口径44.8cm、底径8.2cm、器高3.0cmとそれぞれ法量を示している。

図19－139・140は白かわらけで手捏ね成形の大小皿である。

図19－141は青磁の鎬蓮弁文碗下半片で四角の高台内は露胎である。

図19－142～147は常滑窯製品であり、142～144・147が甕の口縁と底部片、145・146が捏鉢Ⅰ類の口縁部片である。

図19－148が銅銭の「淳熙元宝」（南宋　初鋳1174年）で背文「十」がみられた。149は鉄釘である。

図18　第1面上出土遺物（3）

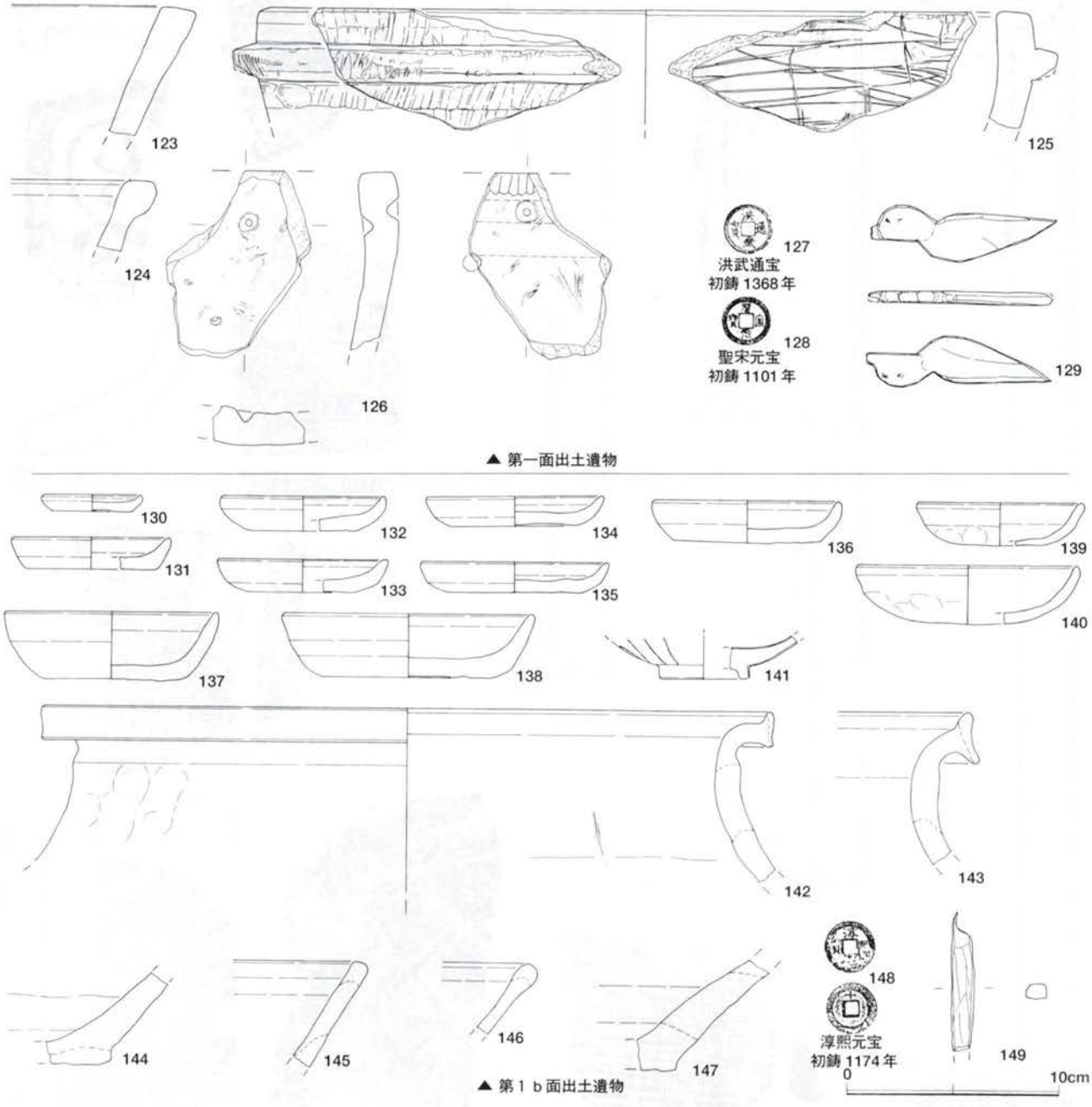


図19　第1面上出土遺物（4）

2. 第2面の遺構・遺物

第2面は第1b面下15～20cmで検出された生活面で土丹版築による地業層及びやや締まりのある暗茶褐色粘質土（土丹粒・炭化物）によって構成されている。この面で検出した遺構には、掘立柱建物1棟、土壙20墓、ピット76口などが確認された。

出土遺物には、多量のかわらけ、舶載陶磁器、瀬戸・常滑窯製品、土器質・瓦質製品、瓦類、金属製品、石製品などがみられた。

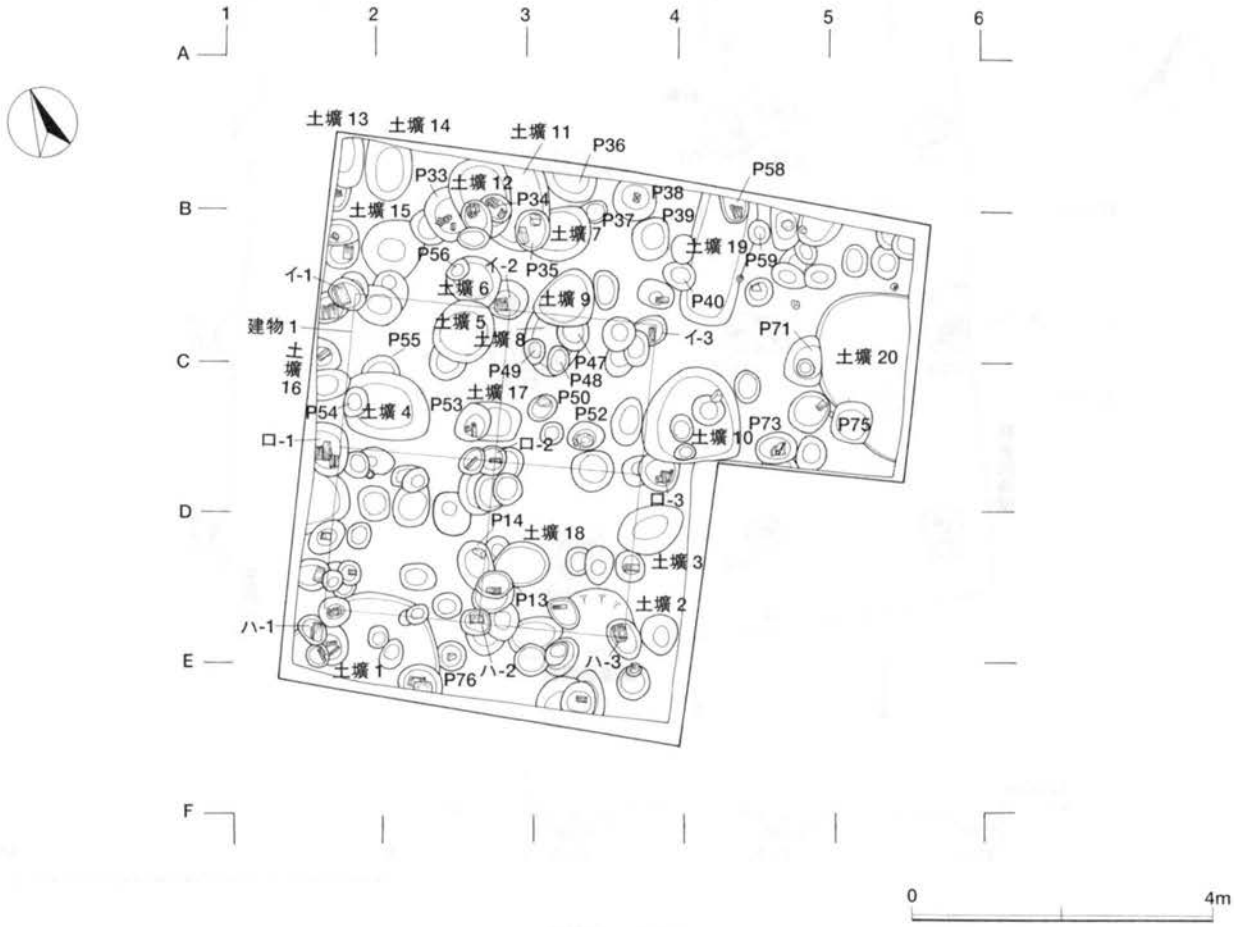


図20　第2面全測図

a. 掘立柱建物（図20～22、図版4・5・17）

建物1：調査区中央から西寄りの位置でB～D－1～3グリットの範囲で検出された掘立柱建物跡である。

建物規模は調査区内において東西2間×南北2間を確認しているが、南・西側はそれぞれ調査区外に拡がる可能性がある。確認した標高は、12.40～12.50m前後であり、建物の軸方位はN－26°30′－Eである。確認された規模は、南北2間＝425cm・東西2間＝425cm以上である。柱間寸法は南北位a列が各間の芯々距離が北から210cm・215cm、東西位b列が各間の芯々距離が西から215cm・210cmを測る。

各柱穴の掘方は、径40～70cmの楕円形を呈しており、深さ30～45cmである。柱は抜かれて残存していなかったが底面には角柱材を長さ20～30cm程に切断して厚さ2cm前後に縦割りした礎板が据えられており、柱穴ロ－1・3には3枚の礎板、ハ－3に2枚の礎板が認められた。柱穴中には重複による新旧関係が確認され、イ－2が土壙5・6にロ－3が土壙10に壊されていた。

各柱穴の出土遺物は（図22－1～14）、イ－2が1・2のロクロ成形のかわらけ小・大皿、イ－3が3・4のロクロ成形のかわらけ小皿、ロ－2が5の手捏ね成形のかわらけ大皿と6の木製品、ロ－3が7・8のロクロ成形のかわらけ小皿と9の青磁蓮弁文碗、ハ－2が10・11のロクロ成形のかわらけ大皿と12の手捏ね成形のかわらけ小皿、ハ－3が13・14のロクロ成形・手捏ね成形のかわらけ小皿である。

b. 土壙（図20・23～29、図版4・6・17・18）

土壙1：調査区南西隅に位置しており、調査区外に拡がっている大型の浅い土壙である。建物1の柱穴

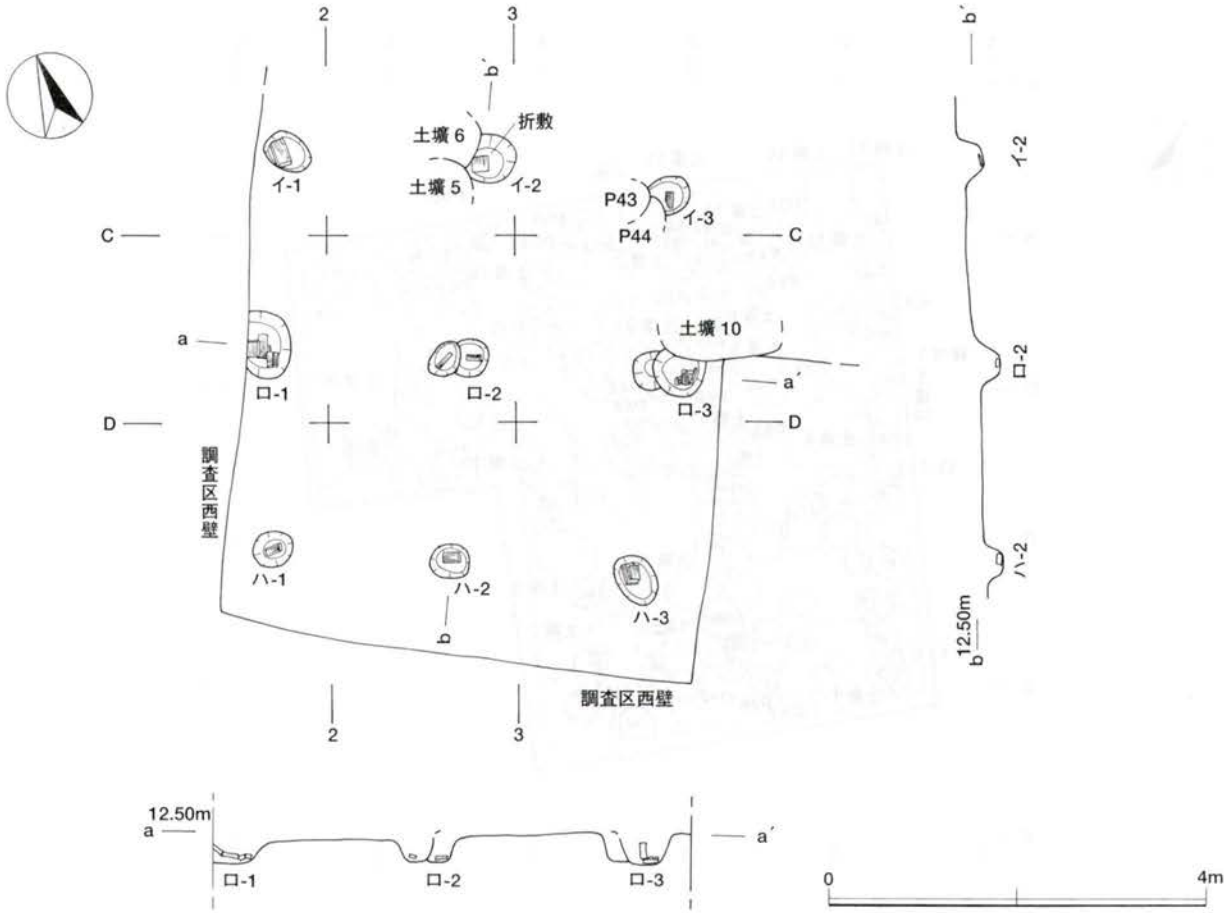


図21　建物1

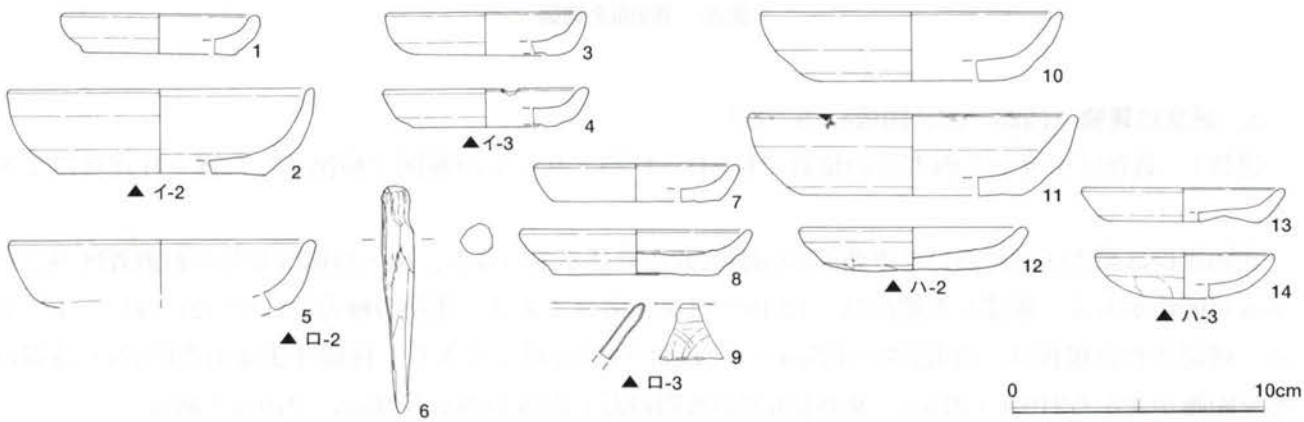
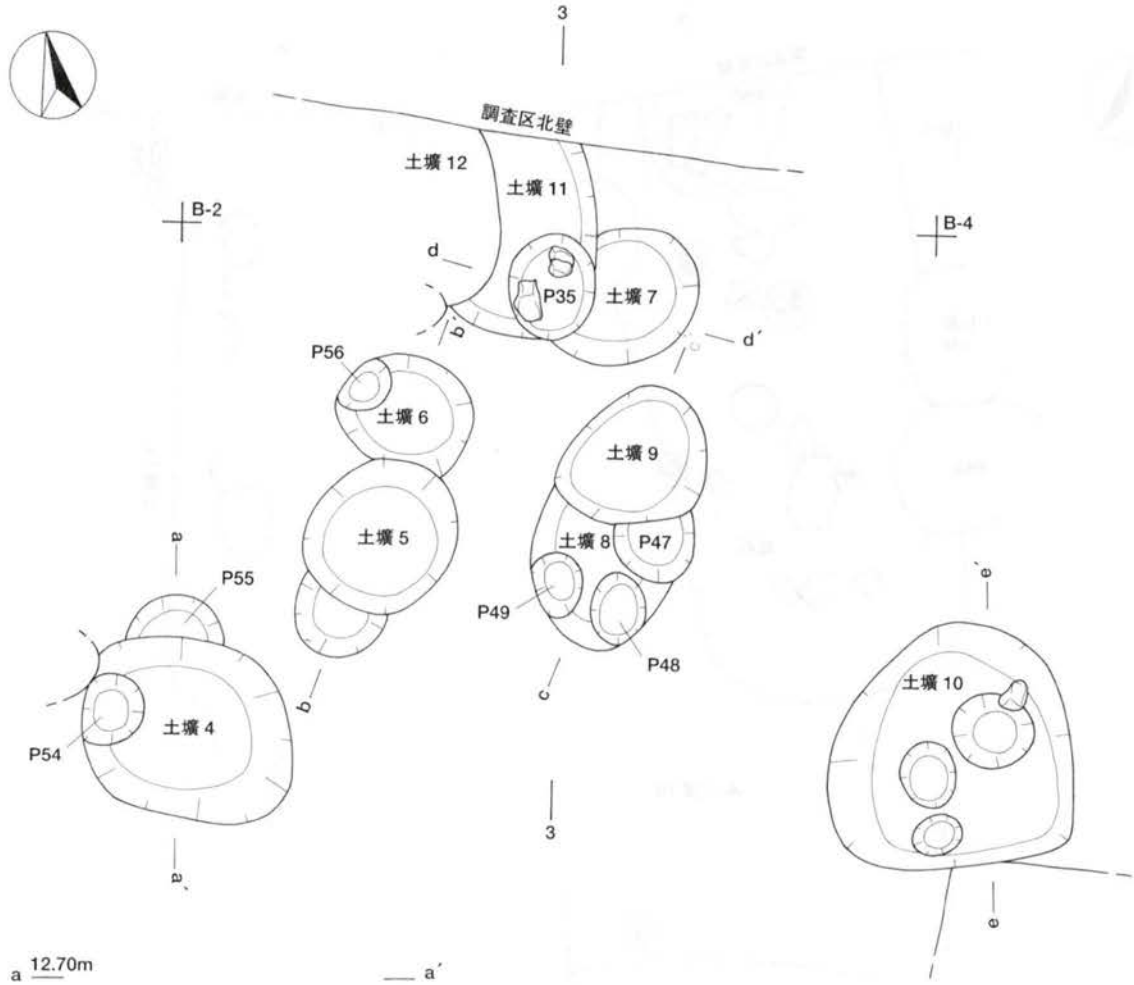
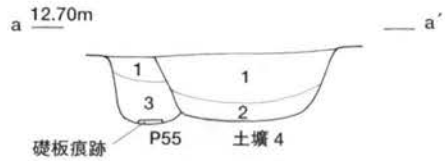


図22　建物1出土遺物

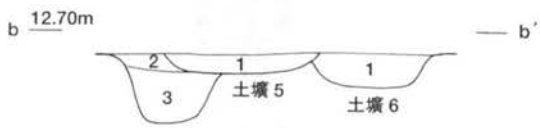
ハ−1に壊されている。掘り方の規模は南北軸120cm以上、東西軸190cm以上、深さが20cmを測り、形状は円形状と思われ、断面が浅い皿状である。覆土は炭化物・小土丹塊を多めに含む締まりのない茶褐色粘質土である。出土遺物は図25−1〜3ロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、3の口縁部内外面に煤が付着し燈明皿である。4・5が手捏ね成形のかわらけ大皿である。

土壙2：調査区南東隅に位置している。平面形状はほぼ円形を呈し、規模は径55cm前後、深さは38cmを測る。掘り方は断面が摺鉢状を呈しており、覆土は炭化物、土丹粒を多く含んだ締まりのない茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図25−6のロクロ成形のかわらけ小皿だけである。

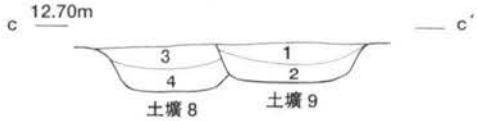




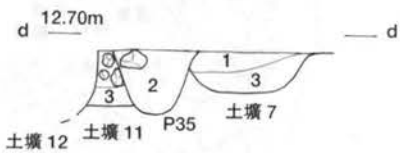
土壙 4・P 55
1．茶褐色弱粘質土　炭化物・土丹粒多く含む
　　しまりなし
2．茶褐色粘質土　炭化物・土丹粒少量含む
3．茶褐色弱粘質土　夾雑物少ない
　　しまりなし



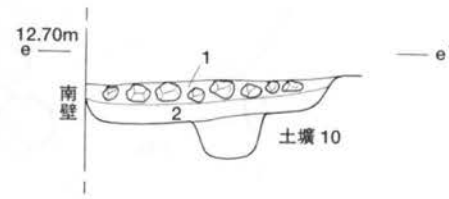
土壙 5・土壙 6
1．茶褐色弱粘質土　炭化物・土丹粒多く含む
　　しまりなし
2．茶褐色弱砂質土　土丹少量・砂粒を含む
3．茶褐色弱粘質土　夾雑物少ない
　　しまりなし



土壙 8・9
1．茶褐色弱粘質土　炭化物・土丹粒多含む
　　しまりなし
2．茶褐色弱粘質土　土丹角少量・砂粒を含む
3．茶褐色粘質土　炭化物・土丹粒少量含む
4．茶褐色弱粘質土　夾雑物少ない・しまりなし



土壙 7・土壙 8・P35
1．茶褐色弱粘質土　炭化物・土丹粒多く含む
　　しまりなし
2．茶褐色弱砂質土　土丹角少量・砂粒を含む
3．茶褐色粘質土　炭化物・土丹粒少量含む



土壙 10
1．茶褐色弱粘質土　炭化物・大小土丹塊・粒多く含む
　　しまりなし
2．茶褐色弱砂質土　土丹角少量・砂粒を含む

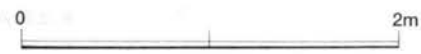


図23　土壙（1）

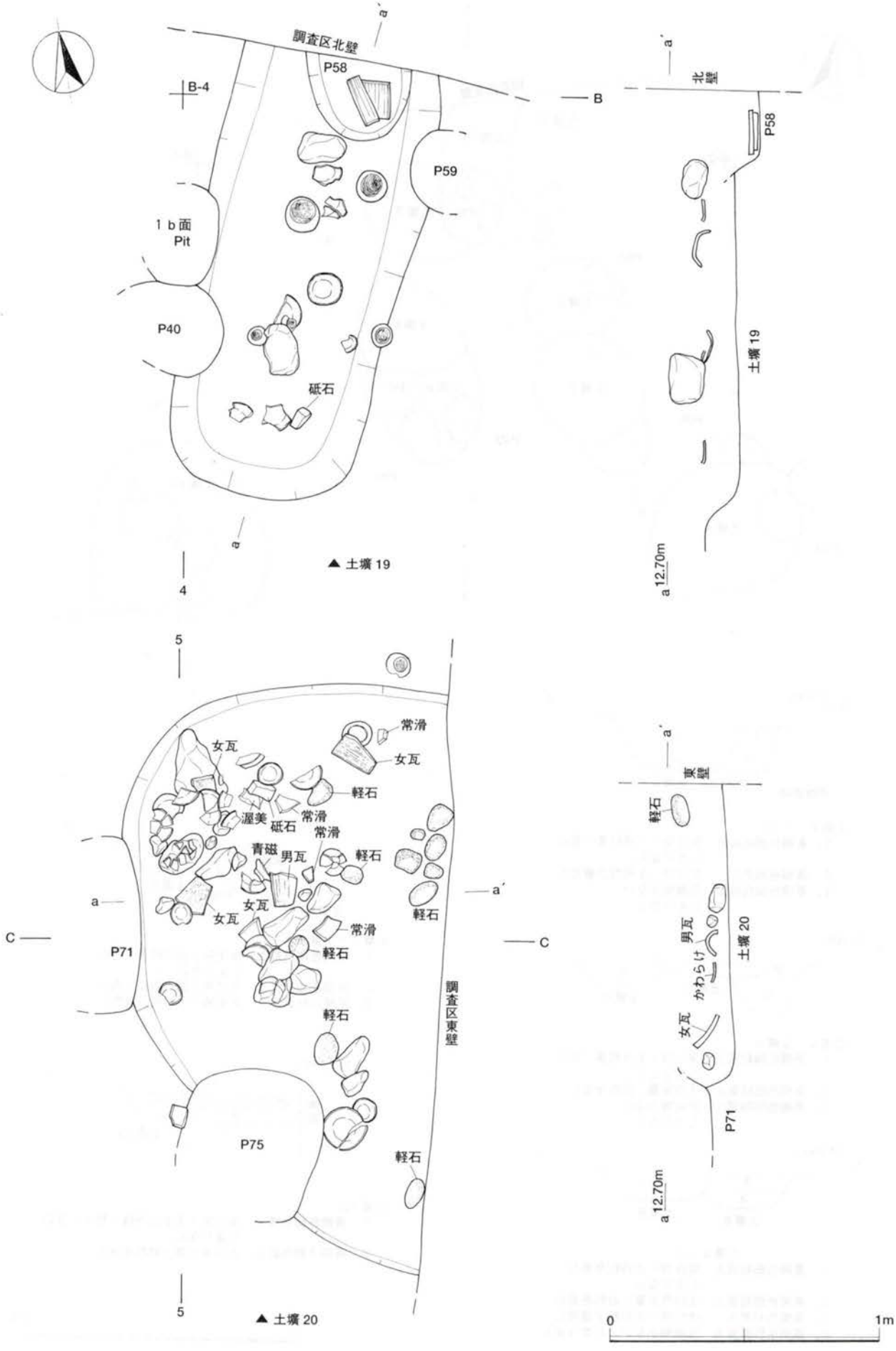

調査区北壁
P58
B-4
P59
1 b面
Pit
P40
砥石
▲ 土壙 19
北壁
P58
土壙 19
12.70m
常滑
女瓦
軽石
渥美
砥石
常滑
常滑
青磁
男瓦
軽石
女瓦
女瓦
常滑
軽石
軽石
P71
調査区東壁
軽石
P75
軽石
▲ 土壙 20
東壁
軽石
男瓦
かわらけ
女瓦
土壙 20
P71
12.70m
0
1m

図24　土壙（2）

土壙3：D－4杭に近接した位置にあたる。平面形状は楕円形を呈し、規模は東西軸95㎝、南北軸65㎝、深さが40㎝を測り、掘り方の断面が逆台形状になる。覆土は炭化物、かわらけ小片を含む締まりのない茶褐色弱砂質土である。出土遺物は図25－7～10がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、11が瀬戸窯四耳壺である。

土壙4：調査区中央西端、C－2グリットに位置しており、P55を壊して掘り込んでいる。平面形状は楕円形を呈し、規模は東西軸115㎝、南北軸95㎝、深さ40㎝を測る。掘り方は断面が逆台形状を呈しており、覆土は上層が炭化物、土丹粒を多く含んだ締まりのない茶褐色弱粘質土、下層が締まりのない茶褐色粘質土である。出土遺物は図25－12～20ががロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、21が手捏ね成形の白かわらけ小皿、22が常滑窯捏鉢Ⅰ類である。

土壙5：調査区北西域、土壙4東隣に位置しており、土壙6の北端を壊して掘り込んでいる。平面形状はほぼ円形を呈するもので規模は径85㎝、深さ13㎝と浅い掘り方である。覆土は炭化物・土丹粒を多く含む締まりのない茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図25－23～25がロクロ成形のかわらけ小・大皿、26が常滑窯甕、27が須恵器壺である。

土壙6：土壙5・P55よりも新しい。平面形状はほぼ円形を呈し、規模は径70㎝前後、深さ20㎝と浅いものである。覆土は炭化物・土丹粒を多く含む締まりのない茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図25－28～30がロクロ成形のかわらけ小皿、31・32が常滑窯壺・甕の口縁部片である。

土壙7：土壙6の北東側に近接した位置である。土壙11・P35と新旧関係にあり、両遺構より古いものである。平面形状は楕円形を呈し、規模は東西軸85㎝、南北軸70㎝、深さ23㎝を測る。掘り方は断面が逆台形状を呈しており、覆土は上層が炭化物・土丹粒を多く含む締まりのない茶褐色弱粘質土、下層が夾雑物の少ない茶褐色粘質土である。出土遺物は図25－33～37がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、38が常滑窯甕の底部片、39が女瓦で凸面に斜格子叩き目を施す永福寺Ⅱ期瓦（女瓦D類）と同類の資料である。

土壙8：土壙5・6の東側に近接した位置である。土壙9・P47～49と新旧関係にあり、両遺構より古いものである。確認した規模は東西軸68㎝以上、南北軸80㎝、深さ30㎝を測り、掘り方は楕円形と推定され,断面が逆台形状を呈する。覆土は小土丹塊と炭化物・かわらけ小片が多く締まりのない暗茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図25－40・41のロクロ成型のかわらけ小皿・大皿である。

土壙9：C－3杭の北東隣に位置しており、土壙8・P47と重複関係をなし両遺構を壊して掘られている。平面形状は不整円形を呈し、規模は東西軸80㎝、南北軸73㎝、深さが25㎝と浅い掘り方を有する。覆土は上層が炭化物・土丹粒を多く含む締まりややある茶褐色粘質土、下層が夾雑物の少なく締まりのない茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図26－1～6がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、7が常滑窯甕口縁～頸部片である。

土壙10：調査区中央東寄りに位置しており、建物1の柱穴ロ－3を壊して掘り込んでいる。平面形状は不整円形を呈し、規模が東西軸135㎝、南北軸126㎝、深さ35㎝と浅い大型の土壙であり、断面が皿状の掘り方である。覆土は小土丹塊と炭化物を少量含む締まりない茶褐色砂質土である。出土遺物は図26－8～12がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、13～16が手捏ね成形のかわらけ小皿・大皿である。17が泉州窯系の緑釉鉄絵盤の底部片、18が東美濃系の山茶碗と考えられる。19が常滑窯甕、20が京都楠葉系の瓦器碗、21・22が男・女瓦でともに永福寺創建期瓦と同類、23が灰釉壺である。

土壙11：調査区北西域に位置し、北側は調査区外に拡がっている。土壙7・12とP35が新旧関係にあり土壙7より新しく、土壙12とP35よりも古いものである。確認された規模は南北軸120㎝以上、東西軸80㎝以上、深さが35㎝程である。掘り方の断面が逆台形状を呈する。覆土は小土丹塊・かわらけ小片を

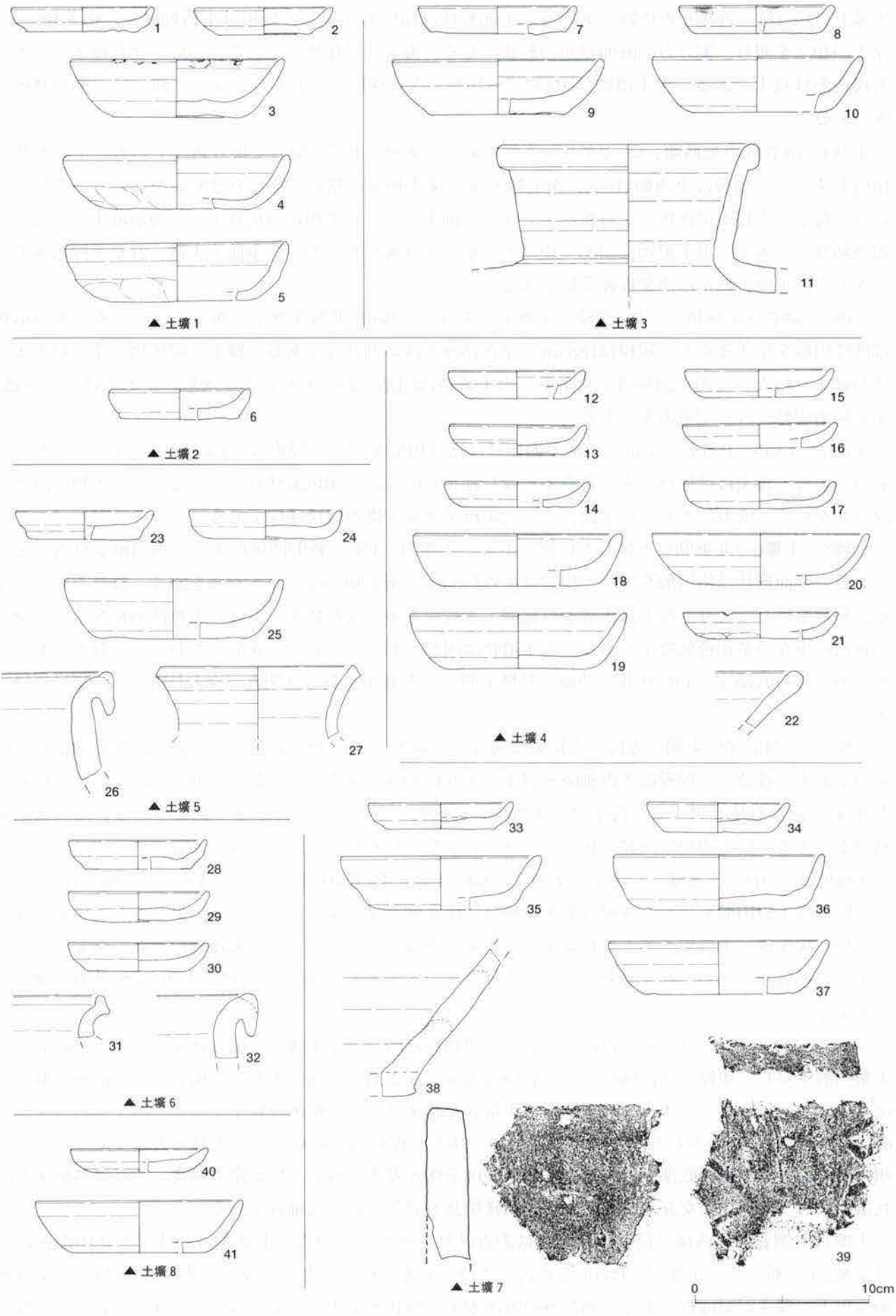


図25　第2面土壙出土遺物（1）

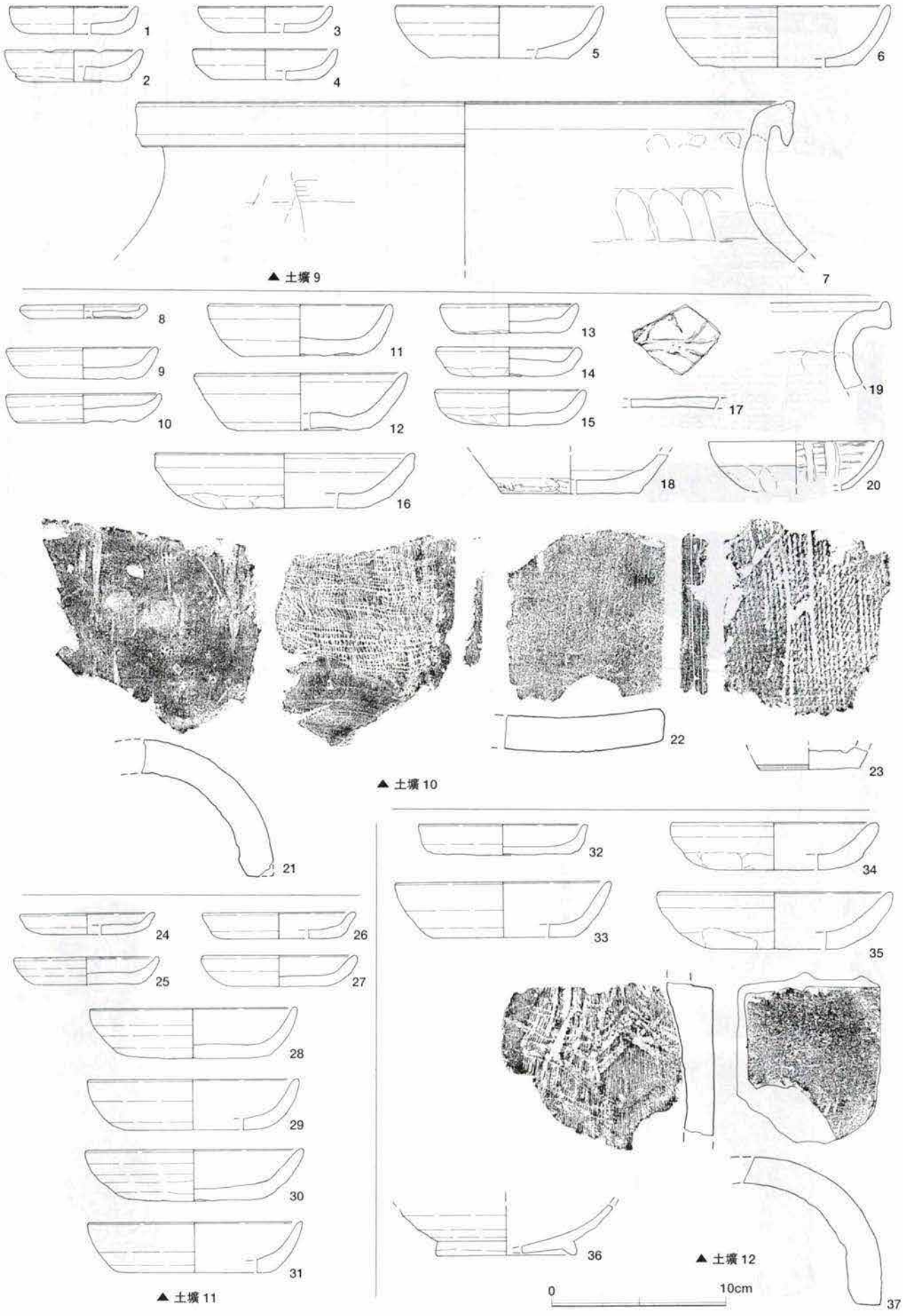


図26　第2面土壙出土遺物（2）

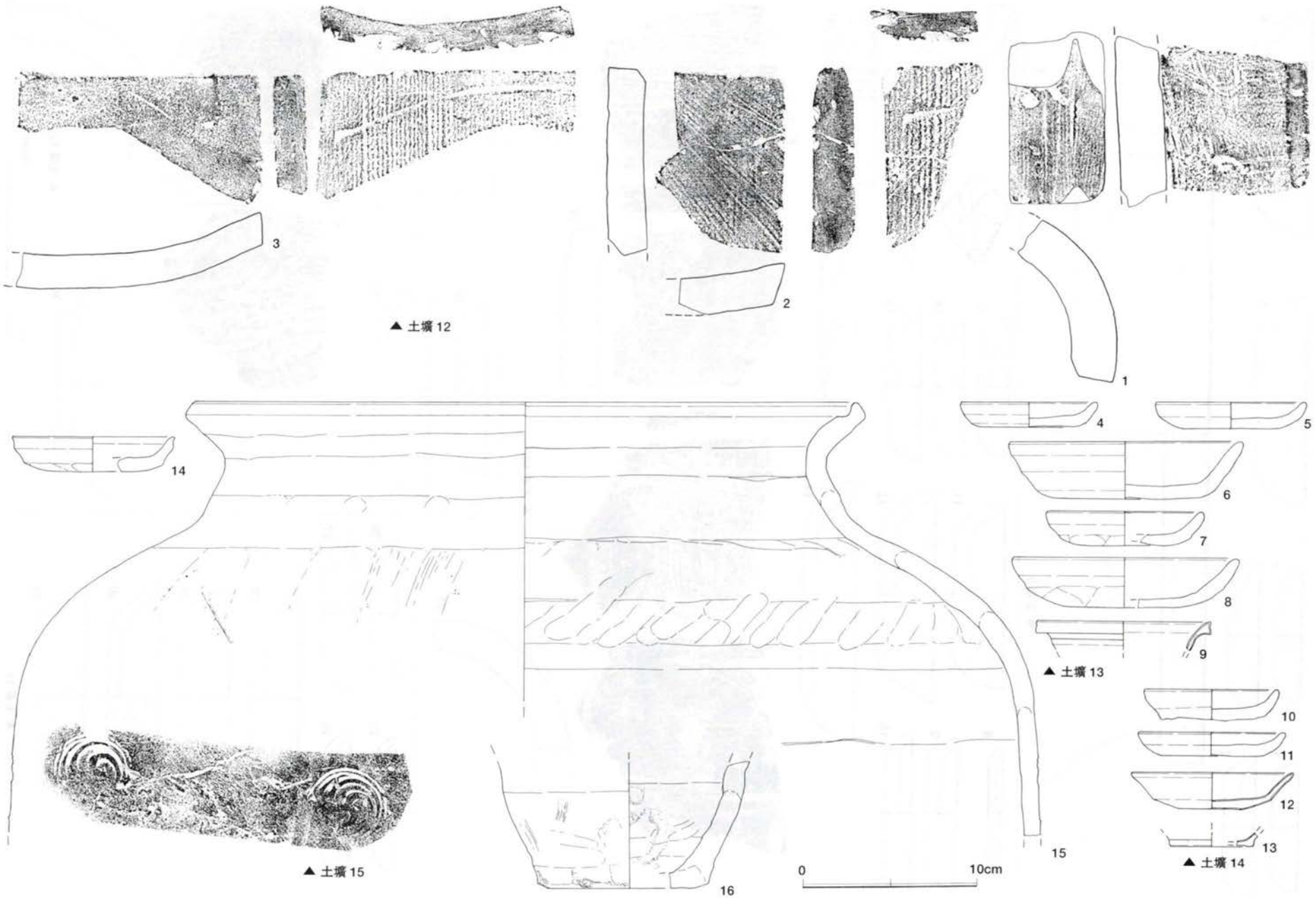


図27　第2面土壙出土遺物（3）

多く含んだ茶褐色粘質土である。出土遺物は図26－24～31のロクロ成形のかわらけ小皿・大皿だけである。

土壙12：土壙11を壊す状態で重複関係にある位置で検出された。平面形状は楕円形を呈し、規模は東西軸108㎝、南北軸80㎝、深さ35㎝程である。覆土は土丹粒・炭化物を多く含んだ締まりない茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図26－32・33がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、34・35が手捏ね成形のかわらけ皿、36が常滑系の山茶碗である。37と図27－1～3が瓦類で37－1が男瓦、2・3が女瓦ですべて永福寺創建期瓦と類似したものである。

土壙13：調査区北西隅の位置で検出され、調査区外に拡がっている。確認された規模は南北軸68㎝以上、東西軸30㎝以上、深さ30㎝を測る。覆土は炭化物・かわらけ小片の多い茶褐色粘質土である。出土遺物は図27－4～6がロクロ成形で7・8が手捏ね成形のかわらけ小皿・大皿、9が白磁水注の口縁部であろう。

土壙14：調査区北西隅で土壙13の東側に接した位置である。北側は調査区外に拡がっているが形状は楕円形を呈すると思われる。規模は南北軸85㎝以上、東西系64㎝、深さ30㎝である。掘り方の断面は逆台形状を呈し、覆土は粘性や締まりの弱い暗茶褐色土である。出土遺物は図27－10・11がロクロ成形のかわらけ小皿、12が青磁皿、13が白磁小壷の底部片である。

土壙15：土壙14の南隣に位置する。平面形状はほぼ円形を呈し、規模は径85㎝、深さ25㎝と浅い掘り方である。覆土は炭化物を多く含む茶褐色粘質土である。出土遺物は図27－14が手捏ね成形のかわらけ15が常滑窯甕、16が渥美窯壷で外面に三巴文の叩き目がある。

土壙16：調査区中央西端で土壙4に接した位置にあたり、西側は調査区外に拡がっている。確認した規模は南北軸55㎝以上、東西軸43㎝、深さ45㎝、覆土は炭化物・かわらけ小片を少量含む茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図28－1・2がかわらけでロクロ成形と手捏ね成形の大皿である。

土壙17：調査区中央西寄りの位置で検出され、P53と新旧関係にあり西側が壊され本土壙の方が古いものである。平面形状は楕円形を呈し、規模が東西軸65㎝以上、南北軸50㎝、深さ25㎝を測る。掘り方は断面が逆台形状を呈し、覆土は炭化物・小土丹塊を含む茶褐色粘質土でやや締まりがある。出土遺物は図28－3～5がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、6・7が常滑窯捏鉢Ⅰ類、8が平安時代の緑釉陶器碗と考えられる。

土壙18：調査区南側中央寄りの位置で検出された。P13・14に西端が掘削されている。平面形状は楕円形を呈し、規模は東西軸80㎝以上、南北軸58㎝、深さ20㎝を測り、掘り方断面が皿状を呈している。覆土は茶褐色粘質土で土丹粒・炭化物を多めに含み締まりのないもの。出土遺物は図28－9～13がすべてロクロ成形かわらけの小皿・大皿であり、11の内外面には煤が付着しており燈明皿であろう。

土壙19：調査区中央東寄りの北端に位置しており、P40・58・59の柱穴で部分的に壊されている。北側は調査区外に延びている。平面形状は隅丸長方形を呈し確認された規模が南北軸170㎝以上、東西軸82㎝、深さ28㎝を測り、断面が皿状を呈している。覆土中には図24上段のように大小土丹塊と共にかわらけを主体とした遺物が伴っており、炭化物・かわらけ小片を多く含み締まりのない茶褐色弱粘質土である。出土遺物は図28－14～29がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、30～34が手捏ね成形のかわらけ小皿・大皿であり、27・29には口縁部の内外面に煤が付着した燈明皿である。35は砥石である。

土壙20：調査区北東城に位置しており、東側は調査区外に拡がっている。P71・75に一部を壊されている。確認された規模は南北軸220㎝、東西軸124㎝以上、深さ25㎝程の浅い掘り方をもつ大型の土壙である。覆土は炭化物・かわらけ小片を多めに含む締まりのない茶褐色粘質土である。図24下段・図版6bのように出土遺物に混じっては軽石が多く認められた。図28－36～46がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、47～52が手捏ね成形のかわらけ小皿・大皿であるが、37・50には煤が付着しており燈明皿で

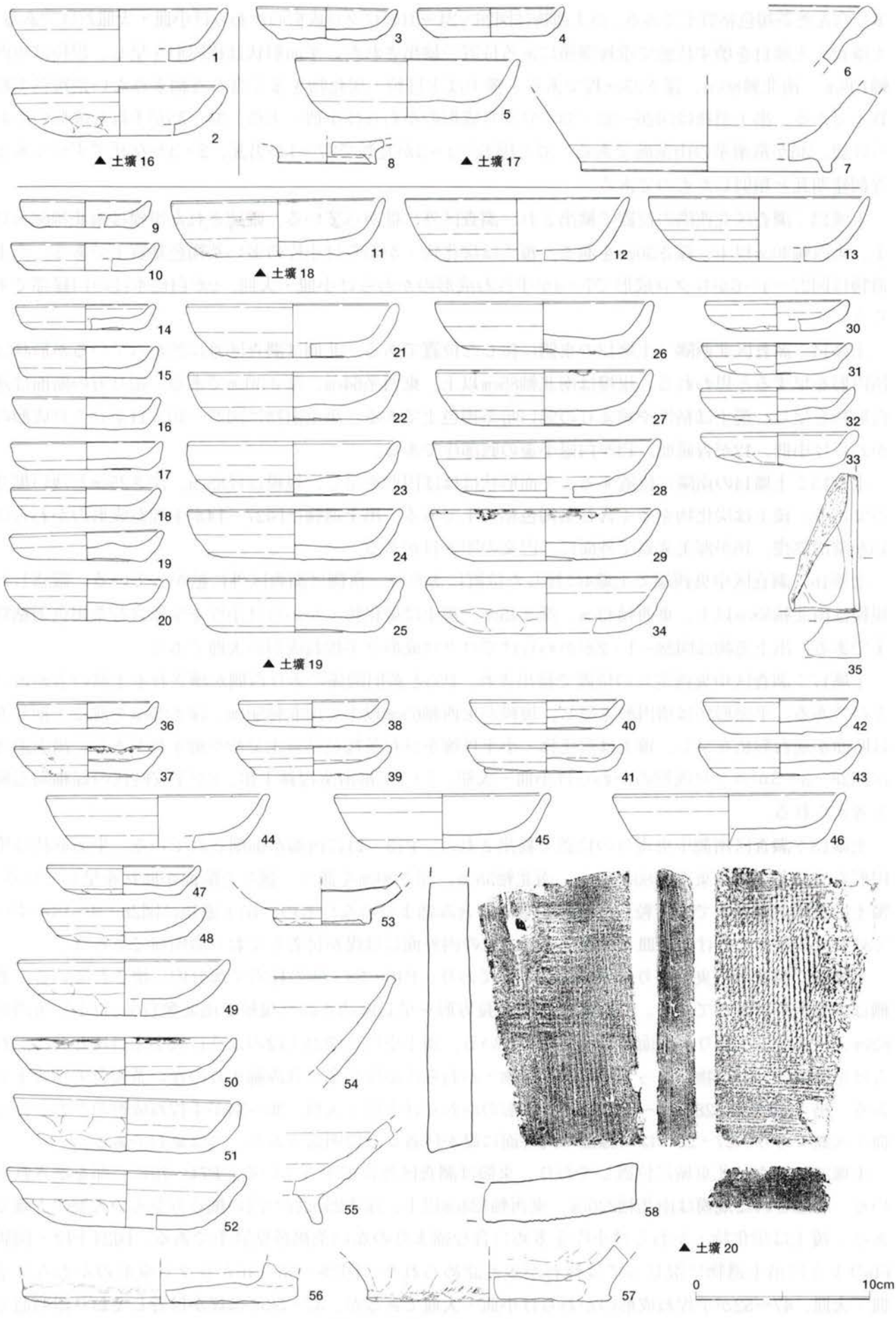


図28　第2面土壙出土遺物（4）

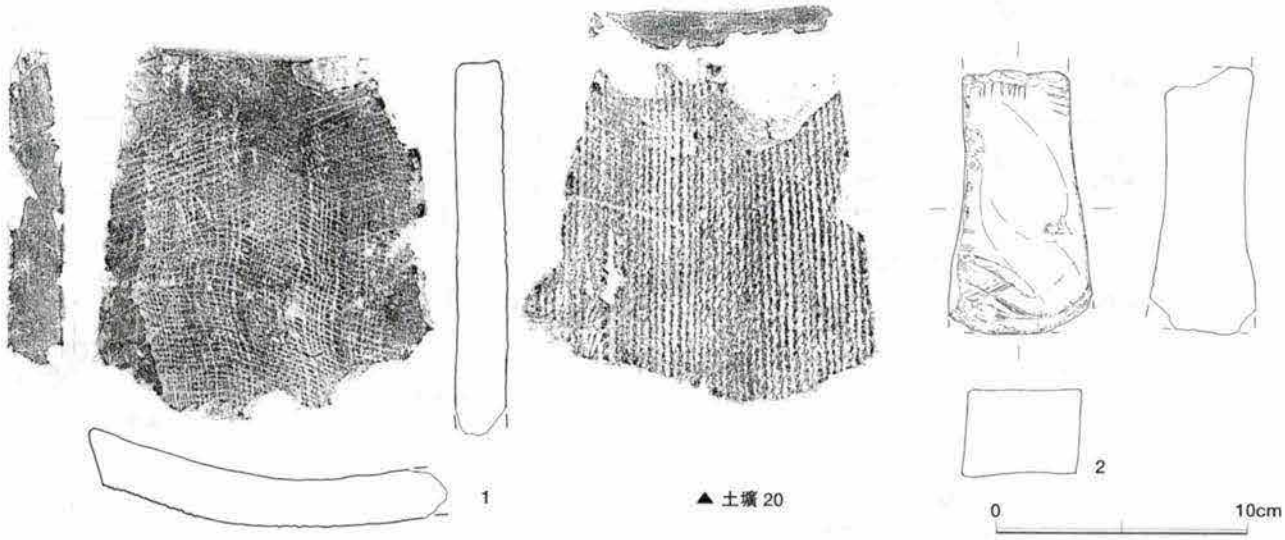


図29　第2面土壙出土遺物(5)

あろう。53が青磁無文碗、54～57が常滑窯の山茶碗・捏鉢・甕、58・図29－1が凸面縄目叩きの女瓦で永福寺創建期瓦の女瓦A類と同類資料、2が砥石である。

c. 柱穴（図20・30～32、図版4・6・18）

この面で検出した各柱穴（ピット）は建物1以外に掘立柱建物を構成するような配置は認められなかった。掘り方は平面形状が円形または楕円形を呈しており、規模は径30～60㎝、確認面からの深さ15～40㎝である。柱穴の底面には、1～3枚の礎板を有する例が28口と、P14・35・50・52・61のように偏平な土丹塊を置いた例もあり、それぞれ柱を受けるために据えられていた。またP60に瓦片、P74の底面には常滑甕片が認められたが同じく柱受けとして使われた可能性が考えられる。以下に柱穴出土の遺物について簡単に触れる（図30～32に掲載した柱穴出土の遺物は以下に図を省略して図番号と遺物番号のみを記載、例えば：図30－1＝30－1と表現する）。

各柱穴の出土遺物は、P1：30－1が体部下位に強い稜をもつ龍泉窯系青磁の皿である。P2：30－2が手捏ねかわらけの小皿、P5：3がロクロ成形かわらけの小皿、P6：4～7がロクロ成形と手捏ねかわらけの小皿・大皿、P8：8が木製品で金剛草履の芯である。P9：30－9～12がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿と滑石製石鍋、P10：13～16が手捏ね成形のかわらけ小皿と京都楠葉産系の瓦器皿、P11：17が青磁劃花文碗の口縁部小片である。P12：30－18～20が手捏ね成形のかわらけ小皿・大皿、P17：21がロクロ成形のかわらけ小皿、P18：22・23がロクロ成形のかわらけ小皿と凸面縄目叩きを施す女瓦、P19：24～27がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿と常滑窯系の捏鉢Ⅰ類、P20：28がロクロ成形のかわらけ小皿である。P21：29～31がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、P22：32が常滑窯甕、P26：33・34がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、P27：35・36が手捏ね成形のかわらけ大皿、P28－37がロクロ成形かわらけ小皿、P29・30：38・39がロクロ成形・手提ね成形かわらけの大皿である。P31－40・41が常滑窯の捏鉢1類と凸面縄目叩きを施す女瓦、P32・33－42が手捏ね成形のかわらけ小皿と43が常滑窯甕、P34：44・45がロクロ成形のかわらけ小皿・青磁碗底部片、P35・36：46・47がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿である。P38・41・43：図31－1・3～6がロクロ成形のかわらけ小皿・大皿、2が手捏ね成形のかわらけ大皿であり、2・5の口縁部内外面に煤付着した燈明皿、7が常滑窯甕である。P44・45・49－8～11がロクロ成形のかわらけ小皿、12が手捏ね成形の白かわらけ皿である。P50・51・52－

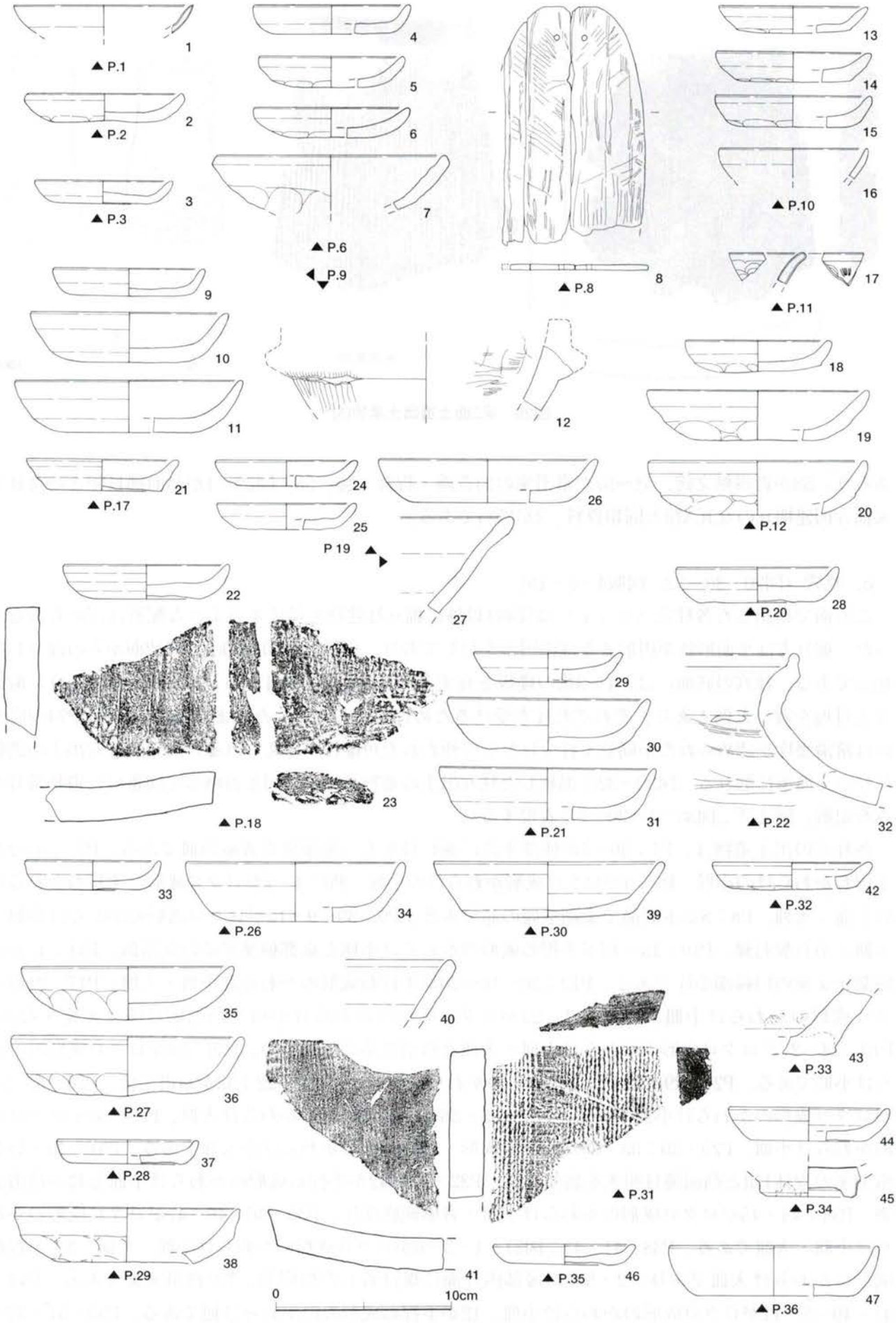


図30　第2面柱穴出土遺物（1）

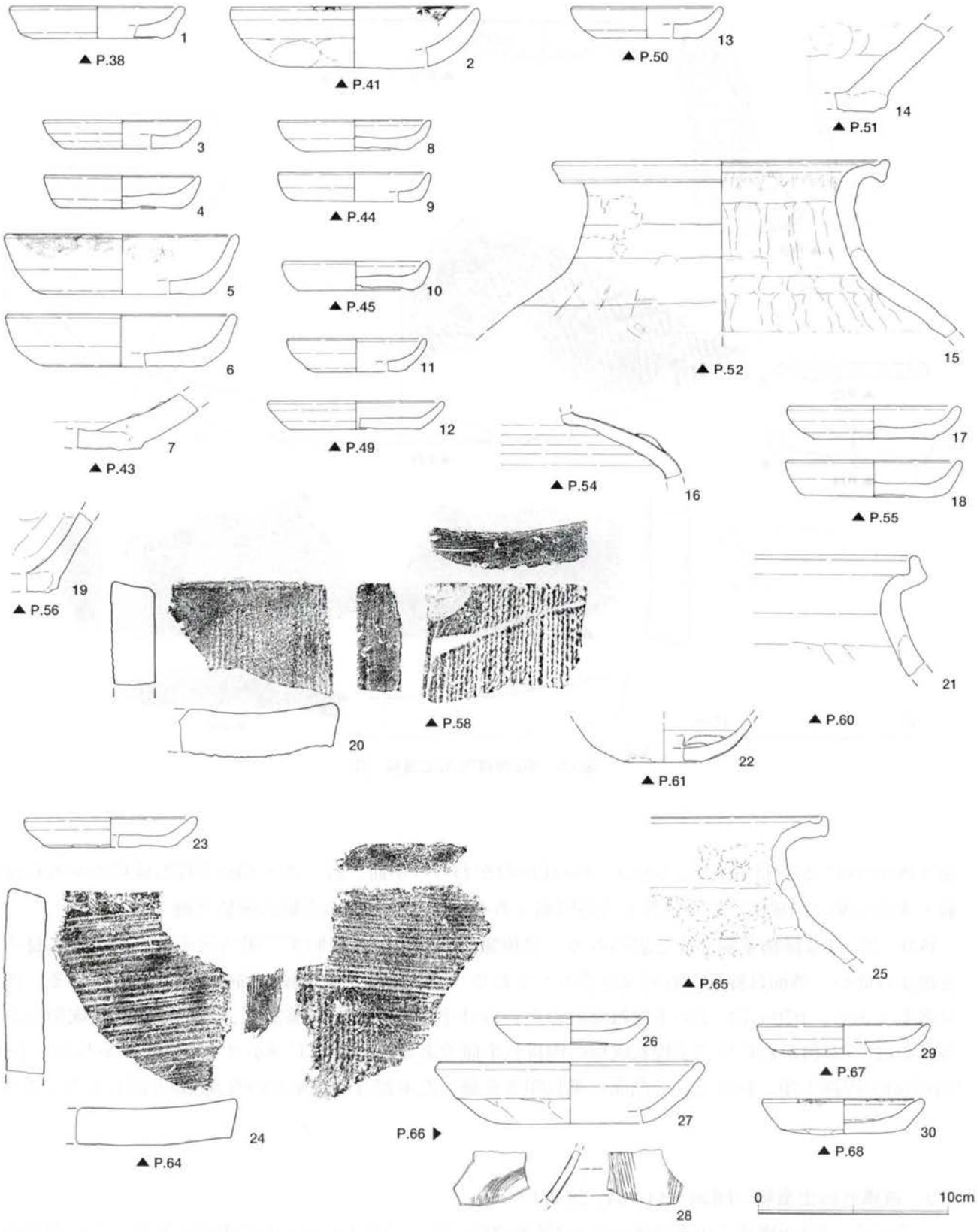


図31　第2面柱穴出土遺物（2）

13がロクロ成形のかわらけの小皿、14・15が常滑窯甕である。P54・55・56・58－16が白磁四耳壷、17・18がロクロ成形のかわらけ小皿、19が常滑窯甕、20が女瓦で凸面縄目叩きを施すP60・61・64・65－21が常滑窯甕、22が白磁の劃花文皿、23が手捏ね成形のかわらけ小皿、24が女瓦で凸面縄目叩きを

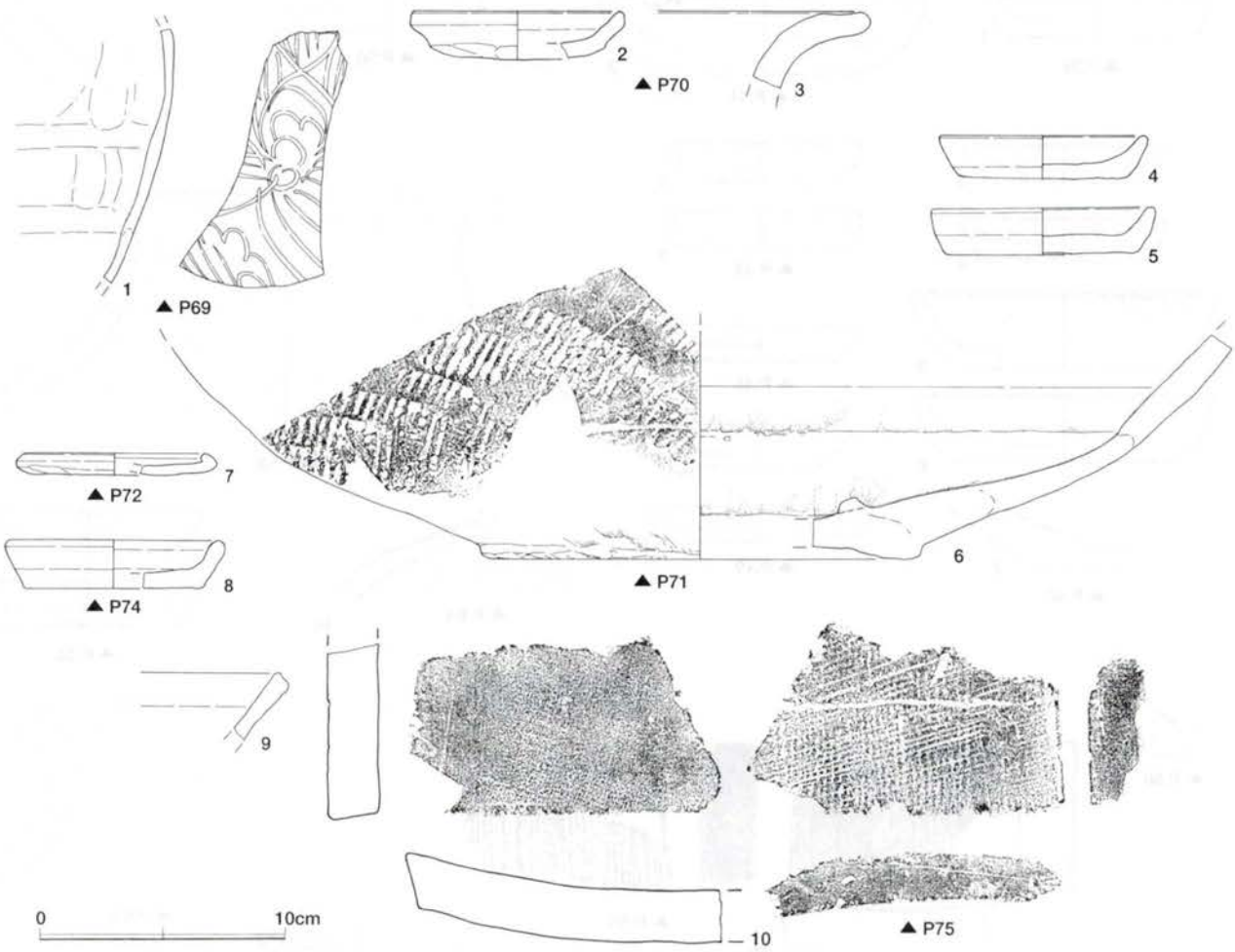


図32　第2面柱穴出土遺物（3）

施すP65～68：25が常滑窯甕、26がロクロ成形のかわらけ小皿、27・29・30が手捏ね成形のかわらけ小皿・大皿で30は口縁部に煤が付着した燈明皿である。28が同安窯系青磁の櫛描文碗である。

P69：32－1は緑釉壷胴部片と思われる。泉州窯系の盤と同様の胎土で褐灰色を呈し、焼成は良く焼き締まり硬い。外面は線刻で牡丹文を表わしており、やや澄んだ緑色釉の釉薬を薄くかけている。内面は露胎である。P70～72：2が手捏ね成形のかわらけ小皿、3・6が渥美窯甕、4・5がロクロ成形のかわらけ小皿、7が白かわらけで手捏ね成形の内折れ小皿である。P74・75：8がロクロ成形のかわらけ小皿、9が常滑窯捏鉢Ⅰ類、10が女瓦で凸面に縄目叩きを施した永福寺創建期瓦の女瓦A類と同じものである。

d. 遺構外出土遺物（図20・33・34、図版4・19）

ここでは、第1面構築土中及び第2面の遺構確認時に伴って出土したもので遺構に共伴しない遺物を一括して述べることにする。

図33のかわらけは、1～44のロクロ成形タイプの一群と、45～58の手捏ね成形タイプの一群に大別される。1～29の小皿には、1～10のものが口径7.2～7.8㎝、底径4.4～6.1㎝、器高1.5～1.9㎝で口径が8㎝以下のもの、11～28が口径8.0～8.9㎝、底径5.8～7.1㎝、器高1.5～2.0㎝で口径が8㎝を超える法量のものに分けられる。29は底部から斜め直線的に立ち上がる器壁でロクロ目が強く残る。器高が高く口径に比

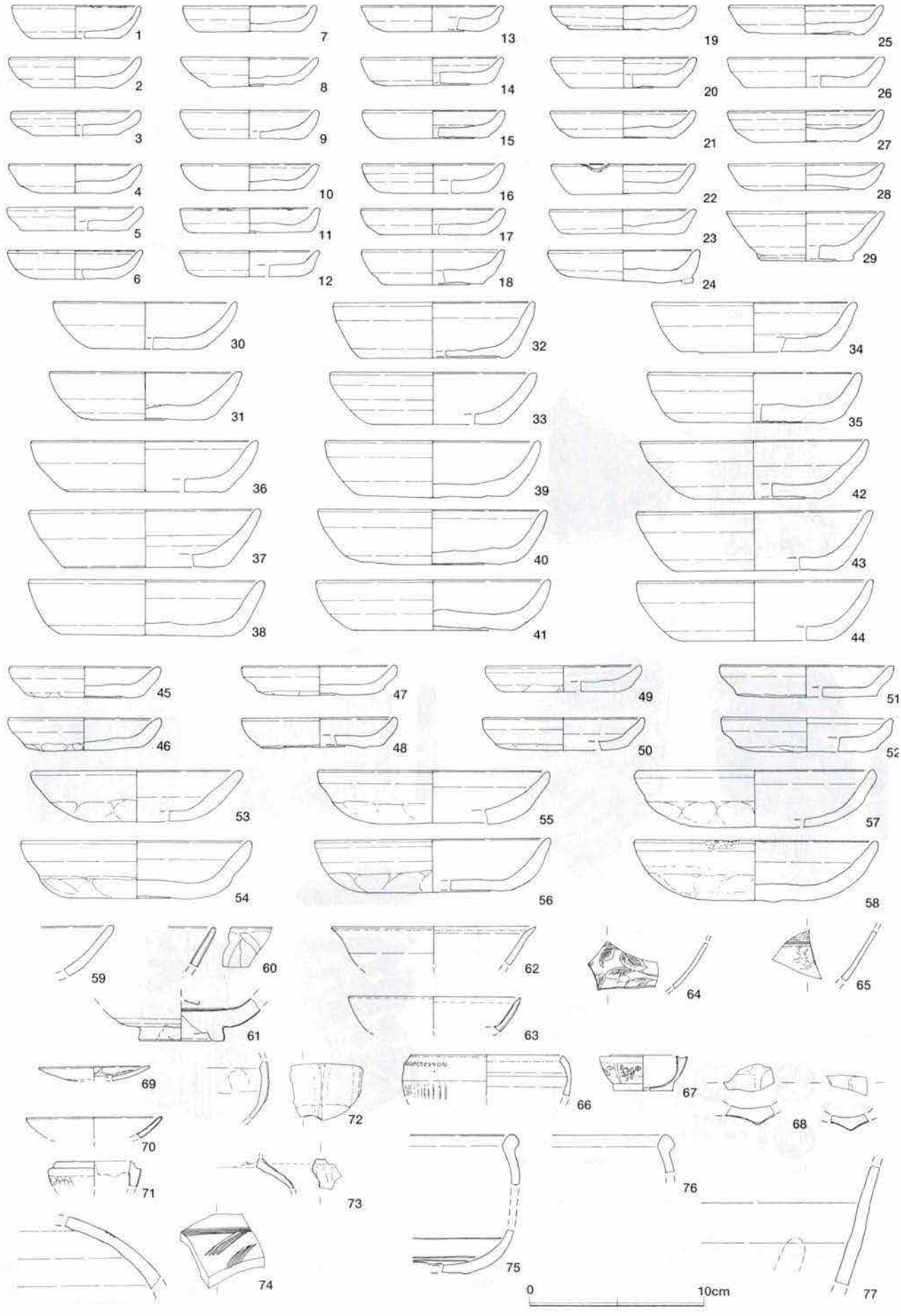


図33　第1面下～第2面出土遺物（1）

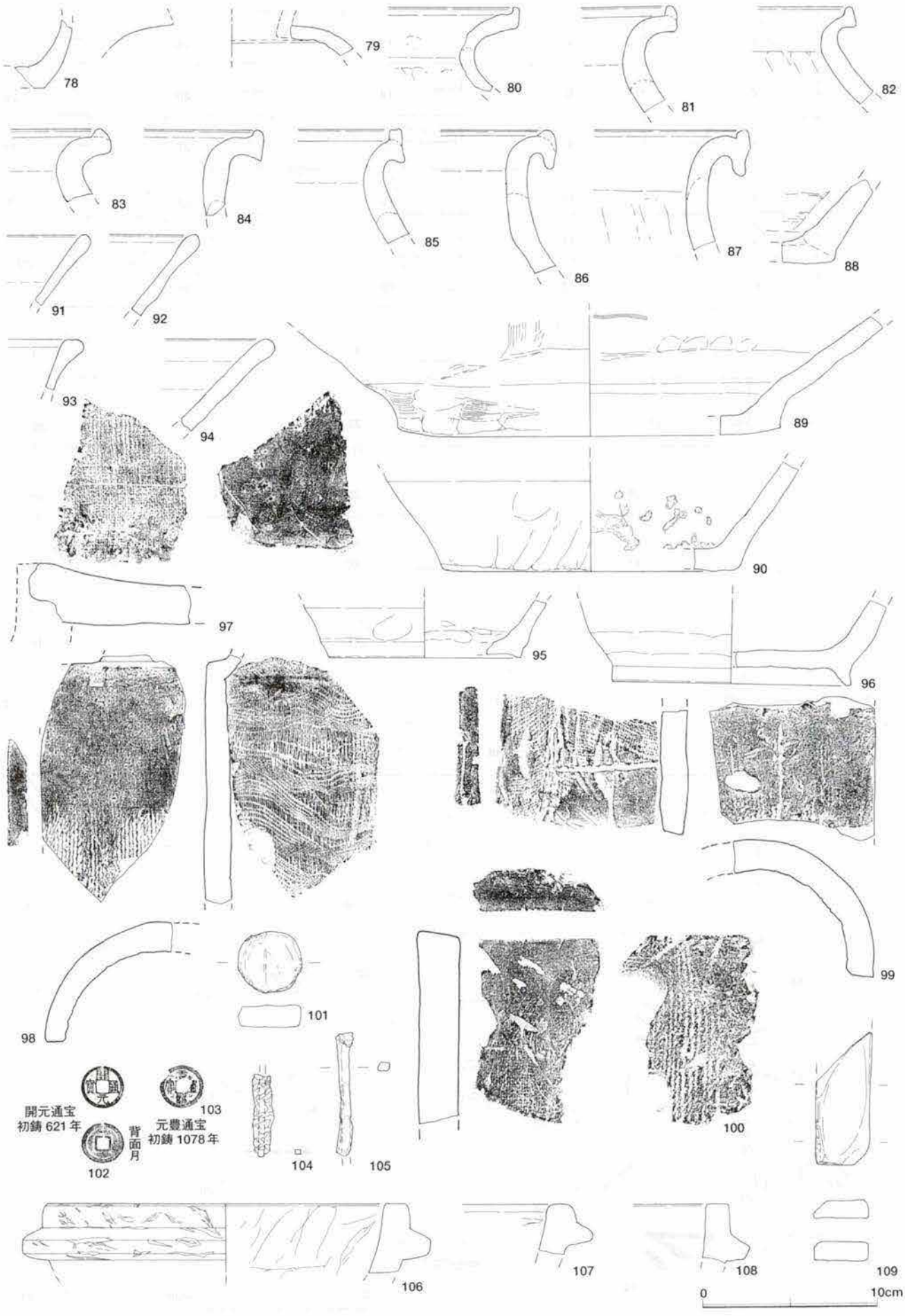


図34　第1面下～第2面出土遺物（2）

べて底径が小さいもので上記の資料とは異なる特徴を有する。1・6・11は口縁部に煤が付着した燈明皿、22は口縁端の一部を意識的にU字型削り加工したものである。

30～35が口径10.4～11.9cm、底径6.5～8.8cm、器高2.7～3.2cmで口径が12cm以下の中皿に近いものである。大皿の法量は、36・39が口径12.8・12.6cm、底径9.0・8.4cm、器高2.9・3.3cmを計り、口径13cm以下のものである。これに対して、口径13cmを超えるものが37・38・40～44で、口径13.0～13.4cm、底径8.8～10.0cm、器高2.7～3.5cmの法量を示している。

手捏ね成形かわらけは、45～52の小皿が口径8.5～9.8cm、器高1.4～1.9cmであり、53～58の大皿が口径12.0～13.8cm、器高2.9～3.5cmの法量を示している。51は内外面に煤が付着した燈明皿であり、58の内面にも煤の付着がみられ.口縁一部を弱く打ち欠いたものである。59は白かわらけ片である。

図33－60～77に舶載陶磁器類である。60・61は龍泉窯系青磁の蓮弁文・劃花文腕である。62～68は白磁類であり、62～63が口兀碗・皿、64・65が内面に雷文と牡丹唐草文らしき印花文を型押した碗・皿、66が短頸の小壷で外面に連珠文と細弁の蓮華文を型押し、口縁部が口兀部に露胎となる。67が合子身で外側面に草花文を型押、68が袋物で胴部が多角形をなす花生のようなものか。69～74は青白磁類である。69・70が内型作りの高台付小皿と思われる。74が合子身で外側面に型押した細弁の蓮華文を配配する。72・73は景徳鎮窯系の型作り水注・小壷、71が梅瓶の肩部片で外面に櫛描文と思わしきものを刻む、75・76が泉州窯系の緑釉盤、77が褐釉壷の胴部片である。

図34－78～96は国産陶器類である。78・79は瀬戸窯の製品であり、78が卸皿で内底に櫛描きの卸目を施す。79が外面に灰緑色の灰釉をかけた瓶子肩部片である。80～96は常滑窯製品である。80～90が甕の口縁・底部片、91～96が捏鉢Ⅰ類の口縁～底部片である。

図34－97～100は瓦類である。97が瓦当部の剥離した宇瓦（軒平瓦）、98・99が男瓦（丸瓦）で凸面縄目叩きを施す、100が女瓦で凸面縄目叩きを施しており、以上の資料ば永福寺創建期（Ⅰ期）瓦に相当する一群である。101は円盤でかわらけ底部片を円形に擦り加工したものである。102・103は銅銭の「開元通宝」（唐　初鋳621年）と「元豊通宝」（北宋　初鋳1076年）、104・105が鉄釘の破片である。106～108が滑石製品の鍋、109が砥石である。

3. 第3面の遺構・遺物

第3面は中世基盤層にあたる暗茶褐色粘質土を生活面としているが、調査区東側域では中世地山面上に貝粒混じりの黄白色砂層の拡がりが認められた。調査はまずこの砂層面を掘り込んで検出された遺構の写真撮影と平面図作成を実施した後、この砂層を除去して中世地山上の遺構検出を行なった。従って、図34に示した第3面全測図は両方の検出遺構を合成したものである。この面で検出した遺構には、土壙13基、溝1条、柱穴（ピット）150口などが確認された。

出土遺物には、多量のかわらけに伴って舶載陶磁器、常滑・渥美窯製品、瓦器、瓦類、金属製品、石製品、漆・木製品などがみられた。

a. 土壙（図35～37、図版7・8・20）

土壙1：調査区北西隅付近に位置しており、柱穴5口より壊されている。平面形状は円形を呈するものと思われ、規模は径80cm、深さ43cmを測る。掘り方底面には大小かわらけ4点が重なった状態で出土し

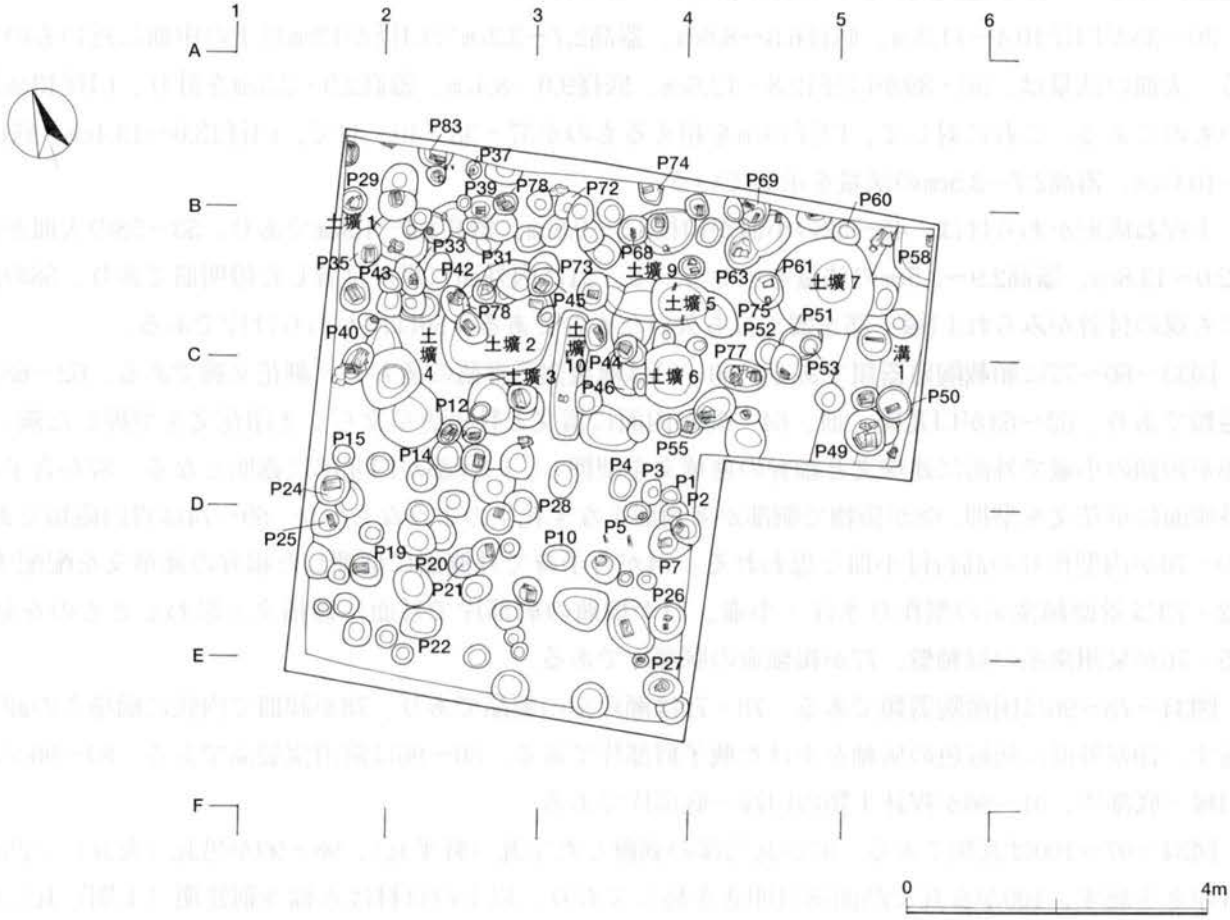


図35　第3面全測図

た。覆土は上層に5㎝程の土丹粒・かわらけ小片を多めに含んだ暗茶褐色粘質土があり、その下に藁状繊維を含んだ明茶褐色の有機物腐植土が認められた。出土遺物の図37－1～4のかわらけは手捏ね成形の大小皿、3は口縁外面に煤が付着した燈明皿である。

土壙2：調査区北西域に位置しており、ピット8口と新旧関係にある。(図35の左上)。平面形状は不整円形を呈し、規模は東西軸150㎝、南北軸145㎝、深さは28㎝を測る。掘り方は断面が逆台形状を呈しており、覆土は4層からなり上層（1・2層）が土丹粒やかわらけ小片を多く含んだ暗褐色弱粘質土、通層(3層）が明茶褐色の有機物腐植土、下層が締まりのある茶褐色粘質土である。出土遺物は5・6がロクロ成形のかわらけ大小皿、7・8が常滑捏鉢Ⅰ類の口縁・底部片である。

土壙3：調査区中央寄り、土壙2南隣に位置している。平面形状は楕円形を呈しており、規模は南北軸82㎝、東西軸63㎝、深さ33㎝である。覆土は上層が土丹粒の多い締まりのある茶褐色粘質土、下層が明茶褐色の有機物腐植土である。出土遺物は9・10がロクロ・手捏ね成形のかわらけ小皿である。

土壙5：調査区中寄りに位置しており、土壙9を壊して掘られている。平面形状は楕円形を呈し、東西軸72㎝、南北時期62㎝、深さは35㎝である。南北両端の底面中央に幅3㎝で底面からの高さ27㎝の角杭が打ち込まれていた。覆土は3層からなり上層が土丹粒・かわらけ小片を多く含むやや締まりのある暗褐色弱粘質土、中層が締まりのない暗褐色弱粘質土、その下が底面まで藁状の繊維を多く含まれた有機物腐植土である。出土遺物は11が手捏ね成形のかわらけ小皿、12が常滑窯である。

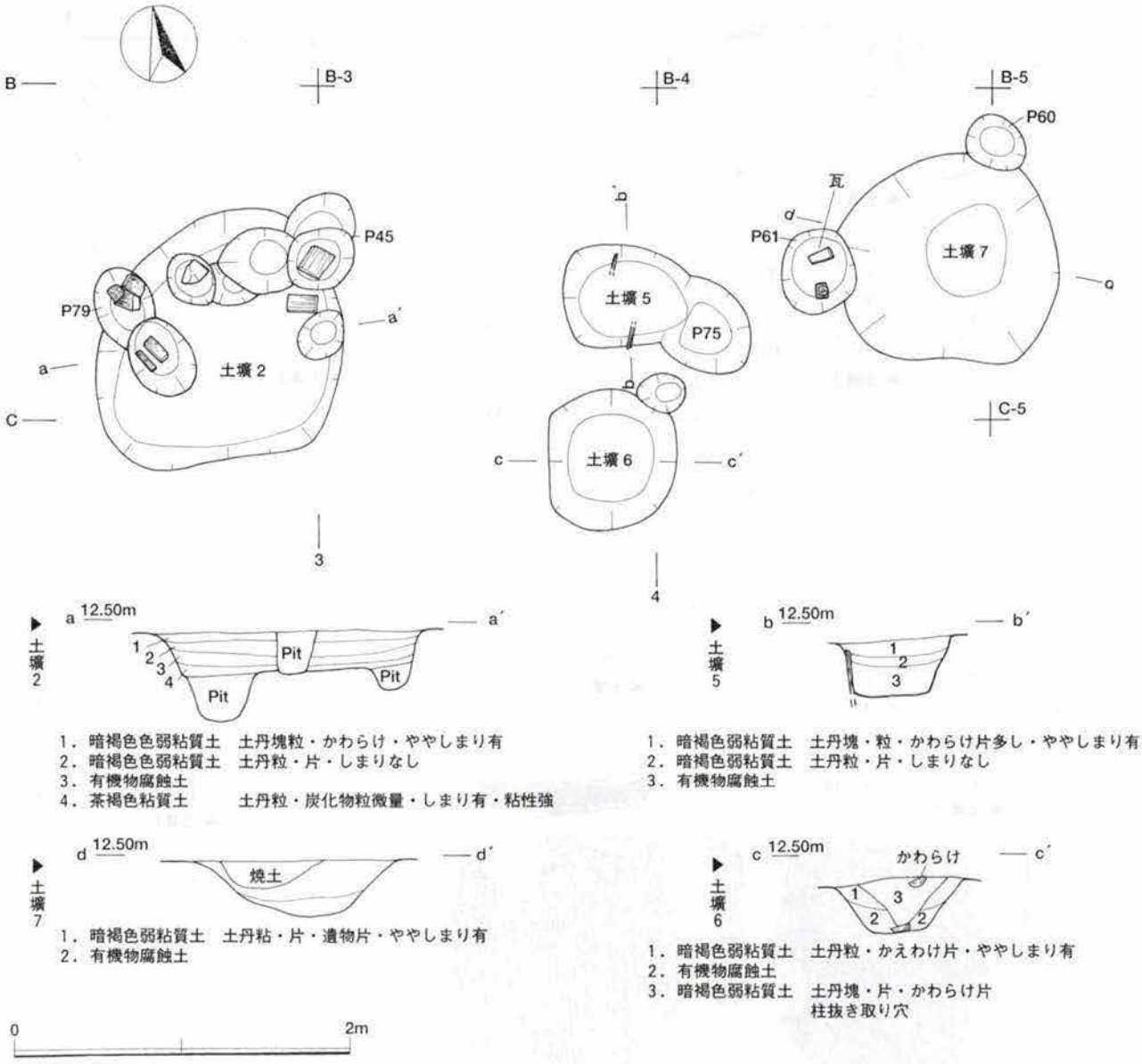


図36　土壙2・5～7

土壙6：土壙5の南隣に位置する。平面形状は隅丸長方形を呈し、規模は東西軸75㎝、南北軸87㎝、深さ33㎝を測る。掘り方は断面が擂鉢状を呈しており、覆土は上層が炭化物・土丹粒を多く含むやや締まりのある茶褐色粘質土、下層が明茶褐色の有機物腐植土である。中央に柱穴の柱抜き取り痕を思わす茶褐色土が認められた。出土遺物は13・14がロクロ成形のかわらけ大皿である。

土壙7：土壙5・6の東側に近接した位置である。P60・61と新旧関係にあり、両遺構より古いものである。平面形状は不整円形を呈し、規模は東西軸136㎝、南北軸122㎝、深さ33㎝を測り、底面径の小さな掘り方を有している。覆土は上層に焼土ブロック層を含んだ暗褐色弱粘質土、下層は有機物腐植土である。出土遺物は15・16手捏ね成形のかわらけ小皿・大皿である。

土壙9：土壙5西側に位置している。土壙5とピットに壊され確認された規模は東西軸58㎝、南北軸60㎝以上、深さ25㎝と浅い掘方で断面が皿状を呈する。覆土は土丹粒・炭化物が多く締まりのない暗褐色弱粘質土である。出土遺物は17の凸面縄目叩きの女瓦（永福寺創建期瓦）だけである。

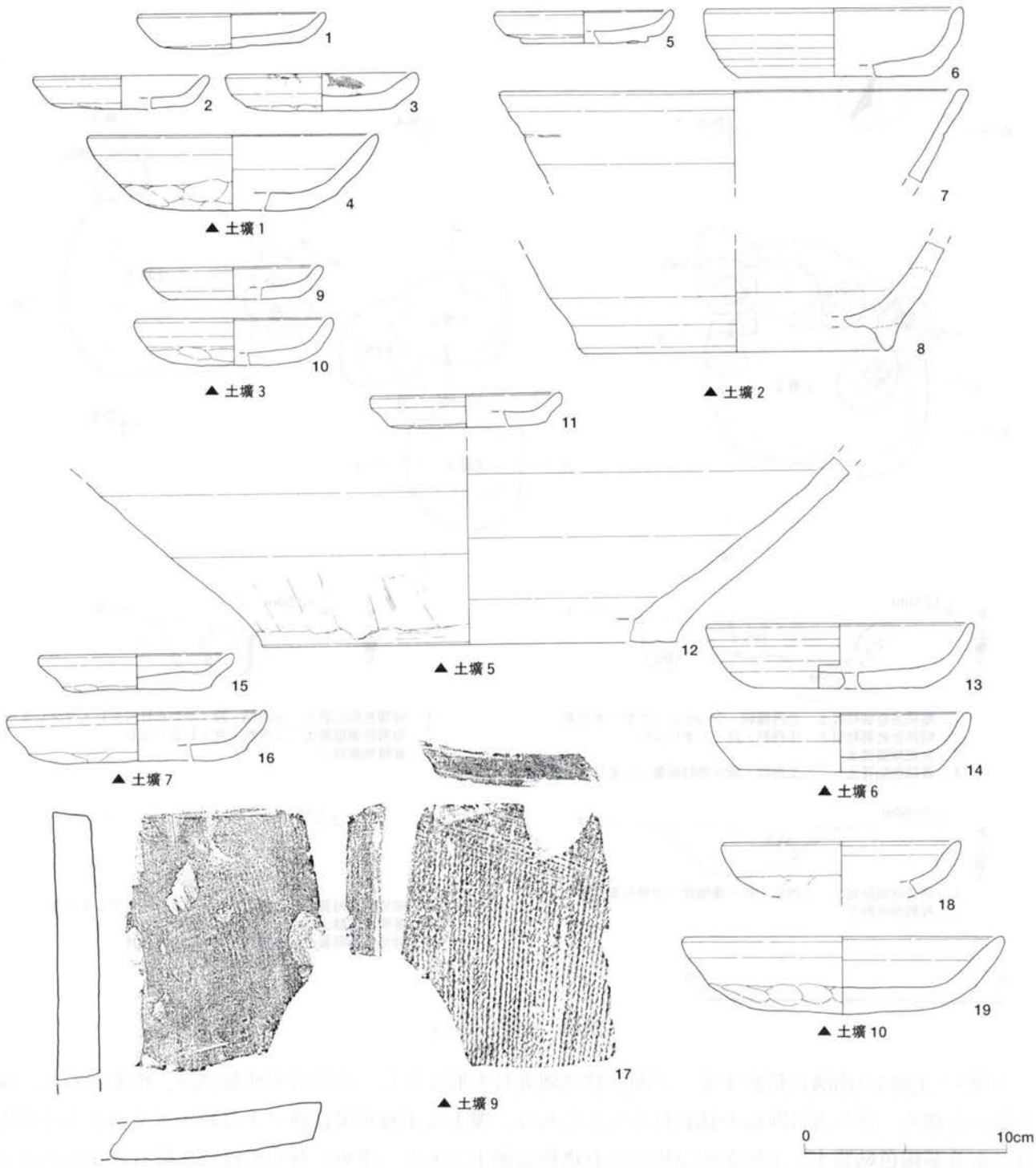


図37　第3面土壙出土遺物

土壙10：調査区中央北寄り、土壙2南隣のに位置している。平面形状は溝状を呈した長方形、規模は南北長173㎝、幅43㎝、深さが20㎝と浅い掘り方である。覆土は土丹粒・かわらけ小片を多く含む締まりない暗褐色粘質土である。出土遺物は18・19の手捏ね成形のかわらけ大小皿である。

b.溝1（図35・38・39、図版7）

溝1は調査区北東隅に位置したところで、南北方向に走る溝と思われる落ち込みを検出したが主体は調査区外の南・北・東側に拡がっており、全容不明である。確認された規模は長さが366㎝以上、上幅

が126㎝以上、下幅が45㎝を測り、掘り方は調査区南壁の堆積土層に認められるように断面が「V字形」に近い様相を示し、薬研堀形の溝と思われる。溝底の海抜標高は11.6m前後である。主軸方位はN－22°－Eを計る。覆土は7層からなり、1層が締まりのある茶褐色粘質土、2層も茶褐色粘質土で砂層ブロックを含む、3層が有機物腐植土ブロックを多く混入した暗茶褐色粘質土である。4層が少量の木片を含む茶褐色粘質土、5層が木片の多く混じる有機物腐植土、6層が茶褐色粘質土、7層が木の葉や小枝の堆積物が認められた締まりのある茶褐色粘質土で中世基盤層に近いものである。

出土遺物は、図39－1・2が同安窯系の櫛掻文皿・碗である。1は見込みに櫛掻施文、体部下位に強い稜をもち逆「く」字の器形を呈する。2は外面に櫛掻文、内面にへら描きの劃花文が僅かに認められる。3が東美濃系の山茶碗、4～6が木製品である。4は一木から長楕円形の台部と歯部を削り出した連歯式のもの、5が丸棒状、6がニヶ所に釘穴を有した板材で建築部材であろうか。

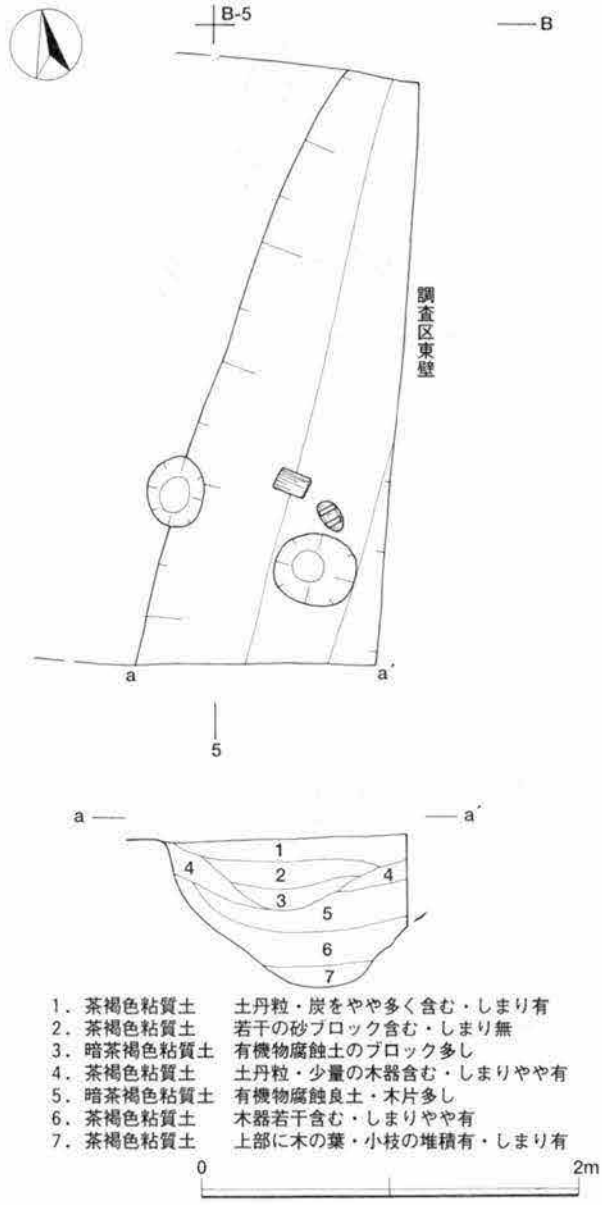


図38　溝1

c. 柱穴（図35－40～43、図版9・20）

この面で検出した柱穴（ピット）は掘立柱建物を構成するような配置は認められなかった。各掘り方は平面形状が円形または楕円形を呈する。規模は径20～60㎝、確認面からの深さ20～50㎝である。柱穴の底面には、1～4枚の礎板を有する例が60口近く認められ。礎板と伊豆石片や土丹塊を併用した例（P12・27・29・49・77など）、偏平な土丹塊を置いたた例もあり、それぞれ柱を受けるために据えられていた。またP12・43・49・63の底面に瓦片が認められたが同じく柱受けとして使われた可能性が考えられる。以下に、柱穴出土の遺物について簡単に触れる（図39～42に掲載した柱穴出土の遺物は以下に図を省略して図番号と遺物番号のみを記載、例えば：図39－1＝39－1と表現する）。

各柱穴の出土遺物は、P1：40－1・2がロクロ成形のかわらけ小皿、3が手捏ね成形のかわらけ小皿、4が木製品箱物の側板と考えられる。両端を交互にL字に「相欠き継ぎ」加工しもので中央と両端近くに木釘穴がみられた。また木釘穴は下面（蓋物なら上面か）の中央と両側にみられ、中央穴には木釘が残存しており、底板を留めたとものと思われる。P2：5が漆器皿である。黒漆地で内面に双葉葵を朱漆で手描きしている。P4：6が常滑窯甕の口縁部、P5：7が南部系山茶碗、P7：8が手捏ね成形のかわらけ小皿である。P10：9・10が木製品の皿と箸、P12：11・12が永福寺創建期瓦と同じ瓦類、P14：13が手捏ね成形のかわらけ大皿、P15：14が常滑窯の捏鉢Ⅰ類、P19：15が木製品の皿である。P20：16がロクロ成形のかわらけ小皿、P21：17・18が用途不明の木製品、P22・24・25：19・21・22が

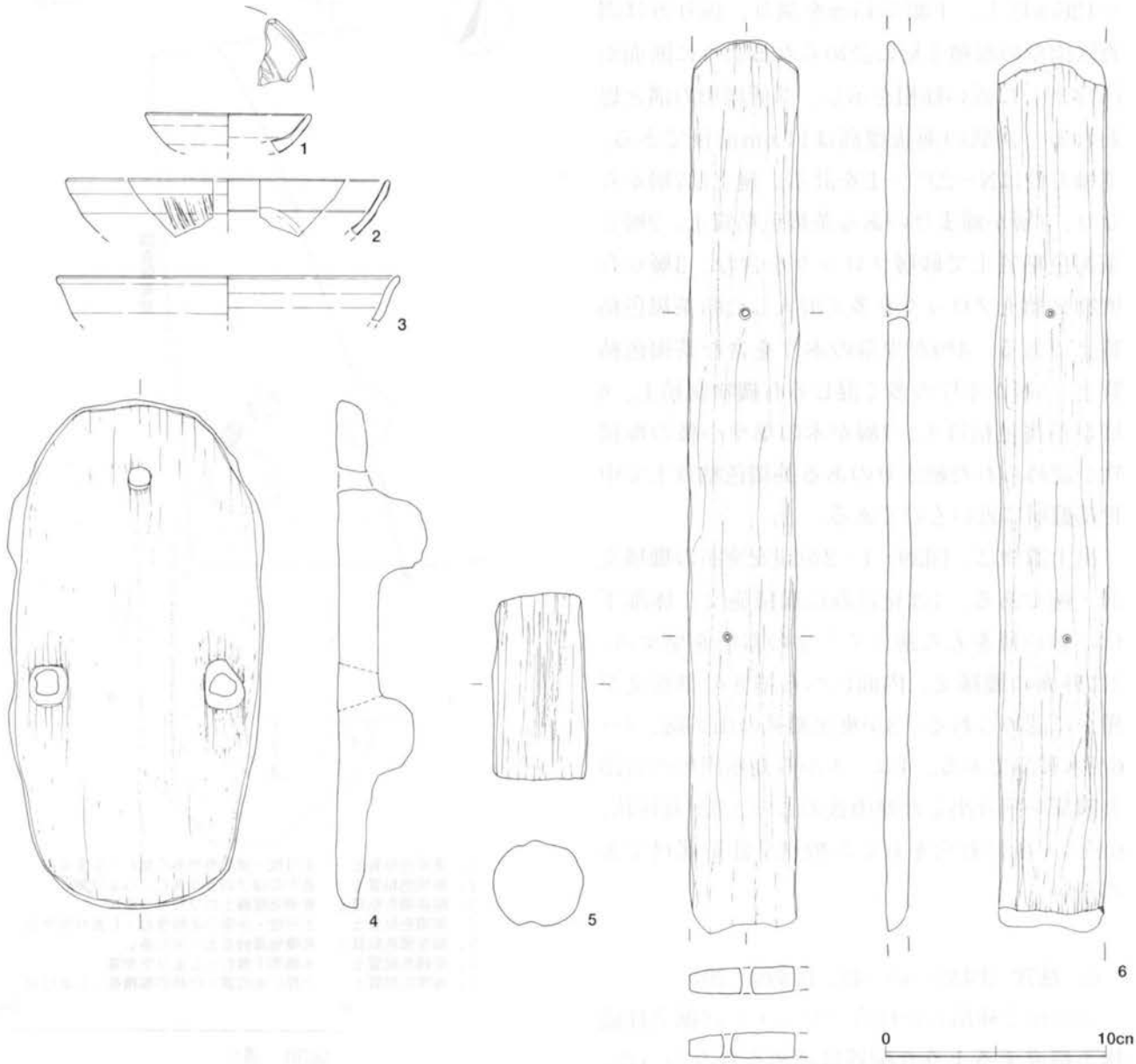


図39　第3面溝1出土遺物

ロクロ成形のかわらけ大小皿と20の手捏ね成形のかわらけ小皿、P26：23が木製品の箸である。

P28：41－1が凸面縄目叩きの男瓦、P33・35・37・39：2～4が手捏ね成形のかわらけ大皿、5がロクロ成形のかわらけ小皿、6が木製品でヘラ状のものである。P40～44：7が手捏ね成形のかわらけ、8・10・11がロクロ成形のかわらけ小皿と9・12・13が常滑窯の捏鉢Ⅰ類と甕口縁部片であり、14が銅銭の「元祐通宝」（北宋　初鋳1086年）である。P45：15・16が木製品の折敷片とヘラ状のもの。P46：17が青白磁小皿の口縁部片P49：18の男瓦と19・20の女瓦は凸面縄目叩きの永福寺創建期瓦と同じものである。

P50・51：1・2が手捏ね成形のかわらけ小皿、3・5・6がロクロ成形のかわらけ小皿、4が常滑窯壷底部片、P52・53・55：7・11の女瓦と10の男瓦は凸面縄目叩きの永福寺創建期瓦と同類、8・9が手捏ね成形のかわらけ小皿、P58・61～63：12・13が木製品で13は箸、12は幅の狭い板状の片側面を連続して「U字」形に抉り加工したもので硯箱又は筆箱の間仕切りのようなものか、14・15が手捏ね成形のかわらけ大皿、16・17が常滑窯の捏鉢Ⅰ類と甕口縁小片、18・19が永福寺創建期瓦と同じもの、P66・68・69：1が北部系山茶碗、2・3が女瓦で前者は凸面格子目叩きで永福寺Ⅱ期瓦、（埼玉水殿瓦窯・女瓦C類）

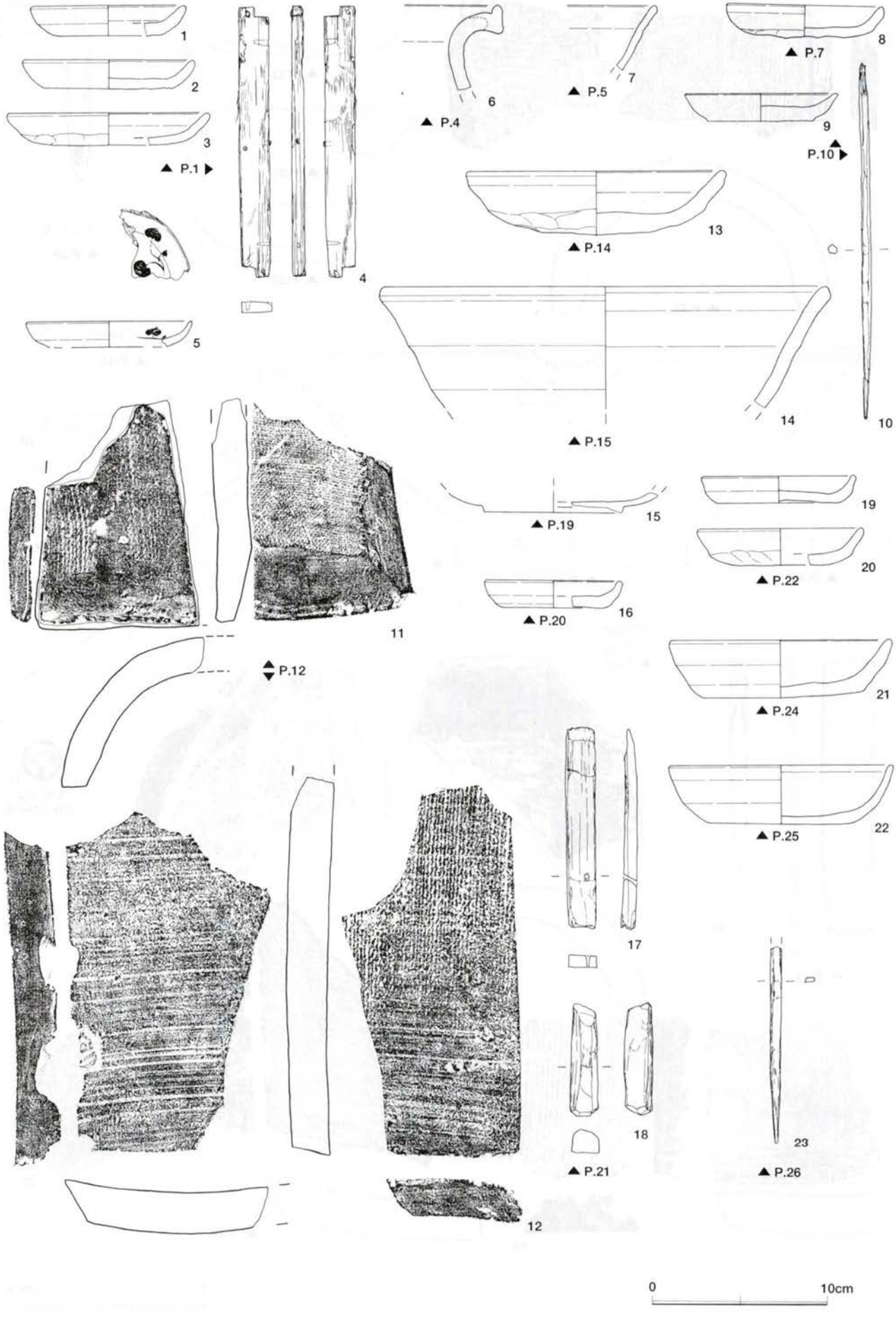


図40　第3面柱穴出土遺物（1）

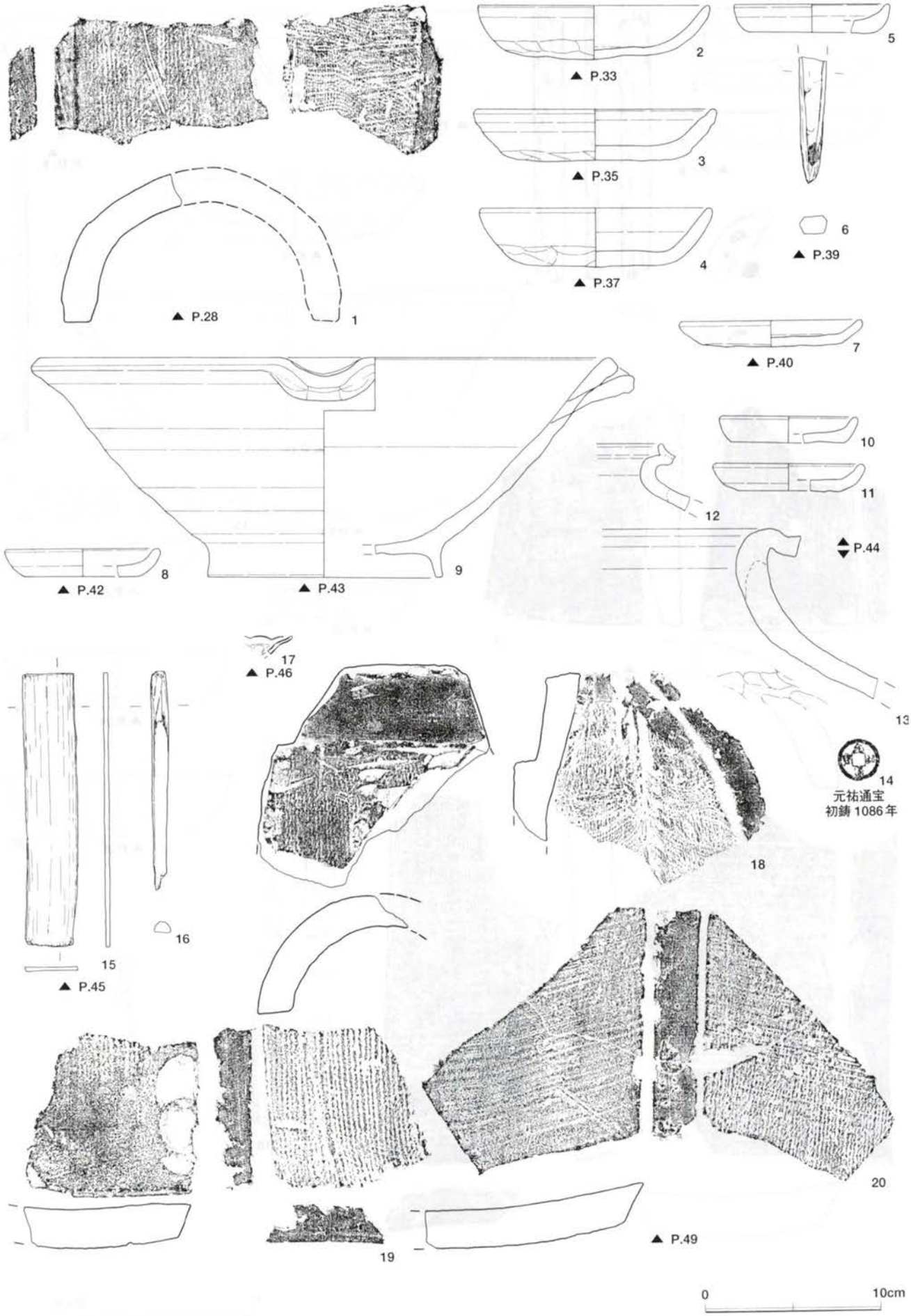


図41　第3面柱穴出土遺物（2）

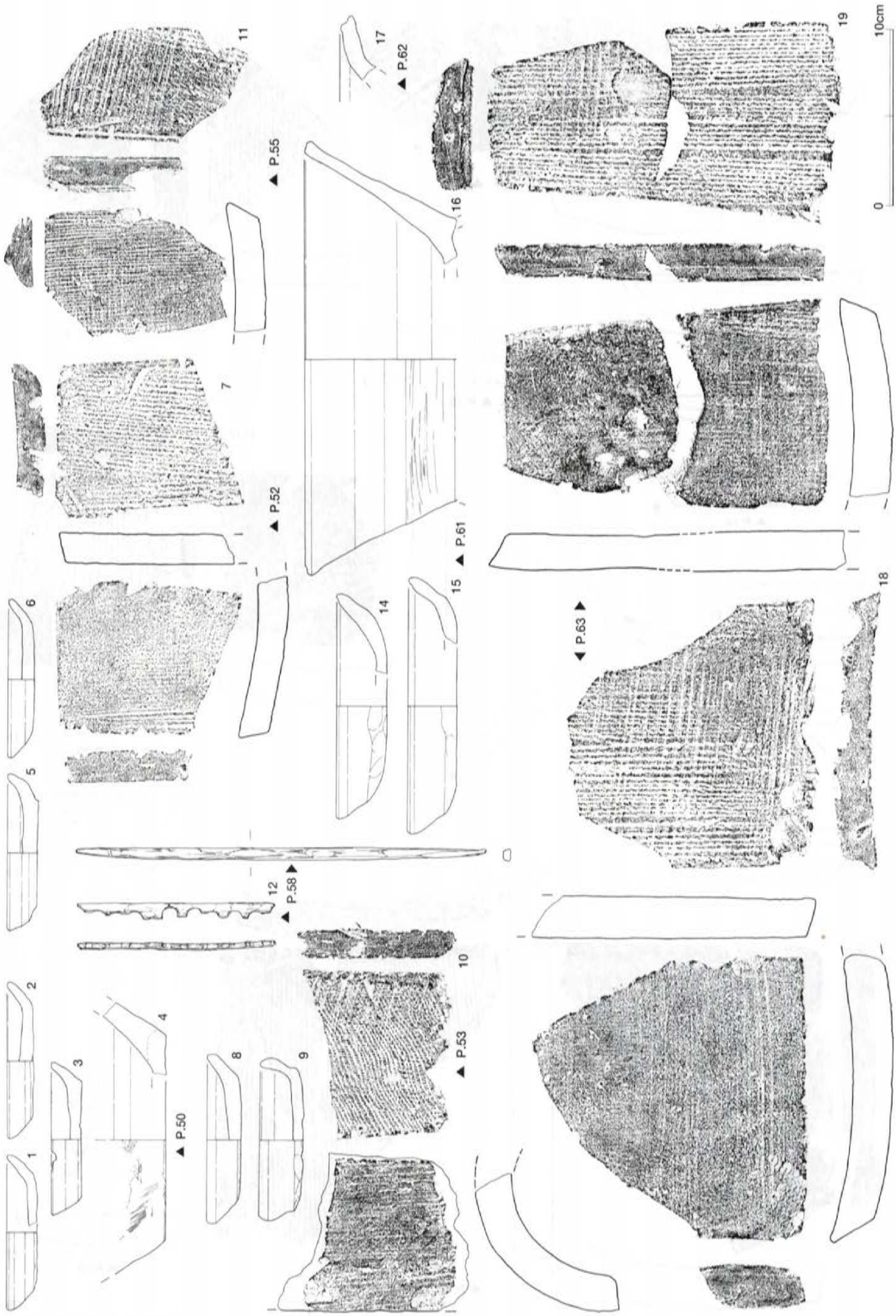


図42　第3面柱穴出土遺物（3）

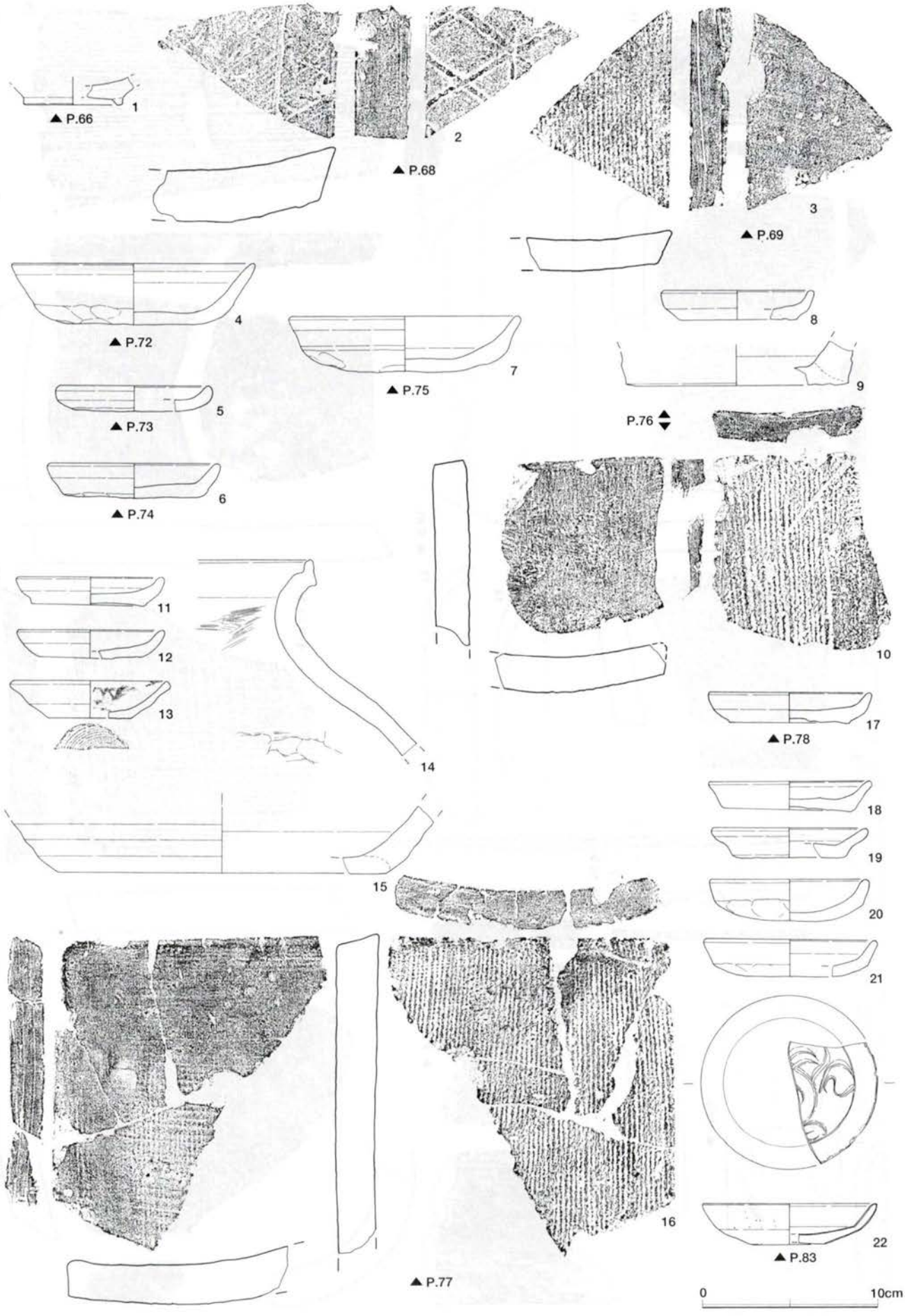


図43　第3面柱穴出土遺物（4）

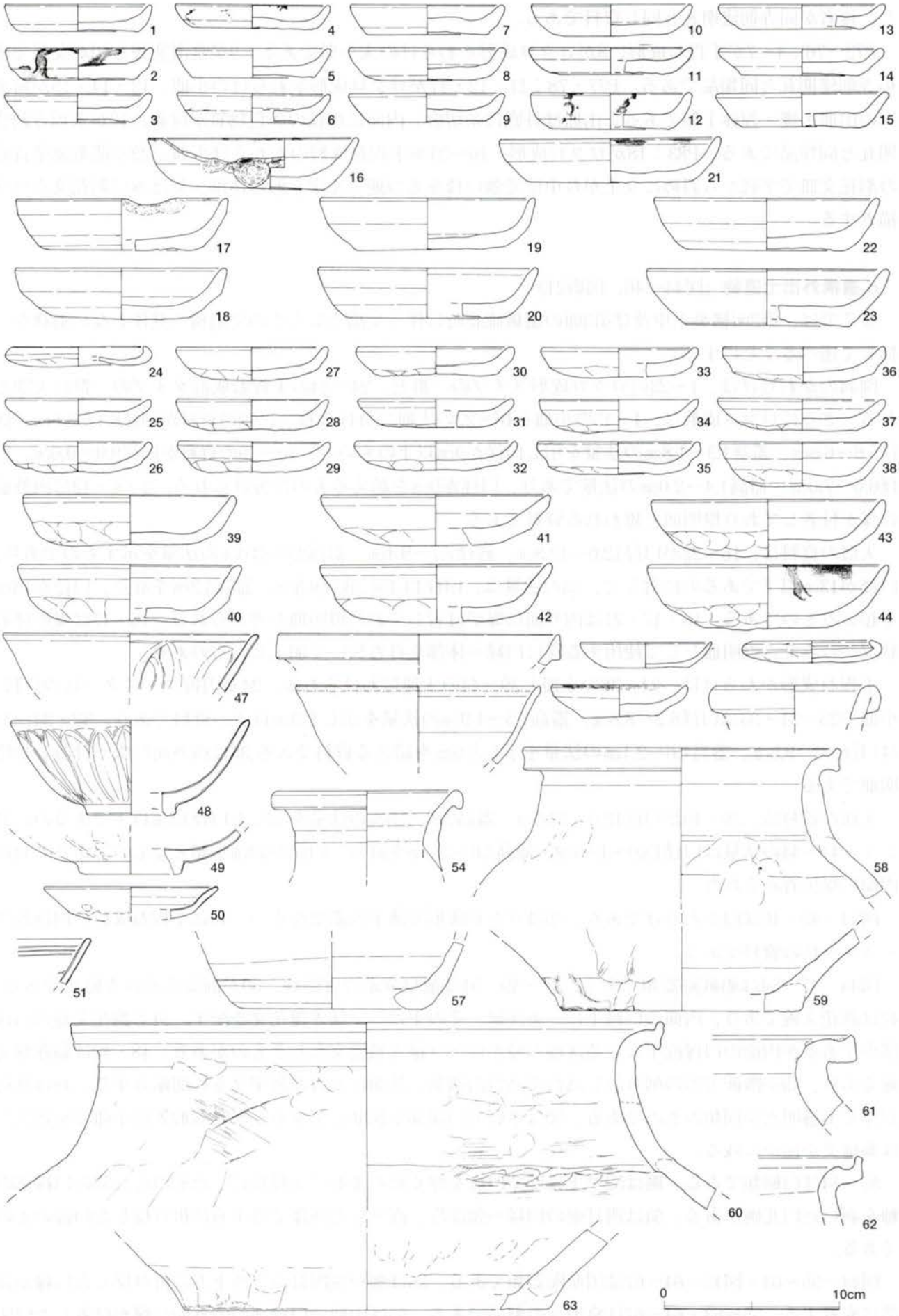


図44　第2面下～第3面出土遺物（1）

と、後者が同寺創建期瓦と同じ資料である。

P72～76：4～7が手捏ね成形、8がロクロ成形かわらけの大小皿である。9が常滑窯甕と10が女瓦で永福寺創建期瓦と同類品である。P77・78：11・12・17がロクロ成形かわらけの小皿、13・14・15が常滑窯の山皿・甕・捏鉢Ⅰ類である。山皿は外底に糸切痕、内面に煤様の黒色物質が付着、16が永福寺創建期瓦と同類品である。P83：18がロクロ成形・19～21が手捏ね成形のかわらけ小皿、22が罷業窯系青磁の劃花文皿で平底から斜めに立上がり中位で強い稜をもつ逆「く字」形の体部、見込みに劃花文をヘラ描きする。

d.遺構外出土遺物（図44～46、図版21）

ここでは、第2面構築土中及び第3面の遺構確認時に伴って出土したもので遺構に共伴しない遺物を一括して述べることにする。

図44のかわらけは、1～23のロクロ成形タイプの一群と、24～44の手捏ね成形タイプの一群に大別される。さらにロクロ成形は、1～15の小皿と16～23の大皿に分けられ、1～9の資料が口径8.1～8.8㎝、底径5.6～6.8㎝、器謡1.3～1.8㎝の法量を示し口径が9㎝以下のものと、10～15の資料が口径9.0～9.6㎝、底径6.0～7.0㎝、器高1.4～2.0㎝の法量であり、口径が9㎝を超えるものに分けられる。2・4・12は内外面に煤が付着しており燈明皿と思われる資料である。

大皿の資料は、16～22が口径12.0～12.8㎝、底径7.7～9.4㎝、器高2.6～3.0㎝の法量を示すものであり、口径が13㎝以下であるのに対して、23の法量は、口径13.4㎝、底径9.5㎝、器高3.2㎝を計り、口径が13㎝を超えるものである。16・17・21は内外面に煤が付着しており燈明皿と考えられる。16・17は煤の付着状況からみて、燈明皿として使用する際に口縁～体部を打ち欠いて加工したものある。

手捏ね成形かわらけは、24～38の小皿と39～44の大皿にわけられる。24が内折コースター状の資料、小皿の25～31・33は口径8.2～8.8㎝、器高1.5～1.9㎝の法量を示した9㎝以下の資料であり、32・34～38は口径9.0～9.5㎝、器高1.6～2.1㎝の法量を示した9㎝を超える資料である,35は内外面に煤が付着した燈明皿である。

大皿の資料は、39・40が口径12.0・12.5㎝、器高2.8・2.5㎝の法量を示した口径13㎝以下であるのに対して、41～44の法量は口径13.0～13.6㎝、器高3.0～3.7㎝を計り、口径が13㎝を超えるものである。44の内面に煤付着みられた。

図44－45・46は白かわらけである。45はロクロ成形で薄手の器壁をもつ、46は手捏ね成形の内折れコースター状の資料である。

図44－47～54は舶載磁器類である。47～49・51は龍泉窯系の青磁碗、50が同安窯系の青磁皿である。47は劃花文碗であり、内面の口縁下に一条沈線、その下にヘラ掻き蓮花文を配す。51も劃花文範の口縁部小片あるが内面の口縁直下に三条沈線と僅かにヘラ掻き飛雲文らしきものがある。48・49は鎬蓮弁文碗であり、49が断面方形の削り出し高台で高台内露胎、外面に太目の蓮華文を片切彫りする。49は釉層が厚く不透明だが同類のものである。50は平底で口縁部が屈曲して立ち上がりる形式の小皿で見込みには櫛掻文が僅かに残る。

52～54は白磁類である。碗は52が玉縁碗で口縁を厚く膨らませて玉縁状にしたものと、53の口縁部の釉を剥いだ口兀碗がある。54は四耳壷の口縁～頸部片、直立した頸部で外下方に折り反した口縁のものである。

図44－55～63・図45－64～67は国産陶器類である。56は瀬戸窯四耳壷で外下方に折り反した口縁が頸部に密着する。55～63・64～67は常滑窯の製品である。55は山皿で口縁部の内外面に煤が付着した燈明

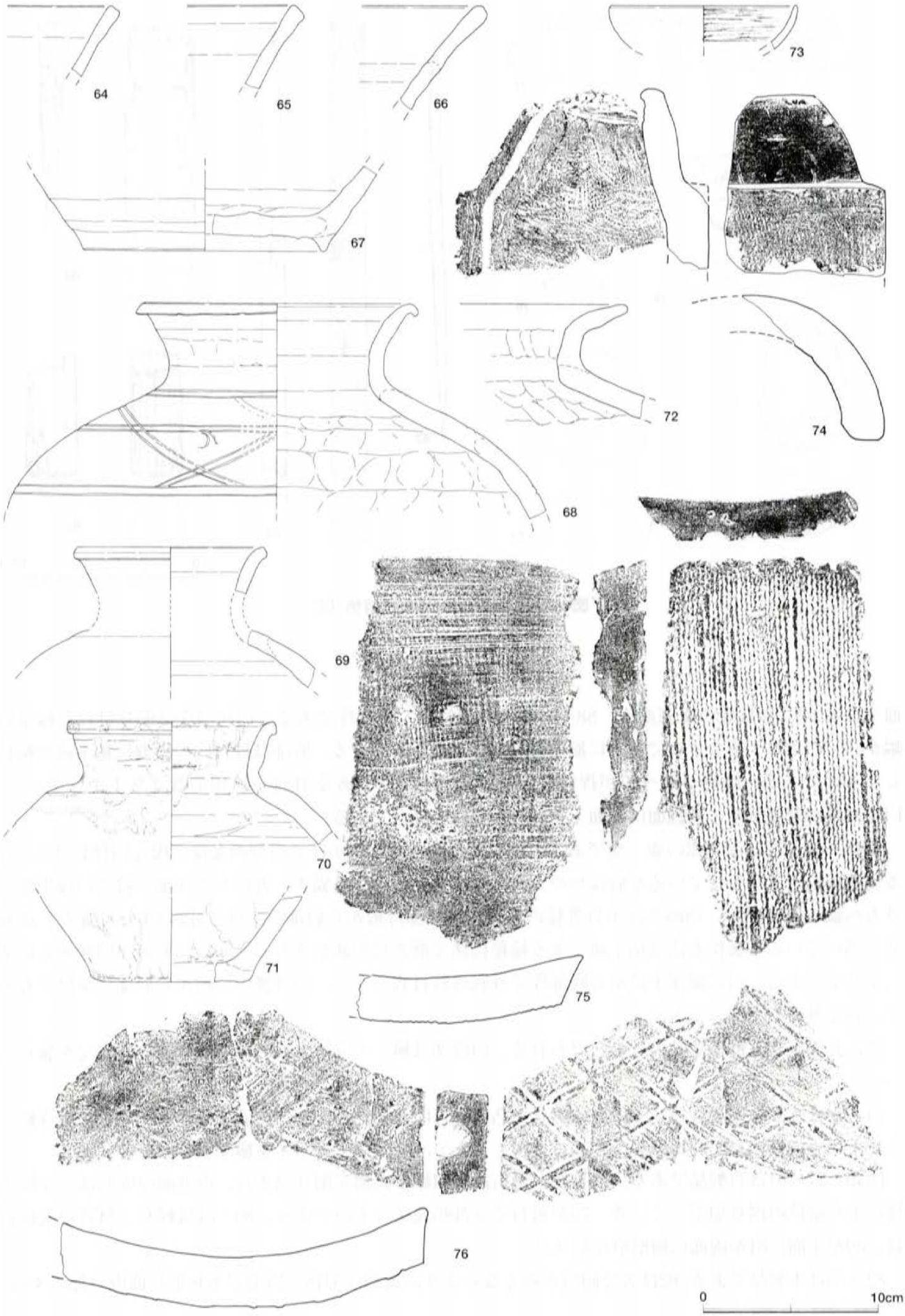


図45　第2面下～第3面出土遺物（2）

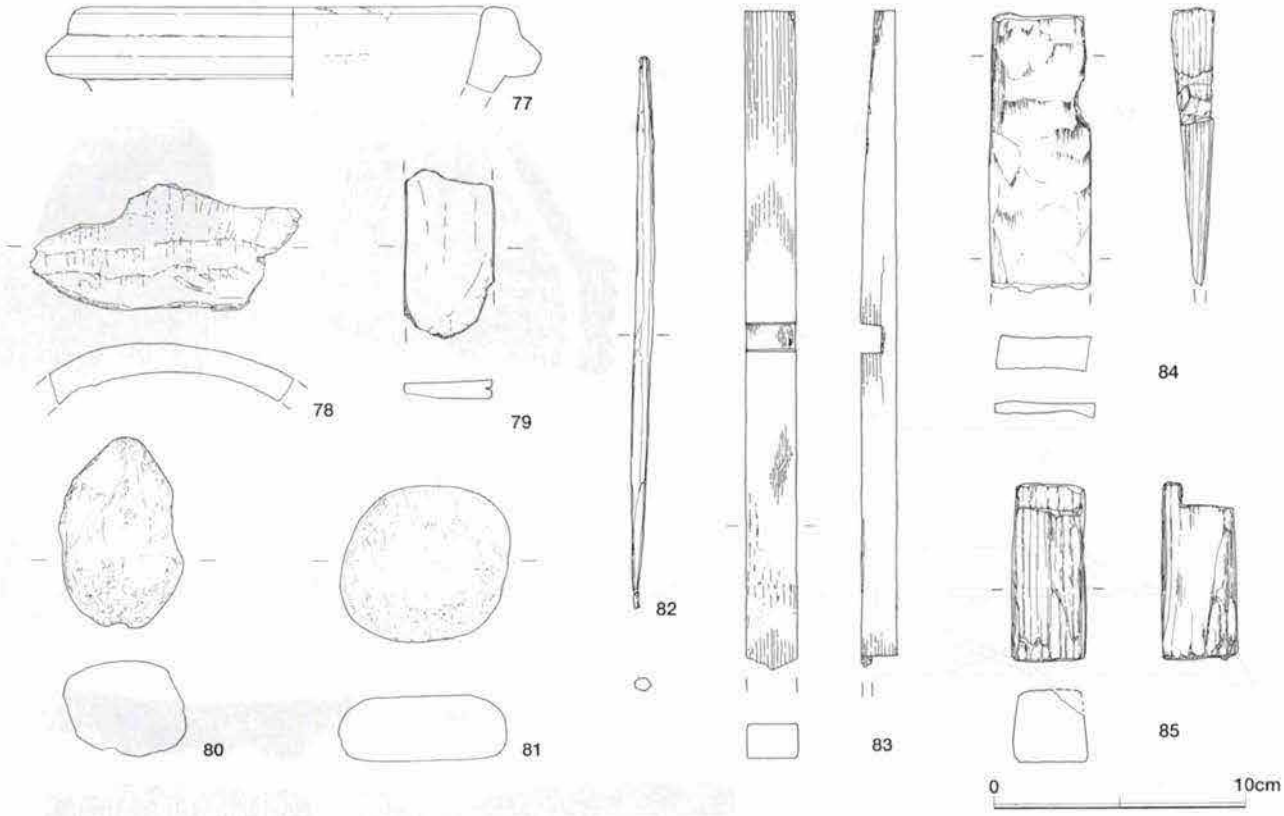


図46　第2面下～第3面出土遺物（3）

皿である.57は砂目底の壷底部片、58～63は甕の口縁部・底部片である。口縁部片は貼り付けた縁帯の幅が狭く口端を丁寧なナデで上方に摘み上げ拡張したものである。底部は砂目底の円盤に粘土紐で輪積したものである。図45－64～67が捏鉢Ⅰ類の口縁～底部片である.体部は直線的な立ち上がりを示し、口縁端部が肥厚気味、外底面は断面三角形の貼り付け高台である。

図45－68～72は渥美窯の壷・甕である。68は口縁から肩位にかけての刻画文壷で復元口径15.2㎝を計る。胴部以下は欠失しているが肩はやや丸味もつ緩やかな曲線を描き、外反した頸部に続き口縁端部が外方へ摘みだされる。刻画文は半竹管様の工具で、頸部付根から肩部にかけて3段の平行沈線と、蓮弁文を描いている。製作方法は粘土紐による輪積技法で継ぎ目が観察される。69・70も壷の口縁から肩部にかけてのもの、71は胴部下位から底部片で外底は砂目底になる。72は甕の口縁から肩部にかけてもので、強く外反した口縁である。

73は瓦器碗で京都楠葉系のものと思われる。口縁部は横ナデ成形され、内壁面に横位の暗文を施している。

74～76は瓦類である。74が玉縁付の男瓦で凸面縄目叩き、75が女瓦で凸面縄目叩きであり、両資料ともに永福寺創建期瓦と同類のものである。76も女瓦で凸面斜格子目叩きを施すものである。

図46－77～81は石製品である。77・78が滑石鍋で口縁下に鍔が削り出され、内外面の成形はノミ状工具により縦位の削り加工している。79が砥石で京都鳴滝産のものである。80・81は軽石で材質が流紋岩質、80が上面に81が両面に研磨痕が伺える。

82～85は木製品である。82は箸で両端が細くなるように鋭利な刃物で断面が多角形に面取り加工する。

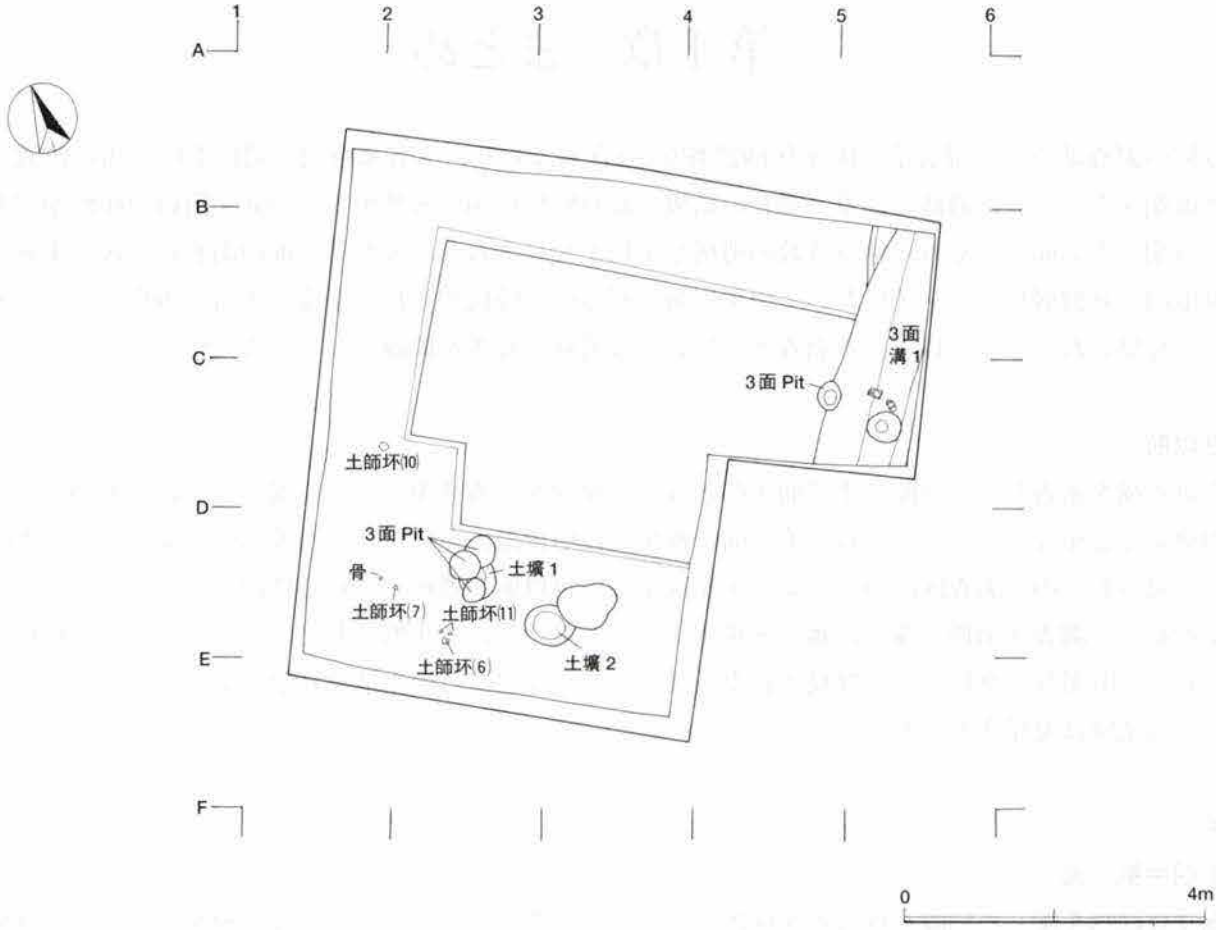


図47　中世地山トレンチ

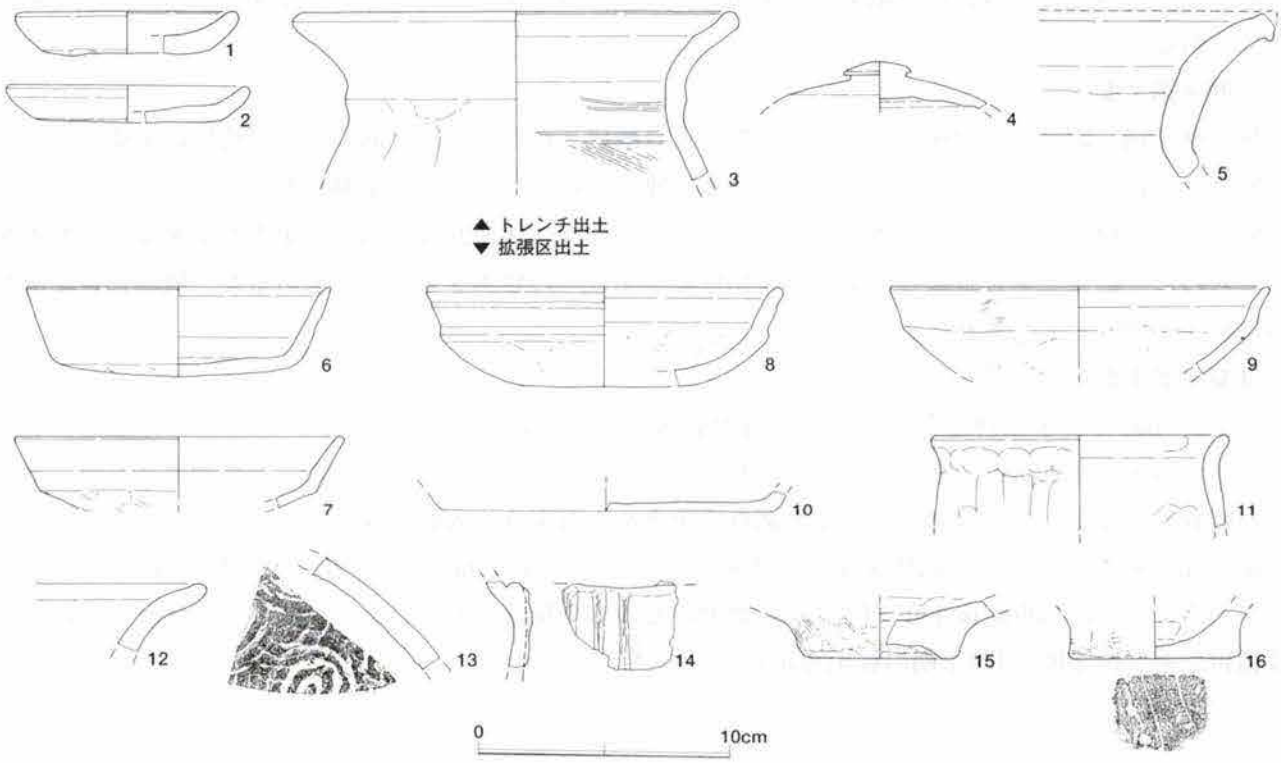


図48　中世地山トレンチ出土遺物

第4章　まとめ

今回の調査地点は、鎌倉市二階字荏柄27番3に所在しており、大倉幕府周辺遺跡群の一角に位置した中世前期を中心とした遺跡である。調査の結果、鎌倉時代初頭～後葉頃までの武士階級の屋敷地にあたる三時期の生活面と、それに伴う多数の遺構や遺物が発見された。また第3面の調査終了後に実施した中世地山（基盤層）トレンチにおいて中世以前に遡る弥生時代や奈良・平安の土器・須恵器などの遺物破片が発見されている。以下、本調査地点における遺構の変遷を概観してまとめに代えたい。

中世以前

中世遺構を調査していた際に生活面上の包含層や整地層、遺構覆土などに混じって古代遺物の土師器や須恵器など小片が出土し、さらに第3面で検出した中世地山を彫り込んだ遺構の壁面に焦土と土師器小片が見られたので調査区沿いにトレンチを設定し中世以前の遺構・遺物の確認を行った。

その結果、調査区南側で覆土に焦土と炭水化物を多量に含んだ土壙2基と、その周辺から8世紀代と想われる土師器坏・甕片などが発見されただけで、竪穴住居などの生活を物語るような具体的な性格を示す古代遺跡は発見されなかった。

中世

Ⅰ期＝第3面

堀立柱建物を配した明瞭な柱穴並を検出することはできなかったが、柱穴は礎板をもつものも含めて非常に数が多く頻繁に建替えを行っていたことが推測され、さらにゴミ穴の要素をもつ土壙（覆土が藻状の有機物腐蝕土のものは便所等の想定も可能か）や区画を示す薬研溝によって構成される中世基盤層上を主体に検出された遺構群である。

搬入品からみた年代は、12世紀第4四半期から営為がはじまり、13世紀1四半期を主体とした様相がみてとれる。

Ⅱ期＝第2面

堀立柱建物、礎板をもつ柱穴と多数の土壙により構成される。前代と同じように遺構の密集度が高く建物として抽出した柱穴以外にも蚊なりの頻度で建替えがあったことが推測される。

搬入品から見た年代は、常滑甕・同安窯系青磁・永福寺創建期瓦など13世紀第1四半期までの要素をもつものと、龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗など13世紀中葉以降の要素をもつものもあるが、概ね13世紀第2四半期を中心としていると捉えたい。

Ⅲ期＝第1面

第1a・b面は炭水化物層を挟んで比較的短期間に土丹版築の地業が施され、たくさんの土壙により構成される生活面である。土壙の土層断面からそれらが連続的に掘られていたことが観察された。またその配置をみると、やや規則性を欠くが調査区中央から西寄りに大形土壙群が多いようである。

搬入品からみた年代は、13世紀第2四半期にはじまり、第1a面上包含層に伴い明代銭「洪武通宝」やかわらけなどに14世紀後半まで降りうる要素のものも少量含まれていた。しかし、主体としての年代は13世紀第3四半期～4四半期の様相を示している。

表1　法量表（1）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
7−1	かわらけ	a:7.8cm　b:6.3cm　c:1.6cm	第1面　土壙1
7−2	かわらけ	a:8.6cm　b:7.3cm　c:1.6cm	〃　〃
7−3	かわらけ	a:11.5cm　b:7.9cm　c:2.6cm	〃　〃
7−4	かわらけ	a:12.1cm　b:8.6cm　c:3.2cm	〃　〃
7−5	青磁折縁皿	口縁部	〃　〃
7−6	青磁劃花文碗	口縁部片	〃　〃
7−7	常滑甕	口縁部片	〃　〃
7−8	常滑甕	a:46.0cm	〃　〃
7−9	鉄製品釘	残存長:6.9cm	〃　〃
7−10	かわらけ	a:7.8cm　b:6.1cm　c:1.6cm	第1面　土壙2
7−11	かわらけ	a:8.4cm　b:6.1cm　c:1.6cm	〃　〃
7−12	青白磁蓋	径:7.2cm	〃　〃
7−13	瀬戸四耳壺	頸部〜肩部	〃　〃
7−14	常滑I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
7−15	常滑甕	口縁部〜頸部片	〃　〃
7−16	かわらけ	a:6.7cm　b:6.0cm　c:1.5cm	第1面　土壙4
7−17	かわらけ	a:7.4cm　b:5.8cm　c:1.5cm	〃　〃
7−18	かわらけ	a:7.1cm　b:6.0cm　c:1.4cm	〃　〃
7−19	かわらけ	a:7.6cm　b:6.2cm　c:1.4cm	〃　〃
7−20	かわらけ	a:12.2cm　b:8.0cm　c:2.3cm	〃　〃
7−21	常滑I類捏鉢	底部片	〃　〃
7−22	かわらけ	a:7.5cm　b:5.8cm　c:1.5cm	第1面　土壙5
7−23	かわらけ	a:7.8cm　b:5.7cm　c:1.4cm	〃　〃
7−24	かわらけ	a:7.3cm　b:5.7cm　c:1.7cm	〃　〃
7−25	かわらけ	a:8.8cm　b:7.5cm　c:1.6cm	〃　〃
7−26	白かわらけ	a:12.0cm　b:10.7cm	〃　〃
7−27	青白磁梅瓶	胴部片	〃　〃
7−28	土器質火鉢	口縁部片	〃　〃
7−29	女瓦厚:3.1cm		〃　〃
8−1	常滑甕	口縁部片	第1面　土壙6
8−2	滑石製 温石	残存長:12.4cm	〃　〃
8−3	かわらけ	a:7.8cm　b:6.0cm　c:1.8cm	〃　〃
8−4	かわらけ	a:7.9cm　b:6.7cm　c:1.7cm	〃　〃
8−5	かわらけ	a:8.3cm　b:6.4cm　c:1.7cm	〃　〃
8−6	かわらけ	a:11.4cm　b:8.1cm　c:2.6cm	〃　〃
8−7	かわらけ	a:8.0cm　b:6.7cm　c:1.9cm	第1面　土壙7
8−8	かわらけ	a:9.0cm　b:7.7cm　c:1.9cm	〃　〃
8−9	青磁蓮弁文碗	口縁部片	〃　〃
8−10	白磁水注	b:9.0cm	〃　〃
8−11	常滑I類捏鉢	a:21.8cm	〃　〃
8−12	土器質 火鉢	口縁部片	〃　〃
8−13	かわらけ	a:6.8cm　b:4.6cm　c:1.7cm	第1面　土壙8

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
8−14	かわらけ	a:7.7cm　b:5.7cm　c:1.7cm	第1面　土壙8
8−15	かわらけ	a:8.1cm　b:5.8cm　c:1.7cm	〃　〃
8−16	かわらけ	a:8.3cm　b:6.3cm　c:1.8cm	〃　〃
8−17	かわらけ	a:12.3cm　b:9.5cm　c:3.0cm	〃　〃
8−18	かわらけ	a:12.7cm　b:9.5cm　c:3.8cm	〃　〃
8−19	かわらけ	a:13.0cm　b:8.4cm　c:3.5cm	〃　〃
8−20	青磁蓮弁文碗	口縁部片	〃　〃
8−21	白磁口兀皿	b:5.3cm	〃　〃
8−22	常滑壺	口縁部片	〃　〃
8−23	女瓦	厚:2.2cm	〃　〃
8−24	滑石製鍋	a:29.8cm	〃　〃
8−25	かわらけ	a:7.4cm　b:5.5cm　c:1.6cm	第1面　土壙10
8−26	かわらけ	a:7.6cm　b:4.8cm　c:1.5cm	〃　〃
8−27	かわらけ	a:12.4cm　b:7.1cm　c:3.3cm	〃　〃
8−28	石製品硯	残存長:9.8cm	第1面　土壙11
8−29	かわらけ	a:8.2cm　b:6.1cm　c:1.5cm	第1面　土壙12
8−30	かわらけ	a:11.8cm　b:7.7cm　c:3.0cm	〃　〃
8−31	青磁劃花文碗	口縁部片	〃　〃
8−32	常滑甕	口縁部片	〃　〃
8−33	常滑甕	口縁部〜頸部片	〃　〃
8−34	鉄製品　釘	残存長:6.7cm	〃　〃
8−35	かわらけ	a:7.0cm　b:5.6cm　c:1.4cm	第1面　土壙13
8−36	瀬戸折縁皿	a:14.4cm　b:10.6cm　c:3.3cm	〃　〃
9−1	かわらけ	a:12.4cm　b:7.0cm　c:3.4cm	第1面　土壙14
9−2	かわらけ	a:13.0cm　b:10.1cm　c:2.8cm	〃　〃
9−3	かわらけ	a:7.4cm　b:5.2cm　c:1.8cm	第1面　土壙15
9−4	かわらけ	a:7.4cm　b:6.5cm　c:1.5cm	〃　〃
9−5	かわらけ	a:7.6cm　b:5.5cm　c:1.8cm	〃　〃
9−6	かわらけ	a:7.8cm　b:6.8cm　c:1.5cm	〃　〃
9−7	かわらけ	a:8.2cm　b:6.1cm　c:1.4cm	〃　〃
9−8	かわらけ	a:8.6cm　b:7.1cm　c:1.5cm	〃　〃
9−9	かわらけ	a:8.8cm　b:6.5cm　c:1.6cm	〃　〃
9−10	かわらけ	a:12.4cm　b:8.4cm　c:3.2cm	〃　〃
9−11	かわらけ	a:12.4cm　b:8.3cm　c:3.0cm	〃　〃
9−12	かわらけ	a:12.8cm　b:8.0cm　c:3.0cm	〃　〃
9−13	かわらけ	a:13.0cm　b:8.4cm　c:3.2cm	〃　〃
9−14	白磁口兀皿	口縁部片	〃　〃
9−15	白かわらけ	a:11.0cm　b:9.0cm　c:2.9cm	第1面　土壙16
9−16	鉄製品 釘	残存長:5.1cm	〃　〃
9−17	かわらけ	a:8.4cm　b:5.6cm　c:1.6cm	第1面　土壙19
9−18	かわらけ	a:12.4cm　b:8.6cm　c:3.2cm	〃　〃
9−19	常滑　甕	a:19.8cm	〃　〃

表2　法量表（2）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
9−20	かわらけ	a:11.8cm　b:7.4cm　c:3.0cm	第1面　土壙18
9−21	かわらけ円盤	残存径:4.6cm第1面	土壙19
9−22	常滑　甕	b:19.0cm	〃　〃
9−23	常滑I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
9−24	かわらけ	a:13.4cm　b:9.4cm　c:3.6cm	第1面　土壙20
9−25	白磁　口兀碗	a:10.0cm	〃　〃
9−26	常滑　甕	a:43.2cm	〃　〃
9−27	鉄製品	釘残存長:5.3cm	〃　〃
9−28	かわらけ	a:12.4cm　b:8.7cm　c:3.6cm	第1面　土壙21
9−29	かわらけ	a:13.4cm　b:9.2cm　c:3.0cm	〃　〃
9−30	常滑	甕口縁部片	〃　〃
9−31	かわらけ	a:7.8cm　b:6.4cm　c:1.8cm	第1面　土壙26
9−32	かわらけ	a:13.0cm　b:12.2cm	〃　〃
9−33	青磁無文碗	高台径:4.8cm〃　〃	
9−34	女瓦	厚:2.1cm	〃　〃
10−1	かわらけ	a:7.8cm　b:4.6cm　c:2.0cm	第1面　土壙22
10−2	石製品	砥石残存長:25.3cm	〃　〃
10−3	かわらけ	a:7.8cm　b:5.9cm　c:1.2cm	第1面　土壙23
10−4	かわらけ	a:12.2cm　b:7.8cm　c:3.0cm	〃　〃
10−5	常滑I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
10−6	銅銭	文字不明	〃　〃
10−7	かわらけ	a:8.8cm　b:6.0cm　c:1.7cm	第1面　土壙24
10−8	常滑I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
10−9	かわらけ	a:7.6cm　b:5.1cm　c:1.7cm	第1面　土壙27
10−10	かわらけ	a:7.8cm　b:5.8cm　c:1.8cm	〃　〃
10−11	かわらけ	a:11.6cm　b:8.6cm　c:2.7cm	〃　〃
10−12	かわらけ	a:7.8cm b:6.6cm　c:1.4cm	第1面　土壙28
10−13	かわらけ	a:8.8cm　b:7.2cm c:1.5cm	〃　〃
10−14	かわらけ	a:11.4cm　b:6.7cm　c:2.9cm	〃　〃
10−15	かわらけ	a:13.0cm　b:9.3cm　c:3.6cm	〃　〃
10−16	青白磁水注	瓜型口縁〜肩部片	〃　〃
10−17	かわらけ	a:8.4cm　b:6.2cm　c:1.8cm	第1面　土壙29
10−18	かわらけ	a:12.8cm　b:7.1cm　c:3.1cm	〃　〃
10−19	かわらけ	a:12.6cm　b:8.9cm　c:2.8cm	〃　〃
10−20	かわらけ	a:12.2cm　b:10.7cm　c:3.2cm	〃　〃
10−21	常滑甕	b:16.6cm	〃　〃
10−22	かわらけ	a:7.4cm　b:5.4cm　c:1.5cm	第1面　土壙31
10−23	かわらけ	a:7.8cm　b:5.7cm　c:1.5cm	〃　〃
10−24	かわらけ	a:7.8cm　b:6.1cm　c:1.6cm	〃　〃
10−25	かわらけ	a:7.8cm　b:6.0cm　c:1.7cm	〃　〃
10−26	かわらけ	a:11.0cm　b:6.9cm　c:2.8cm	〃　〃
10−27	かわらけ	a:11.6cm　b:6.2cm　c:3.3cm	〃　〃

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
10−28	かわらけ	a:11.8cm　b:6.4cm　c:2.8cm	第1面　土壙31
10−29	青磁蓮弁文碗	a:14.0cm〃　〃	
10−30	常滑甕	口縁〜頸部片〃　〃	
11−1	かわらけ	a:12.0cm　b:7.5cm　c:3.1cm	第1面　土壙32
11−2	かわらけ	a:5.0cm　b:5.2cm　c:1.1cm	〃　〃
11−3	山茶碗	高台部片	〃　〃
11−4	二彩黄釉盤	底部片	〃　〃
11−5	かわらけ	a:8.8cm　b:6.0cm　c:1.6cm	第1面　土壙35
11−6	かわらけ	a:8.0cm　b:5.8cm　c:1.6cm	〃　〃
11−7	かわらけ	a:13.0cm　b:9.0cm　c:3.3cm	〃　〃
11−8	常滑甕	口縁〜頸部片	〃　〃
11−9	かわらけ	a:6.8cm　b:4.2cm　c:1.9cm	第1面　土壙37
11−10	かわらけ	a:7.2cm　b:4.6cm　c:1.6cm〃	〃
11−11	かわらけ	a:7.4cm　b:4.7cm　c:1.6cm〃	〃
11−12	かわらけ	a:7.6cm　b:5.1cm　c:1.7cm〃	〃
11−13	かわらけ	a:7.6cm　b:6.5cm　c:1.5cm〃	〃
11−14	かわらけ	a:7.8cm　b:4.6cm　c:1.6cm〃	〃
11−15	かわらけ	a:8.0cm　b:5.1cm　c:2.1cm〃	〃
11−16	かわらけ	a:8.0cm　b:5.5cm　c:1.7cm〃	〃
11−17	かわらけ	a:8.0cm　b:5.7cm　c:1.6cm	〃　〃
11−18	かわらけ	a:10.4cm　b:5.0cm　c:3.0cm	〃　〃
11−19	かわらけ	a:10.8cm　b:5.9cm　c:3.2cm	〃　〃
11−20	かわらけ	a:11.0cm　b:5.9cm　c:3.0cm	〃　〃
11−21	かわらけ	a:11.2cm　b:6.7cm　c:3.2cm	〃　〃
11−22	かわらけ	a:11.4cm　b:6.6cm　c:3.0cm	〃　〃
11−23	かわらけ	a:11.8cm　b:7.0cm　c:3.3cm	〃　〃
11−24	かわらけ	a:11.6cm　b:5.9cm　c:3.4cm	〃　〃
11−25	かわらけ	a:12.2cm　b:5.9cm　c:3.4cm	〃　〃
11−26	かわらけ	a:12.2cm　b:6.8cm　c:3.5cm	〃　〃
11−27	かわらけ	a:12.2cm　b:7.7cm　c:3.1cm	〃　〃
11−28	かわらけ	a:12.6cm　b:7.6cm　c:3.6cm	〃　〃
11−29	かわらけ	a:12.6cm　b:7.6cm　c:3.5cm	〃　〃
11−30	かわらけ	a:12.8cm　b:7.7cm　c:3.5cm	〃　〃
11−31	かわらけ	a:13.0cm　b:6.7cm　c:3.8cm	〃　〃
11−32	かわらけ	a:13.0cm　b:7.4cm　c:4.0cm	〃　〃
11−33	かわらけ	a:13.0cm　b:7.2cm　c:3.5cm	〃　〃
11−34	かわらけ	a:13.2cm　b:6.8cm　c:3.6cm	〃　〃
11−35	かわらけ	a:13.4cm　b:7.8cm　c:3.7cm	〃　〃
11−36	白磁四耳壺	肩部片	〃　〃
11−37	瀬戸四耳壺	底部片	〃　〃
11−38	常滑甕	a:37.0cm	〃　〃
11−39	石製品　砥石	残存長:8.0cm	〃　〃

表3　法量表（3）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
11－40	石製品　砥石	残存長:5.9cm	第1面　土壙37
11－41	鉄製品　釘	残存長:3.9cm	〃　〃
11－42	鉄製品　釘	残存長:4.0cm	〃　〃
11－43	鉄製品　釘	残存長:5.9cm	〃　〃
11－44	銅銭	天聖元宝	〃　〃
12－1	かわらけ	a:11.4cm　b:6.6cm　c:3.6cm	第1面　ピット1
12－2	銅銭	寧元宝	〃　〃
12－3	かわらけ	a:7.2cm　b:5.4cm　c:1.5cm	第1面　ピット2
12－4	白かわらけ	a:7.9cm　b:6.2cm　c:1.5cm	〃　〃
12－5	白かわらけ貰小壷	口縁～肩部片	〃　〃
12－6	常滑甕	口縁～肩部	〃　〃
12－7	かわらけ	a:5.8cm　b:3.8cm　c:1.3cm	第1面　ピット3
12－8	かわらけ	a:8.7cm　b:7.6cm　c:1.9cm	〃　〃
12－9	常滑甕	a:31.0cm	〃　〃
12－10	鉄製品　釘	残存長:7.0cm	〃　〃
12－11	かわらけ	a:8.0cm　b:6.6cm　c:1.5cm	第1面　ピット4
12－12	かわらけ	a:10.3cm　b:7.2cm　c:2.9cm	〃　〃
12－13	かわらけ	a:7.1cm　b:5.9cm　c:1.5cm	第1面　ピット5
12－14	かわらけ	a:7.5cm　b:5.1cm　c:1.9cm	第1面　ピット6
12－15	かわらけ	a:7.6cm　b:6.3cm　c:1.5cm	〃　〃
12－16	かわらけ	a:12.8cm　b:9.1cm　c:2.8cm	〃　〃
12－17	かわらけ	a:11.8cm　b:7.8cm　c:2.8cm	第1面　ピット7
12－18	かわらけ	a:13.3cm　b:8.9cm　c:4.2cm	〃　〃
12－19	男瓦	厚:2.9cm	〃　〃
12－20	かわらけ	a:7.5cm　b:6.5cm　c:1.2cm	第1面　ピット8
12－21	かわらけ	a:8.0cm　b:7.0cm　c:1.4cm	〃　〃
12－22	かわらけ	a:11.7cm　b:7.7cm　c:2.8cm	〃　〃
12－23	かわらけ	a:11.5cm　b:7.5cm　c:2.7cm	〃　〃
12－24	青白磁	劃花文碗高台径:7.0cm	〃　〃
12－25	青磁折縁皿	底部片	〃　〃
12－26	土器質火鉢	口縁部片	〃　〃
12－27	かわらけ	a:5.4cm　b:4.2cm　c:1.5cm	第1面　ピット11
12－28	かわらけ	a:12.0cm　b:8.6cm　c:2.9cm	〃　〃
12－29	銅銭	皇宋通宝	〃　〃
12－20	かわらけ	a:6.7cm　b:4.9cm　c:1.6cm	第1面　ピット12
12－31	かわらけ	a:6.9cm　b:3.6cm　c:1.7cm	〃　〃
12－32	かわらけ	a:7.6cm　b:5.9cm　c:1.7cm	〃　〃
12－33	かわらけ	a:7.7cm　b:6.0cm　c:1.8cm	〃　〃
12－34	かわらけ	a:12.0cm　b:8.6cm　c:3.4cm	〃　〃
12－35	青磁 蓮弁文碗	口縁部片	〃　〃
12－36	かわらけ	a:7.8cm　b:5.6cm　c:1.6cm	第1面　ピット14
12－37	かわらけ	a:8.2cm　b:5.9cm　c:1.7cm	〃　〃
12－38	かわらけ	a:12.0cm　b:8.4cm　c:2.7cm	第1面　ピット14
12－39	かわらけ	a:12.8cm　b:8.8cm　c:3.0cm	〃　〃
12－40	常滑　甕	口縁部片	〃　〃
13－1	かわらけ	a:7.6cm　b:5.7cm　c:1.6cm	第1面　ピット16
13－2	かわらけ	a:7.6cm　b:6.1cm　c:1.3cm	〃　〃
13－3	かわらけ	a:12.2cm　b:8.7cm　c:3.2cm	〃　〃
13－4	かわらけ	a:12.4:cm　b:11.5cm　c:3.3cm	〃　〃
13－5	女瓦	厚:2.4cm	〃　〃
13－6	滑石製　鍋	b:13.1cm	〃　〃
13－7	温石	残存長:13.6cm	〃　〃
13－8	石製品	砥石残存長:5.6cm 〃　〃	
12－9	常滑　甕	a:21.8cm	第1面　ピット17
13－10	常滑　甕	b:16.8cm	〃　〃
13－11	銅銭	皇宋通宝	〃　〃
13－12	かわらけ	a:8.4cm　b:6.5cm　c:1.6cm	第1面　ピット18
13－13	かわらけ	a:9.0cm　b:6.2cm　c:1.8cm	〃　〃
13－14	かわらけ	a:12.6cm　b:8.8cm　c:3.1cm	〃　〃
13－15	かわらけ	a:12.2cm　b:8.7cm　c:3.3cm	〃　〃
13－16	女瓦	厚:2.4cm	〃　〃
13－17	かわらけ	a:8.6cm　b5.6:cm　c:1.5cm	第1面　ピット20
14－1	かわらけ	a:8.0cm　b:6.0cm　c:1.5cm	第1面　ピット19
14－2	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
14－3	女瓦	厚:2.2cm	〃　〃
14－4	女瓦	厚:2.0cm	〃　〃
14－5	常滑　鳶口壷	b:9.4cm	第1面　ピット21
14－6	常滑　甕	口縁～頸部片	〃　〃
14－7	銅銭	景徳元宝	〃　〃
14－8	須恵器　坏蓋	蓋径:13.2cm	〃　〃
14－9	かわらけ	a:12.4cm　b:8.4cm　c:3.1cm	第1面　ピット22
14－10	かわらけ	a:9.0om　b:7.5cm　c:1.3cm	〃　〃
14－11	かわらけ	a:12.4cm　b:8.6cm　c:3.1cm	第1面　ピット23
14－12	かわらけ	a:8.2cm　b:4.0cm　c:1.6cm	第1面　ピット24
14－13	かわらけ	a:8.2cm　b:6.3cm　c:1.5cm	〃　〃
13－14	かわらけ	a:8.4cm　b:6.0cm　c:1.6cm	〃　〃
14－15	かわらけ	a:11.6cm　b:8.9cm　c:2.3cm	〃　〃
14－16	女瓦	厚:2.3cm	〃　〃
14－17	かわらけ	a:ll.Ocm　b:6.Ocm　c:3.3cm	第1面　ピット26
14－18	白磁	口兀碗a:11.4cm	〃　〃
14－19	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
14－20	かわらけ	a:7.4cm　b:5.4cm　c:1.6cm	第1面　ピット27
14 －21	かわらけ	a:13.2cm　b:11.9cm　c:3.0cm	〃　〃
14 －22	白かわらけ	a:8.2cm　b:8.0cm　c:1.3cm	〃　〃

表4　法量表（4）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
14−23	かわらけ	a:7.6cm　b:5.5cm　c:1.5cm	第1面　ピット31
14−24	かわらけ	a:11.2cm　b:6.6cm　c:2.8cm	第1面　ピット34
14−25	白かわらけ	a:10.6cm　b:8.2cm	〃　〃
14−26	白かわらけ	a:11.7cm　b:9.3cm　c:2.7cm	〃　〃
14−27	青磁　蓮弁文碗	a:12.4cm	〃　〃
14−28	かわらけ	a:6.4cm　b:3.8cm　c:1.6cm	第1面　ピット35
14−29	常滑　甕	底部片	〃　〃
14−30	かわらけ	a:7.8cm　b:6.2cm　c:1.4cm	第1面　ピット36
14−31	かわらけ	a:6.4cm　b:4.6cm　c:1.2cm	第1面　ピット38
14−32	かわらけ	a:8.2cm　b:5.9cm　c:1.7cm	〃　〃
14−33	かわらけ	a:12.8cm　b:9.1cm　c:3.0cm	〃　〃
14−34	かわらけ	a:9.0cm　b:8.0cm　c:1.4cm	〃　〃
15−1	かわらけ	a:8.6cm　b:7.0cm	第1面　ピット39
15−2	かわらけ	a:8.4cm　b:7.5cm　c:1.1cm	第1面　ピット41
15−3	かわらけ	a:12.6cm　b:8.4cm　c:2.8cm	第1面　ピット43
15−4	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
15−5	土器質火鉢	a:45.2cm　b:38.0cm　c:10.0cm	〃　〃
15−6	かわらけ	a:9.2cm　b:7.6cm	第1面　ピット44
15−7	青磁　蓮弁文碗	a:16.4cm	〃　〃
15−8	須恵器　坏蓋	つまみ部片	〃　〃
15−9	かわらけ	a:12.8cm　b:8.2cm　c:3.2cm	第1面　ピット45
15−10	常滑	蔓口縁〜頸部片	〃　〃
15−11	かわらけ	a:13.2cm　b:8.9cm　c:3.4cm	第1面　ピット47
15−12	かわらけ	a:7.6cm　b:5.6cm　c:1.4cm	第1面　ピット48
15−13	銅銭	威平元宝	〃　〃
15−14	かわらけ	a:8.0cm　b:6.2cm　c:1.4cm	第1面　ピット49
15−15	かわらけ	a:7.6cm　b:5.6cm　c:1.5cm	第1面　ピット50
15−16	かわらけ	a:8.4cm　b:5.7cm　c:1.5cm	第1面　ピット52
15−17	かわらけ	a:11.6cm　b:7.0cm　c:3.0cm	第1面　ピット53
15−18	常滑　I類捏鉢	口縁部片	第1面　ピット54
15−19	かわらけ	a:12.8cm　b:9.9cm　c:2.9cm	第1面　ピット57
15−20	青白磁　梅瓶	胴部片	〃　〃
16−1	かわらけ	a:4.4cm　b:3.4cm　c:0.7cm	1面上
16−2	かわらけ	a:6.8cm　b:3.7cm　c:2.7cm	〃
16−3	かわらけ	a:6.8cm　b:3.5cm　c:2.3cm	〃
16−4	かわらけ	a:6.5cm　b:4.9cm　c:1.9cm	〃
16−5	かわらけ	a:6.9cm　b:4.5cm　c:1.7cm	〃
16−6	かわらけ	a:6.8cm　b:5.6cm　c:1.2cm	〃
16−7	かわらけ	a:6.8cm　b:5.3cm　c:1.4cm	〃
16−8	かわらけ	a:7.0cm　b:5.6cm　c:1.7cm	〃
16−9	かわらけ	a:7.1cm　b:5.4cm　c:1.6cm	〃
16−10	かわらけ	a:7.4cm　b:6.1cm　c:1.1cm	〃

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
16−11	かわらけ	a:7.2cm　b:5.0cm　c:1.3cm	1面上
16−12	かわらけ	a:7.4cm　b:5.5cm　c:1.7cm	〃
16−13	かわらけ	a:7.2cm　b:4.5cm　c:1.5cm	〃
16−14	かわらけ	a:7.3cm　b:5.6cm　c:1.4cm	〃
16−15	かわらけ	a:7.7cm　b:6.3cm　c:1.4cm	〃
16−16	かわらけ	a:7.4cm　b:4.9cm　c:1.8cm	〃
16−17	かわらけ	a:7.6cm　b:5.6cm　c:1.7cm	〃
16−18	かわらけ	a:7.8cm　b:5.2cm　c:1.8cm	〃
16−19	かわらけ	a:7.6cm　b:4.5cm　c:1.7cm	〃
16−20	かわらけ	a:8.0cm　b:5.9cm　c:1.6cm	〃
16−21	かわらけ	a:7.6cm　b:5.4cm　c:1.7cm	〃
16−22	かわらけ	a:7.6cm　b:4.2cm　c:1.9cm	〃
16−23	かわらけ	a:7.8cm　b:5.1cm　c:1.7cm	〃
16−24	かわらけ	a:8.0cm　b:5.0cm　c:2.1cm	〃
16−25	かわらけ	a:8.2cm　b:5.3cm　c:2.0cm	〃
16−26	かわらけ	a:7.4cm　b:4.0cm　c:1.7cm	〃
16−27	かわらけ	a:7.4cm　b:4.8cm　c:2.2cm	〃
16−28	かわらけ	a:7.5cm　b:5.6cm　c:1.9cm	〃
16−29	かわらけ	a:7.1cm　b:5.8cm　c:1.6cm	〃
16−30	かわらけ	a:7.4cm　b:5.1cm　c:1.7cm	〃
16−31	かわらけ	a:7.6cm　b:5.1cm　c:1.8cm	〃
16−32	かわらけ	a:7.6cm　b:5.0cm　c:1.9cm	〃
16−33	かわらけ	a:7.5cm　b:5.1cm　c:2.0cm	〃
16−34	かわらけ	a:7.5cm　b:5.5cm　c:1.6cm	〃
16−35	かわらけ	a:7.7cm　b:5.3cm　c:1.6cm	〃
16−36	かわらけ	a:7.8cm　b:6.0cm　c:1.6cm	〃
16−37	かわらけ	a:7.7cm　b:5.8cm　c:1.6cm	〃
16−38	かわらけ	a:7.8cm　b:5.7cm　c:1.5cm	〃
16−39	かわらけ	a:7.8cm　b:6.1cm　c:1.5cm	〃
16−40	かわらけ	a:7.7cm　b:6.1cm　c:1.6cm	〃
16−41	かわらけ	a:8.0cm　b:5.4cm　c:2.0cm	〃
16−42	かわらけ	a:8.0cm　b:6.4cm　c:1.5cm	〃
16−43	かわらけ	a:8.2cm　b:5.4cm　c:1.6cm	〃
16−44	かわらけ	a:8.2cm　b:6.5cm　c:1.6cm	〃
16−45	かわらけ	a:8.6cm　b:6.0cm　c:2.0cm	〃
16−46	かわらけ	a:11.5cm　b:7.7cm　c:3.5cm	〃
16−47	かわらけ	a:11.8cm　b:1.4cm　c:3.3cm	〃
16−48	かわらけ	a:11.8cm　b:7.8cm　c:2.9cm	〃
16−49	かわらけ	a:12.1cm　b:9.1cm　c:2.7cm	〃
16−50	かわらけ	a:11.7cm　b:8.5cm　c:3.0cm	〃
16−51	かわらけ	a:12.0cm　b:6.9cm　c:3.2cm	〃
16−52	かわらけ	a:11.6cm　b:8.2cm　c:3.2cm	〃

表5　法量表（5）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
16−53	かわらけ	a:11.7cm　b:8.1cm　c:3.5cm	1面上
16−53	かわらけ	a:12.6cm　b:7.1cm　c:3.4cm	〃
16−54	かわらけ	a:12.6cm　b:7.1cm　c:3.4cm	〃
16−55	かわらけ	a:12.4cm　b:8.6cm　c:3.3cm	〃
16−56	かわらけ	a:12.5cm　b:8.4cm　c:3.0cm	〃
16−57	かわらけ	a:12.0cm　b:7.6cm　c:3.6cm	〃
16−58	かわらけ	a:13.4cm　b:8.4cm　c:3.5cm	〃
16−59	かわらけ	a:14.6cm　b:9.2cm　c:3.8cm	〃
16−60	かわらけ	a:14.7cm　b:8.5cm　c:4.2cm	〃
16−61	かわらけ	a:7.8cm　b:5.7cm　c:1.5cm	〃
16−62	かわらけ	a:9.0cm　b:7.6cm　c:1.7cm	〃
16−63	かわらけ	a:12.0cm	〃
16−64	かわらけ	a:11.9cm　b:10.8cm　c:3.1cm	〃
16−65	かわらけ	a:11.9cm　b:9.0cm　c:3.0cm	〃
16−66	白かわらけ	a:5.4cm　b:4.1cm　c:1.2cm	〃
16−67	白かわらけ	a:10.7cm	〃
16−68	白かわらけ	a:10.0cm　b:8.9cm	〃
16−69	青磁　蓮弁文碗	a:15.2cm	〃
16−60	青磁　蓮弁文碗	a:15.4cm	〃
16−71	青磁　蓮弁文碗	a:14.1cm	〃
16−72	青磁　蓮弁文碗	a:14.6cm	〃
16−73	青磁　蓮弁文碗	口縁部片	〃
16−74	青磁　蓮弁文碗	口縁部片	〃
16−75	青磁　蓮弁文碗	口縁部片	〃
16−76	青磁　蓮弁文碗	b:5.4cm	〃
16−77	青磁折縁皿	口縁部片	〃
16−78	青磁香炉	a:9.8cm	〃
16−79	白磁　皿	a:10.6cm	〃
16−80	白磁　口兀皿	a:13.2cm	〃
16−81	白磁　花瓶	a:7.2cm　高台径:6.1cm	〃
16−82	白磁　水注	注口片	〃
17−83	青白磁水注	a:2.5cm	1面上
17−84	青白磁小壺	a:4.7cm	〃
17−85	青白磁　香炉	残存器高:2.3cm	〃
17−86	青白磁　梅瓶	胴部片	〃
17−87	瀬戸　碗	a:17.6cm　b:4.8cm　c:7.0cm	〃
17−88	瀬戸　折縁皿	a:22.4cm	〃
17−89	瀬戸　卸皿	b:13.0cm	〃
17−90	瀬戸　底卸皿	b:7.1cm	〃
17−91	瀬戸　灰釉壺	底部片	〃
17−92	山茶碗	a:11.6cm	〃
17−93	山茶碗	口縁部片	〃
17−94	山茶碗	b:5.4cm	1面上
17−95	山皿a:7.8cm	b:4.0cm　c:2.0cm	〃
17−96	常滑　甕	口縁部片	〃
17−97	常滑　甕	口縁部片	〃
17−98	常滑　甕	口縁部片	〃
17−99	常滑　甕	口縁〜頸部片	〃
17−100	常滑　甕	口縁〜頸部片	〃
17−101	常滑　壺	肩部片	〃
17−102	常滑　壺	底部片	〃
17−103	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃
17−104	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃
17−105	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃
17−106	常滑　I類捏鉢	b:13.9cm	〃
17−107	常滑　I類捏鉢	b:11.2cm	〃
17−108	常滑　I類捏鉢	b:14.0cm	〃
17−109	常滑　I類捏鉢	底部片	〃
17−110	常滑　II類捏鉢	a:28.8cm　b:13.0cm　c:10.5cm	〃
17−111	常滑　II類捏鉢	b:18.8cm	〃
17−112	常滑　II類捏鉢	b:22.8cm	〃
17−113	常滑　II類捏鉢	底部片	〃
18−114	常滑	甕a:52.4cm	〃
18−115	常滑	甕a:43.2cm	〃
18−116	常滑	甕a:36.8cm	〃
18−117	宇瓦	瓦当部厚:2.4cm	〃
18−118	男瓦	厚:1.8cm	〃
18−119	女瓦	厚:2.2cm	〃
18−120	女瓦	厚:2.6cm	〃
18−121	女瓦	厚:2.6cm	〃
18−122	女瓦	厚:2.9cm	〃
19−123	瓦器質火鉢	口縁部片	〃
19−124	土器質火鉢	口縁部片	〃
19−125	滑石製　鍋	a:33.4cm	〃
19−126	温石	残存長:8.8cm	〃
19−127	銅銭	洪武通宝	〃
19−128	銅銭	聖宋元宝	〃
19−129	鳥形	長:8.8cm　厚:0.4cm	〃
19−130	かわらけ	a:4.6cm　b:3.7cm　c:0.8cm	〃
19−131	かわらけ	a:7.4cm　b:8.1cm　c:1.5cm	〃
19−132	かわらけ	a:7.6cm　b:5.0cm　c:1.6cm	〃
19−133	かわらけ	a:8.0cm　b:5.0cm　c:1.6cm	〃
19−134	かわらけ	a:8.4cm　b:5.6cm　c:1.4cm	〃
19−135	かわらけ	a:8.8cm　b:6.8cm　c:1.5cm	〃

表6　法量表（6）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
19−136	かわらけ	a:8.8cm　b:7.0cm　c:2.0cm	1面上
19−137	かわらけ	a:10.0cm　b:6.4cm　c:3.2cm	〃
19−138	かわらけ	a:11.8cm　b:8.2cm　c:3.0cm	〃
19−139	かわらけ	a:7.8cm　b:7.7cm　c:2.0cm	〃
19−140	かわらけ	a:10.4cm　b:9.8cm　c:2.8cm	〃
19−141	青磁　蓮弁文碗	高台径:4.2cm	〃
19−142	常滑　甕	a:34.4cm	〃
19−143	常滑　甕	口縁〜頸部片	〃
19−144	常滑　甕	底部片	〃
19−145	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃
19−146	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃
19−147	常滑　甕	底部片	〃
19−148	銅銭	淳熙元宝	〃
19−149	釘	残存長:6.1cm	〃
22−1	かわらけ	a:7.6cm　b:6.2cm　c:1.6cm	2面　建物1
22−2	かわらけ	a:12.2cm　b:3.3cm　c:8.2cm	〃　〃
22−3	かわらけ	a:7.8cm　b:6.0cm　c:1.7cm	〃　〃
22−4	かわらけ	a:8.0cm　b:5.6cm　c:1.4cm	〃　〃
22−5	かわらけ	a:12.0cm	〃　〃
22−6	用途不明木製品	長:9.0cm　幅:1.2cm　厚:1.1cm	〃　〃
22−7	かわらけ	a:8.0cm　b:6.7cm　c:1.5cm	〃　〃
22−8	かわらけ	a:9.2cm　b:6.6cm　c:1.8cm	〃　〃
22−9	青磁　蓮弁文碗	口縁部片	〃　〃
22−10	かわらけ	a:12.0cm　b:7.4cm　c:2.7cm	〃　〃
22−11	かわらけ	a:13.0cm　b:9.0cm　c:3.3cm	〃　〃
22−12	かわらけ	a:9.0cm　b:7.2cm　c:1.7cm	〃　〃
22−13	かわらけ	a:8.0cm　b:6.0cm　c:1.4cm	〃　〃
22−14	かわらけ	a:7.0cm　b:6.2cm　c:1.8cm	〃　〃
25−1	かわらけ	a:8.2cm　b:6.4cm　c:1.4cm	2面　土壙1
25−2	かわらけ	a:8.0cm　b:5.5cm　c:1.6cm	〃　〃
25−3	かわらけ	a:12.3cm　b:7.2cm　c:3.4cm	〃　〃
25−4	かわらけ	a:11.8cm　b:12.0cm　c:3.1cm	〃　〃
25−5	かわらけ	a:12.6cm　b:11.9cm　c:3.4cm	〃　〃
25−6	かわらけ	a:8.0cm　b:7.0cm　c:1.7cm	2面　土壙2
25−7	かわらけ	a:9.0cm　b:7.8cm　c:1.6cm	2面　土壙3
25−8	かわらけ	a:8.8cm　b:7.2cm　c:1.65cm	〃　〃
25−9	かわらけ	a:12.0cm　b:7.6cm　c:3.2cm	〃　〃
25−10	かわらけ	a:12.0cm　b:7.6cm　c:3.2cm	〃　〃
25−11	瀬戸　四耳壺	a:14.6cm	〃　〃
25−12	かわらけ	a:7.8cm　b:5.7cm　c:1.6cm	2面　土壙4
25−13	かわらけ	a:7.8cm　b:5.5cm　c:1.7cm	〃　〃
25−14	かわらけ	a:8.2cm　b:6.4cm　c:1.5cm	〃　〃

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
25−15	かわらけ	a:8.5cm　b:6.4cm　c:1.6cm	2面　土壙4
25−16	かわらけ	a:8.8cm　b:6.6cm　c:1.5cm	〃　〃
25−17	かわらけ	a:8.6cm　b:6.7cm　c:1.6cm	〃　〃
25−18	かわらけ	a:11.8cm　b:8.8cm　c:3.0cm	〃　〃
25−19	かわらけ	a:12.4cm　b:8.4cm　c:3.2cm	〃　〃
25−20	かわらけ	a:12.4cm　b:8.0cm　c:2.9cm	〃　〃
25−21	白かわらけ	a:8.9cm　b:6.0cm　c:1.5cm	〃　〃
25−22	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
25−23	かわらけ	a:7.8cm　b:6.4cm　c:1.7cm	2面　土壙5
25−24	かわらけ	a:8.6cm　b:6.6cm　c:1.7cm	〃　〃
25−25	かわらけ	a:12.4cm　b:8.4cm　c:3.4cm	〃　〃
25−26	常滑　甕	口縁〜頸部片	〃　〃
25−27	須恵器　短頸壺	a:11.0cm	〃　〃
25−28	かわらけ	a:7.8cm　b:6.1cm　c:1.7cm	2面　土壙6
25−29	かわらけ	a:8.0cm　b:6.3cm　c:1.7cm	〃　〃
25−30	かわらけ	a:8.0cm　b:5.6cm　c:1.7cm	〃　〃
25−31	常滑　壺	口縁部片	〃　〃
25−32	常滑　甕	口縁部片	〃　〃
25−33	かわらけ	a:8.2cm　b:6.2cm　c:1.5cm	2面　土壙7
25−34	かわらけ	a:8.2cm　b:6.0cm　c:1.7cm	〃　〃
25−35	かわらけ	a:11.3cm　b:7.0cm　c:3.2cm	〃　〃
25−36	かわらけ	a:12.0cm　b:8.8cm　c:3.2cm	〃　〃
25−37	かわらけ	a:12.6cm　b:8.8cm　c:3.1cm	〃　〃
25−38	常滑　壺	底部片	〃　〃
25−39	女瓦	厚:2.2cm	〃　〃
25−40	かわらけ	a:7.8cm　b:5.4cm　c:1.4cm	2面　土壙8
25−41	かわらけ	a:11.7cm　b:7.9cm　c:3.0cm	〃　〃
26−1	かわらけ	a:7.2cm　b:5.5cm　c:1.6cm	2面　土壙9
26−2	かわらけ	a:7.8cm　b:6.1cm　c:1.8cm	〃　〃
26−3	かわらけ	a:7.6cm　b:4.8cm　c:1.5cm	〃　〃
26−4	かわらけ	a:8.2cm　b:5.8cm　c:1.7cm	〃　〃
26−5	かわらけ	a:11.8cm　b:8.0cm　c:3.0cm	〃　〃
26−6	かわらけ	a:12.8cm　b:9.0cm　c:3.5cm	〃　〃
26−7	常滑壺	a:37.6cm	〃　〃
26−8	かわらけ	a:7.0cm　b:6.0cm　c:0.8cm	2面　土壙10
26−9	かわらけ	a:8.6cm　b:6.5cm　c:1.8cm	〃　〃
26−10	かわらけ	a:9.0cm　b:7.6cm　c:1.7cm	〃　〃
26−11	かわらけ	a:10.5cm　b:7.0cm　c:3.0cm	〃　〃
26−12	かわらけ	a:12.0cm　b:8.0cm　c:3.3cm	〃　〃
26−13	かわらけ	a:7.7cm　b:6.7cm　c:1.7cm	〃　〃
26−14	かわらけ	a:8.0cm　b:7.4cm　c:1.7cm	〃　〃
26−15	かわらけ	a:8.4cm　b:7.4cm　c:2.1cm	〃　〃

表7　法量表（7）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
26−16	かわらけ	a:14.8cm　b:12.4cm　c:3.2cm	2面　土壙10
26−17	黄釉鉄絵盤	底部片	〃　〃
26−18	山茶碗	b:7.8cm	〃　〃
26−19	常滑　壷	口縁〜頸部片	〃　〃
26−20	瓦器　碗	a:10.0cm	〃　〃
26−21	男瓦	厚:1.9cm	〃　〃
26−22	女瓦	厚:2.0cm	〃　〃
26−23	灰釉陶器	b:5.7cm	〃　〃
26−24	かわらけ	a:7.6cm　b:5.6cm　c:1.2cm	2面　土壙11
26−25	かわらけ	a:8.3cm　b:6.1cm　c:1.6cm	〃　〃
26−26	かわらけ	a:8.7cm　b:6.5cm　c:1.5cm	〃　〃
26−27	かわらけ	a:8.8cm　b:5.8cm　c:1.8cm	〃　〃
26−28	かわらけ	a:11.8cm　b:8.5cm　c:2.9cm	〃　〃
26−29	かわらけ	a:12.0cm　b:7.7cm　c:2.9cm	〃　〃
26−30	かわらけ	a:12.4cm　b:7.6cm　c:3.1cm	〃　〃
26−31	かわらけ	a:12.0cm　b:8.9cm　c:2.9cm	〃　〃
26−32	かわらけ	a:9.6cm　b:7.8cm　c:1.8cm	2面　土壙12
26−33	かわらけ	a:12.3cm　b:8.4cm　c:3.2cm	〃　〃
26−34	かわらけ	a:11.8cm　b:8.2cm　c:2.7cm	〃　〃
26−35	かわらけ	a:13.4cm　b:8.4cm　c:3.3cm	〃　〃
26−38	山茶碗	高台径:8.0cm	〃　〃
26−37	男瓦	厚:l.8cm	〃　〃
27−1	男瓦	厚:2.6cm	〃　〃
27−2	女瓦	厚:2.2cm	〃　〃
27−3	女瓦	厚:1.9cm	〃　〃
27−4	かわらけ	a:7.7cm　b:5.4cm　c:1.4cm	2面　土壙13
27−5	かわらけ	a:8.4cm　b:5.4cm　c:1.5cm	〃　〃
27−6	かわらけ	a:13.1cm　b:8.6cm　c:3.4cm	〃　〃
27−7	かわらけ	a:8.9cm　b:4.8cm　c:2.0cm	〃　〃
27−8	かわらけ	a:12.7cm　b:7.9cm　c:2.9cm	〃　〃
27−9	白磁　水注	a:10.0cm	〃　〃
27−10	かわらけ	a:7.4cm　b:5.8cm　e:1.7cm	2面　土壙14
27−11	かわらけ	a:8.2cm　b:6.0cm　c:1.4cm	〃　〃
27−12	青磁　皿	a:9.1cm　b:3.5cm　c:2.1cm	〃　〃
27−13	白磁　壷	b:4.6cm	〃　〃
27−14	かわらけ	a:9.8cm　b:8.Ocm　c:2.0cm	2面　土壙15
27−15	常滑　甕	b:9.8cm	〃　〃
27−16	渥美　小壷	a:38.0cm	〃　〃
28−1	かわらけ	a:12.4cm　b:8.2cm　c:3.0cm	2面　土壙16
28−2	かわらけ	a:12.0cm　b:6.5cm　c:2.9cm	〃　〃
28−3	かわらけ	a:8.0cm　b:5.7cm　c:1.7cm	2面　土壙17
28−4	かわらけ	a:8.4cm　b:6.5cm　c:1.6cm	〃　〃

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
28−5	かわらけ	a:12.9cm　b:9.1cm　c:3.5cm	2面　土壙17
28−6	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
28−7	常滑　I類捏鉢	高台径:14.4cm	〃　〃
28−8	縁釉陶器	高台径:5.6cm	〃　〃
28−9	かわらけ	a:7.4cm　b:6.0cm　c:1.5cm	〃　〃
28−10	かわらけ	a:8.6cm　b:6.8cm　c:1.6cm	〃　〃
28−11	かわらけ	a:12.2cm　b:8.2cm　c:3.2cm	2面　土壙18
28−12	かわらけ	a:12.8cm　b:8.6cm　c:3.6cm	〃　〃
28−13	かわらけ	a:12.7cm　b:7.3cm　c:3.7cm	〃　〃
28−14	かわらけ	a:7.8cm　b:6.0cm　c:1.5cm	2面　土壙19
28−15	かわらけ	a:8.1cm　b:6.6cm　c:1.8cm	〃　〃
28−16	かわらけ	a:8.4cm　b:6.4cm　c:1.8cm	〃　〃
28−17	かわらけ	a:8.6cm　b:7.Oar c:1.6cm	〃　〃
28−18	かわらけ	a:8.4cm　b:6.4cm　c:1.7cm	〃　〃
28−19	かわらけ	a:8.6cm　b:6.8cm　c:1.7cm	〃　〃
28−20	かわらけ	a:9.2cm　b:5.8cm　c:1.8cm	〃　〃
28−21	かわらけ	a:12.0cm　b:8.6cm　c:3.2cm	〃　〃
28−22	かわらけ	a:12.cm　b:9.0cm　c:2.8cm	〃　〃
28−23	かわらけ	a:12.1cm　b:8.2cm　c:3.2cm	〃　〃
28−24	かわらけ	a:12.4cm　b:8.8cm　c:2.9cm	〃　〃
28−25	かわらけ	a:12.3cm　b:9.0cm　c:3.1cm	〃　〃
28−26	かわらけ	a:12.5cm　b:9.2cm　c:2.9cm	〃　〃
28−27	かわらけ	a:12.4cm　b:8.2cm　c:3.1cm	〃　〃
28−28	かわらけ	a:12.8cm　b:g.ocm　c:3.3cm	〃　〃
28−29	かわらけ	a:13.0cm b:9.6cm　c:3.1cm	〃　〃
28−30	かわらけ	a:8.1cm　b:6.0cm　c:1.7cm	〃　〃
28−31	かわらけ	a:8.6cm　b:7.2cm　c:1.8cm	〃　〃
28−32	かわらけ	a:8.8cm　b:7.4cm　c:1.9cm	〃　〃
28−33	かわらけ	a:8.9cm　b:7.5cm　c:1.9cm	〃　〃
28−34	かわらけ	a:13.5cm　b:12.6cm　c:3.2cm	〃　〃
28−35	石製品　砥石	残存長:8.2cm	〃　〃
28−36	かわらけ	a:8.0cm　b:6.2cm　c:l.fcm	2面　土壙20
28−37	かわらけ	a:8.6cm　b:6.2cm　c:1.7cm	〃　〃
28−38	かわらけ	a:8.4cm　b:6.5cm　c:1.6cm	〃　〃
28−39	かわらけ	a:8.7cm　b:6.8cm　c:1.7cm	〃　〃
28−40	かわらけ	a:8.7cm　b:6.4cm　c:1.7cm	〃　〃
28−41	かわらけ	a:8.8cm　b:6.8cm　c:1.7cm	〃　〃
28−42	かわらけ	a:8.6cm　b:6.2cm　c:l.6cm	〃　〃
28−43	かわらけ	a:9.2cm　b:7.0cm　c:l.8cm	〃　〃
28−44	かわらけ	a:12.6C81　b:9.6cm　c:3.Ocm	〃　〃
28−45	かわらけ	a:12.3cm　b:8.5cm　c:3.1cm	〃　〃
28−46	かわらけ	a:13.2cm　b:10.0cm　c:2.9cm	〃　〃

表8　法量表（8）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
28－47	かわらけ	a:8.5cm　b:6.8cm　c:1.7cm	2面　土壙20
28－48	かわらけ	a:9.2cm　b:7.6cm　c:2.1cm	〃　〃
28－49	かわらけ	a:12.0cm　b:10.0cm　c:3.2cm	〃　〃
28－50	かわらけ	a:12.8cm　b:11.0cm　c:2.7cm	〃　〃
28－51	かわらけ	a:13.0cm　b:11.0cm c:3.2cm	〃　〃
28－52	かわらけ	a:13.6cm　b:12.6cm　c:3.3cm	〃　〃
28－53	青磁碗	高台径:5.4cm	〃　〃
28－54	山茶碗	口縁部片	〃　〃
28－55	常滑　I類捏鉢	底部片	〃　〃
28－56	常滑　壷	b:14.4cm	〃　〃
28－57	常滑　壷	b:16.0cm	〃　〃
28－58	女瓦	厚:2.4cm	〃　〃
29－1	女瓦	厚:2.0cm	〃　〃
29－2	砥石	残存長:10.5cm	〃　〃
30－1	青磁皿	a:10.3cm	2面　ピット1
30－2	かわらけ	a:8.8cm　b:6.0cm　c:l.6cm	2面　ピット2
30－3	かわらけ	a:7.8cm　b:5.3cm　c:1.3cm	2面　ピット5
30－4	かわらけ	a:8.8cm　b:6.6cm　c:l.fcm	2面　ピット6
30－5	かわらけ	a:8.2cm　b:4.8cm　c:1.7cm	〃　〃
30－6	かわらけ	a:8.8cm　b:4.8cm　c:1.7cm	〃　〃
30－7	かわらけ	a:13.0cm　b:13.0cm	〃　〃
30－8	板草履	残存長:13.5cm	2面　ピット8
30－9	かわらけ	a:8.6cm　b:7.20椙　c:l.fcm	2面　ピット9
30－10	かわらけ	a:11.2cm　b:6.9cm　c:2.9cm	〃　〃
30－11	かわらけ	a:12.9cm　b:8.5cm　c:3.0cm	〃　〃
30－12	滑石製鍋	頸部片	〃　〃
30－13	かわらけ	a:8.4cm　b:5.6cm　c:1.5cm	2面　ピット10
30－14	かわらけ	a:8.8cm　b:6.6cm　c:1.7cm	〃　〃
30－15	かわらけ	a:8.8cm　b:6.6cm　c:1.8cm	〃　〃
30－16	瓦器皿	a:8.4cm	〃　〃
30－17	青磁　劃花文碗	口縁部片	2面　ピット11
30－18	かわらけ	a:8.2cm　b:6.0cm c:1.8cm	2面　ピット12
30－19	かわらけ	a:12.6cm　b:7.50m　c:2.9cm	〃　〃
30－20	かわらけ	a:12.4(s　b:7.4cmi　c:3.1cm	〃　〃
30－21	かわらけ	a:8.6cm　b:6.5cm　c:1.6cm	2面　ピット17
30－22	かわらけ	a:9.4cm　b:6.6cm　c:2.0cm	2面　ピット18
30－23	女瓦	厚:1.9cm	〃　〃
30－24	かわらけ	a:8.6cm　b:5.7cm　c:1.5cm	2面　ピット19
30－25	かわらけ	a:7.8cm　b:5.70m　c:1.6cm	〃　〃
30－26	かわらけ	a:12.4cm　b:9.2cm　c:2.5cm	〃　〃
30－27	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
30－28	かわらけ	a:9.1cm　b:6.8cm　c:2.0cm	2面　ピット20
30－29	かわらけ	a:8.4cm　b:6.4cm　c:1.7cm	2面　ピット21
30－30	かわらけ	a:11.4cm　b:7.6cm　c:3.0cm	〃　〃
30－31	かわらけ	a:12.2cm　b:9.2cm　c:3.0cm	〃　〃
30－32	常滑　甕	口縁～頸部片	2面　ピット22
30－33	かわらけ	a:7.6cm　b:5.8cm　c:1.7cm	2面　ピット26
30－34	かわらけ	a:12.4cm　b:7.9cm　c:3.4cm	〃　〃
30－35	かわらけ	a:12.0cm　b:7.0cm　c:3.1cm	2面　ピット27
30－36	かわらけ	a:13.0cm　b:7.7cm　c:3.5cm	〃　〃
30－37	かわらけ	a:8.0cm　b:6.6cm　c:1.5cm	2面　ピット28
30－38	かわらけ	a:12.8cm　b:12.2cm　c:3.6cm	2面　ピット29
30－39	かわらけ	a:13.0cm　b:9.0cm　c:3.2cm	2面　ピット30
30－40	常滑　I類捏鉢	口縁部片	2面　ピット31
30－41	女瓦	厚:1.9cm	〃　〃
30－42	かわらけ	a:9.0cm　b:7.6cm　c:1.5cm	2面　ピット32
30－43	常滑　壷	底部片	2面　ピット33
30－44	かわらけ	a:9.6cm　b:6.4cm　c:1.9cm	2面　ピット34
30－45	青磁碗	高台径:5.0cm	〃　〃
30－46	かわらけ	a:8.0cm　b:6.4cm　c:1.1cm	2面　ピット35
30－47	かわらけ	a:12.0ar b:9.0cm　c:2.9cm	2面　ピット36
31－1	かわらけ	a:9.0cm　b:7.6cm　c:l.7cm	2面　ピット38
31－2	かわらけ	a:13.0cm　b:12.0cm　c:3.2cm	2面　ピット41
31－3	かわらけ	a:8.2cm　b:6.2cm　c:1.6cm	2面　ピット43
31－4	かわらけ	a:8.2cm　b:6.4cm　c:1.7cm	〃　〃
31－5	かわらけ	a:12.4cm　b:8.4cm　c:3.1cm	〃　〃
31－6	かわらけ	a:12.0cm　b:8.4cm c:2.8cm	〃　〃
31－7	常滑　壷	底部片	〃　〃
31－8	かわらけ	a:8.0cm　b:6.0cm　c:l.fcm	2面　ピット44
31－9	かわらけ	8:8.0cm　b:6.0cm　c:1.5cm	〃　〃
31－10	かわらけ	a:7.6cm　b:6.0cm　c:1.5cm	2面　ピット45
31－11	かわらけ	a:7.2cm　b:4.8cm　c:1.8cm	2面　ピット49
31－12	白かわらけ	a:9.2cm　b:7.0cm　c:1.5cm	〃　〃
31－13	かわらけ	a:7.9cm　b:5.6cm　c:1.6cm	2面　ピット50
31－14	常滑　甕	底部片	2面　ピット51
31－15	常滑壷	a:17.6cm	2面　ピット52
31－16	白磁　四耳壷	頸部片	2面　ピット54
31－17	かわらけ	a:8.8cm　b:6.4cm　c:1.75cm	〃　〃
31－18	かわらけ	a:9.6cm　b:7.6cm　c:1.9cm	2面　ピット55
31－19	常滑　甕	底部片	2面　ピット56
31－20	女瓦	厚:2.3cm	2面　ピット58
31－21	常滑　堅	口縁～頸部片	2面　ピット60
31－22	白磁　皿	b:4.0cm	2面　ピット61
31－23	かわらけ	a:9.0cm　b:7.6cm　c:1.Gcm	2面　ピット64

表9　法量表（9）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
31－24	女瓦	厚:2.3cm	2面　ピット64
31－25	常滑　甕	口縁～頸部片	2面　ピット65
31－26	かわらけ	a:8.0cm　b:5.6cm　c:1.5cm	2面　ピット66
31－27	かわらけ	a:is.acm　b:12.0cm　c:3.3cm	〃　〃
31－28	青磁　櫛描文碗	胴部片	〃　〃
31－29	かわらけ	a:9.0cm　b:7.4cm　c:1.6cm	2面　ピット67
31－30	かわらけ	a:8.4cm　b:6.6cm　c:1.8cm	2面　ピット68
32－1	緑釉　壺	胴部片	2面　ピット69
32－2	かわらけ	a:8.5cm　b:7.2cm　c:1.9cm	2面　ピット70
32－3	渥美　壺	口縁～頸部片	〃　〃
32－4	かわらけ	a:8.3cm　b:7.0cm　c:1.8cm	2面　ピット71
32－5	かわらけ	a:9.0cm　b:7.8cm　c:1.85cm	〃　〃
32－6	渥美　壺	b:18.0（濡	〃　〃
32－7	白かわらけ	a:7.5cm　b:8.2cm　c:0.9cm	2面　ピット72
32－8	かわらけ	a:8.5cm　b:7.4cm　c:2.0cm	2面　ピット74
32－9	常滑　Ⅰ類捏鉢	口縁部片	2面　ピット75
32－10	女瓦	厚:2.1cm	〃　〃
33－1	かわらけ	a:7.2cm　b:5.0cm　c:1.9cm	1面下～2面上
33－2	かわらけ	a:7.4cm　b:4.9cm　c:1.7cm	〃　〃
33－3	かわらけ	a:7.2cm　b:4.8cm　c:1.4cm	〃　〃
33－4	かわらけ	a:7.5cm　b:4.4cm　c:1.7cm	〃　〃
33－5	かわらけ	a:7.6cm　b:6.1cm　c:1.4cm	〃　〃
33－6	かわらけ	a:7.6cm　b:4.6cm　c:1.7cm	〃　〃
33－7	かわらけ	a:7.6cm　b:6.0cm　c:1.5cm	〃　〃
33－8	かわらけ	a:7.8cm　b:4.7cm　c:1.7cm	〃　〃
33－9	かわらけ	a:7.8cm　b:6.1cm　c:1.6cm	〃　〃
33－10	かわらけ	a:7.8cm　b:5.4cm　c:1.5cm	〃　〃
33－11	かわらけ	a:8.0cm　b:6.9cm　c:1.4cm	〃　〃
33－12	かわらけ	a:8.0cm　b:6.0cm　c:1.5cm	〃　〃
33－13	かわらけ	a:8.0cm　b:6.3cm　c:1.7cm	〃　〃
33－14	かわらけ	a:8.0cm　b:6.0cm　c:1.55cm	〃　〃
33－15	かわらけ	a:8.0cm　b:6.0cm　c:1.6cm	〃　〃
33－16	かわらけ	a:8.6cm　b:6.3cm　c:1.7cm	〃　〃
33－17	かわらけ	a:8.2cm　b:6.3cm　c:1.5cm	〃　〃
33－18	かわらけ	a:8.1cm　b:5.8cm　c:2.0cm	〃　〃
33－19	かわらけ	a:8.2cm　b:6.6cm　c:1.4cm	〃　〃
33－20	かわらけ	a:8.0cm　b:6.0cm　c:1.75cm	〃　〃
33－21	かわらけ	a:8.3cm　b:6.0cm　c:1.55cm	〃　〃
33－22	かわらけ	a:8.0cm　b:6.2cm　c:1.7cm	〃　〃
32－23	かわらけ	a:8.3cm　b:6.6cm　c:1.8cm	〃　〃
33－24	かわらけ	a:8.4cm　b:6.6cm　c:1.75cm	〃　〃
33－25	かわらけ	a:8.7cm　b:6.6cm　c:1.65cm	〃　〃

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
33－26	かわらけ	a:8.9cm　b:7.1cm　c:1.7cm	1面下～2面上
33－27	かわらけ	a:8.8cm　b:6.0cm　c:1.8cm	〃　〃
33－28	かわらけ	a:8.8cm　b:6.5cm　c:1.4cm	〃　〃
33－29	かわらけ	a:8.8cm　b:5.6cm　c:2.9cm	〃　〃
33－30	かわらけ	a:10.4cm　b:6.5cm　c:2.7cm	〃　〃
33－31	かわらけ	a:11.0cm　b:7.1cm　c:2.8cm	〃　〃
33－32	かわらけ	a:11.4cm　b:8.4cm　c:3.2cm	〃　〃
33－33	かわらけ	a:11.8cm　b:7.7cm　c:3.6cm	〃　〃
33－34	かわらけ	a:11.6cm　b:8.4cm　c:2.85cm	〃　〃
33－35	かわらけ	a:12.0cm　b:8.8cm　c:2.9cm	〃　〃
33－36	かわらけ	a:12.8cm　b:9.0cm　c:2.9cm	〃　〃
33－37	かわらけ	a:13.1cm　b:9.2cm　c:3.3cm	〃　〃
33－38	かわらけ	a:13.2cm　b:10.0cm　c:3.2cm	〃　〃
33－39	かわらけ	a:12.2cm　b:8.4cm　c:3.3cm	〃　〃
33－40	かわらけ	a:13.0cm　b:8.8cm　c:3.15cm	〃　〃
33－41	かわらけ	a:13.3cm　b:9.3cm　c:2.9cm	〃　〃
33－42	かわらけ	a:13.0cm　b:7.5cm　c:3.4cm	〃　〃
33－43	かわらけ	a:13.4cm　b:9.5cm　c:3.4cm	〃　〃
33－44	かわらけ	a:13.4cm　b:9.0cm　c:3.5cm	〃　〃
33－45	かわらけ	a:8.5cm　b:6.4cm　c:1.8cm	〃　〃
33－46	かわらけ	a:8.6cm　b:6.5cm　c:1.9cm	〃　〃
33－47	かわらけ	a:8.8cm　b:7.2cm　c:1.7cm	〃　〃
33－48	かわらけ	a:8.8cm　b:6.8cm　c:1.7cm	〃　〃
33－49	かわらけ	a:8.8cm　b:6.6cm　c:1.5cm	〃　〃
33－50	かわらけ	a:9.2cm　b:1.8cm　c:1.85cm	〃　〃
33－51	かわらけ	a:9.8cm　b:8.0cm　c:1.8cm	〃　〃
33－52	かわらけ	a:9.7cm　b:8.1cm　c:1.9cm	〃　〃
33－53	かわらけ	a:12.0cm　b:6.2cm　c:2.9cm	〃　〃
33－54	かわらけ	a:13.0cm　b:11.2cm　c:3.4cm	〃　〃
33－55	かわらけ	a:13.1cm　b:11.6cm　c:3.0cm	〃　〃
33－56	かわらけ	a:13.3cm　b:7.8cm　c:3.1cm	〃　〃
33－57	かわらけ	a:13.4cm　b:9.0cm　c:3.3cm	〃　〃
33－58	かわらけ	a:13.8cm　b:12.8cm　c:3.5cm	〃　〃
33－59	白かわらけ	口縁部片	〃　〃
33－60	青磁　蓮弁文碗	口縁部片	〃　〃
33－61	青磁　劃花文碗	高台径:4.6cm	〃　〃
33－62	白磁　口兀碗	a:11.6cm	〃　〃
33－63	白磁　口兀皿	a:9.8cm	〃　〃
33－64	白磁　草花文碗	体部片	〃　〃
33－65	青白磁　印花文碗	体部片	〃　〃
33－66	白磁　連珠文壺	a:8.6cm	〃　〃
33－67	白磁　合子	a:3.8cm　b:3.4cm　c:2.1cm	〃　〃

表10　法量表（10）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
33－68	白磁　花瓶	底部片	1面下～2面上
33－69	青白磁　小皿	a:6.2cm	〃　〃
33－70	青白磁　小皿	a:7.8cm	〃　〃
33－71	青白磁　合子	a:4.2cm	〃　〃
33－72	青白磁　小壺	体部片	〃　〃
33－73	青白磁　小壺	肩部片	〃　〃
33－74	青白磁　梅瓶	肩部片	〃　〃
33－75	緑釉　盤	口縁部片	〃　〃
33－76	緑釉　盤	口縁部片	〃　〃
33－77	褐釉　壺	胴部片	〃　〃
34－1	瀬戸　卸皿	底部～体部片	〃　〃
34－2	瀬戸　瓶子	肩部片	〃　〃
34－3	常滑　甕	口縁部片	〃　〃
34－4	常滑　甕	口縁～頸部片	〃　〃
34－5	常滑　甕	口縁～恵那片	〃　〃
34－6	常滑　甕	口縁部片	〃　〃
34－7	常滑　甕	口縁部片	〃　〃
34－8	常滑　甕	口縁～頸部片	〃　〃
34－9	常滑　甕	口縁～頸部片	〃　〃
34－10	常滑　甕	口縁～頸部片	〃　〃
34－11	常滑　甕	底部片	〃　〃
34－12	常滑　甕	b:22.0cm	〃　〃
34－13	常滑　甕	b:17.0cm	〃　〃
34－14	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
34－15	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
34－16	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
34－17	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃　〃
34－18	常滑　I類捏鉢	b:11.2cm	〃　〃
34－19	常滑　I類捏鉢	b:13.8cm	〃　〃
34－20	軒瓦	厚:2.5cm	〃　〃
34－21	男瓦	厚:1.7cm	〃　〃
34－22	男瓦	厚:1.6cm	〃　〃
34－23	女瓦	厚:2.4cm	〃　〃
34－24	かわらけ円盤	直径:3.6cm　厚:1.2cm	〃　〃
34－25	銅銭	開元通宝	〃　〃
34－26	銅銭	元豊通宝	〃　〃
34－27	鉄製品　釘	残存長:4.8cm	〃　〃
34－28	鉄製品　釘	残存長:7.3cm	〃　〃
34－29	滑石製　鍋	a:18.4cm	〃　〃
34－30	滑石製　鍋	口縁綿片	〃　〃
34－31	滑石製　鍋	口縁部片	〃　〃
34－32	石製品　硯	残存長:7.8cm	〃　〃

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
37－1	かわらけ	a:9.2cm　b:6.9cm　c:1.7cm	3面　土壙1
37－2	かわらけ	a:8.6cm　b:7.1cm　c:1.6cm	〃　〃
37－3	かわらけ	a:9.2cm　b:7.5cm　c:1.4cm	〃　〃
37－4	かわらけ	a:14.3cm　b:11.6cm　c:3.8cm	〃　〃
37－5	かわらけ	a:8.7cm　b:6.3cm　c:1.6cm	3面　土壙2
37－6	かわらけ	a:12.6cm　b:9.5cm　c:3.4cm	〃　〃
37－7	常滑　I類捏鉢	a:23.0cm	〃　〃
37－8	常滑　I類捏鉢	b:15.1cm	〃　〃
37－9	かわらけ	a:9.7cm　b:8.5cm　c:2.4cm	3面　土壙3
37－10	かわらけ	a:8.6cm　b:6.5cm　c:1.6cm	〃　〃
37－11	かわらけ	a:9.3cm　b:7.6cm　c:1.5cm	3面　土壙5
37－12	常滑　甕	b:20.5cm	〃　〃
37－13	かわらけ	a:13.1cm　b:8.5cm　c:3.3cm	3面　土壙6
37－14	かわらけ	a:12.7cm　b:9.8cm　c:2.9cm	〃　〃
37－15	かわらけ	a:9.5ccm　b:7.5cm　c:1.7cm	3面　土壙7
37－16	かわらけ	a:12.6cm　b:10.8cm　c:2.4cm	〃　〃
37－17	女瓦	厚:2.3cm	3面　土壙9
37－18	かわらけ	a:11.8cm　b:10.6cm	3面 溝状土壙1
37－19	かわらけ	a:15.8cm　b:13.3cm　c:3.3cm	〃　〃
39－1	青磁　櫛描文皿	a:7.1cm	3面　溝1
39－2	青磁　櫛描文碗	a:14.7cm	〃　〃
39－3	山茶碗	a:15.6cm	〃　〃
39－4	木製品　下駄	長:23.2cm　幅:11.4cm　厚:1.9cm	〃　〃
39－5	用途不明木製品	長:8.5cm　幅:4.1cm　厚:3.7cm	〃　〃
39－6	用途不明木製品	長:40.1cm　幅:5.1cm　厚:1.2cm	〃　〃
40－1	かわらけ	a:8.7cm　b:6.0cm　c:1.7cm	3面　ﾋﾟｯﾄ1
40－2	かわらけ	a:9.8cm　b:7.4cm　c:1.6cm	〃　〃
40－3	かわらけ	a:11.5cm　b:10.1cm　c:1.9cm	〃　〃
40－4	木製品　箱物	長:15.3cm　幅:2.4cm　厚:0.7cm	〃　〃
40－5	木製品　漆器皿	a:9.4cm	3面　ﾋﾟｯﾄ2
40－6	常滑　甕	口縁～頸部	3面　ﾋﾟｯﾄ4
40－7	山茶碗	口縁部	3面　ﾋﾟｯﾄ45
40－8	かわらけ	a:8.9cm　b:7.8cm　c:1.8cm	3面　ﾋﾟｯﾄ7
40－9	木製品　皿	a:8.8cm　b:6.1cm　c:1.6cm	3面　ﾋﾟｯﾄ10
40－10	木製品　箸	長:20.7cm	〃　〃
40－11	男瓦	厚:1.7cm	3面　ﾋﾟｯﾄ12
40－12	女瓦	厚:2.3cm	
40－13	かわらけ	a:14.8cm　b:12.5cm　c:3.7cm	3面　ﾋﾟｯﾄ14
40－14	常滑　I類捏鉢	a:20.0cm	3面　ﾋﾟｯﾄ15
40－15	木製品　皿	b:8.0cm	3面　ﾋﾟｯﾄ19
40－16	かわらけ	a:8.0cm　b:5.8cm　c:1.6cm	3面　ﾋﾟｯﾄ20
40－17	用途不明木製品	長:11.6cm　幅:1.7cm　厚:0.7cm	3面　ﾋﾟｯﾄ21

表11　法量表(11)

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
40－18	用途不明木製品	長:6.5cm　幅:1.6cm　厚:1,5cm	3面　ピット21
40－19	かわらけ	a:8.7cm　b:7.2cm　c:1.6cm	3面　ピット22
40－20	かわらけ	a:9.3cm　b:8.2cm　c:2.2cm	〃　〃
40－21	かわらけ	a:12.6cm　b:9.3cm　c:3.3cm	3面　ピット24
40－22	かわらけ	a:12.7cm　b:8.3cm　c:3.4cm	3面　ピット25
40－23	木製品　箸	残存長:11.5cm	3面　ピット26
41－1	男瓦	厚:2.1cm	3面　ピット28
41－2	かわらけ	a:13.2cm　b:11.5cm　c:3.1cm	3面　ピット33
41－3	かわらけ	a:13.6cm　b:11.0cm　c:2.9cm	3面　ピット35
41－4	かわらけ	a:13.1cm　b:10.6cm　c:3.4cm	3面　ピット37
41－5	かわらけ	a:8.8cm　b:7.2cm　c:1.6cm	3面　ピット39
41－6	用途不明木製品	長:7.3cm　幅:0.9cm　厚:0.7cm	〃　〃
41－7	かわらけ	a:10.2cm　b:8.1cm　c:1.5cm	3面　ピット40
41－8	かわらけ	a:8.7cm　b:6.7cm　c:1.6cm	3面　ピット42
41－9	常滑　Ⅰ類捏鉢	a:34.2cm　b:13.5cm　c:12.7cm	3面　ピット43
41－10	かわらけ	a:7.7cm　b:6.5cm　c:1.5cm	3面　ピット44
41－11	かわらけ	a:8.4cm　b:6.0cm　c:1.6cm	〃　〃
41－12	常滑　甕	口縁～頸部片	〃　〃
41－13	常滑　甕	口縁～頸部片	〃　〃
4－14	銅銭	元祐通宝	〃　〃
41－15	木製品　折敷	長:15.5cm　幅:2.8cm　厚:0.2cm	3面　ピット45
41－16	用途不明木製品	長:12.5cm　幅:0.8cm　厚:0.5cm	〃　〃
41－17	青白磁　小皿	口縁部片	3面　ピット46
41－18	男瓦	厚:2.2cm	3面　ピット49
41－19	女瓦	厚:2.2cm	〃　〃
41－20	女瓦	厚:2.1cm	〃　〃
42－1	かわらけ	a:8.8cm　b:6.8cm　c:1.8cm	3面　ピット50
42－2	かわらけ	a:8.0cm　b:6.9cm　c:1.4cm	〃　〃
42－3	かわらけ	a:8.8cm　b:6.8cm　c:1.7cm	〃　〃
42－4	常滑　甕	b:12.0cm	〃　〃
42－5	かわらけ	a:8.7cm　b:6.0cm　c:1.7cm	3面　ピット51
42－6	かわらけ	a:9.0cm　b:6.2cm　c:1.5cm	〃　〃
42－7	女瓦	厚:1.7cm Ⅱ区3面　ピット5	
42－8	かわらけ	a:8.1cm　b:7.2cm　c:2.0cm	3面　ピット5
42－9	かわらけ	a:8.8cm　b:8.3cm　c:2.5cm	〃　〃
42－10	男瓦	厚:1.9cm	〃　〃
42－11	女瓦	厚:1.8cm Ⅱ区	3面　ピット55
42－12	用途不明木製品	長:11.3cm　幅:0.9cm　厚:0.3cm	3面　ピット58
42－13	木製品　箸	長:23.8cm　幅:0.5cm　厚:0.3cm	〃　〃
42－14	かわらけ	a:12.7cm　b:11.1cm　c:2.9cm	3面　ピット61
42－15	かわらけ	a:14.5cm　b:12.7cm　c:2.8cm	〃　〃
42－16	常滑　Ⅰ類	捏鉢a:22.0cm	〃　〃

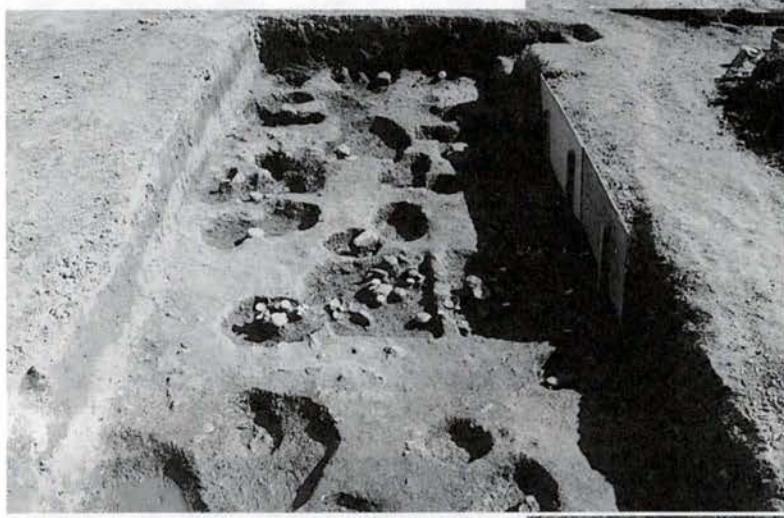
図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
42－17	常滑　甕	口縁～頸部	3面　ピット61
42－18	女瓦	厚:2.3cm	3面　ピット63
42－19	女瓦	厚:2.1cm	〃　〃
43－1	山茶碗	b:5.7cm	3面　ピット66
43－2	女瓦	厚:2.9cm	3面　ピット68
43－3	女瓦	厚:1.7cm	3面　ピット69
43－4	かわらけ	a:13.8cm　b:11.5cm　c:3.5cm	3面　ピット72
43－5	かわらけ	a:8.6cm　b:7.1cm　c:1.5cm	3面　ピット73
43－6	かわらけ	a:9.1cm　b:8.2cm　c:2.6cm	3面　ピット74
43－7	かわらけ	a:13.0cm　b:11.8cm　c:3.1cm	3面　ピット75
43－8	かわらけ	a:8.5cm　b:6.6cm　c:1.6cm	3面　ピット76
43－9	常滑　壺	b:12.8cm	〃
43－10	女瓦	厚:1.9cm	〃
43－11	かわらけ	a:9.1cm　b:6.0cm　c:1.5cm	3面　ピット77
43－12	かわらけ	a:8.3cm　b:5.8cm　c:1.6cm	〃
43－13	山茶皿	a:9.2cm　b:4.7cm　c:2.2cm	〃
43－14	常滑　壺	口縁～頸部片	〃
43－15	常滑　Ⅰ類捏鉢	b:18.8cm	〃
43－16	女瓦	厚:2.4cm	〃
43－17	かわらけ	a:9.2cm　b:6.9cm　C:1.7cm	3面　ピット78
43－18	かわらけ	a:9.0cm　b:7.3cm　c:1.6cm	3面　ピット83
43－19	かわらけ	a:8.8cm　b:6.8cm　c:1.7cm	〃
43－20	かわらけ	a:9.3cm　b:8.5cm　c:2.4cm	〃
43－21	かわらけ	a:9.7cm　b:8.9cm　c:2.1cm	〃
43－22	青磁　劃花文椀	a:10.0cm　b:4.0cm　c:2.35cm	〃
44－1	かわらけ	a:8.2cm　b:6.6cm　c:1.5cm	2面下～3面上
44－2	かわらけ	a:8.2cm　b:6.4cm　c:1.7cm	〃
44－3	かわらけ	a:8.25cm　b:6.2cm　c:1.6cm	〃
44－4	かわらけ	a:8.8cm　b:6.8cm　c:1.3cm	〃
44－5	かわらけ	a:8.8cm　b:7.1cm　c:1.6cm	〃
44－6	かわらけ	a:8.1cm　b:6.6cm　c:1.fcm	〃
44－7	かわらけ	a:8.5cm　b:6.8cm　c:1.7cm	〃
44－8	かわらけ	a:8.6cm　b:5.5cm　c:1.8cm	〃
44－9	かわらけ	a:8.8cm　b:6.6cm　c:1.6cm	〃
44－10	かわらけ	a:9.0cm　b:6.Ocm　c:1.8cm	〃
44－11	かわらけ	a:9.2cm　b:6.0cm　C:1.fcm	〃
44－12	かわらけ	a:9.0cm　b:6.8cm　c:Z Ocm	〃
44－13	かわらけ	a:9.4cm　b:6.8cm　c:1.4cm	〃
44－14	かわらけ	a:9.2cm　b:6.6cm　c:1.5cm	〃
44－15	かわらけ	a:9.6cm　b:7.0cm　c:1.9cm	〃
44－16	かわらけ	a:12.1cm　b:7.7cm　c:2.9cm	〃
44－17	かわらけ	a:12.0cm　b:8.5cm　c:2.9cm	〃

表12　法量表（12）

図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
44－18	かわらけ	a:12.6cm　b:7.6cm　c:2.9cm	2面下～3面上
44－19	かわらけ	a:12.1cm　b:8.2cm　c:2.9cm	〃
44－20	かわらけ	a:12.4cm　b:9.0cm　c:2.8cm	〃
44－21	かわらけ	a:12.5cm　b:9.4cm　c:2.6cm	〃
44－22	かわらけ	a:12.8cm　b:9.0cm　c:3.0cm	〃
44－23	かわらけ	a:13.4cm　b:9.6cm　c:3.2cm	〃
44－24	かわらけ	a:7.6cm　b:8.2cm　c:1.1cm	〃
44－25	かわらけ	a:8.2cm　b:6.1cm　c:1.5cm	〃
44－26	かわらけ	a:8.2cm　b:7.2cm　c:1.7cm	〃
44－27	かわらけ	a:8.6cm　b:7.3cm　c:1.9cm	〃
44－28	かわらけ	a:8.6cm　b:7.4cm　c:1.7cm	〃
44－29	かわらけ	a:8.6cm　b:7.0cm　c:1.7cm	〃
44－30	かわらけ	a:8.6cm　b:7.9cm　c:1.7cm	〃
44－31	かわらけ	a:8.7cm　b:6.4cm　c:1.7cm	〃
44－32	かわらけ	a:9.1cm　b:8.0cm　c:1.6cm	〃
44－33	かわらけ	a:8.8cm　b:8.0cm　c:17cm	〃
44－34	かわらけ	a:9.0cm　b:7.4cm　c:1.8cm	〃
44－35	かわらけ	a:9.1cm　b:8.0cm　c:1.9cm	〃
44－36	かわらけ	a:9.0cm　b:8.0cm　c:21cm	〃
44－37	かわらけ	a:9.5cm　b:7.5cm　c:1.8cm	〃
44－38	かわらけ	a:9.4cm　b:8.0cm　c:2.1cm	〃
44－39	かわらけ	a:12.0cm　b:10.8cm　c:2.8cm	〃
44－40	かわらけ	a:12.0cm　b:10.0cm　c:2.5cm	〃
44－41	かわらけ	a:13.0cm　b:10.8cm　c:3.0cm	〃
44－42	かわらけ	a:13.2cm　b:11.6cm　c:3.4cm	〃
44－43	かわらけ	a:13.1cm　b:12.0cm　c:3.2cm	〃
44－44	かわらけ	a:13.6cm　b:11.8cm　c:3.7cm	〃
44－45	白かわらけ	a:7.5cm　b:4.8cm　c:1.5cm	〃
44－46	白かわらけ	a:6.8cm　b:7.8cm　c:1.3cm	〃
44－47	青磁　劃花文碗	a:14.5cm	〃
44－48	青磁　蓮弁文碗	a:13.6cm 高台径:5.0cm c:5.4cm	〃
44－49	青磁　蓮弁文碗	高台径:5.8cm	〃
44－50	青磁　櫛描皿	a:9.8cm	〃
44－51	青磁　劃花文碗	口縁部片	〃
44－52	白磁　玉縁碗	a:16.0cm	〃
44－53	白磁　口兀碗	a:14.0cm	〃
44－54	白磁　壷	a:10.4cm	〃
44－55	山皿	a:7.6cm　b:4.1cm　c:1.75cm	〃
44－56	瀬戸　四耳壷	口縁部片	〃
44－57	常滑　鳶口壷	b:10.4cm	〃
44－58	常滑　甕	a:18.0cm	〃
44－59	常滑　甕	b:13.6cm	〃

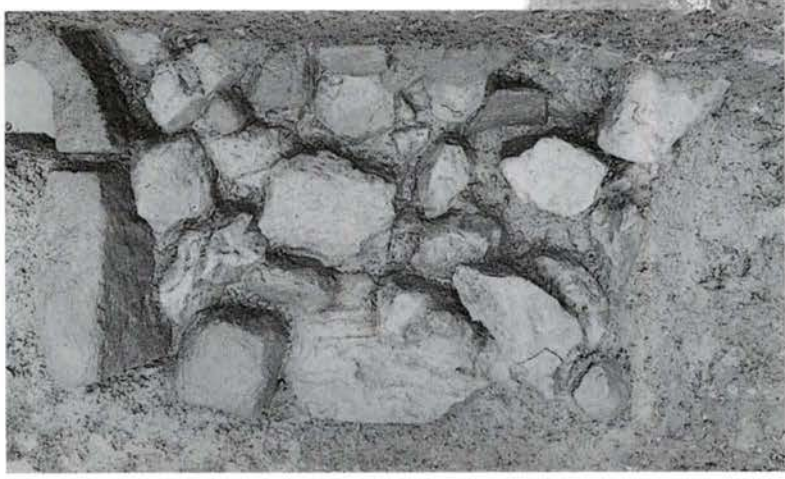
図・番号	種　類	法量（a:口径　b:底径　c:器高）	遺構・その他
44－60	常滑　甕	a:39.9cm	2面下～3面上
44－61	常滑　甕	口縁～頸部片	〃
44－62	常滑　甕	口縁～頸部片	〃
44－63	常滑　甕	b:20.8cm	〃
45－64	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃
45－65	常滑　I類捏鉢	口縁部片	〃
45－66	山茶碗	口縁部片	〃
45－67	常滑　I類捏鉢	b:13.6cm	〃
45－68	渥美　刻画文壷	a:15.2cm	〃
45－69	渥美　壷	a:10.6cm	〃
45－70	渥美　壷	a:11.5cm	〃
45－71	渥美　壷	b:9.0cm	〃
45－72	渥美　壷	口縁～肩部片	〃
45－73	瓦器　碗	a:10.6cm	〃
45－74	男瓦	厚:2.3cm	〃
45－75	女瓦	厚:2.4cm	〃
45－76	女瓦	厚:2.9cm	〃
46－77	滑石製　鍋	a:16.4cm	〃
46－78	滑石製　鍋	体部片	〃
46－79	石製品　砥石	残存長:6.7cm	〃
46－80	石製品　軽石	7.5cm×4.8cm×3.8cm	〃
46－81	石製品　軽石	6.2cm×6.7cm×2.6cm	〃
46－82	木製品　箸	長:21.9cm　幅:0.5cm　厚:0.5cm	〃
46－83	木製品用途不明	長:26.2cm　幅:2.0cm　厚:1.0cm	〃
46－84	木製品用途不明	長:10.9cm　幅:3.8cm　厚:1.1cm	〃
46－85	木製品用途不明	長:7.2cm　幅:1.9cm　厚:2.9cm	〃
48－1	かわらけ	a:8.5cm　b:6.8cm	中世地山トレンチ
48－2	かわらけ	a:9.5cm　b:7.5cm　c:1.5cm	〃
48－3	土師器　甕	a:17.0cm	〃
48－4	須恵器　坏蓋	天頂部片	〃
48－5	須恵器　甕	口縁～頸部片	〃
48－6	土師器　坏	a:12.0cm　b:9.2cm　c:3.6cm	〃
48－7	土師器　坏	a:13.0cm	〃
48－8	土師器　坏	a:14.0cm　b:13.2cm　c:4.1cm	〃
48－9	土師器　坏	a:15.0cm	〃
48－10	土師器　坏	b:13.4cm	〃
48－11	土師器　壷	a:11.6cm	〃
48－12	土師器　甕	口縁部片	〃
48－13	須恵器　甕	肩部片	〃
48－14	弥生土器　甕	胴部片	〃
48－15	弥生土器	b:6.2cm	〃
48－16	弥生土器　甕	b:6.8cm	〃

Ⅰ区第1面全景a．▶
（西から）



◀ b．Ⅱ区第1面全景
（西から）

土壙8履土堆積c．▶

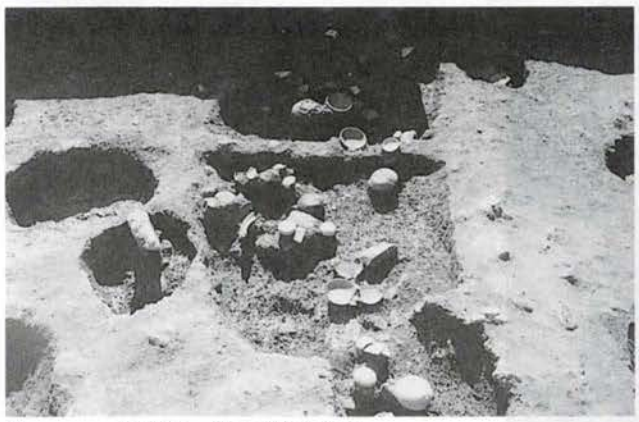


◀ d．土壙8（北から）

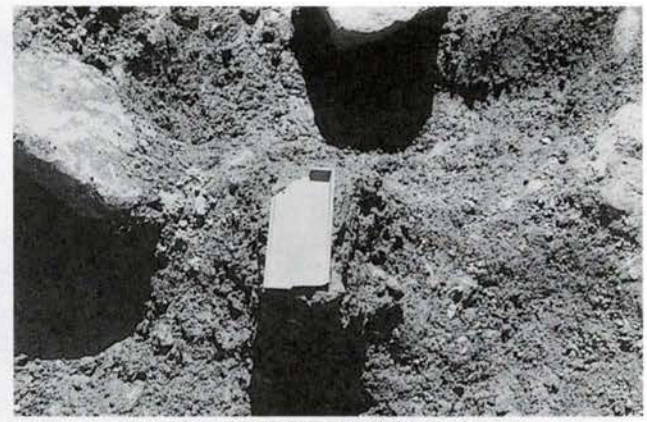
図版 2

▲ a．第１面上　山皿出土状況（西から）

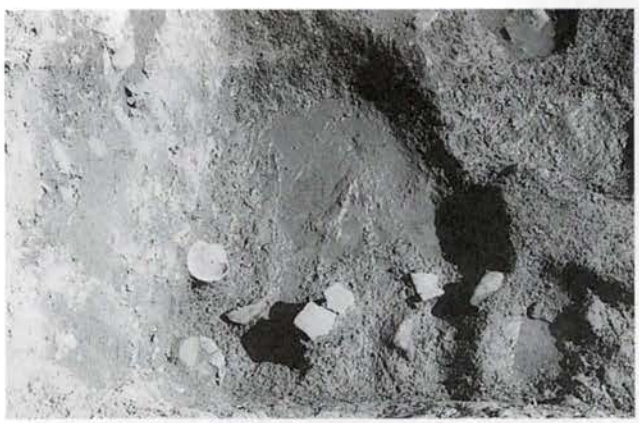
▲ b．土壙５　白磁出土状況（西から）



▲ c．土壙10・37（北から）



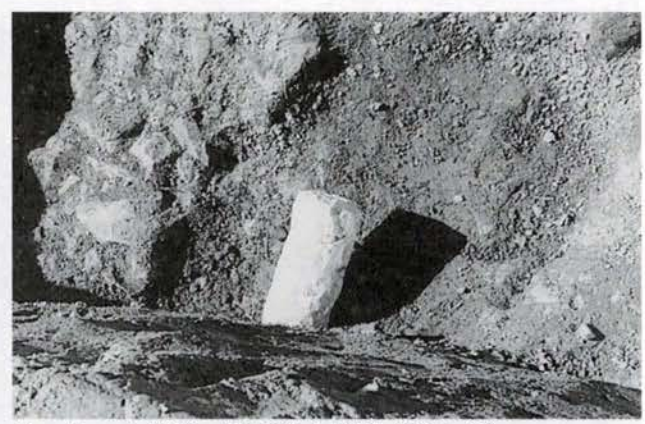
▲ d．土壙11　硯出土状況（北から）



▲ e．土壙12（西から）

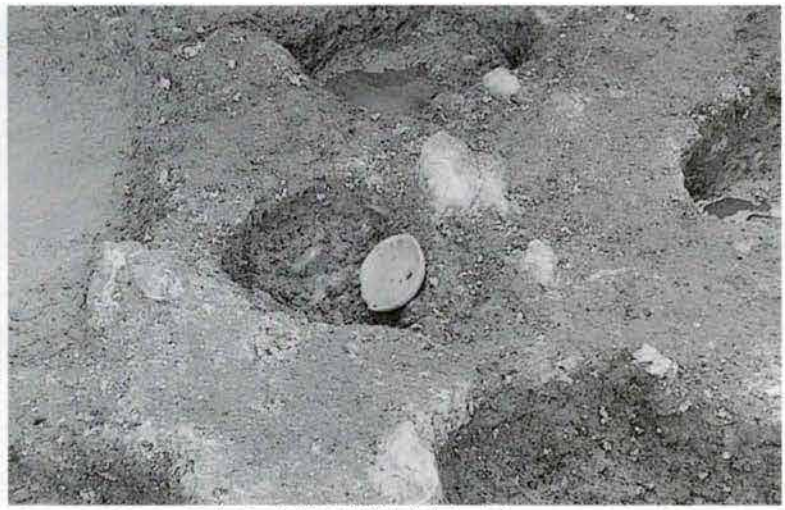
▲ f．土壙14（西から）

▲ g．土壙15（西から）



▲ h．土壙22　砥石出土状況（東から）

▲　a．第１ｂ面全景（西から）



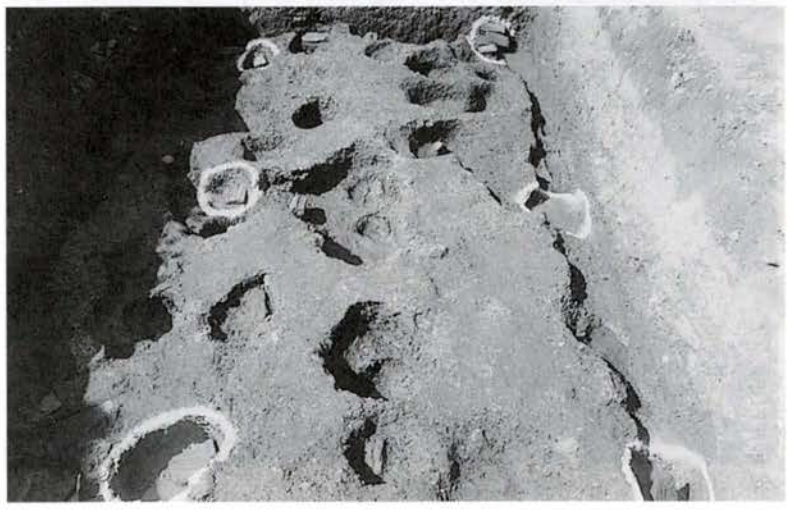
▲　b．P47　かわらけ出土状況（北から）

▲　c．P43　火鉢出土状況（北から）

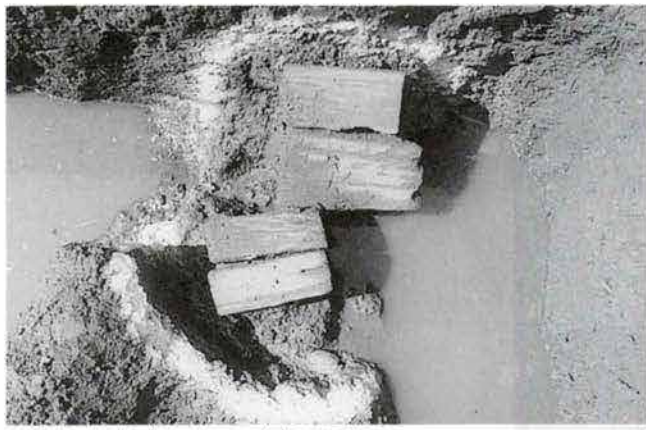
図版 4

◀ a．Ⅰ区第２面全景（西から）

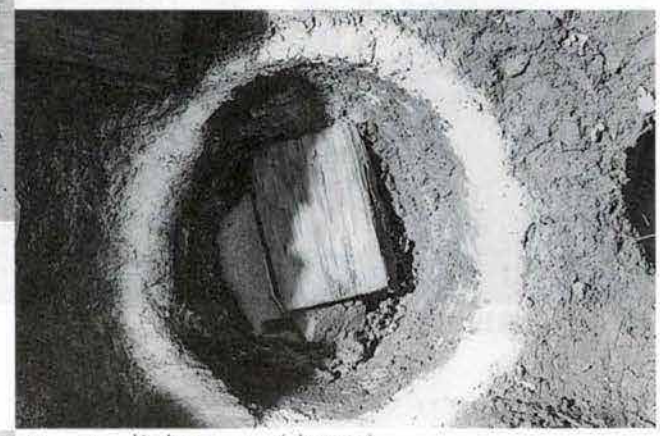
Ⅱ区第２面全景（西から） b．▶



◀ c．第２面建物１（東から）

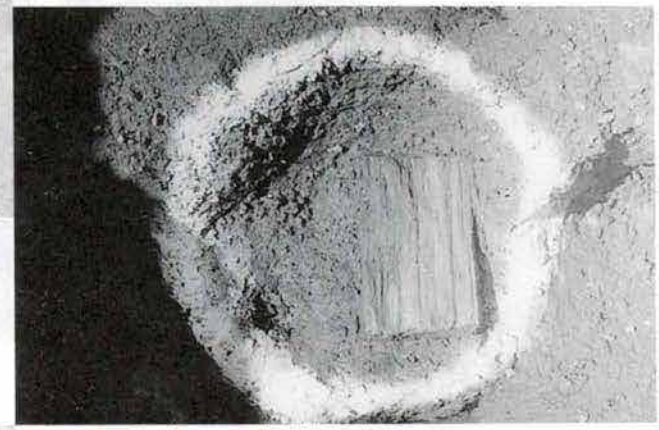


▲ a．柱穴ロ—1（東から）



▲ d．柱穴ハ—1（東から）

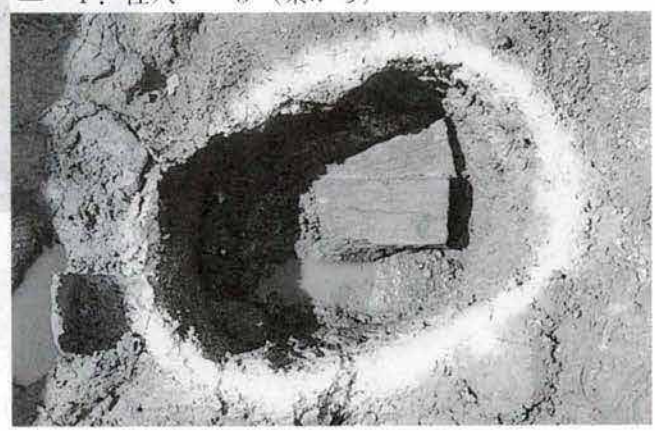
▲ b．柱穴ロ—2（東から）



▲ e．柱穴ハ—2（東から）

▲ c．柱穴ロ—3（東から）

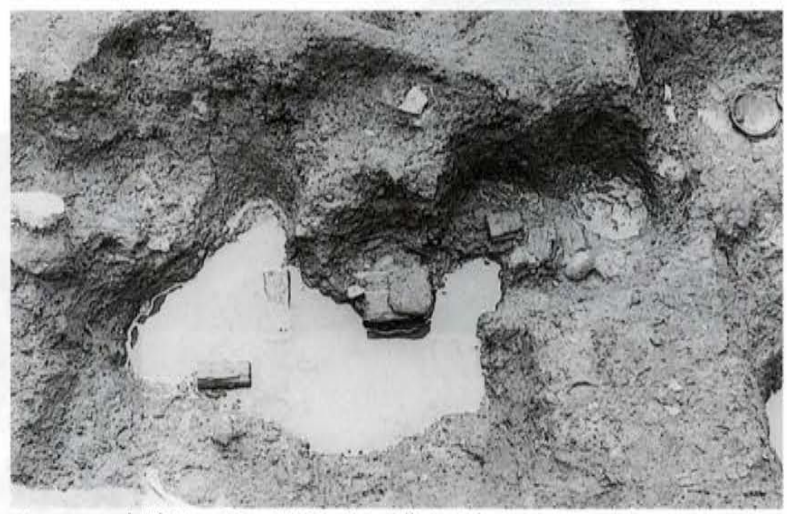
▲ f．柱穴ハ—3（東から）



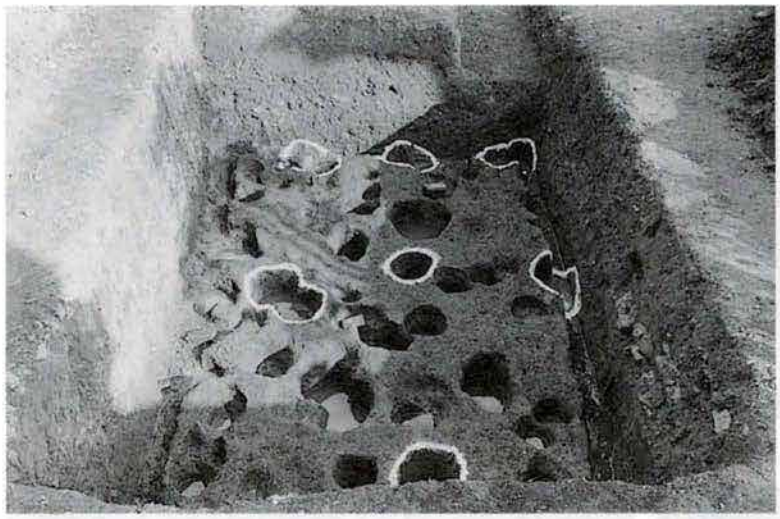
図版 6

▲　a．土壙19（北から）

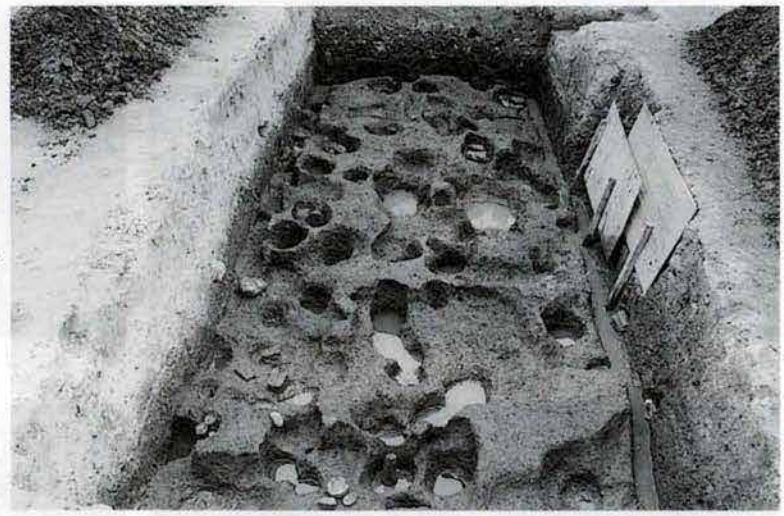
▲　b．土壙20（北から）



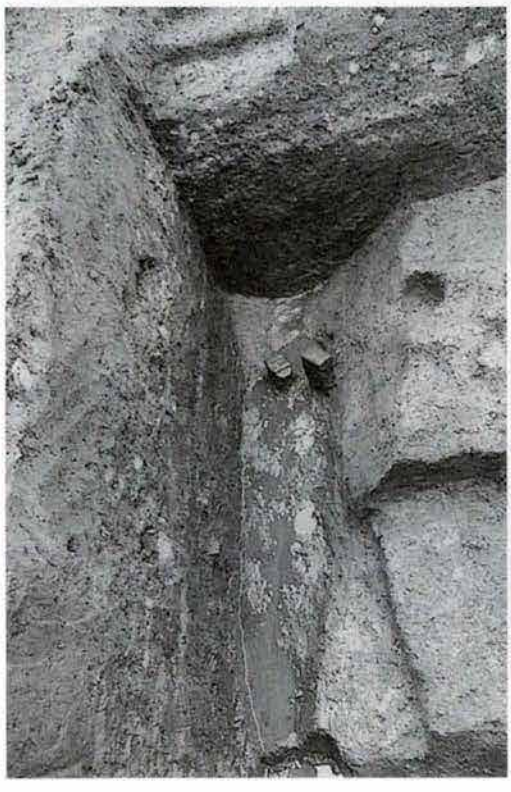
▲　c．土壙11・12・P33・34（北から）



◀ a．Ⅰ区第３面全景（西から）
白○の柱穴が建物



Ⅱ区第３面全景（西から）b．▶



◀ c．溝１（北から）

▲ d．溝１履土堆積

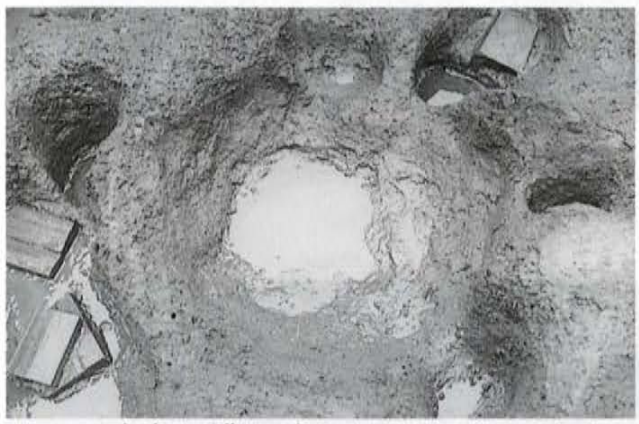
図版 8

▲ a．土壙 2（南から）

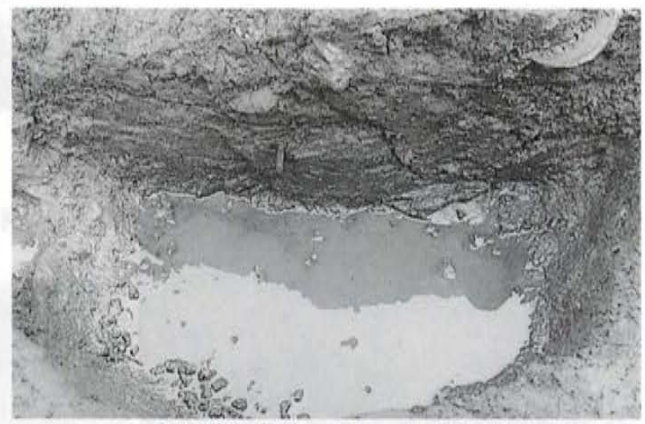
▲ b．土壙 2 履土堆積

▲ c．土壙 5（東から）

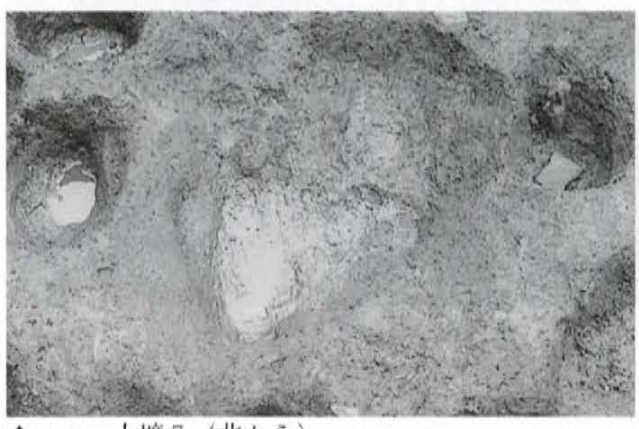
▲ d．土壙 5 履土堆積



▲ e．土壙 6（北から）



▲ f．土壙 6 履土堆積

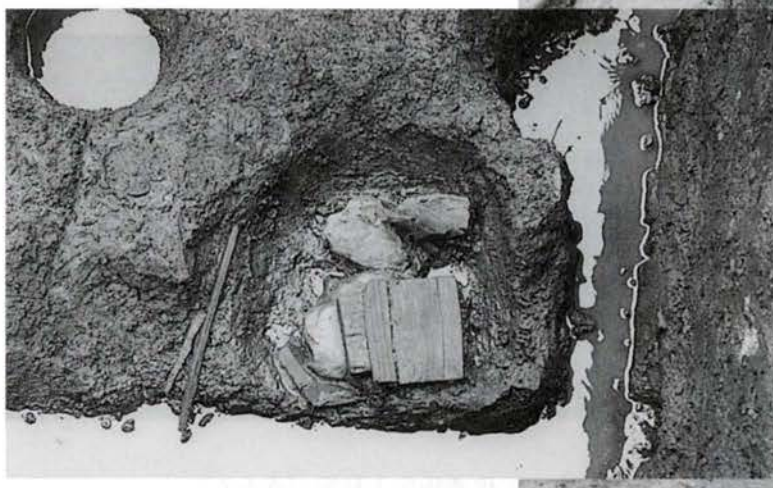


▲ g．土壙 7（北から）

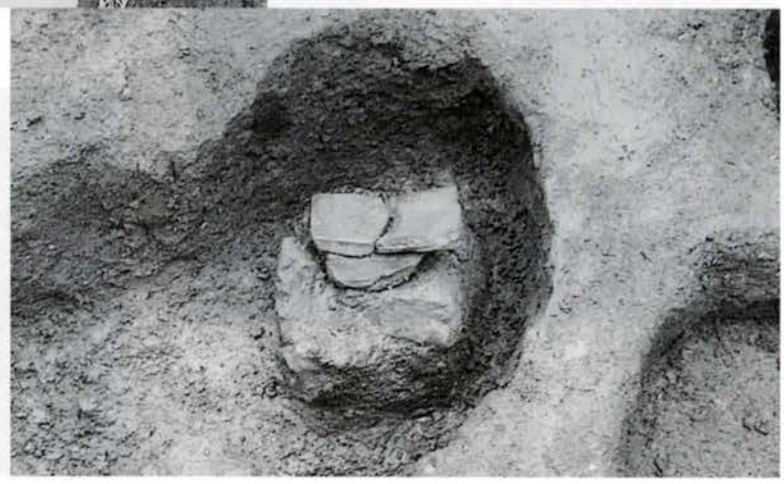
▲ h．土壙 7 履土堆積

◀ a．P40（西から）
底面に礎板 4 枚を
検出

P48（西から） b．▶
底面に礎板 3 枚を
据える



◀ c．P49（南から）
底面に土丹塊と礎板
を据える



P63（北から） d．▶
底面に土丹塊と女
瓦片を据える

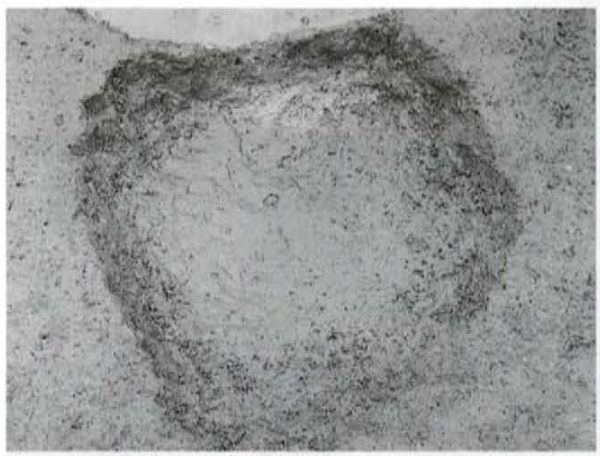
図版10

▲ a．Ⅰ区中世以前全景（西から）

▲ b．Ⅱ区中世以前トレンチ（西から）

▲ c．土壙１（西から）

▲ e．古代遺物出土状況（南から）



▲ d．土壙２（南から）

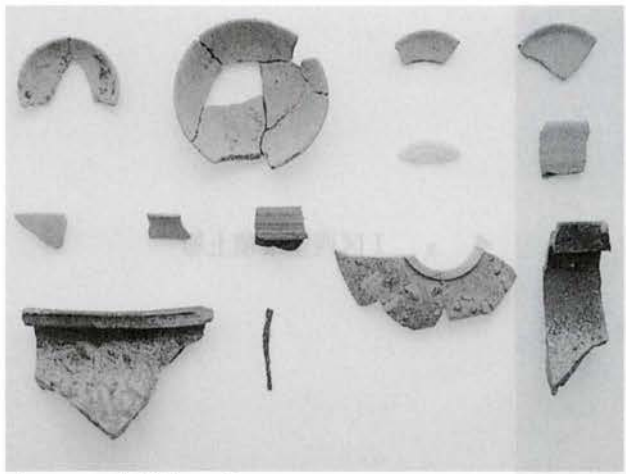
◀ a．Ⅰ区西壁堆積土層

Ⅱ区西壁堆積土層 b．▶

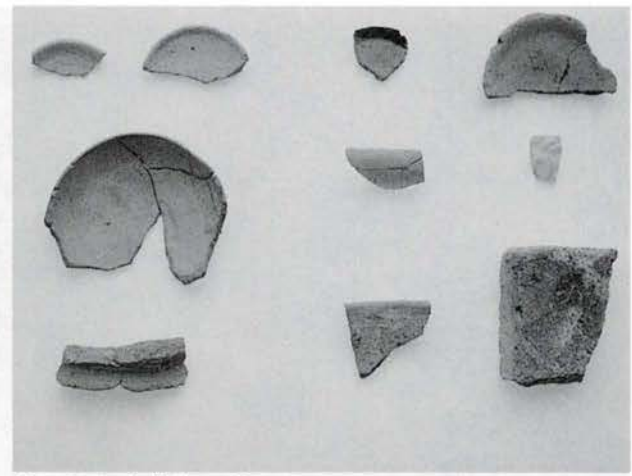
◀ c．調査区北壁堆積土層

調査区東壁堆積土層 d．▶

図版12

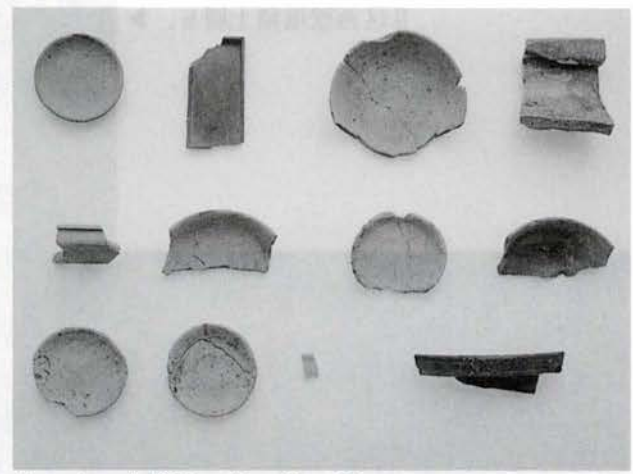


▲ a．土壙１・２

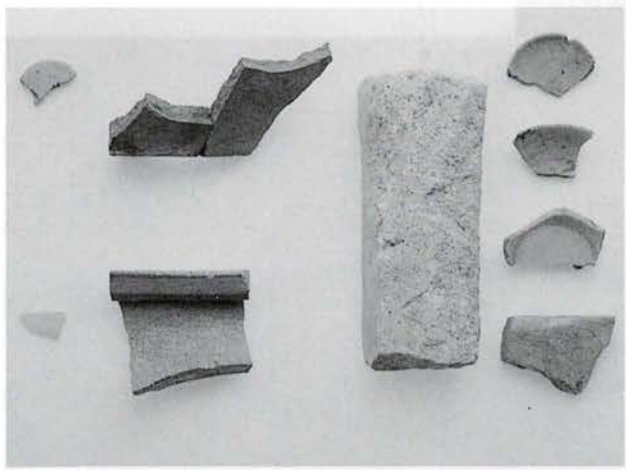


▲ b．土壙４・５

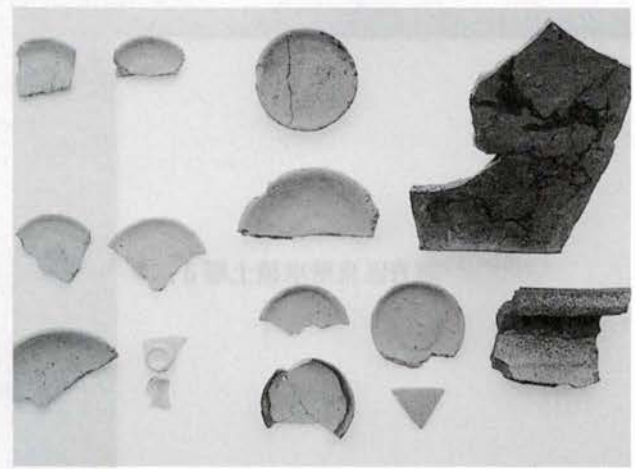
▲ c．土壙６～８



▲ d．土壙10～13・15・17

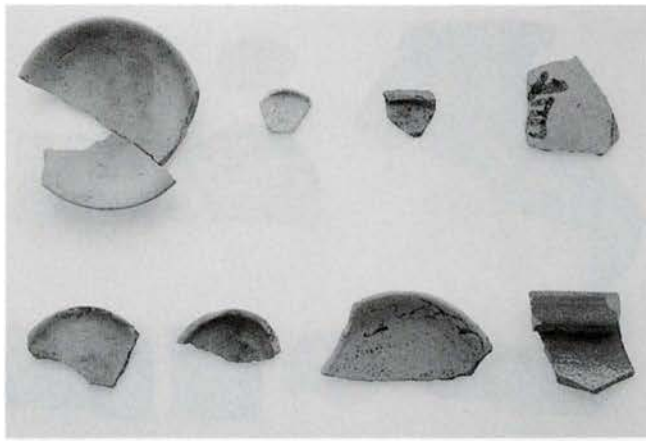


▲ e．土壙19・20・22・26



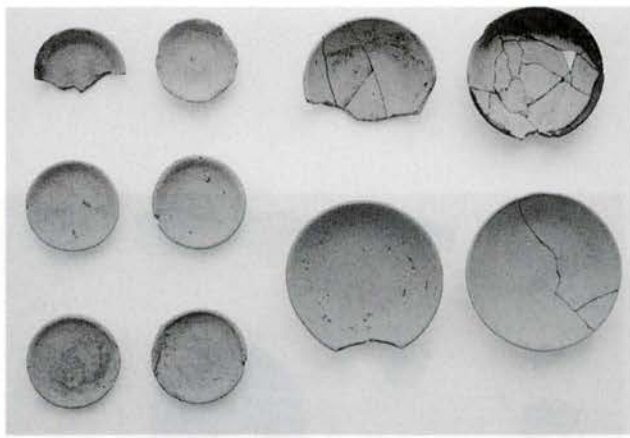
▲ f．土壙27～29・31

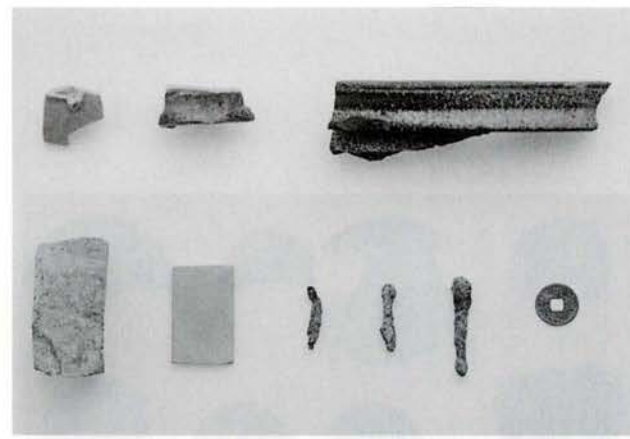
第１面出土遺物(1)



▲ a．土壙32・35

▲ 二彩　黄釉盤

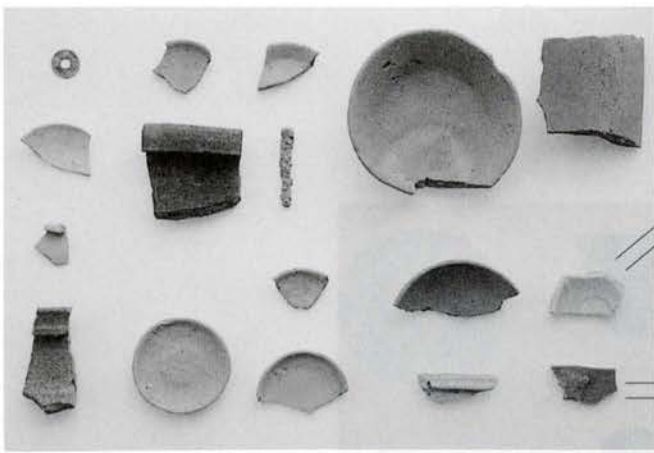




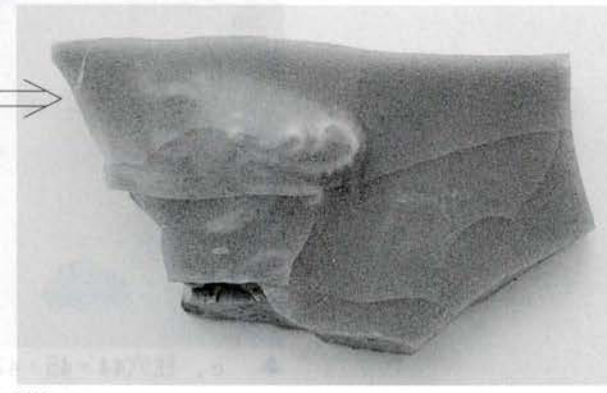
▲ b．土壙37 ▲

青白磁　劃花之碗 ▶

▼ 青磁　折縁皿

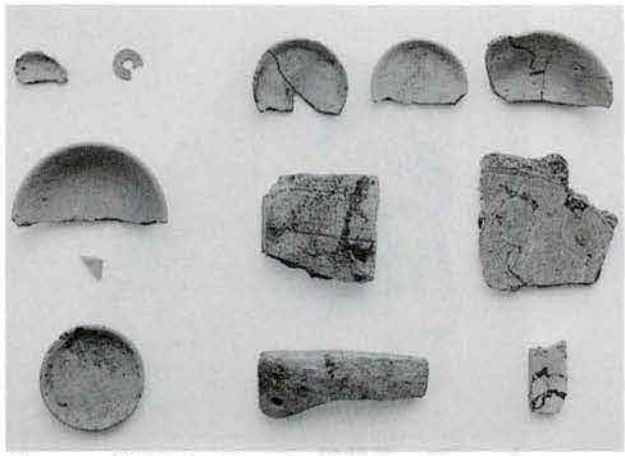


▲ c．柱穴1～8

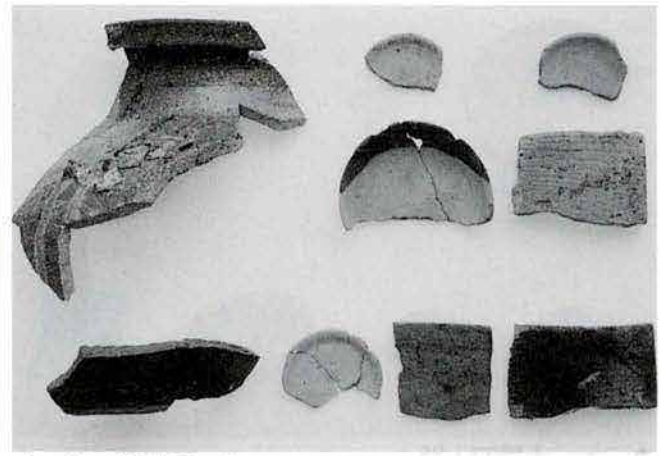


第1面出土遺物(2)

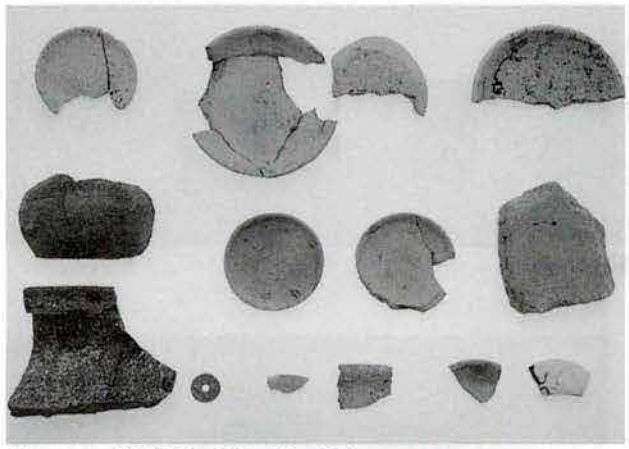
図版14



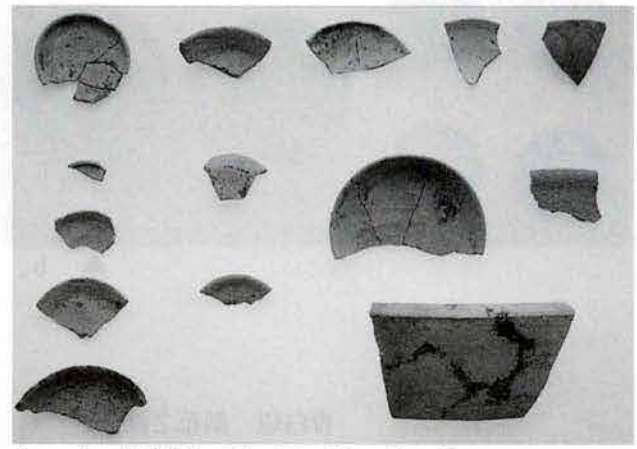
▲ a．柱穴11・12・14・16



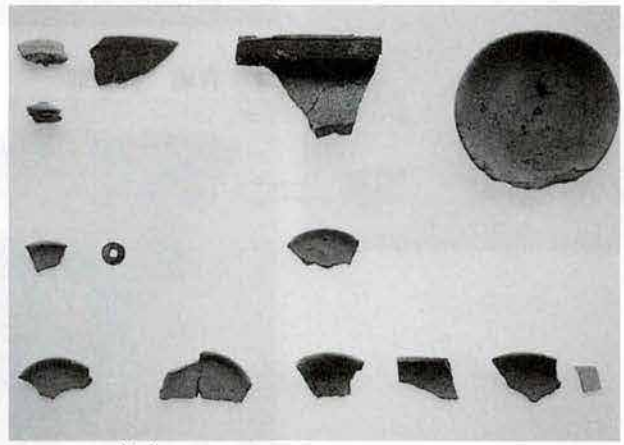
▲ b．柱穴17～9



▲ c．柱穴20～24・26・27

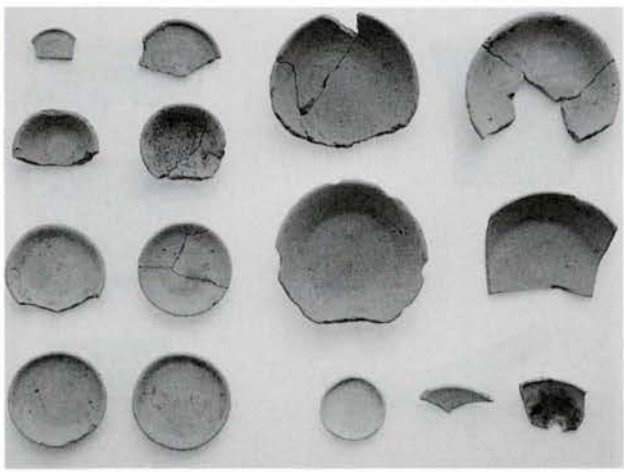


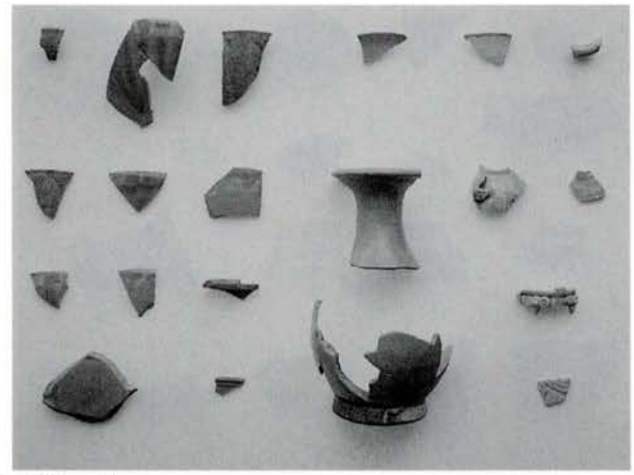
▲ d．柱穴31・34・38・39・41・43



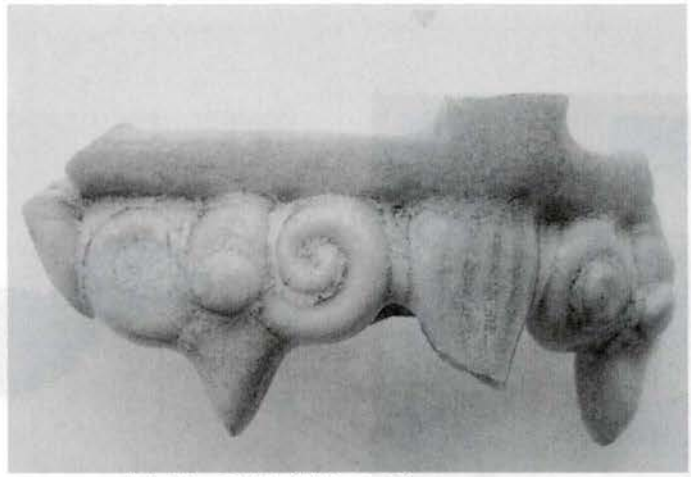
▲ e．柱穴44・45・47～50・52～4・57

第1面出土遺物(3)

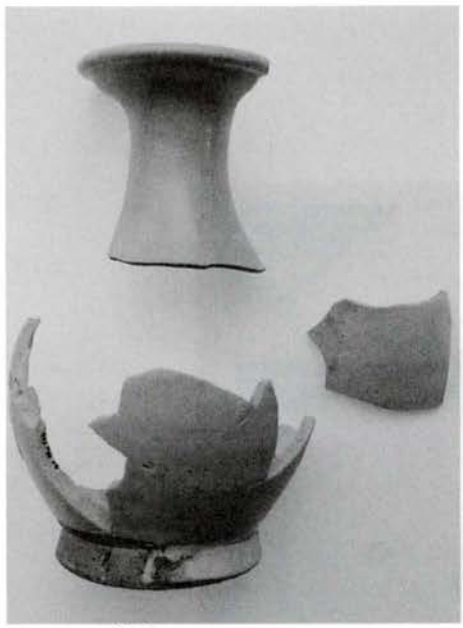




▲　a．第1面上　▲



▲　b．青白磁　香炉（器台か？）



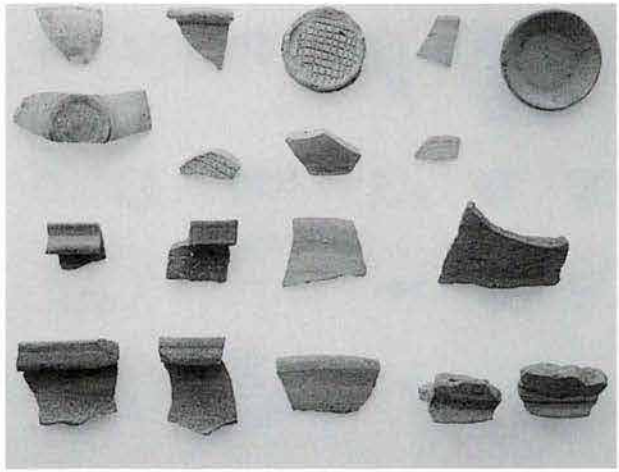
▲　b．柱穴17～9

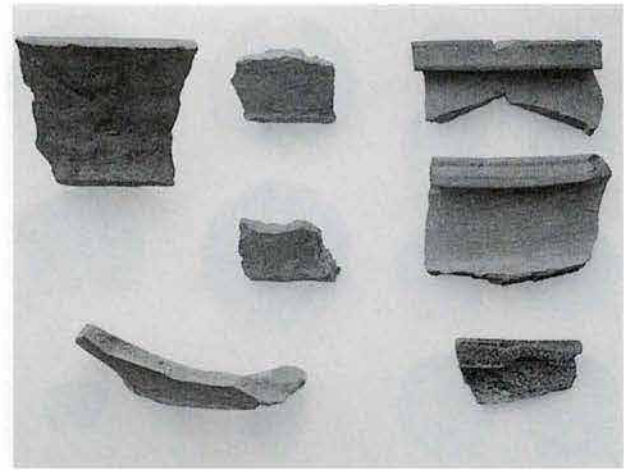
◀c.▶ 白磁花瓶

▲　b．柱穴17～9

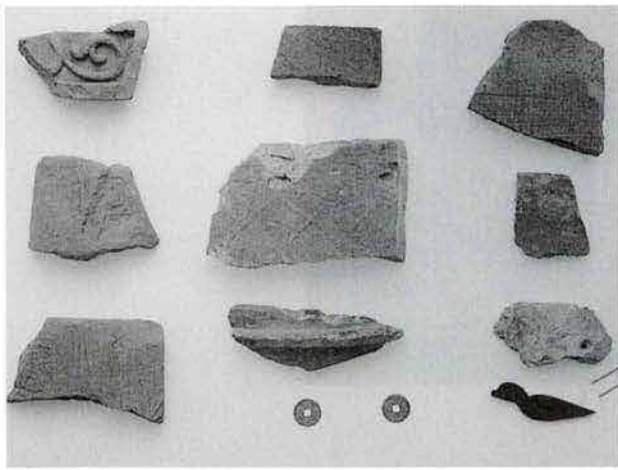
第1面出土遺物(4)

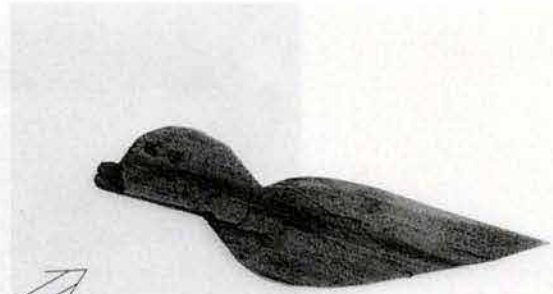
図版16



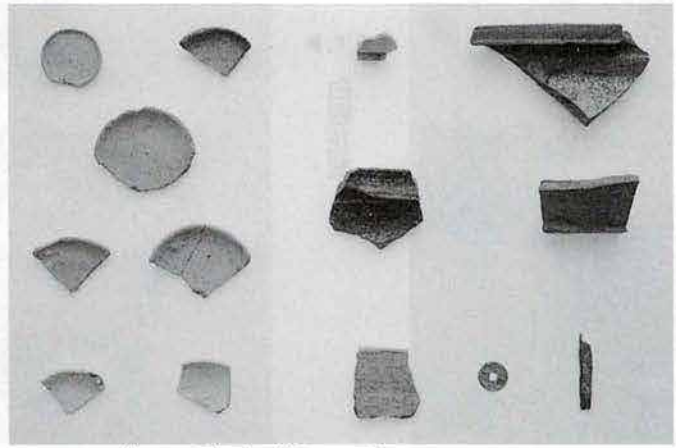


▲ a．第１面上



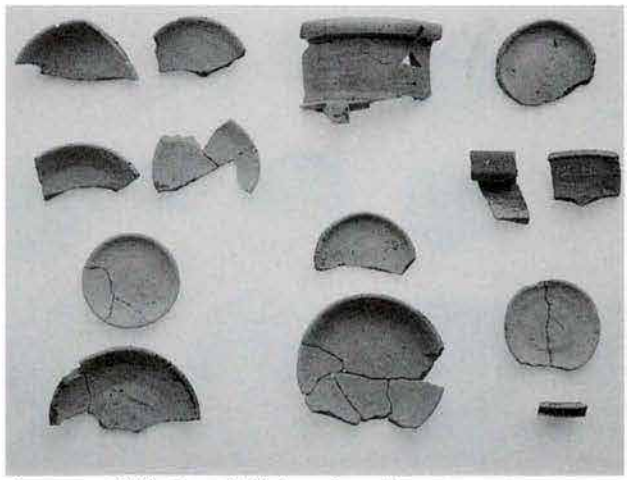


▲ b．鳥形木製品

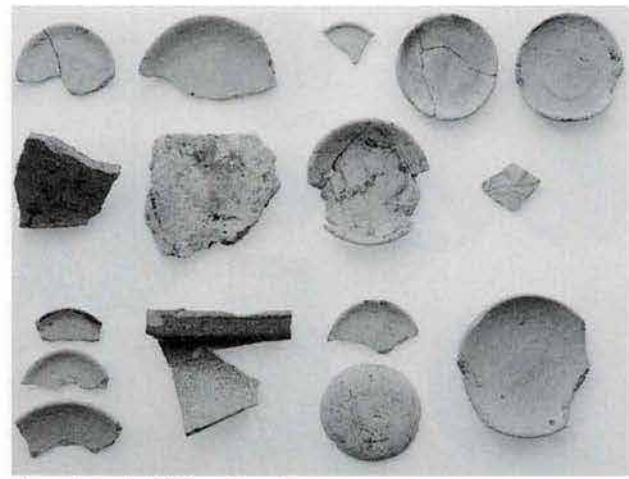


▲ c．第１a面下～第１b面

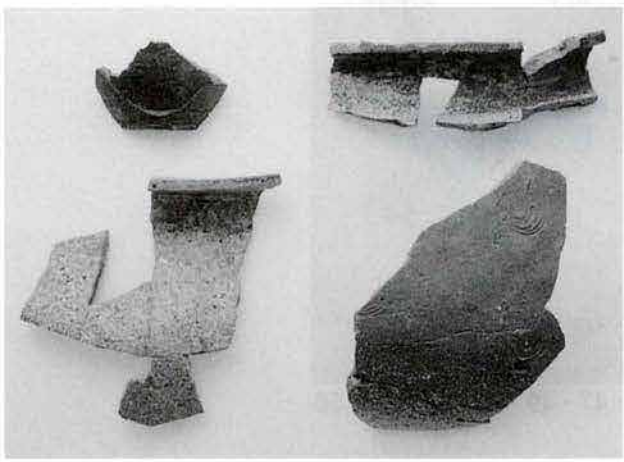
第１面出土遺物(5)



▲ a．建物1　土壙1・3～6

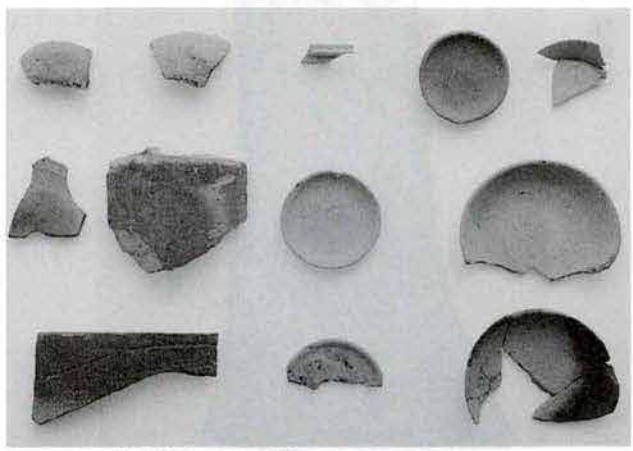


▲ b．土壙7・9～11

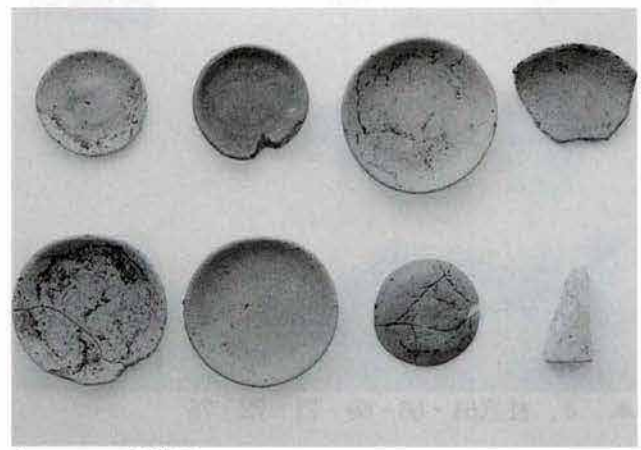


▲ c．土壙15

▲ 常滑甕の三巴文叩き目



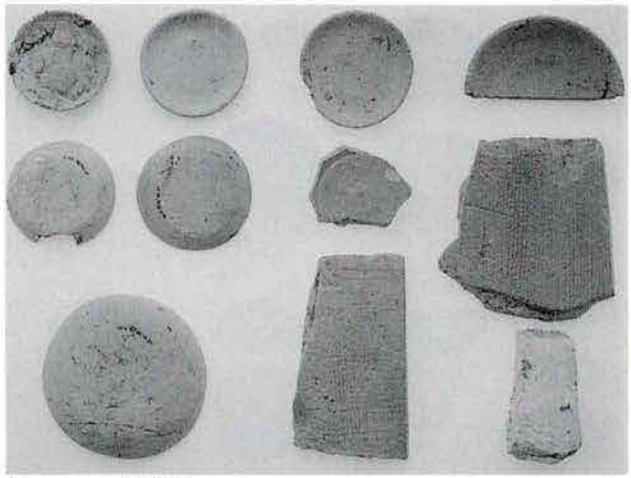
▲ d．土壙12～14・18



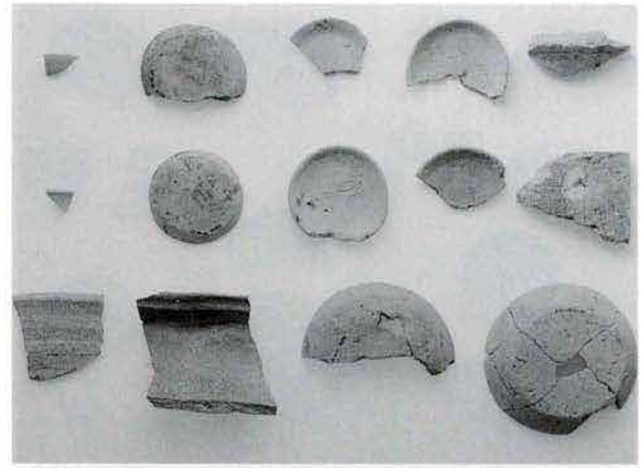
▲ e．土壙19

第2面出土遺物(1)

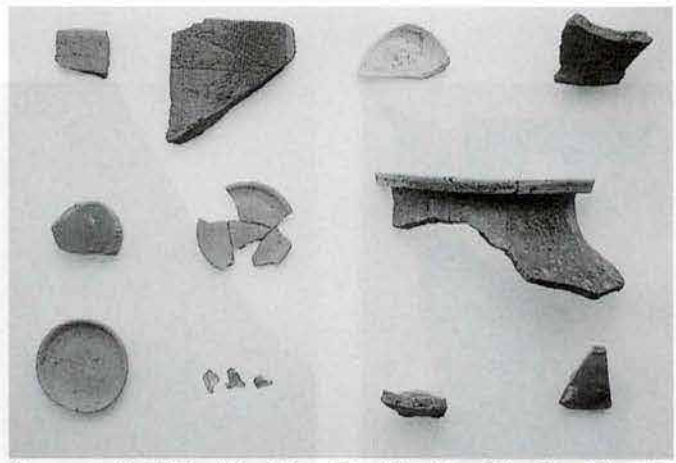
図版18



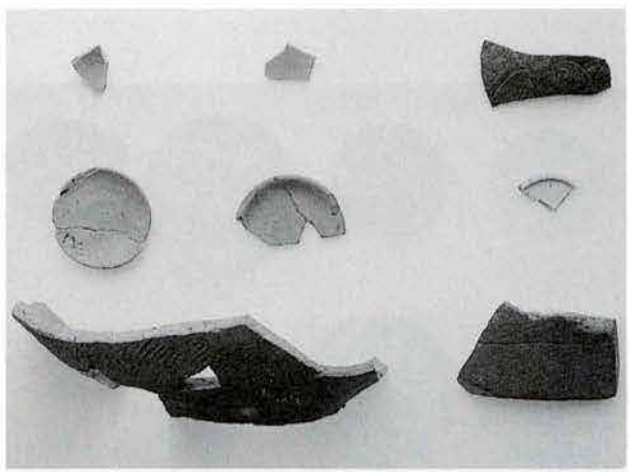
▲ a．土壙20



▲ b．柱穴1・2・5・9・11・12・17～19・22・27・30



▲ c．柱穴31・34・35・45・47・49・51・53・54・56

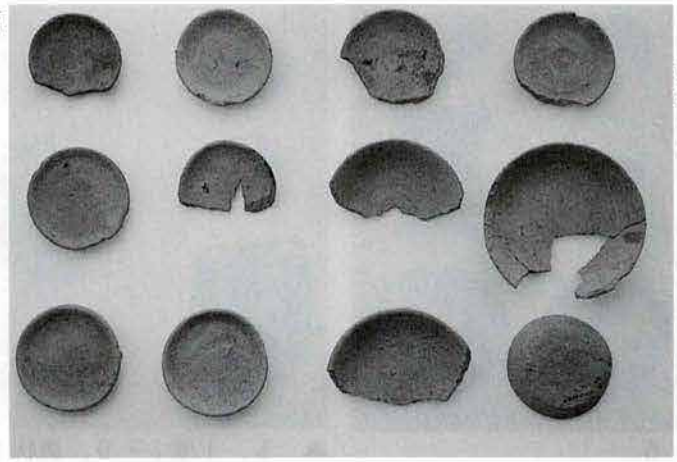


▲ d．柱穴61・66・69・71・72・75

◀ ▶ 緑釉壺

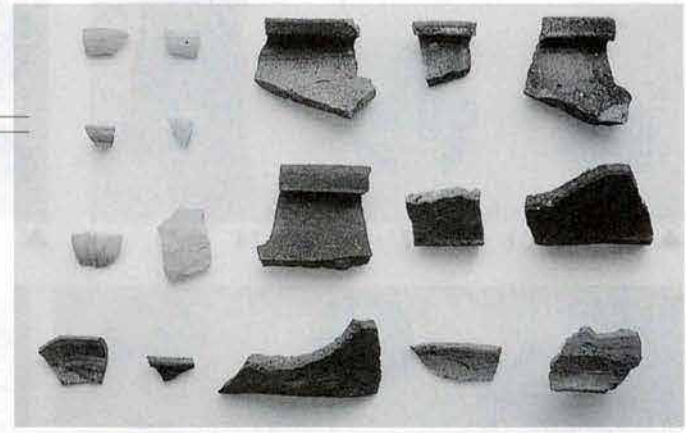
第2面出土遺物(2)

第１面下～第２面
a．▶
▼

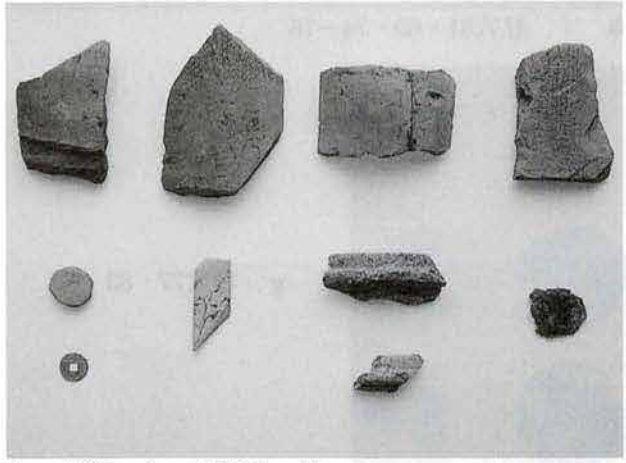


◀
かわらけ

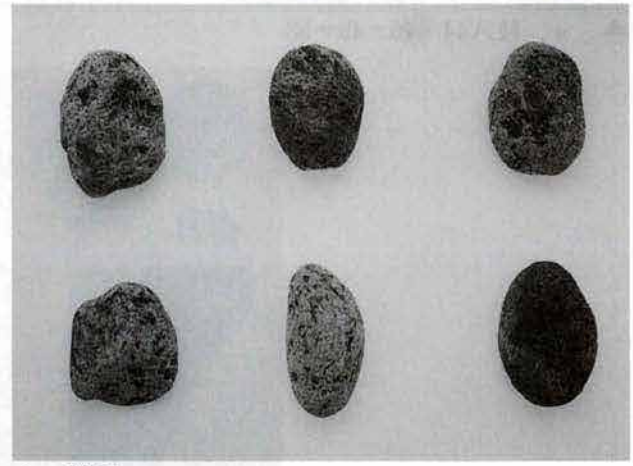
▼ 舶載・国産陶磁器



▲ 白磁合子



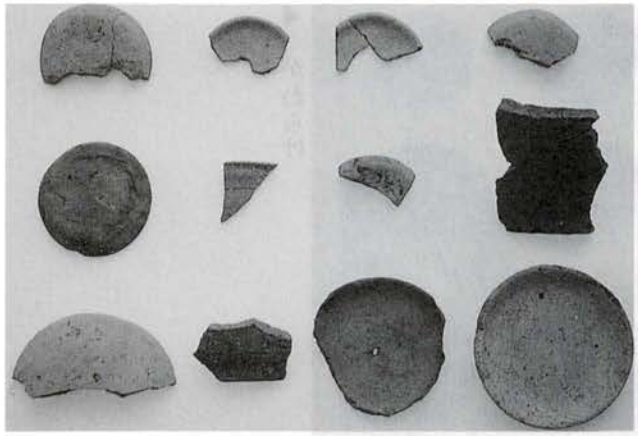
▲ 瓦類、土・石製品・銭



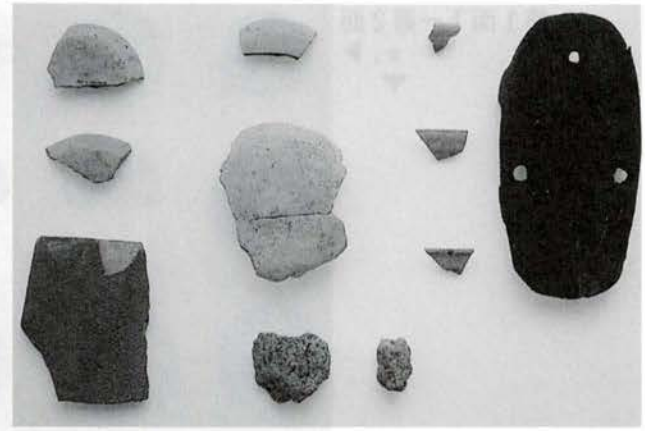
▲ 軽石

第２面出土遺物(3)

図版20



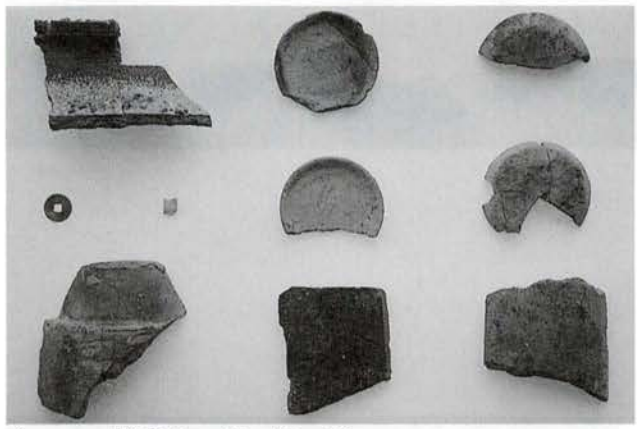
▲ a．土壙１・３・５・６



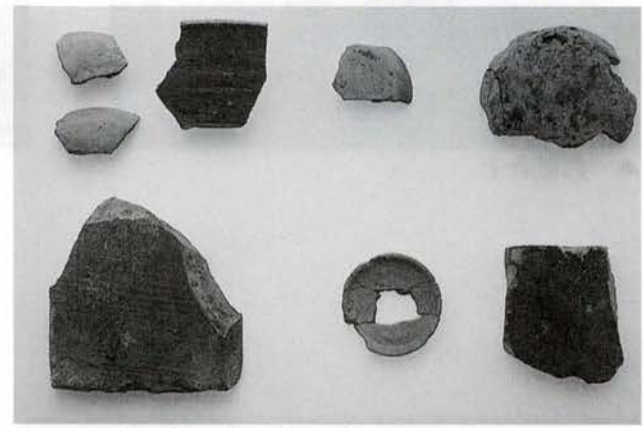
▲ b．土壙７・９、溝状土壙１、溝１

▲ c．柱穴１・２・７・10・12・14

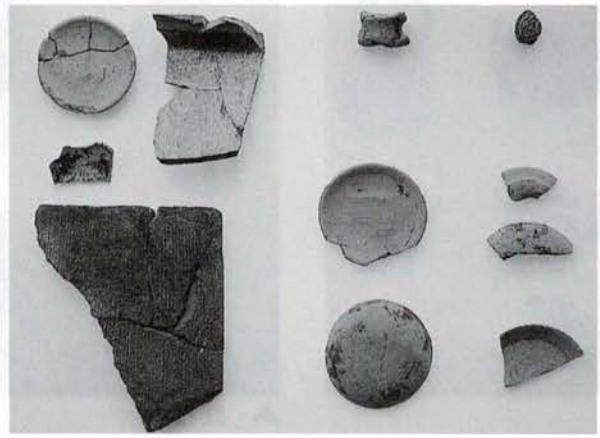
▲ d．柱穴15・22・24・33・37・39・43



▲ e．柱穴44・46・49～53

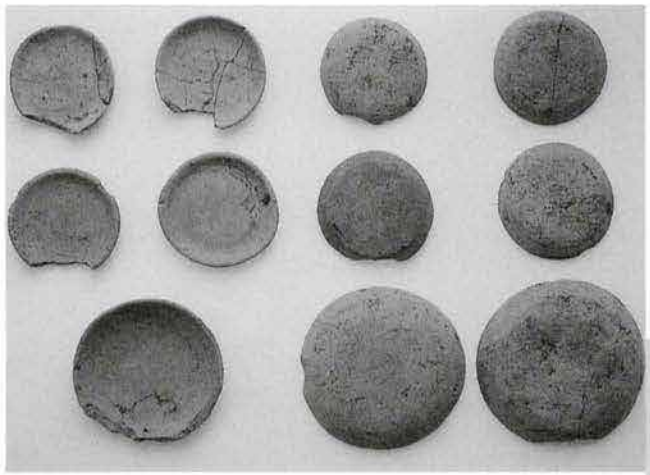


▲ f．柱穴61・69・74～76

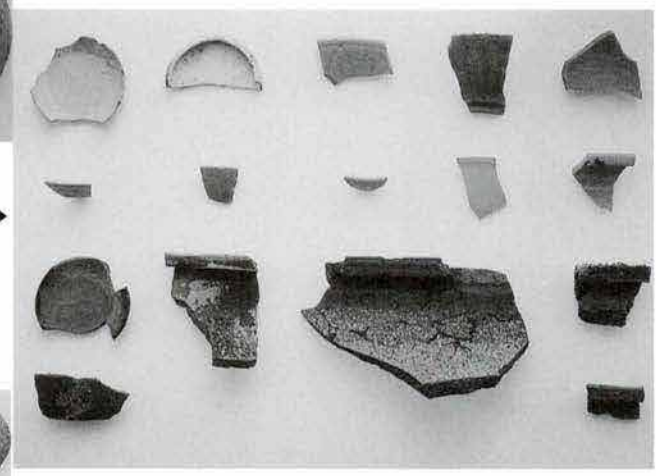


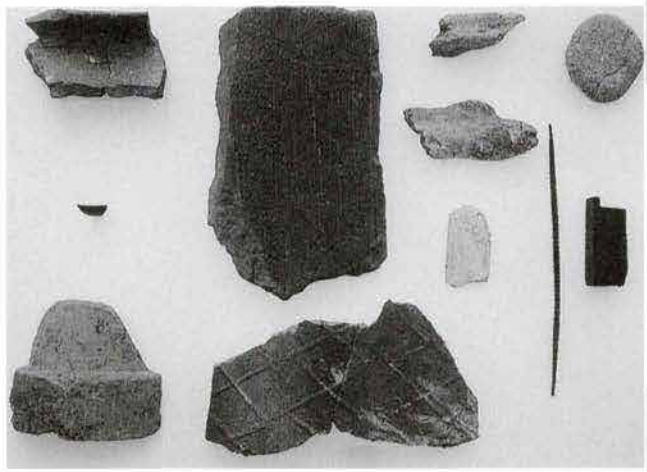
◀ g．柱穴77・83

第３面出土遺物(1)

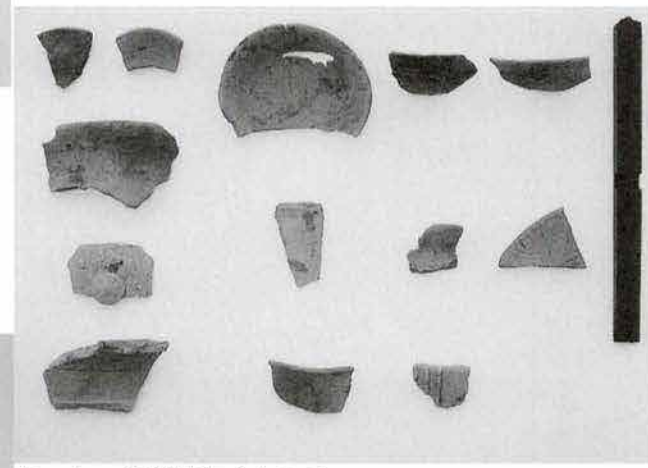


a．第２面下～第３面





▼ 軽石



▲ b．中世地山トレンチ

第３面(2)・地山トレンチ出土遺物

西瓜ヶ谷遺跡（No.213）

山ノ内字東瓜ヶ谷1294番 4・5地点

例　　言

1．本報は「西瓜ヶ谷遺跡（№213）」内、山ノ内字東瓜ヶ谷1294番4・5における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2．調査期間　　平成14年9月30日～11月7日
　調査面積　　71.19㎡
3．本地点の整理上の略称は「NY1294」とした。
4．調査体制
　担　当　者　　馬淵和雄
　調　査　員　　鍛治屋勝二
　調査補助員　　松原康子
　作　業　員　　柴崎英輔・杉浦永章・中路正明・沼上三代治・宮崎明・山本記康・渡部輝彦
　　（以上鎌倉市シルバー人材センター）
5．本報作成分担
　遺構図整理　　松原
　遺物実測　　沖元道・吉田智也
　同墨入れ　　沖元・吉田
　同観察表　　沖元・吉田
　同集計表　　沖元
　同写真撮影　　沖元・吉田
　原稿執筆　　馬淵・松原
　編集・総括　　馬淵

目　次

本　文　目　次

第１章　調査地点の概観
　１．位置と地勢 ……114
　２．歴史的環境 ……114
第２章　調査の概略
　１．調査にいたる経緯 ……118
　２．調査方法 ……118
　３．調査経過 ……118
第３章　調査結果
　１．概要 ……120
　２．１面 ……120
　３．２面 ……122
　４．３面 ……122
　５．４面 ……123
第４章　まとめ ……123

挿　図　目　次

図１　調査地点と近辺の遺跡・旧跡 ……117
図２　周辺地形図・調査区設定図 ……119
図３　調査区壁土層図・壁面出土遺物 ……121
図４　１面遺構全図・近世層および１面出土遺物 …124
図５　２面遺構全図・同出土遺物 ……125
図６　３面遺構全図・同出土遺物 ……126
図７　４面遺構全図・４面下最終確認坑
　　４面出土遺物 ……127

表　目　次

表１　調査区壁出土遺物 ……128
表２　近世および１面出土遺物 ……128
表３　２面出土遺物 ……129
表４　３面出土遺物 ……129
表５　４面出土遺物 ……129
表６　出土遺物集計表 ……130

図　版　目　次

図版１-１　調査地点航空写真 ……131
　１-２　調査地点遠景（西から）……131
　１-３　Ⅱ区１面全景（西から）……131
　１-４　Ⅱ区２面全景（西から）……131
　１-５　Ⅰ区２面全景（西から）……131
　１-６　Ⅱ区２面火鉢出土状況（西から）……131
　１-７　Ⅱ区２面人骨出土状況（南西から）……131
図版２-１　Ⅱ区２面～３面間遺物出土状況（西から）…132
　２-２　Ⅰ区３面全景（西から）……132
　２-３　Ⅰ区３面遺物出土状況 ……132
　２-４　Ⅱ区３面全景（西から）……132
　２-５　Ⅱ区３面遺物出土状況（南西から）……132
　２-６　Ⅱ区４面全景（西から）……132
図版３-１　Ⅱ区４面小孔群検出状況（南から）……133
　３-２　Ⅱ区東壁際最終確認坑（南西から）……133
　３-３　Ⅰ区４面下最終確認坑（北から）……133
　３-４　Ⅰ区南壁土層断面 ……133
　３-５　Ⅱ区北壁土層断面 ……133
　３-６　Ⅱ区東壁土層断面 ……133
図版４　出土遺物 ……134

第１章　調査地点の概観

１．位置と地勢

JR北鎌倉駅駅前の県道（「鎌倉街道」）を大船方面に向かって進むと、100mほどで左へ入る道がある。この道は北鎌倉山ノ内と山向こうの梶原を結ぶ古来の往還道で、「瓜ヶ谷（うりがやつ）」と呼ばれる谷の中を縦走するところから、「瓜ヶ谷道（みち）（路）」と呼ばれている。調査地点は谷口から約250ｍ入ったところの左手（東側）の山腹にある。鎌倉街道からみれば、山をはさんで東慶寺の背後にあたる。現在の地番は鎌倉市山ノ内字東瓜ヶ谷1294番４および５。

鎌倉旧市街を取り囲む山稜は鶴岡八幡宮西部から北西に伸び、梶原・山ノ内を越え台・山崎にいたる大きな山塊を形成する。この山塊を「台峰（山）」という。標高は70ｍから90ｍ前後で、複雑に入り込んだ大小の支谷を蔵し、鎌倉北西部の数少ない緑地となっている。調査地点のある瓜ヶ谷は、そのうち山塊東南の基部を割り込むように形成された大きな谷戸で、北鎌倉駅付近からみれば南面する山稜の山向こうになる。台峰の北側には、北鎌倉から横浜市栄区、同戸塚区、藤沢市に囲まれた広範な平坦地がひろがるが、瓜ヶ谷はこの平坦地の東南にある。西瓜川（にしうり）により開かれたこの谷は、南北約800m、谷尻に向かってほぼ子午線上に沿った軸線を持つ。谷の入口から道を進むと300m足らずで西に分け入る支谷があり、ここで谷の中が西瓜ヶ谷と東瓜ヶ谷に分かれる。現在、道は分岐点を真直ぐ進み、その先で２車線の新道につながる。新道は東瓜ヶ谷の西側の山裾をかなりの傾斜を持ちつつのぼるが、旧道は右手の住宅地西側に今も残り、山頂近くの庭球場前で両者は再び出会う。旧道はその先で今度は左手（東）の山中に入り、葛原ヶ岡方面に向かう。また、「瓜ヶ谷やぐら群」で知られる東瓜ヶ谷の谷尻には扇ガ谷の海蔵寺裏に通じる大堀切があるので、ここにも別の道の存在が想定できる。

谷の中を流れる西瓜川は、調査地点北の鎌倉街道の手前で小袋谷川に合流する。小袋谷川は街道に沿って北西に流下し、次第に広い沖積地を開析しながら、JR大船駅の南で柏尾川に流れ込む。瓜ヶ谷の中では西瓜川左岸は広いところで幅100mほどの平坦地が形成されているが、右岸は山の急な斜面が迫っている。右岸山腹には道に沿って幅・奥行きとも数10mの平坦部が階段状にいくつも並ぶ。段状部の表面観察によれば、段の奥壁には「鎌倉石」と呼ばれる凝灰質砂岩の岩盤（新第三紀浦郷層）が露頭しているが、平坦部にはそれがみられなかったことから、人為によるものと予想された。この点は調査によっても確認できた。調査地点はその階段状をなす平坦部の下から２段目を占める。海抜34m前後、前面の瓜ヶ谷道からの比高12m前後になる。

２．歴史的環境

台峰一帯の人跡は一貫して非常に濃密といえる。以下、時代別にごく簡単にみてみよう。

旧石器時代　北鎌倉～大船一帯には早くから人の往来した痕跡がある。最も古い人工の遺物は常楽寺裏の粟船山で採集された後期旧石器で、黒色頁岩製縦長剥片の両側面に調整を加えた、石刃もしくはナイフがある。調査地点からは直線距離で北に約1kmの位置にある。

縄文時代　市内各所に遺跡が点在するが、北西約2kmにある玉縄から関谷にかけて、後期を中心に住居址や遺物が発見されている。本遺跡に西接する台山藤源治遺跡でも、早期か前期とみられる落とし穴2基が検出されている。また藤沢市寄りの手広八反目遺跡では、後期堀ノ内式期を中心に中期の勝坂期から後期加曾利ＢⅠ期まで、多量の土器が土器片錘や石錘とともに出土している。

弥生時代　弥生時代になると、遺跡は急増する。旧市内では大倉一帯に中期後半～後期の大規模な集

落があり（大倉幕府周辺遺跡群）、鎌倉山（峰西遺跡）やこの近辺においても多くの住居址が発見されている。とくに西瓜川をはさんで調査地点とわずか150mの対面位置にある台山藤源治遺跡では、10数軒の住居址が検出された。また、台山山塊の北端にある水道山戸ヶ崎遺跡では後期の鉄器が出土した。

古墳時代　この時代、市内では各所に遺跡が見つかっている。この近辺でも水道山遺跡や台山藤源治遺跡が早くから知られており、すでにそれぞれ数箇所で発掘調査が実施されている。先述の水道山戸ヶ崎遺跡では、住居址とともに銅環2点が出土した。後期になると、鎌倉街道をはさんだ台峰反対側の円覚寺東北の山腹で横穴墓も確認されている（亀井砦遺跡，未報告）。

律令時代　ほぼ市内全域に遺跡が存在するようになる。台峰一帯でも水道山戸ヶ崎遺跡・台山藤源治遺跡でいくつも住居址が発見されている。後述するように、本地点でもこの時代の遺物が採集されているので、おそらく台峰全体に広く集落が展開していたと想像できる。

王朝国家時代　源頼義が鎌倉を所領にして以来、鎌倉は河内源氏正統の根拠地となった。もっとも強く覇権を主張したのが頼朝の父義朝で、現在の寿福寺の場所に居館を構え（「鎌倉之楯」）、四周に覇をとなえた。瓜ヶ谷北側に広がる平坦地は、平安時代後期、山ノ内荘という荘園になった。ここを所領としたのが源氏の郎党の代表格である山内首藤氏であった。石井進はこれについて、「鎌倉の館を根拠地とする源義朝が、その北方を扼する重要な地の山内庄を、もっとも信頼する郎党に与えたことを意味する」という。山内荘の正確な位置は不明だが、現在の北鎌倉一帯から横浜市戸塚区の東半分を占めていたといわれる。鎌倉時代初期まで首藤氏の所領であった。山内荘に接する瓜ヶ谷の動静は伝わらない。

鎌倉時代　治承・寿永の内乱のとき、代々源氏の従者であった首藤氏の経俊は平氏側についたため、頼朝が勝利をおさめた直後に所領の山内荘を没収される（『吾妻鏡』治承四年十月二十三日条）。このとき山内荘は経俊の身柄の預けられた土肥実平に与えられたようである。のち実平の孫の惟平が和田合戦で和田義盛側にくみして敗北したため没収され、北条義時のものとなった。以後鎌倉時代を通じて北条得宗領であった。この間本所は後白河院から皇女の宣陽門院に伝わり、以後は上皇御所内の持仏堂である長講堂の領のひとつとして、持明院統に伝領された。文治三年（1187）五月十二日付「後白河法皇院宣」（『吾妻鏡』同年六月四日条所載）には後白河院領の荘園のひとつとして「相模国山内庄」があり、元暦元年（1184）三月七日前大蔵卿御奉書（延慶本『平家物語』所載）にも後白河院の「東国御領山内庄」とみえる。また建久二年（1191）十月日の「長講堂所領注文」（『神奈川県史　資料編』1－217）末尾に「不所課庄々」として、課役を免除される荘園のなかに「（相模国鎌倉郡）山内」の名がみえる。これらの史料からみて、山内荘は平安末期に皇室領に寄進された荘園で、後白河院が本所となり、のち長講堂領とされたと考えられる。

瓜ヶ谷の消息を記した史料は多くないが、鎌倉末期の円覚寺の姿を伝える上杉重能在判の『円覚寺境内絵図』には、画面左下円覚寺の四至外側に南へ伸びる細い道が描かれ、「瓜谷路」と注記されている。この道をしばらく入った場所の、西瓜川と思われる川の西岸に「薩摩掃部大夫入道跡」の文字が見える。絵図なので実際の距離を測りがたいが、地形からみて、調査地点の川向付近に相当する可能性がある。またこの絵図の鎌倉街道上には、「瓜谷路」口のさらに外側に「篝屋」の文字が見える。これは「鎌倉中」を管理するために「保」の辻に置かれた、いわば警備員の詰め所のことである。したがって、ここまでは少なくとも「鎌倉」の内であったとみてよいが、境界がすぐそこにあったことも確実である。というのは、道路北側にある八雲神社の場所は、元仁元年（1224）12月、北条泰時のおこなった四角四境鬼気祭の斎場跡にできたといわれていること（社伝）、またちょうどこの地には、十王堂橋という橋の名前に名残をとどめるように、かつて地獄の十王像が祀られていたからである（現円覚寺十王堂蔵）。これらがいずれも境界の祭祀と標識であることはいうまでもない。著名な『一遍聖絵』巨袋坂の場面に

おける「木戸」も、まさしくこの場所とみて間違いない（馬淵1994）。

鎌倉時代中～後期になると北条氏により近隣の鎌倉街道沿いに寺院が次々と建立されている。北条泰時の常楽寺（嘉禎三年－1237、粟船山）、時頼の建長寺（建長五年－1253、巨袋坂）と最明寺（康元元年－1256頃か、山内）、時宗の円覚寺（弘安五年－1282、山内）など得宗によるもののほか、浄智寺や東慶寺（ともに山内）といった北条氏関係の寺院が造立された。他に廃寺となったものも少なくない。本地点に近いいくつかの寺を簡単に紹介しておこう。

円覚寺は弘安五年（1282）創建。開山無学祖元、開基北条時宗。臨済宗。鎌倉五山二位。時宗は文永・弘安の役の犠牲者慰霊のために建立したという。鎌倉幕府滅亡後は足利氏の庇護を受ける。現在の北鎌倉駅一帯は、当寺の門前域となっていたであろう。

東慶寺は調査地点からみれば、ちょうど山をはさんだ背中側に相当する位置にある。弘安八年（1285）の創建といわれ、開山覚山志道尼、開基北条貞時。臨済宗。室町時代には鎌倉尼五山二位。江戸時代には「縁切寺」として知られるようになった。

東慶寺門前にはやはり尼五山のひとつ国恩寺があった。開創年や沿革は不明だが、戦国時代にはもう廃寺となっていたらしい。

正観寺は円覚寺の西側にあった。さきに触れた『円覚寺境内絵図』は建武年間（1334～1336）成立と推測されているが、これによれば東の鎌倉方面から直線的に来た山内道は、円覚寺門前で直角に南に折れ、今の北鎌倉駅を過ぎた付近で再び北に折れる。当寺はこの西側に描かれているので、まさしく北鎌倉駅一帯に相当しよう。大休正念はここで示寂した。

長勝寺は現在の円覚寺塔頭雲頂庵の場所にあったらしい。『円覚寺境内絵図』では、ちょうど瓜ヶ谷入口の対面する山腹にあたる。元亨三年（1323）の「北条貞時十三年忌供養記」（『鎌倉市史　史料編』２－69）に、この寺の僧衆36人が法要に参加したとある。開山は蘭渓道隆法嗣空山円印。

『新編相模国風土記稿』徳泉寺の項に「此他木東寺・観蓮寺・宝境寺・東現寺・光陽院等の廃蹟あり、挙く陸田とす、各寺の事跡廃置の年次等今伝はらず」とある。山ノ内には江戸時代末期までに廃絶した寺院があったらしい。木東寺は瓜ヶ谷口山上、観蓮寺は瓜ヶ谷、宝境寺は尾藤ヶ谷にあったという。東現寺は、調査地点川向山麓の地名「藤源治」と同じ読みであることが注目されるが、所在地・宗派など詳細は伝わらない。

鎌倉時代以後　鎌倉幕府滅亡後、円覚寺東側には関東管領上杉氏の屋敷が置かれた。上杉管領家のうちこの一流は「山内上杉」と呼ばれた。山内荘は足利直義の所領とされ、各郷は上杉氏や鎌倉の諸寺院に分給されたらしい。以後も関東公方や上杉氏の支配下にあったとみられる。

瓜ヶ谷から鎌倉街道に出た対面位置の山裾に、さきに少し触れた八雲神社がある。文明年中（1469～1487）に上杉憲房が祇園大神を勧請したという（社伝）。祭神素盞嗚命、もと牛頭天王社と称した。

山内上杉ののちは三浦義同の領地となり、さらに永正十五年（1518）に北条長氏が三浦氏を滅ぼして以後、小田原北条氏五代が相伝した。天正十八年（1590）後北条氏滅亡、徳川氏の所領となる。

近世の山ノ内は一村として存続し、徳川幕府直轄領と建長寺・円覚寺・浄智寺・東慶寺・光照寺五ヶ寺の所領となった。うち円覚寺領は天正十九年（1591）徳川家康から寄進され、諸役御免地として伝馬役など一切なかった。幕末の嘉永五年（1852）に彦根藩主井伊直弼の預所となって以来、安政元年（1854）に肥後細川守之、文久三年（1863）佐倉堀田鴻之丞、慶応三年（1867）伊豆韮山代官江川太郎左衛門と目まぐるしく所管が移り、明治元年（1868）に一時韮山県に属したあと、同年12月神奈川県の所轄になった。先の五ヶ寺の領地も明治四年に神奈川県に移管した（この項『神奈川県皇国地誌　相模国鎌倉郡村誌』など）。

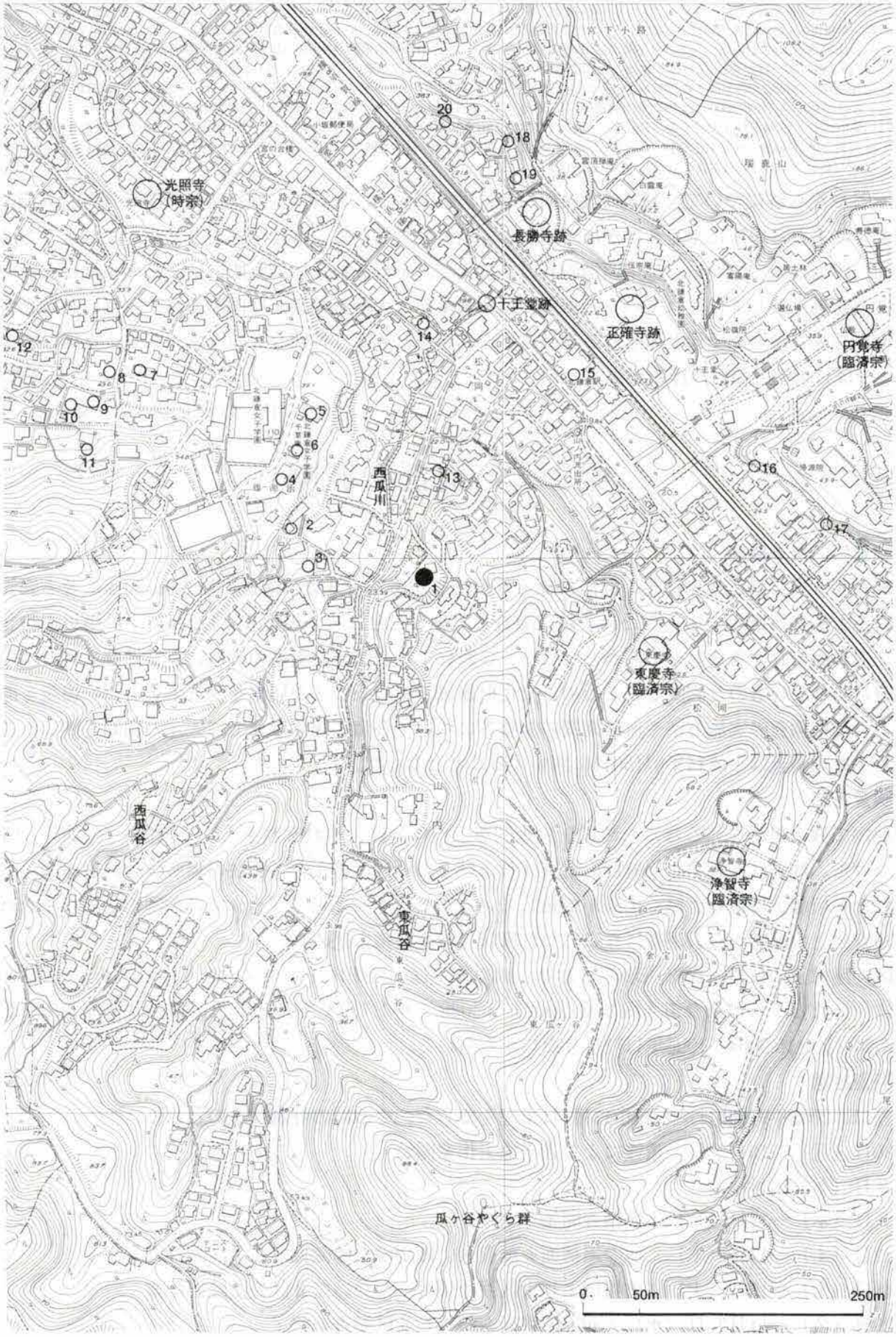


図1　調査地点と近辺の遺跡・旧跡

図1　調査地点名

1.本調査地点　2. 西瓜ヶ谷遺跡（No213）　山ノ内字藤源治928番1ほか　1991年調査　未報告　3. 西瓜ヶ谷遺跡（No213）　山ノ内字藤源治930番5ほか　2002年調査　未報告　4.台山藤源治遺跡（No29）一次　台字藤源治914番地　手塚ほか1985　5. 台山藤源治遺跡（No29）二次　山ノ内914～927番地　大河内1996　6. 台山藤源治遺跡（No29）三次　台字藤源治914番地　宗臺1993　7. 台山藤源治遺跡（No29）山ノ内藤源治874番2　斎木ほか1985　8. 台山遺跡（No29）台字西ノ台1730～1732番1　玉林ほか1988　9. 台山遺跡（No29）　台字西ノ台1733番1　若松1999　10. 台山遺跡（No29）台字西ノ台1733番3　若松1999　11. 台山遺跡（No29）　台字西ノ台1737番　丑野1974　12. 台山遺跡（No29）　台字西ノ台1624番3外　大上1992　13.円覚寺門前遺跡（No287）　山ノ内東瓜ヶ谷1229番1・5　伊丹2000　14.円覚寺門前遺跡（No287）　山ノ内藤源治951番2　継ほか1998　15.円覚寺旧境内遺跡（No434）　山ノ内字瑞鹿山509番1　菊川1998　16.帰源院下やぐら群（No176）　山ノ内392番　山本ほか1985　17.円覚寺境内西やぐら群（No176）　山ノ内瑞鹿山388番　手塚ほか1983　18.長勝寺跡（No88）所在やぐら群　山ノ内527番1　長谷川ほか1999　19. 長勝寺跡（No88）所在やぐら群　山ノ内527番1　鈴木2000　20. 長勝寺跡内やぐら（No454）　山ノ内534番ロ・547番　宍戸ほか2001

瓜ヶ谷やぐら群について　鎌倉時代後期～南北朝期にかけて、この谷の最奥部、葛原ヶ岡神社北側の大堀切北岸にあたる場所にやぐら群がほぼ南面して造営されている。群は全部で5穴からなり、うち3穴の壁面に彫刻が残っている。郡中西端のものが最大で、舟形光背を持つ丸彫の地蔵菩薩坐像が玄室中央部に岩盤を掘り残して作られている。奥壁には如来坐像・大形五輪塔が厚肉彫され、右壁に舟形光背を持つ地蔵菩薩立像や十王像とみられる神像二体、鳥居をともなう神殿などの浮彫がある。東隣のやぐらには、やはり大型五輪塔の浮彫がある。（馬淵）

【引用・参考文献は第4章末に一括】

第2章　調査の概略

1．調査にいたる経緯

平成14年3月に個人専用住宅の建設に係る事前相談があり、基礎の構造に長さ8m50cmに及ぶ鋼管杭の打設をともなう計画であったため、確認調査を実施したところ、現地表下120cm以下に中世遺物包含層及び遺構面の存することが明らかとなった。これにより当該建設工事の実施による埋蔵文化財への影響は避けられないものと判断されたため、文化財保護法第57条の2の届出を受け事業者との協議を開始したが、発掘調査の実施方法や所用期間の調整等について合意に達するまでに一定の期間を要したこともあり、発掘調査は平成14年9月30日に開始することとなった。

2．調査方法

敷地内で残土処理をおこなうために、調査区を二つに分け、それぞれをⅠ区（南側）・Ⅱ区（北側）と名づけた。残土はそれぞれ反対側の調査区およびその周辺に積んだ。遺跡の場所は急斜面を削って形成された平坦面上にあり、厚く土砂が堆積している。したがって相当深くまでの掘削を余儀なくされたため、安全上の配慮から、下層になるにつれ段状に調査面積を狭めた。

調査区の座標上の位置は図2下段のとおり。成果測定は、梶原山上の山ノ内配水池から新道を約100m手前に下ったところの鎌倉市4級基準点p027・同028（エリア9）を使用した。海抜基準は北鎌倉駅前のBM.20（L.＝19.9004，1996年1月1日与点）から引いた。

3．調査経過

調査には2002年9月30日から同年11月7日までを要した。その間の経過は次のとおり。

9月30日（月）～10月2日　重機による表土除去作業開始
10月2日（水）機材搬入
10月3日（木）～11日（金）Ⅰ区精査開始
10月12日（土）～17日（木）二面の遺構面を調査後、確認のため深掘りしⅠ区調査終了
10月18日（金）～19日（土）　重機によりⅠ区埋め戻し。つづいてⅡ区表土除去作業
10月25日（金）～11月6日（水）4面の遺構面を調査しⅡ区調査を終了
11月7日（木）　機材撤収（松原）

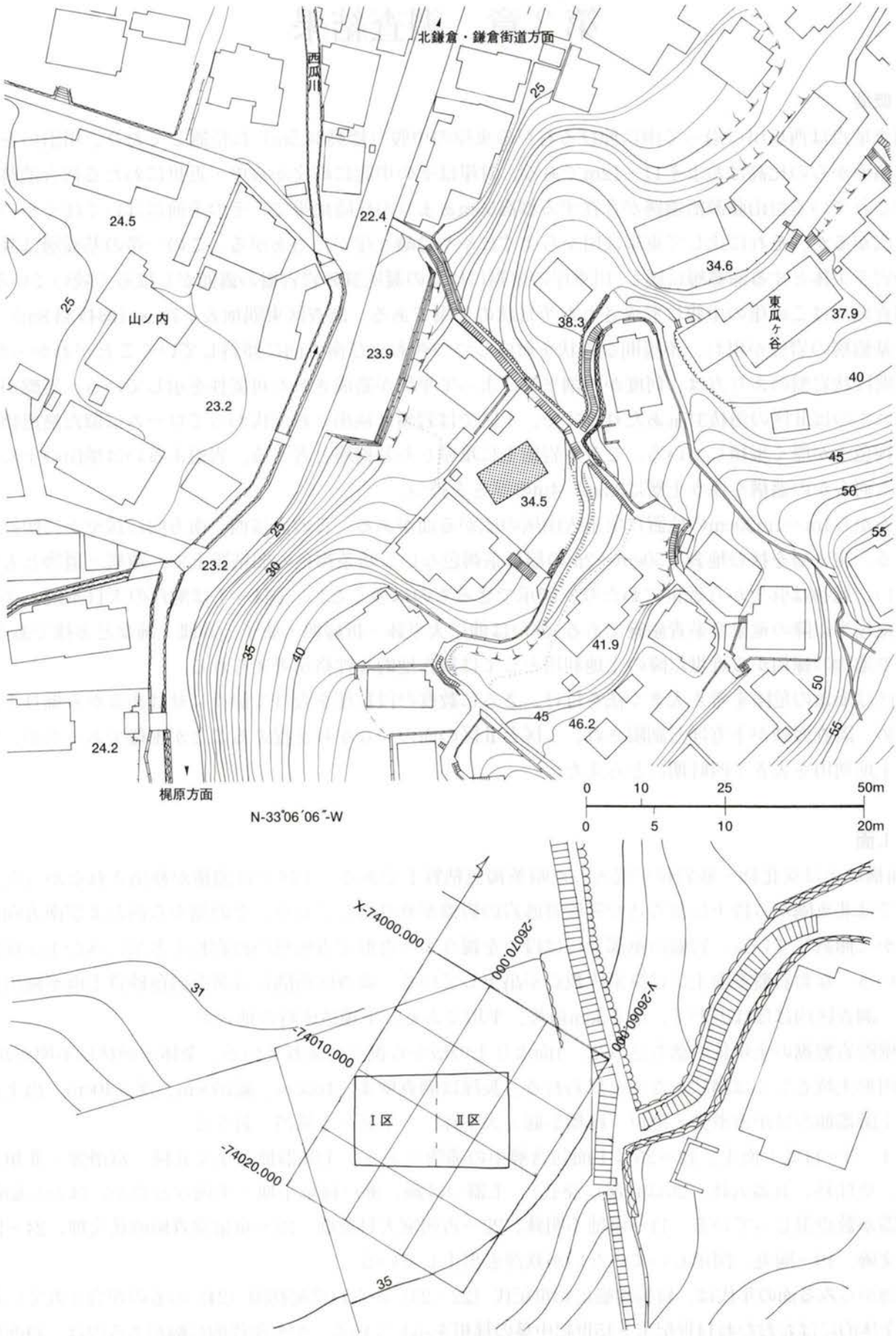


図2　周辺地形図・調査区設定図

第３章　調査結果

１．概要

調査地点は西瓜川に沿って南に伸びる谷戸の東岸の中腹（標高34.5m）に位置しており、川沿いを走る道路面からの比高はおよそ11～12mである。対岸はその中腹に縄文から中・近世にわたる複合遺跡が調査されている台山藤源治遺跡が存在する標高50mあまりの丘陵地帯で、その手前にはいくばくかの平地も広がるが、それに比して東岸は川からすぐにやや急峻な崖がたちあがる。この一帯の基盤層は凝灰質砂岩を主体とする浦郷層に属し、川東岸の崖裾にはこの凝灰質砂岩岩盤の露頭がしばらく続いている。本調査地点はこの崖の中腹に形成された半月状の平場である。調査区東隅地表下70㎝（海抜33.8m）でこの基盤層の岩盤が現れ、不規則な段状を形成しつつ西および南方向に傾斜していくことがわかった。この階段状岩盤のあり方は、何度かの削平等によって平場が造成された可能性を示している。岩盤が確認されたのはⅡ区の海抜31ｍあたりまでで、Ⅰ区では岩盤は検出されず代わってロームに似た無遺物の明茶褐色土が厚く堆積している。これを岩盤上に堆積した基盤層と考える。岩盤あるいは地山の上に堆積した何らかの遺構を伴う土層は3.5m～4mの厚さを持つ。

地表から1m～1m20cmの位置に宝永火山灰の広がる面がある。この面は西・南方向に緩やかに傾斜している。宝永層を挟む地表下50cm～2mの層は茶褐色ないし暗茶褐色の弱粘質土で、遺構・遺物ともに少ない。遺物は弥生から近世にわたり、図示できるものは多くない。図4－１は瀬戸の天目茶碗、２は14世紀後半以降の竜泉窯系青磁碗である。瀬戸は他に大平鉢・折縁皿・瓶子・卸皿・碗など多様である。遺構や遺物の様相から近世以降の土地利用としては耕作地的な性格が考えられる。

Ⅰ区は崩落の危険を考え大きく法を付け、さらに数度の段状部を設けて徐々にせばめながら掘り下げたため、調査面積が下方ほど制限され、Ⅰ区とⅡ区の面のつながりを捉えることが困難であったが、中世の土地利用を大きく四時期にとらえた。

２．１面

1面構成土は炭化物・砂岩粒が混入した暗茶褐色粘質土である。Ⅰ区では遺構が検出されなかった。Ⅱ区では北東隅から段上に落ち込む凝灰質砂岩の岩盤がせり出しており、その裾から西および南方向に緩やかに傾斜している。岩盤の裾部分には段差を覆うような形で青灰色の砂岩粒を多量に含む土が堆積している。なお岩盤裾面上には常滑片数点が出土している。調査区西隅には黄茶褐色砂質土面が検出された。調査区内はほぼ方形で、厚さ5cm前後、平坦である。平場造成時の地行か。

南壁際岩盤裾の土坑状の落ち込みは、1面より上の層から掘り込まれている。全体の形状は不明だが、長楕円形土坑もしくは溝状をなすと思われる。長径は調査壁まで163cm、幅160cm、深さ40cm。出土遺物は土師器皿のほか常滑甕・瀬戸（縁釉小皿・大平鉢）・平瓦・土風呂・釘など。

図４　3～11は１面上、12～25は１面包含層中の遺物である。土師器皿は全てＲ種。常滑甕・Ⅱ類こね鉢、魚住鉢、瓦器火鉢（20は底部に穿孔）、土器つば鍋、瀬戸縁釉小皿・平碗などだが、ほかに舶載陶磁器が数点混じっている。11－産地不明鉢、22－吉州窯天目茶碗、23－竜泉窯青磁画花文皿、24－同蓮弁文碗、19－陶丸。図示しいていないが鉄滓も出土している。

遺物からみる面の年代は、貿易陶磁に13世紀代（22・23）から14世紀初頭（24）のものが含まれているが、全体的にはおおむね14世紀末～15世紀中葉の様相を示している。やや年代的に幅があるのは、斜面に堆積した層だからであろうか。おそらく、上からの崩落土の中に混入していたものも少なくないとみたい。

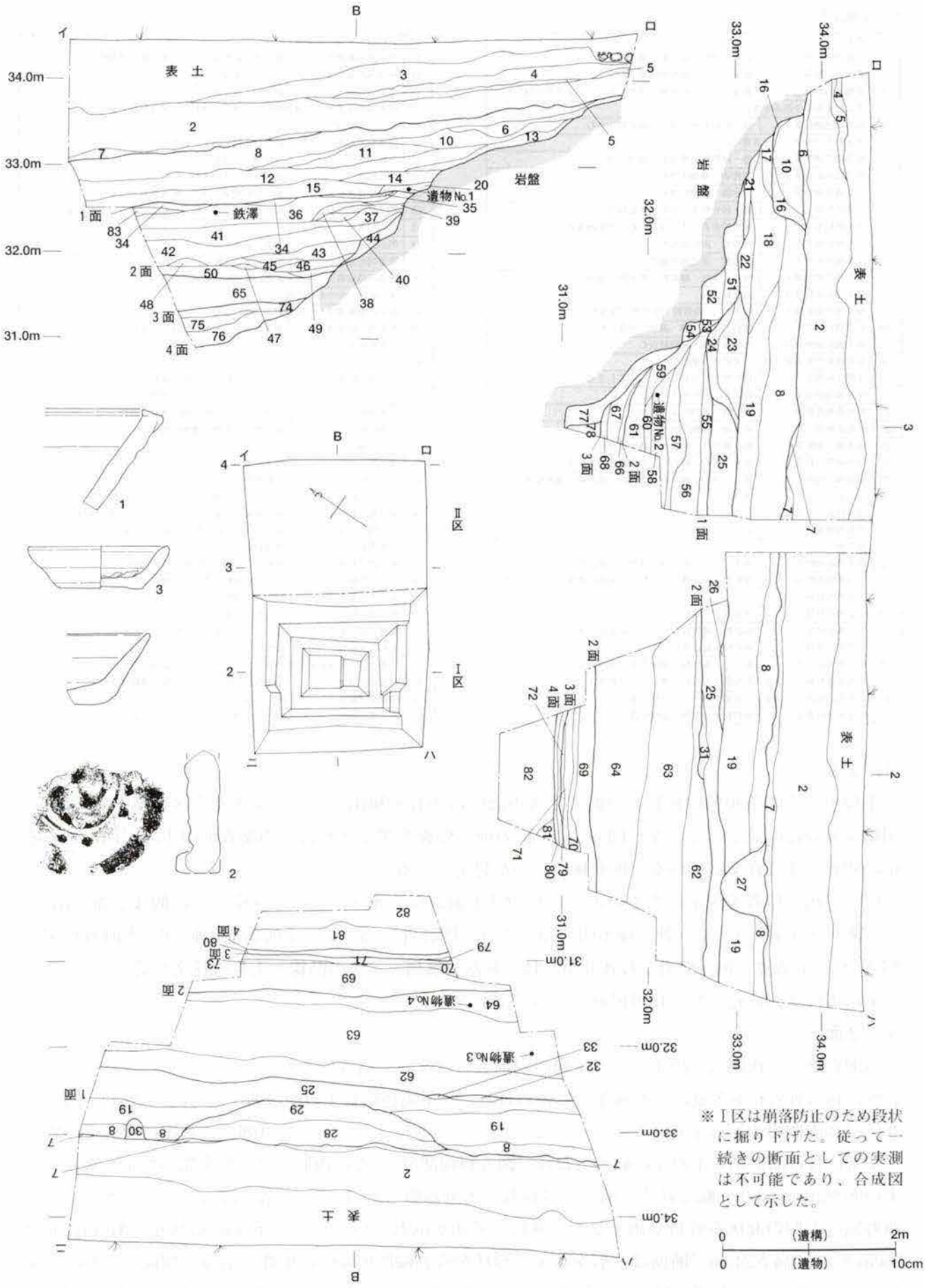


図3　調査区壁土層図・壁面出土遺物

図3 土層説明

1	表土	
2	茶褐色粉粘質土	砂多く含む　炭化物・遺物片含む
3	茶褐色粉粘質土	砂多く含む　炭化物少量含む
4	茶褐色粉粘質土	砂多く含む　炭化物・遺物片含む　しまりやや強い
5	4に似るがやや黒みを帯びる	
6	暗茶褐色粉粘質土	砂・砂岩粒多く含む　炭化物片含む
7	灰黒色火山灰ブロック多量に含む	
8	暗茶褐色粉粘質土	砂・砂岩粒・炭化物・遺物片含む
9	暗茶褐色粉粘質土	炭化物・遺物片含む
10	暗茶褐色粉粘質土	炭化物・遺物片含む
11	茶褐色粘質土	砂・砂岩粒多く含む　炭化物含む
12	茶褐色粘質土	砂岩粒非常に多く含む　砂・炭化物含む
13	暗茶褐色粘質土	砂岩粒・炭化物含む
14	暗茶褐色粘質土	砂岩粒・炭化物少量含む
15	暗茶褐色粉粘質土	砂多く含む　砂岩粒・炭化物・遺物片含む
16	暗茶褐色粉粘質土	炭化物含む
17	暗茶褐色粉粘質土	砂含む　砂岩粒・炭化物少量含む
18	暗茶褐色粘質土	砂岩粒・炭化物・遺物片少量含む
19	暗茶褐色粉粘質土	砂・炭化物・砂岩粒含む
20	青灰色砂岩粒多量に含む　炭化物少量含む	
21	茶褐色粘質土	砂岩粒少し含む　　固くしまる
22	暗茶褐色粘質土	砂岩粒・炭化物少し含む
23	黒暗茶褐色粘質土	炭化物・遺物片多く含む
24	茶褐色粘質土	炭化物・遺物片含む
25	暗茶褐色粉粘質土	砂・砂岩粒・炭化物・遺物片含む
26	暗茶褐色粉粘質土	砂多く含む　砂岩粒・炭化物・遺物片含む
27	暗茶褐色粉粘質土	砂多く含む　砂岩粒・土丹粒・炭化物・遺物片含む
28	27に似る	礫含む
29	28に似るがやや締まっている	
30	茶褐色粉粘質土	砂・炭化物含む
31	暗茶褐色粘質土	
32	暗茶褐色粉粘質土	砂多く含む　炭化物・遺物片少量含む
33	暗茶褐色粉粘質土	砂岩粒・炭化物・土丹粒・黄茶褐色砂質土ブロック含む
34	黄茶褐色砂質土	
35	暗茶褐色粘質土	炭化物少し含む
36	暗茶褐色粘質土	砂岩粒・遺物片少し含む　炭化物全体に混入
37	暗茶褐色粘質土	砂岩粒多量に含む
38	暗茶褐色粘質土	砂岩粒・炭化物・遺物片少し含む
39	暗茶褐色粘質土と黄茶褐色砂質土が層状に重なる　炭化物含む	
40	暗茶褐色粘質土と黄茶褐色砂質土がブロック状に混じる	
41	暗茶褐色粘質土	砂岩粒・炭化物・遺物片含む

42	41に似るが混入物が多い	
43	暗茶褐色粘質土	黄灰色砂岩粒多く含む　炭化物・遺物片含む
44	明茶褐色強粘質土に砂岩ブロック多量に含む	
45	茶褐色粘質土	砂岩粒・炭化物少し含む
46	暗茶褐色粘質土と茶褐色粘質土の混合　砂岩粒・炭化物少し含む	
47	45に似るが混入物は少ない	
48	暗茶褐色粘質土	砂岩粒・炭化物少し含む
49	茶褐色粘質土	炭化物少し含む
50	46に似る	砂岩粒・炭化物含む
51	明茶褐色強粘質土	大小砂岩粒多く含む　暗褐色粘土ブロック少し含む
52	明茶褐色強粘質土	砂岩粒少し含む　暗褐色粘土ブロックやや多く含む
53	51に似る	
54	明茶色強粘質土	大きい砂岩粒多く含む
55	暗茶褐色粘質土	炭化物多く含む
56	暗茶褐色粘質土	大きい炭化物・遺物片含む
57	56に似るがやや締まり弱い	
58	暗茶褐色粘質土に灰黒色粘土多量に含む	
59	暗茶褐色砂粘質土	凝灰質砂岩（岩盤）ブロック含む
60	灰黒色粘土	
61	59に似る	
62	暗茶褐色粘質土	山砂・土丹粒・炭化物・遺物片多く含む
63	暗灰褐色粘質土	炭化物非常に多い　　遺物片・土丹粒多く含む
64	暗褐色粘質土	半拳大の土丹・炭化物・遺物片含む
65	茶褐色粘質土	砂岩粒・炭化物・遺物片含む
66	黄褐色砂質土	
67	暗茶褐色粘質土	若干の遺物含む
68	黒褐色粘質土	岩盤風化ブロック含む　遺物片多く含む
69	暗茶褐色粘質土	土丹粒・炭化物・遺物片少し含む
70	暗茶褐色粘質土	砂・黄褐色砂岩粒・土丹小片・炭化物・遺物片含む
71	暗茶褐色粉粘質土	砂多く含む　炭化物・黄褐色砂岩粒含む
72	茶褐色粘質土	黄褐色砂ブロック少し含む
73	暗茶褐色粘質土	黄褐色砂岩粒・炭化物・砂・遺物片ふくむ
74	茶褐色粘質土	灰黄色砂岩粒を非常に多量に含む　炭化物含む
75	暗茶褐色粘質土	炭化物・遺物片少し含む
76	暗茶褐色粘質土	砂岩粒粒流多く含む　遺物片・玉砂利含む
77	暗褐色強粘質土に岩盤風化土ブロック多量に含む	
78	暗褐色強粘質土	遺物片含む
79	黄褐色砂と青灰色砂岩粒が層状をなす　炭化物・遺物片含む	
80	暗褐色粘質土	黄褐色砂岩粒・砂・炭化物・遺物片含む
81	明茶褐色粘質土	砂多く含む（ロームに似る）
82	明茶褐色粘質土	砂・炭化物少し含む（ロームに似る）

3．2面

茶褐色から暗茶褐色の粘質土の面で、大小25口の小孔が検出されその大半がⅠ区に集中している。明瞭な並びは確認しにくいが、図5のｂ－ｂ'方面に軸線を想定すれば、当調査地の平場が西に落ちる崖の傾斜にほぼ直交している。柵列様のものが想定できる。

図5に出土位置を図示したもののうち1・2は1面から2面へ掘り下げ途中、その他は2面上出土。1－瀬戸大平鉢、2・4－骨（種不明）、3－人骨（四肢骨）、5～7－土師器ⅢR種、8－土師質灯明台胴部、9－常滑甕、10－常滑こね鉢Ⅱ類、11－瓦器土風呂、二条の凸線と七弁の花文を巡らす。

面の年代は14世紀末から15世紀前半とみてよかろう。

4．3面

当調査地点の西側に一段下がった平場の現地表とほぼ同じ高度にある。

岩盤の裾は砂岩粒を多量に含む風化土に覆われる。暗茶褐色粘質土の面は西・南方向に傾斜しており、Ⅱ区では南側岩盤裾に小孔が集中している。Ⅰ区では小孔はないが、北東隅に明黄褐色凝灰質砂岩粒を多量に含む面が粘質土の上に載っており（図6斜線部分）、その西側に砂岩粒を撒いたようなごくうすい面が20cm～60cm幅で続く。面上には複数の土師器Ⅲ（2・4・5）が散らばっていた。さらにその西外側に方形の凝灰質砂岩が出土した。風化して角が取れているが、上面は最大29cm×31cm底面は36cm×32cm高さ24cmで断面は台形をなす。形状から五輪塔地輪の可能性がある。側面のうちの一面はくぼんでおり、五輪塔の地輪とすればこの面に彫られていた梵字の削り取られた痕跡かもしれない。

図６中イ～へは2面から3面へ掘り下げ時に遺物の出土した地点を示す。イ－土師器ⅢＲ種小型　ロ・ニ－常滑Ⅱ類こね鉢　ハ－人骨（四肢骨）　へ－人骨（頭骨か？）　ホ－常滑甕である。

１～７は3面上出土遺物　１～5－土師器ⅢR種、6－瀬戸平碗、７－瀬戸仏花瓶　頸部に不遊環が付き、胴部には沈線で牡丹唐草文が施される。釉は鉄釉。先の五輪塔地輪とおぼしい方形切石や人骨などとともに、上方または周辺に寺院関連施設の存在をうかがわせる。

面の年代は、3などの15世紀とみられるものの存在を考慮すれば、14世紀後半から15世紀初頭としておきたい。

５．４面

Ⅰ区では前述したように３面下10cm余りでロームに似た明茶褐色土があらわれる。念のため西側50cm東側70cmほど深掘りしたが、遺構・遺物とも検出されなかった。

Ⅱ区では岩盤裾31mあたりから西南に緩やかに傾斜する面が見られる。風化した砂岩粒を多く含む赤灰褐色土で、全面にわたって大小の小孔が19穴検出された。面積が少ないため並びや性格を明らかにすることはできなかったが、多くは複雑に切り合っており、礎石風の砂岩を伴うものや二枚重ねの土師器皿（図７－1・2）が出土したものもある。また径4～10cmの小孔24穴は杭穴と思われる。西隅に白色砂岩粒の堆積した部分がある。

遺構の密な面とⅠ区の地山と思われる面の関係は明らかではない。Ⅱ区ではさらに、風化した砂岩混じりの土に覆われた下の岩盤の岩肌を出すために東壁に沿って深掘りしたが、人為性は認められなかった。面の年代は、図示した2点の土師器からみて、14世紀前半～中葉頃であろう。　（松原）

第４章　まとめ

急な斜面を造成して平場が造られている。調査範囲が狭く、全体の様相を把握するにはいたらないが、3面の五輪塔地輪とみられる石や、同じく3面の瀬戸鉄釉仏花瓶（図6－7）などの存在、また散見される人骨などに、仏教的な要素を否定することができない。これらの発見を念頭においてⅡ区４面で検出された小孔群をみると、両者があながち無関係ではない可能性が浮上してくる。すなわち小孔群は塔婆を立てた痕跡との推測も成り立つのではないか。年代的には14世紀前半頃、おそらく鎌倉幕府滅亡後ほどなくして遺跡の営為が始まったものと考える。とすれば、この時期最盛期にあった北鎌倉から山ノ内にかけての諸寺院のどれかと関係している可能性があるのではなかろうか。　（馬淵）

引用・参考文献（本報全体に共通）

伊丹まどか2000「円覚寺門前遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』16　鎌倉市教育委員会
丑野毅1974「神奈川県鎌倉市台遺跡調査報告」『人文科学科紀要』第59輯
大上周三1992「台山遺跡（『29）」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』8　鎌倉市教育委員会
大河内勉1996『台山藤源治遺跡―第2次調査報告』台山藤源治遺跡発掘調査団
菊川英政ほか1998「円覚寺旧境内遺跡（『434）」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』14　鎌倉市教育委員会
斎木秀雄ほか1985「台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』1　鎌倉市教育委員会
宍戸信悟ほか「長勝寺跡内やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』116
宗臺秀明1993『台山藤源治遺跡―第三次調査報告』台山藤源治遺跡発掘調査団
鈴木庸一郎2000「長勝寺跡（No88）所在やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』92
玉林美男ほか1988「台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』4　鎌倉市教育委員会
継実ほか1998「円覚寺門前遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』14　鎌倉市教育委員会
手塚直樹ほか1983『円覚寺境内西やぐら群』円覚寺境内西やぐら群発掘調査団
手塚直樹ほか1985『台山藤源治遺跡』台山藤源治遺跡発掘調査団
長谷川厚ほか1999「長勝寺跡（No88）所在やぐら群」『かながわ考古学財団調査報告』71
馬淵和雄1994「武士の都　鎌倉」『都市鎌倉と坂東の海に暮らす』新人物往来社
山本暉久ほか1985「帰源院下やぐら群」『神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告』9
若松美智子ほか1999「台山遺跡（『29）」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』15　鎌倉市教育委員会

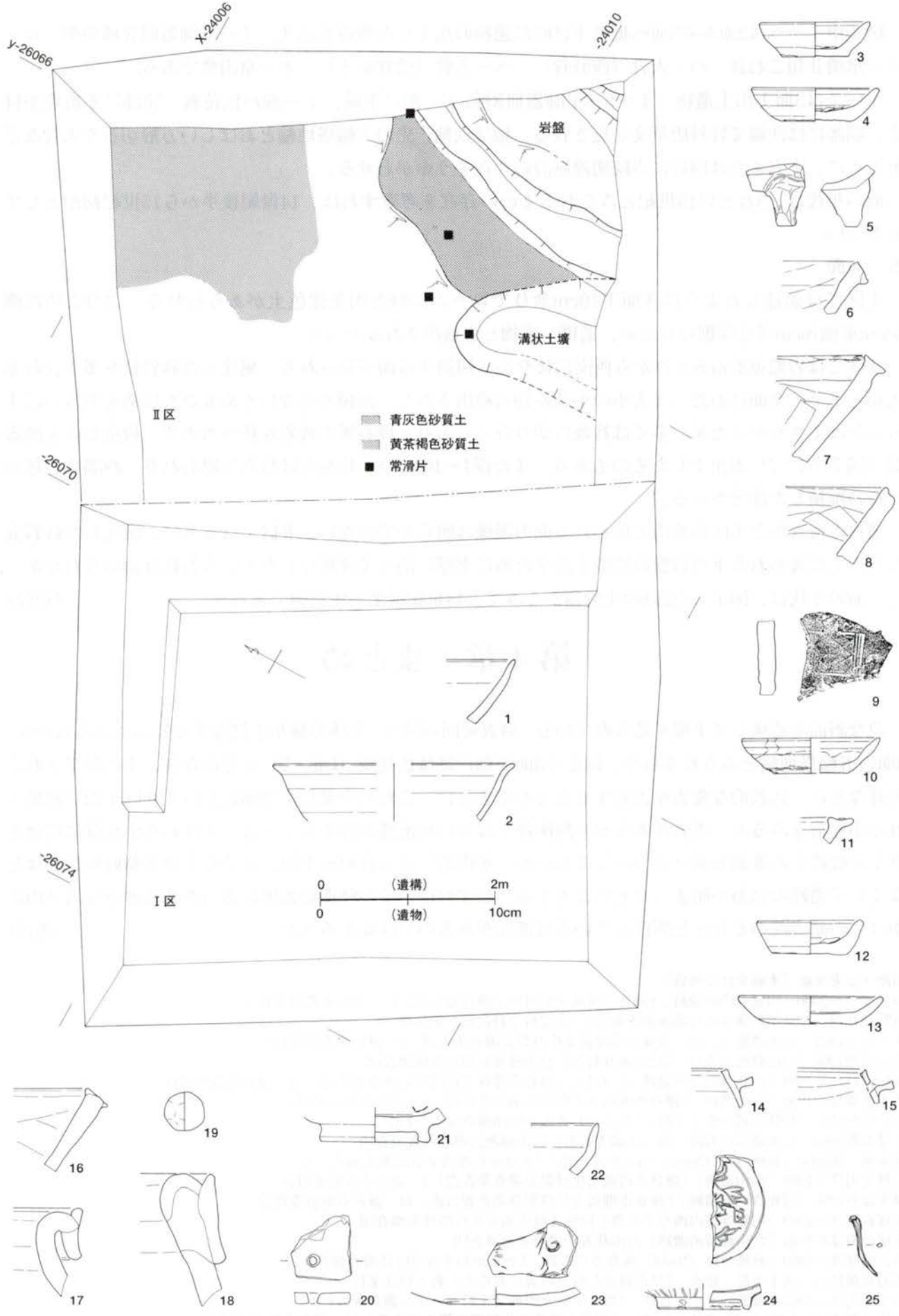


図4　1面遺構全図・近世層および1面出土遺物

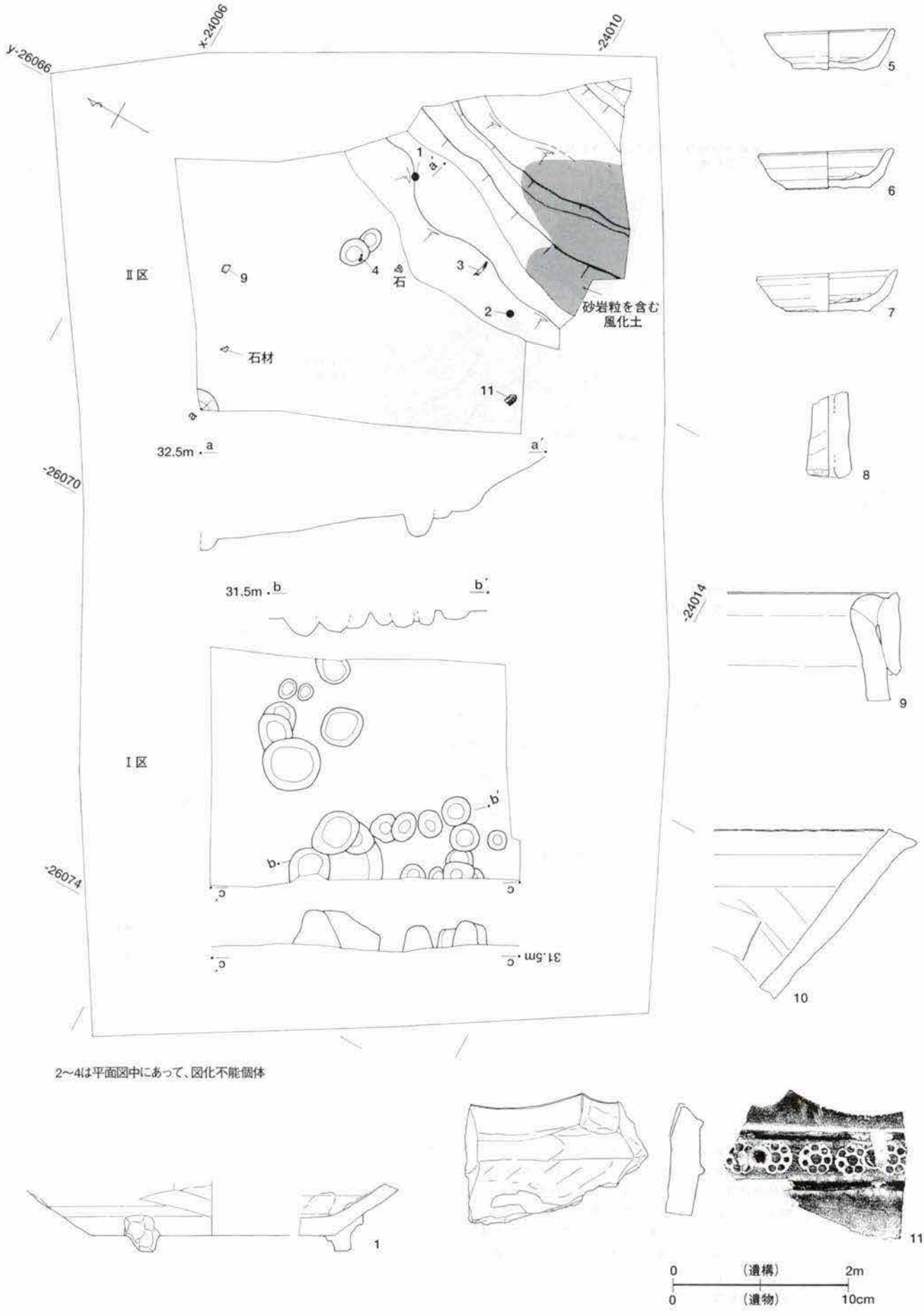
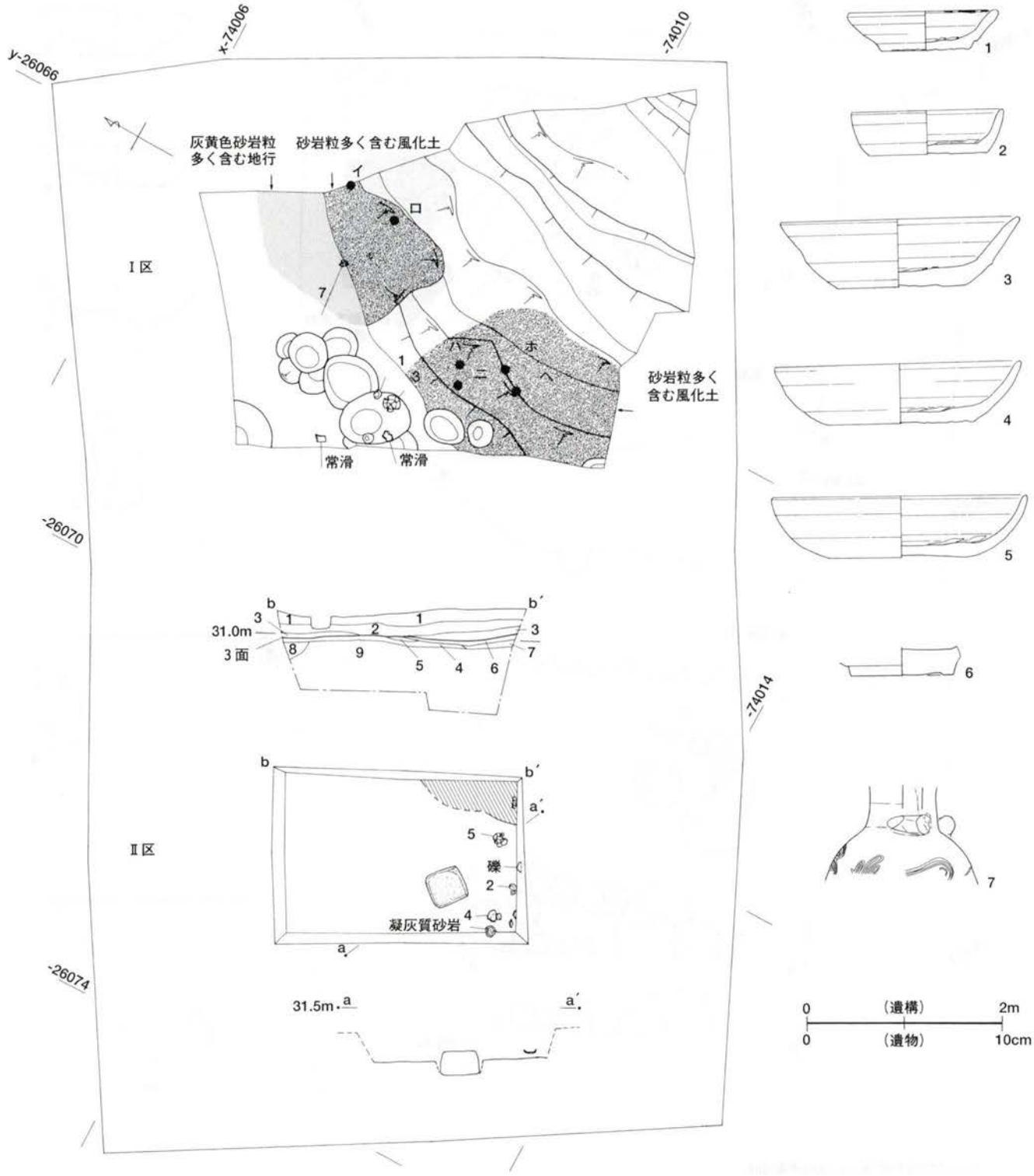


図5　2面遺構全図・同出土遺物



1 暗茶褐色粘質土　炭化物・土丹粒・遺物片少し含む
2 暗茶褐色粘質土　砂・黄褐色砂岩粒・土丹小片・炭化物・遺物片含む
3 暗茶褐色弱粘質土　砂多く含む　炭化物・黄褐色砂岩粒含む
4 黒褐色粘質土・暗茶褐色粘質土混在　黄褐色砂岩粒・砂・炭化物・遺物片含む
5 暗茶褐色粘質土　砂・砂岩粒少量含む
6 黄褐色砂と青灰色砂岩粒が層状をなす　炭化物・遺物片含む
7 暗茶褐色粘質土　黄褐色砂岩粒・砂・炭化物・遺物片含む
8 明茶褐色粘質土　砂多く含む（ロームに似る）
9 明茶褐色粘質土　砂・炭化物少し含む（ロームに似る）

図6　3面遺構全図・同出土遺物

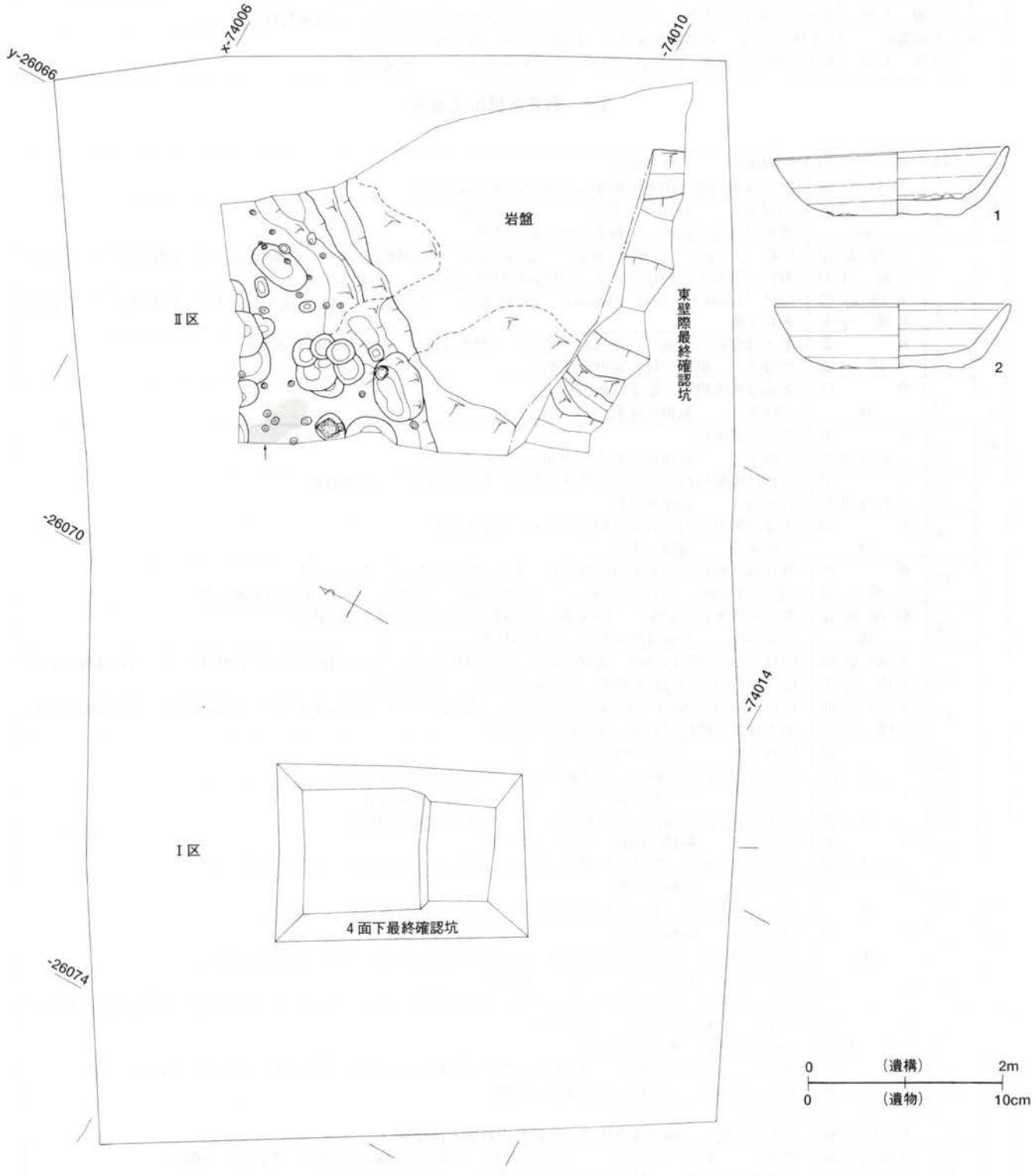


図7　4面遺構全図・4面下最終確認坑・4面出土遺物

番号	種別	大きさ　せいけい　素地・胎土　その他特徴など
図3 1	常滑 こね鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形のちタテヘラナデ　口縁部に降 器表面は褐色　胎土は紫褐色で長石、石英を含む　内面磨耗
2	軒丸瓦	最大厚2.6cm　中心厚2.05cm 胎土は灰色で小石片を含む　巴文の外周に２個を１単位とした珠文を配する
3	土師器Ⅲ R種　小型	口径8.1cm　底径4.8cm　器高2.5cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は明橙色（表面）～灰橙色（胎芯）で白色針状物質を含む　焼成良好
4	土師器Ⅲ R種　大型	右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は橙色で石英、白色針状物質、赤色粒子を含む　焼成良好

表1　調査区壁出土遺物

近世層	図4 1	瀬戸 天目茶碗	口縁部片　ロクロ成形 胎土は黄白色で緻密　釉薬は茶褐色鉄釉で漬け掛け
	2	竜泉窯青磁 碗	口縁部片　口径（13.7cm）　ロクロ成形 素地は灰色で緻密　釉薬は灰緑色で透明
1面上	3	土師器Ⅲ R種　小型	口径（6.2cm）　底径（3.8cm）　器高2.0cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部 板状圧痕胎土は橙色で石英、白色針状物質を含む　焼成良好
	4	土師器Ⅲ R種　小型	口径（7.0cm）　底径（3.8cm）　器高1.9cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部 板状圧痕
	5	瓦器 火鉢　脚	胎土は橙色（表面）～淡褐色（胎芯）で黒雲母細片、白色針状物質を含む 脚部片　脚貼り付け後外側を磨く
	6	魚住 鉢	表面は明茶橙色　胎土は灰白色 口縁部片　輪積み成形
	7	常滑 こね鉢Ⅱ類	胎土は濃灰色 口縁部片　輪積み成形のち内面にタテヘラナデ
	8	常滑 こね鉢Ⅱ類	表面は暗紫褐色　胎土は灰褐色で長石、石英を含む　内面磨耗 口縁部片　輪積み成形
	9	常滑 甕	表面は褐色　胎土は淡灰褐色で長石、石英を含む 口縁部片　輪積み成形
	10	瀬戸 緑釉小皿	外表面は褐色　内表面は淡橙褐色　胎土は灰色で長石、小石を含む 口径（8.0cm）　底径（4.5cm）　器高1.9cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり
	11	舶載陶器 鉢	胎土は淡灰色で緻密　口縁部に淡灰緑色で透明の灰釉を漬け掛け 口縁部片　表面は暗茶褐色　胎土は灰色
1面包含層	12	土師器Ⅲ R種　小型	口径5.9cm　底径4.3cm　器高1.8cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は橙色で白色針状物質、泥岩粒を含む　焼成良好
	13	土師器Ⅲ R種　小型	口径（8.0cm）底径（4.7cm）器高1.6cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は淡灰橙色で石英、泥岩粒を微量含む
	14	土器 つば鍋	口縁部片　つば貼り付けのちヨコナデ 胎土は明灰白色で緻密　混入物なし　つば下方に煤若干付着
	15	土器 つば鍋	口縁部片　つば貼り付けのちヨコナデ　つば上方に穿孔 胎土は灰白色で緻密　混入物なし　つば下方全面に煤付着
	16	常滑 こね鉢Ⅱ類	口縁部片　輪積み成形　内面にヨコナデ 表面は暗紫褐色　胎土は灰褐色で長石、石英、小石片を含む　鉄分の吹出しあり
	17	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 表面は暗紫褐色　胎土は灰黒色で長石、石英、小石片を含む　降灰あり
	18	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 外表面は褐色　内表面は暗紫褐色　胎土は灰褐色で長石、石英、小石片を含む
	19	陶丸	長径2.35cm　短径2.2cm　手づくね成形 胎土は淡灰色　長石の吹出しが１ヶ所、鉄分の吹出しが３ヶ所にあり　降灰あり　南部系の窯で焼成か
	20	瓦器 火鉢　底部	底部片　輪積み成形　穿孔あり 表面は灰黒色　胎土は灰白色
	21	瀬戸 平碗	底部片　高台径6.2cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　付け高台　内底部に目跡が２ヶ所 胎土は黄白色　内面に淡灰緑色の灰釉
	22	吉州窯 天目茶碗	口縁部片　ロクロ成形 胎土は灰色　釉薬は茶褐色～黒褐色の鉄釉を漬け掛け
	23	竜泉窯青磁 画花文Ⅲ	底部片　底径（5.2cm）　ロクロ成形　外面下位回転ヘラ削り　外底部ヘラ削り 素地は淡灰黄色　釉薬は淡灰緑色で透明　内底面に草花文
	24	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	底部片　底径（5.2cm）　ロクロ成形　削り出し高台 素地は灰白色で緻密　釉薬は淡灰緑色で半透明　外底部露胎　内底面に画花文　外面に蓮弁文
	25	鉄製品 釘	長さ3.1cm　長幅0.3cm　短幅0.2cm　重量1.9g

表2　近世及び1面出土遺物

番号	種別	大きさ　せいけい　素地・胎土　その他特徴など
図5 1	瀬戸 大平鉢	底部片　底径（12.8cm）　ロクロ成形　外面下位及び外底部回転ヘラ削り　脚部貼り付け 胎土は黄灰色　釉薬は浅黄色の灰釉を漬け掛け　内面は若干磨耗しているか
5	土師器皿 R種小型	口径7.8cm　底径4.95cm　器高2.25cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は明淡褐色で黒雲母細片、赤色粒子、泥岩粒を含む
6	土師器皿 R種小型	口径7.8cm　底径4.7cm　器高2.1cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は明淡褐色で黒雲母細片、白色針状物質、赤色粒子を含む
7	土師器皿 R種小型	口径8.1cm　底径4.9cm　器高2.2cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は淡褐色で黒雲母細片、白色針状物質、赤色粒子を含む
8	土器 灯明台	胴部片　最大幅2.6cm　孔径（上部0.6cm）（下部0.8cm）　外面に整形の際のらせん状のナデ 表面は明白橙色　胎土は灰黒色で緻密　長石を含む　固く焼ける
9	常滑 甕	口縁部片　輪積み成形 外表面は褐色　胎土は明淡褐色で長石、石英、小石片を含む
10	常滑 こね鉢Ⅱ類	口縁部～体部片　輪積み成形のちタテヘラナデ　外面に指頭痕 表面は褐色　胎土は橙褐色で長石、石英を含む　内面磨耗
11	瓦器 土風呂	胴部片　輪積み成形　外面ヘラ磨き 表面は灰黒色　胎土は明淡灰色で小石片を含む　外面に片切り彫りによる７弁の花文

表3　2面出土遺物

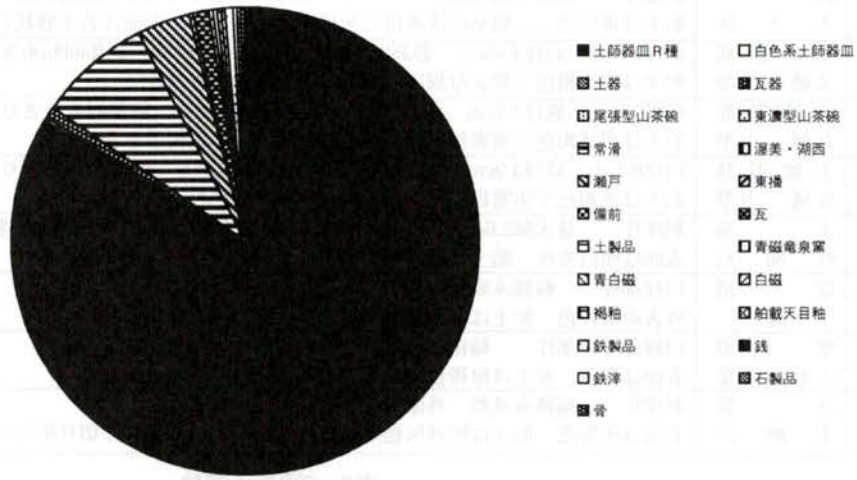
図6 1	土師器皿 R種小型	口径（7.4cm）　底径4.6cm　器高2.0cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は明淡褐色で黒雲母細片、白色針状物質、泥岩粒を含む　口縁部に油煤付着
2	土師器皿 R種小型	口径（7.2cm）　底径（6.0cm）　器高2.2cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は淡褐色で黒雲母細片、白色針状物質、赤色粒子を含む
3	土師器皿 R種大型	口径12.3cm　底径6.5cm　器高3.5cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は明淡褐色で黒雲母細片、白色針状物質、赤色粒子、泥岩粒を含む
4	土師器皿 R種大型	口径12.6cm　底径7.8cm　器高3.05cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は淡褐色で黒雲母細片、白色針状物質、赤色粒子、泥岩粒を含む
5	土師器皿 R種大型	口径（13,0cm）　底径7.6cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は橙褐色で黒雲母細片、赤色粒子、泥岩粒を含む
6	瀬戸 平碗	底部片　底径5.2cm　ロクロ成形　右回転糸きり　削り出し高台 胎土は淡黄白色　釉薬は浅黄色の灰釉を漬け掛け　高台外面上方に煤付着
7	瀬戸 花瓶	頚部下方～胴部上方片　輪積み成形のち回転ナデ 胎土は黄灰白色　釉薬は暗灰緑色の鉄釉を漬け掛け

表4　3面出土遺物

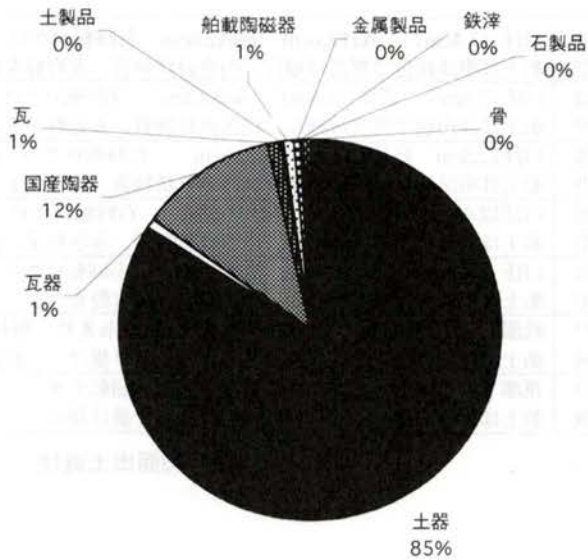
図7 1	土師器皿 R種大型	口径12.0cm　底径6.4cm　器高3.2cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は淡褐色で黒雲母細片、白色針状物質、泥岩粒を含む
2	土師器皿 R種大型	口径12.2cm　底径6.7cm　器高3.3cm　右回転ロクロ　底部回転糸きり　内底部ナデ　外底部板状圧痕 胎土は淡褐色で黒雲母細片、白色針状物質、赤色粒子、泥岩粒を含む

表5　4面出土遺物

土師器皿Ｒ種	2763	83.55%
白色系土師器皿	1	0.03%
土器	6	0.18%
瓦器	31	0.94%
尾張型山茶碗	2	0.06%
東濃型山茶碗	1	0.03%
常滑	253	7.65%
渥美・湖西	4	0.12%
瀬戸	120	3.63%
東播	4	0.12%
備前	4	0.12%
瓦	32	0.97%
土製品	9	0.27%
青磁竜泉窯	17	0.51%
青白磁	2	0.06%
白磁	7	0.21%
褐釉	2	0.06%
舶載天目釉	7	0.21%
鉄製品	12	0.36%
銭	1	0.03%
鉄滓	8	0.24%
石製品	9	0.27%
骨	12	0.36%
合　計	3307	100%
弥生土器	21	
須恵器	3	
土師器	59	
近世陶磁器	24	



土　器	2770	83.76%
瓦　器	31	0.94%
国産陶器	388	11.73%
瓦	32	0.97%
土製品	9	0.27%
舶載陶磁器	35	1.06%
金属製品	13	0.39%
鉄　滓	8	0.24%
石製品	9	0.27%
骨	12	0.36%
合　計	3307	100%



尾張型山茶碗	2	0.47%
東濃型山茶碗	1	0.24%
常　滑	253	59.81%
渥美・湖西	4	0.95%
瀬　戸	120	28.37%
東　播	4	0.95%
備　前	4	0.95%
青磁竜泉窯系	17	4.02%
青白磁	2	0.47%
白　磁	7	1.65%
褐　釉	2	0.47%
舶載天目釉	7	1.65%
合　計	423	100%

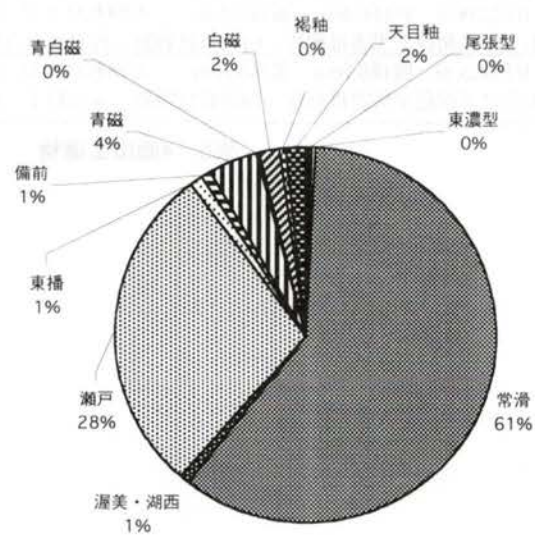
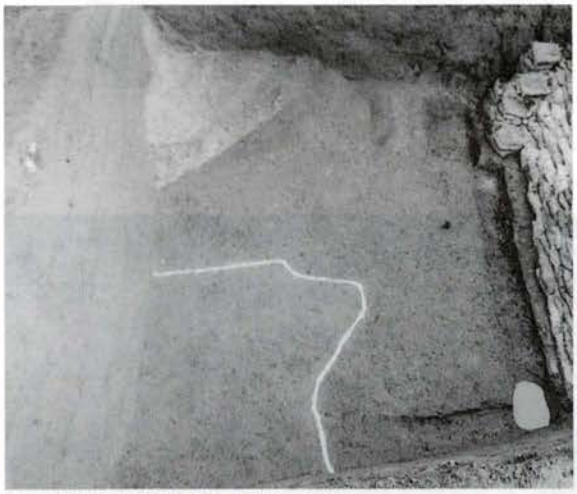


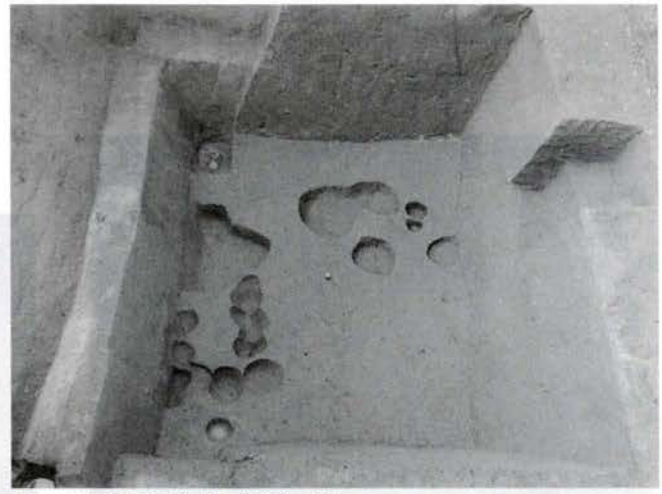
表6　出土遺物集計表

1．調査地点航空写真

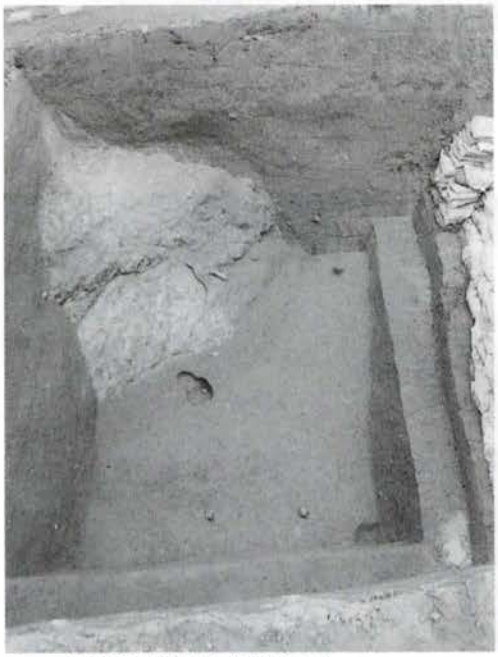
2．調査地点遠景（西から）



3．Ⅱ区1面全景（西から）



5．Ⅰ区2面全景（西から）



4．Ⅱ区2面全景（西から）

6．Ⅱ区2面火鉢出土状況（西から）

7．Ⅱ区2面人骨出土状況（南西から）

図版2

1．Ⅱ区2面～3面間遺物出土状況（西から）

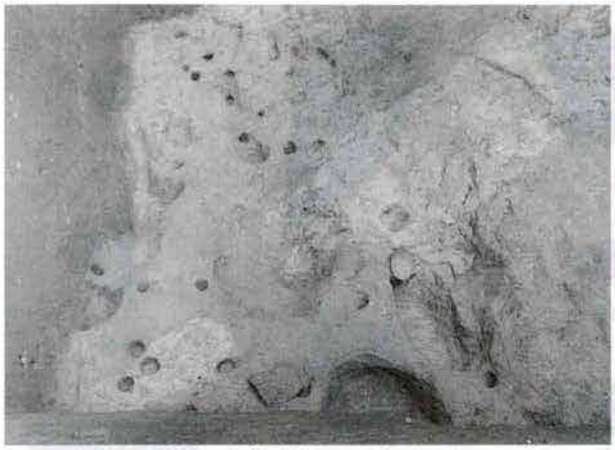
2．Ⅰ区3面全景（西から）

4．Ⅱ区3面全景（西から）

3．Ⅰ区3面遺物出土状況

5．Ⅱ区3面遺物出土状況（南西から）

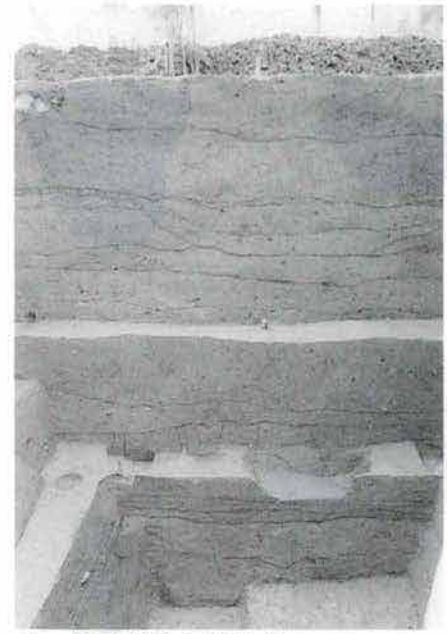
6．Ⅱ区4面全景（西から）



1．Ⅱ区４面小孔群検出状況（南から）

3．Ⅰ区４面下最終確認坑（北から）

2．Ⅱ区東壁際最終確認坑（南西から）



4．Ⅰ区南壁土層断面

5．Ⅱ区北壁土層断面

6．Ⅱ区東壁土層断面

図版 4

3-1

3-2

3-3

3-4

5-1

5-9

5-11

4-1

4-2

4-4

4-5

4-7

5-8

4-8

4-10

4-12

4-14

4-15

6-2

6-3

6-4

6-5

6-7

4-16

4-17

4-18

4-19

4-20

4-21

4-23

4-22

6-24

7-1

7-2

名越ヶ谷遺跡（No.231）

大町四丁目2395番2の1部外1筆

例　言

1. 本書は、鎌倉市大町四丁目2395番2の一部外１筆における個人住宅建設に伴う埋蔵文化財の緊急調査発掘調査報告である。
2. 発掘調査は、国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。
   調査期間は平成15年2月10日～同年3月14日にかけて実施され、調査対象面積は33㎡である。
   出土遺物に関しては鎌倉市教育委員会がこれを保管している。
3. 調査団編成は以下のとおりである。
   調査の主体　　鎌倉市教育委員会
   調査担当　　滝澤晶子（日本考古学協会会員）
   調査補助員　　安達澄代
   調査協力者　　安斉三男・荻野勲・倉沢六郎（以上、社団法人鎌倉市ｼﾙﾊﾞｰ人材ｾﾝﾀｰ）
4. 本書の遺構･遺物の縮尺は次の通りである。
   遺構図　1／40・1／20（遺構図の水糸高は海抜高を示す。）
   遺物実測図　1／3
5. 遺物実測図には次の記号が使用されている。
   釉の限界線 ―･―･―･―･　　使用痕の範囲 ― ― ― ―
   調整の変化点 ― ― ― ―　　加工痕の範囲 |←――――→|
6. 本書の執筆・編集は滝澤晶子が行なった。
7. 本書の図版作成及び写真撮影は次の者が分担した。
   遺構図版　滝澤晶子　　遺構写真　滝澤晶子
   遺物図版　河内令子　　遺物写真　滝澤晶子
8. 発掘調査に際して多大な御協力を頂いた施主に深く感謝の意を表する。

目　次

本文目次

第1章　遺跡の位置と歴史的環境 ……138
第2章　調査経過・ｸﾞﾘｯﾄﾞ配置・基本土層 ……140
第3章　検出遺構と出土遺物 ……141
第4章　まとめ ……151

図版目次

図1　遺跡周辺図 ……139
図2　グリッド配置図 ……140
図3　基本土層 ……141
図4　1面遺構配置図 ……141
図5　埋甕1 ……142
図6　埋甕1 ……142
図7　掘立柱建物1 ……143
図8　井戸1 ……143
図9　井戸1出土遺物 ……143
図10　土壙1～3・5～10 ……144
図11　土壙3出土遺物 ……145
図12　1面出土遺物 ……145
図13　2面遺構配置図 ……147
図14　掘立柱建物2 ……148
図15　掘立柱建物3・柱穴列1 ……149
図16　土壙11 ……150
図17　掘立柱建物3・土壙11出土遺物 ……150
図18　2面出土遺物 ……150

写真目次

図版1　A.重機による表土掘削 ……152
B.1面　埋甕1（西より）……152
図版2　A.Ⅰ区　1面全景（北より）……153
B.Ⅱ区　1面全景（東より）……153
図版3　A.Ⅰ区　2面全景（北より）……154
B.Ⅱ区　2面全景（東より）……154
図版4　出土遺物（1）……155
図版5　出土遺物（2）……156

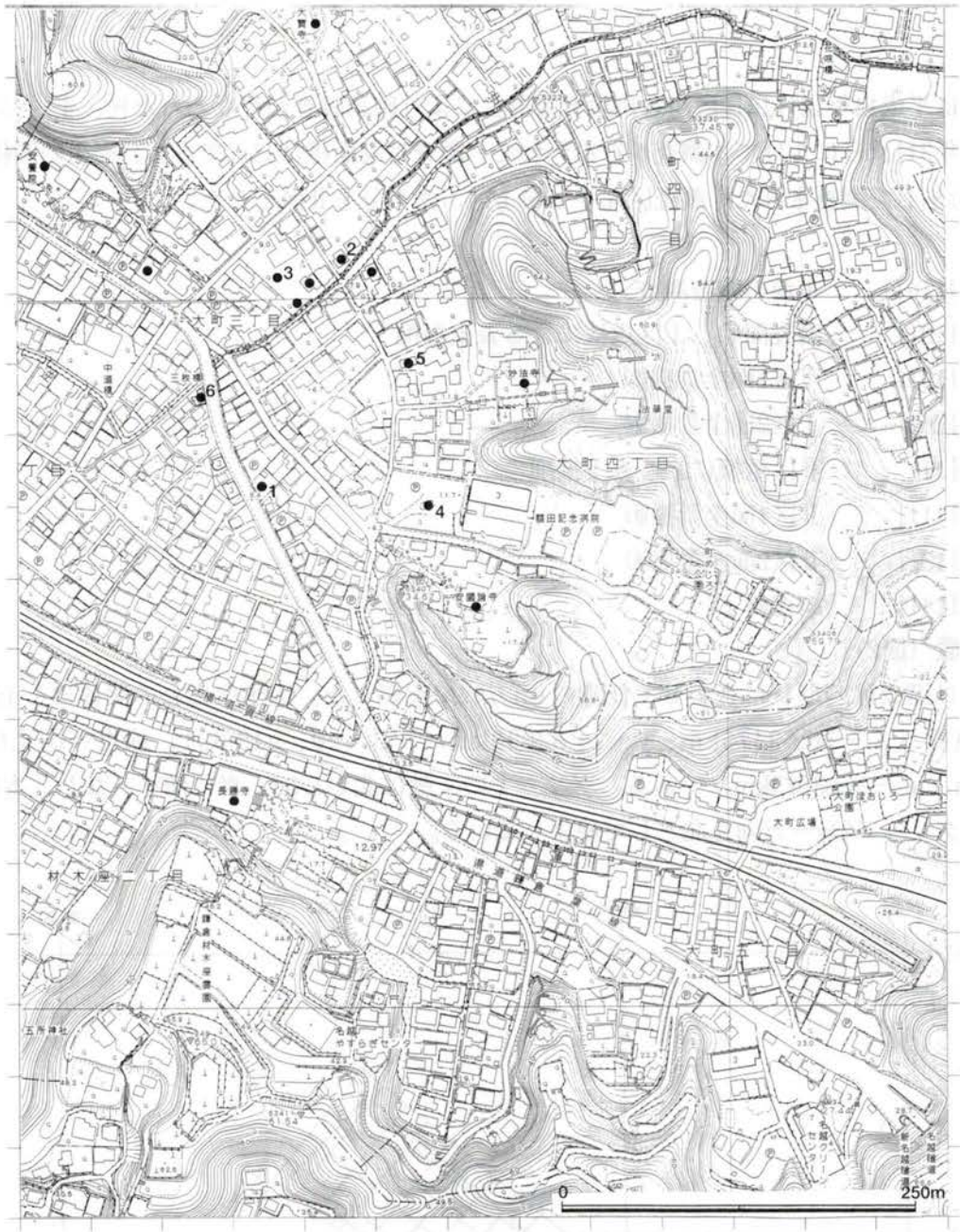
第1章　遺跡の位置と歴史的環境

本調査地点「名越ヶ谷遺跡」は鎌倉市大町四丁目2395番2の1部外1筆に所在する。鎌倉の中心地点、JR鎌倉駅から東方に約１kmの地点である。名越ヶ谷は鎌倉市街地の東部、大町に位置し、衣張山の南麓に展開する大規模な谷戸で、奥行き1000ｍ以上、谷幅500ｍ以上を測る。また、その複雑な地形から、松葉ヶ谷・花ヶ谷・山王ヶ谷などの支谷を多く持つ。調査地点はその谷戸の開口部縁に位置する。調査地点から北へ約100mのところに衣張山を水源とする逆川が流れ、西側には北西から南東へ「県道鎌倉・葉山線」が通っている。この道路は名越隧道に続いており、鎌倉時代、鎌倉七口と言われた切通しの内のひとつ、鎌倉から三浦へ抜ける「名越切通し」がこの隧道の上を通っている。なお、詳細は不明とされているが、この道筋は古東海道の道筋であろうと言われている。

調査地点の周辺には妙法寺・安国論寺・長勝寺・大宝寺・安養院などの寺院がある。妙法寺・安国論寺・長勝寺・大宝寺は日蓮宗の寺で、妙法寺・安国論寺は日蓮が小庵を営んだ場所と伝わっており、両寺がある松葉ヶ谷は立正安国論を示した日蓮に対して文応元年（1260）念仏門徒たちが草庵の焼き討ちを行なった場所でもある。安養院は嘉禄元年（1225）源頼朝の菩提を弔うため北条政子が佐々目ヶ谷に建立した長楽寺という律宗の寺を前身とし、鎌倉時代末期に現在地に移り、浄土宗の寺となったらしい。この他、慈恩寺・木東寺・田代観音堂・山王堂などがあったが、廃寺となり、現在その正確な場所は不明である。さらに、衣張山には唐糸やぐらに代表される衣張山やぐら群がある。また、この地は北条時政以来、北条氏の居館があった場所で、第二代執権北条義時の次男朝時から名越氏を称したという。大宝寺の寺域は俗に佐竹屋敷と呼ばれ、新羅三郎義光が後三年の役の後、ここに館を構え、その後、佐竹一族が居住したと伝えられている。中世には寺院や武士の邸宅の多かった地域である。

これまでこの周辺では数ヶ所の発掘調査が行なわれている。いずれの遺跡からも、13世紀中葉～14世紀中葉の遺構群が検出され、2地点からは逆川の旧河川道および護岸施設、3地点からは庭園の可能性のある玉砂利遺構、4・5地点からは武家の屋敷地や寺院の境内地、6地点は中世町屋として賑わっていた様相、その他周辺の調査からは概ね、13世紀後半～14世紀前半に最も繁栄を見せているとの報告がされている。また、2地点からは下層から古代遺物がまとまって出土したことが報告されている。周囲の発掘調査結果からもこの地域が鎌倉時代に武家屋敷や寺院が建ち並び、賑わいを見せていた事が判明している。

〈参考文献〉
「鎌倉事典」　白井永二　編　平成4年1月10日　東京堂出版
「鎌倉廃寺事典」　貫達人・川副武胤　著　昭和55年12月15日　有隣堂
「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　20　第2分冊・名越ヶ谷遺跡(№231)大町六丁目1708番4地点」鎌倉市教育委員会H.16.3
「名越・山王堂跡発掘調査報告書」　山王堂発掘調査団　1990.3
「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　18　第2分冊・名越ヶ谷遺跡(№231)大町三丁目1826番9地点」鎌倉市教育委員会.H.14.3
「名越ヶ谷遺跡（鎌倉市大町三丁目2356番3地点）発掘調査報告書」　名越ヶ谷遺跡発掘調査団　2001.12
「名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書（医療法人財団　額田記念会　老健ぬかだ建設に伴う発掘調査）」
名越ヶ谷遺跡発掘調査団　2003年　9月　有限会社　博通
「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　16　第2分冊・名越ヶ谷遺跡(№231)大町四丁目1888番地点」鎌倉市教育委員会H.12.3
「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　5・米町遺跡　大町二丁目411番2地点」鎌倉市教育委員会H元.3



1．本調査地点　（大町四丁目 2395 号 2 の 1 部外一章）
2．名越ヶ谷遺跡（大町三丁目 1826 号 9）
3．　〃　（大町三丁目 2356 号 3）
4．　〃　（大町四丁目 1901 番地 16 筆・老建ぬかだ）
5．名越ヶ谷遺跡（大町四丁目 1888 番）
6．木町遺跡　（大町二丁目 2411 番 2）

図1　遺跡周辺図

第2章　調査経過・グリッド配置・基本土層

調査経過

発掘調査は平成14年12月16日に鎌倉市教育委員会により確認調査が行なわれた後、平成15年2月10日～同年3月14日にかけて本調査が行なわれた。調査対象面積は33㎡である。廃土の関係上、調査区を2分割して調査された。調査区北半分をⅠ区、南半分をⅡ区とした。

平成14年12月16日　　事前の確認調査
平成15年2月10日　　調査開始　Ⅰ区重機による表土掘削
平成15年2月19日　　Ⅰ区1面全景撮影
平成15年2月26日　　Ⅰ区2面全景撮影
平成15年3月4日　　Ⅱ区重機による表土掘削
平成15年3月11日　　Ⅱ区1面全景撮影
平成15年3月13日　　Ⅱ区2面全景撮影
平成15年3月14日　　調査終了

グリッド配置（図2）

グリッドは調査区の形状に合わせて任意の1m方眼で配置した。国土座標との関係はA（x0，y0）地点＝国土座標（x－76.62475km，y－24.82028km）・B（x0，y13.391）地点＝国土座標（x－76.63343km，y－24.83075km）である。グリッドのy軸は北から50°東に傾く。なお、本報告書内では便宜上、グリッドのy－方向を北として使用している。

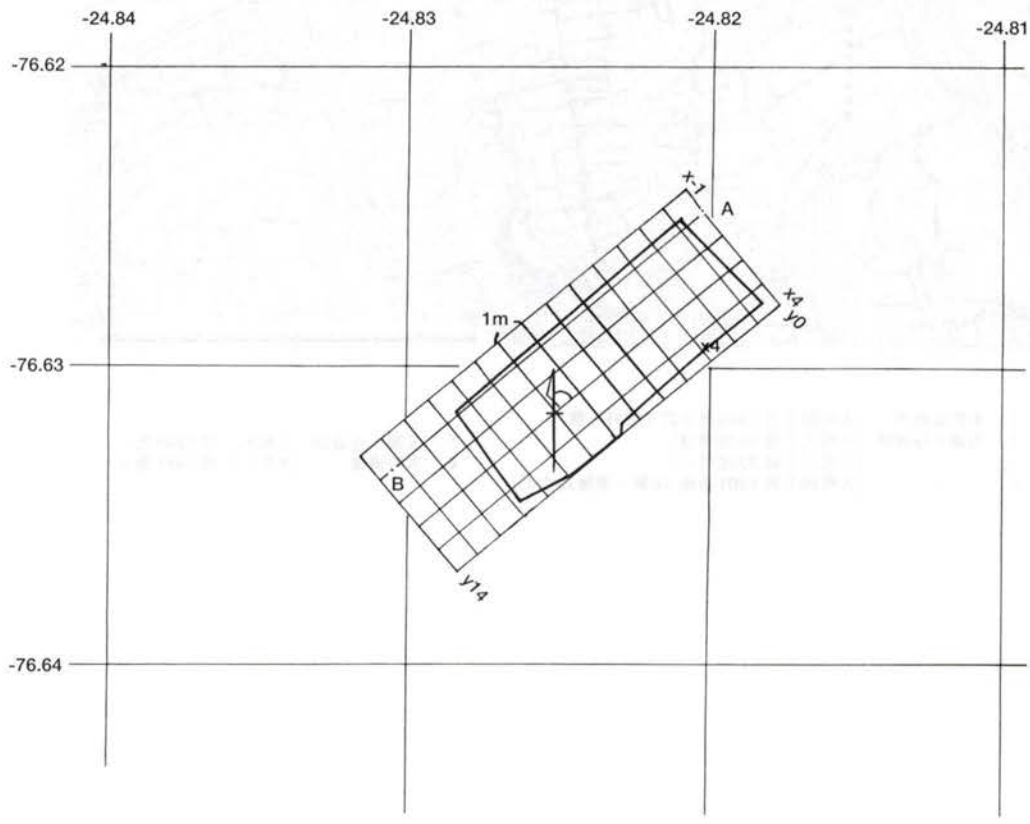


図2　グリッド配置図

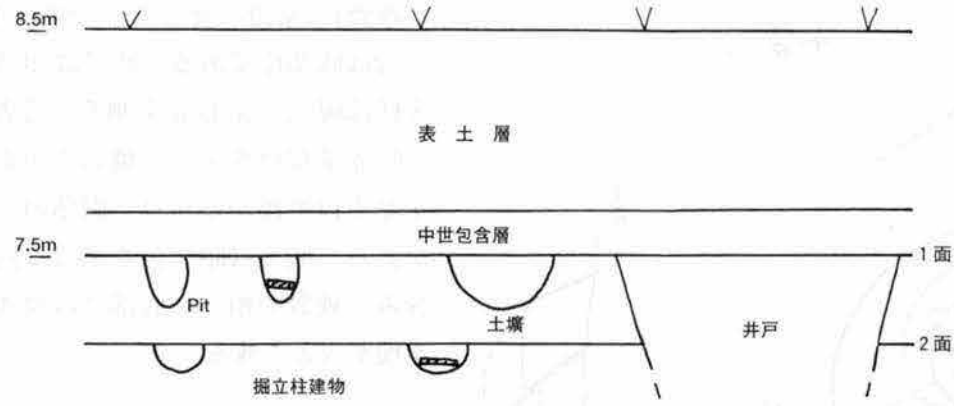


図3　基本土層図

基本土層（図3）

中世包含層　現地表下60cm前後、海抜7.7m～7.5m付近。灰褐色粘質土層、小土丹粒多い・かわらけ片・しまりよい。

1面構成土　現地表下100cm前後、海抜7.5m～7.7m付近。黒褐色粘質土層、極小土丹粒少し・1面上層には10cm前後の砂層がある。しまりよい。

中世地山　現地表下140cm前後、海抜7.1m付近。黒色粘質土層。しまりとても良い。

第3章　検出遺構と出土遺物

本遺跡からは中世期の生活面が1面と中世地山上に遺構群が検出された。以下にその詳細を報告する。なお、便宜上、東西南北は調査区に設定したグリッドに沿って記し、N・S・E・Wで表記されたものが、正確な方位である。

1面（図4）

1面は現地表下1m前後、海抜7.5m付近に検出された。検出遺構は埋甕1・掘立柱建物1棟・井戸1基・土壙9基・Pitである。やや広範囲に撹乱があるものの、密に遺構が検出した。1面上には砂が厚い所では10cm堆積していた。

埋甕1（図5・6）

埋甕1は（x1，y2）グリッド付近、海抜7.4m前後に検出した。直径80cmの平面円形の土壙に常滑の甕が据えられていた。甕の口縁部と胴部上位の部品は失われていた。据え方の深さは検出面から24cmを測る。甕の内部の覆土には特に、使用時の内容物を示すような物質は確認されなかった。

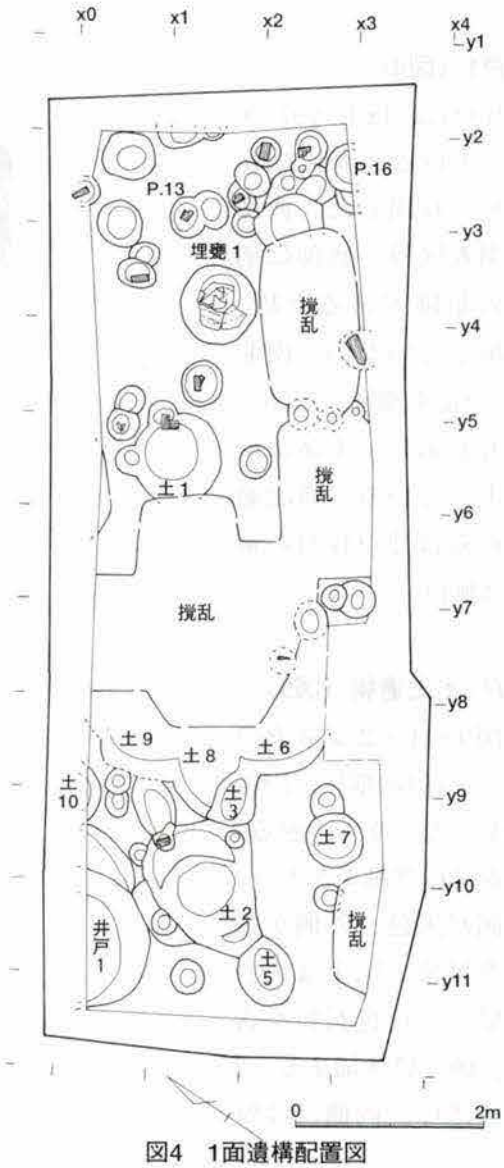


図4　1面遺構配置図

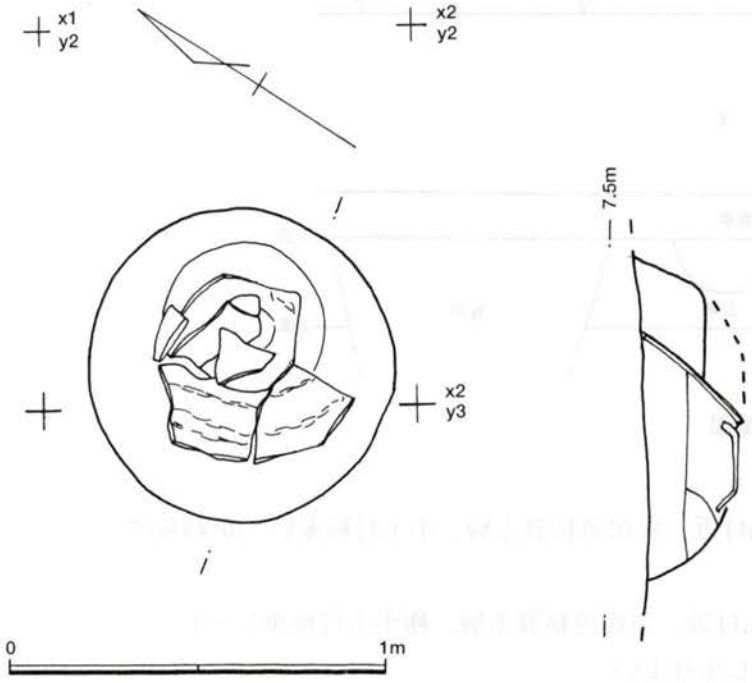


図5　埋甕1

埋甕1は常滑の甕である。図6－1は肩部片、図6－2は底部片である。底径は19.2cm、肩部の最大径は復元で38.6cmを測る。器表は明赤茶褐色～暗赤茶褐色を呈し、焼ムラがある。肩にはやや厚く自然釉がかかり、胴部の一部は薄く光沢がある。胎土は暗灰色を呈し、白色石粒を多く含み、硬質で粗い。底部には焼成時に付着した土塊が大きく残る。

掘立柱建物1（図7）

掘立柱建物1は（x1，y1）グリッド付近、海抜7.5m前後に検出した。1間×1間が柱穴4口から成り、さらに調査区外に展開する可能性が高い。柱穴4口の内3口には礎板が遺存していた。柱穴間の距離は芯々で180cmを測る。東西軸線方向はN-42°-Wである。

井戸1（図8）

井戸1は（x0，y9）グリッド付近、海抜7.5m前後に検出した。西部は調査区外、底部は崩落の危険があるため、完掘していない。南北幅は2mを測り、北部に掘方があり、本体は南によっている。確認範囲からは井戸枠材の検出は無い。

井戸1出土遺物（図9）

図9－1・2は常滑の甕。1は口縁部片。口縁端が上方に立ち上がる。器表は自然釉がかかり、内側が黒色、外側が緑色を呈す。胎土は灰色を呈し、白色石粒を含み、硬く焼き締まる。2は底部片。内側には厚

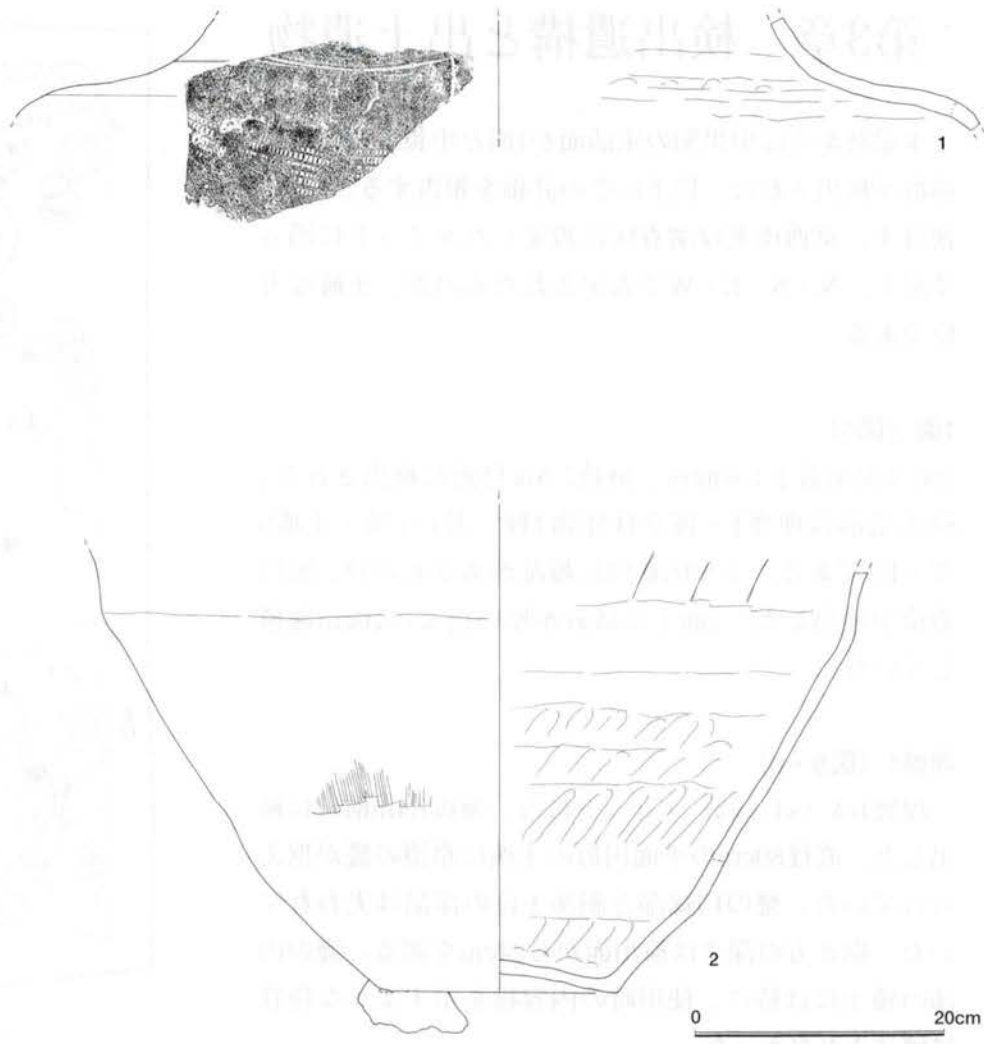


図6　埋甕1

く自然釉が溜り、器表は淡茶褐色を呈す。胎土は白灰色を呈し、白色石粒は小粒で量も少ない。

図9－3は土器質丸浅鉢型の手焙り。口縁端が内側に摘み出され、突帯状になる。内側面の一部に煤が付着している。胎土は桃色～白褐色を呈し、微砂を多く含み粗い。内側面から外側面上位は丁寧に横ナデ成形されている。焼成は良好。

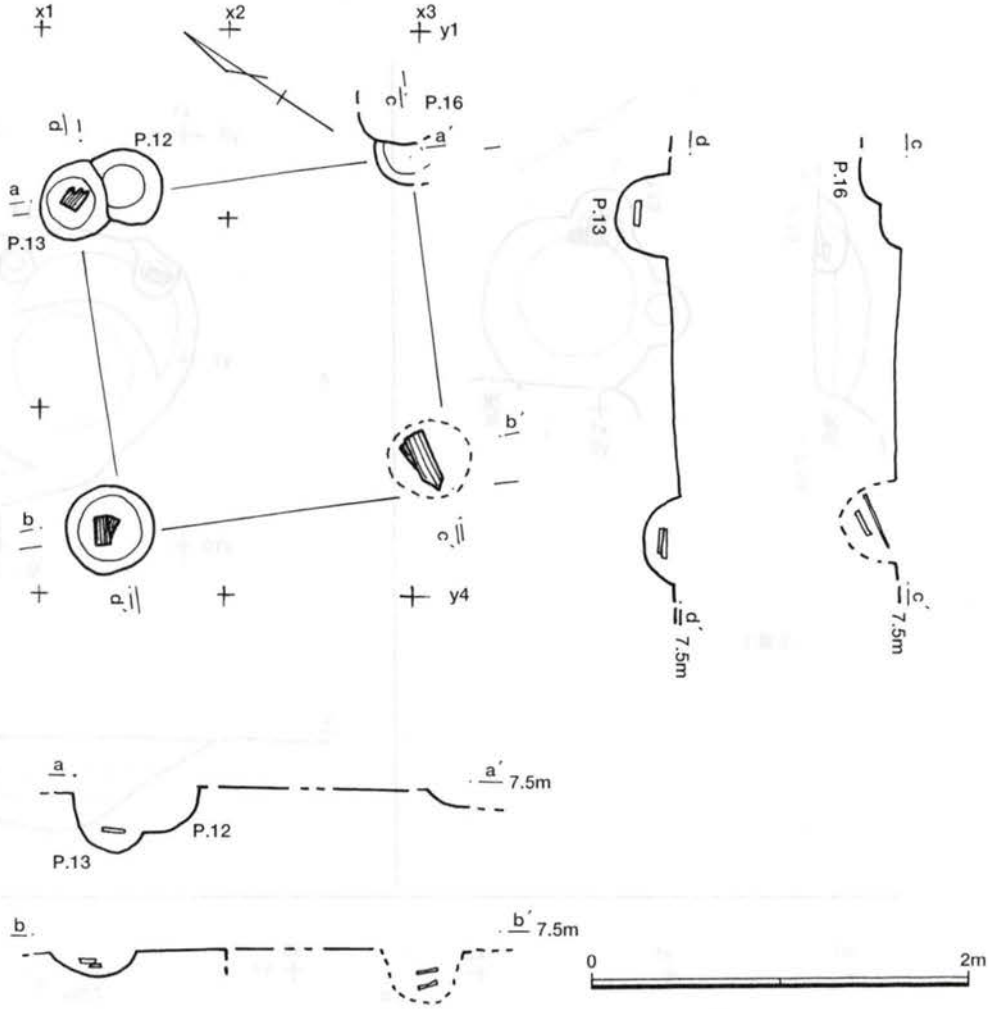


図7　堀立柱建物1

土壙1（図10）

土壙1は（ｘ1，ｙ4）グリッド付近、海抜7.5ｍ前後に検出した。南部は撹乱されている。北部はPit15に切られる。

平面形は円形を呈し、直径90㎝、深さは検出面から30cmを測る。

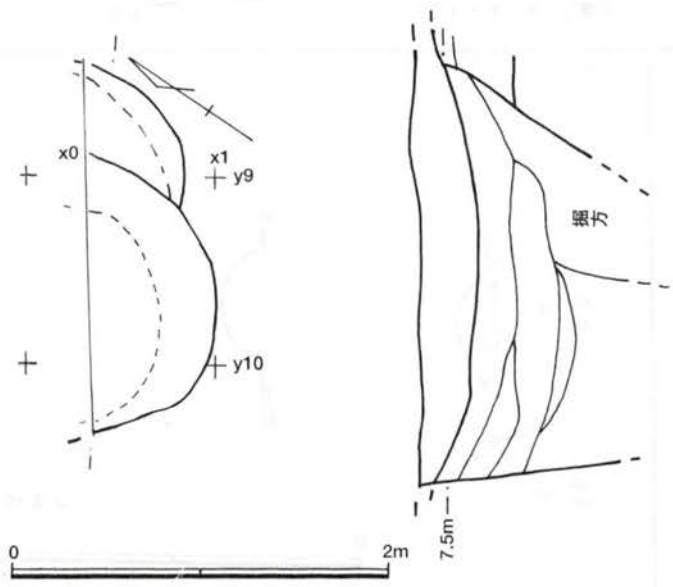


図8　井戸1

土壙2・5（図10）

土壙2は（x1，y8）グリッド付近、海抜7.5m前後に検出した。平面形は不整形を呈し、長軸160cm、短軸120cm、深さは検出面から50㎝を測る。北端及び南端に段がつく。

土壙5は（ｘ2，y10）グリッド付近、海抜7.5m前後に検出された。平面形はほぼ円形を呈し、直径60cm、深さは検

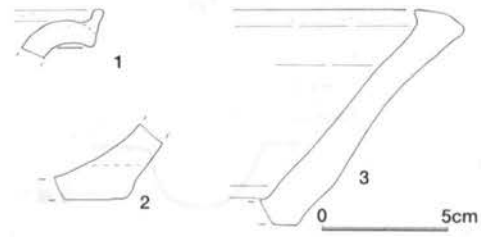
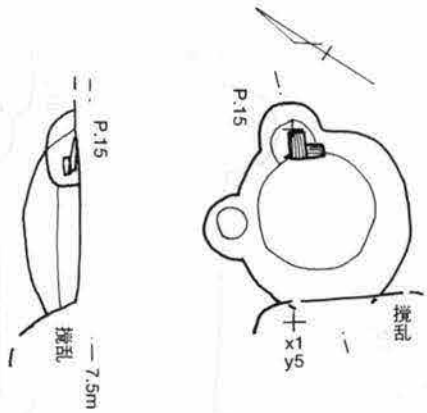
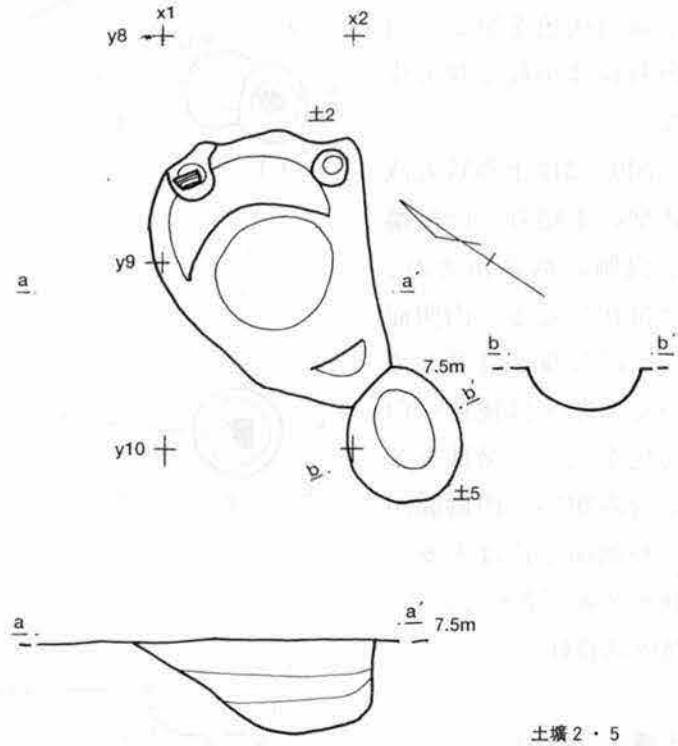


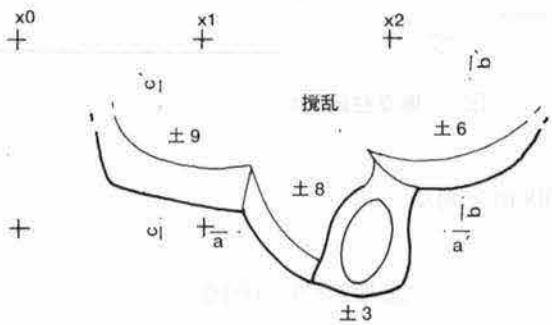
図9　井戸1出土遺物

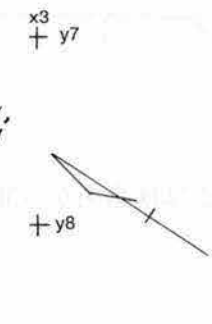


土壙1

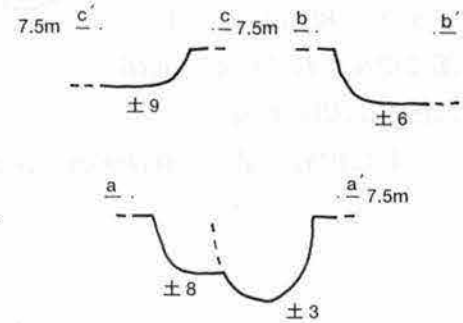


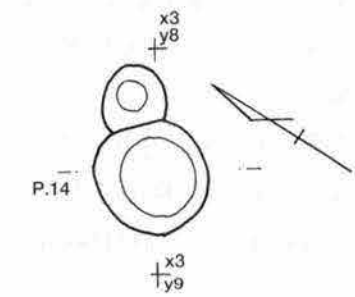
土壙2・5



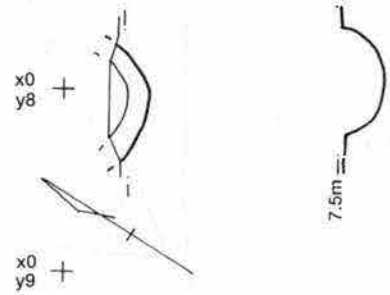


土壙3・6・8・9





土壙7



土壙10

図10　土壙1～3・5～10

出面から24cmを測る。北辺は土壙2と切り合っている。

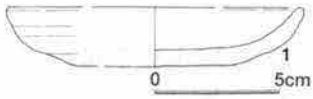


図11　土壙3出土遺物

土壙3・6・8・9（図10）

土壙3・6・8・9は（x0，y7）グリッド付近、海抜7.5m前後にお互いが切り合って検出した。また、北部は撹乱され失われてしまっている。土壙3は平面不整円形を呈し、長軸68cm、短軸45cm、深さは検

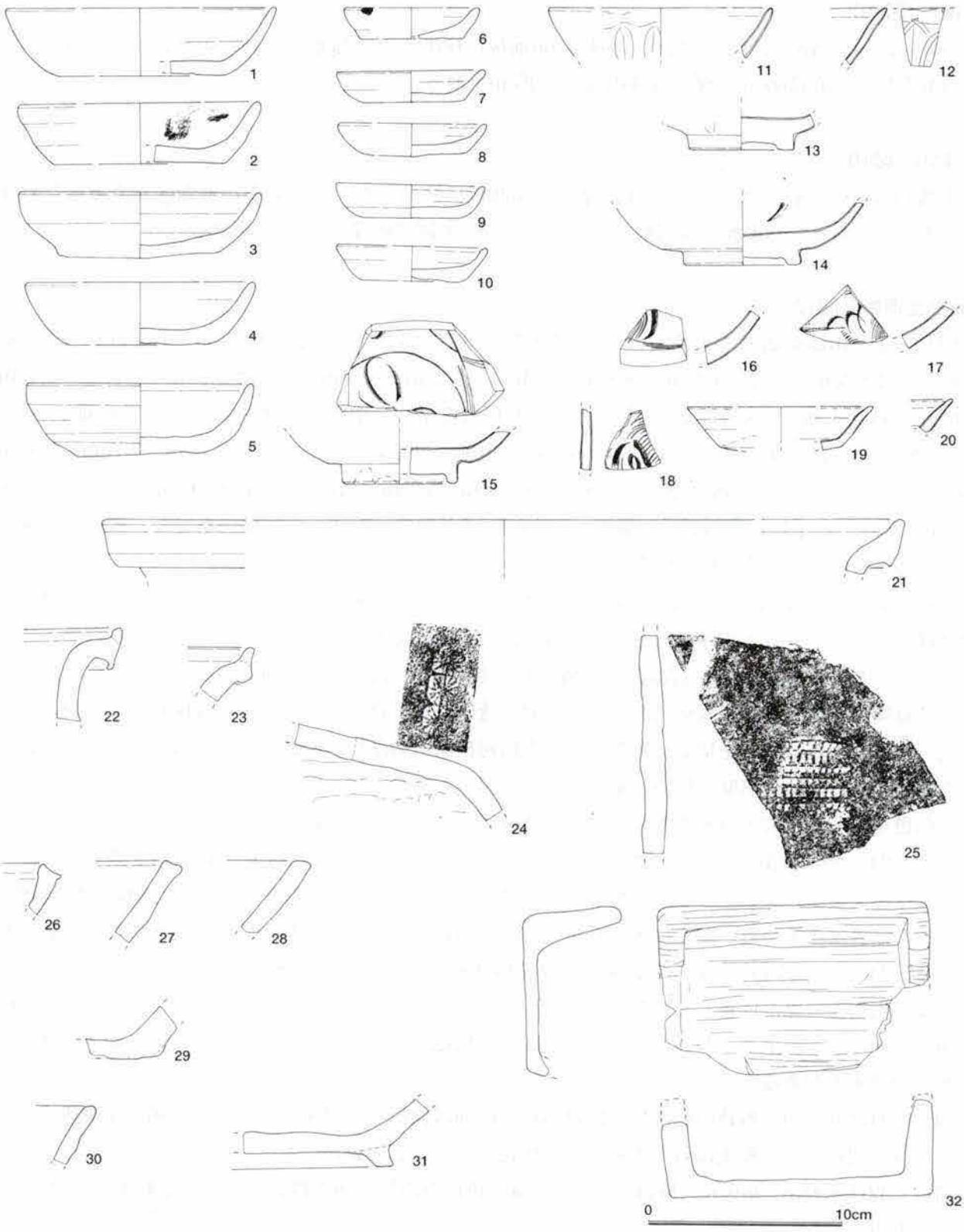


図12　1面出土遺物

出面から45cmを測る。土壙6・8・9の深さは各々、検出面から30cm・20cm・30cmを測る。

土壙3出土遺物（図11）

図11－1は糸切りかわらけの大皿。復元で、口径は12.0cm、底径は6.5cm、器高は2.4cmを測る。立ち上がりは一旦外に開き器壁中位で角度を変える。内高は浅い。胎土は肌色を呈し、微砂を多く含み、器表はザラつく。

土壙7（図10）

土壙7は（x3，y8）グリッド付近、海抜7.4m前後に検出した。北部はPit14と切り合っている。平面形は円形を呈し、直径60cm、深さは検出面から35cmを測る。

土壙10（図10）

土壙10は（x0，y8）グリッド付近、海抜7.5m前後に検出した。その大半が調査区外であるため詳細は不明だが、おそらく平面形は円形を呈し、検出した範囲での深さは20cmを測る。

1面出土遺物（図12）

図12－1～10は糸切りかわらけ。1～5は大皿。寸法は各々、口径が14.0cm・12.6cm・12.6cm・12.0cm・10.8cm、底径が8.6cm・8.8cm・8.4cm・7.2cm・6.8cm、器高が3.5cm・3.1cm・3.4cm・3.3cm・3.6cmを測る。胎土は1が白褐色、2～5が橙色を呈し、微砂・小礫を含み、1はきめ細かい。2・5は灯明皿で器表に煤が付着している。6～10は小皿。寸法は各々、口径が7.0cm・7.7cm・7.7cm・7.7cm・7.8cm、底径が5.3cm・5.2cm・5.4cm・5.4cm・5.2cm、器高が1.6cm・1.6cm・1.7cm・1.7cm・1.8cmを測る。いずれも器高が低い器形。胎土は6・8が橙色、7・9・10が肌色を呈し、微砂・小礫を含む。6・9は灯明皿で器表に煤が付着する。

図12－11～20は舶載磁器。11～17は青磁。11～13は蓮弁文碗。11の口径は復元で11.7cmを測る。釉調は緑灰色を呈し、11・12は微気泡多く失透し、いずれも光沢は良い。素地は11・12が灰白色、13が灰色を呈し、粘性がある。14～17は劃花文碗。14・15の底径は各々、6.2cm・6.0cmを測る。釉調は14・17が淡緑灰色、15・16が濃緑灰色を呈し、光沢・透明度共に良く、特に15・16は優れる。素地は14・17は灰白色、15・16は灰色を呈し、硬質。18は青白磁梅瓶の胴部片。釉調は濃い青白色を呈し、器表は再火を受けザラつく。透明度は良い。素地は白色を呈し、緻密。19・20は白磁口兀皿。釉調は若干青味のある白色を呈し、光沢・透明度共に良い。素地は灰白色を呈し、比較的粗め。

図12－21～29は常滑。21～25は甕。21～23は口縁部片。21の口径は復元で41.4cmを測る。器表・胎土共に灰色を呈し、縁帯部分は自然釉により光沢がある。白色微石粒を多く含むが、比較的きめ細かい。22・23の器表は赤茶褐色、胎土は灰色を呈し、白色石粒を多く含み、粗い。口縁内側には自然釉が厚くかかる。24・25は胴部片いずれも表面には厚く自然釉がかかる。26～29はこね鉢。29は内面が磨滅し、外底面と内側面に煤が付着している。

図12－30は山茶碗窯系こね鉢の口縁部片。胎土は灰色を呈し、白色石粒を多く含み、器表は薄く自然釉がかかり光沢がある。

図12－31は渥美のこね鉢の底部片。付け高台。内面は使用され磨滅している。外側面は極薄く自然釉がかかり光沢がある。胎土は若干青味のある灰色を呈し、きめ細かい。

図12－32は木製品。縦9cm、横14cm、高さ5cmの角材の内側を刳り貫いている。Pit42中から出土した。用途は不明。

2面（図13）

2面は1面下30cm、海抜7.2m前後に検出した。中世地山で確認された遺構群である。掘立柱建物2棟・柱穴列1列・土壙1基を検出した。柱穴を中心とし、密に遺構が検出された。

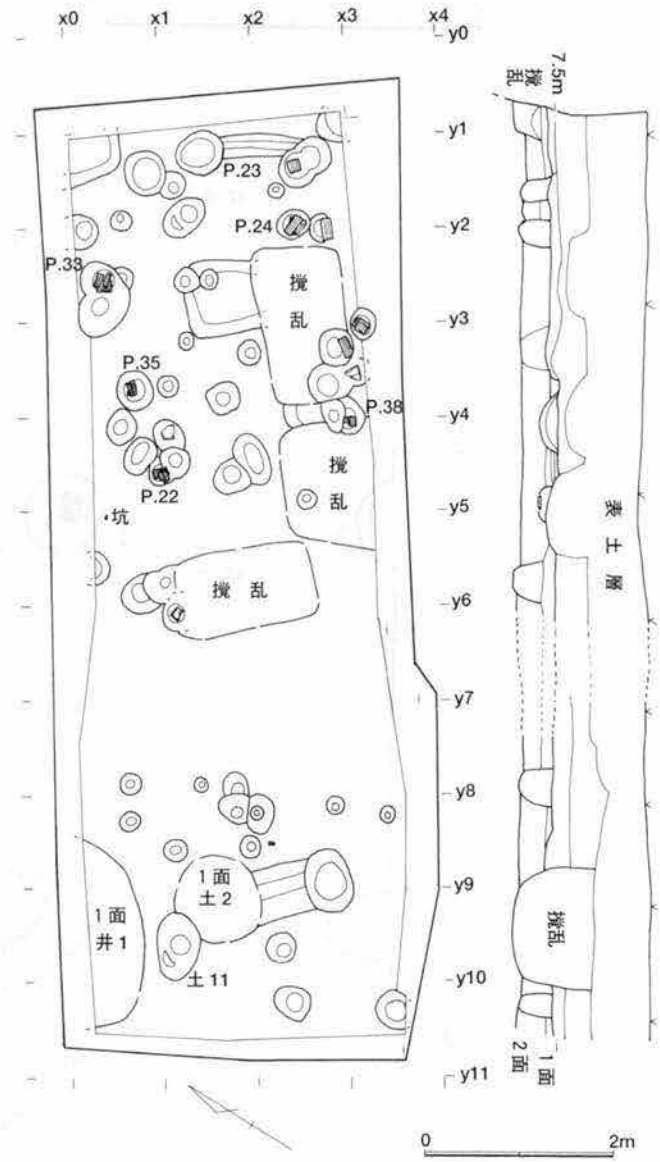


図13　2面遺構配置図

掘立柱建物2（図14）

掘立柱建物2は（x0，y2）グリッド付近、海抜7.2m前後に検出した。1間×2間が柱穴4口で構成されるが、東部及び北部は調査区外にさらに展開する可能性が高い。柱穴間の距離は210cmを測る。柱穴3口に礎板が残り、礎板の上面レベルは概ね、海抜7.1m前後を測る。東西軸線方向はN-43°-Wである。

掘立柱建物3（図15）

掘立柱建物3は（x0，y2）グリッド付近、海抜7.2m前後に検出した。1間×1間が柱穴4口で構成される。南部以外は調査区外にさらに拡がる可能性がある。柱穴間の距離は芯々で210cmを測る。柱穴底部にはいずれも複数枚礎板が遺存している。礎板の上面レベルは海抜7.1m前後を測る。東西軸線方向はN-50°-Wである。

掘立柱建物3出土遺物（図17-1）

図17－1は青磁蓮弁文碗の口縁部片。釉調は緑灰色を呈し、光沢・透明度は良い。素地は暗灰色を呈し、堅緻。

柱穴列1（図15）

柱穴列1は（x0，y4）グリッド付近、海抜7.2m前後に検出した。柱穴2口のみの確認であるが、その様相が似通っている事から柱穴列として報告する。柱穴間の距離は芯々で210cmを測る。さらに東方及び西方の調査区外に拡がる可能性が高い。柱穴底部には土丹が据えられている。土丹上面レベルは海抜7.1m前後を測る。東西軸線方向はN-50°-Wである。

土壙11（図16）

土壙11は（x1，y9）グリッド付近、海抜7.1m前後に検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸70cm、短軸50cm、深さは検出面から50cmを測る。西側に小さな平場を有する。

土壙11出土遺物（図17－2）

図17－2は手づくねかわらけの小皿。復元で口径は9.0cm、器高は1.4cmを測る。底部は平らで、器高は低い。胎土は肌色を呈し、胎芯が黒く残る。微砂を若干含み、粉質。

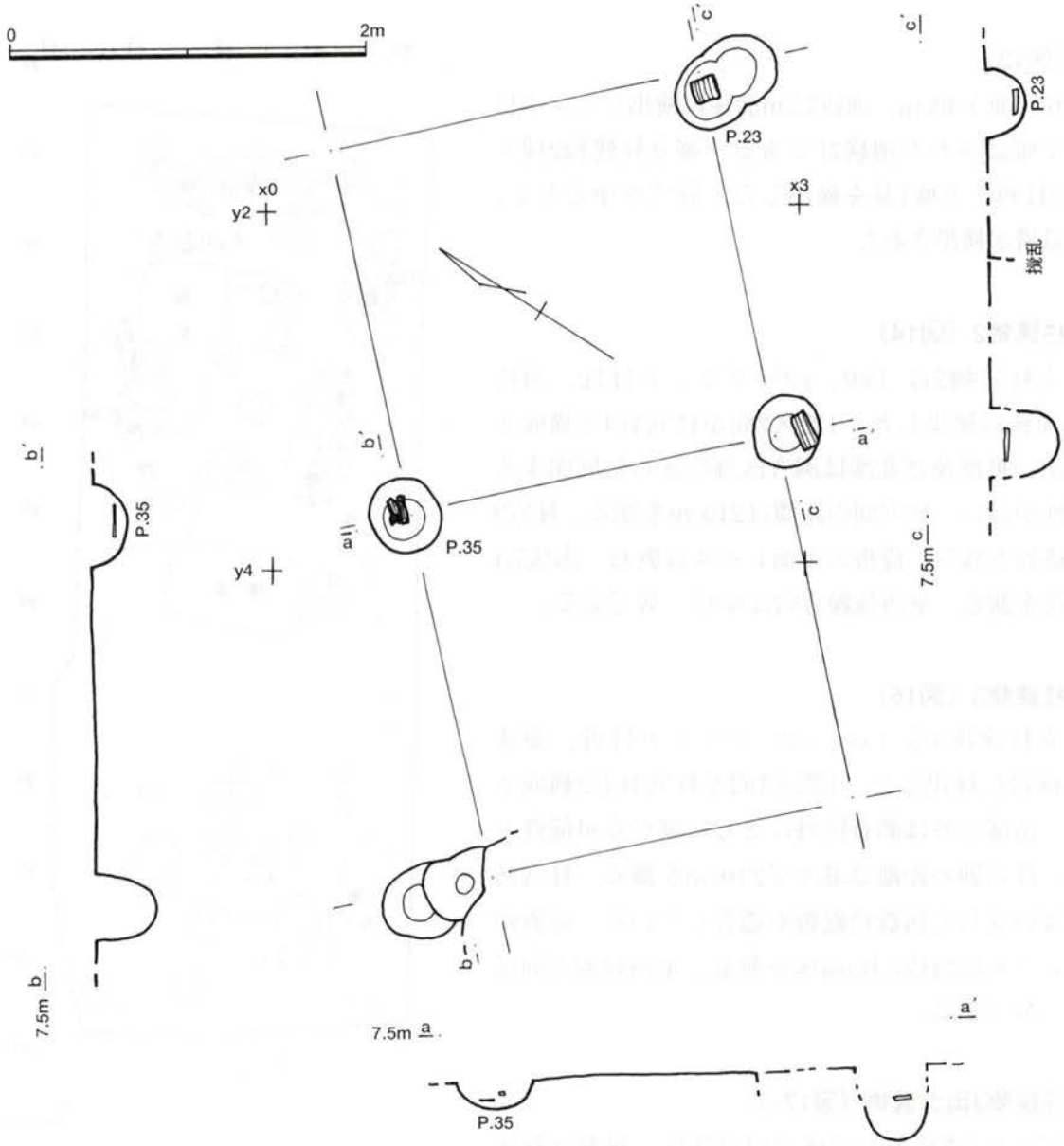


図14　堀立柱建物2

2面出土遺物（図18）

図18－1～7はかわらけ。1～3は手づくね。復元で、各々、口径は15.0cm・9.2cm・9.4cm、器高は3.6cm・1.8cm・1.4cmを測る。1は外に開いて立ち上がり、口縁外側に沈線状の窪みがある。指頭痕は体部中位にまで残っている。器表は薄く煤が付着し、胎土はくすんだ肌色を呈し、胎芯が黒く残る。粉質だが、微砂を多く含む。2・3は小皿で、器高が浅く、2は体部下位の指頭痕との境に強く稜を有する。胎土は肌色を呈し、きめ細かい。2は灯明皿で、器表に煤が付着している。4～7は糸切り。各々、口径は12.6cm・12.6cm・12.0cm・8.6cm、底径は7.0cm・7.6cm・8.0cm・5.6cm、器高は3.2cm・3.2cm・2.7cm・1.9cmを測る。胎土は橙色を呈し、微砂・小礫を若干多めに含む。

図18－8～12は舶載磁器。8～11は青磁。8は櫛掻文皿の底部片。外側面は体部下位で角度を変えて立ち上がる。釉調は黄灰色を呈し、光沢・透明度共に優れる。素地は灰色を呈し、堅緻。9・10は劃花文碗。復元で口径は各々、15.6cm・16.0cmを測る。10は輪花型。釉調はいずれも緑味灰色を呈し、光沢・透明度共に良い。素地は灰色を呈し、堅緻。11は蓮弁文碗。口径は復元で15.8cmを測る。釉調は緑青色を呈し、透明度は良いが、光沢は悪い。素地は灰白色を呈し、緻密。12は青白磁の碗の胴部片。内面には劃花文が施されている。釉調は水青色を呈し、光沢・透明度共に良い。素地は白色を呈し、緻密。

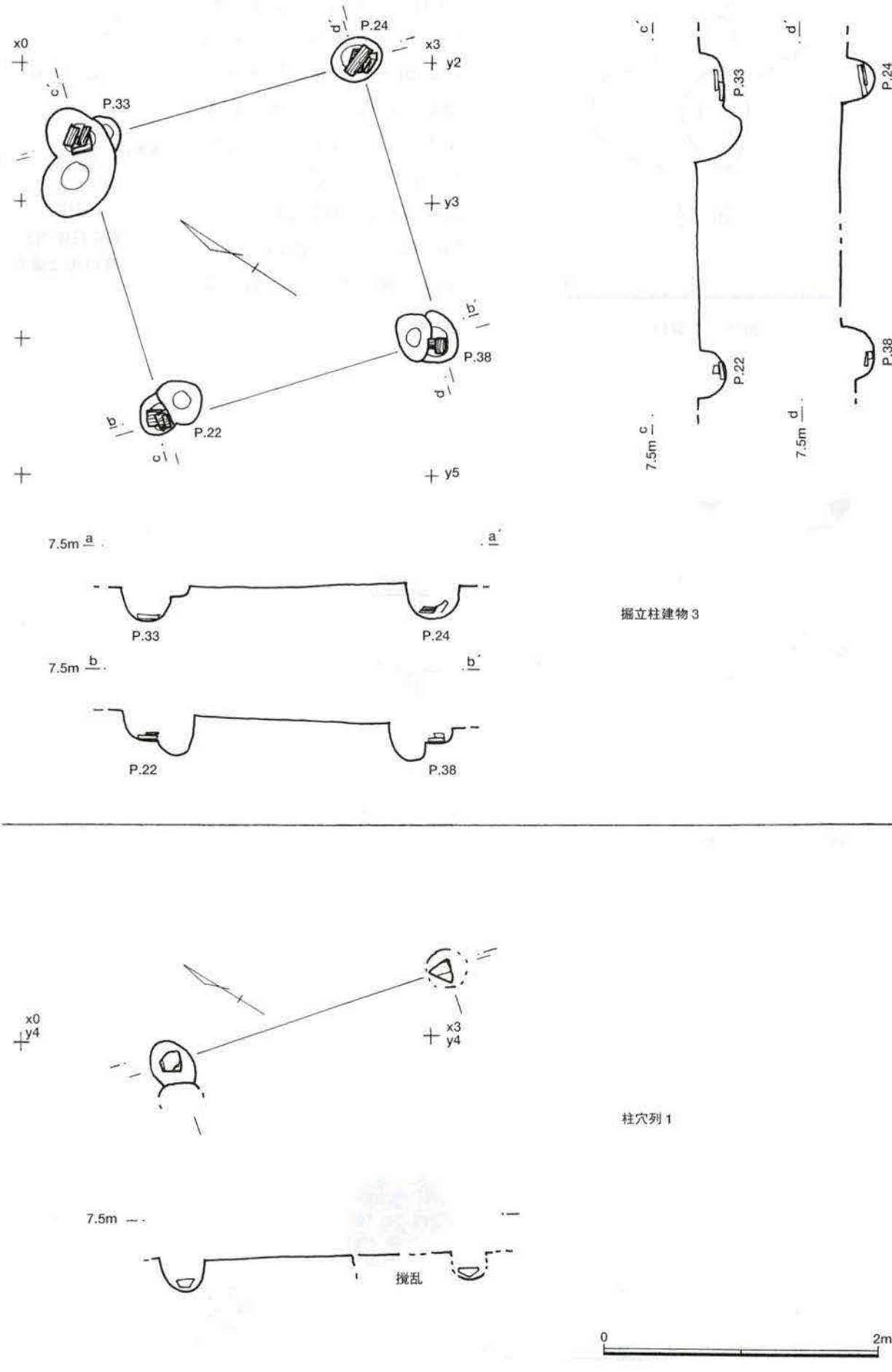


図15　堀立柱建物3・柱穴列1

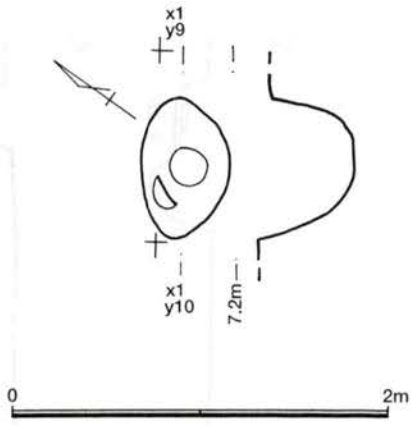


図16　土壙11

図18－13～19は常滑の甕。15～17の口径は復元で各々、49.2cm・35.2cm・38.8cmを測る。器表は13・16・17が赤茶褐色、14が灰褐色、15・18・19が淡橙色を呈し、口縁部片の口縁内側から外側面にかけてと18の内面には自然釉がかかる。胎土は

図17
堀立柱建物3
土壙11出土遺物

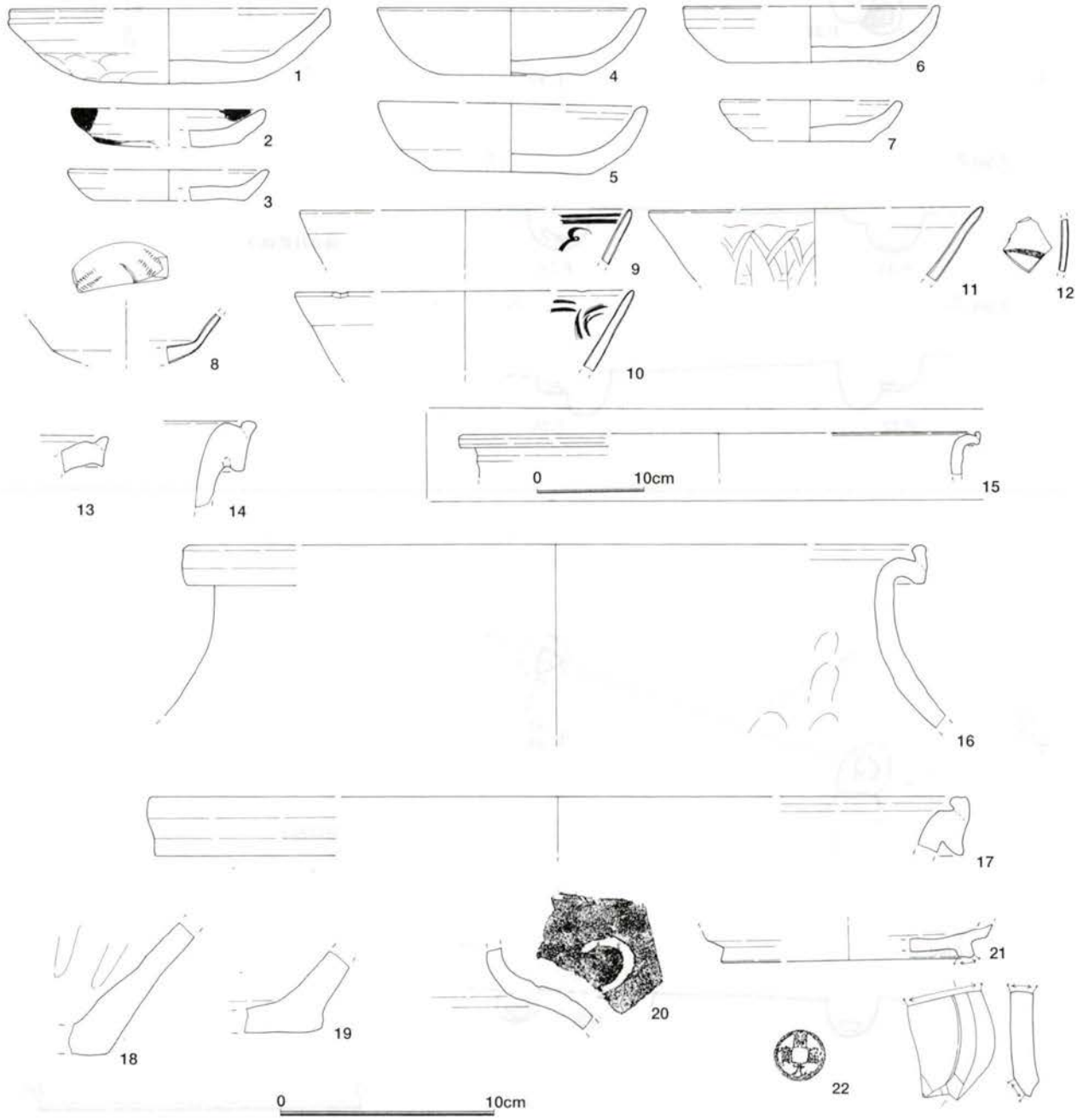


図18　2面出土遺物

13・14・16・17は灰色、その他は淡橙色を呈し、白色石粒を多く含み硬質。

図18－20は渥美の壺。外面には窯印がある。外面には厚く自然釉がかかり、白色～緑灰色を呈し、胎土は灰色で、きめ細かい。

図18－21は山茶碗。底径は復元で12.0cmを測る。胎土はくすんだ白色を呈し、黒色微粒を多く含み、粉っぽい。割れ口の一部に研磨痕がある。

図18-22は銭。開元通寶。

第4章　まとめ

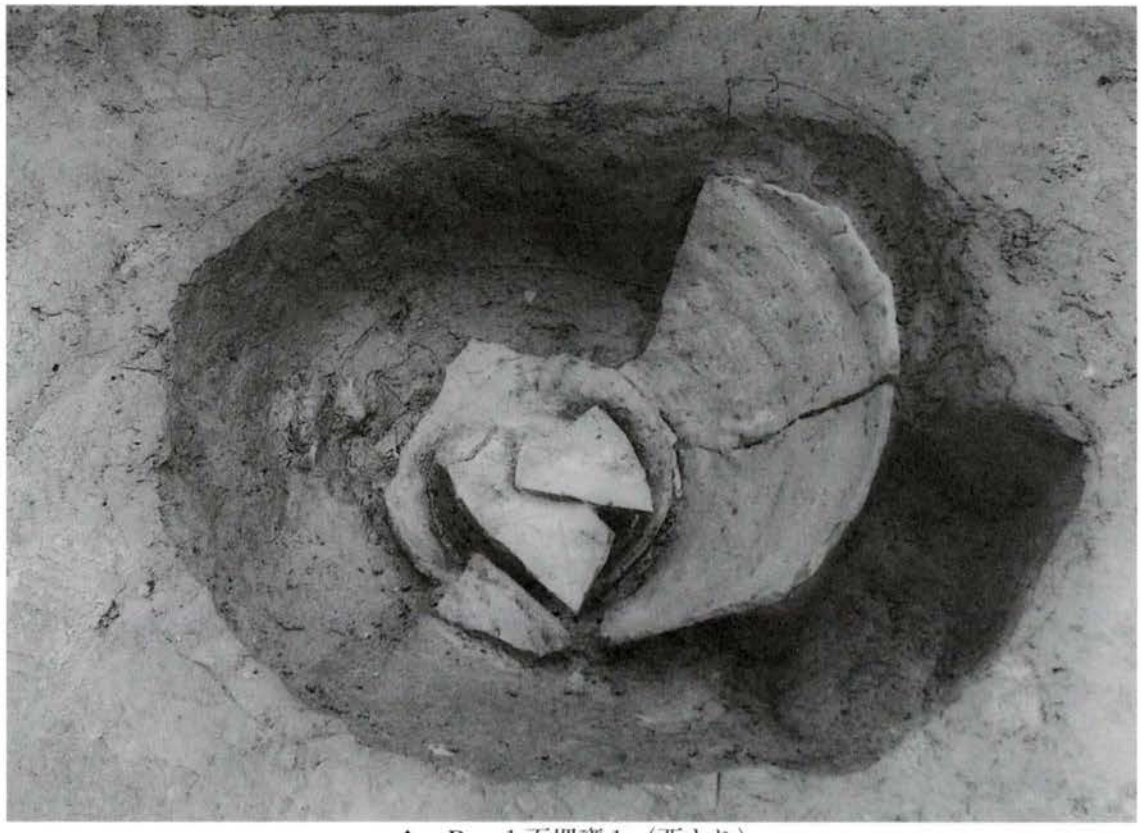
第3章で報告したように、当遺跡からは、2時期の遺構群が検出された。1面の遺構群は13世紀末～14世紀初頭、2面（中世地山にて検出）の遺構群は13世紀後半にあたると考えられる。1面・2面両時期を通じて、掘立柱建物が検出し、検出遺構の種類及び、数量に目立った変化はない。また、遺構は密に展開し、重複する遺構もあり、頻繁に造り替えが行なわれていた様相が見て取れる。

また、今回の調査は面積的に限られたものであったため、掘立柱建物址を始めとして、その全体がつかめたものは少なかった。しかし、井戸や埋甕といった生活感のあるものが検出され、度重なる建替えが行なわれ、長期にわたって人々が土地利用してきた様相が見て取れた。

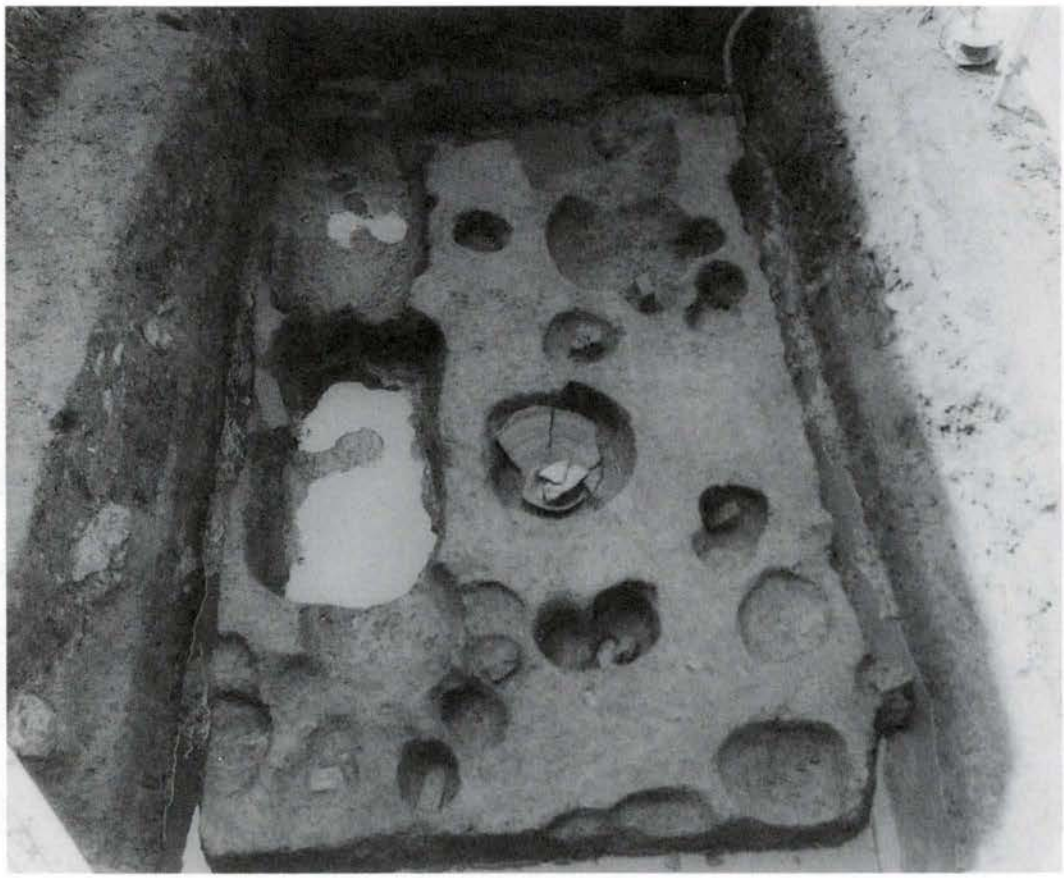
この結果は武家屋敷や寺院の様相を示す発見こそ無かったものの、周辺の発掘調査結果と合わせても何ら矛盾の無いものである。

図版1

▲　A．重機による表土掘削



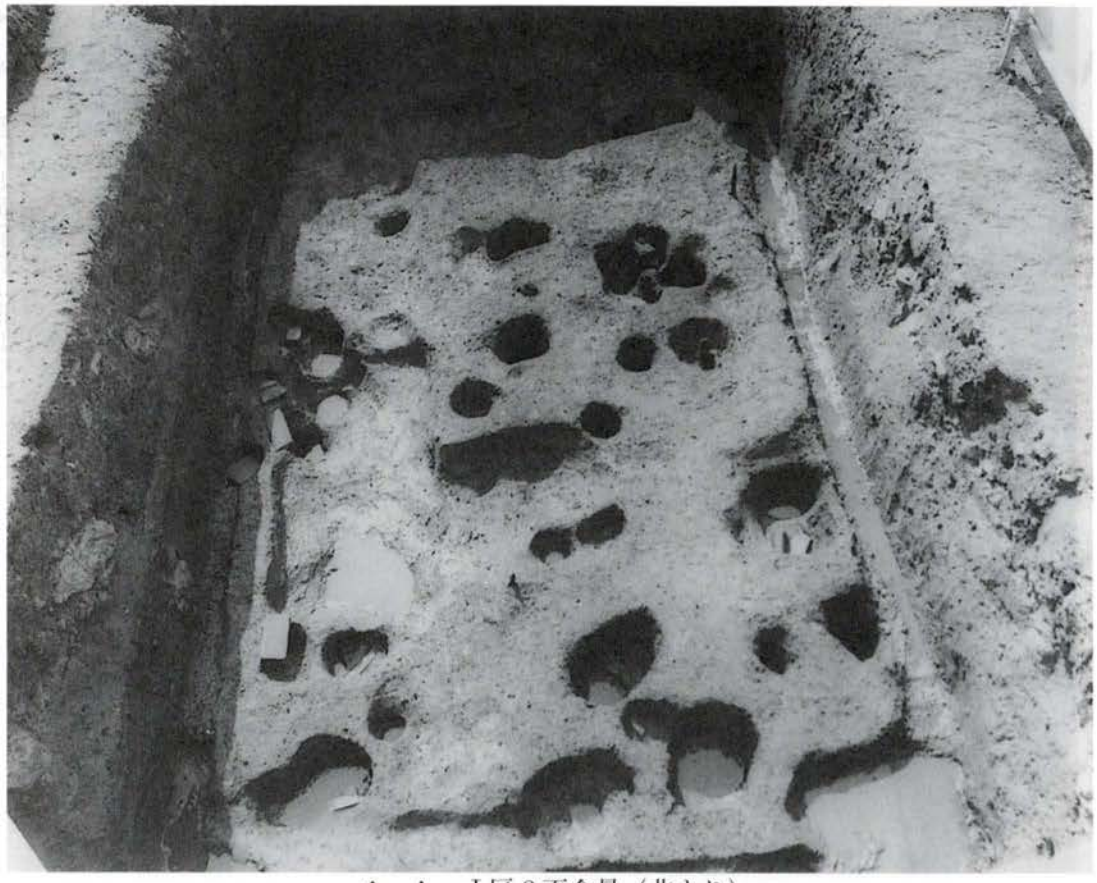
▲　B．1面埋甕1（西より）



◀ A．Ⅰ区1面全景（北より）

▲ B．Ⅱ区1面全景（東より）

図版 3



▲ A．Ⅰ区２面全景（北より）

◀ B．Ⅱ区２面全景（東より）

井戸1

9-3

12-3

12-5

12-7

12-9

12-10

土壙3

11-1

12-11

12-12

12-13

1面 (1)

12-4

12-15

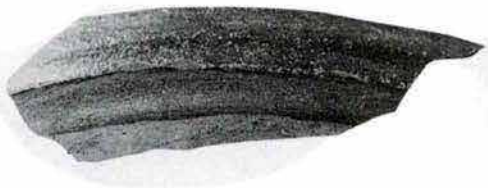
12-17

12-18

12-19

出土遺物 (1)

図版5



12-21

12-22

12-30

1面 (2)

12-31

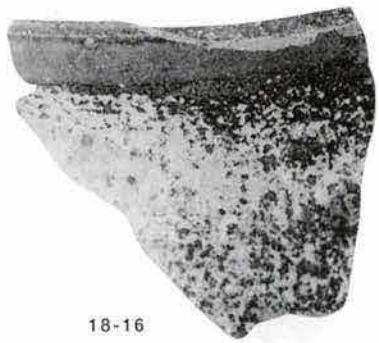
土壙11

17-2

18-9

18-10

18-15



18-16

18-20

18-21

2面

出土遺物 (2)

今小路西遺跡（No.201）

御成町200番2地点

例　言

1. 本報文は、今小路西遺跡（№201）の所在する遺跡内、御成町200番2の地点における個人専用住宅(表層地盤改良)建設に伴う緊急調査報告書である。
2. 発掘調査は、平成15年3月3日から平成15年6月19日にかけて鎌倉市教育委員会が実施した。
3. 調査体制は以下の通りである。
   調査担当者：原　廣志
   調　査　員：須佐直子、太田美智子、須佐仁和、早坂伸市、中川建二、久保田裕美、栂岡渓音
   調査補助員：宇都洋平・高橋拓也・野崎美帆・山口正紀（鶴見大学生）、銘苅春也、橋本和之・
   　原　考史（国士舘大学生）
   調査作業員：小口照男、川崎由紀夫、清水光一、山崎一男　（社）鎌倉市シルバー人材センター
   協力機関名：（社）鎌倉市シルバー人材センター、鎌倉考古学研究所、東国歴史考古学研究所、博通
   整理作業
   調査担当者：原　廣志
   調　査　員：須佐直子、太田美智子、須佐仁和、本城　裕、中川建二、宇都洋平、栂岡渓音
   調査補助員：高橋拓也・小野夏菜・野崎美帆・山口正紀（鶴見大学生）、銘苅春也、橋本和之（国士舘大学生）、
   　大塚悠介（立教大学生）
4. 本報の執筆は、第1～3章を宇都が執筆、原が監修し、第4章については調査員協議のもと原が稿を草した。また第5章はパレラ・ラボ（鈴木茂）の分析報告を掲載した。作図作成には須佐（直）、太田、須佐（仁）、中川、宇都、栂岡、高橋、小野、野崎、山口、銘苅、橋本、大塚が行い、観察表を野崎が行った。
   なお、第3面池1検出の地底の波蝕台については松島義章氏（放送大学客員教授）、同面池3から出土した操り人形の木偶については加納克己氏（人形芸能史研究所）より多大のご教示と、関連資料を賜った。
5. 本報掲載の写真は全景・遺構を原・須佐（仁）、出土遺物を須佐（仁）が撮影した。
6. 発掘調査における出土遺物・図面類・写真などの資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。
7. 本報の凡例は以下の通りである。
   ・図版縮尺　　全測図：1/120
   　遺構図：1/20、1/40
   　遺物図：1/3、1/4（木製品の一部）、1/5（瓦などの一部）、1/6（常滑窯製品の一部）
   ・遺構図版　　遺構のレベルは海抜標高の数値を示している。
   ・遺物図版　　－・－・－は釉薬の範囲を示す。黒塗りは灯明皿に付着した油煙煤を表現している。
   　手捏ねかわらけ底径の法量は外底指頭痕と口縁部との稜部の数値を表している。
8. 現地調査及び資料整理においては、多くの方々からご助言、並びにご援助を賜った。記して感謝の意を表します。
   （敬称略、五十音順）
   秋山哲雄、伊丹まどか、大三輪龍彦、小野正敏、加納克己、河野眞知郎、菊川　泉、小林康幸、佐藤仁彦、
   汐見一夫、宗臺秀明、宗臺富貴子、玉林美男、手塚直樹、野本賢二、韓　盛旭、福田　誠、松尾宣方、
   馬渕和雄、松島義章、宮田　眞

目　　次

本 文 目 次

第１章　遺跡の位置と歴史的環境
１．遺跡の位置……164
２．歴史的環境……164

第２章　調査の概要
１．調査の経緯と経過……169
２．測量軸の設定……171
３．層序と生活面……171

第３章　検出遺構と出土遺物
１．第1面の遺構・遺物……174
２．第2面の遺構・遺物……179
３．第3a面の遺構・遺物……198
４．第3b面の遺構・遺物……200
５．トレンチの遺構・遺物……247
６．中世以前の遺構・遺物……254

第４章　まとめ……266

第５章　今小路西遺跡の花粉化石……268

挿 図 目 次

図1　調査地点と周辺遺跡……165
図2　今小路西遺跡範囲位置図……166
図3　グリッド配置図・国土座標上の位置図……170
図4　調査区壁土層堆積図……172
図5　第1面全測図……174
図6　土壙1～3・5～7　柱穴1・4・30……175
図7　柱穴12～14・16・19・20・22～26・28……176
図8　第1面上・遺構出土遺物……177
図9　第2面全測図……180
図10　建物1～3……181
図11　土壙1～5・7・8・11　柱穴67……183
図12　土壙6（常滑溜り）……184
図13　磁器溜り……185
図14　柱穴3・5～7・11～14・16・20・21・25
27・29・31・63……186
図15　柱穴39～41・43・46・47・86……187
図16　建物・土壙出土遺物……188
図17　土壙出土遺物……189
図18　磁器溜り出土遺物（1）……190
図19　磁器溜り出土遺物（2）……191
図20　柱穴出土遺物……192
図21　第2面上出土遺物（1）……193
図22　第2面上出土遺物（2）……194
図23　第3a面全測図……196
図24　第3b面全測図……197
図25　第3a面上常滑溜り・3a面土壙2・第3b面
土壙4・5・7……198
図26　池3……201
図27　池3木組模式図……205
図28　池3北東遺物溜り……206
図29　柱穴16～19・21・27・34・40・43・48・
49・58・59……207
図30　第3a面土壙・柱穴出土遺物……208
図31　第3b面土壙・柱穴遺物（1）……209
図32　柱穴出土遺物（2）……210
図33　池3上層出土遺物（1）……211
図34　池3上層出土遺物（2）……212
図35　池3中層出土遺物（1）……213
図36　池3中層出土遺物（2）……214
図37　池3中層出土遺物（3）……215
図38　池3中層出土遺物（4）……216
図39　池3中層出土遺物（5）……217
図40　池3中層出土遺物（6）……218
図41　池3中層出土遺物（7）……219
図42　池3中層出土遺物（8）……220
図43　池3中層出土遺物（9）……221
図44　池3中層出土遺物（10）……222
図45　池3中層出土遺物（11）……223
図46　池3下層出土遺物（1）……224
図47　池3下層出土遺物（2）……225
図48　池3下層出土遺物（3）……226
図49　池3下層出土遺物（4）……227
図50　池3下層出土遺物（5）……228
図51　池3北東遺物溜り出土遺物（1）
A類……229
図52　池3北東遺物溜り出土遺物（2）
B類……230
図53　池3北東遺物溜り出土遺物（3）
B類……231
図54　池3北東遺物溜り出土遺物（4）
B類……232
図55　池3北東遺物溜り出土遺物（5）
B類・C類……233
図56　池3北東遺物溜り出土遺物（6）……234
図57　池3北東遺物溜り出土遺物（7）……235
図58　池3かわらけ分類図……237
図59　池3裏込中出土遺物（1）……238
図60　池3裏込中出土遺物（2）……239
図61　池2出土遺物（1）……240
図62　池2出土遺物（2）……241
図63　第3a面上出土遺物（1）……242
図64　第3a面上出土遺物（2）……243
図65　第3b面上出土遺物……244
図66　第1～5トレンチ……245
図67　第1トレンチ上層出土遺物（1）……246
図68　第1トレンチ上層出土遺物（2）……247
図69　第2トレンチ上層出土遺物……248
図70　第2トレンチ下層出土遺物……249
図71　第3トレンチ出土遺物……249
図72　第4トレンチ上層出土遺物……250
図73　第4トレンチ下層出土遺物……251
図74　第5トレンチ上層・下層出土遺物……252
図75　中世以前遺構……254
図76　中世以前遺構1～4・溝1……255
図77　中世以前遺構1出土遺物（1）……256
図78　中世以前遺構1出土遺物（2）……257
図79　中世以前遺構1出土遺物（3）……258
図80　中世以前遺構2出土遺物……259
図81　中世以前遺構3出土遺物（1）……260
図82　中世以前遺構3出土遺物（2）……261
図83　中世以前遺構3出土遺物（3）……262
図84　中世以前遺構3出土遺物（4）……263
図85　中世以前遺構4出土遺物……264
図86　中世以前溝1出土遺物……265
図87　遺構変遷図……267

表目次

表1　池3北東隅のかわらけ出土点数表 ……236
表2　池3かわらけ器種別点数表 ……236
表3　出土遺物観察表（1）……274
表4　出土遺物観察表（2）……275
表5　出土遺物観察表（3）……276
表6　出土遺物観察表（4）……277
表7　出土遺物観察表（5）……278
表8　出土遺物観察表（6）……279
表9　出土遺物観察表（7）……280
表10　出土遺物観察表（8）……281
表11　出土遺物観察表（9）……282
表12　出土遺物観察表（10）……283
表13　出土遺物観察表（11）……284
表14　出土遺物観察表（12）……285
表15　出土遺物観察表（13）……286
表16　出土遺物観察表（14）……287
表17　出土遺物観察表（15）……288
表18　出土遺物観察表（16）……289
表19　出土遺物観察表（17）……290
表20　出土遺物観察表（18）……291
表21　出土遺物観察表（19）……292
表22　出土遺物観察表（20）……293
表23　出土遺物観察表（21）……294
表24　出土遺物観察表（22）……295
表25　出土遺物観察表（23）……296
表26　出土遺物観察表（24）……297
表27　出土遺物観察表（25）……298
表28　出土遺物観察表（26）……299
表29　出土遺物観察表（27）……300
表30　出土遺物観察表（28）……301
表31　出土遺物観察表（29）……302
表32　出土遺物観察表（30）……303
表33　出土遺物観察表（31）……304
表34　出土遺物観察表（32）……305
表35　出土遺物観察表（33）……306
表36　出土遺物観察表（34）……307
表37　出土遺物観察表（35）……308
表38　出土遺物観察表（36）……309
表39　出土遺物観察表（37）……310
表40　出土遺物観察表（38）……311

写 真 図 版 目 次

図版1－ a.Ⅰ区第1面全景（西から） b.Ⅰ区第1面全景（北から） c.土壙1～4 d.土壙4……312
図版2－ a.Ⅰ区第2面全景（西から） b.Ⅰ区第2面全景（北から） c.Ⅱ区第2面全景（西から）
d.Ⅱ区第2面全景（東から） e.第2面上磁器溜り ……313
図版3－ a.Ⅱ区第2面建物1～3柱穴列 b.建物1-ロ-1 c.建物3-ロ-1・建物2-ロ-1 d.建物2-ロ-1
e.建物3-イ-3・建物2-イ-3 f.建物2-ハ-3 g.建物3-ロ-2 ……314
図版4－ a.Ⅰ区第2面土壙6常滑甕出土状況 b.常滑甕肩部ヘラガキ c.土壙7 d.土壙8・9
e.P24・25 f.P14青磁折縁鉢出土状況 ……315
図版5－ a.Ⅰ区第3a面全景（西から） b.Ⅰ区第3a面全景（北から） c.Ⅱ区第3a面 d.第3a面上常滑溜り
e.第3a面上重孤文宇瓦出土状況 f.Ⅱ区3a面池3埋め戻し状況 ……316
図版6－ a.Ⅱ区3b面全景（東から） b.Ⅱ区3b面全景（西から） c.Ⅰ区3b面（中央）全景 d.Ⅰ区3b面（東側）全景
e.Ⅰ区3b面（南側）全景 ……317
図版7－ a.池3下層遺物出土状況 b.池3裏込め部先行トレンチ c.池3裏込め部土層堆積状況
d.東柱と控え材の組み合わせ状況 ……318
図版8－ a.池3西端検出状況 b.池3西端完掘状況 c.池3西端裏込め木組み状況 d.池3東端
e.池3北東遺物溜り ……319
図版9－ a.池3中層扇出土状況 b.墨書折敷出土状況 c.独楽出土状況 d.池3下層常滑三筋壺
出土状況 e.木偶出土状況 f.舟形代出土状況 g.独楽出土状況 h.人形代出土状況 ……320
図版10－a.第1トレンチ b.第2トレンチ c.第3トレンチ及び調査区南壁土層堆積 d.第4・5トレンチ……321
図版11－a.池2掘り方 b.池1掘り方 c.中世以前溝1 d.中世以前遺構1～4
e.調査区西壁土層堆積 f.調査区東壁土層堆積……322
図版12－出土遺物（1）
a.第1面土壙1～3・5～7 柱穴1・4・14・19・23～26・30 第1面上
b.第2面建物1～3 土壙1・3～6 c.第2面土壙7・11・12……323
図版13－出土遺物（2）
a.第2面磁器溜り ……324
図版14－出土遺物（3）
a.第2面柱穴2・5・7・11～14・16・19～21・28・29・34・39・43～45・48・54・55・60・66・71・72・79・
86・89・90・91 b.第2面上……325
図版15－出土遺物（4）
a.第3a面土壙1・2 柱穴3・5～10・12 b.第3b面土壙4・5 柱穴13・16・17～19・27・34・40・43・49・58・
59 ……326
図版16－出土遺物（5）
a.池3上層 ……327
図版17－出土遺物（6）
a.池3中層（1）……328
図版18－出土遺物（7）
a.池3中層（2）……329
図版19－出土遺物（8）
a.池3中層（3）……330
図版20－出土遺物（9）
a.池3下層 ……331
図版21－出土遺物（10）
a.池3北東遺物溜り ……332
図版22－出土遺物（11）
a.池2 ……333
図版23－出土遺物（12）
a.第3a面上 b.第3b面上……334

図版24－出土遺物（13）
a.第1トレンチ上層　b.第1トレンチ下層　c.第2トレンチ上層　d.第2トレンチ下層……335
図版25－出土遺物（14）
a.第3トレンチ　b.第4トレンチ上層　c.第4トレンチ下層……336
図版26－出土遺物（15）
a.第5トレンチ　b.中世以前遺構1……337
図版27－出土遺物（16）
a.中世以前遺構2　b.中世以前遺構3……338
図版28－出土遺物（17）
a.中世以前遺構3　b.中世以前遺構4　c.中世以前溝1……339

第1章　遺跡の位置と歴史的環境

1. 遺跡の位置

本調査地点は旧鎌倉市街地を形成する平野地の西端に位置し、JR鎌倉駅より西方に約300m、鎌倉市市役所北側、紀伊国屋西方の御成町200番2に所在する（図1）。今小路西遺跡（県遺跡台帳№201）は通称今小路の西側南北約1.2Km、東西0.3Kmの範囲を持つ遺跡であるが、当調査地点は当遺跡のほぼ中央付近に位置している。調査地点北東には無量寺が存在したとされる通称「無量寺谷」と呼ばれる谷戸があり、また西方においては通称「御成山」と呼ばれる丘陵地がせまっている。

2. 歴史的環境

鎌倉市街地は第三期凝灰岩の浸食により形成された谷状地が埋没した小さな沖積地である。この沖積地は約5000～4500年前の海退期に形成され、それ以降人類の活動が開始される。当調査地点より南方約150mに位置する御成小学校内からは縄文中期の勝坂式土器、加曽利E式や弥生中期の宮ノ台式土器が出土している。いずれも少数・小片であり、また当時の人々の活動を具体的に示す遺構は検出されていないが、当調査地点周辺でこれらの土器に該当する時期に人類の活動があった事は充分に考えられる。

当該地域周辺で人類の活動が明確になってくるのは古代からである。先述した御成小学校の下層からは古代五時期にわたる遺構が確認されている。古代Ⅰ期～Ⅲ期にかけては大型の掘立柱建物や柵列が検出され、またⅠ期南西柵の柱穴66からは天平五（西暦733）年七月十四日の銘がある木簡が出土している。これらの遺構は古代鎌倉郡の鎌倉郡衙と推定されおり、古代律令国家において当地は鎌倉郡の中心地であったと考えられる。また当調査地点西側に位置し、現在紀伊国屋の建つ千葉地遺跡からも古代に属する瓦が出土し、社会福祉センター用地からは掘立柱建物が検出されている事から古代においては当地域周辺に郡衙に属する政治的施設が存在していた事が考えられる。

源頼朝が鎌倉に武家政権を樹立すると中心地は大蔵の地周辺に移行し、当地域周辺は武家屋敷や町屋が立ち並ぶ地域に変容する。当地周辺の字名には「千葉地」「諏訪屋敷」などが残っている。すなわち『新編相模国風土記稿』（註1）によれば「千葉地」は千葉常胤宅跡との記述があり、また「諏訪屋敷」は北条得宗家被官諏訪氏の屋敷跡であったとの記述がある。

鎌倉市内において千葉一族に関する伝承は多く存在し、当調査区周辺では千葉地をはじめ、今小路を北に進み扇が谷に入る手前の八坂神社は別名相馬天王社といい、『千葉大系図』には「於鎌倉亦建立宮社、称号相馬天王、為祭礼也」、『千葉傳考記』には「師常が屋敷は巽の荒神の邊に在り。天王に祀りて、叢社を建て置きしを、後此處に移すとなり。」とあり、八坂神社は千葉常胤の次子、相馬師常が祀り、巽神社付近に屋敷を構えていたと伝えられている。また彼の墓と伝えられものが浄光明寺の北西の山裾にある。

次に千葉地以外に千葉氏の屋敷の伝承がある地域を見てみるとする。『吾妻鏡』建保元年（1213）二月十五日条には「千葉介成胤生虜法師一人進相州、（中略）彼司馬甘縄家處（後略）」、仁治二年（1241）三月十七日条には「丑剋巽風烈、自前濱邊人居失火起、限甘縄山麓數百宇災、千葉介舊宅秋田城介伯耆前司等家在其中」とあり、また『見聞私記』の永仁五年（1297）閏十月七日条には「自佐々目谷口火出来、甘縄等大燃亡、千葉屋形已下兵部大輔駿河守、近江守等屋形悉燃了」とある事から、千葉氏の屋敷が甘縄に存在していた事が分かる。尚、甘縄の地については現在の甘縄より広範囲の地域を指し、千葉地一帯も甘縄に属するとの説もあり、千葉地と甘縄の千葉屋敷は同一の可能性もある。また『千葉傳考記』

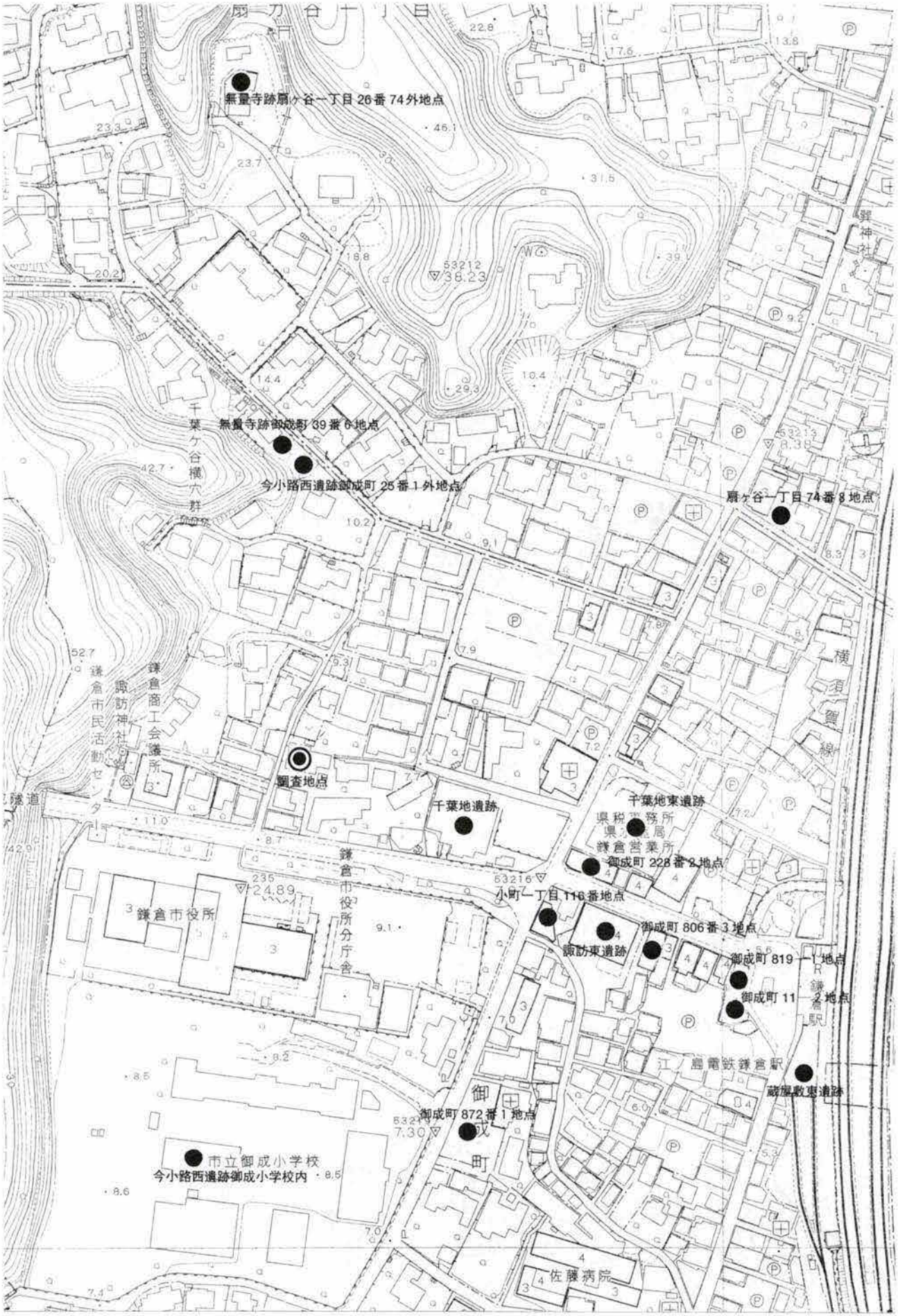

無量寺跡扇ヶ谷一丁目26番74外地点
無量寺跡御成町39番6地点
今小路西遺跡御成町25番1外地点
扇ヶ谷一丁目74番8地点
調査地点
千葉地遺跡
千葉地東遺跡
御成町228番2地点
小町一丁目116番地点
御成町806番3地点
諏訪東遺跡
御成町819一1地点
御成町11一2地点
蔵屋敷東遺跡
御成町872番1地点
市立御成小学校
今小路西遺跡御成小学校内
鎌倉市役所
鎌倉市役所分庁舎
諏訪神社
鎌倉商工会議所
鎌倉市民活動センター
横須賀線
江ノ島電鉄鎌倉駅
佐藤病院

図1　調査地点位置図

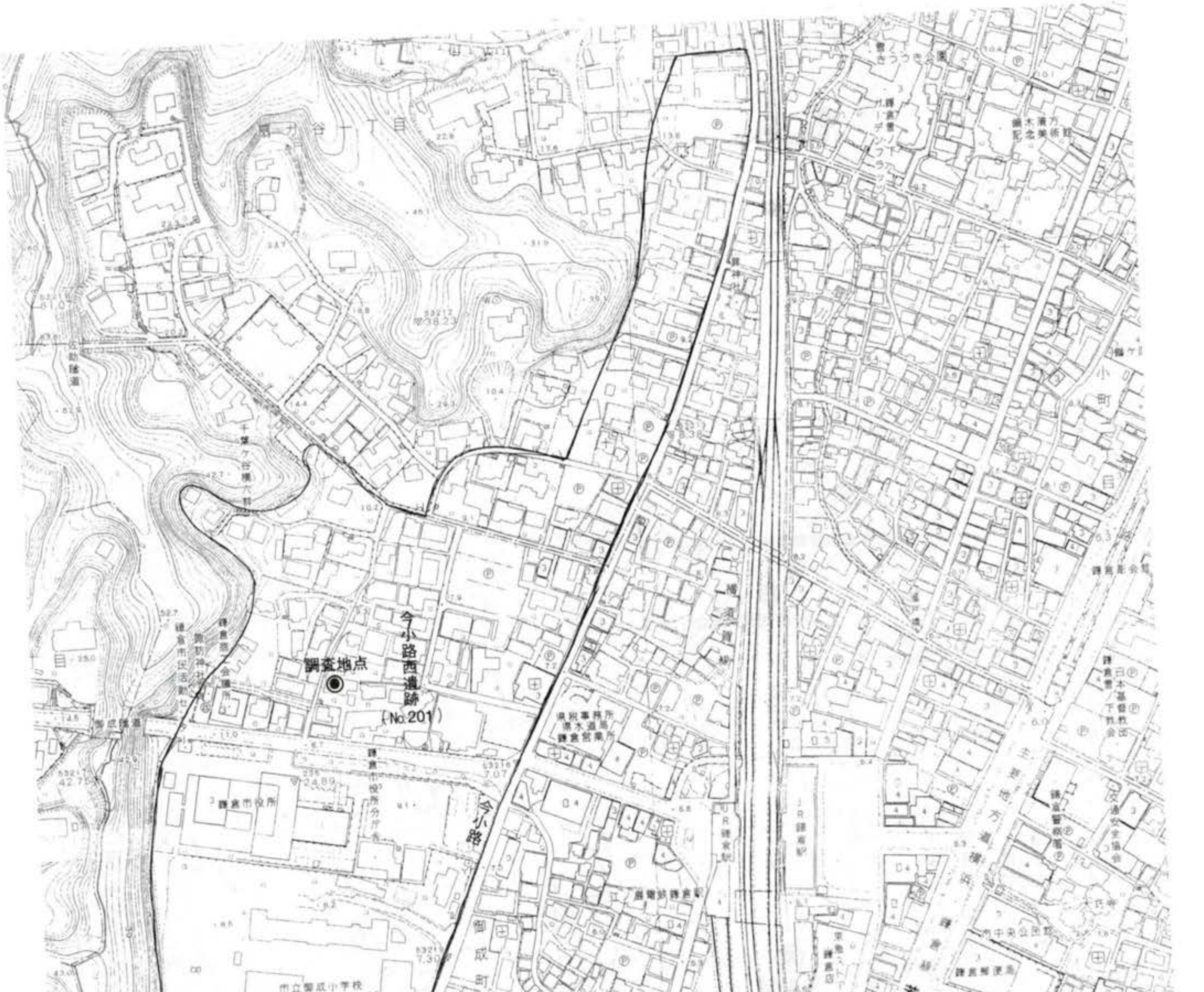


図2　今小路西遺跡範囲位置図

も甘縄と千葉地は同一の場所としている。この他にも『千葉大系図』には「於鎌倉為敷地辨谷」、『千葉傳考記』には「而して頼朝卿、鎌倉を御館と定めらるる時、常胤も、鎌倉辨が谷に住す。故に辨が谷殿と称せり」とあり、また『千学集』にも常胤の条及び胤政の条には「在鎌倉にて辨ヶ谷殿と申し」、『松蘿館本千葉系図』胤政の条には「居鎌倉辨ヶ谷」、『妙見實録千集記』常胤の条には「鎌倉辨ヶ谷殿ト云エリ」、胤政の条には「在鎌倉辨ヶ谷ト云フ」、『千葉實録』常胤の条には「辨ヶ谷に御座す。よって辨ヶ谷殿といふ」、胤政の条には「在鎌倉にて辨ヶ谷殿と申す」とあり、千葉氏の屋敷地が弁ガ谷に存在していたとある。これらの資料は戦国末から近世中ごろまでに制作されたもので、弁ガ谷に千葉氏の屋敷があった証拠にはならないが、少なくとも中世末には弁ガ谷の地に千葉氏の屋敷地があったと伝えられていた事は間違いない。

また小町大路沿いにある妙隆寺は千葉胤貞が開基とされ、この付近一帯に胤貞の屋敷があったとされている。この他には『千葉傳考記』に俗説としながら「又佐助谷の事は、土俗に曰、上総介・千葉介・三浦介、此處に住居す。故に三介が谷と名付く」とあり、民間伝承で佐助の地に千葉氏の屋敷地があったと言われていたようである。

諏訪氏の屋敷地については『吾妻鏡』嘉禎二年十二月十九日条に「亥刻武州御亭御移徙也、日来御所北方所被新造也、(中略) 御家人等同構家屋 (中略) 南角諏方兵衛入道 (後略) 」とあり、若宮大路幕府の北側の北条泰時邸の南隅に屋敷を構えたとあるだけで、千葉屋敷のように多くの記述・伝承があるわけではない。

以上千葉氏の屋敷地・諏訪氏の屋敷地について軽く触れてみたが、新編相模国風土記稿の記述通りその地に千葉氏や諏訪氏の屋敷が存在したと考えるには傍証がない。しかしながら御家人が当地において屋敷を構えた事は充分に考えられる。御成小学校の中世第3・4面からは南北に広大な敷地を持つ二つの屋敷跡が検出されており、屋敷の外区には町屋の一角と考えられる掘立柱建物や方形竪穴建築跡が検出されている。特に南側の屋敷跡は当時でいう八戸主 (一戸主≒455㎡) に近い面積を持っている。一般の御家人層の屋敷地の面積が一戸主であった事から考えてもこの八戸主の屋敷地を所有していた人物は相当な有力者であったと考えられる (注2)。また当調査地点北西に位置する無量寺跡扇ガ谷1丁目26番74地点からは現存する瑞泉寺庭園より古いと考えられる13世紀末～14世紀前半にかけての中ノ島をもつ庭園が検出されている。

鎌倉幕府の滅亡後も鎌倉は建武の新政時には鎌倉将軍府、足利政権下では鎌倉府が置かれ、東日本の中心地としてその存在意義を保ち続ける。しかしながら15世紀中ごろに鎌倉公方成氏が鎌倉から古河に移ると鎌倉の都市機能も衰退の一途を遂げる。当調査地点周辺の発掘調査でもこの時期以降の遺物・遺構の検出が乏しくなるのはこのような歴史的背景があると考えられる。

江戸の初期には鎌倉全体が相当荒廃していたらしく、元和二 (1616) 年九月に鎌倉を訪れたイギリス商館長リチャード・コックスの日記には「今では町はなく、いくつかの山々に囲まれた気持ちよい谷間のあちらこちらに家々が散在しているばかりである。その間にいくつかの極めて華麗な仏塔と剃髪した婦人の尼寺が一宇ある」(註3) とある。当調査地点周辺においても宝永七 (1710) 年頃製作されたと考えられる『扇ガ谷村絵図』では“田”と、また天保三 (1832) 年に製作された『扇ガ谷村絵図』には“畑”と記されており (註4)、近世にかけて耕作地として利用されていた事が分かる。

註

1　本稿では相武史料刊行会編　1930年『新編相模国風土記稿』を使用した

2　石井進　1989「鎌倉武士たちの屋敷」『よみがえる中世3　武士の都鎌倉』　平凡社

3　鎌倉市史編集委員会　1959『鎌倉市史　総説編』　吉川弘文館より抜粋

4　三浦勝男編　1969『鎌倉の古地図Ⅱ』　鎌倉国宝館図録第十六集　鎌倉市教育委員会

【引用・参考文献】

秋山哲雄　2004　「都市鎌倉の形成と北条氏」　『中世都市鎌倉の実像と境界』　高志書院

石井進　1993　「鎌倉時代中期の千葉氏」　『千葉県史研究』

石井進ほか編　1989　『よみがえる中世3　武士の都鎌倉』　平凡社

小笠原長和　1989　「千葉氏」『日本の名族四　関東編Ⅰ』　新人物往来社

鎌倉市史編集委員会　1959　『鎌倉市史　総説編』　吉川弘文館

鎌倉市史編集委員会　1959　『鎌倉市史　社寺編』　吉川弘文館

河野眞知郎ほか　1990　『今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会

河野眞知郎ほか　1993　『今小路西遺跡発掘調査報告書（福祉センター用地)』鎌倉市教育委員会

河野眞知郎　1995　『中世都市鎌倉－遺跡が語る武士の都－』　講談社メチエ49

黒板勝美編　1974　『新訂増補　国史大系　吾妻鏡』　吉川弘文館

黒川眞道編　1916　『国史叢書』　国史研究会

郷道哲章　1989　「諏訪氏」『日本の名族五　中部編』　新人物往来社

續群書類従完成會　1925　「見聞私記」　『續群書類従　第三十輯上　雑部』

千野原靖方　1995　『千葉氏　鎌倉・南北朝編』　崙書房

手塚直樹ほか　1982　『千葉地遺跡』千葉地遺跡発掘調査団

福田豊彦　1987　『新装版人物叢書　千葉常胤』　吉川弘文館

房総叢書刊行会編　1959　『改訂　房総叢書』　房総叢書刊行会

三浦勝男編　1969　『鎌倉の古地図Ⅱ』　鎌倉国宝館図録第十六集　鎌倉市教育委員会

宮田眞ほか　2004　『無量寺跡発掘調査報告書』博通

森孝子ほか　2003　『今小路西遺跡発掘調査報告書』博通

第2章　調査の概要

1. 調査の経緯と経過

本調査地点は、通称今小路の西側にあたる今小路西遺跡（県遺跡台帳№201）の一角に位置しており、常盤口からJR鎌倉駅を結ぶ道路から市役所前の路地を北へ35m程入った東側に位置した鎌倉市御成町200番2の一部に所在している。今回の調査に先立ち、平成13年5月に個人専用住宅建設の事前相談があり、住宅の基礎工事にともなって表層地盤の改良を含んで実施する計画があったため、工事の実施により埋蔵文化財に影響を及ぼす恐れのある事が予想された。このため確認調査を実施したところ現地表下1m以下に中世遺物包含層及び遺構面の具体的な埋蔵文化財の存在することが判明した。これにより当該建設工事の実施による埋蔵文化財への影響は避けられないものと判断された。このため事業者との協議を行ったところ、当初の計画に基づき工事を実施したいとの意向が示されたので、文化財保護法に基づく届出手続きを行い、施工者との調査実施による工程・方法調整の協議及び発掘調査を開始する運びとなった。

調査地は、残土の場外搬出が困難であり、さらに狭い敷地であるため表土の重機掘削による廃土及び調査で発生する廃土処理の問題から調査区を東西二区に分割して残土置場を確保した。まずⅠ区（東側半部）の調査を終了した後、残土を移動してⅡ区（東半部）の調査を行った。平成15年3月3日にⅠ区の表土を重機による掘削除去したのち、人力により掘り下げで調査を実施した。その結果、鎌倉時代を中心とした4時期の生活面と、それに伴う遺構・遺物が発見された。平成15年6月19日までの間に緊急調査に必要な記録保存を行い現地調査を無事終了した。その間の調査経過については、以下に調査日誌の抜粋を記す事にする。

【日誌抄】

3月3日　Ⅰ区調査開始。調査区を設定し、重機による表土掘削。
4日　機材搬入をし、テント設営。
5日　鎌倉市4級基準点を基にして敷地内に測量用基準点を設定、海抜標高を市三級基準点から移動。第1面の調査開始。
14日　Ⅰ区第1面調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第1面全測図作成。
4月1日　Ⅰ区第2面調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第2面全測図作成。
5月1日　Ⅰ区第3面調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第3面全測図作成。
3日　Ⅰ区第4面トレンチ調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第4面全測図作成。
6日　Ⅰ区埋め戻し後、Ⅱ区を重機による表土掘削。Ⅰ区第1面に相当する地業面が後世の掘削により破壊されていた為にⅠ区第2面に相当する面をⅡ区第2面とし調査開始。
21日　Ⅱ区第2面調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第2面全測図作成。
6月9日　Ⅱ区第3面調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第3面全測図作成。
13日　Ⅱ区第4面調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。第4面全測図作成。
17日　Ⅱ区古代遺構確認調査終了。個別遺構の写真撮影。古代遺構全測図作成。
19日　現地調査終了。関係各方面に発掘調査を終了した旨を連絡し、機材撤収。

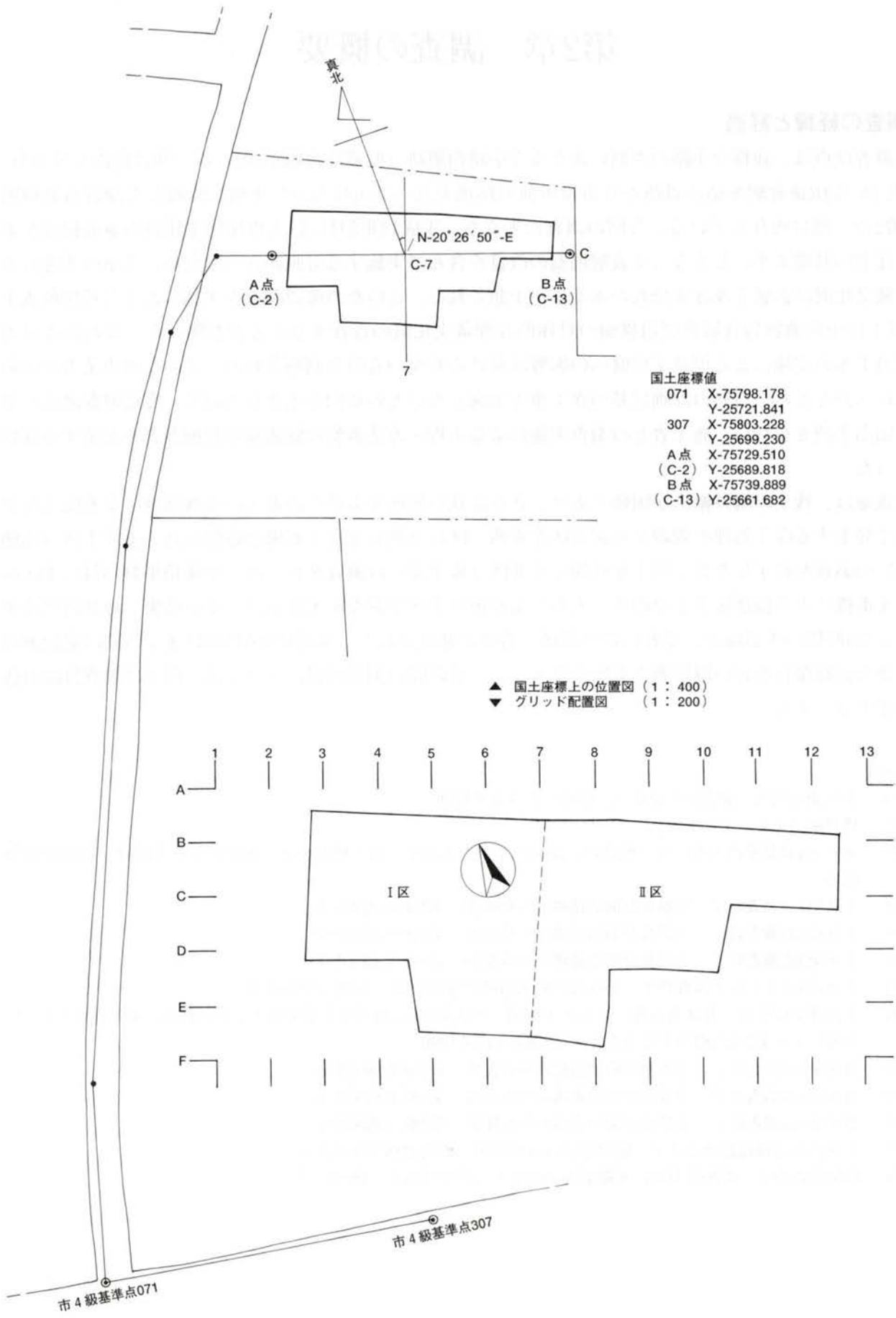


図3　グリッド配置図・国土座標上の位置図

2. 測量軸の設定

測量軸のためのグリット設定は、調査地点南側の今小路と直行する東西の道路上に鎌倉市道路管理課が設置した鎌倉市4級都市基準点のQ071とQ307を確認することができた。この両基準点の国土座標から敷地内に基準点A点（グリットC－2）・B点（グリットC－13）を設定し、図3のように国土座標の数値を求めて東西軸と南北軸をそれぞれ2m方眼により軸線を配置し、東西軸には算用数字の名称を付し、南北軸にはアルファベットの名称をそれぞれ付してグリット設定を行った。各グリットの名称は北西角の軸交点により呼称される。なお測量に用いたグリットは敷地の範囲や測量の際の利便性を優先した為国土座標とは一致していない。

以下に市4級基準点(Q071・Q307)と基準点A点・B点の国土座標数値を記すことにする。

〔AREA9〕

Q071〔X－75798.178：Y－25721.841〕　　A点〔X－75729.510：Y－25689.818〕

Q307〔X－75803.228：Y－25699.230〕　　B点〔X－75739.889：Y－25661.682〕

図中の方位はすべて真北を採用し、グリット方眼の南北軸線は真北よりやや東に振れている。南北軸と真北との偏差及び調査地点の経緯は次のとおりである。

南北軸線〔N－20° 26′ 50″ －E〕

調査地点〔北緯35° 19′ 01″ ：東経139° 33′ 03″ 〕

水準原点の移動については、調査地点から南西にあたる今小路とJR鎌倉駅から常盤口に抜ける道路が交差する地点に設置された鎌倉市三級水準点の標高を調査地内のC－2杭上に仮水準点として移動した。従って、文章中及び挿図に使用掲載された数値はすべてこれを基準にした海抜標高をしめしている。

鎌倉市三級水準点〔海抜標高7.039m〕　　C－2杭〔海抜標高8.970m〕

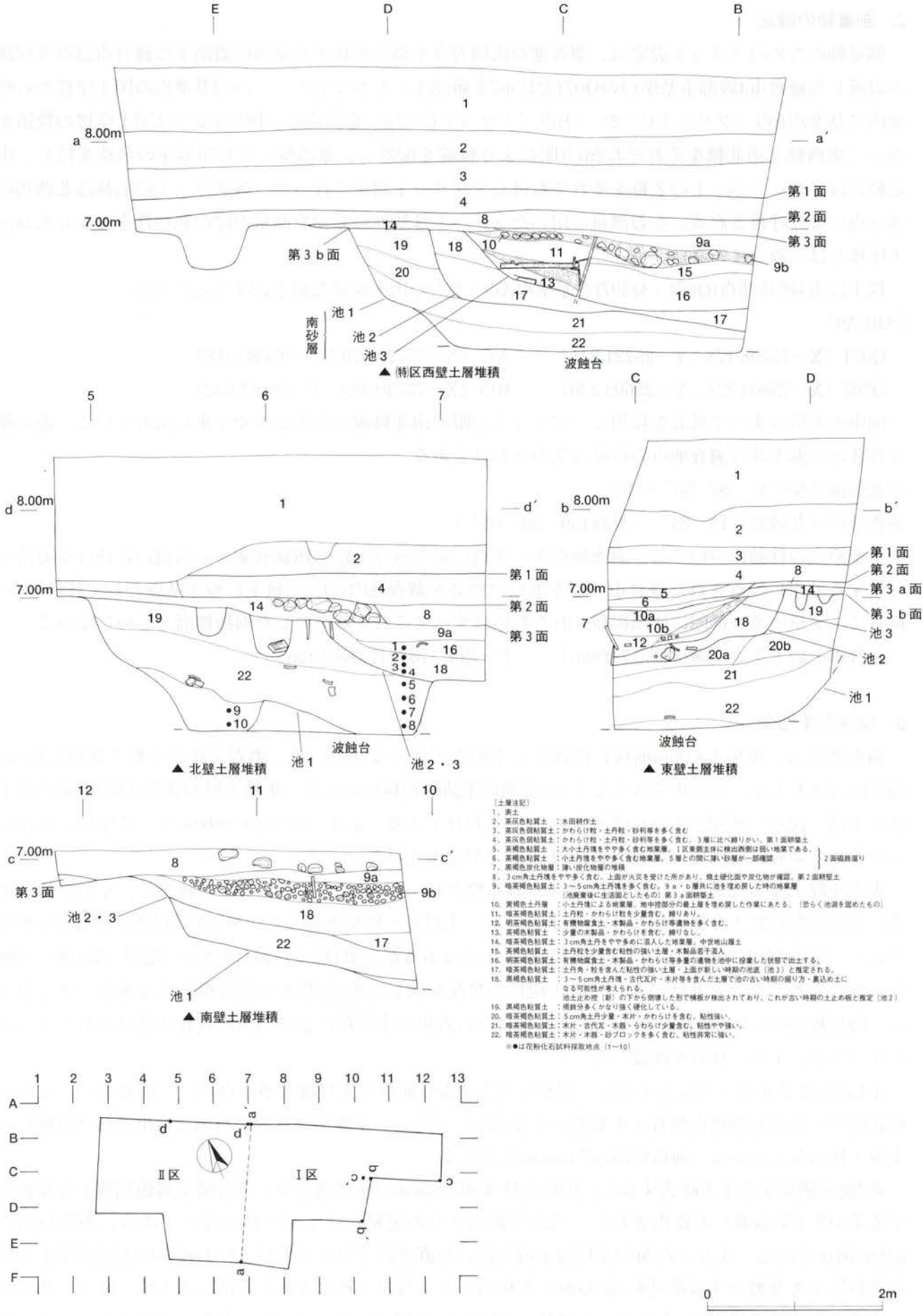
3. 層序と生活面

調査地点は、現地表8.96m前後に位置した平坦な宅地となっている。調査で確認された堆積土層は5層に区分されたが、その中で少なくとも3時期の生活面が検出された。堆積土層の状況は図4の調査区Ⅰ区の東壁・南壁・西壁とⅡ区の北壁に示したとおりである。表土は厚さ60～80cmとやや厚めに堆積しているが、調査区北側で一部現地表1mまで表土が及んでいた。

表土を除去すると近世の水田跡と考えられる厚さ40～50cmの茶灰色粘質土が検出し、それを除去すると茶灰色弱粘質土の厚さ約20cmのかわらけ粒・土丹粒・砂利を含んだ中世遺物包含層の第1層が検出された。第1層を取り除くと同じ茶灰色弱粘質土ではあるが、第1層より締りの強い第2層（第1面）を検出した。しかしながらⅡ区においては近現代の撹乱が著しく第2層以上の層は確認する事ができなかった。海抜標高は7.30m前後を測る。先述したように近世の水田跡により当面の残存状態は良好とはいえなかったが、土壙・柱穴を確認した。

第1面を構築する土を除去すると、間層を挟まず3cm前後の土丹塊を多く含み、一部被熱による焼土硬化面の広がる暗茶褐色粘質土を基盤とする第3層（第2面）が検出された。当面で検出された遺構には土壙・柱穴などがある。海抜標高は7.15m前後を計る。

第2面を構築する土を除去すると、間層を挟まず3～5cmの土丹塊を多く含む暗茶褐色粘質土を基盤とする第4層（第3a面）が検出された。当面で検出された遺構には土壙・柱穴などがある。海抜標高は6.90m前後を計る。またこの面の土丹塊を取り除いた直下にて中世基盤層、いわゆる中世地山である黒褐色粘質土を基盤とする第5層（第3a面）を検出した。当面で検出された遺構には土壙・柱穴・池などがある。海抜標高は6.80mを計る。尚第4層と第5層は遺物の形式やその他の考察から時代的に大きな差



［土層注記］
1．表土
2．茶灰色粘質土　：水田耕作土
3．茶灰色個粘質土：かわらけ粒・土丹粒・砂利等を多く含む
4．茶灰色個粘質土：かわらけ粒・土丹粒・砂利等を多く含む。3層に比べ締りがい。第1面耕盤土
5．茶褐色粘質土　：大小土丹塊をやや多く含む地業層。1区東側主体に検出西側は弱い地業である。
6．茶褐色粘質土　：小土丹塊をやや多く含む地業層。5層との間に薄い砂層が一部確認。　2面組路盤り
7．黒褐色炭化物層：薄い炭化物層の堆積
8．3cm角土丹塊をやや多く含む。上面が火災を受けた所があり、焼土硬化面や炭化物が確認。第2面耕盤土
9．暗茶褐色粘質土：3～5cm角土丹塊を多く含む。9a・b層共に池を埋め戻した時の地業層
（池廃棄後に生活面としたもの）第3a面耕盤土
10．黄褐色土丹層　：小土丹塊による地業層。地中掘部分の最上層を埋め戻した作業にあたる。（恐らく池跡を固めたもの）
11．暗茶褐色粘質土：土丹粒・かわらけ粒を少量含む。締りあり。
12．明茶褐色粘質土：有機物腐食土・木製品・かわらけ等遺物を多く含む。
13．茶褐色粘質土　：少量の木製品・かわらけを含む。締りなし。
14．暗茶褐色粘質土：3cm角土丹をやや多めに混入した地業層。中世地山層土
15．茶褐色粘質土　：土丹粒を少量含む粘性の強い土層・木製品若干混入
16．明茶褐色粘質土：有機物腐食土・木製品・かわらけ等多量の遺物を池中に投棄した状態で出土する。
17．暗茶褐色粘質土：土丹角・粒を含んだ粘性の強い土層・上面が新しい時期の池底（池3）と推定される。
18．黒褐色粘質土　：3～5cm角土丹塊・古代瓦片・木片等を含んだ土層で池の古い時期の掘り方・裏込め土になる可能性が考えられる。
池土止め杭（新）の下から倒壊した形で横板が検出されており、これが古い時期の土止め板と推定（池2）
19．黒褐色粘質土　：堆鉄分多くかなり強く硬化している。
20．暗茶褐色粘質土：5cm角土丹少量・木片・かわらけを含む。粘性強い。
21．暗茶褐色粘質土：木片・古代瓦・木器・うわらけ少量含む。粘性やや強い。
22．暗茶褐色粘質土：木片・木器・砂ブロックを多く含む。粘性非常に強い。
※●は花粉化石試料採取地点（1～10）

図4　調査区壁土層堆積図

がみられない事から同時期のものと捉え、a面・b面と区分した。

さらに土層観察から池２掘り方より古い時期の落ち込みの存在が予想されたので第３ｂ面の調査終了後、Ⅰ・Ⅱ区の５ヶ所にトレンチ（図66の第１～５トレンチ）を設定して確認を行った。その結果、各トレンチともに中世基盤層に類似する中世遺物を少量混入した第19～22層の黒褐～暗茶褐色粘質土による遺構覆土の三辺で壁面の立ち上がりを確認した（池１）。底面は縄文時代の海進・海退期に形成された平坦な岩盤の波蝕台と、自然堆積層の海砂によって構成されている。また第４・５トレンチの土層観察から中世以前に遡る遺構が確認されたのでトレンチを拡張して調査を行ない、古代遺物を伴う溝や土壙を検出している。

第3章　検出遺構と出土遺物

1. 第1面の遺構・遺物

現地表下165～180cm、海抜高7.30m前後、土丹粒・砂利を含む弱い地業による生活面でⅠ区を中心に確認された。なお、Ⅱ区は第１面が近世以降の撹乱と削平によって殆ど破壊されていた。検出した遺構は土壙7基、柱穴29基が確認され、出土遺物にはかわらけ、舶載陶磁器、瀬戸・常滑窯製品、石製品などがみられた。

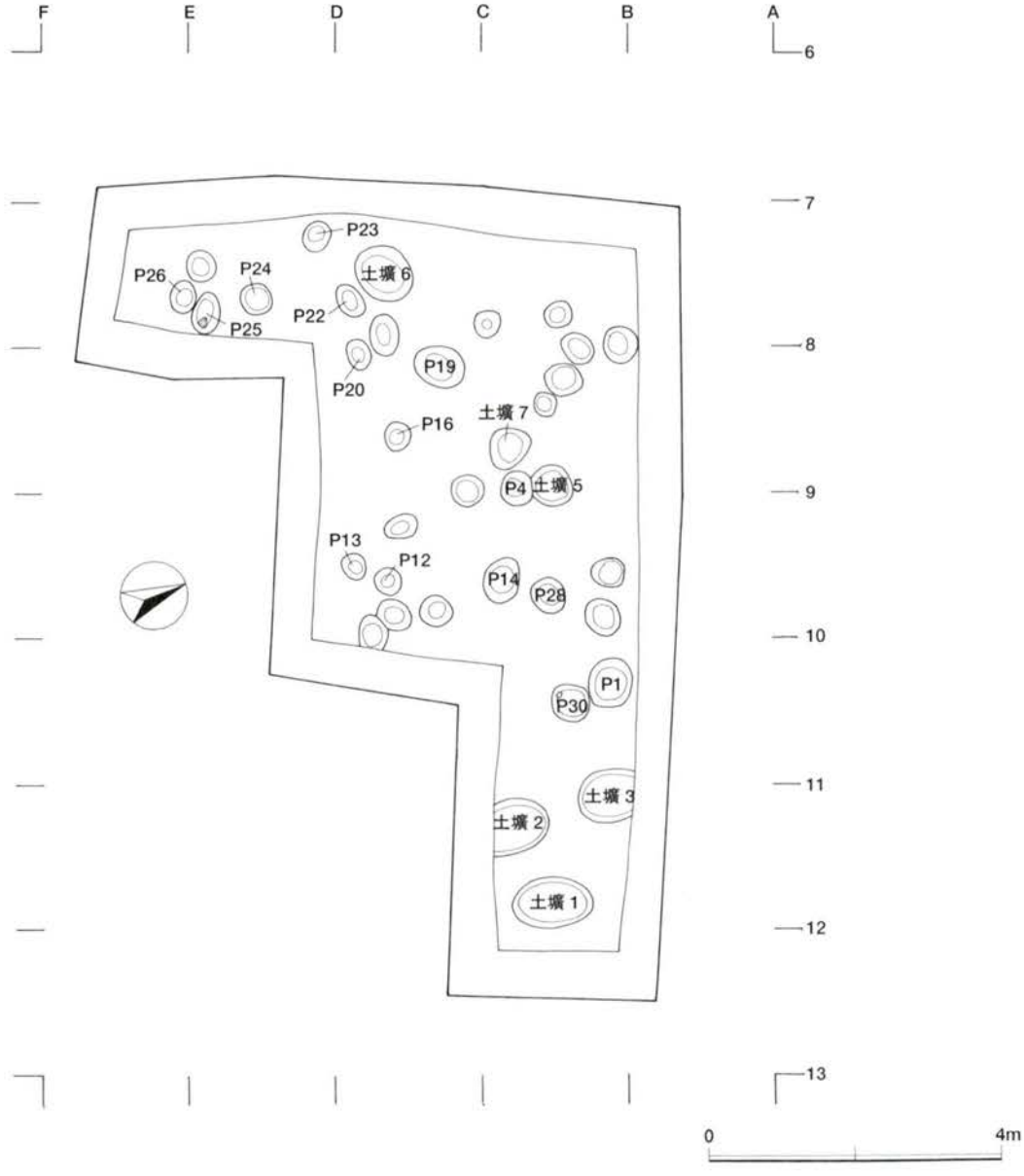


図5　第1面全測図

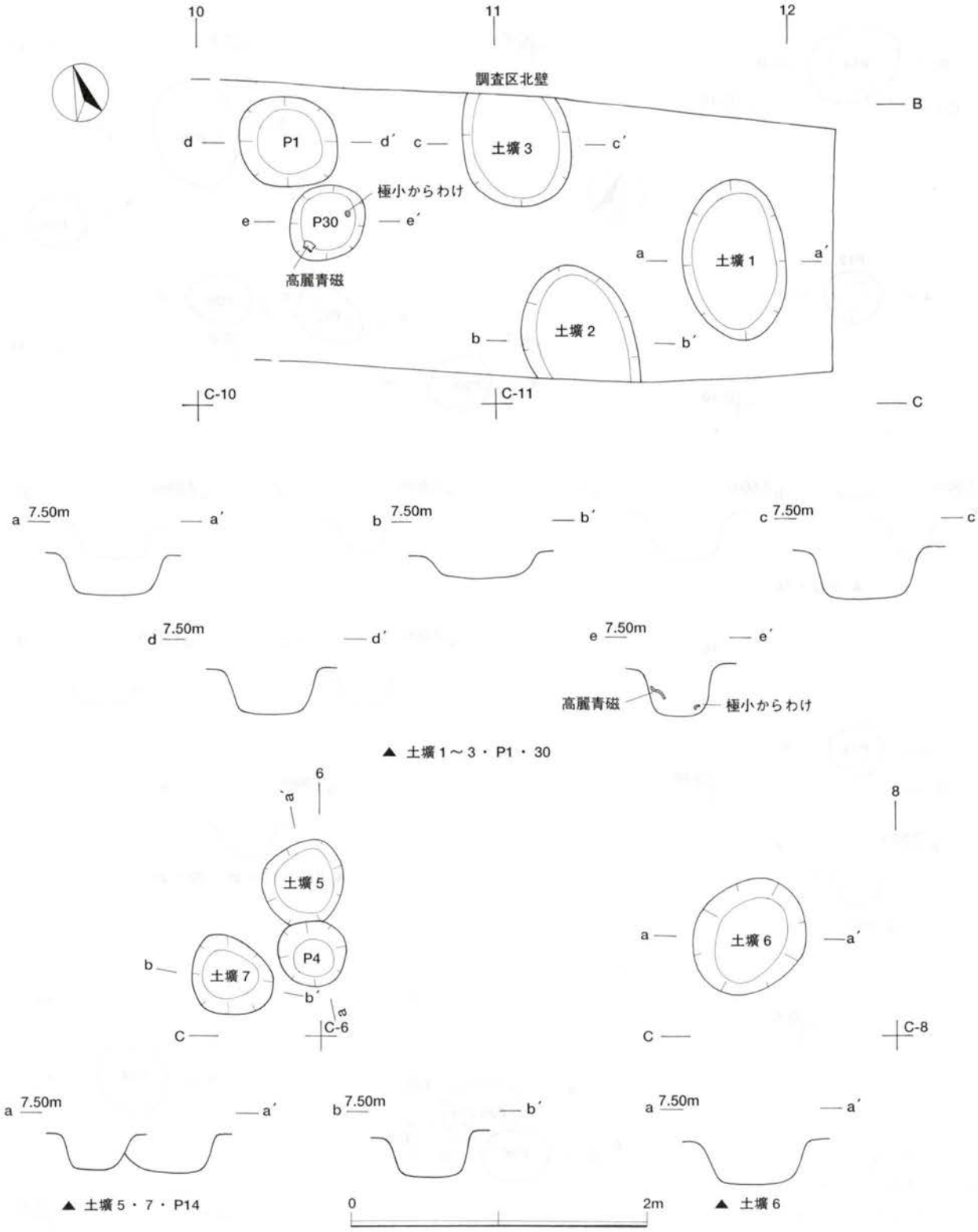


図6　土壙1～3・5～7　柱穴1・4・30

A・土壙（図5・6・8、図版1・12）

土壙1：B－12とC－12の中間地から検出された。平面形状は長楕円形を呈し、規模は南北径110cm、東西径は62cm、確認面からは29cmの深さを測る。掘り方は断面が鉢状を呈しており、覆土は炭化物を含む茶褐色弱粘質である。

出土遺物は図8－1が轆轤成形のかわらけ小皿、2・3は龍泉窯系青磁で2が折縁皿、3が輪花碗で内底面に蓮華文が陰刻されている。

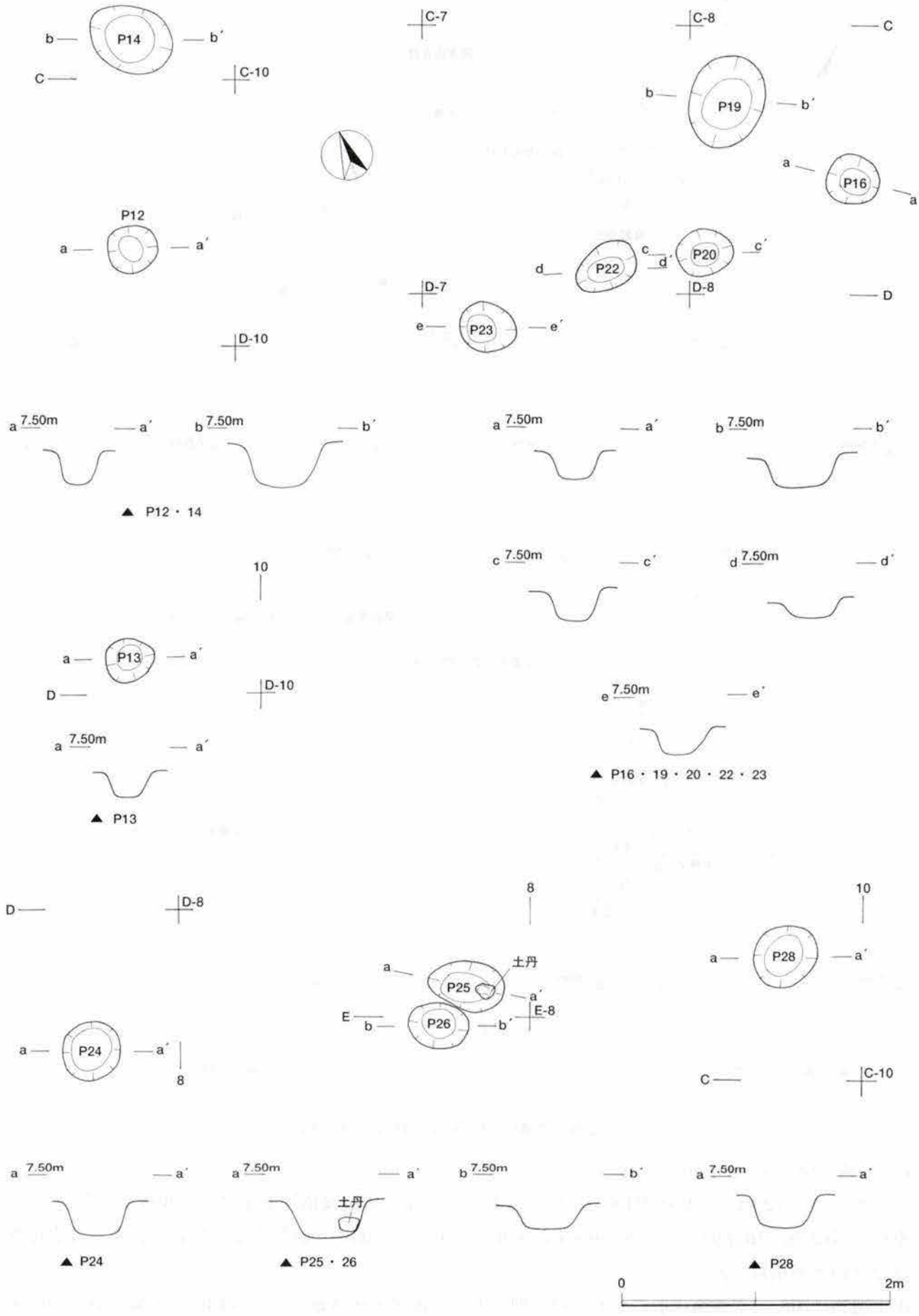


図7　柱穴12～14・16・19・20・22～26・28

土壙2：C－11の位置で検出された。平面形状は長楕円形を呈していると考えられるが南側が調査区外に拡がっている。規模は南北径の確認範囲で81cm、東西径は79cm、確認面からは18cmの深さを測る。掘り方は浅い皿状を呈しており、覆土は炭粒を少量含む茶褐色弱粘質土。出土遺物は図8－4が轆轤成形の極小かわらけ。

土壙3：B－11の位置で検出された。平面形状は楕円形を呈していると考えられるが北側が調査区外に広がっている。規模は南北径の確認範囲で74cm、東西径は73cm、確認面からは35cmの深さを測る。掘り方は深鉢状を呈しており、覆土は茶褐色弱粘質土。出土遺物は図8－5が土器質の火鉢。

土壙5：B－9とC－9の中間地から検出された。P4に南側一部削平を受けている。平面形状は楕円形を呈し、規模は南北径44cm、東西径は55cm、確認面からは29cmの深さを測る。掘り方は深鉢状を呈しており、覆土は茶褐色弱粘質土。出土遺物は図8－6が龍泉窯系青磁蓮弁文碗。

土壙6：C－8の位置で検出された。平面形状は不整円形を呈し、規模は南北径68cm、東西径77cm、確認面からは31cmの深さを測る。掘り方は深鉢上を呈しており、覆土は茶褐色弱粘質土。出土遺物は図8－7が轆轤成形のかわらけ小皿、8は中国産黒褐釉陶器碗、9は青白磁の合子である。

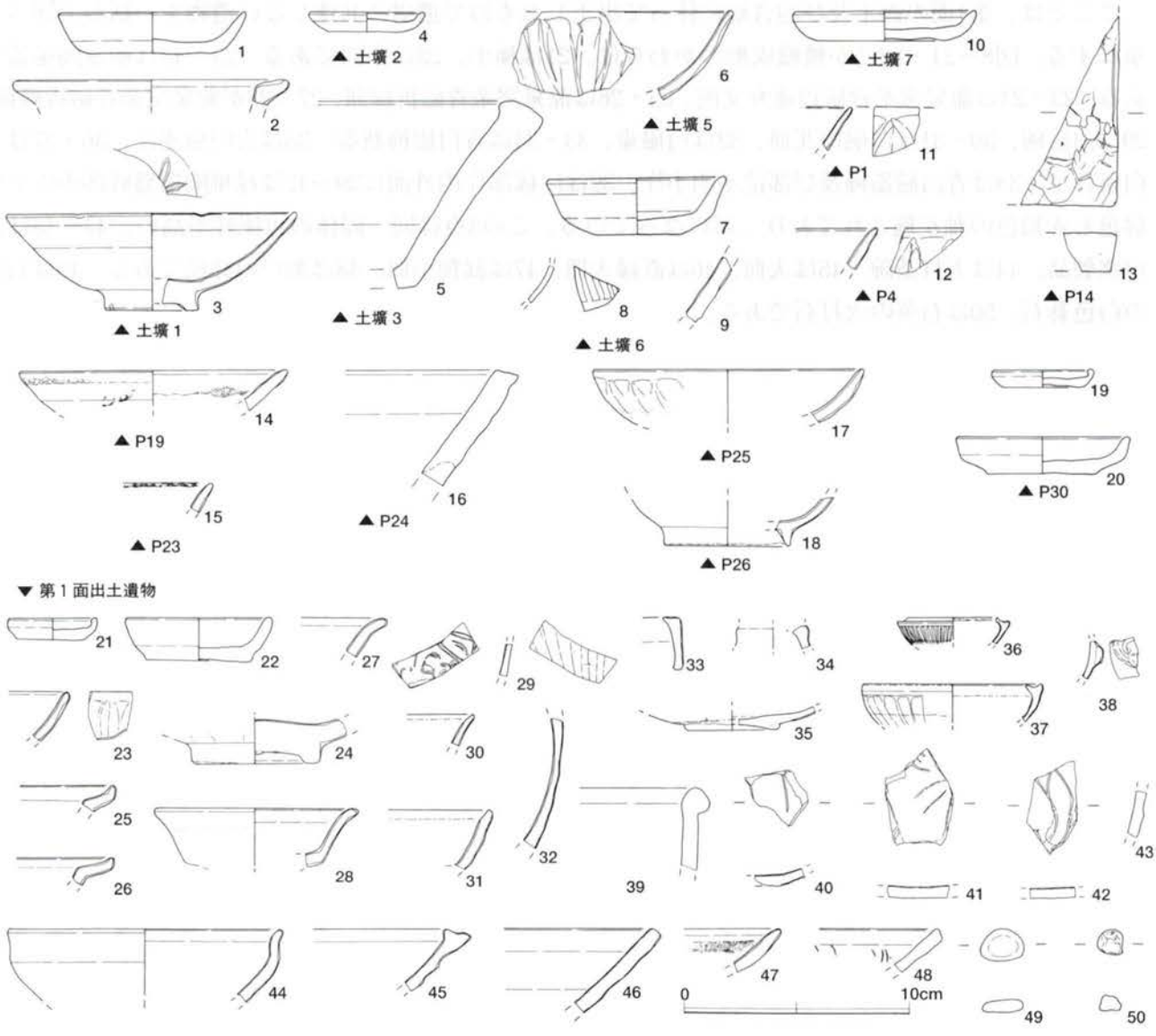


図8　第1面上・遺構出土遺物

土壙7：C－6の位置で検出された。平面形状は楕円形を呈し、規模は南北径52cm、東西径は58cm、確認面から32cmの深さを測る。掘り方は深鉢状を呈しており、覆土は炭粒を少量含む茶褐色弱粘質土。出土遺物は図8－10が轆轤成形のかわらけ小皿。

B・柱穴（図5～8、図版1・12）

検出した各柱穴（ピット）は掘立柱建物を構成するような配置は認められなかった。各掘り方は平面形状が楕円形または不整円形を呈しており、規模は径32～68cm、確認面から19～36cmである。以下、図8－11～20に示した柱穴出土の遺物について簡単に触れる事とする。11・12は龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗。11はP1より、12はP4より出土。13は硯でP14より出土。14は瀬戸窯製品小皿でP19より出土。15は白磁口兀皿でP23より出土。16は常滑窯製品捏鉢Ⅱ類でP24より出土。17は龍泉窯系青磁蓮弁文碗でP25より出土。18は龍泉窯系青磁碗でP26より出土。19が轆轤成形のコースター状かわらけ、20が轆轤成形のかわらけ小皿で共にP30より出土。

C・遺構外出土遺物（図8、図版12）

ここでは、第1面の面上及び包含層に伴って出土したもので遺構に共伴しない遺物を一括して述べる事にする。図8－21・22はが轆轤成形のかわらけ。21は極小、22は小皿である。23～43は舶載陶磁器である。23・24は龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗、25・26は龍泉窯系青磁折縁皿、27・28が龍泉窯系青磁折腰皿、29は白磁碗、30・31は白磁口兀皿、32は白磁壷、33・34は青白磁梅瓶蓋、35は青白磁水注、36・37は青白磁合子。38は青白磁器種及び部位不明小片。39は口縁部片内外面に39～42は緑釉陶器盤底部小片で暗緑色と赤褐色の釉が施されており二彩になっている。この4点は同一固体の可能性が高い。44～48は瀬戸窯製品。44は天目茶碗、45は大皿、46は直縁大皿、47は緑釉小皿、48は瀬戸の卸皿である。49は石製の白色碁石。50は石英の火打石である。

2．第2面の遺構・遺物

現地表下180～195ｃｍ、海抜高7.15ｍ前後、3cmほどの土丹塊で薄く地業された弱い生活面である。調査区中央付近から東側にかけて火災の為と思われる焦土硬化面が検出された。また調査区中央東側Ｃ－9・10付近において中国製磁器や高麗青磁が集中して面上から出土している。（磁器溜り）これらの遺物の多くが被熱を受けた痕跡がある事から前述した焦土硬化面と何らかの関係があると考えられる。この面で検出された遺構は、掘立柱建物3棟、土壙12基、柱穴約110口である。主な出土遺物は、大量のかわらけ、中国産陶磁器、高麗青磁、瀬戸窯及び常滑窯等の国産陶器、瓦、石製品、金属製品などが出土した。

A・建物（図9・10・16、図版2・3・12）

建物１

グリット：調査区西側に位置し、B～D－3・4

確認標高：7.00ｍ前後

軸方位　：N－14°24′－E

建物規模：調査区内東西1間×南北2間

建物概要：掘立柱建物である。調査区内には3棟の掘立柱建物が重複するが、この建物１はこれらの中で一番新しいと考えられる。東側の南北軸を形成する柱穴が近代井戸によって破壊されているが、南北2間は存在したことは間違いない。建物１は南北２間×東西1間が確認されているが、南北西に延びる可能性がある。東側には東西軸上に並ぶ柱穴が存在しないためにこの建物の東限であろうと考えられる。

芯々距離は東西列（Ｐ1-ハ-1・1-ハ-2）で194cm、南北d列が柱穴3口（Ｐ1-イ-1・1-ロ-1・1-ハ-1）で南端の柱穴から214cm・210cmを測り、各柱穴には1枚乃至は2枚の礎板が残存する。柱穴掘り方は不整円形又は楕円形を呈し、径31～56cm、深さ10～32㎝程である。

出土遺物は図16－1・2が轆轤成形のかわらけで1が小皿、2が大皿で共にPハ-1から出土。

建物2

グリット：調査区西側に位置し、Ｂ～Ｄ－3～5

確認標高：7.00ｍ前後

軸方位　：N－10°26′－E

建物規模：調査区内東西２間×南北２間

建物概要：掘立柱建物である。3棟の内、この建物2が一番古いと考えられる。現状では東西2間×南北2間が確認されているが、南北西の方向に延びる可能性もある。東側は建物1と同様、東西軸上に並ぶ柱穴が存在しないのでこの建物の東限と考えられる。芯々距離は東西ｂ列が柱穴3口（P2-ロ-1・2-ロ-2・2-ロ-3）で東端の柱穴から195cm・196cm、南北ｅ列が柱穴3口（P2-イ-3・2-ロ-3・2-ハ-3）で南端の柱穴から198cm・182cmを測り、各柱穴には1～3枚の礎板が残存する。柱穴掘り方は不整円形又は楕円形を呈し、径31～62cm、深さ42～58ｃｍ程である。

出土遺物は図16－3が龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗でPイ-1より出土。4は轆轤成形のかわらけ大皿、5は白磁口兀碗、6は常滑窯製品捏鉢。類、7は銅銭「皇宋通宝」（北宋　初鋳1038年）。4～8は共にPイ-3から出土。8は轆轤成形のかわらけ大皿でPロ-2から出土。

建物3

グリット：調査区西側に位置し、Ｂ～Ｃ－3～5

確認標高：7.00ｍ前後

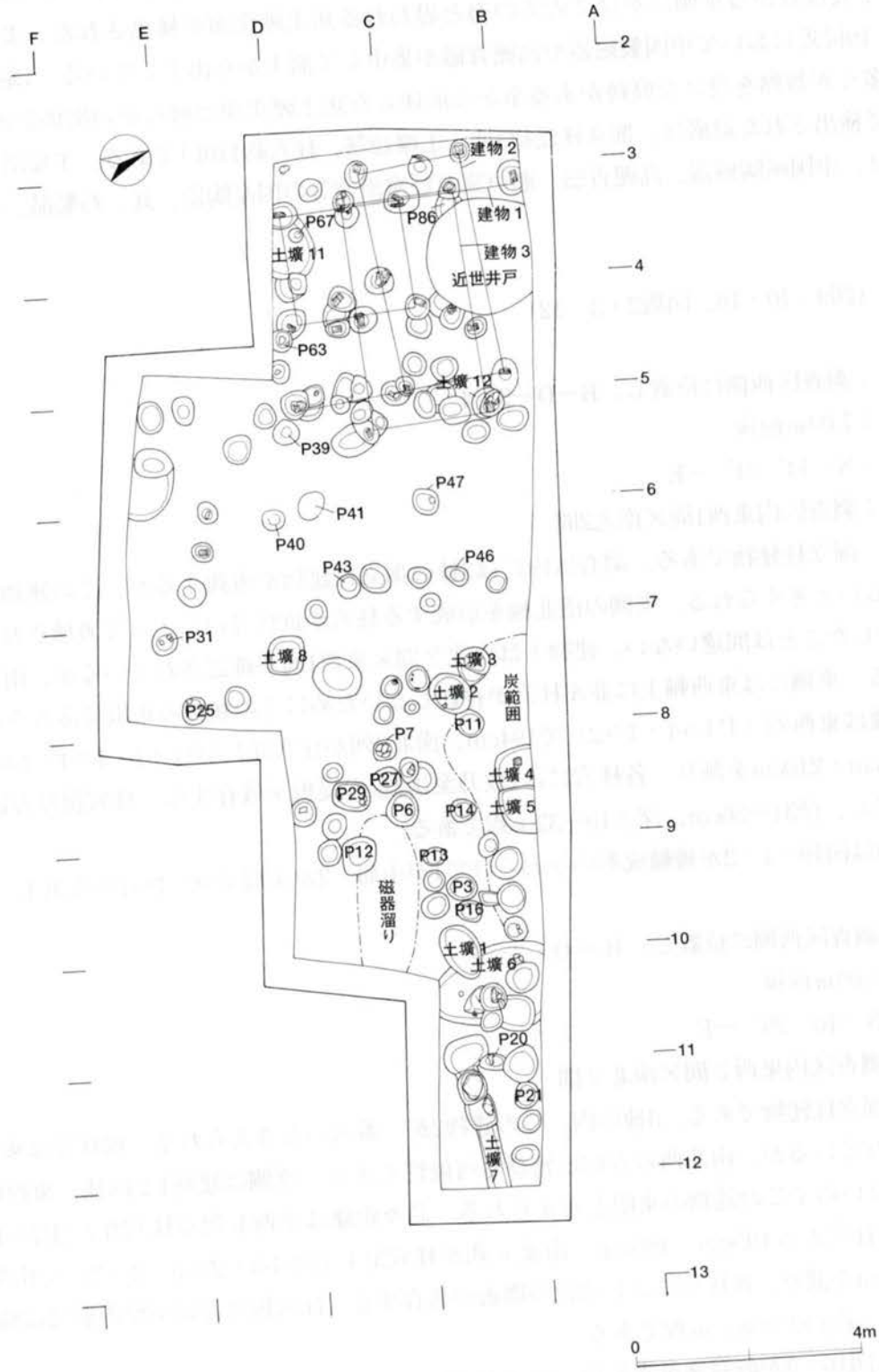

F
E
D
C
B
A
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
建物 2
建物 1
建物 3
近世井戸
P67
P86
土壙 11
P63
土壙 12
P39
P47
P41
P40
P43
P46
P31
土壙 8
土壙 3
土壙 2
炭範囲
P25
P11
P7
P27
土壙 4
P29
P6
P14
土壙 5
P12
P13
P3
P16
磁器溜り
土壙 1
土壙 6
P20
P21
土壙 7
0
4m

図9　第2面全測図

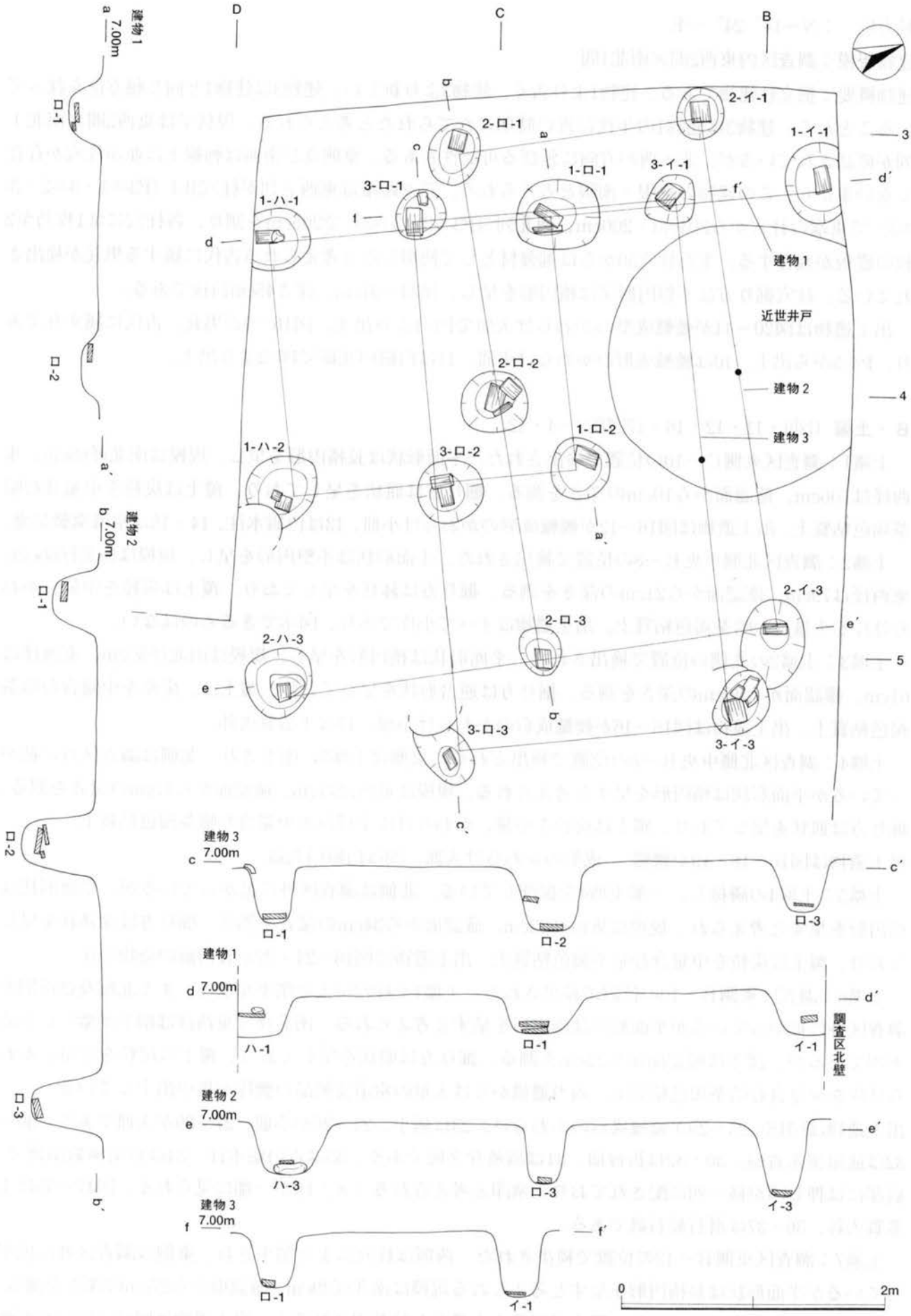

建物1
a 7.00m
ロ-1
ロ-2
a´
建物2
b 7.00m
ロ-1
ロ-2
ロ-3
b´
D
C
B
1-ハ-1
2-ロ-1
3-ロ-1
1-ロ-1
2-イ-1
3-イ-1
1-イ-1
1-ハ-2
2-ロ-2
3-ロ-2
1-ロ-2
2-ハ-3
2-ロ-3
3-ロ-3
2-イ-3
3-イ-3
建物1
近世井戸
建物2
建物3
建物3
7.00m
ロ-1
ロ-2
ロ-3
建物1
7.00m
ハ-1
ロ-1
イ-1
調査区北壁
建物2
7.00m
ハ-3
ロ-3
イ-3
建物3
7.00m
ロ-1
イ-1
0
2m

図10　建物1～3

軸方位　：N－14°24′－E
建物規模：調査区内東西2間×南北1間
建物概要：掘立柱建物である。建物1より古く、建物2より新しい。建物3は建物1と同じ軸方位を採っていることから、建物3は建物1の年代に近い時期にたてられたと考えられる。現状では東西2間×南北1間が確認されているが、北・西の方向に延びる可能性もある。東側及び南側は軸線上に並ぶ柱穴が存在しない事から、この建物の東限・南限と考えられる。芯々距離は東西c列が柱穴3口（P3-ロ-1・3-ロ-2・3-ロ-3）で東端の柱穴から204cm・200cm、南北列（P3-イ-3・3-ロ-3）で206cmを測り、各柱穴には1枚乃至2枚の礎板が残存する。また柱穴50からは補強材として使用したと考えられる古代に属する男瓦が検出されている。柱穴掘り方は不整円形又は楕円形を呈し、径34～51cm、深さ45cm前後である。

出土遺物は図20－44が轆轤成型のかわらけ大皿でPイ-1より出土。図16―9が男瓦。古代に属す瓦であり、Pイ-3から出土。10は轆轤成形のかわらけ小皿。11は白磁口兀皿でPロ-2より出土。

B・土壙（図9・11・12・16・17図版2・4・12）

土壙1：調査区東側C－10の位置で検出された。平面形状は長楕円形を呈し、規模は南北径65cm、東西径は106cm、確認面から10cmの深さを測る。掘り方は皿状を呈しており、覆土は炭粒を中量含む暗茶褐色粘質土。出土遺物は図16－12が轆轤成形のかわらけ小皿、13は白磁水注、14・15は常滑窯製品甕。

土壙2：調査区北側中央B－8の位置で検出された。平面形状は不整円形を呈し、規模は南北径66cm、東西径は79cm、確認面から21cmの深さを測る。掘り方は鉢状を呈しており、覆土は炭粒を中量、かわらけ片を少量含む暗茶褐色粘質土。出土遺物はすべて小片であり、図示できるものはない。

土壙3：土壙2の北側の位置で検出された。平面形状は楕円形を呈し、規模は南北径50cm、東西径は61cm、確認面から36cmの深さを測る。掘り方は逆台形状を呈しており、覆土は、炭粒を中量含む暗茶褐色粘質土。出土遺物は図16－16が轆轤成形のかわらけ小皿。17は土器質火鉢。

土壙4：調査区北側中央B－8の位置で検出された。東側は土壙5に削平され、北側は調査区外に拡がっているが平面形状は楕円形を呈すと考えられる。規模は東西径71cm、確認面から17cmの深さを測る。掘り方は皿状を呈しており、覆土は炭粒を中量、かわらけ片土丹粒を少量含む暗茶褐色粘質土。
出土遺物は図16－18・19が轆轤　成形のかわらけ大皿、20は白磁口兀皿。

土壙5：土壙4の隣接し、一部土壙4を掘削している。北側は調査区外に拡がっているが、平面形状は楕円形を呈すと考えられ、規模は東西径82cm、確認面から34cmの深さを測る。掘り方は深鉢状を呈しており、覆土は炭粒を中量含む暗茶褐色粘質土。出土遺物は図16－21・22が青白磁の袋物小片。

土壙6：調査区東側B－10の位置で検出された。土壙1や柱穴により削平を受け、また北側及び南側が調査区外に拡がっているが平面形状は楕円形を呈すと考えられる。南北径・東西径は削平が激しいため不明であるが、深さは確認面から22cmを測る。掘り方は皿状を呈しており、覆土は炭粒を中量、かわらけ片を少量含む暗茶褐色粘質土。尚当遺構からは大量の常滑窯製品の甕片が集中出土している。
出土遺物は図16－23～29が轆轤成形のかわらけ。23は極小、24～26が小皿、27～29が大皿である。30～32は龍泉窯系青磁。30・32は折縁皿、31は鎬蓮弁文碗である。33は青白磁水注。34は常滑窯製品甕で、肩部には押し印が横一列に配されており、窯印と考えられる「×」印が一部に見られる。図17－35は土器質火鉢、36・37は滑石製石鍋である。

土壙7：調査区東側B－12の位置で検出された。西側は柱穴により削平され、東側は調査区外に拡がっているが平面形状は長楕円形を呈すと考えられる規模は南北径39cm、確認面から27cmの深さを測る。掘り方は逆台形状を呈しており、覆土は炭粒を中量含む暗茶褐色粘質土。出土遺物は図17－38～45が轆

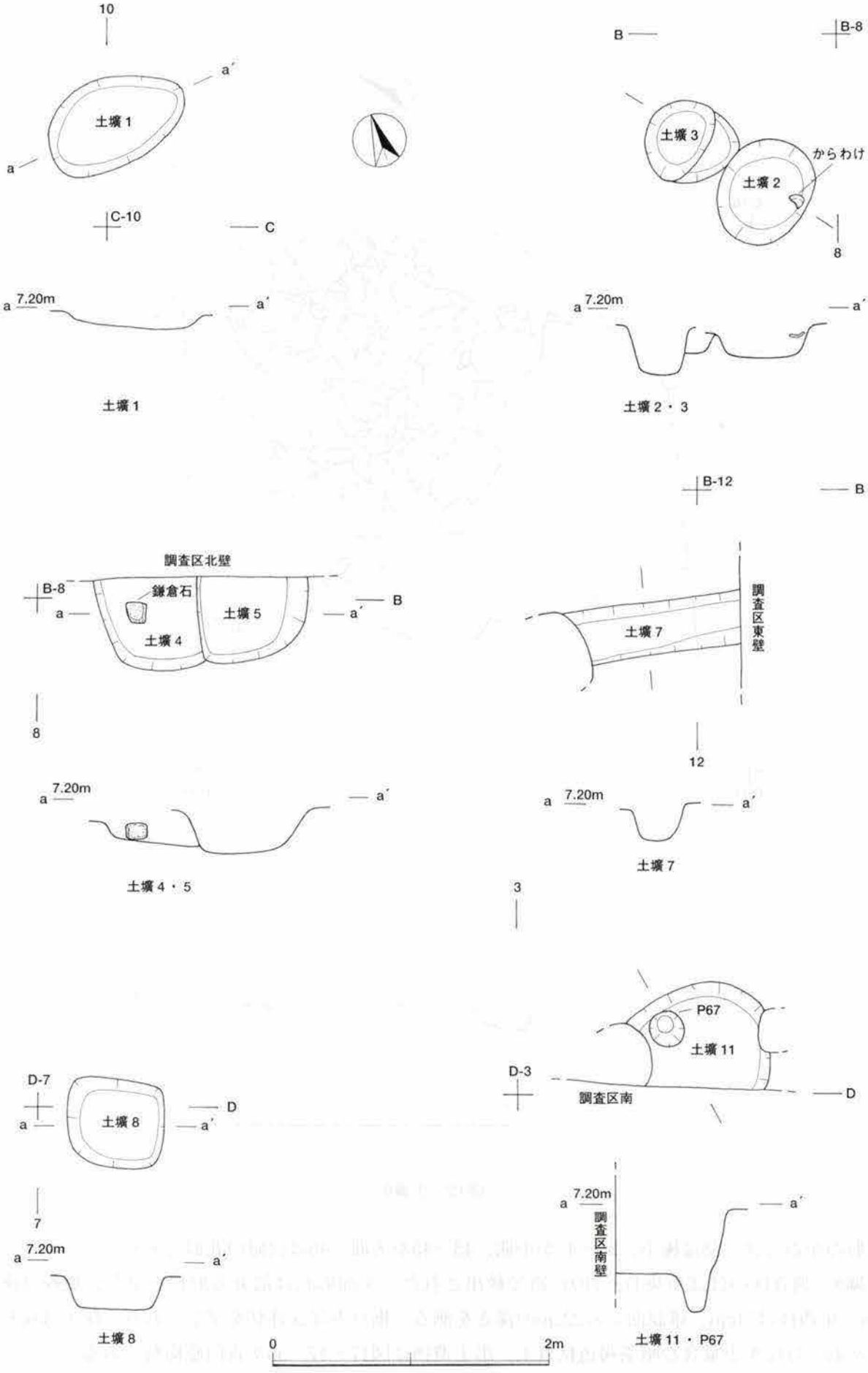


図11　土壙1～5・7・8・11　柱穴67

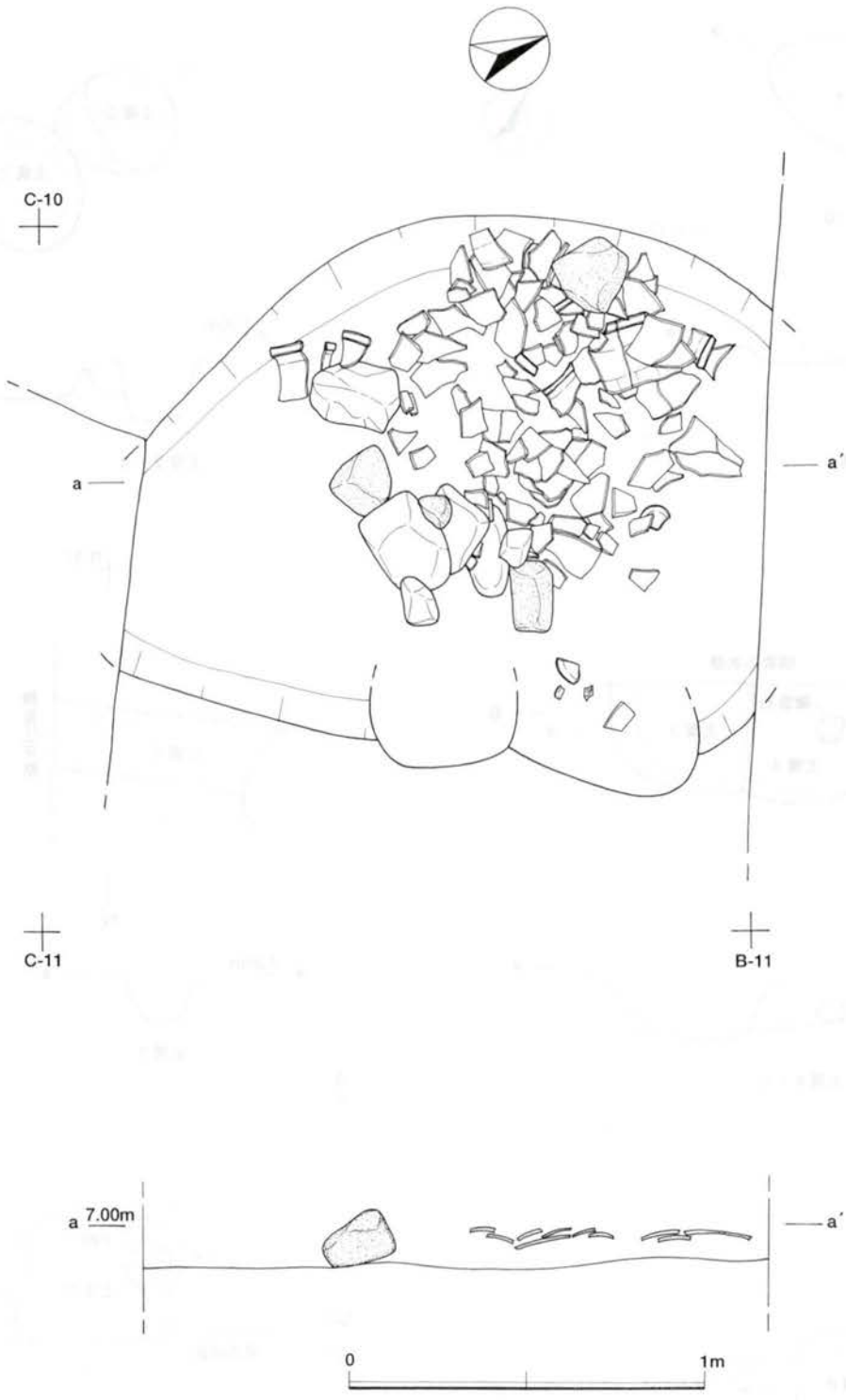


図12　土壙6

轆成形のかわらけ。38は極小、39～42が小皿、43～45が大皿。46は白磁口兀皿である。

土壙8：調査区のほぼ中央D－7の位置で検出された。平面形状は端丸方形状を呈し、規模は南北径65cm、東西径は71cm、確認面から22cmの深さを測る。掘り方は深鉢状を呈しており、覆土は炭粒を中量、かわらけ片を少量含む暗茶褐色粘質土。出土遺物は図17－47～50が青白磁梅瓶である。

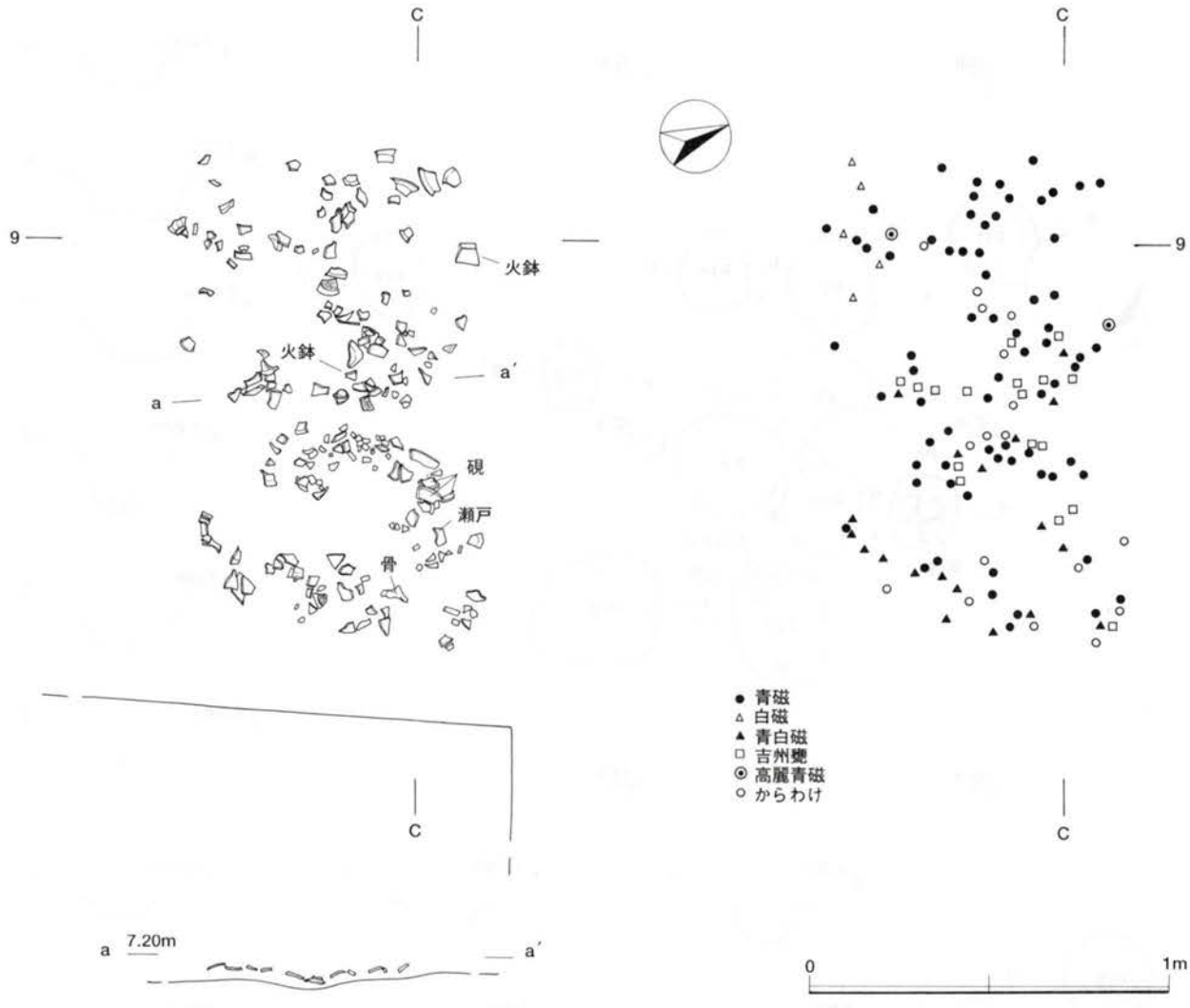


図13　磁器溜り

土壙11：調査区西側Ｄ－3の位置で検出された。東西は柱穴に削平され、南側は調査区外に拡がるが平面形状は楕円形を呈すと考えられる。深さは確認面から53cmを測る。掘り方は判然としないが、逆台形状を呈すと考えられる。覆土は炭粒を中量含む暗茶褐色粘質土。出土遺物は図17－51～55が轆轤成形のかわらけ小皿、56が鉄製の釘である。

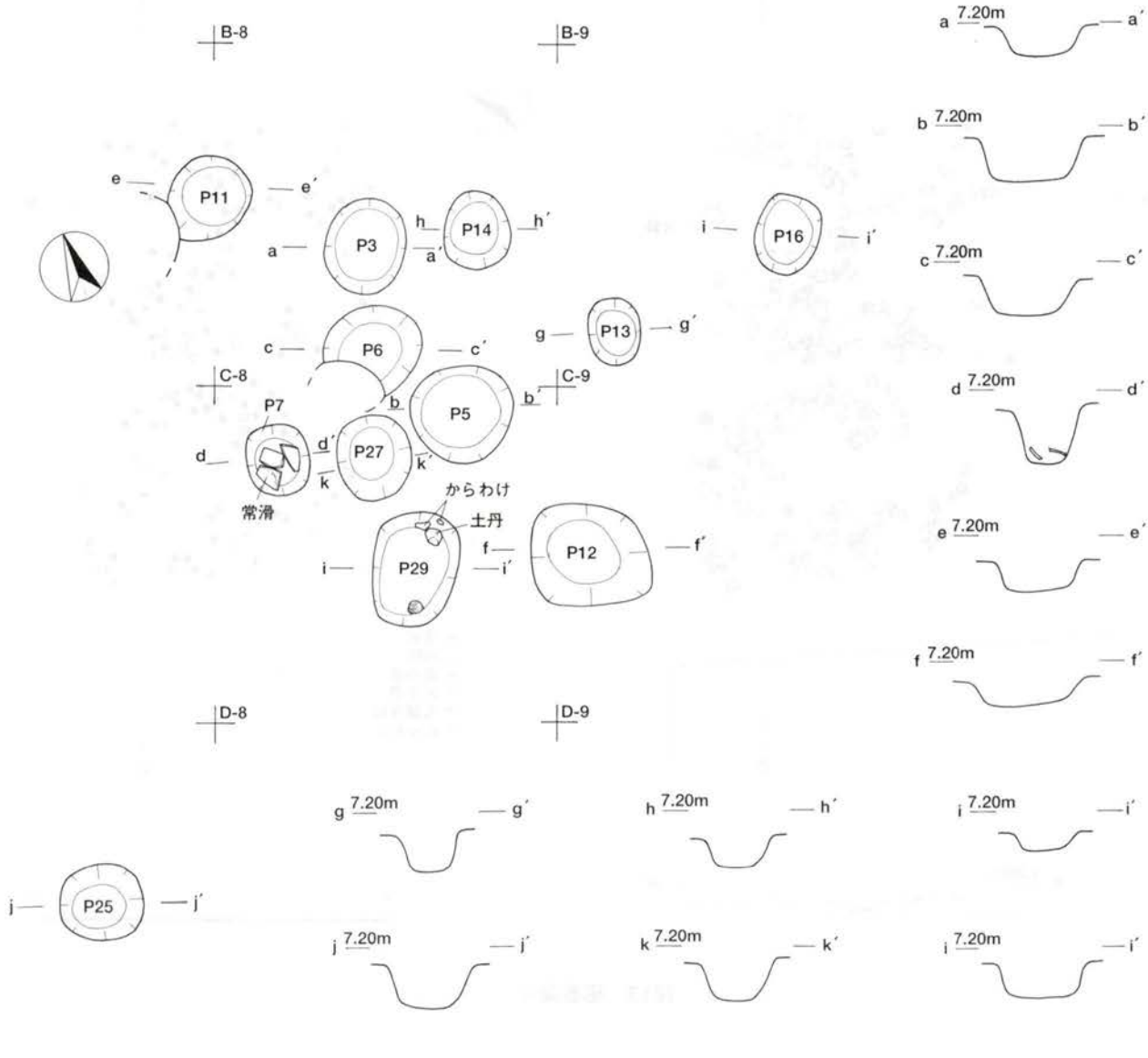
土壙12：調査区東側B－5の位置で検出された。柱穴3-イ-3により全体が掘削されており、平面形状は不明である。深さは確認面から17cmを測る。掘り方は深鉢状を呈しており、覆土は炭粒を中量、かわらけ片を少量含む暗茶褐色粘質土。出土遺物は図17－57～62が轆轤成形のかわらけ。57～60が小皿で57のみが他のものと異なり口径が7.1cmと一回り小さい61・62は大皿、63は白磁碗である。

C・磁器溜り（図9・13・18・19図版2・13・14）

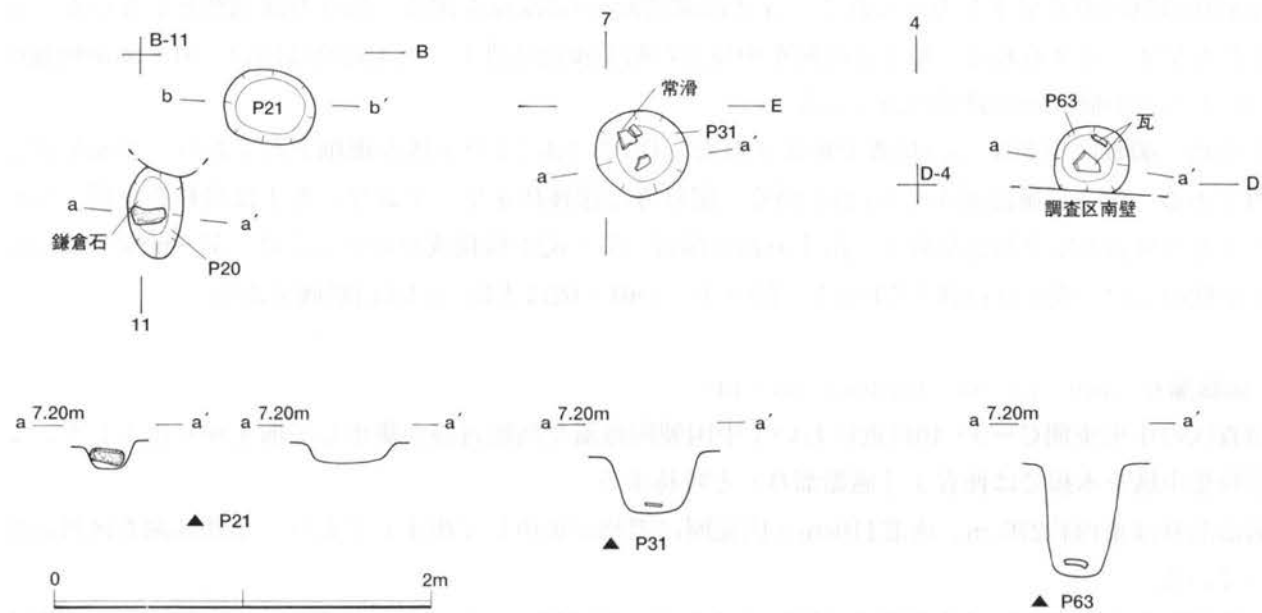
調査区の中央東側Ｃ－9・10付近において中国製陶磁器や高麗青磁が集中して面上から出土した。この遺物集中域を本稿では便宜上「磁器溜り」と呼称する。

磁器溜りは東西約270cm、南北110cmと広範囲に遺物が集中して出土しており、東側は調査区外に拡がっている。

磁器溜り出土の遺物には龍泉窯系青磁碗や酒会壷、折縁皿、白磁口兀皿、水注、青白磁梅瓶、高麗青



▲ P3・5～7・11～14・16・25・27・29



▲ P21　▲ P31　▲ P63

図14　柱穴3・5～7・11～14・16・20・21・25・27・29・31・63

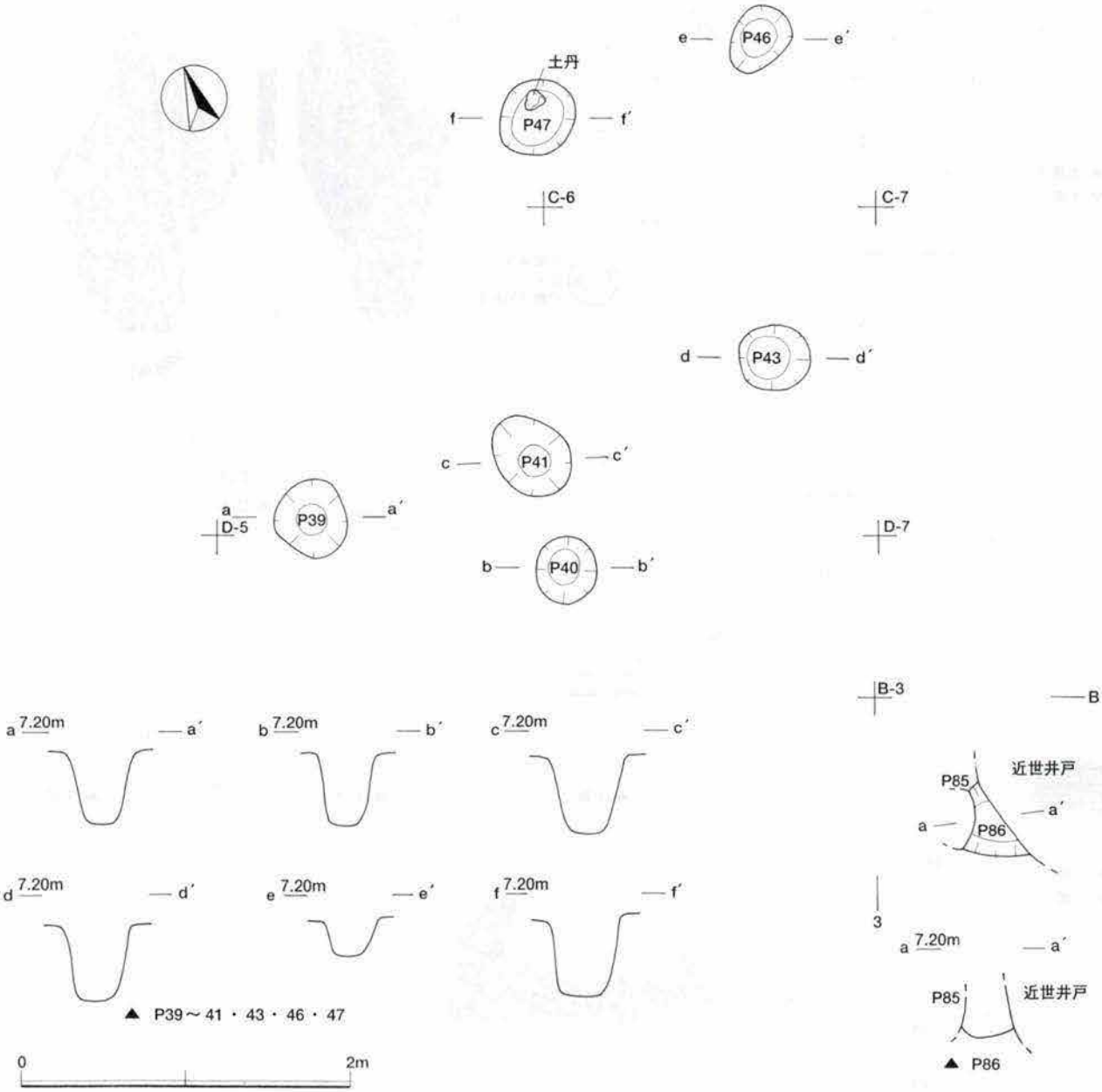


図15　柱穴39～41・43・46・47・86

磁、吉州窯系碗、中国製緑釉盤など多種にわたる中国産陶磁器、高麗産磁器が出土しており、今小路西遺跡御成小学校内や千葉地遺跡から出土した陶磁器類にも器種の面では引けをとらない。またこれら出土した遺物の多くは被熱により爆ぜた痕跡があり、火災などの現象を表すものと想像され当面の焦土硬化面と何らかの密接な関係があると思われる。

出土遺物は図18－１～9が龍泉窯系青磁である。1・2は鎬蓮弁文碗、3は輪花文碗、4・5は劃花文碗、6は無文碗である。7が双魚文皿、8が折縁皿、9が酒会壷である。10・11は白磁。10は口兀皿、11は瓜型水注である。12～18は青白磁。12～15は梅瓶、16・17は器台の一部と考えられる小片である。19は吉州窯系碗、20～23は中国産緑釉陶器の盤でこの4片は同一固体の可能性が高い。24が轆轤成形の白かわらけ、25・26は硯であり、25は四葉硯。27が黒色の石製碁石、28・29が鉄製釘、30～32が銅銭である。30は「元符通寶」（北宋　初鋳1098年）、31は「開元通寶」（唐　初鋳621年）、32は「咸平元寶」（北宋　初鋳998年）。33は高麗青磁瓶子である。外面には白色・黒色の象嵌で肩部に如意頭文、体部に雲鶴文・丸に牡丹文、体部下方に蓮弁文を配す。尚第1面土壙4から出土した高麗青磁梅瓶口縁部は当磁器溜りから出土したものと同一固体と断定できるものであった為こちらに図示した。

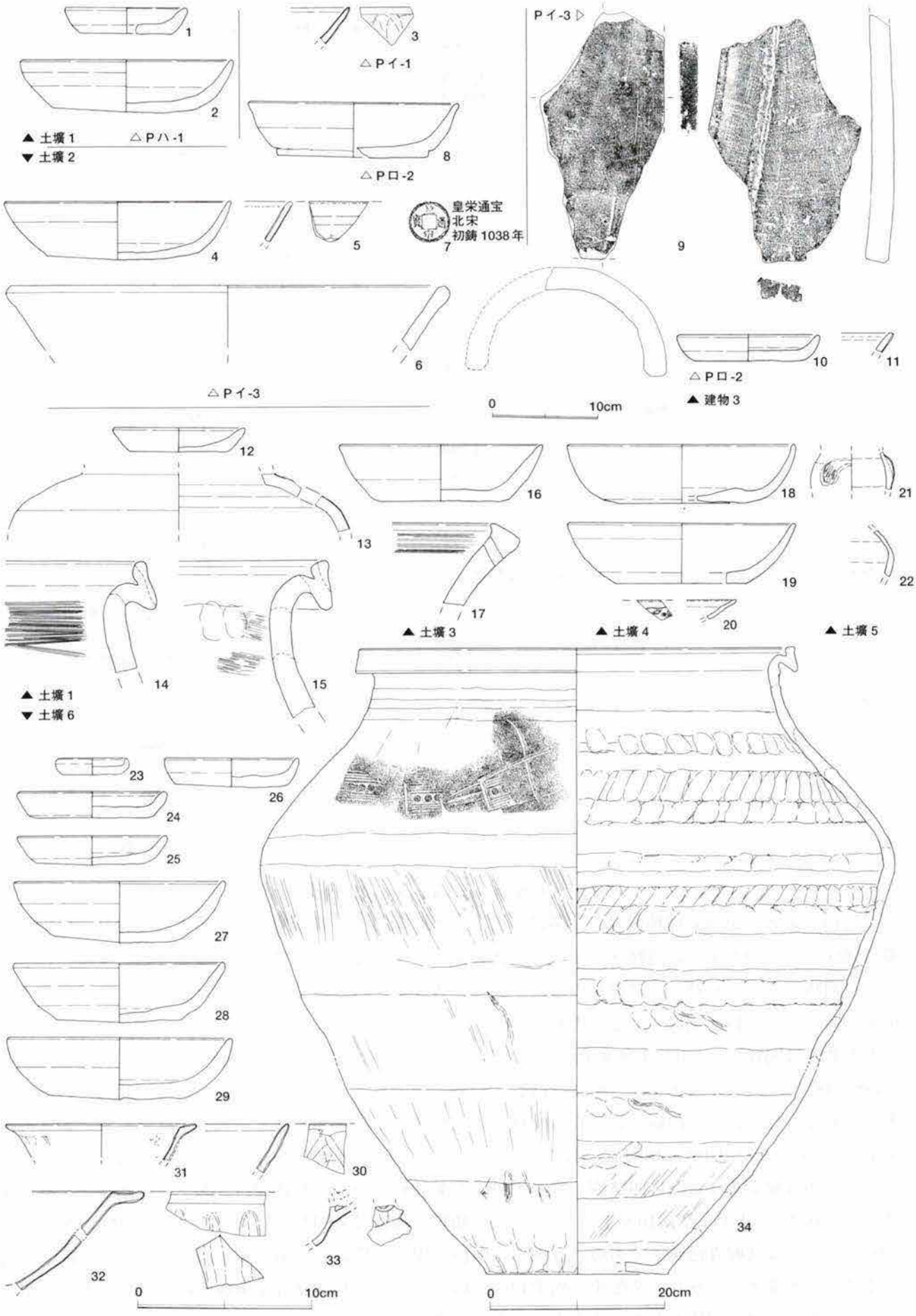


図16　建物・土壙出土遺物（1）

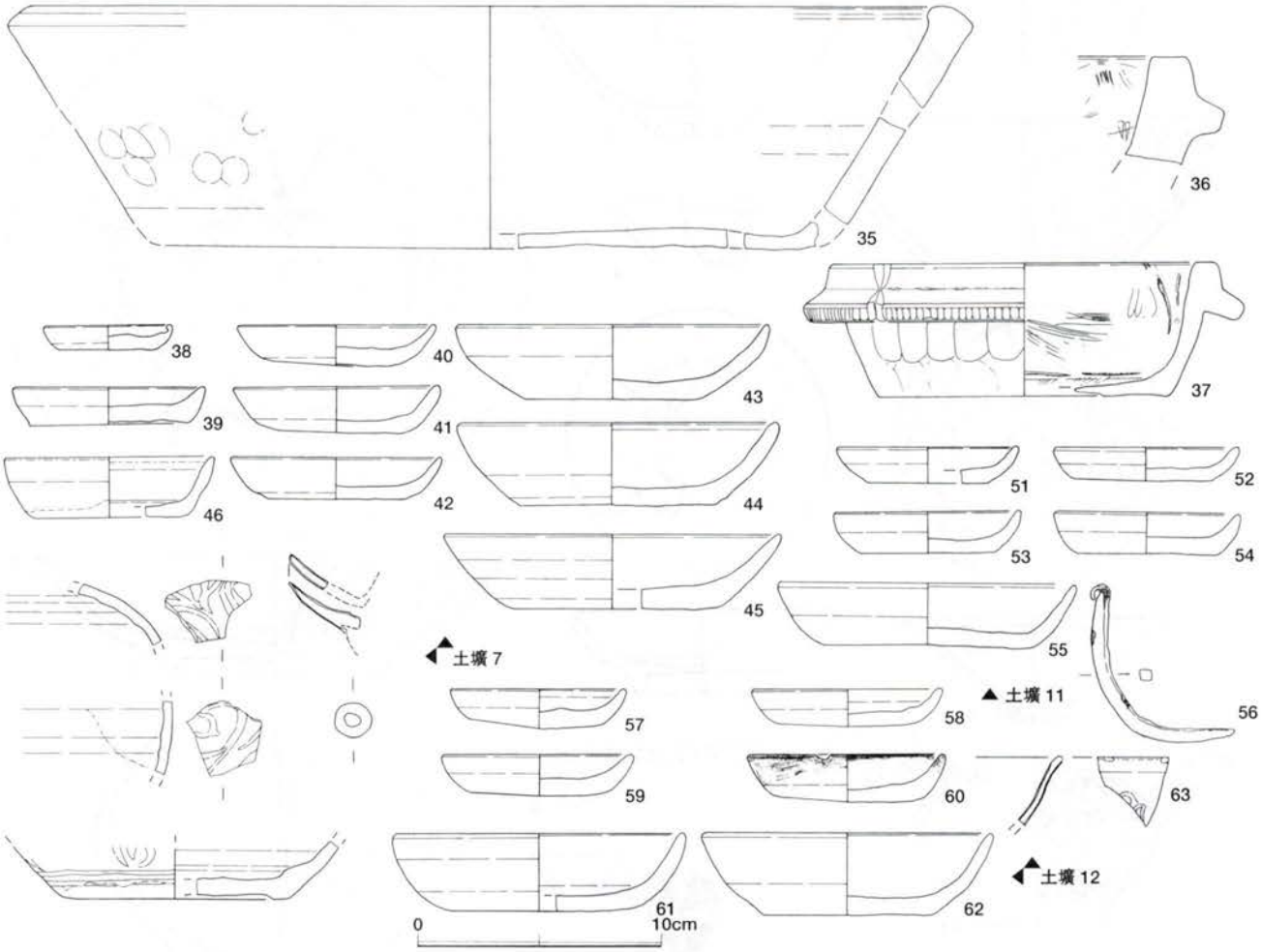


図17　土壙出土遺物（2）

D・柱穴（図9・14・15・20、図版2・4・14）

検出した各柱穴（ピット）は建物1～3を構成するもの以外、掘立柱建物を構成するような配置は認められなかった。各掘り方は平面形状が楕円形または不整円形を呈しており、規模は径23～62cm、確認面から11～62cmである。以下、図20－1～52に示した柱穴出土の遺物について簡単に触れる事とする。1は龍泉窯系青磁鎬連弁文碗、P2より出土。2は青白磁蓋、P5より出土。3は北部系山茶碗、4は土器質火鉢。共にP7より出土。5は轆轤成形のかわらけ大皿、6は黒の石製碁石。共にP11より出土。7・8は轆轤成形のかわらけで7は小皿、8は大皿である。9は常滑窯製品捏鉢Ⅱ類。7～9は共にP12より出土。10は轆轤成形の小皿でP13より出土。11は龍泉窯系青磁折縁皿でP14より出土。12・13は轆轤成形のかわらけ。12は極小、13は小皿である。12はP16より、13はP19より出土。14は常滑窯製品Ⅱ類捏鉢でP19より出土。15は銅銭「元祐通寶」（北宋　初鋳1086年）でP20より出土。16は轆轤成形のかわらけ小皿、P21より出土。17は白磁口兀皿、P25より出土。18は女瓦で古代に属するものである。P28より出土。19・20は轆轤成形のかわらけ小皿で共にP29より出土。21は火打ち石で石材はチャートである。P34より出土。22は瀬戸窯製品碗でP39より出土。23は龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗、24は青白磁合子、25は備前窯製品擂鉢で、3点共にP43より出土。26は常滑窯製品。類捏鉢でP44より出土。27は銅銭「熙寧元寶」（北宋　初鋳1068年）でP45より出土。28は轆轤成形のかわらけ大皿、29は舶載陶器甕で共にP46より出土。30は白磁口兀皿、31は瀬戸窯製品折腰皿、32は楠葉式瓦器碗で3点共にP47より出土。33・34は轆轤成形のかわらけ小皿、共にP48より出土。35は青白磁水注の注口部でP54より出土。36は瀬戸窯製品

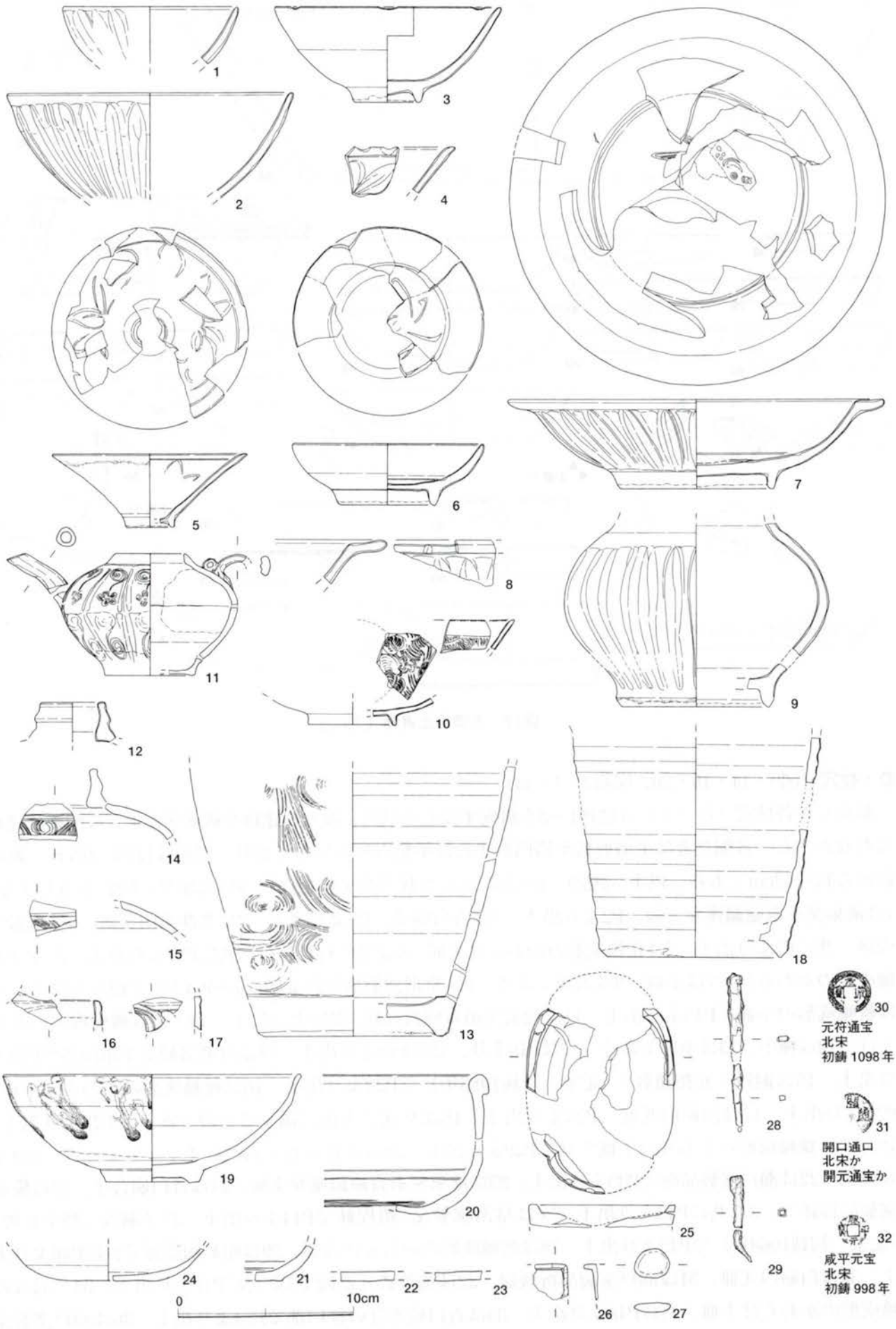


図18　磁器溜り出土遺物（1）

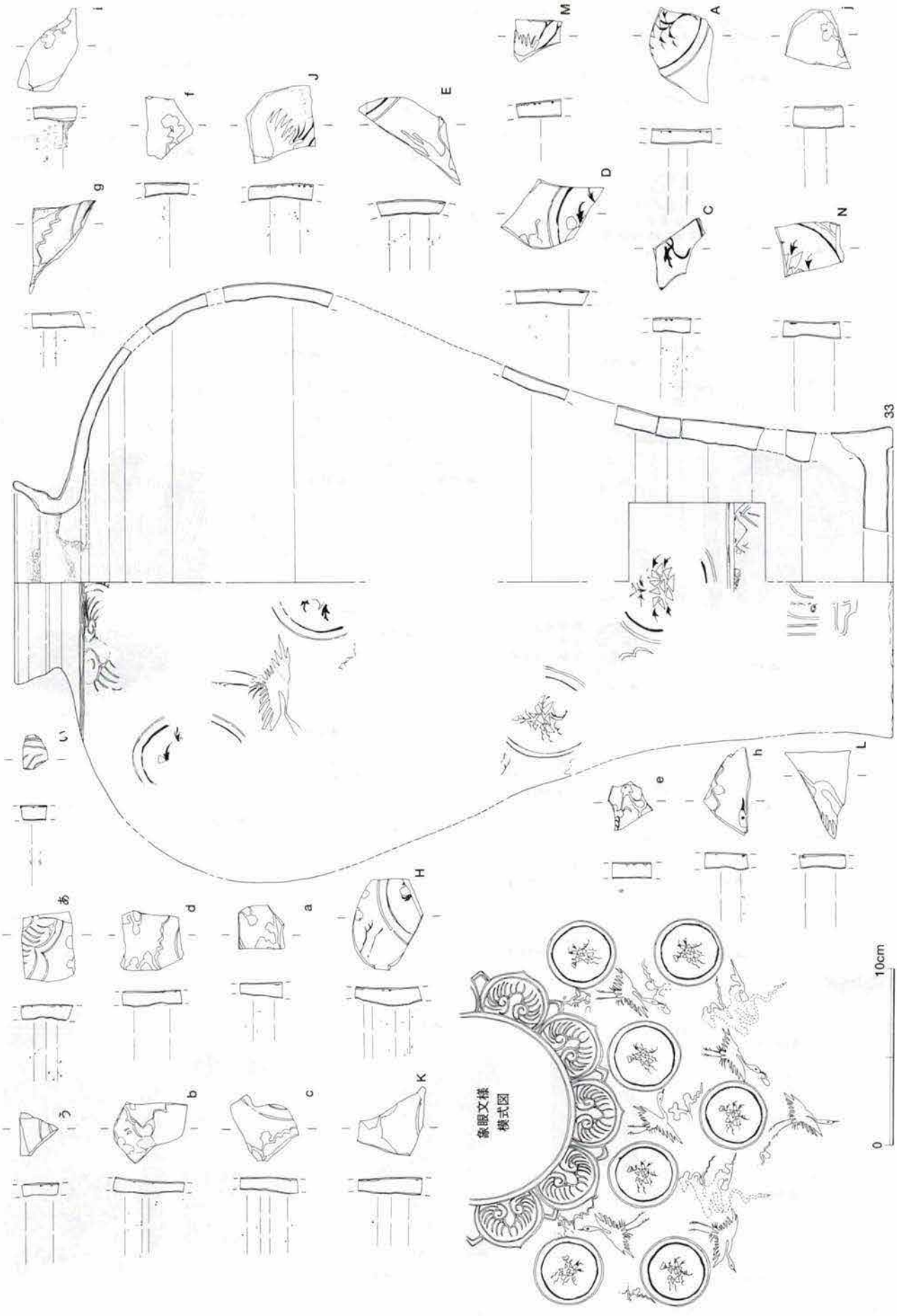


図19　磁器溜り出土遺物（２）

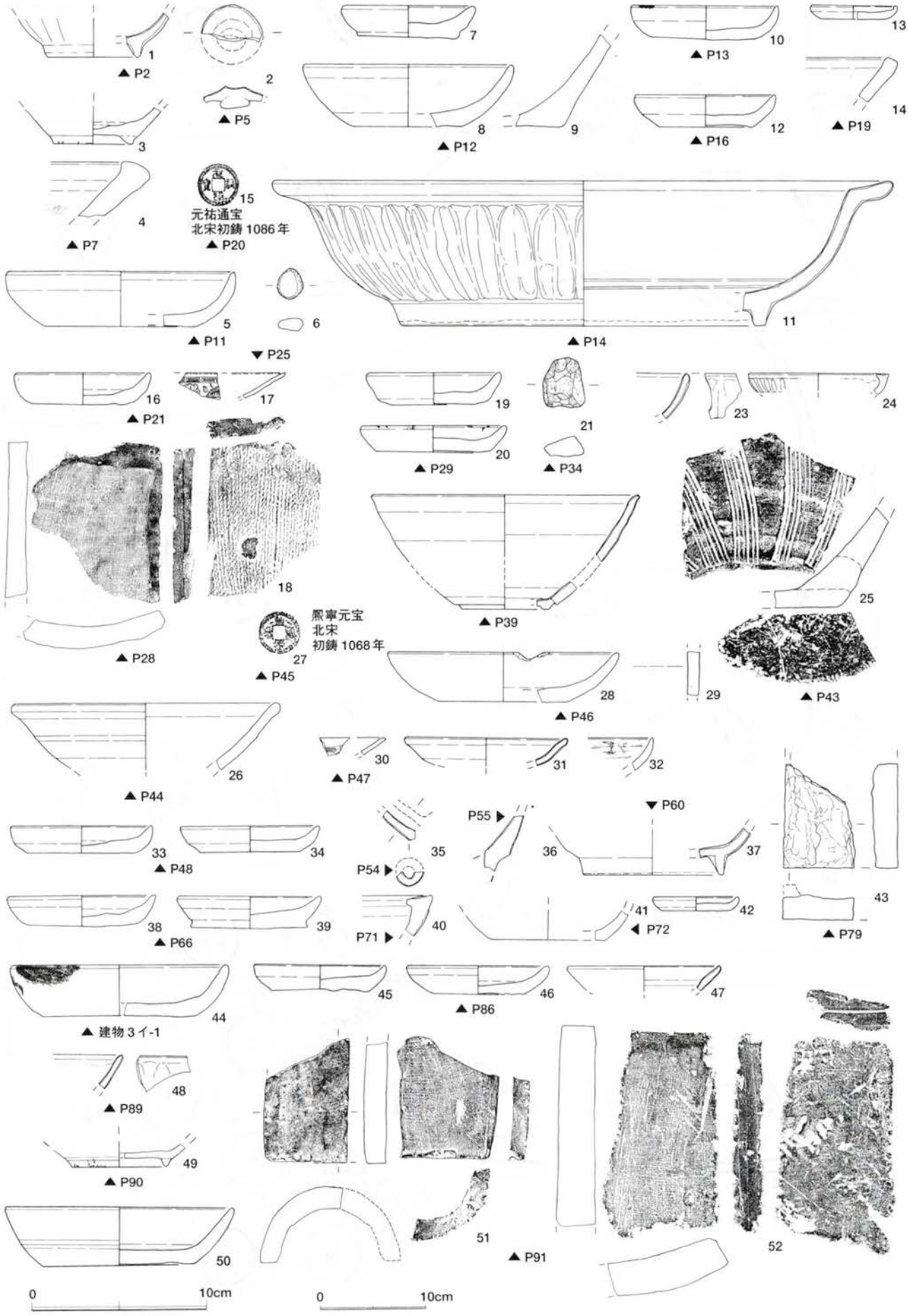

▲ P2
▲ P5
▲ P7
元祐通宝
北宋初鋳 1086年
▲ P20
▲ P11
▼ P25
▲ P12
▲ P13
▲ P16
▲ P19
▲ P14
▲ P21
▲ P29
▲ P34
▲ P28
熙寧元宝
北宋
初鋳 1068年
▲ P45
▲ P39
▲ P46
▲ P43
▲ P44
▲ P47
▲ P48
P55 ▶
▼ P60
P54 ▶
P71 ▶
◀ P72
▲ P79
▲ 建物３イ-1
▲ P86
▲ P89
▲ P90
▲ P91
0
10cm
0
10cm

図20　柱穴出土遺物

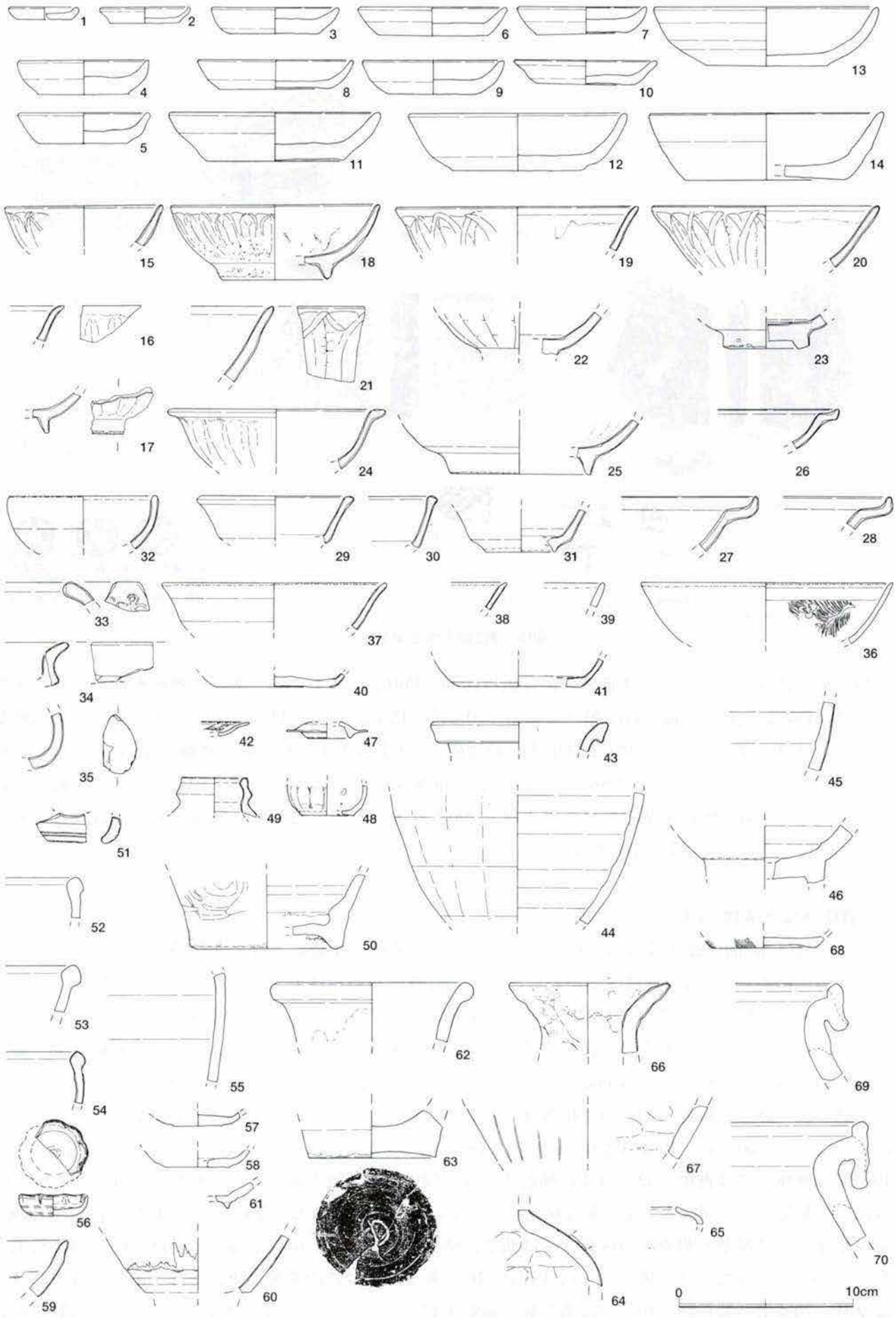


図21　第2面上出土遺物（1）

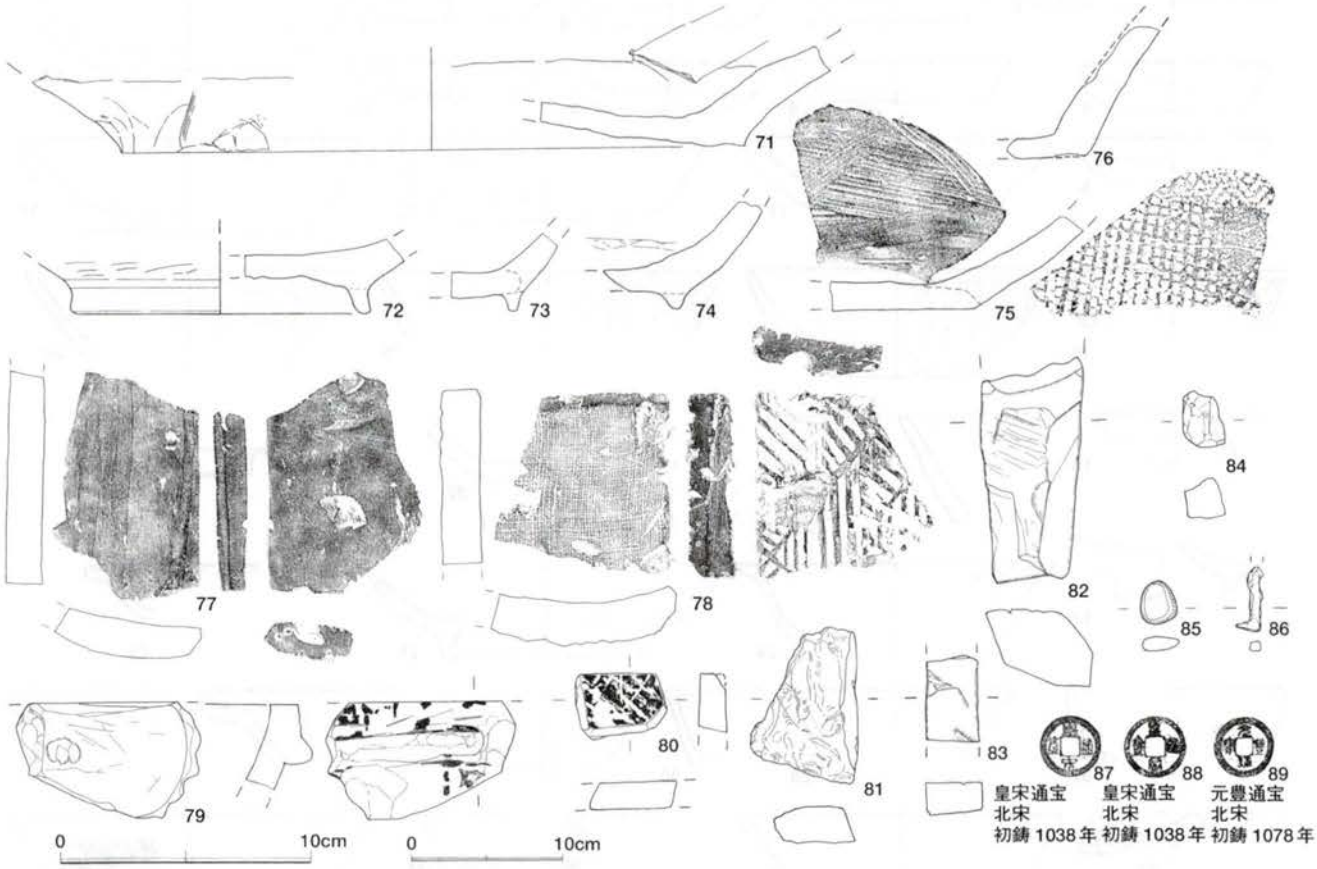


図22　第2面上出土遺物（2）

天目茶碗でP55より出土。37は龍泉窯系青磁折縁皿でP60より出土。38・39は轆轤成形のかわらけ小皿で、共にP66より出土。40・41は瀬戸窯製品。40は洗でP71より、41は折縁皿でP72より出土。42は轆轤成形コースター型かわらけでP76より出土。43は硯、P79より出土。45・46は轆轤成型のかわらけ小皿、47は同安窯系青磁皿で3点共にP86より出土。48は龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗、49は北部系山茶碗で共にP89より出土。50は轆轤成型のかわらけ大皿でP90より出土。51・52は瓦。51は男瓦、52は女瓦で共に古代に属すものである。P91より出土。

E・遺構外出土遺物（図21・22、図版14）

ここでは、第2面の面上及び包含層に伴って出土したもので遺構に共伴しない遺物を一括して述べる事にする。図21－1～14は轆轤成型かわらけ。1・2は極小かわらけで、2は器壁が薄く、外反する。3～10はかわらけ小皿で、底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるものとやや内湾し立ち上がるものに二分される。11～14はかわらけ大皿である。15～55は舶載陶磁器で、15～35は龍泉窯系青磁。36～48が白磁、49～51が青白磁、52～55が陶器である。15・17～22は鎬蓮弁文碗、16は端反碗、23は碗、24は鉢、25は皿、26～28は折縁皿、29～31は折腰鉢、32は天目台、33は水注、34は香炉、35は袋物と思われる体部小片である。36～40・46は口兀皿、41は口兀碗、42～45は四耳壺、47は水注蓋、48は瓜型小壺である。49・50は梅瓶、51は香炉。52～54は緑釉盤で、同一個体の可能性がある。55は褐釉壺。56～60・62～68は瀬戸窯製品。56～58は入子で、56は輪花になっている。59・60は天目茶碗、62・64は四耳壺、63は壺、65は小壺、66は器型不明袋物口縁部、67は瓶子、68は香炉である。61は北部系山茶碗。69～74は常滑窯製品。69・70・図22－71は甕、72～74は捏鉢。類である。75は亀山窯製品甕、76は土器質火鉢、77・78は女瓦、79は滑石製石鍋、80・81は滑石製石鍋転用製品、82・83は砥石、84は火打石、85は石製黒色碁

石、86は鉄製品で鎹か。87～89は銅銭。87・88は「皇宋通寶」（北宋　初鋳1038年）、89は「元豊通寶」（北宋　初鋳1078年）である。

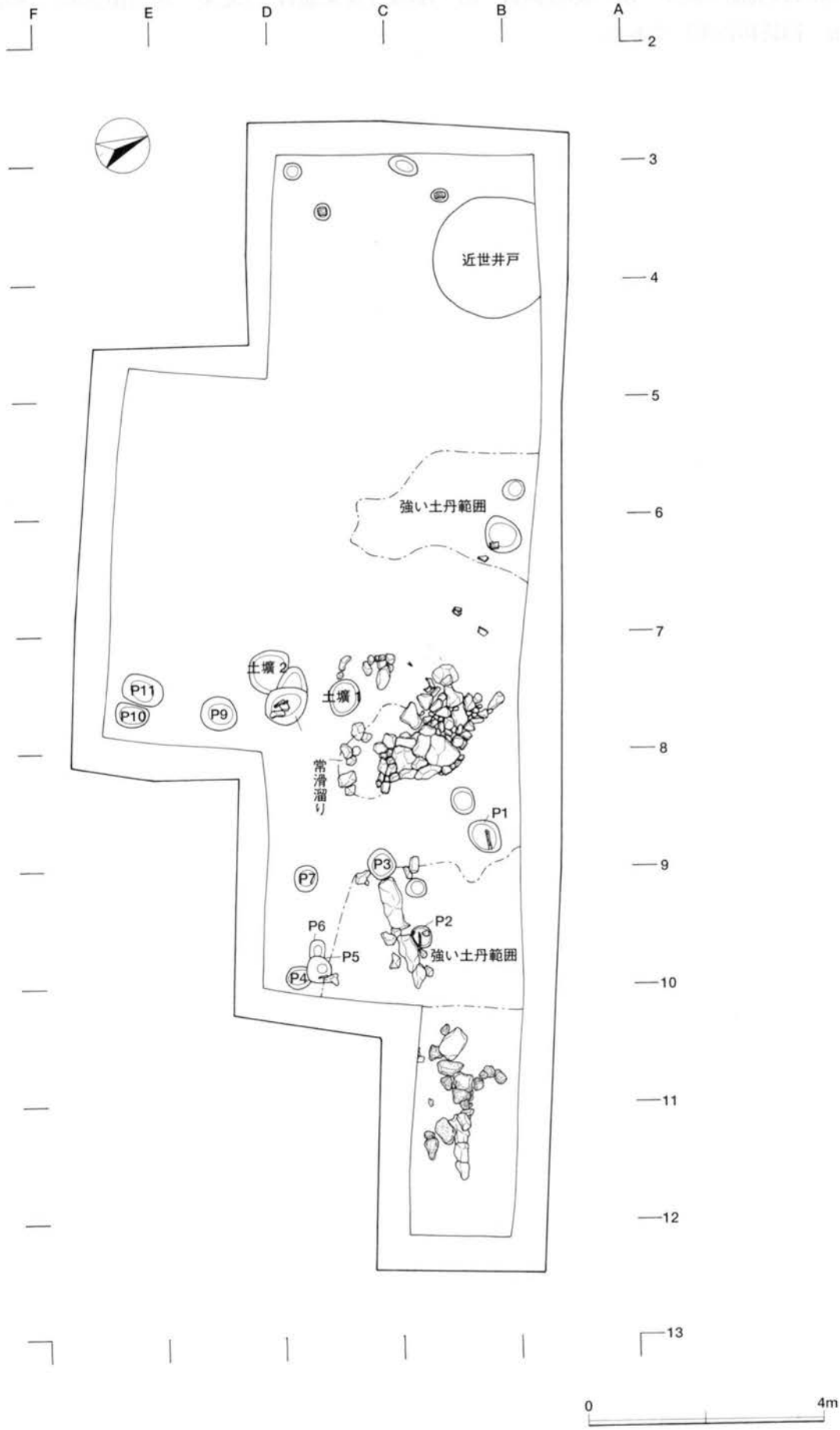

F
E
D
C
B
A
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
近世井戸
強い土丹範囲
土壙2
土壙1
P11
P10
P9
常滑溜り
P1
P3
P7
P6
P2
P5
P4
強い土丹範囲
0
4m

図23　第3a面全測図

F
E
D
C
B
A
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
P43
P27
近世井戸
P21
P59
P19
P16
P18
土壙 5
P58
P49
P17
P34
土壙 7
池 2
P48
池 3
P40
土壙 4
0
4m

図24　第3b面全測図

3．第3a面の遺構・遺物

現地表下205～220ｃｍ、海抜高6.90ｍ前後にていわゆる中世地山である黒褐色粘質土を基盤とする生活面を検出した。この面で検出された遺構は、土壙2基、柱穴19口である。またグリットC－8周辺から常滑窯製品の一括廃棄の跡、通称「常滑溜り」が検出された。主な出土遺物は、かわらけ、中国産陶磁器、瀬戸窯及び常滑窯等の国産陶器、瓦、石製品、金属製品などがある。

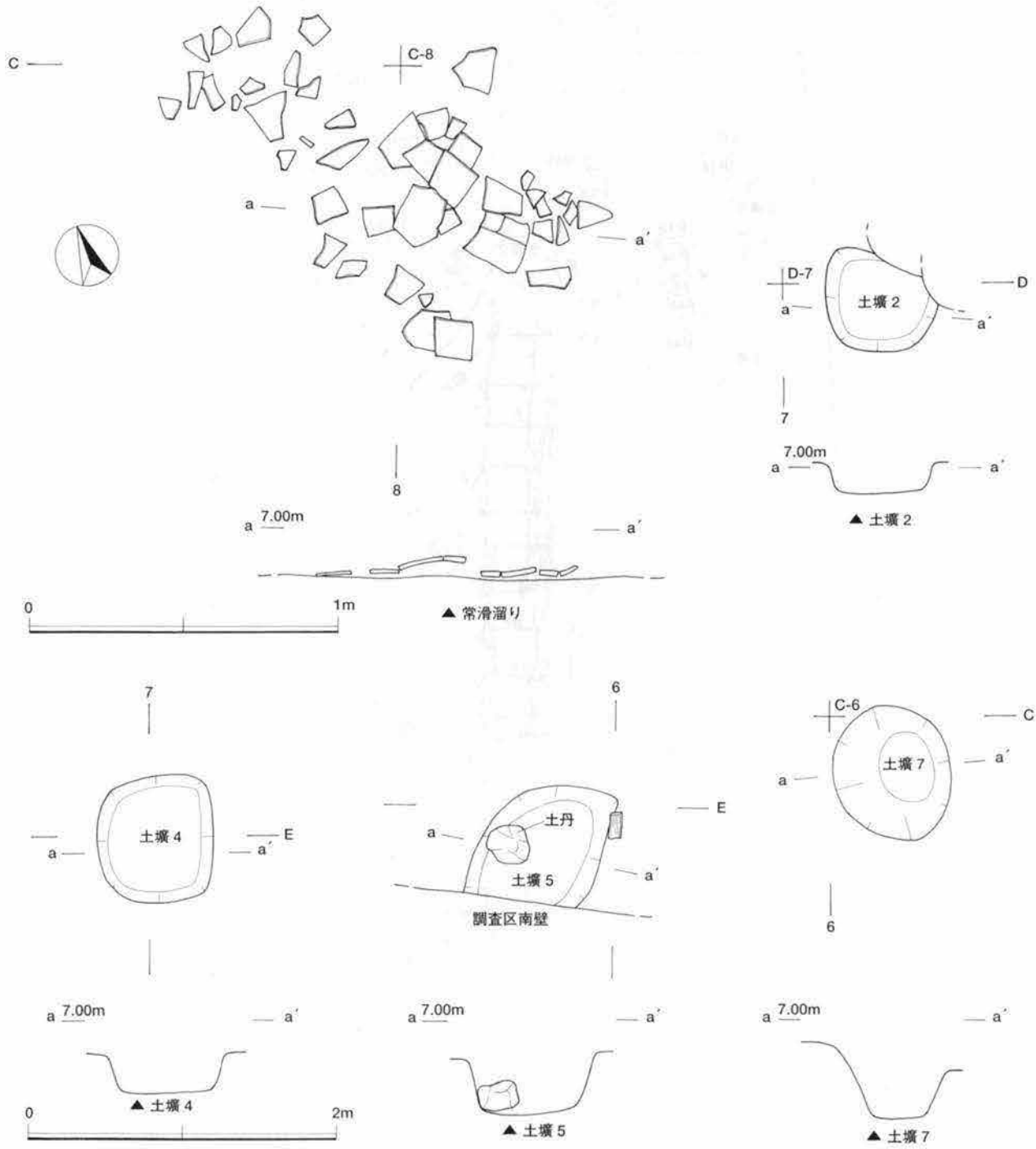


図25　第3a面上常滑溜り・第3a面土壙2・第3b面土壙4・5・7

A・土壙（図23・25・30・63・64、図版5・15）

土壙1： C－8の南西、常滑溜りの西側から検出された。平面形状は楕円形を呈し、規模は南北径60cm、東西径は50cm、確認面からは5cmの深さを測る。掘り方は断面が皿状を呈しており、覆土は土丹粒を少量含む暗茶褐色粘質土。

出土遺物は図30－1が轆轤成形のかわらけ大皿である

土壙2：D－7の位置で検出された。当遺構東側は柱穴により削平を受けている。平面形状は楕円形を呈し、規模は南北径の確認範囲で72cm、確認面からは19cmの深さを測る。掘り方は鉢状を呈しており、覆土は土丹粒を少量含む暗茶褐色粘質土。出土遺物は図30－2が手捏ねかわらけ小皿、3は青白磁子持ち合子であり、子器は復元により3器あると考えられる。4は男瓦である。

B・常滑溜り（図23・25、図版5）

グリットC－8周辺に面上から常滑窯製品の一括廃棄された跡が検出された。範囲はC－8杭を中心に東西295cm、南北212cmに及ぶ。出土した陶片の多くは接合できたが、肩部や胴部であったために図示できるものはなかった。

C・柱穴（図23・30、図版5・15）

柱穴は19口検出されたが、掘立柱建物を構成するような配置は認められなかった。各掘り方は平面形状が楕円形または不整円形を呈しており、規模は径33～63cm、確認面から10～65cmである。以下、図30－5～25に示した柱穴出土の遺物について簡単に触れる事とする。5は轆轤成型のかわらけ小皿でP3より出土。6は轆轤成型のかわらけ小皿、7は轆轤成型の白かわらけ大皿、8は龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗、9・10は女瓦でP5から出土。11・12は轆轤成型のかわらけ小皿、13は男瓦、14は女瓦でP6より出土。15は轆轤成形のかわらけ小皿でP7より出土。16は轆轤成形のかわらけ小皿、17は手捏ねの白かわらけ小皿、18・19は女瓦でP8より出土。20～23は女瓦で20はP9より、21～23はP10より出土している。24は手捏ねかわらけ小皿、25は女瓦で共にP12より出土。

D・遺構外出土遺物（図63・64、図版23）

ここでは、第3a面の面上及び包含層に伴って出土したもので遺構に共伴しない遺物を一括して述べる事にする。図63－1～15は轆轤成型のかわらけである。1～12が小皿、13～15が大皿である。16は轆轤成形の白かわらけ大皿、17～29は龍泉窯系青磁。17～21は鎬蓮弁文碗、22は劃花文碗、23～26は折縁皿、27は折腰皿、28は花瓶、29は香炉である。30～34は白磁。30～33は口兀皿。32には口縁露胎部に煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。34は合子。35～38は青白磁。35は花瓶、36は梅瓶、37は水注、38は台付小瓶。39～44は舶載陶器。39～41は緑釉盤で、内底面に筋彫が施されている。42～44は褐釉甕である。45は瀬戸窯製品底卸皿。47～52は常滑窯製品。47～49は捏鉢。類、50は無首壺、51・52は甕。53・54は瓦器碗。53は楠葉式で外面に篦状工具を押し当て輪花状にしている。55・56は土器質火鉢、図64－57～63は女瓦、64～66は硯。64は滑石製石鍋を温石に転用し、さらに硯として再転用している。65・66は長方硯で、65は隅に波頭文を線掘りし、内側は四葉状になり、66は隅に簡易な波頭文を線彫りし、内側は楕円状になる。67・68は滑石製石鍋転用温石、69～74は銅銭。69・72は「熙寧通寶」（北宋　初鋳1068年）、70は「開元通寶」（唐　初鋳621年）、71は「嘉祐通寶」（北宋　初鋳1111年）である。

4. 第3b面の遺構・遺物

3a面の調査を終え、土丹塊を取り除いた直下にて3㎝前後の小土丹塊と暗茶褐色粘質土を基盤とする地業層の第3b面を検出した。現地表下215～230cm、海抜高6.80m前後を測る。この面で検出された遺構は、池、土壙8基、柱穴73口である。主な出土遺物は、かわらけ、中国産陶磁器、瀬戸窯及び常滑窯等の国産陶器、瓦、石製品、金属製品、木製品などがある。

A・池（図24・26～28・33～62・65、図版6～9・11・16～22）

池3

グリット：調査区中央～東側に位置し、B～C－6～12

確認標高：6.80m前後

確認範囲：東西11.24m　南北3.10m

深　　さ：65cm前後

概　　要：第3a面の生活面を除去し第3b面を検出した際、調査区中央～東側にかけて広範囲で暗茶褐色粘質土が検出された。この粘質土を遺構の覆土と推定し、確認調査を行ったところ、グリットCライン上で控え柱を持つ木組みの土留めを検出し、また東幅においては土層堆積から覆土の立ち上がりが確認できた為、当遺構を池と判断した。

構　　造：当遺構の範囲として南限は木組みの土留め、東限及び西限は杭を打ち込み横板を添えるだけの簡易な木組みが一部残るが、北限に関しては調査区外に拡がっているために確認はできなかった。南限の木組みの土留めは、長さ95cm、幅10cm、厚さ5cmほどの束柱を60～70cm間隔で打ち込み、また束柱の後方75cmのあたりに、一辺5cmほどの杭を91～106cm間隔に打ち込んでいる。横板は束柱の内側から土留めの為に厚さ3cmほどの板を押し並べており、横板を一枚入れるごとに土で埋めていっている。さらにこれらの横板が移動しないよう下から四段目の横板を貫通するよう束柱と杭を繋ぎ止める幅8㎝、厚さ4cmほどの控材を通し、また控材と杭が抜け落ちないように杭の内側から仕手組み横桟と控材を連結しており、束柱が土圧で倒れないようにしている。さらに横桟に穴を開け横位に楔状の角材を咬ませている。（図27参照のこと）

若宮大路周辺からは、しばしば中世若宮大路の側溝が検出される事例があるが、この池の南限を示す木組みの土留めは若宮大路の側溝とは性格や組み方は異なるが木組み自体はその精巧さにおいて肩を並べるといっても過言ではあるまい。また、若宮大路が公的なもの、今回検出された池が私的なものと考えるならば、当池を建設した施主の力を窺い知る事が出来る。1978年に伝安達泰盛邸跡を発掘調査した際、木組みの板垣状の遺構が検出されているが、今回検出されたものほど精巧には作られていない。無論先の遺構が安達泰盛邸であった確証は何一つなく、また同じ性格の遺構でないことから考えると比較するには多少なりとも無理があるかもしれないが、同じ私的な意味を持つ遺構という点で、ある程度の指標にはなるであろう。また、南側のみにこのような木組みを作る必要があるとするのであれば、この池の南側には東側及び西側より強い土圧がかかっていたと考えられ、大型の礎石建物が存在していた可能性もある。

出土遺物は遺構内から多量に出土している為、上層・中層・下層及び中層に属すが遺物を一括廃棄したと考えられる北東隅（北東遺物溜り）の4箇所、ならびに裏込めを含めた計5箇所を別々に報告する事にする。また当遺構から出土したかわらけは大きく三つの種類(A～C類)に分ける事ができる。（図58参照のこと）以下では各種別の成形及び整形技法の特徴を述べる事とし、本報告書では便宜上この分類名称を用いる事とする。

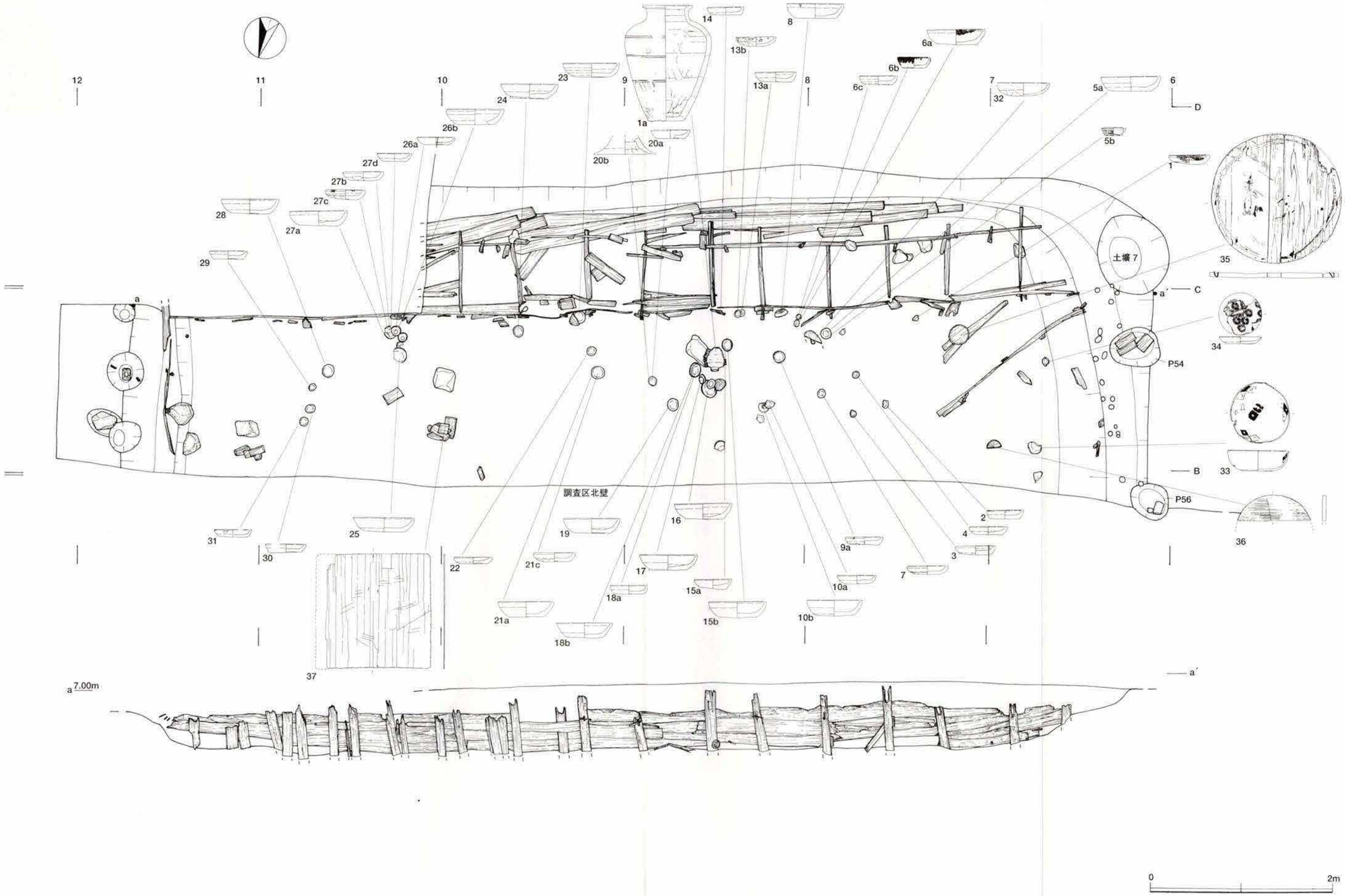
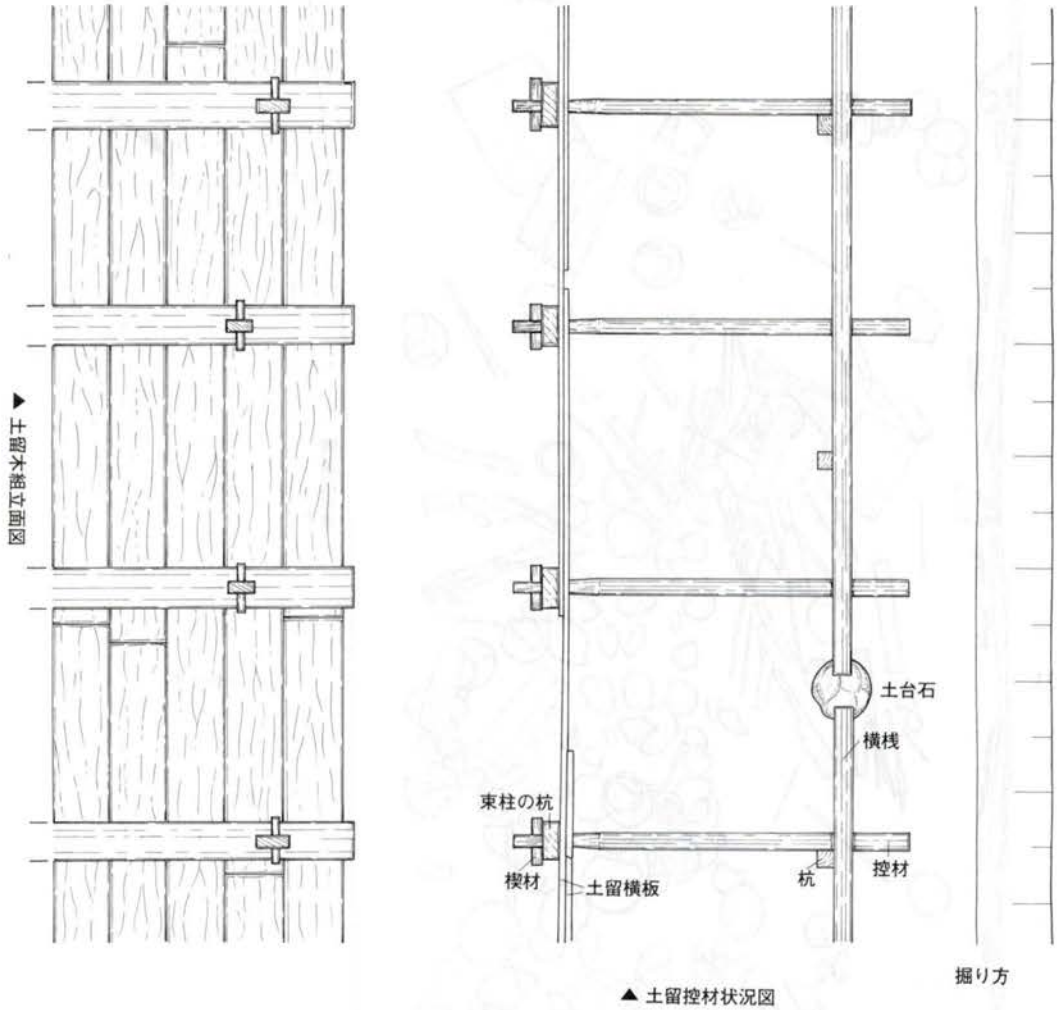
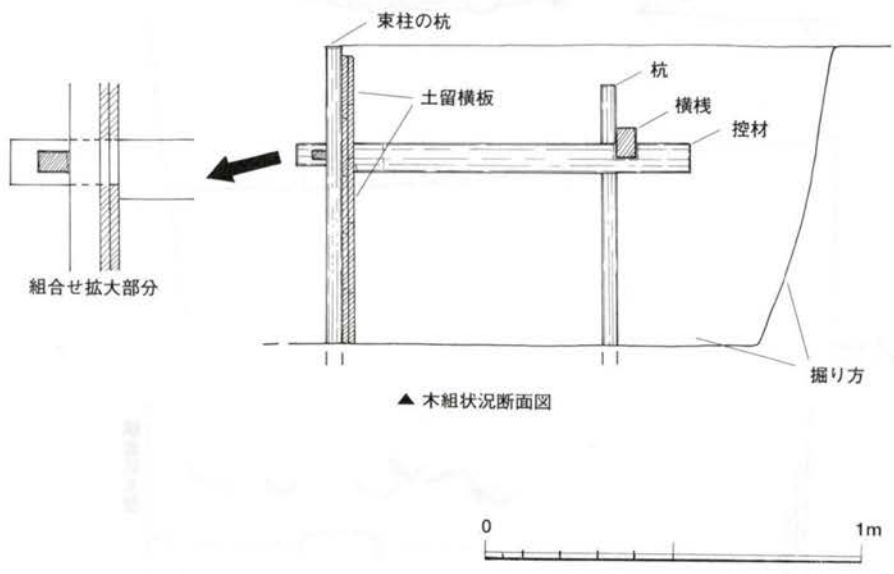


図26　池3



▲ 土留控材状況図



▲ 木組状況断面図

図27　池3木組模式図

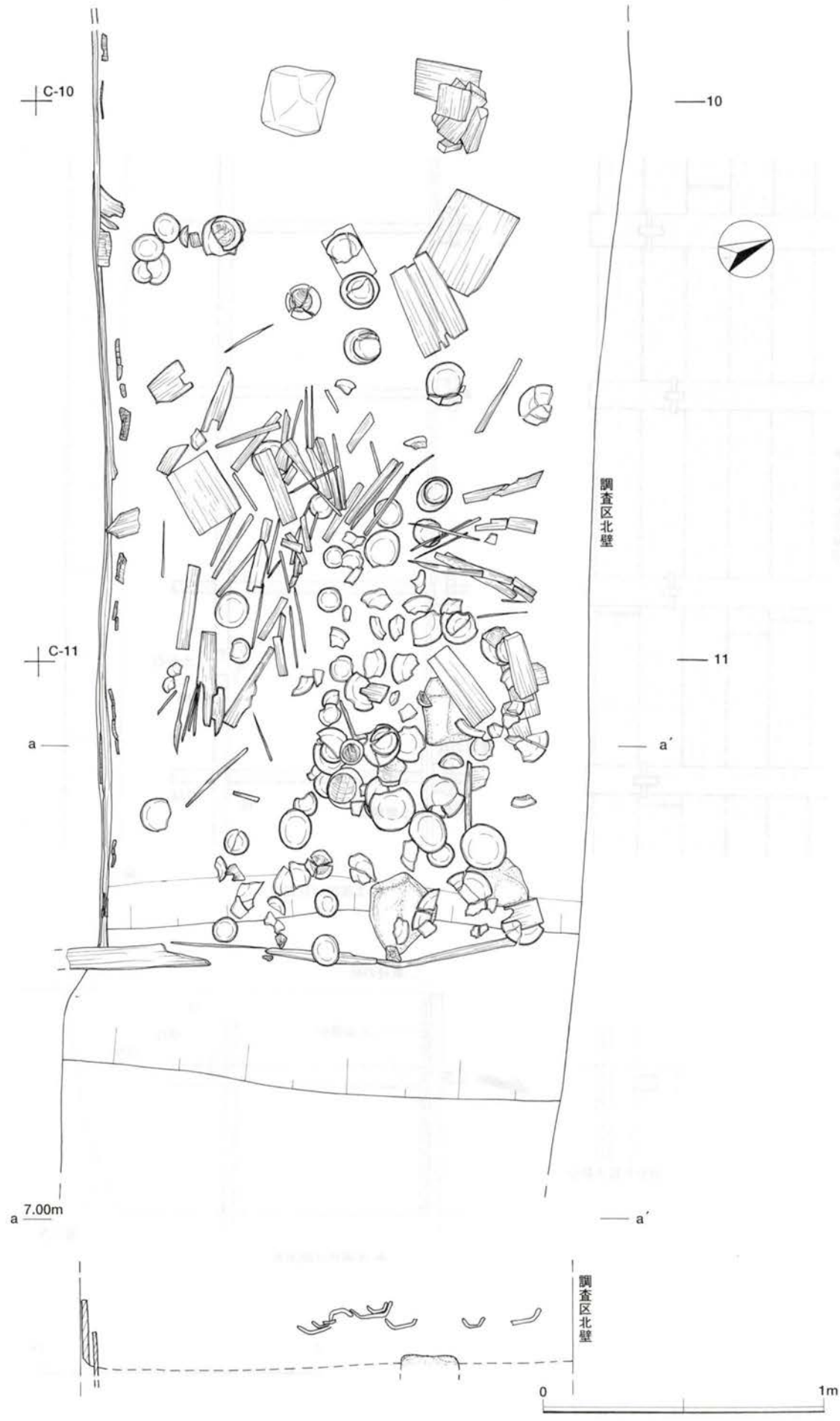


図28　池3北東遺物溜り

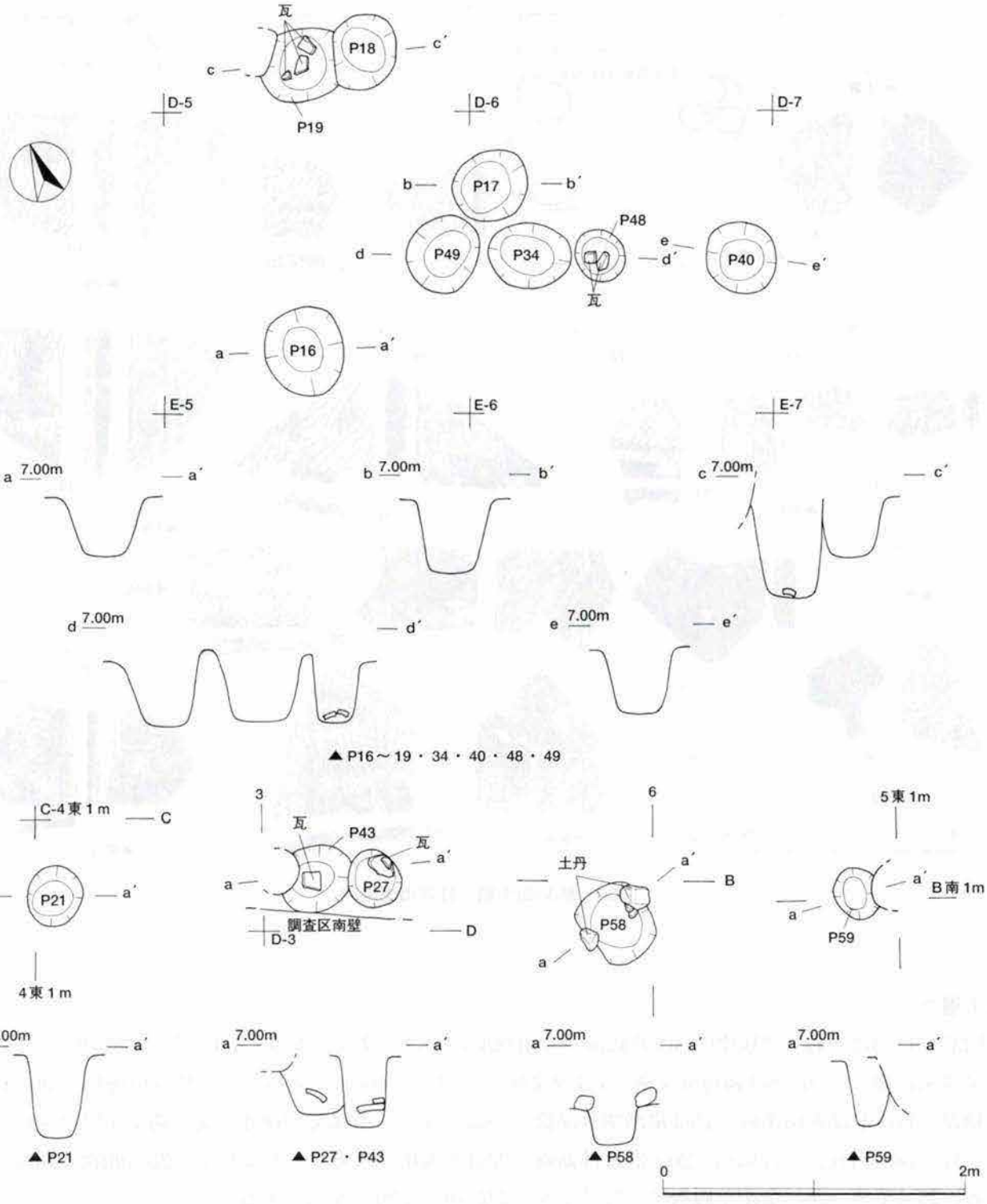


図29　柱穴16～19・21・27・34・40・43・48・49・58・59

A類：轆轤成型で、器壁は薄く仕上げられている。外底面には糸切り痕を残すがスノコ痕を残さず内底面にはナデを施さず未調整で中央部が凹状に窪むものが多い。胎土は非常に精良で、焼成も良く、叩くと高音を発する。器種には大皿(A1類)・中皿(A2類)・小皿(A3類)がある。

B類：いわゆる鎌倉を発掘すると出土するオーソドックスな轆轤成型のかわらけである。便宜上、大皿をB1類、小皿をB3類とする。

C類：いわゆる手捏ねかわらけである。便宜上、大皿をC1類、小皿をC3類とする。

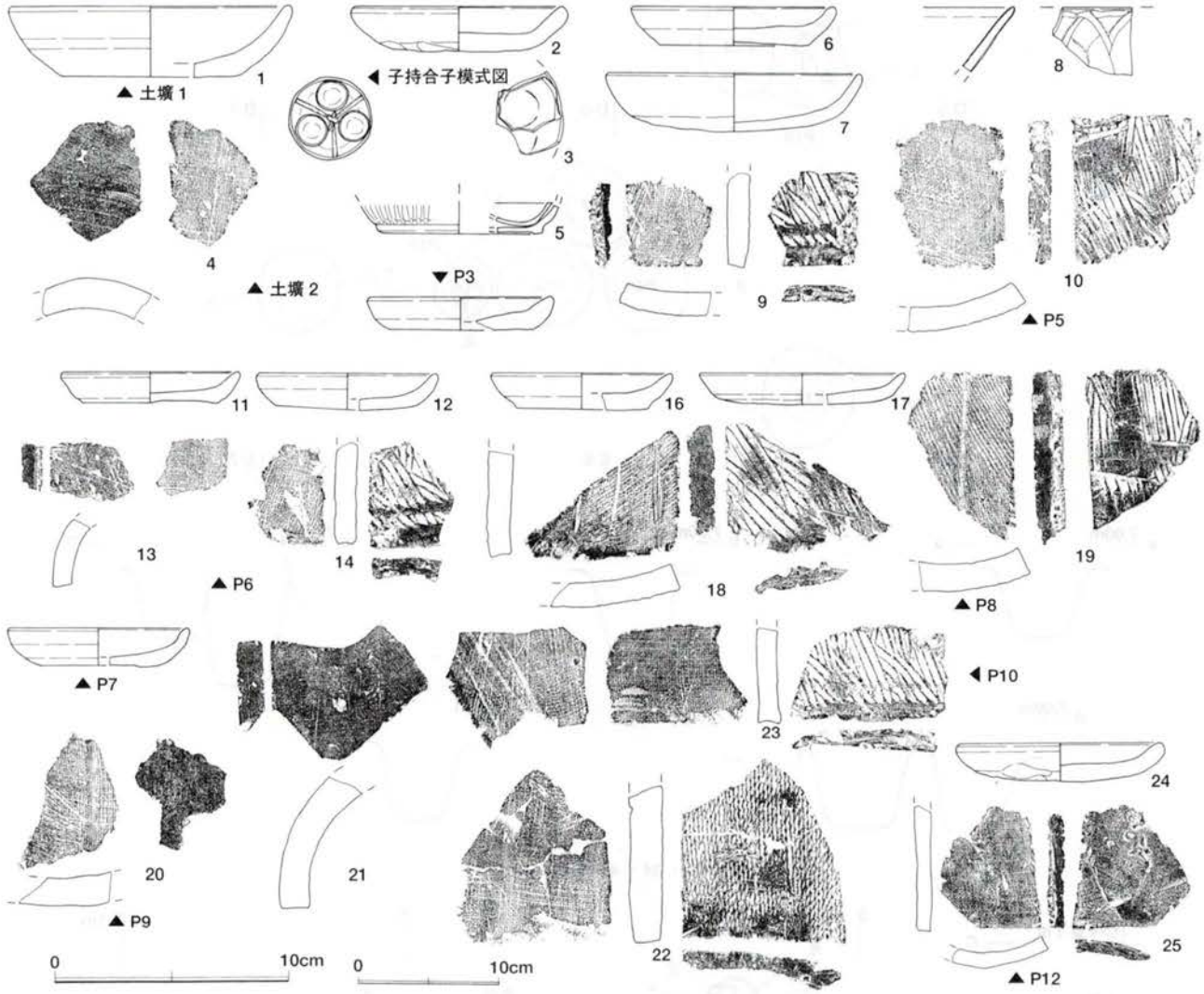


図30　第3a面土壙・柱穴出土遺物

＜上層＞

図33－1～3はかわらけB3類。3は外底面から内底面に向けて穿孔がある。4はかわらけC3類。5～10は龍泉窯系青磁。5・6・8は鎬蓮弁文碗、7は無文碗、9・10は折縁皿である。11・12は白磁口兀皿、13は褐釉壺、14は北部系山茶碗、15は常滑窯製品甕。16は宇瓦、三重孤文型挽き施文で鍔部を貼り付けている。17・18は男瓦、19は砥石、20・21は漆器碗、22は呪術用具と考えられる杓子、23は曲物、図34－24は箸、25は菜箸、26は金剛草履板芯、27は下駄、28は用途不明木製品である。

＜中層＞

図35－1～11は、かわらけA3類、12はA3 類より大きくA2類より小さい為どちらに所属させるかは難しい。13はA2類、14～23はA1類である。24～118はB3類、図36・37はB1類、図38－184～195はC3類。196は穿孔かわらけで、内底面から外底面に向かって穴が穿かれているが貫通はしていない。B1類。197はA類に分類される内折れ極小かわらけ、198は特大かわらけ。胎土は多くのB類と同様黒色微砂、赤色粒、白針、土丹粒を含む粗土。199～201は手捏ねの白かわらけである。202～205は龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗、206は吉備系土師器碗、207・208は舶載褐釉陶器甕、209は山茶碗、図38－210～215は常滑窯製品捏鉢Ⅰ類、216は常滑窯製品捏鉢Ⅱ類、図39－217～219は常滑窯製品甕、220～222は楠葉式瓦器碗、223は宇瓦で図33－16と同様の成型法である。224は須恵器、225は硯、226・227は刀子、228は小刀、

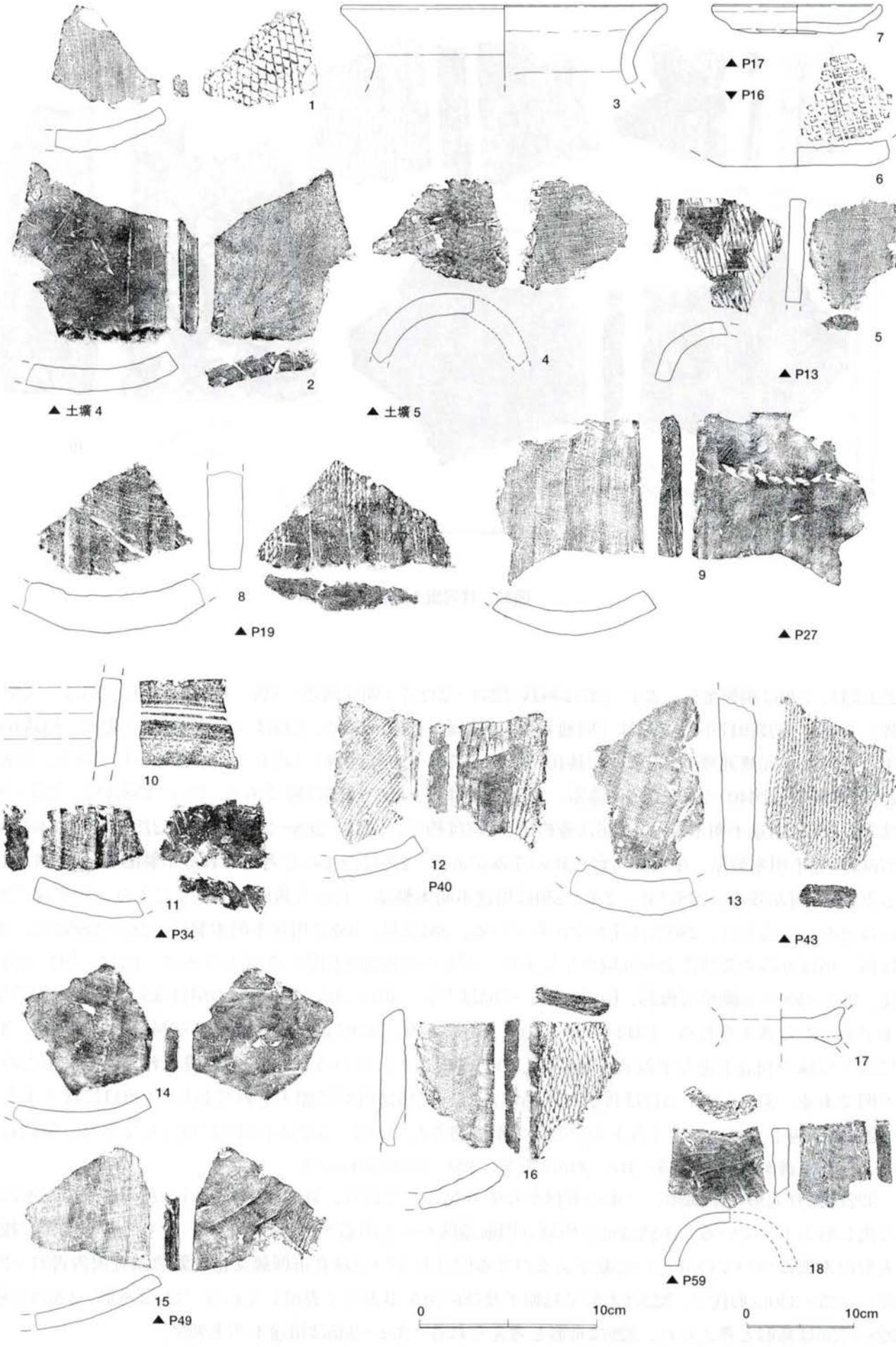


図31　第3b面土壙・柱穴出土遺物

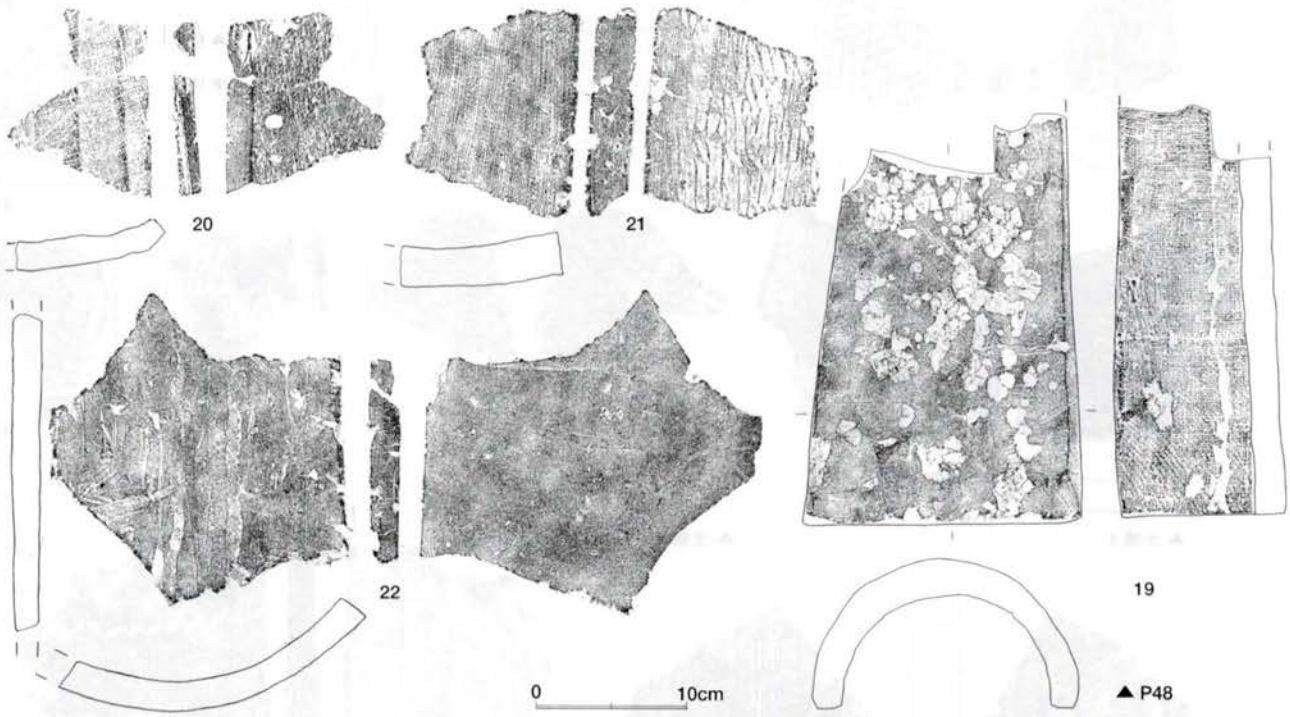


図32　柱穴出土遺物(2)

229は釘、230は銅製金具、231～237は銅銭で231・232は「開元通寶」(唐　初鋳845年)、233は「天聖元寶」(前蜀　初鋳917年)、234は「周通元寶」(後周　初鋳955年)、235は「景徳元寶」(北宋　初鋳1004年)、236は「元寶通寶」(北宋　初鋳1078年)、237は「宣和通寶」(北宋　初鋳1119年)である。238・239は骨製笄。図40－240～255は漆器。240～249は碗、250～255は皿である。256～258は櫛、259～264は箸、265は用途不明木製品、266は壺杓子、267は杓子、図41－268～274は曲物、275は円盤状木製品、276は用途不明木製品。中央部に台形状の窪みがある。277はつまみと考えられる木製品で、両端に腐食した2本の釘が残る。278は箱、279・280は用途不明木製品。共に八角形に加工してあり、中央部に279には釘が打ち込まれ、280には孔が穿かれている。281は錘、282は用途不明木製品、283～288は篦、289は錐。柄は丸みを帯びるよう面取りしてあり、刃との付根部を円錐に加工してある。図42－290・291は篦、292～300は金剛草履板芯、図43－301～303は下駄、304・305は扇で304の扇骨は5本、305の扇骨は8本であったと考えられる。図44－306～310・316は折敷。309には平仮名のような判読不能な文字、310には三つ鱗や判読不能な平仮名、筆慣らしの跡が墨書されている。316にも墨書されているが小片の為不明である。311～315・317は折敷加工品で、311～315は円形に加工されており、内311には「十六」、312には「四十」、315には「五十六」と数字が墨書されている。317は小判状に加工しており、筆慣らしのような墨書がある。図45－318・319は独楽、320・321は毬杖の球。

322は操り人形の木偶頭。一本の木材から彫り起こしており、耳や目・鼻・口など細部まで丁寧に削り出し磨き上げている。木偶は他に円覚寺門前遺跡からも山猫が出土しており、そちらの報告書に操り人形の木偶についての詳しい記載があるので参照されたい(鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21－2分冊)。323～330は形代で、323は人形で烏帽子及び顔面を墨書にて表現している。324は舟形、326は刀形、328・330は鳥形と考えられ、329は舟形と考えられる。331～335は用途不明木製品。

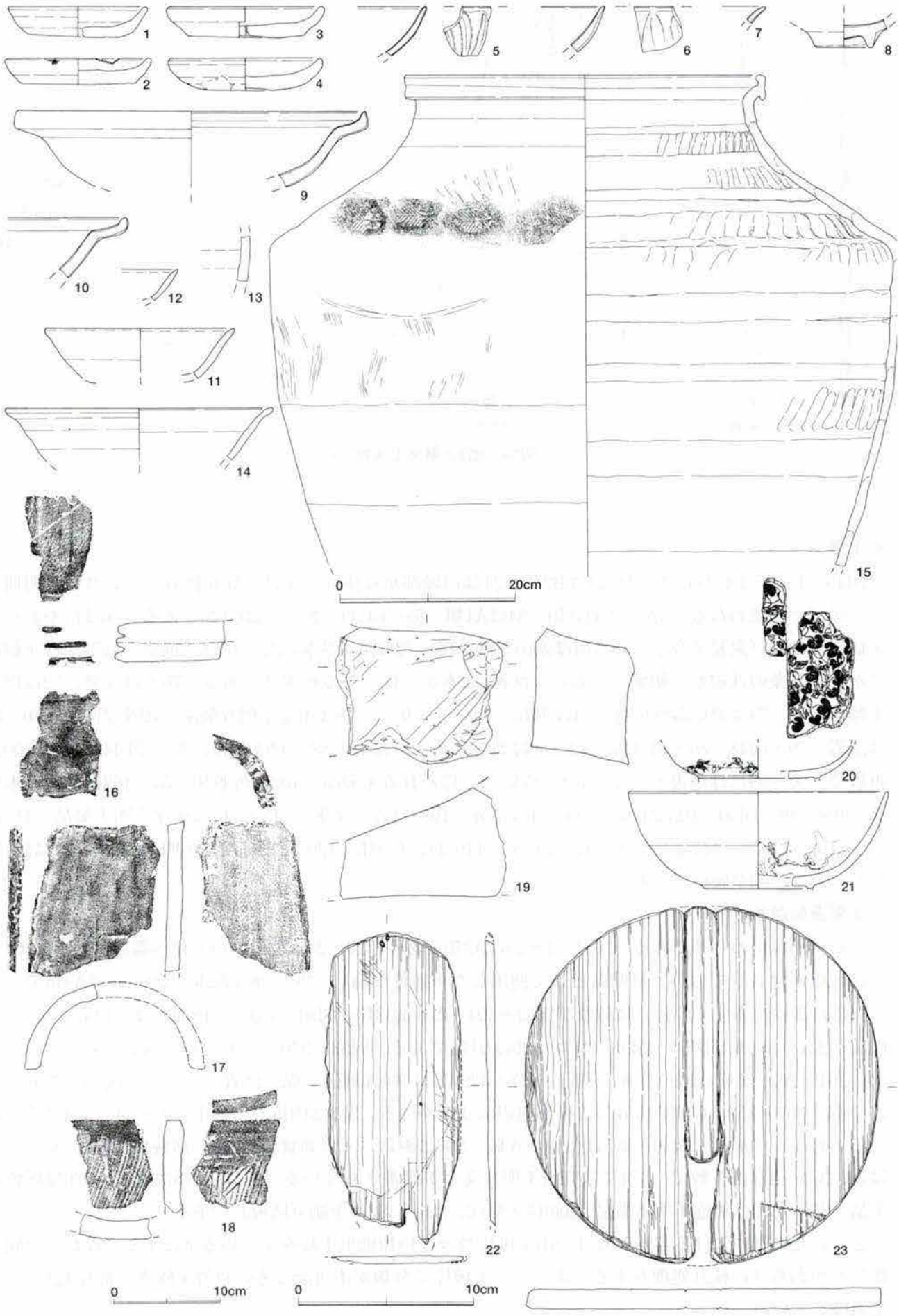

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
0
20cm
0
10cm
0
10cm

図33　池3上層遺物（1）

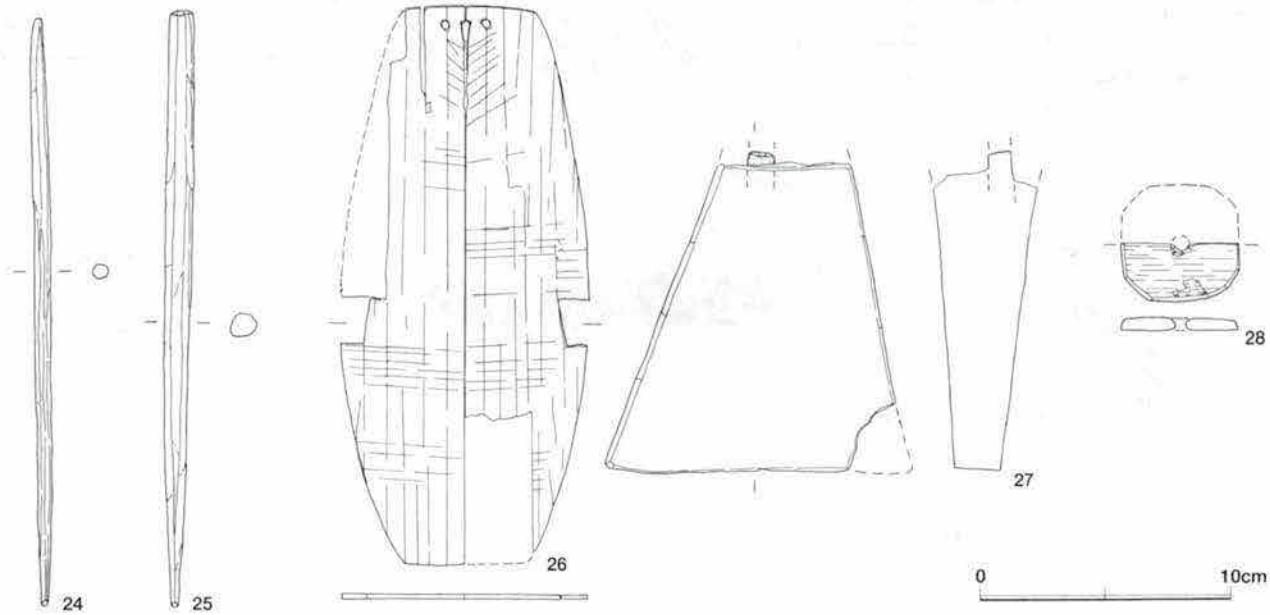


図34　池3上層出土遺物（2）

＜下層＞

図46－1～65はかわらけ。1～31はB3類。31は口縁部から体部にかけて煤が付着しており、灯明皿として用いたと思われる。32～53はB1類、54はA1類、55～64はC3類、65はC1類である。66は白かわらけ大皿、67は瀬戸窯製品合子、68は南部糸山茶碗、69～72は常滑窯製品で、69は三筋壺。肩部から下胴部にかけて三条の沈線が三組廻っており、沈線は2本を単位とする複線文である。70・71は甕、72は捏鉢Ⅰ類である。73は須恵器台付甕、74は男瓦、75～77は女瓦、78は用途不明骨製品、79及び図48－80～86は漆器。79・図48－80・81は碗、82～86は皿である。87は櫛、88～92は曲物、93及び図49－94～100は折敷で、97～99には墨書がある。101は火切臼と思われる木製品、102は折敷加工品、103は漆塗り木製品、104は箱、図50－105は折敷、106・107は箸、108～112は菜箸、113・114は用途不明木製品、115は扇、116は人形代、117は鳥形代、118は独楽、119は毬杖の球、120・122は用途不明木製品、121は建具、123～125は金剛草履板芯である。

＜北東遺物溜り＞

図51～55はかわらけである。図51－1～25はA3類であり、22～24は他のものと比べ器高が高い。また、29には煤が付着しており、灯明皿として使用した可能性が高い。26～28はA2類、29～55はA3類で、51～54には煤が付着している。図52及び図53－194～220はB3類、図53－153には内面に煤が付着している。図53－221～256及び図54・図55－313～329はB1類である。図53－230・239・243・244・252ならびに図54－261・262・267・269・304、図55－317・329には口縁部周辺に煤が付着している。図55－330～350はC3類、351・352はC1類で351の口縁部周辺には煤が付着。353は内折れの極小かわらけ、354は手捏ねの白かわらけである。図56－355は白磁口兀碗、356は銅銭「元豊通寶」（北宋　初鋳1078年）、357～370は箸、371～374は折敷で、374には判読不明な文字が墨書されている。図57－375は菜箸、376は折敷加工品、377～379は用途不明木製品、380は人形代、381・382は金剛草履板芯である。

ここに北東隅における各かわらけの出土破片数及び種類別出土数をまとめる事にする。なお、今回分類したかわらけの統計処理をするにあたり、小破片で分類が不可能なもの以外を除き、破片数1点として処理している。

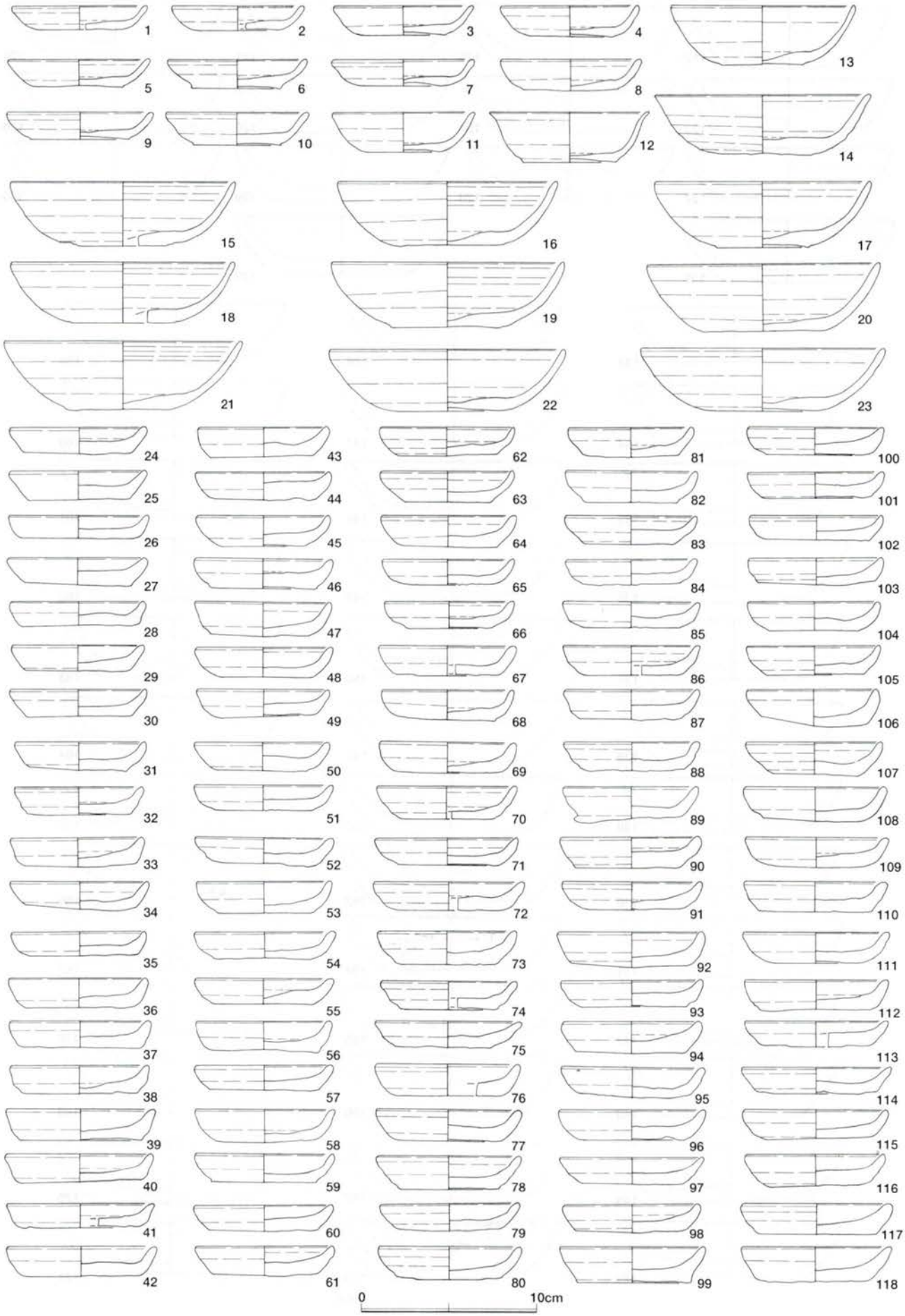


図35　池3中層出土遺物（1）

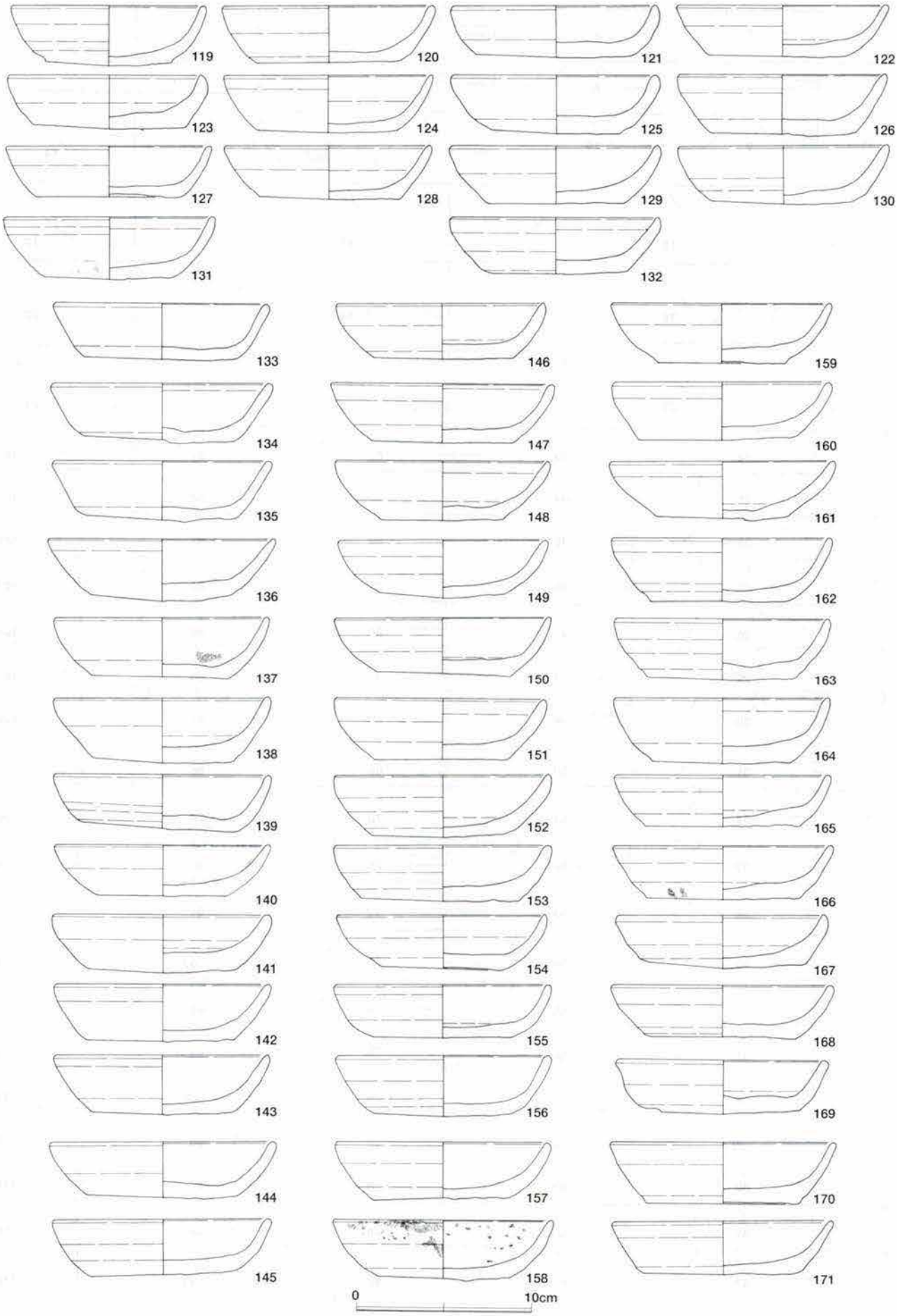


図36　池3中層出土遺物（2）

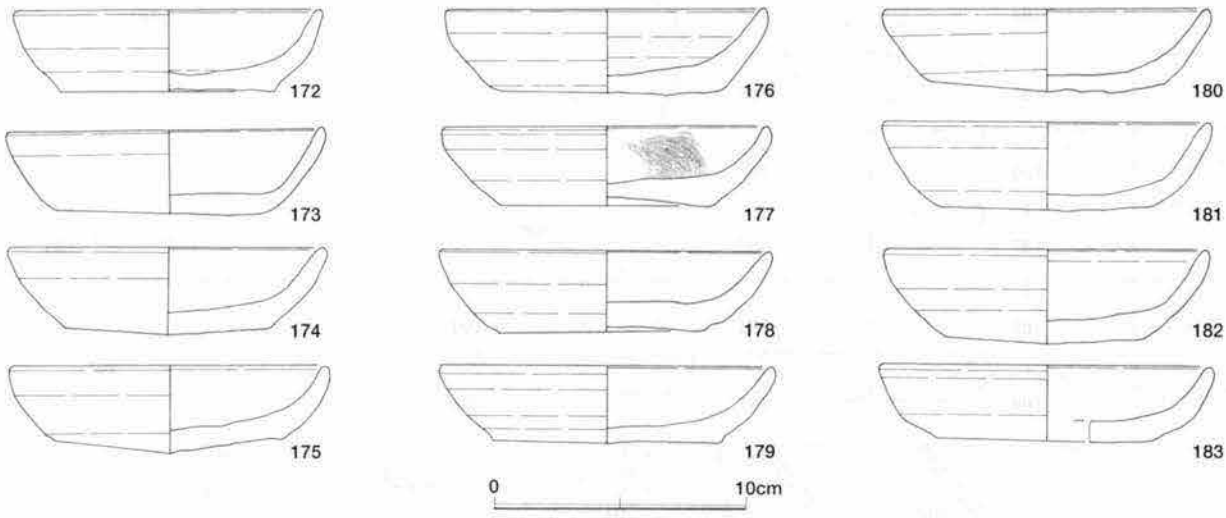


図37　池3中層出土遺物（3）

池東辺にあたるⅠ区北東隅からは、箸や折敷など多量の木製品と共に池中に廃棄された状況でまとまった量のかわらけが出土している。かわらけにはロクロ作りで底部糸切底ものと、内型作りの手づくねによる成型の2種に大別される。ロクロ成型には胎土が精良で焼成が比較的に堅緻で、薄手の器壁をもち、内底にナデ調整を施さないもの（A類）と、胎土のやや粗い厚手の器壁をもつ、内底にナデ調整を施した中世鎌倉遺跡で一般的に認められたもの（B類）、手づくね成型は外底に指頭圧痕を残し、器壁上半部に横ナデ調整を施したもの（C類）に分類される。さらにA～C類のかわらけ皿をそれぞれ大型（1）・中型（2、A類のみ）・小型（3）として細分を行っている。従って、図示した池3上層～下層の出土かわらけと、図58のかわらけ分類図及び表1・2におけるアルファベットと算用数字はその分類名称を示している。

表1は池3北東隅より出土したかわらけのグラフを示している。出土したかわらけの破片総数は605点であり、内わけとしてはA類が124点、B類444点、C類が37点となる。成形法で分けると轆轤成型のかわらけが568点、96%と圧倒的に多く、手捏ね成形のかわらけは全体の1割にも満たない。次に轆轤成型のかわらけをA類とB類に分類すると、1：3の割合となり、A類のかわらけが全体の3割とかなり多く含まれている。千葉地遺跡の3面と4面からはA類と考えられるものが1点ずつ出土しているが、各面の出土かわらけ全体の割合からみると僅かなものであり、当遺跡の出土量がいかに多いかが分かる。

次に器種別に出土かわらけを見てみる事にする。A類は全体の約65%が大皿で占められており、B類は中皿がなく、大皿と小皿がほぼ半数ずつ、C類は全体の約89%が小皿で占められており、器種別により出土傾向がかなり顕著にみられる。また同じ轆轤成型のA類とB類とでも大皿・小皿の出土傾向は異なる事から単なる工かわらけ生産地や工房（工人集団）の違いだけではなく、異なる食品を盛るなど使い分けた可能性も考えられる。

＜池3裏込＞

図59－1～26はかわらけ。1～3はA3類、4～11はB3類、12～17はB1類、18～26はC3類、27はC1類で1・5・9・12・17・25には口縁部周辺に煤が付着している。28は白かわらけ、29は楠葉系瓦器碗、30は龍泉窯系青磁折縁鉢、31は瀬戸窯製品洗、32は須恵器甕、33は男瓦、34・35は女瓦、36は滑石製石鍋、37は砥石、38は漆器皿、39は漆器碗、40は蓋、41は用途不明木製品、42・43は曲物、図60－44～46は箸、47・48は菜箸、49は篦状木製品、50は篦、51は刀形代、52・53は折敷で、共に文字が墨書されており、52は□仏法□と読めるが53は判読不明である。54は木製容器、55は鞘、56は栓、57は櫛である。

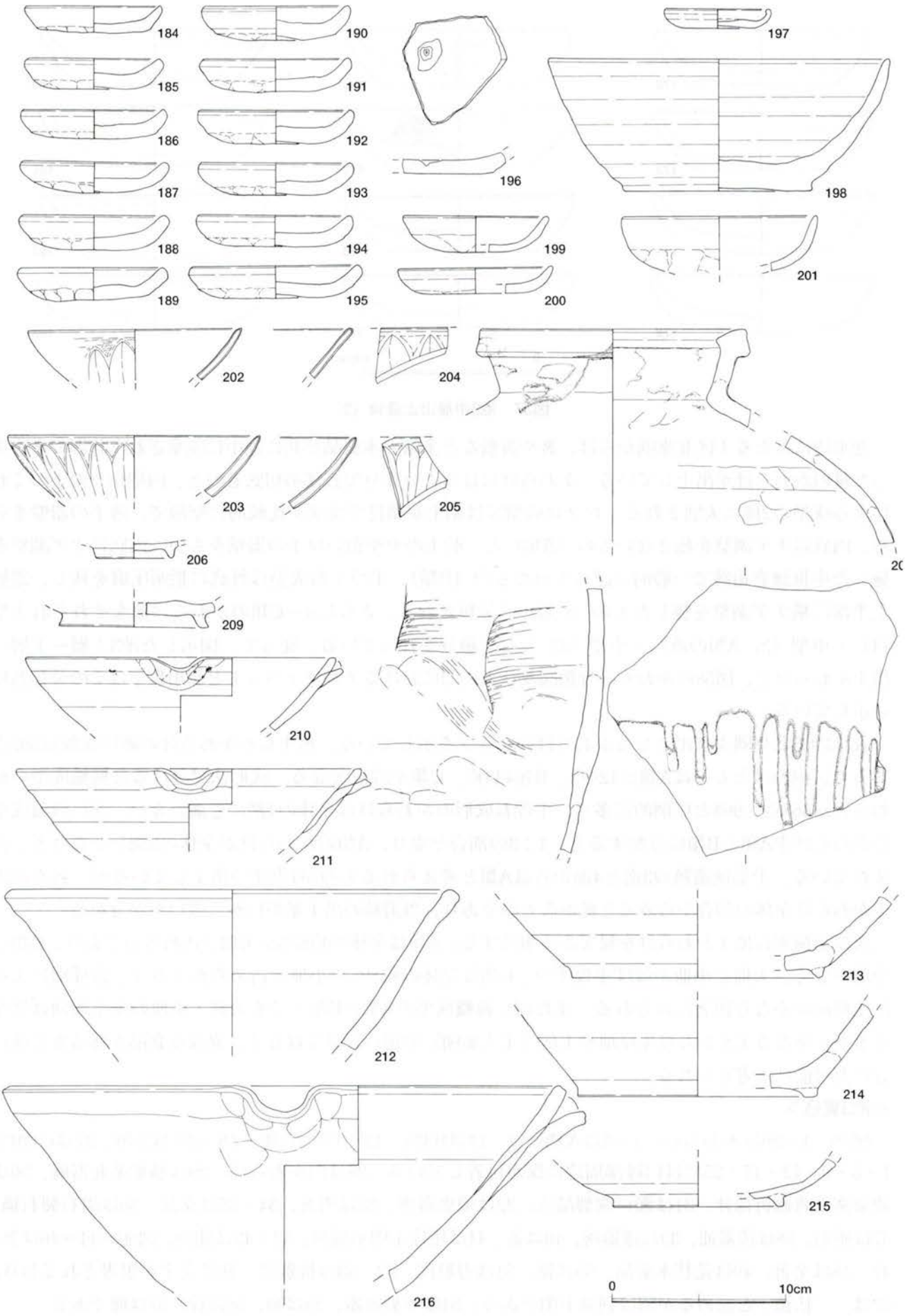


図38　池3中層出土遺物（4）

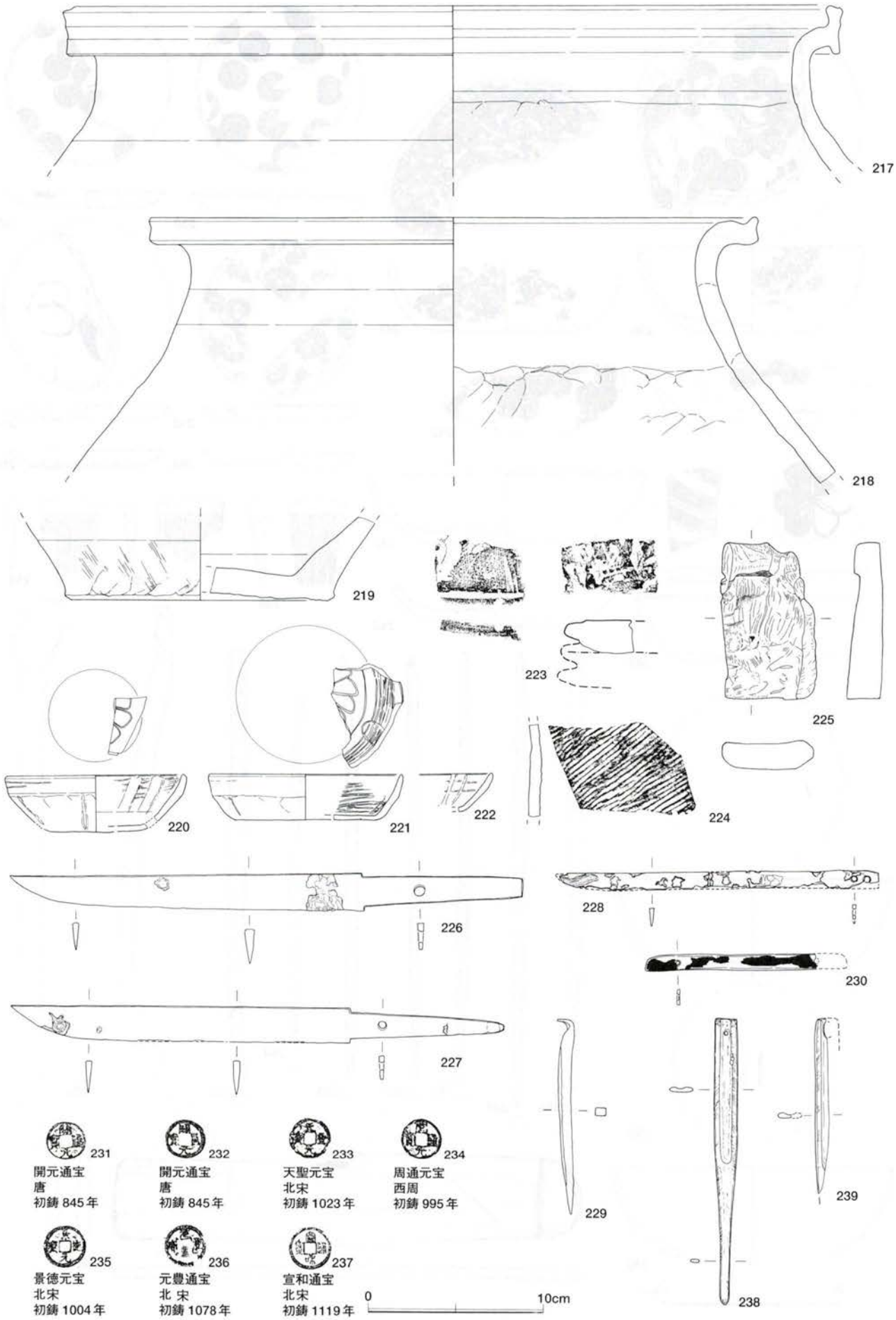


図39　池3中層出土遺物（5）

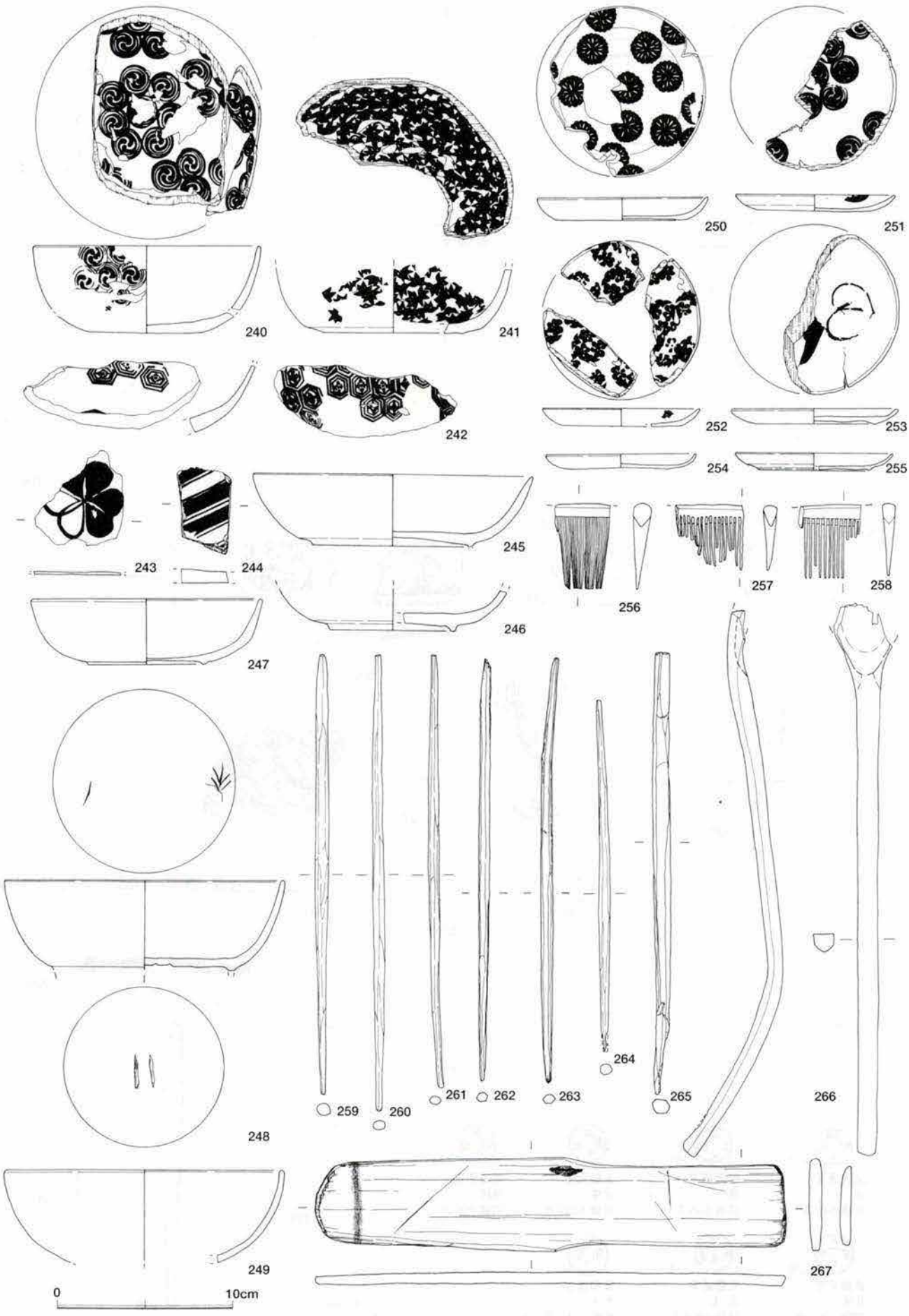


図40　池3中層出土遺物（6）

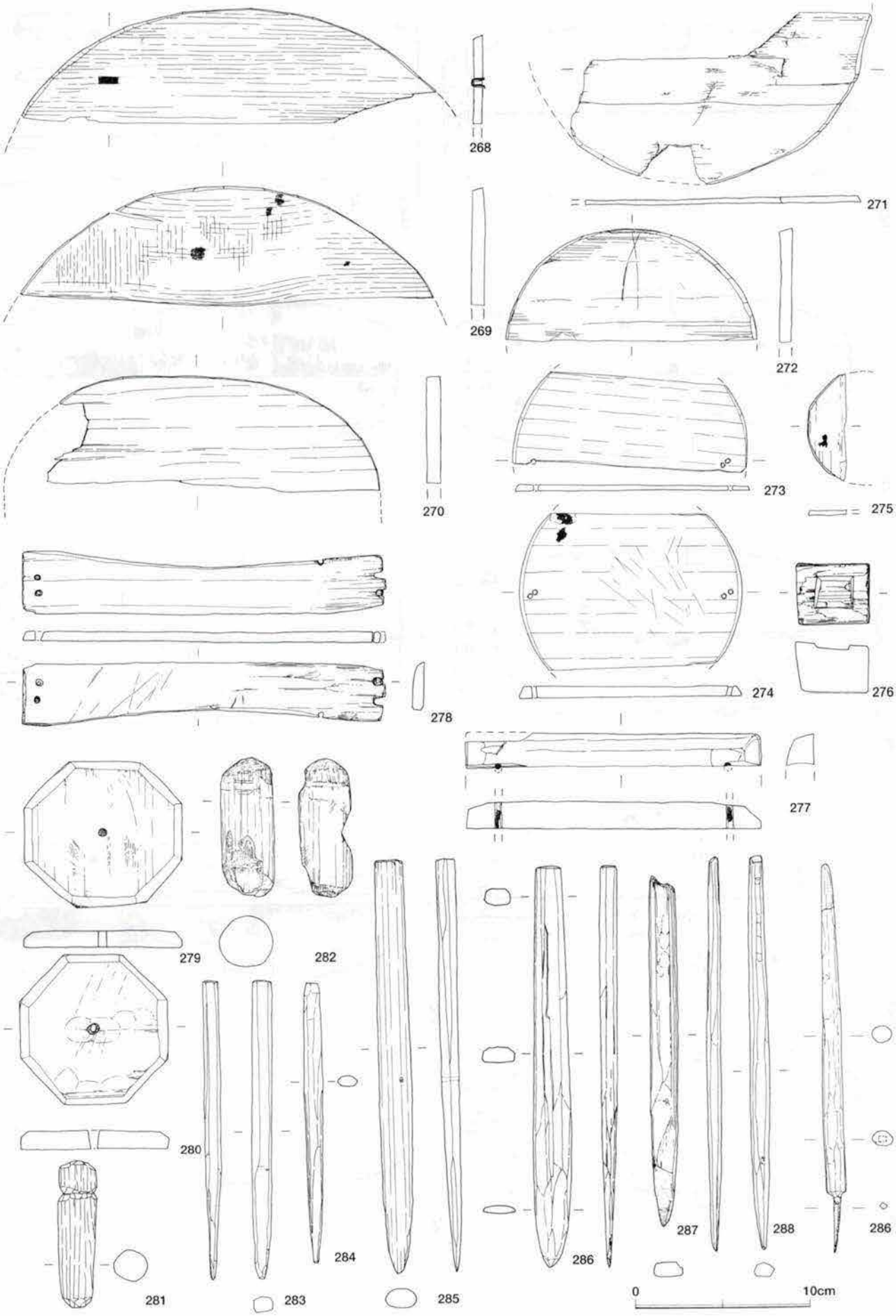


図41　池3中層出土遺物（7）

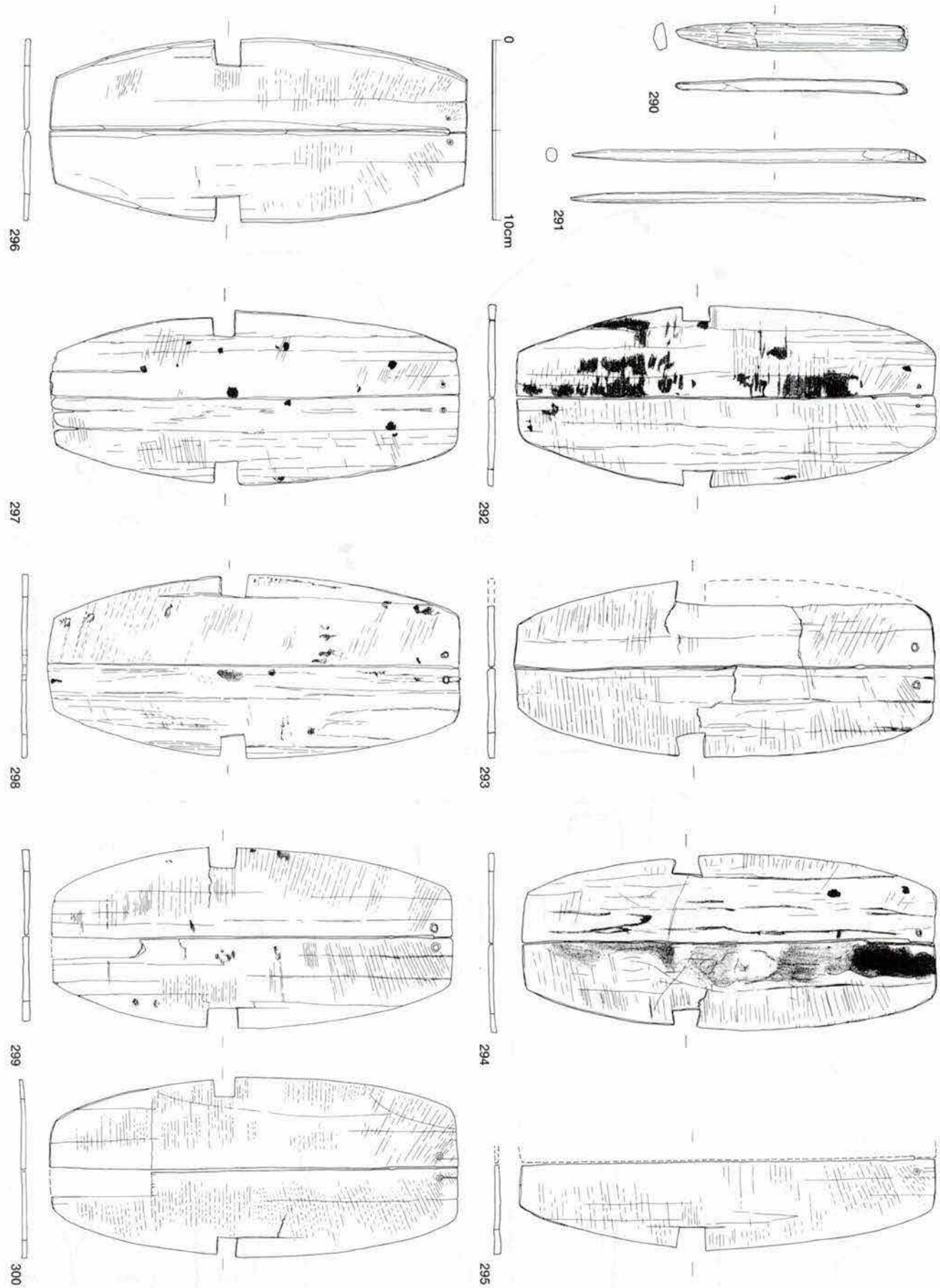


図42　池3中層出土遺物（8）

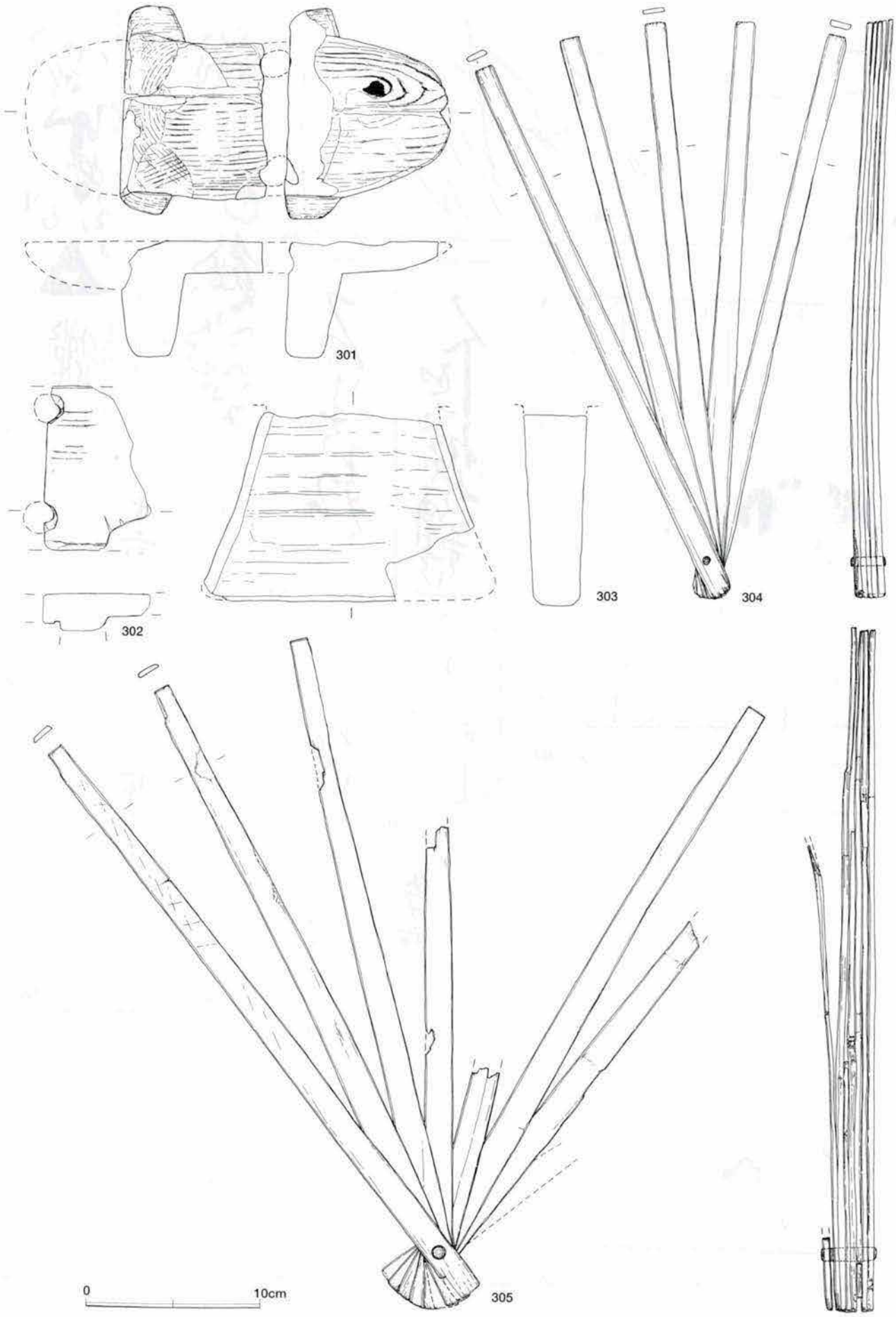


図43　池3中層出土遺物（9）

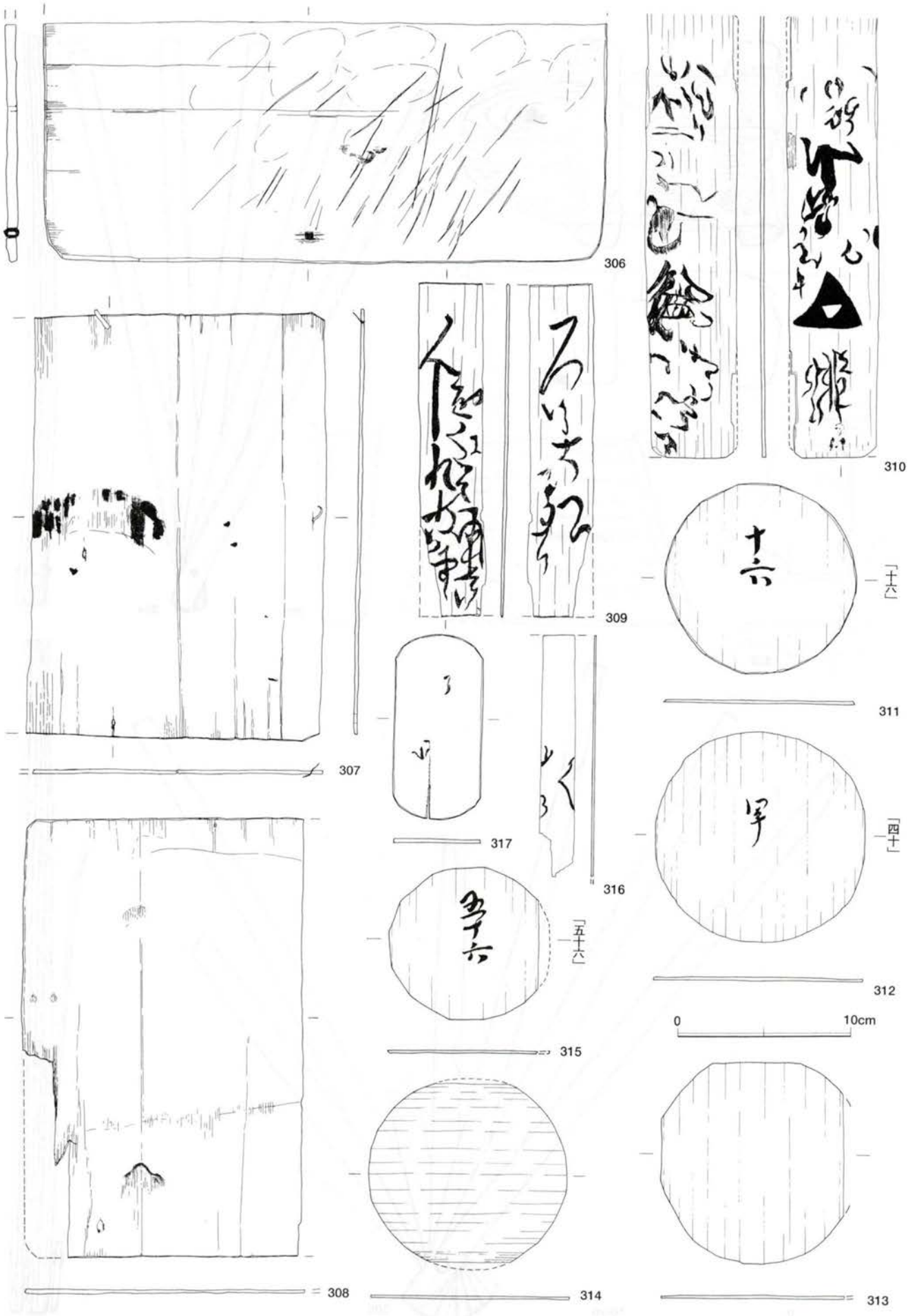


図44　池3中層出土遺物（10）

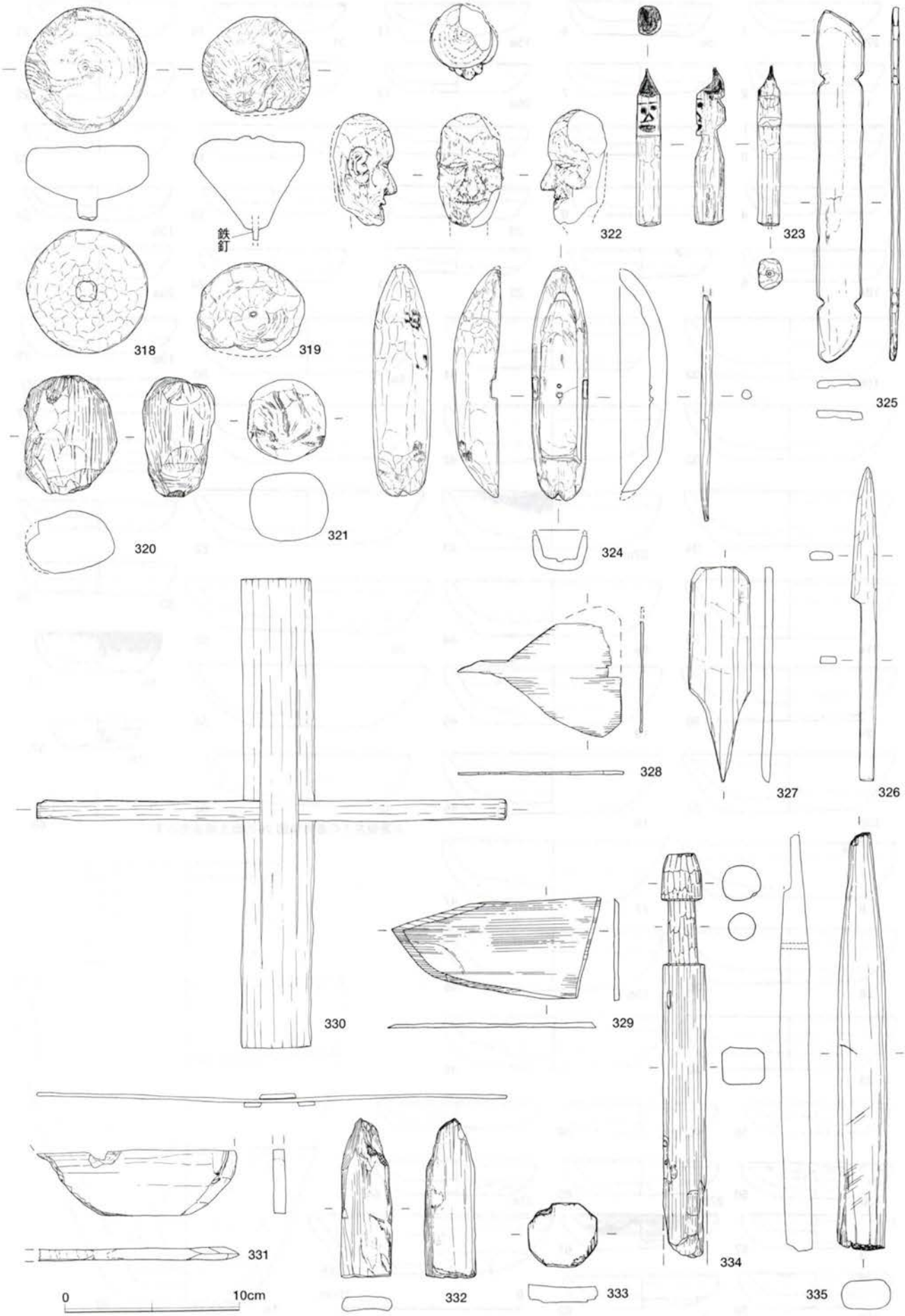


図45　池3中層出土遺物（11）

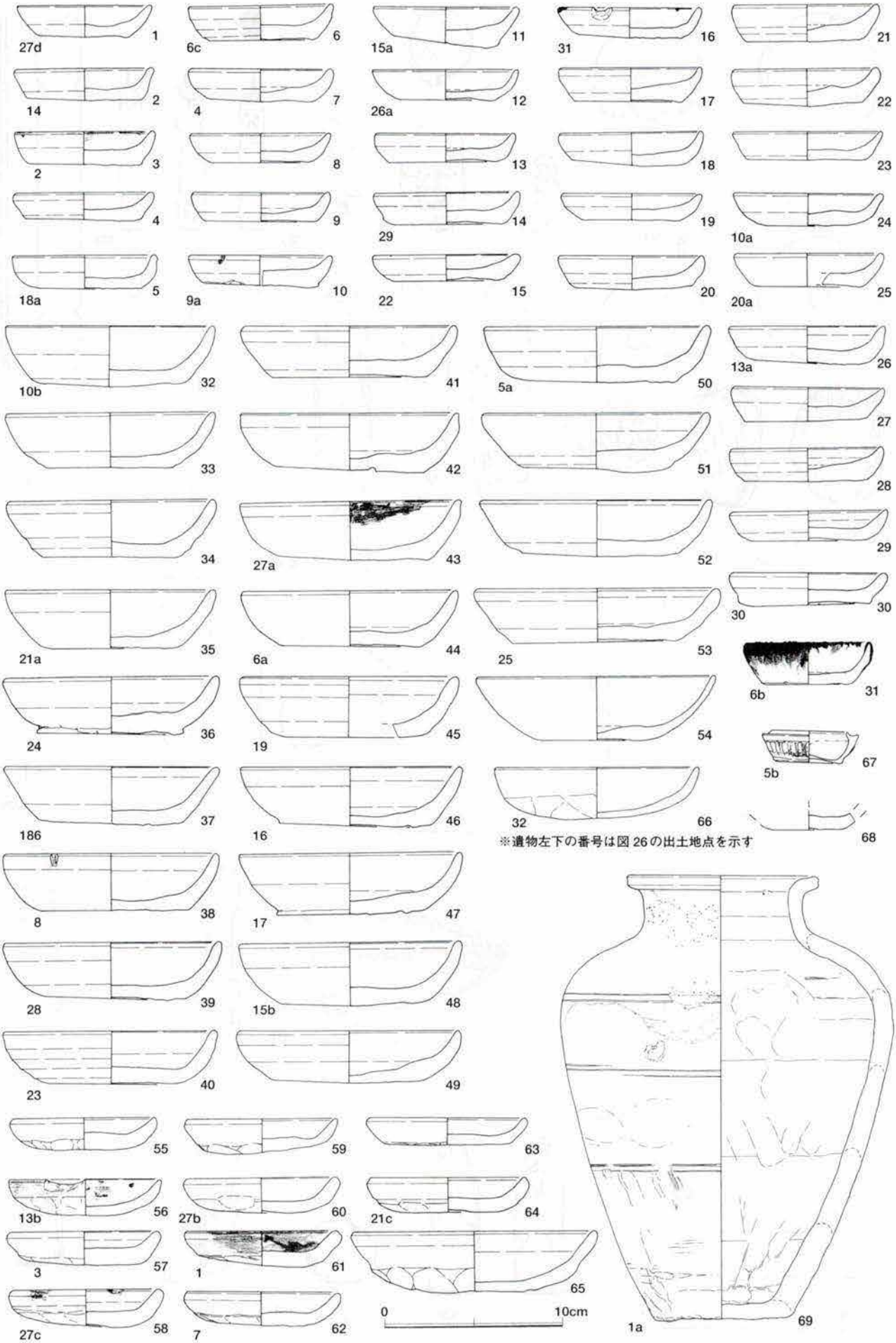


図46　池3下層出土遺物（1）

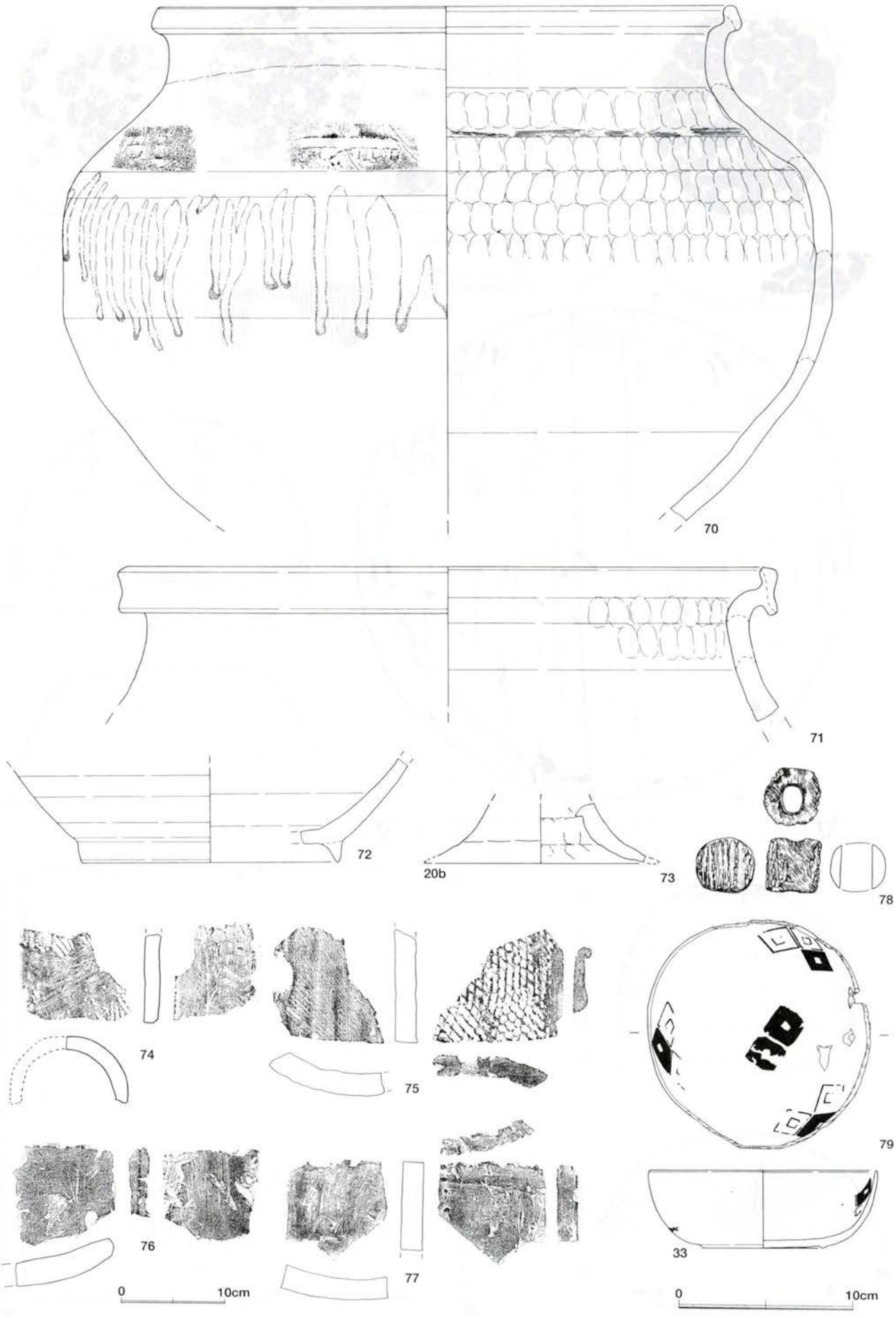


図47　池3下層出土遺物（2）

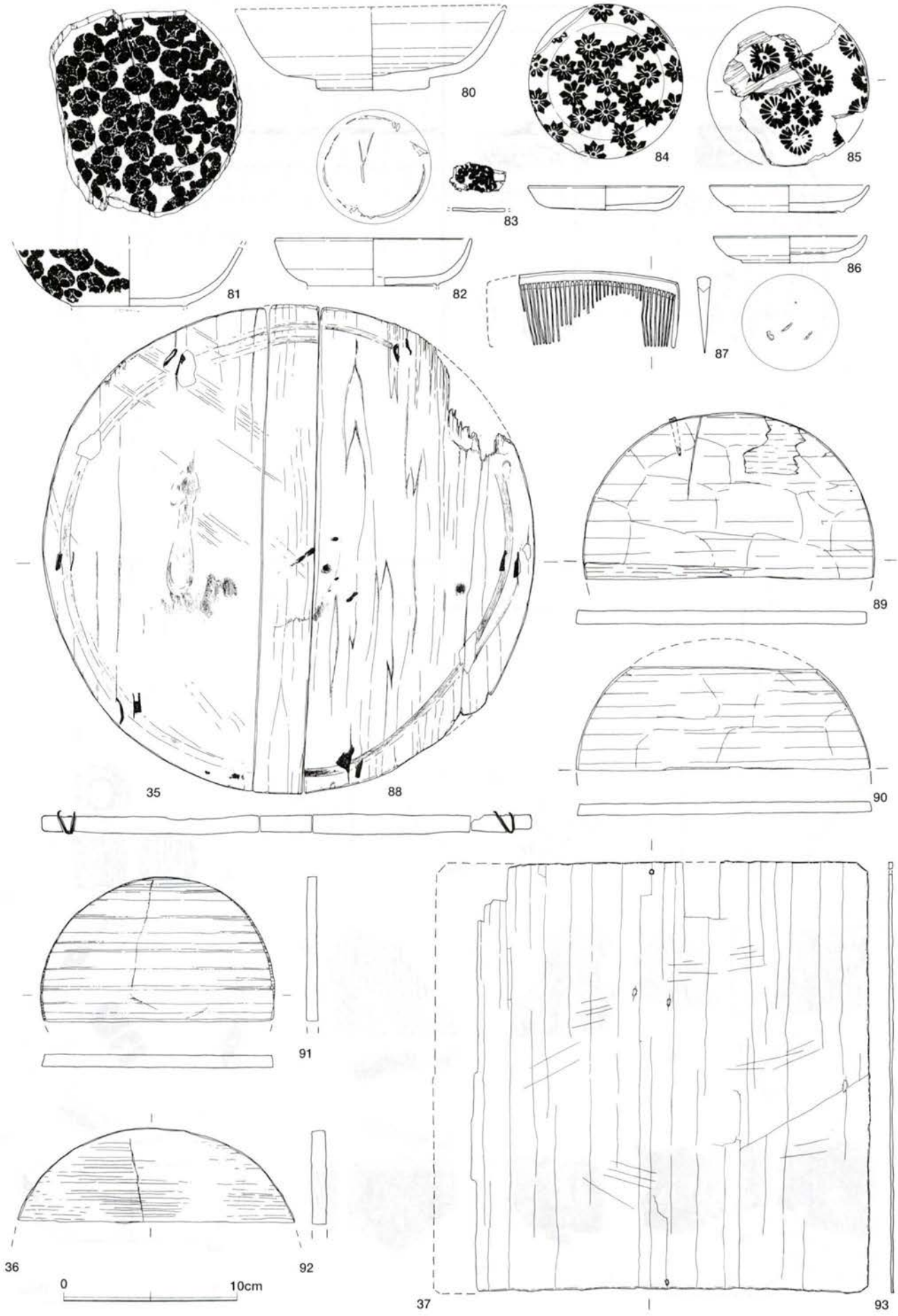


図48　池3下層出土遺物（3）

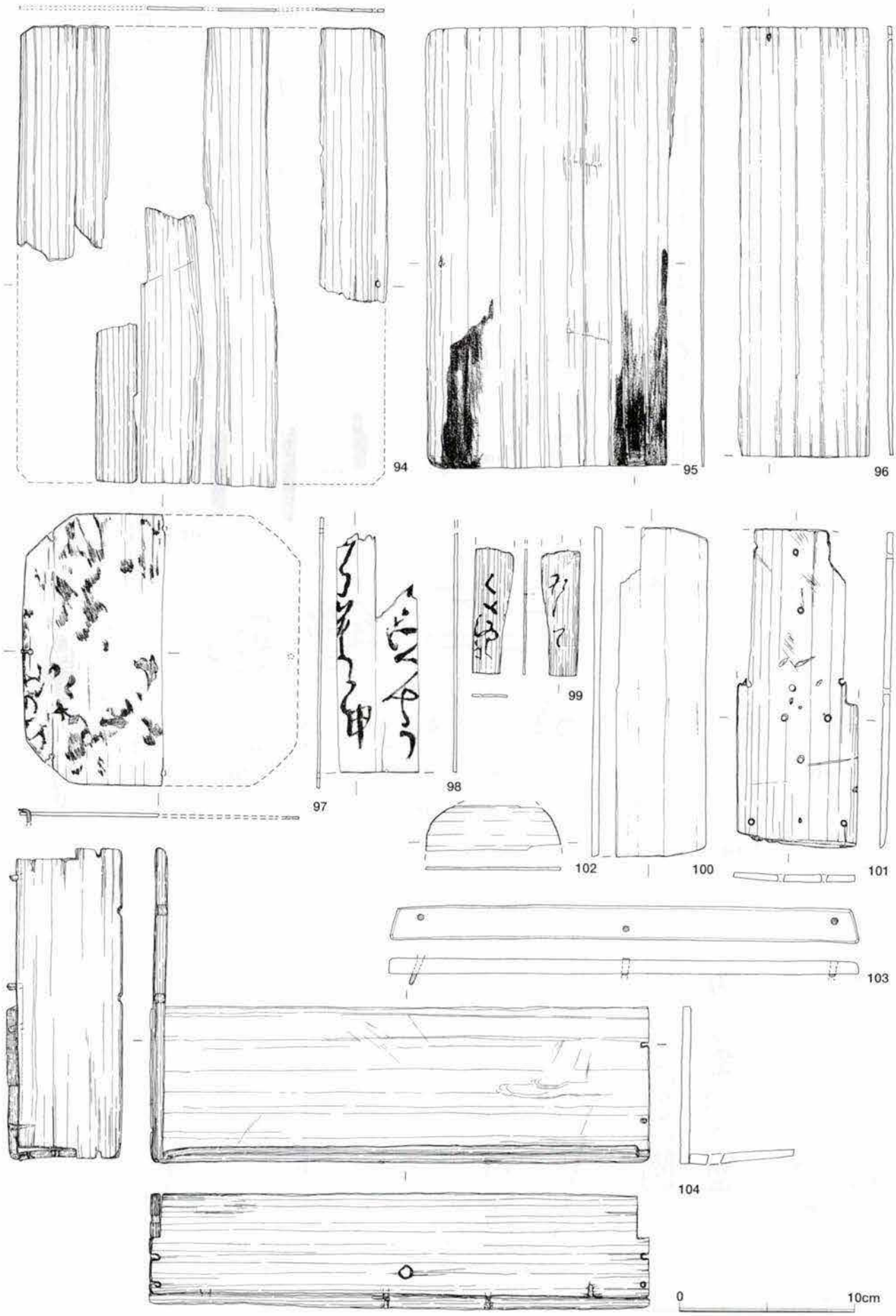


図49　池3下層出土遺物（4）

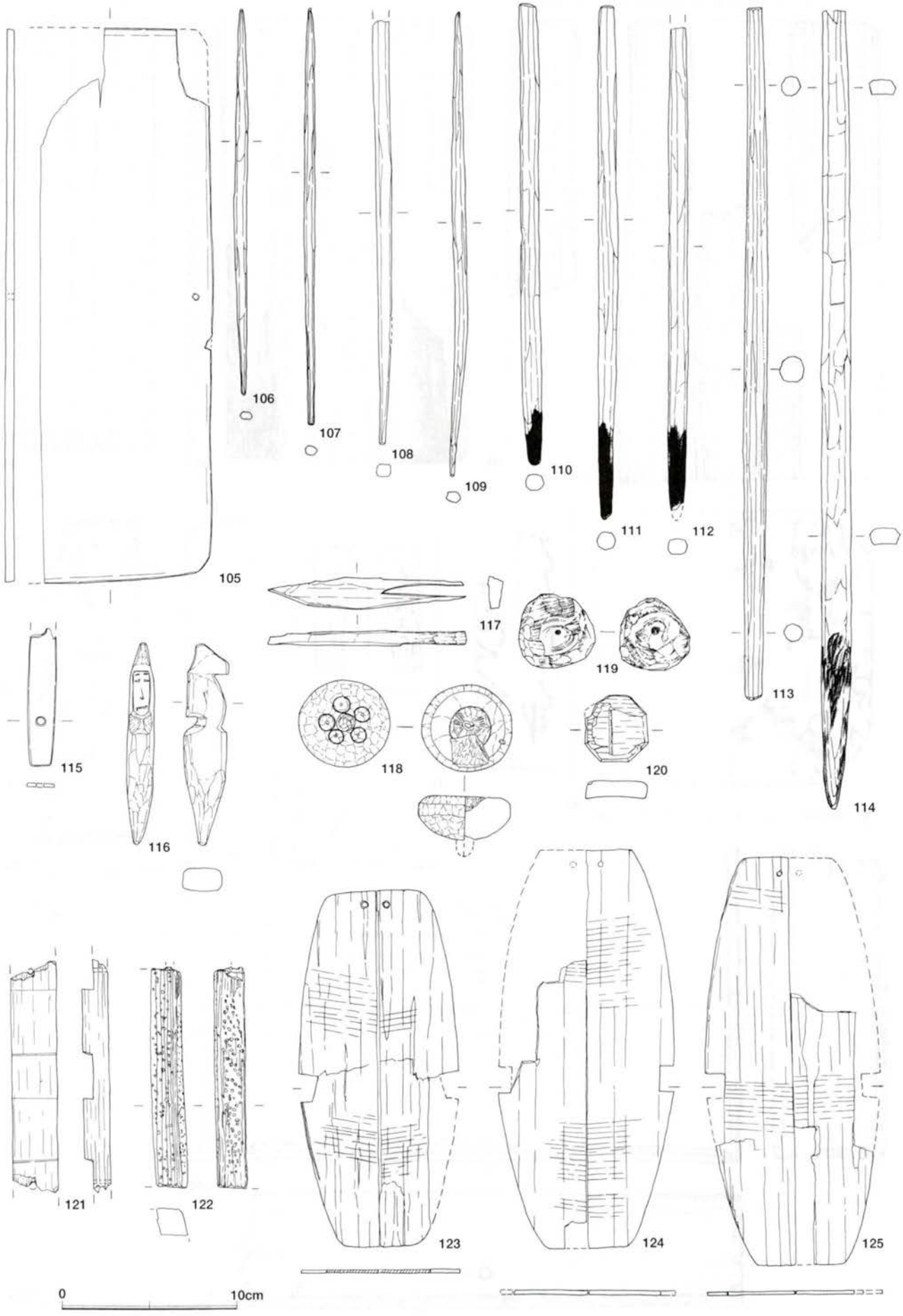


図50　池3下層出土遺物（5）

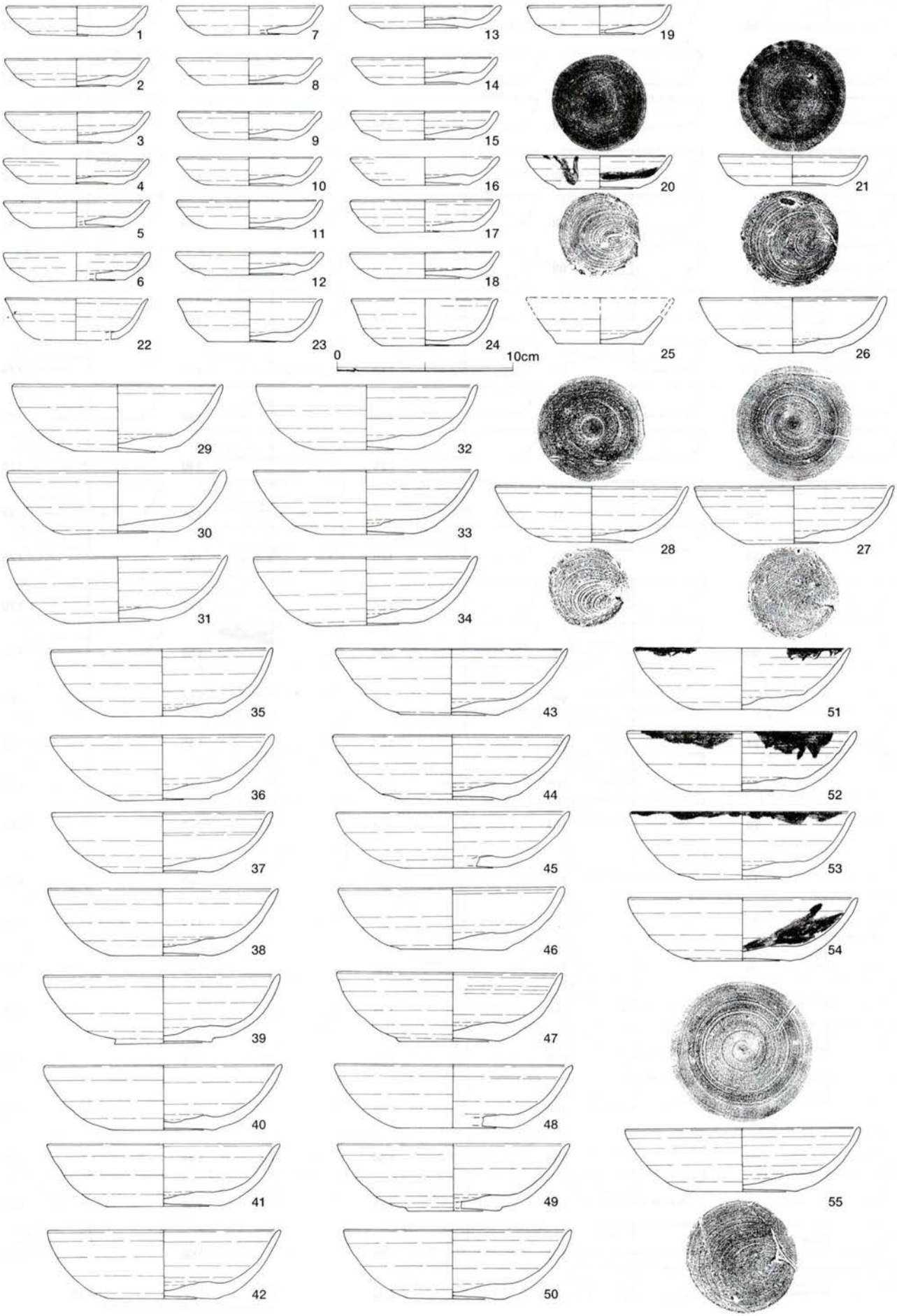


図51　池3北東遺物溜り出土遺物（1）　A類

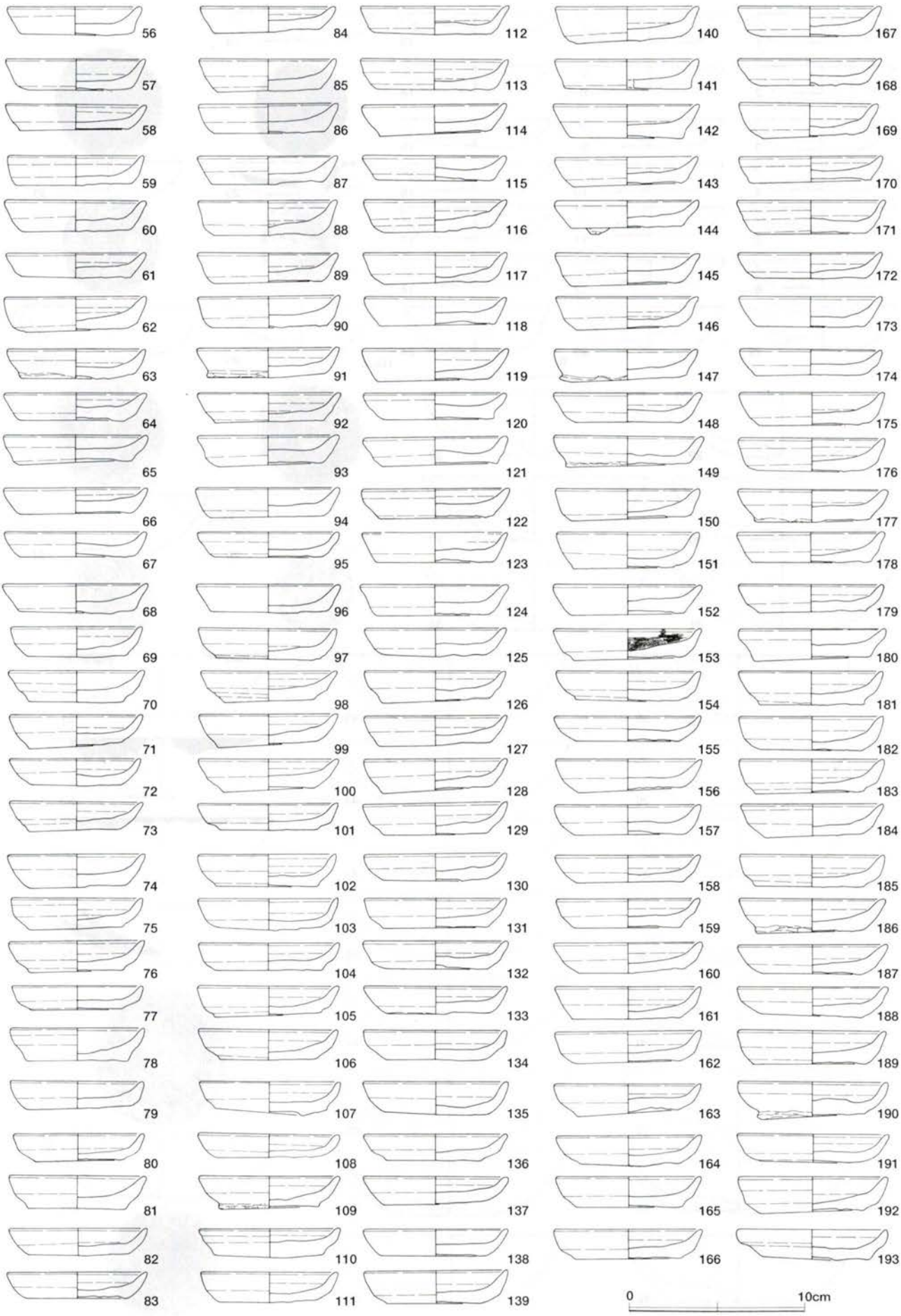


図52　池3北東遺物溜り出土遺物（2）　B類

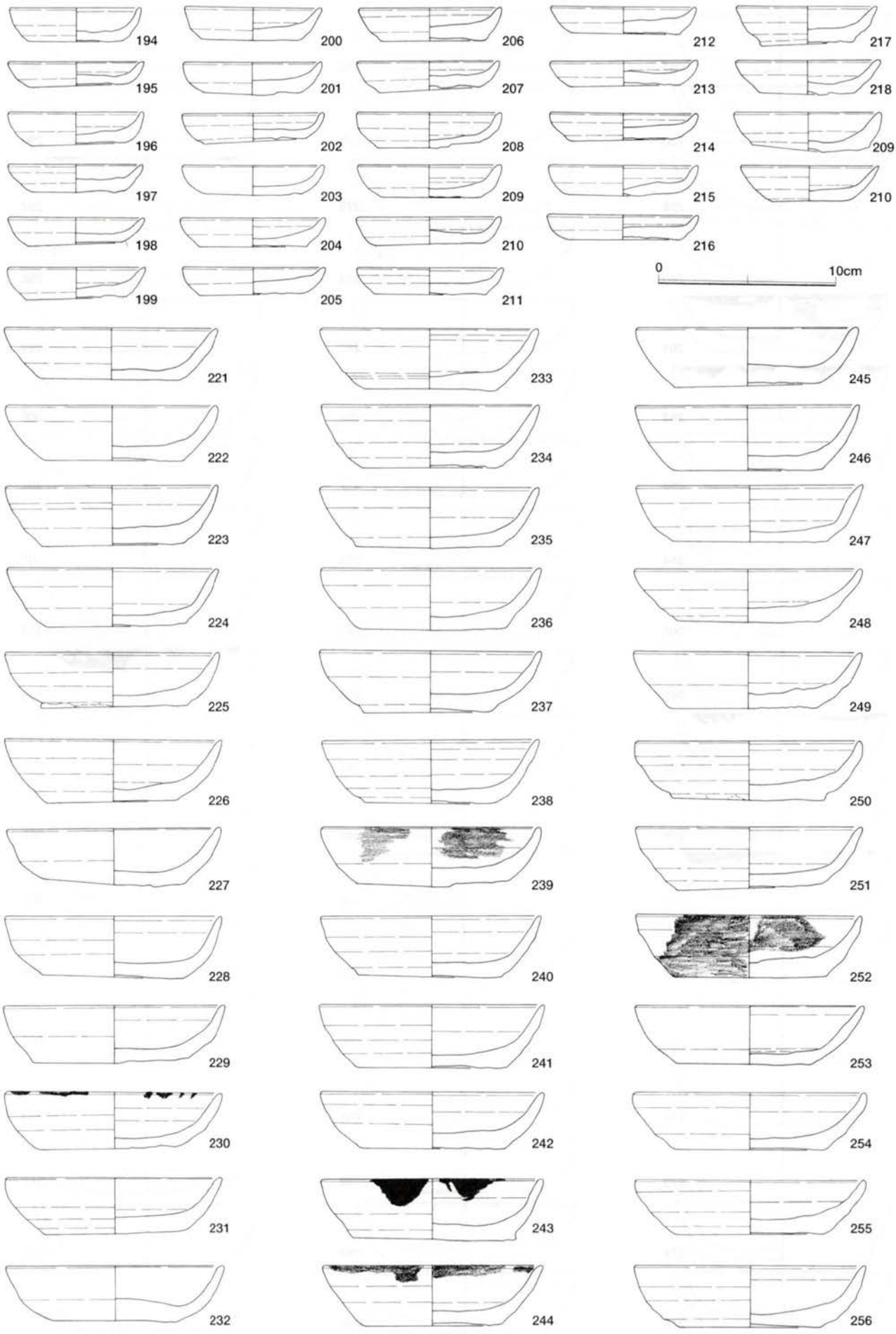


図53　池3北東遺物溜り出土遺物（3）　B類

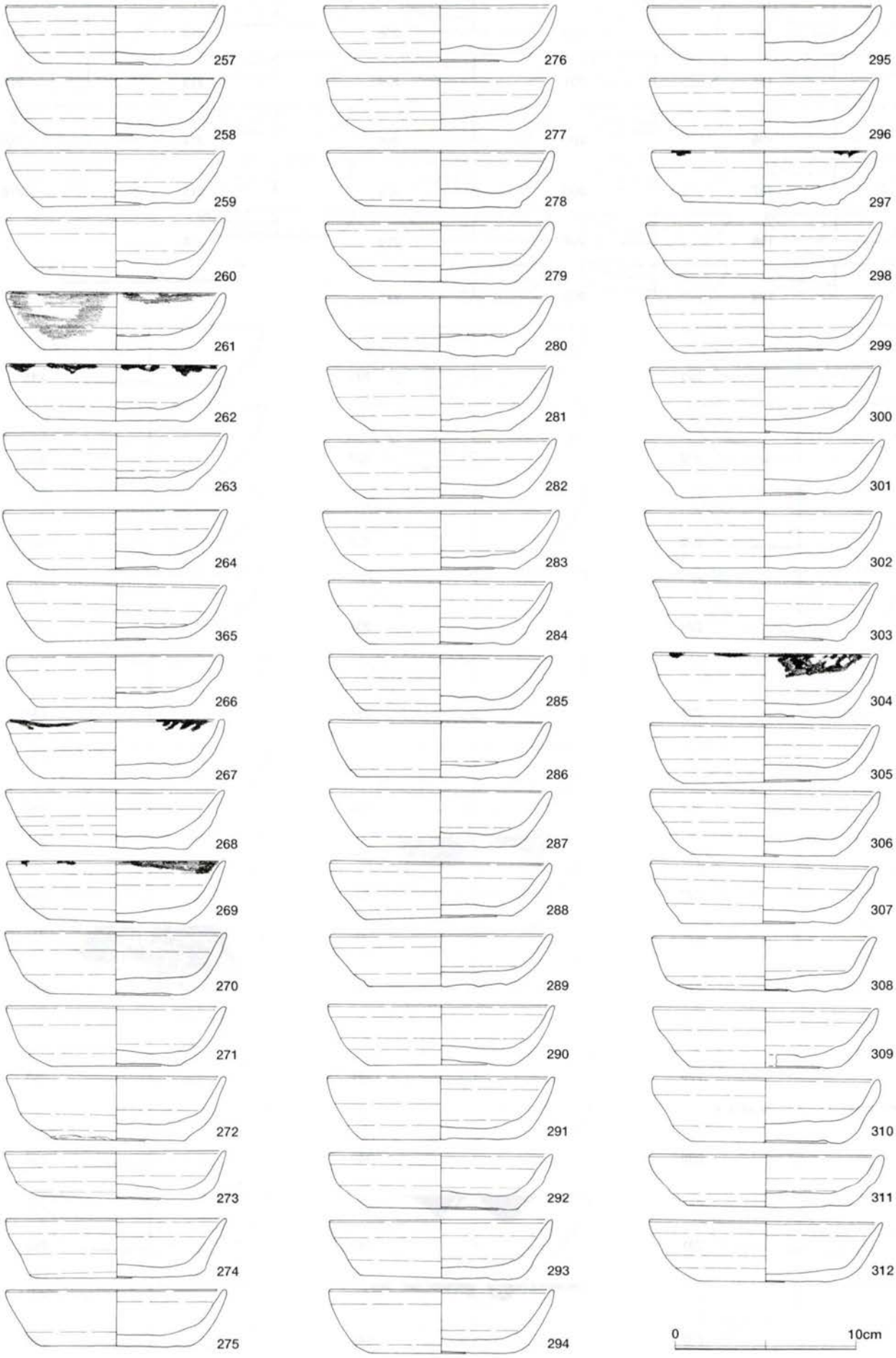


図54　池3北東遺物溜り出土遺物（4）　B類

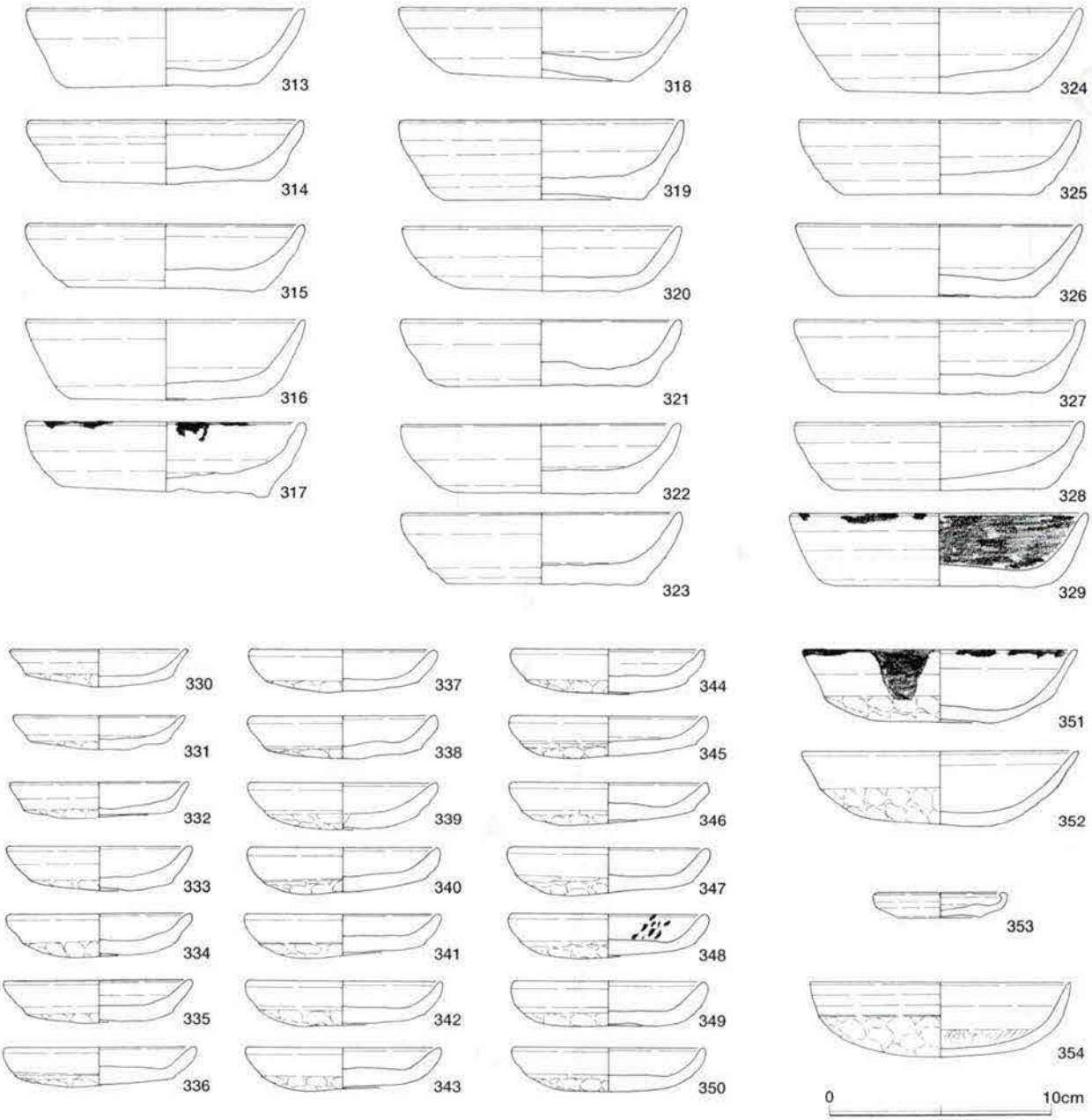


図55　池3北東遺物溜り出土遺物（5）　B類・C類

池２

グリット：調査区中央～東側に位置し、B～C－6～12

確認標高：6.80ｍ前後

確認範囲：東西11.34ｍ　南北3.45ｍ

深　　さ：１ｍ前後

概　　要：池3南側の土留め掘り方を確認している際、控え柱の裏側から池2の南限の木組みの土留めを検出した。池2は南限を木組みの土留めとし、東限及び西限は池3と同様に簡易な木組みであったと考えられるが、池3造成時に掘削されており仔細は不明であり、北限は調査区外に拡がっている。池3より一回り大きい。南限の木組みの土留めは杭を打ち、そこに長さ2.0ｍ～2.1ｍ程、幅20㎝の横板を４段以上並べ、裏込の土を入れたもので池3の南側の土留めに比べ簡素なものである。

なお、池3南辺の裏込部にあたる木組土留を確認した際の様子や、池２・３のⅠ区西壁土層堆積の観

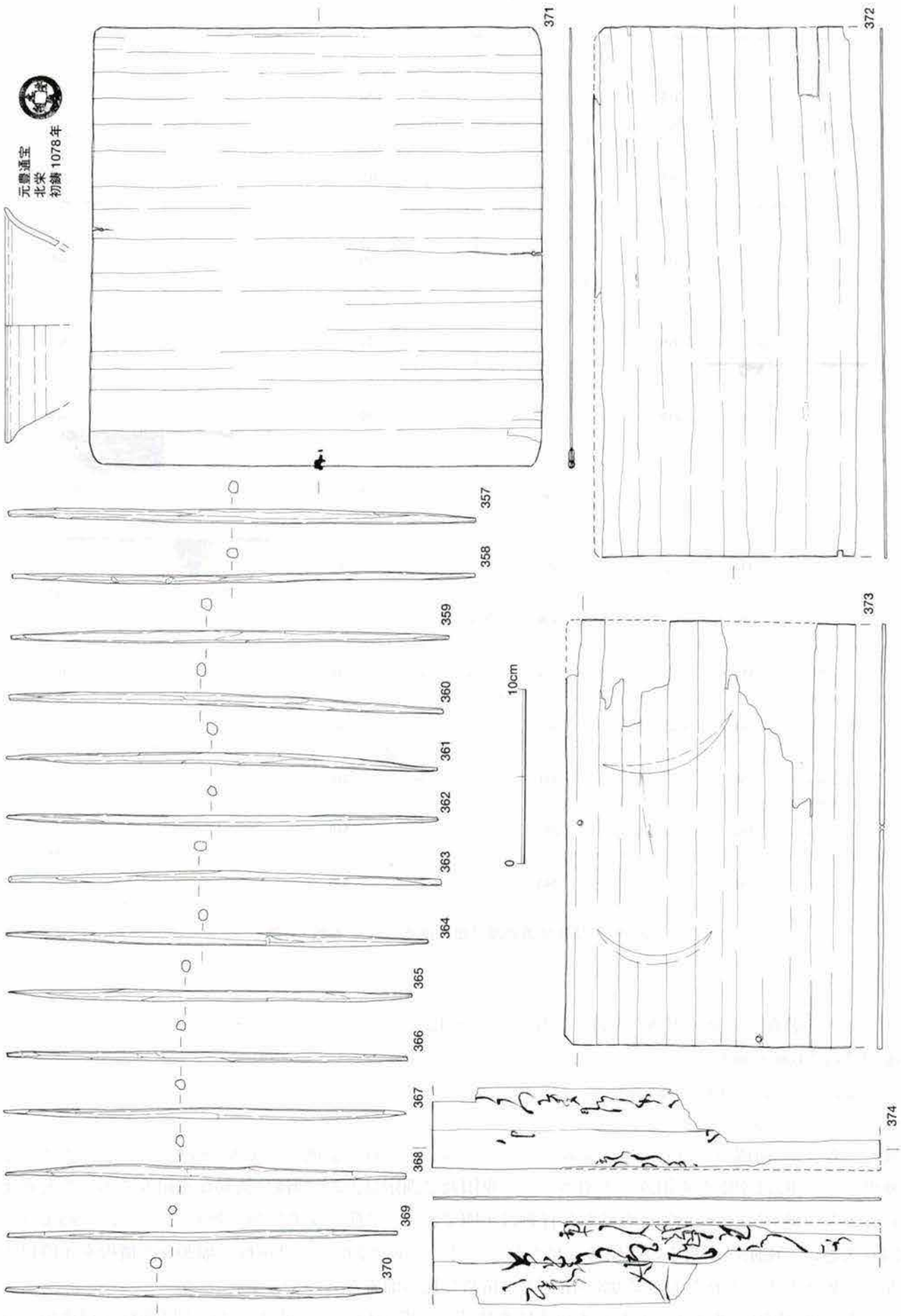


図56　池3北東遺物溜り出土遺物（6）

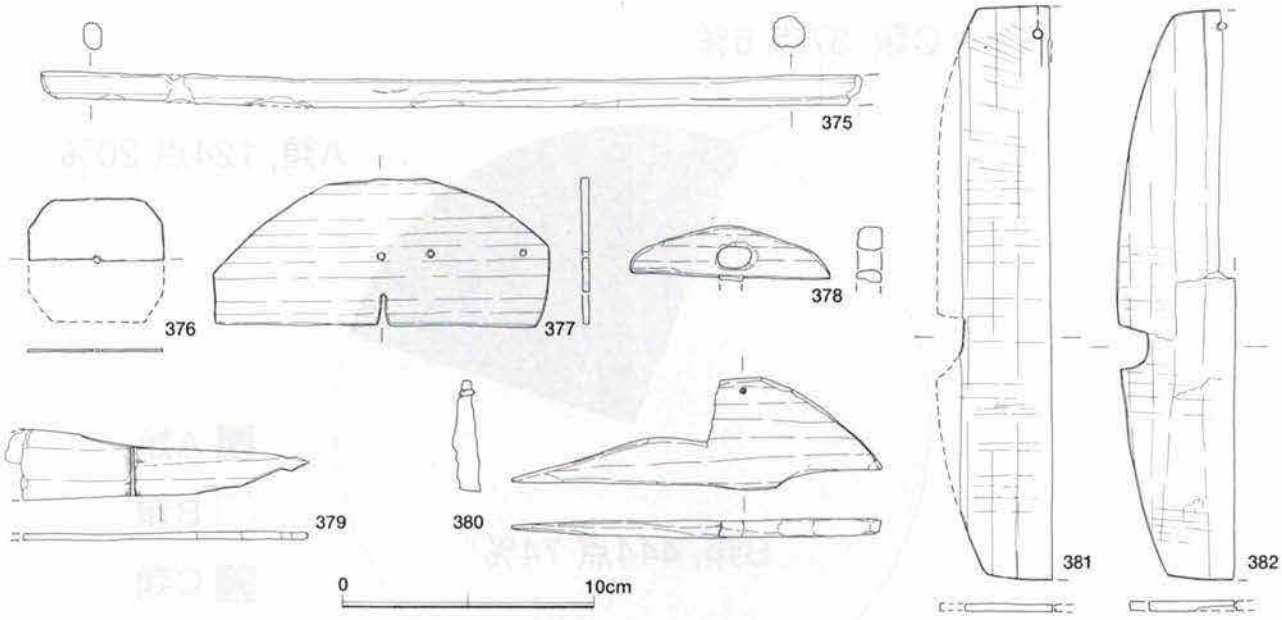


図57　池3北東遺物溜り出土遺物（7）

察状況からみると、池２は杭を打ち込んだ上で横板材を数段重ねて裏込しただけの簡易な構造になっていたものを壊して池３にみられるような頑丈な木組み構造に改築している。図26－池3南辺の掘り方基底部に沿って検出さけれ杭や横板材は、その際に引き倒された構築材の一部が残存したものと判断したい。

出土遺物は図61－1～9がかわらけ。1・2は轆轤成型のかわらけ小皿、3～6は轆轤成型のかわらけ皿、7・8は手捏ねかわらけ小皿、9は手捏ねかわらけ大皿である。10は山茶碗、11は土師器甕、12～14は男瓦、15～24は女瓦、図62－25は菜箸、26～29は箸、30・31は金剛草履板芯、32は刀形代、33は用途不明木製品である。

B・土壙（図24・25・31、図版6・15）

土壙4：調査区南側、Ｅ－７グリット杭上から検出された。平面形状は楕円形を呈し、規模は南北径84cm、東西径は76cm、確認面からは27cmの深さを測る。掘り方は断面が鉢状を呈しており、覆土はしまりが弱く、土丹粒をわずかに含む黒褐色粘質土。出土遺物は図31－1・2が女瓦である。

土壙5：調査区南側、Ｅ－6の位置から検出された。西側は調査区外に拡がる。平面形状は長楕円形を呈すと考えられ、規模は南北径80cm、確認面からは38cmの深さを測る。掘り方は断面が鉢状を呈しており、覆土はしまりが弱く、土丹粒をわずかに含む黒褐色粘質。

出土遺物は図31－3が土師器甕、4は男瓦である。

土壙7：調査区のほぼ中央、Ｃ－6グリット杭上から検出された。平面形状は楕円形を呈し、規模は南北径78cm、東西径は91cm、確認面からは53cmの深さを測る。掘り方は断面が逆台形状を呈しており、覆土はしまりが弱く、土丹粒をわずかに含む黒褐色粘質。当遺構出土の遺物はいずれも小片の為、図示しうる出土遺物はない。

C・柱穴（図24・29・31・32、図版6・15）

柱穴は73口検出されたが、掘立柱建物を構成するような配置は認められなかった。各掘り方は平面形状が楕円形または長楕円形・不整円形を呈しており、規模は径32～56cm、確認面から24～57cmである。以下、図31－5～18・図32に示した柱穴出土の遺物について簡単に触れる事とする。

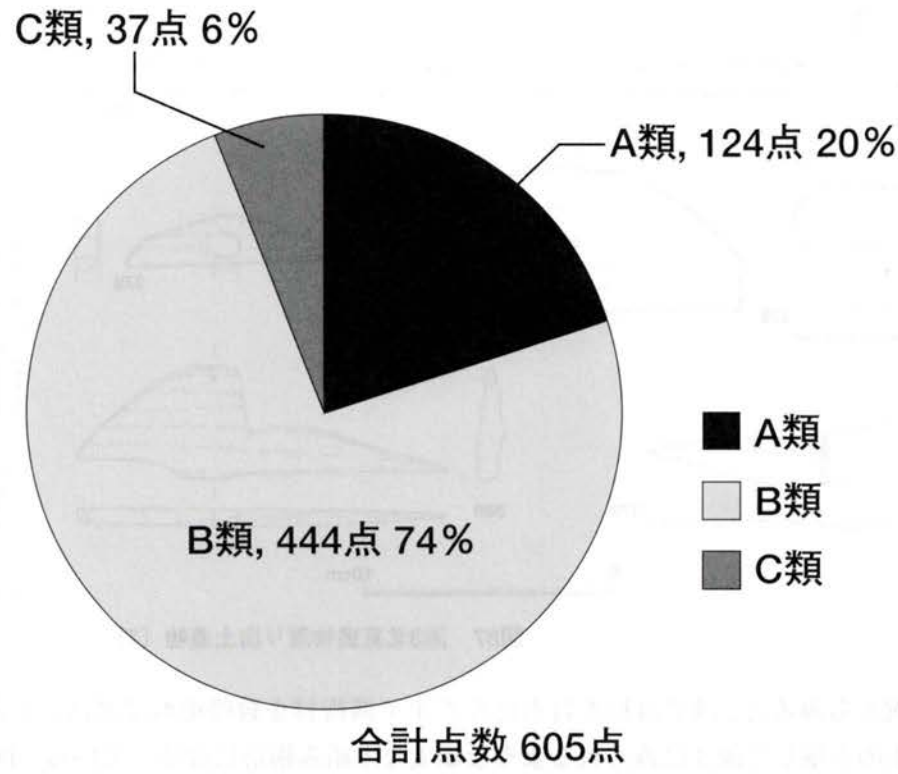


表1　池3北東隅におけるかわらけ出土点数

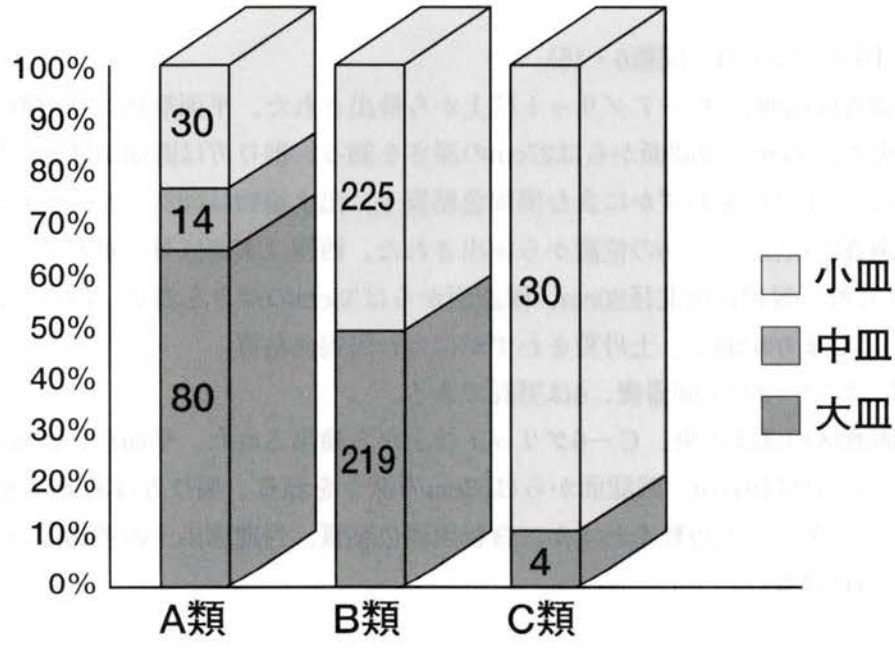
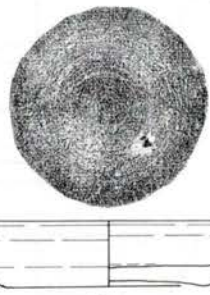


表2　池3北東隅の各かわらけ器種別出土点数

A類

《A類成形・整形技法の特徴》



A3

①内外面はロクロ成形時の引き上げ痕を明瞭に留める。

②外底面はロクロ上の粘土塊から回転を利用して糸で切り離した時の糸切痕を残すが、スノコ状の痕跡はみられない。

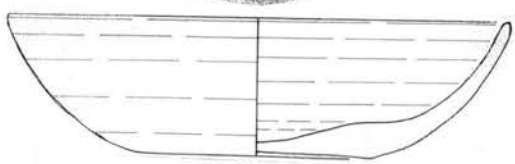
③内底面はナデを施さず無調整であり、ロクロ目を残したままの中央部が凹状に窪む資料が多くみられる。

④薄手の器壁に仕上げている。

外面

内面

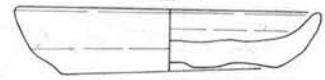
A2



A1

B類

《B類成形・整形技法の特徴》

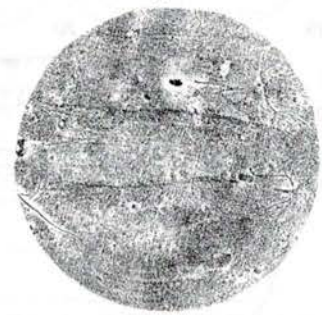


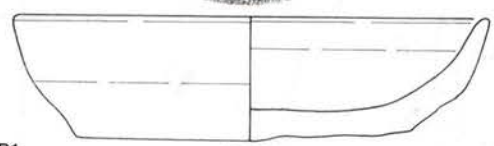
B3

⑤内外面はロクロ成形時の引き上げ痕を留める。

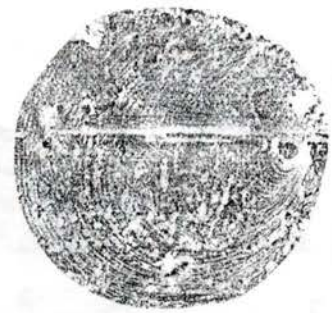
⑥外底面はロクロ上の粘土塊から回転を利用して糸で切り離した時の糸切痕と、乾燥時に転写したスノコ状の痕跡を残している。

⑦内底面は粗くヨコナデを施しロクロ目が消去され、底部がほぼ一定の厚さに仕上げている。





B1



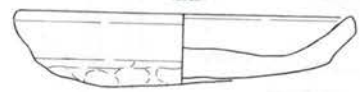
C類

《C類成形・製成技法の特徴》

⑧外面の上半部はヨコナデつけ、下半部は指おしによる指頭圧痕を残し、境界に稜ができる。

⑨内面は見込を平滑にナデ仕上げした後口縁と平行にヨコナデしている。

⑩口唇の面取りは弱く丸味をもつ資料が多くみられる。



C3

図58　池3かわらけ分類図

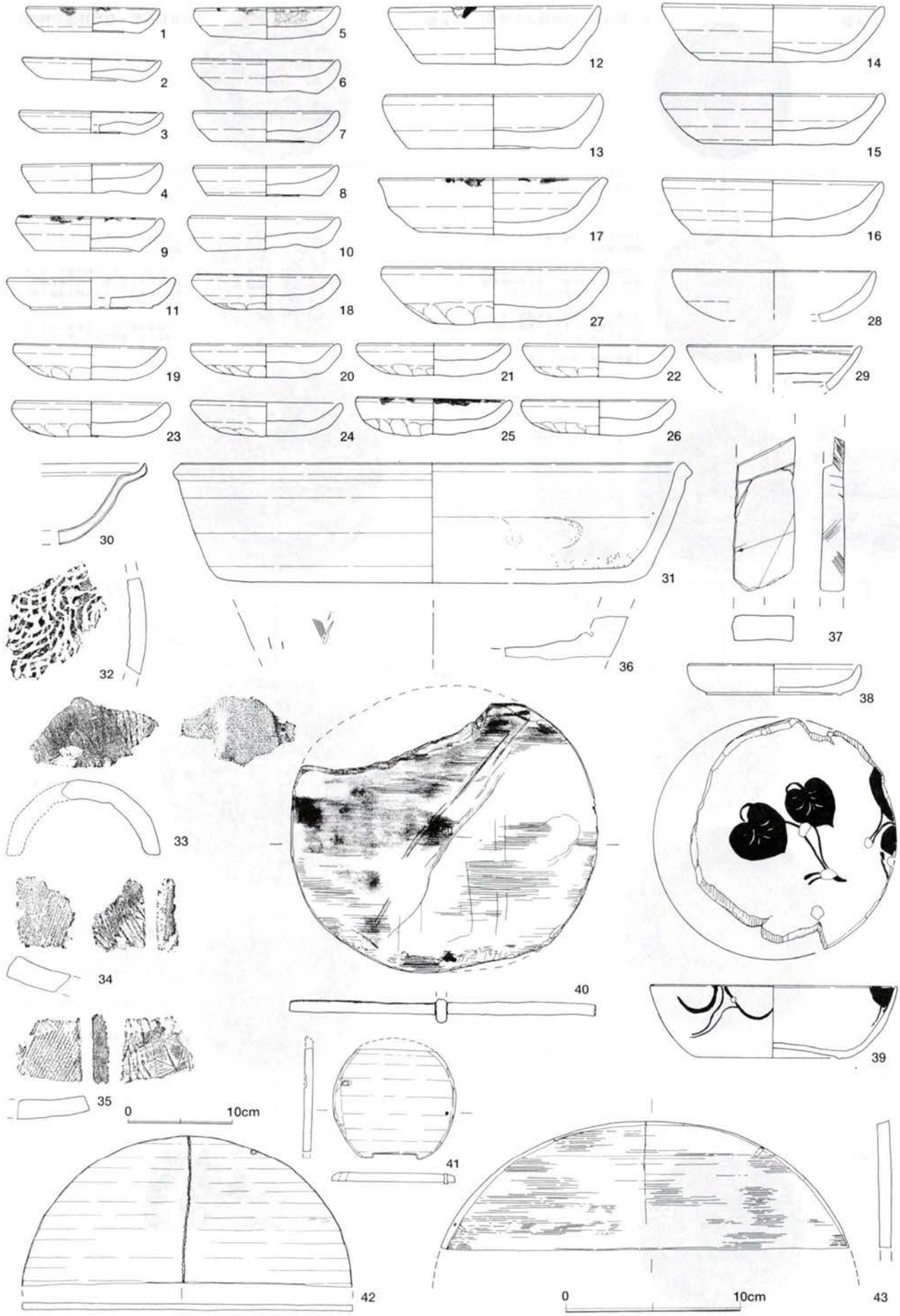


図59　池3裏込中出土遺物（1）

5は男瓦で、P13より出土。6は瀬戸窯製品卸皿で、P16より出土。7は手捏ねかわらけ小皿で、P17より出土。8・9は女瓦で、8はP19より、9はP27より出土。10は須恵器胴部小片、11は女瓦で共にP34より出土。12～16は女瓦で、12はP40、13はP43、14・15はP49、16はP58より出土。17は土師器高坏、18は男瓦で共にP59より出土。図32－19は男瓦、20～22は女瓦でP48より出土。

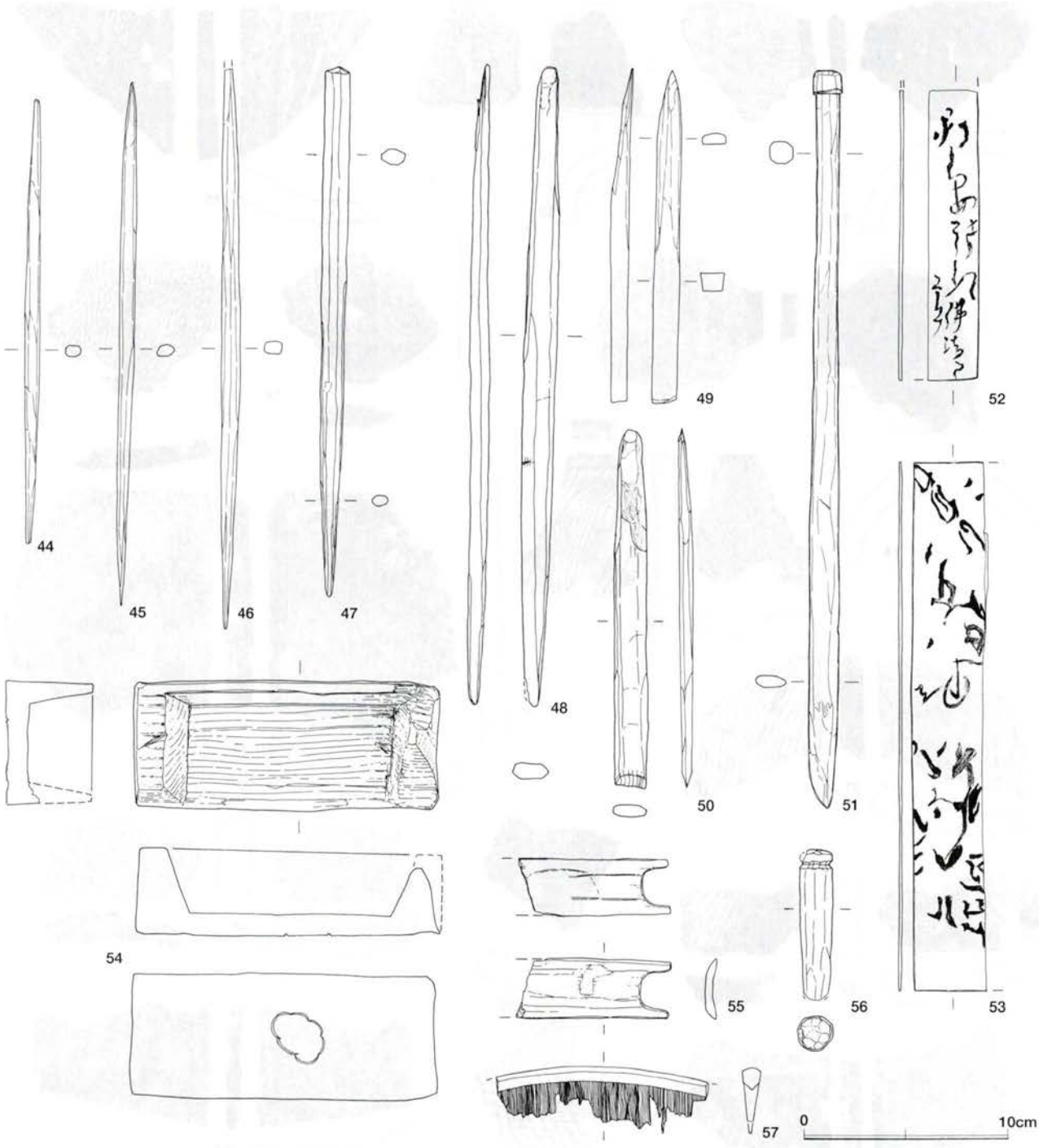


図60　池3裏込中出土遺物（2）

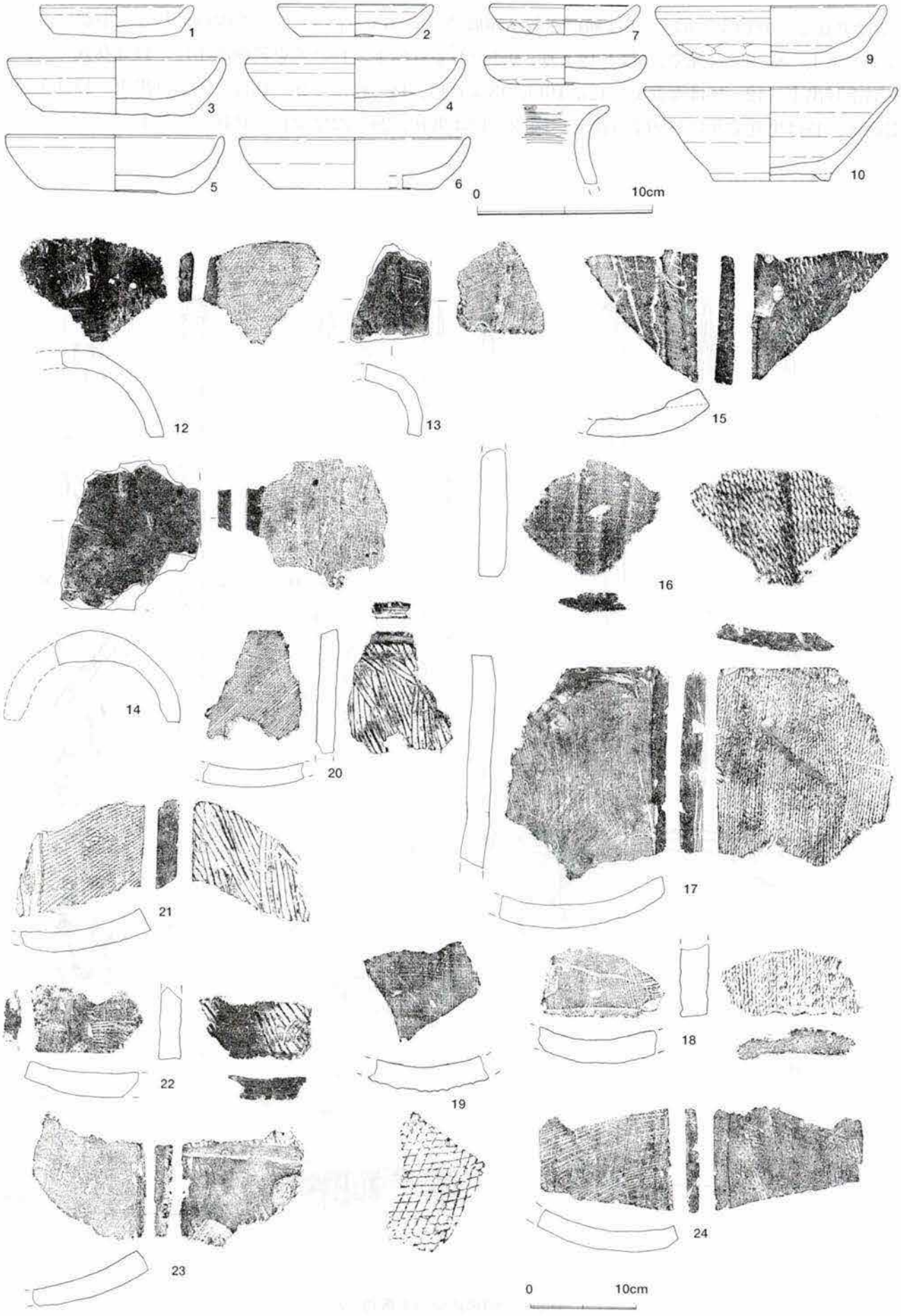


図61　池2出土遺物（1）

D・遺構外出土遺物（図65、図版23）

ここでは、第3b面の面上及び包含層に伴って出土したもので遺構に共伴しない遺物を一括して述べる事にする。図65－1～25はかわらけである。1～21が轆轤成型のかわらけで、1～12は小皿、13～21は大皿である。22～25は手捏ねかわらけで、22～24は小皿、25は大皿である。26～41は龍泉窯系青磁。26～38は鎬蓮弁文碗、39・40は折縁皿、41は香炉である。42～49は白磁。42～47は口兀皿、48は皿、49は小壺である。50～56は青白磁。50・51は小皿で、52には内底面に菊花文を配す。53・54は合子蓋、55は合子身、56は水注である。57～59は舶載褐釉陶器壺、60～62は瀬戸窯製品。60は平碗、61は卸皿、62は折縁深皿。63は北部系山茶碗、64～66は常滑窯製品捏鉢Ⅰ類、67は白かわらけ質灯明台、68は土師器甕、69～71は女瓦である。

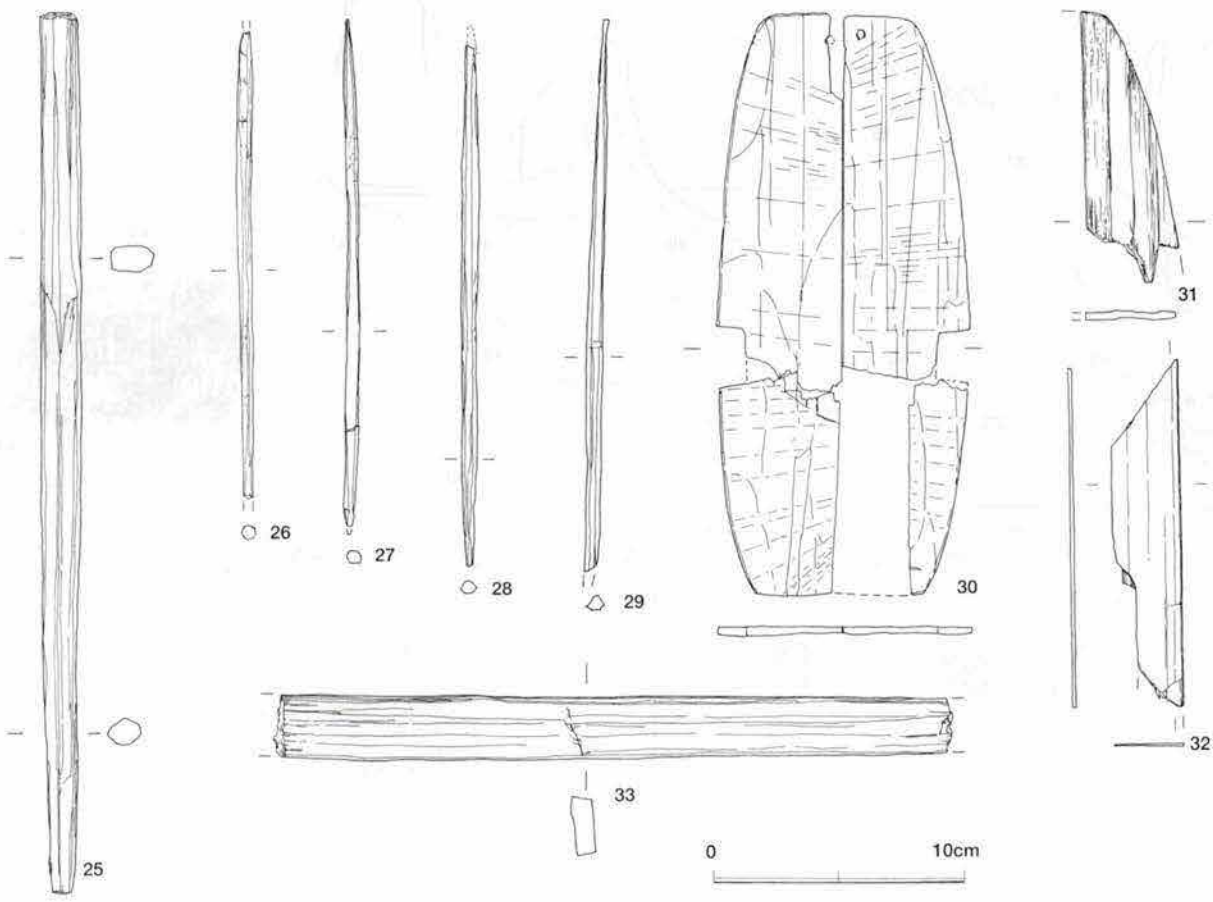


図62　池2出土遺物（2）

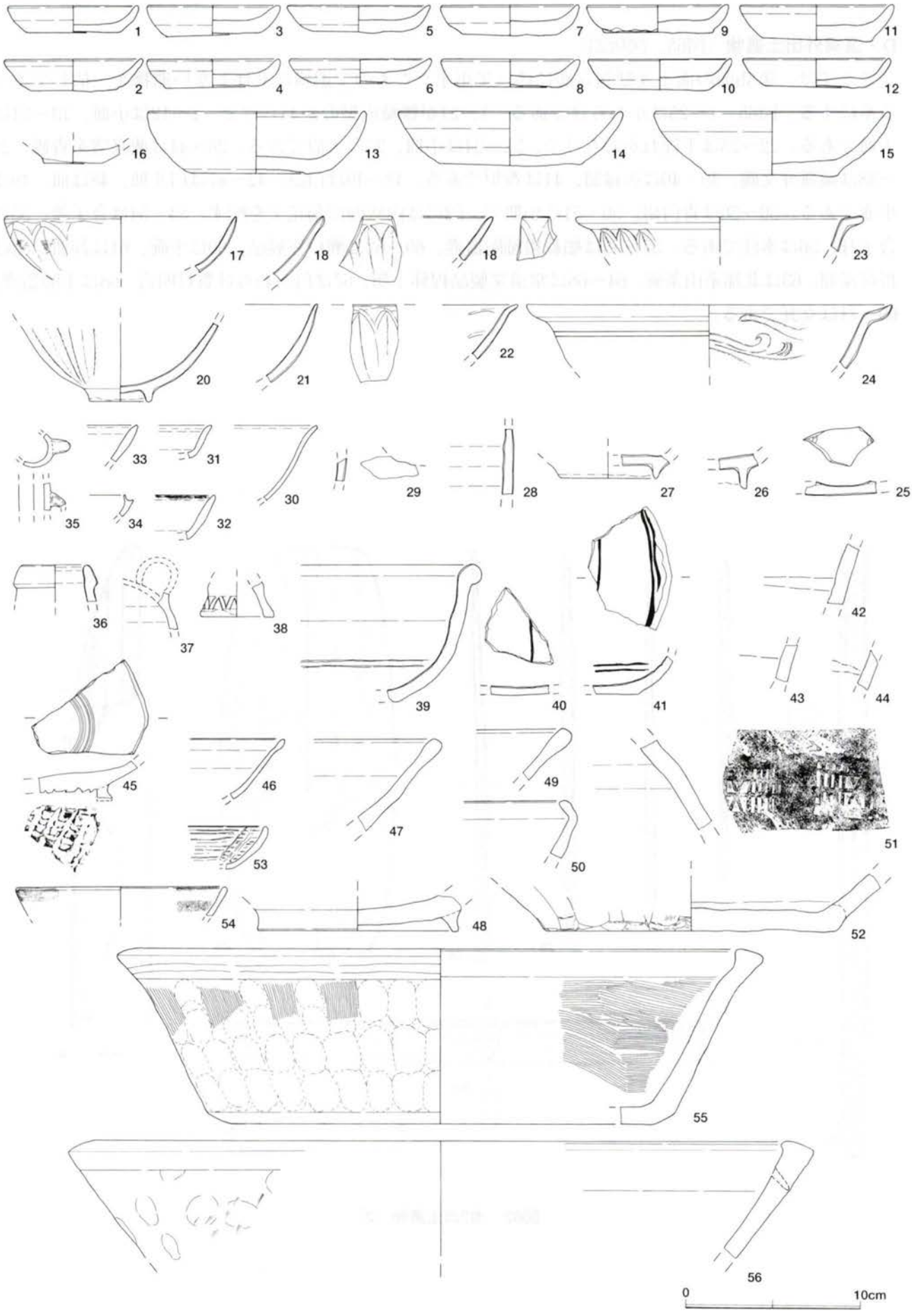


図63　第3a面上出土遺物（1）

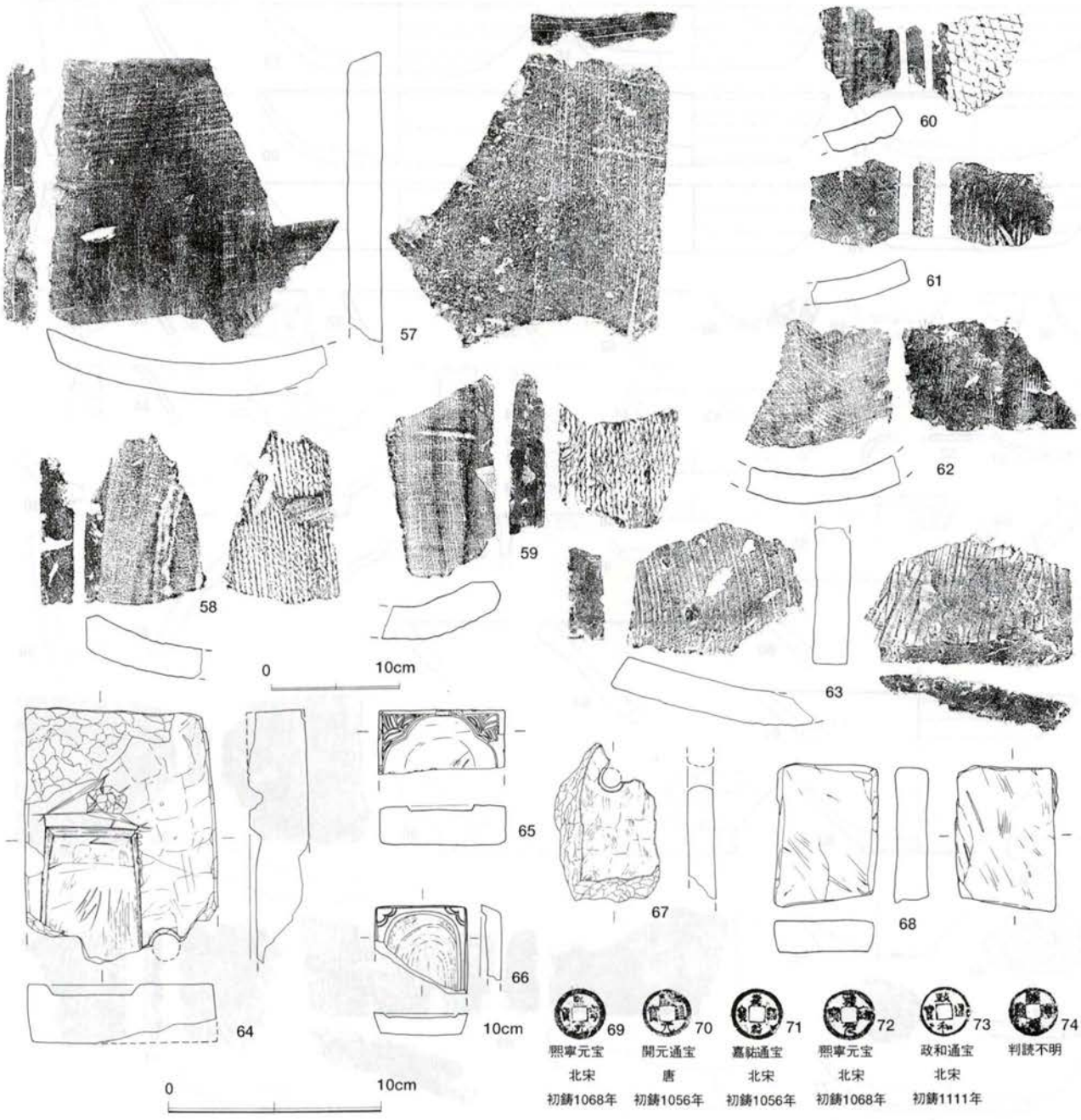
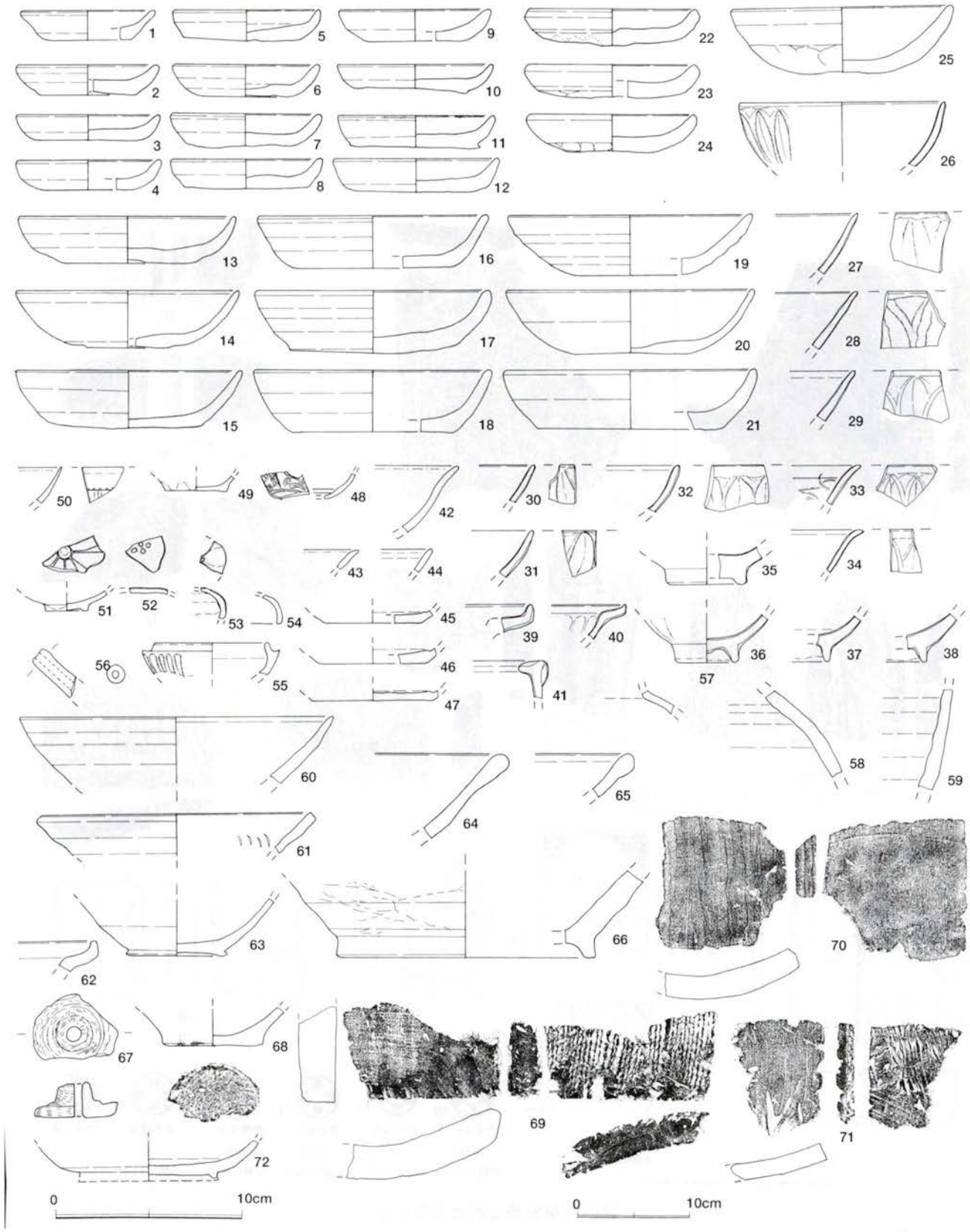


図64　第3a面上出土遺物（2）



※瓦類　S=1/5

図65　第3b面上出土遺物

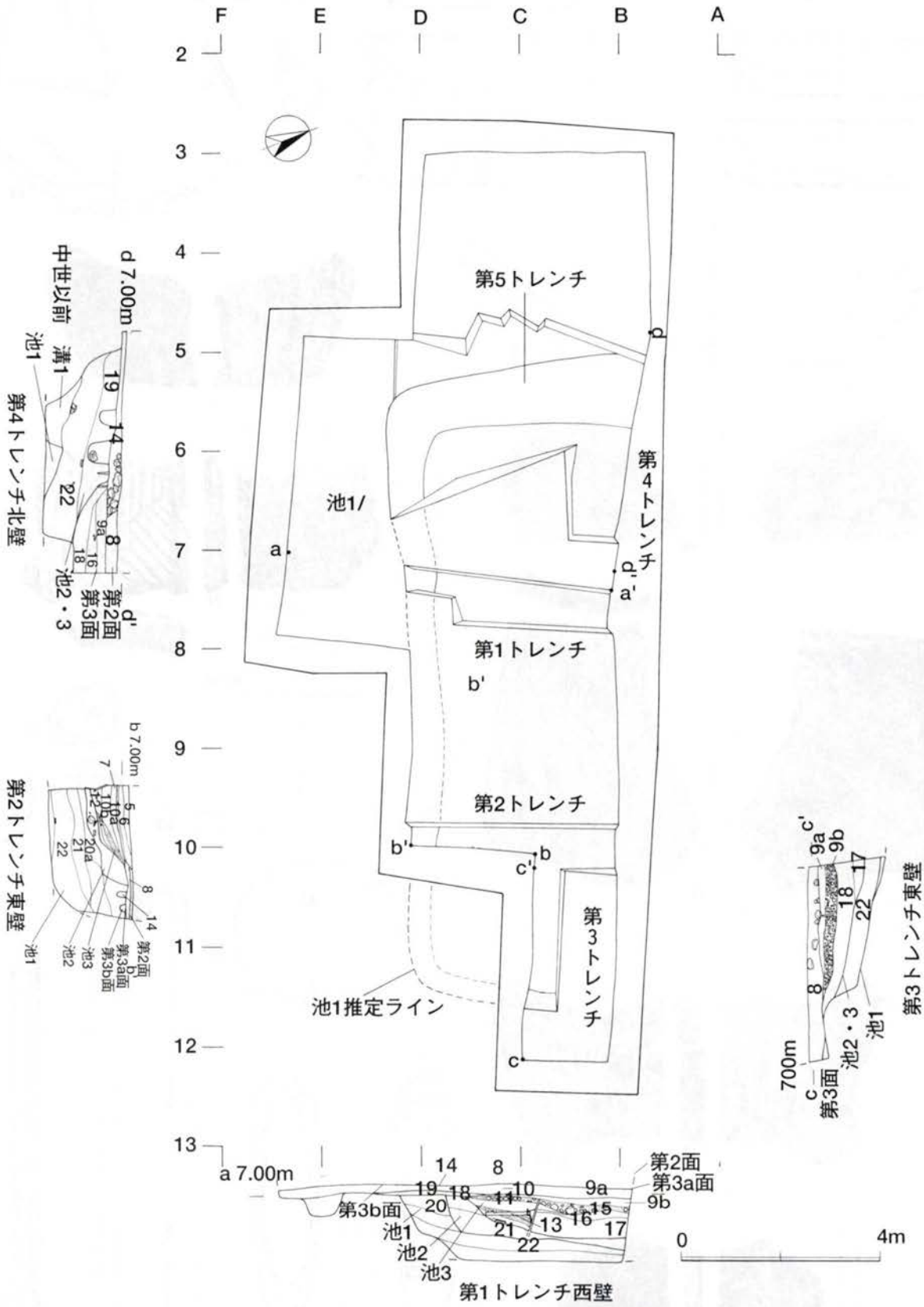

F
E
D
C
B
A
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
第5トレンチ
第4トレンチ
第1トレンチ
第2トレンチ
第3トレンチ
池1
池1推定ライン
a
a'
b
b'
c
c'
d
d'
第4トレンチ北壁
中世以前
溝1
池1
池2・3
第2面
第3面
d 7.00m
第2トレンチ東壁
b 7.00m
第3トレンチ東壁
c 7.00m
第3面
池2・3
池1
a 7.00m
第2面
第3a面
第3b面
池1
池2
池3
第1トレンチ西壁
0
4m

図66　第1～5トレンチ

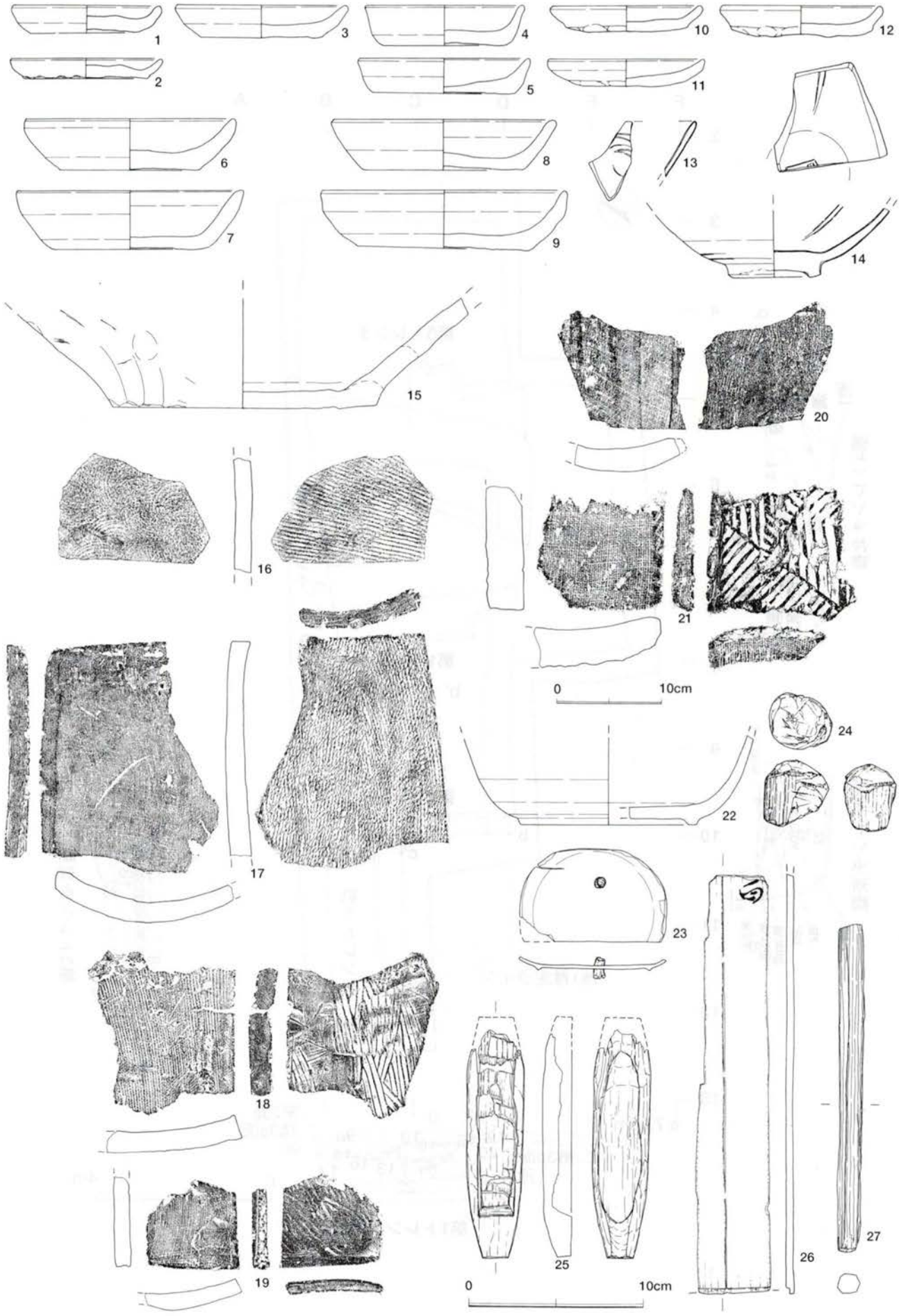


図67　第1トレンチ上層出土遺物

5. トレンチの遺構・遺物

池2調査時に裏込の土を除去した際、土層観察から池2より古い時期の池が存在するのではないかとの推定がなされた。よって第3b面調査終了後にⅠ区に三箇所(第1～3トレンチ)、Ⅱ区に二箇所（第4・5トレンチ）の計五箇所にトレンチを入れたところ、推定通り池2の前身である池1が検出された。

現地表下2.5mまで掘り下げた地点で縄文時代の海進・海退期に形成されたと考えられる波蝕台を検出した。池１の底面は波蝕台の平坦なものである。

また第4トレンチ・第5トレンチからは中世以前の古代に属すと考えられる土壙状の掘り込みと溝などの遺構が検出された。各トレンチからの出土遺物にはかわらけ、青磁・白磁などの舶載磁器、常滑等製品・瀬戸窯製品などの国産陶器、瓦、木製品などがある。

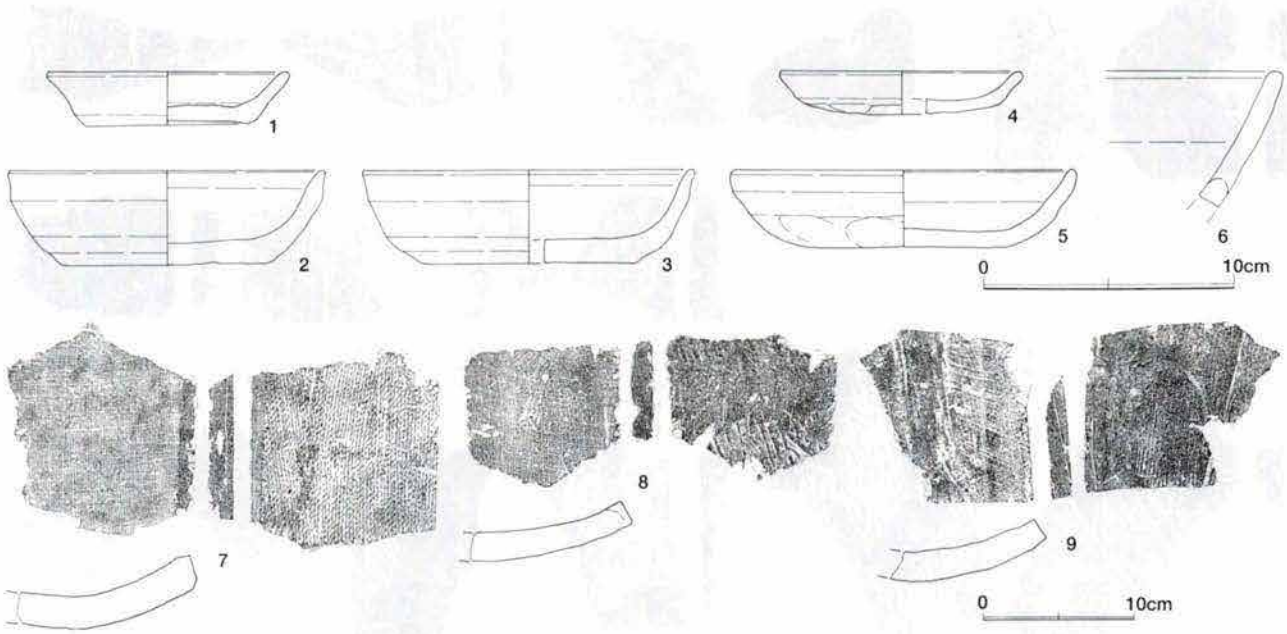


図68　第1トレンチ下層出土遺物

A・第1トレンチ（図66～68、図版10・24）

調査区中央、グリットB～D－7の位置に南北方向にトレンチを入れた。当トレンチからは池1の南限である掘り込みが検出された。池1は中世地山である黒褐色粘質土を掘り込んでおり、池2より南限は南に1mほど拡がる。

出土遺物は上層・下層の二つに分け、それぞれ図67に上層、図68に下層と図示した。図67－1～11はかわらけ。1～9は轆轤成型で、1～5が小皿、6～9が大皿である。10～12は手捏ねかわらけ小皿。14は龍泉窯系青磁碗。内底部に「金玉満堂」か「河濱遺範」の押し印が残る。15は常滑窯製品甕、16～21は女瓦、

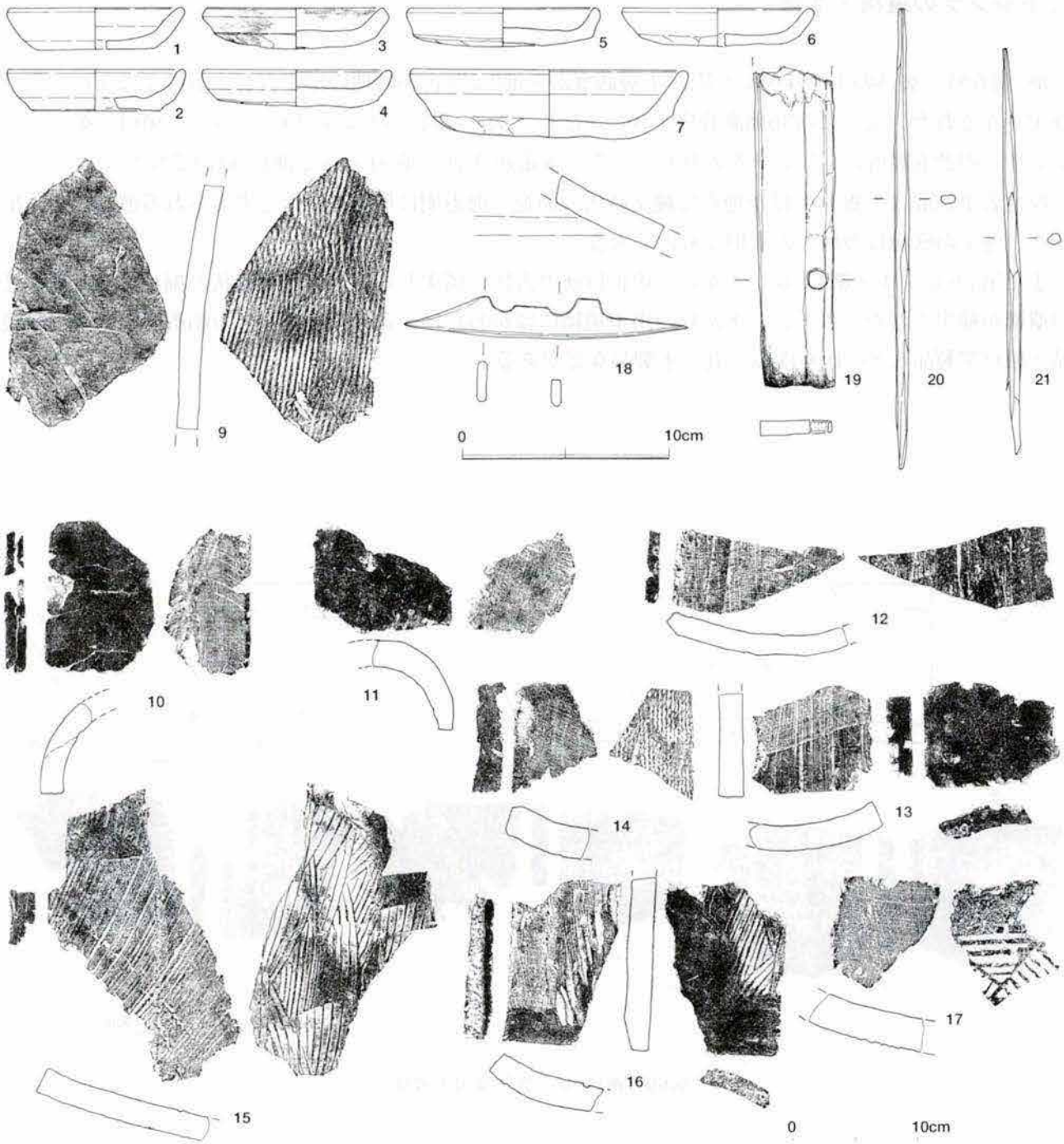


図69　第2トレンチ上層出土遺物

B・第2トレンチ（図66・69・70、図版10・24）

調査区東側、グリット10ライン上に南北方向にトレンチを入れた。当トレンチからは第1トレンチと同様に池1の南限である掘り込みが下場のみ検出された。上場は調査区外に拡がる。

出土遺物は上層・下層の二つに分け、それぞれ図69に上層、図70に下層と図示した。図69－1～7はかわらけ。1・2は轆轤成型のかわらけ小皿、3～6は手捏ねかわらけ小皿、7は大皿である。8は渥美窯製品甕、9～17は女瓦、18・19は用途不明木製品、20・21は箸である。図70－1～8はかわらけ。1～3は轆轤成型のかわらけで、糸切り部が高台状に残る。1は大皿、2・3は小皿で、3には内底部にナデ調整の痕跡がなく、内底部に穿孔がある。4～8は手捏ねかわらけ。4・5は小皿、6～8は大皿。8には内底部から外底部にかけて穴を穿こうとした痕跡が残る。9～12は男瓦、13は女瓦である。

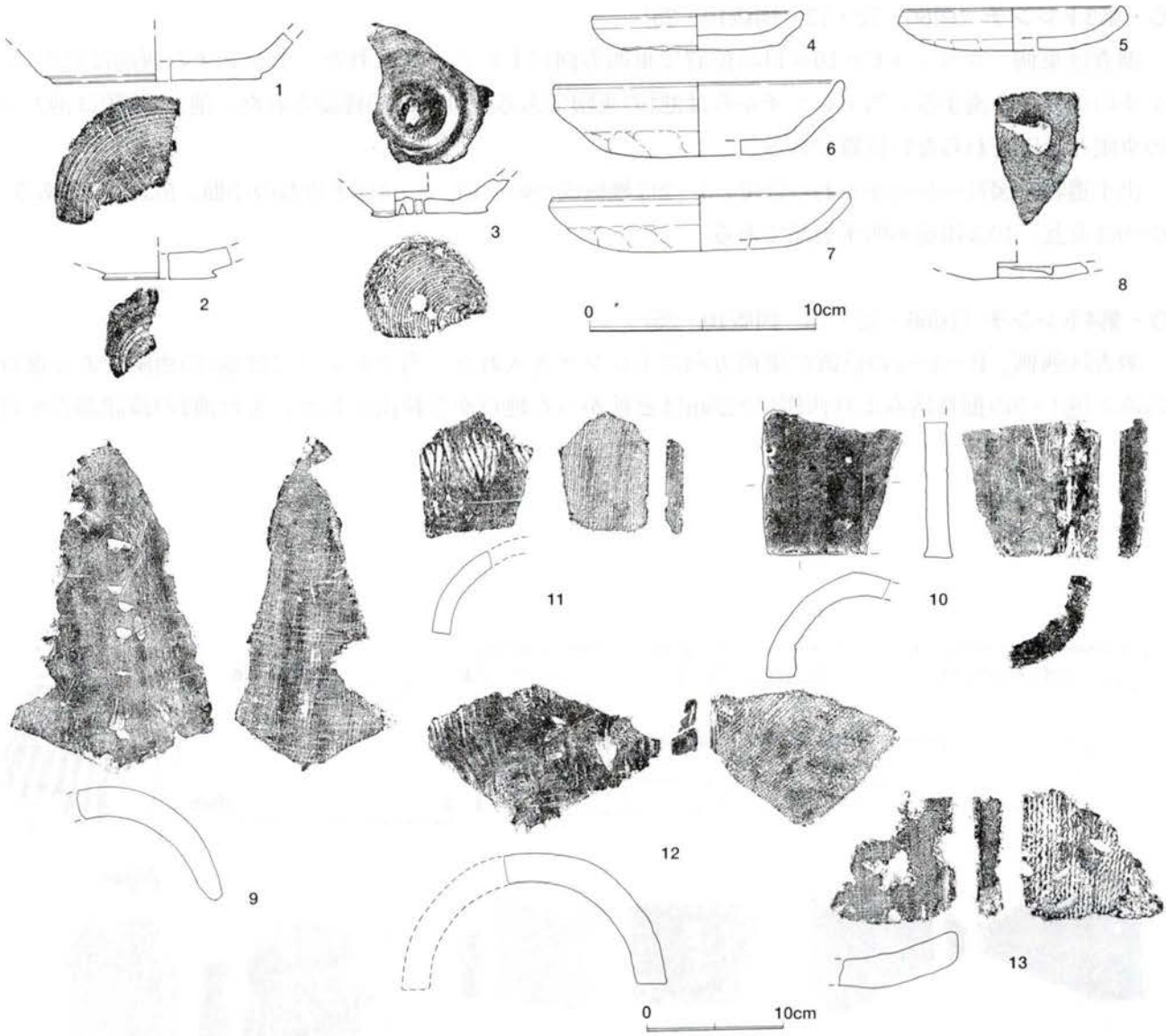


図70　第2トレンチ下層出土遺物

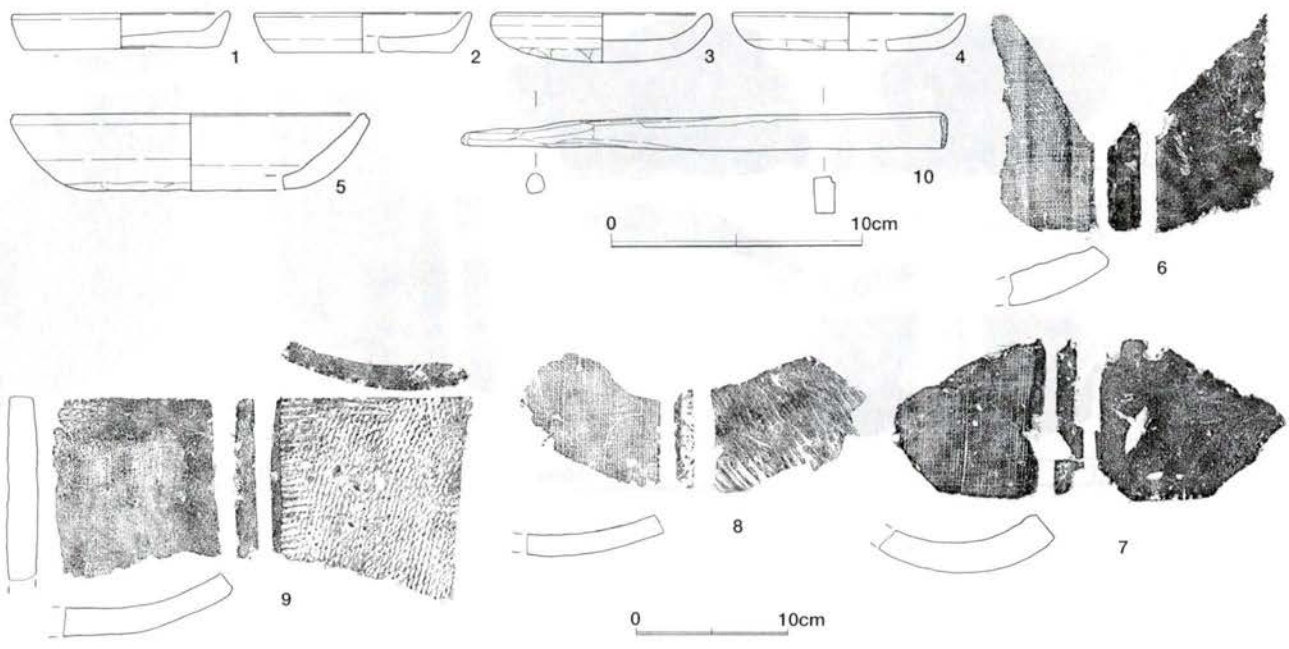


図71　第3トレンチ出土遺物

C・第3トレンチ（図66・72・73、図版10・25）

調査区東側、グリットC－10～11の位置で東西方向にトレンチを入れた。トレンチの西端は第2トレンチの東壁と合流する。当トレンチからは池1の東限である掘り込みが確認された。池1の東限は池2・3の東限とほぼ変わらない位置である。

出土遺物は図71－1～5がかわらけで、1・2は轆轤成型の小皿、3・4は手捏ねの小皿、5は大皿である。6～9は女瓦、10は用途不明木製品である。

D・第4トレンチ（図66・72・73、図版10・25）

調査区西側、B－5～7の位置に東西方向にトレンチを入れた。当トレンチでは池1の西限である掘り込みが池2・3の掘り込みより西側に2.26mほど拡がった地点から検出された。また池1の確認調査を終

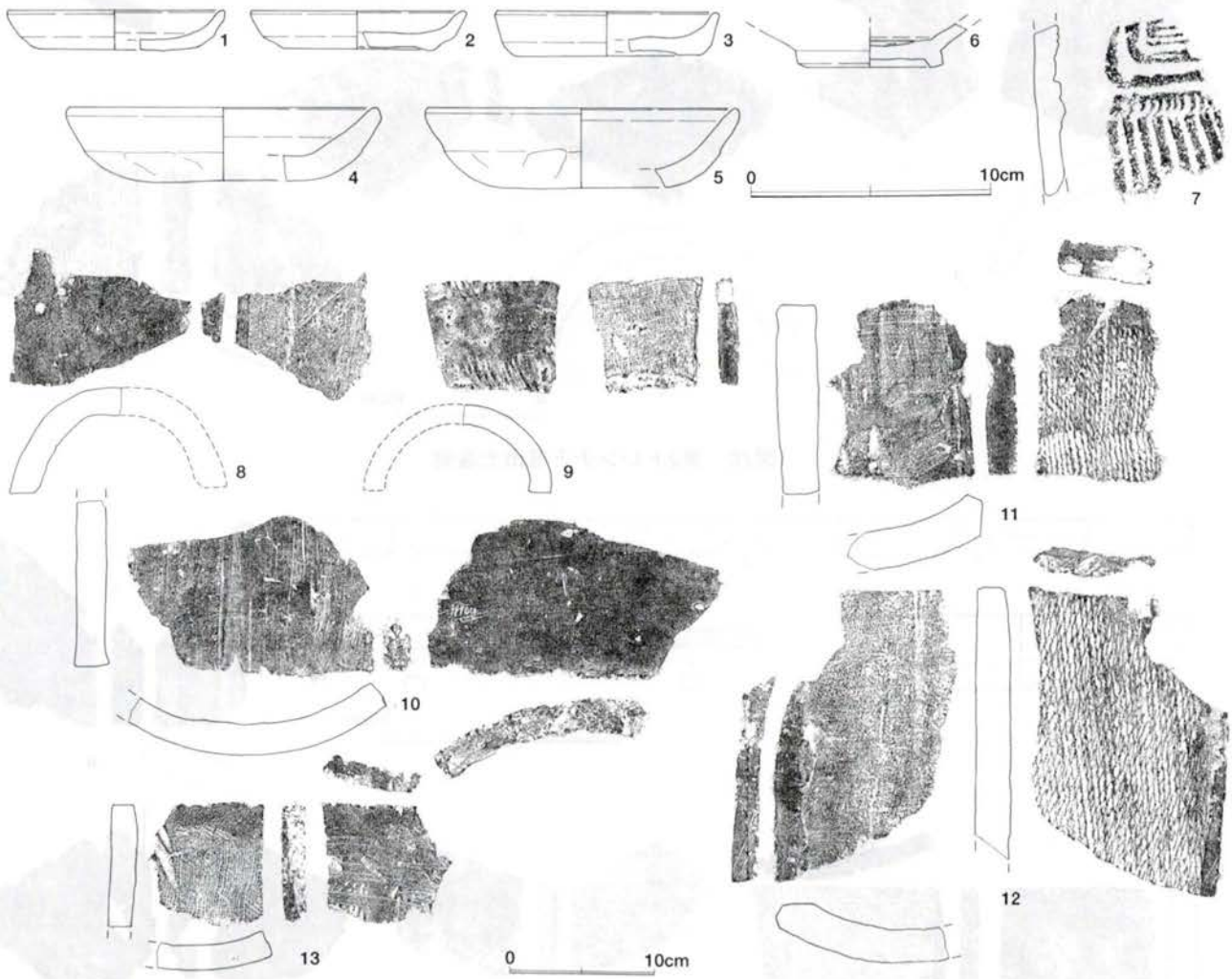


図72　第4トレンチ上層出土遺物

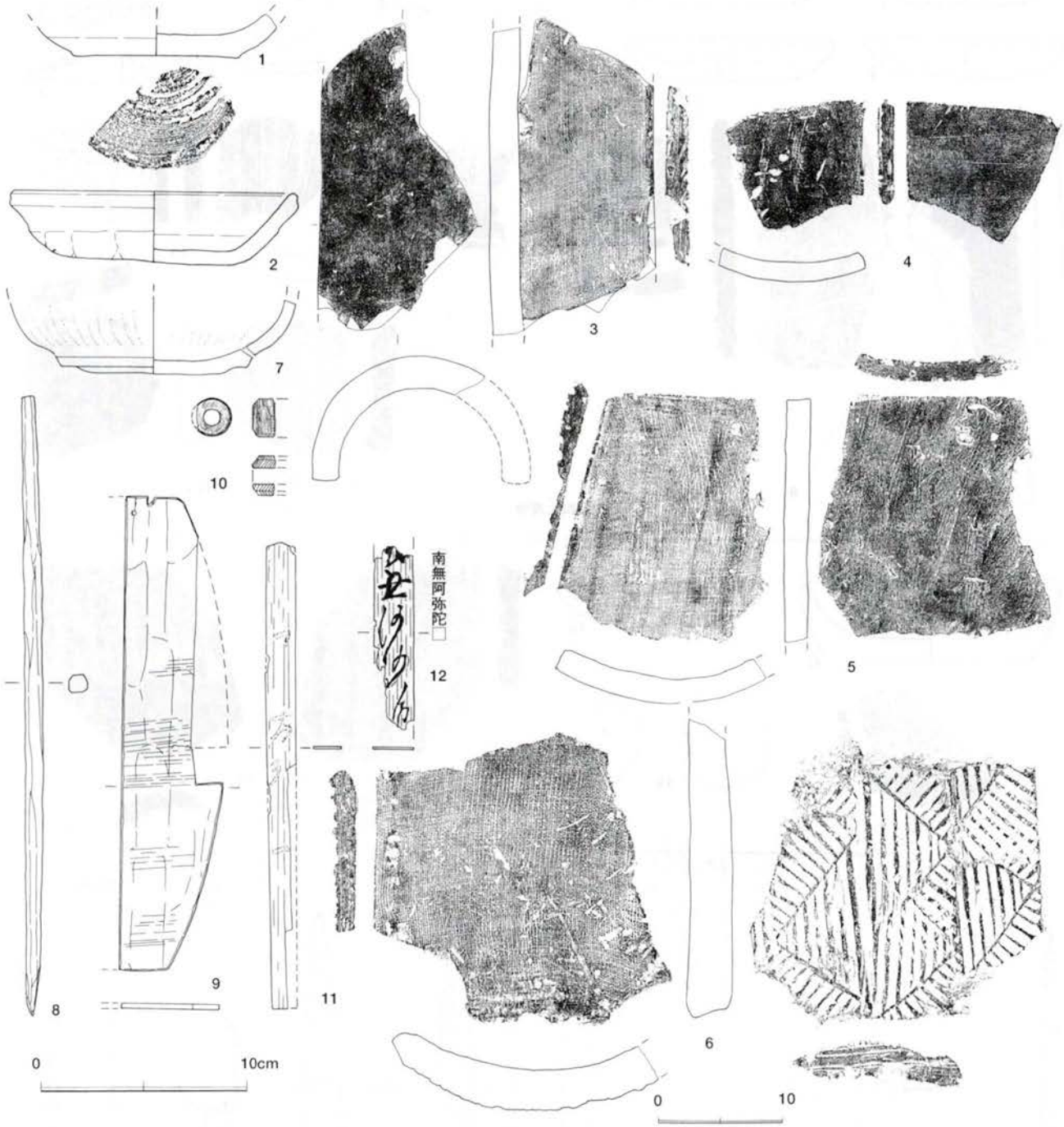


図73　第4トレンチ下層出土遺物

了し、掘り下げた時点で古代と考えられる中世以前の遺構を検出した。これら中世以前の遺構は第5トレンチからも検出されているので、次節にて改めて記載する。

出土遺物は上層・下層の二つに分け、それぞれ図72に上層、図73に下層と図示した。図72－1～5はかわらけ。1～3が轆轤成形の小皿、4・5が手捏ねの大皿である。6は白磁の玉縁碗、7は縄文式土器、8・9は男瓦、10～13は女瓦である。図73－1は轆轤成型のかわらけ大皿、2は手捏ねのかわらけ大皿、3は男瓦、4～6は女瓦、7は木製碗、8は菜箸、9は金剛草履板芯、10は用途不明木製品、11は。頂部を圭頭状に切り出し、上面に墨痕とおぼしきものが認められるが判読不明。12は柿経と思われる木製品。上面に「_無阿弥陀_」と墨書されており、おそらくは「南無阿弥陀仏」と書かれていたのであろう。

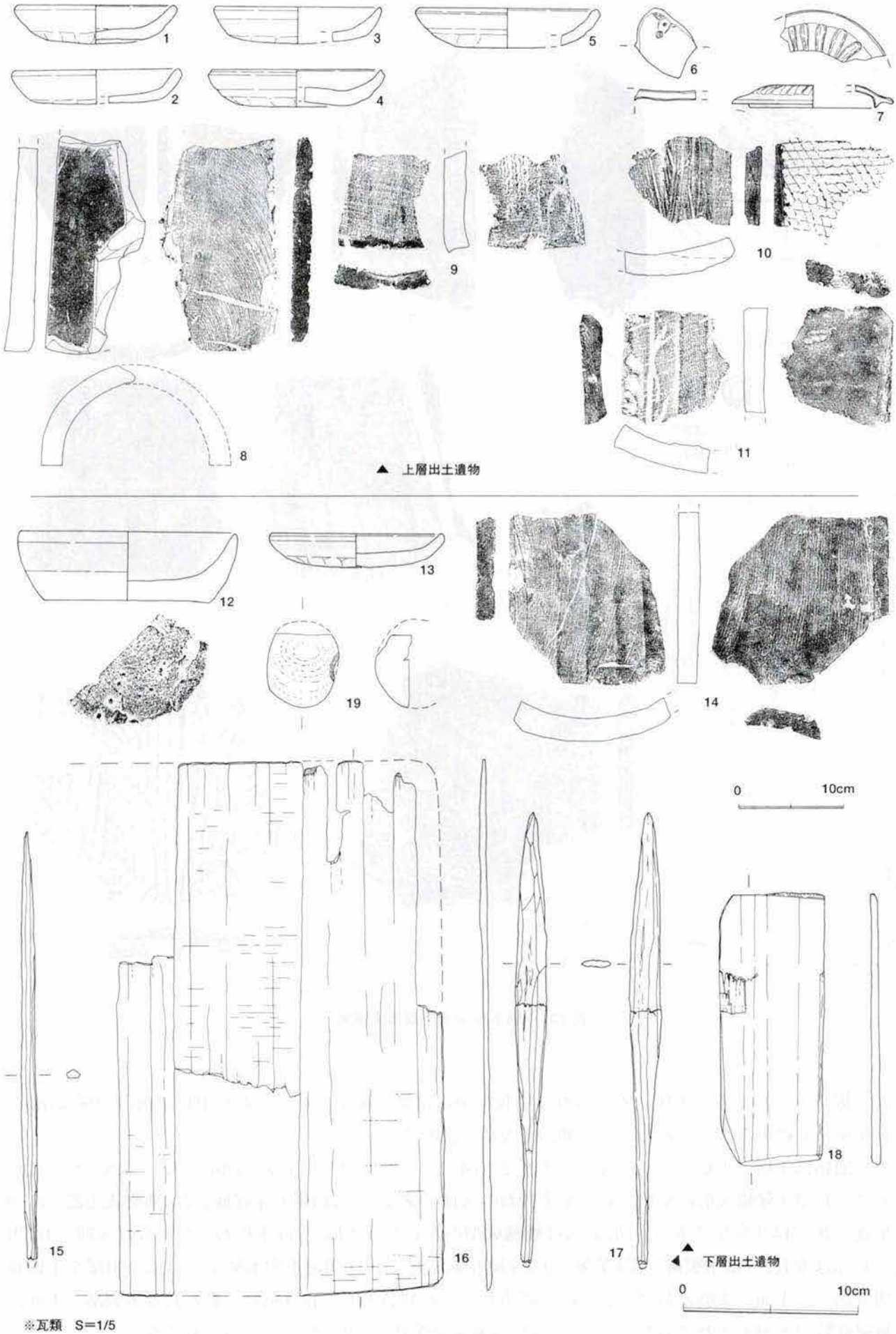


図74　第5トレンチ上層・下層出土遺物

E・第5トレンチ（図66・74、図版10・26）

第1トレンチで池1の南限を、第4トレンチで西限を確認したため、池1の南西隅の状況を確認する為に調査区西側、グリットA～D－5～6の位置で南北方向にトレンチを入れた。当トレンチからは池1の南西隅が検出された。また第トレンチと同様、池1の確認調査を終了し、掘り下げた時点で古代と考えられる中世以前の遺構を検出した。

出土遺物は上層・下層の二つに分け、それぞれ図74に図示した。図74－1～11が上層出土遺物、12～18が下層出土遺物である。1～5は手捏ねかわらけ小皿、6は龍泉窯系青磁折縁皿、7は青白磁蓋、8は男瓦、9～11は女瓦。12は轆轤成型のかわらけ大皿、13は手捏ねかわらけ小皿、14は女瓦、15は箸、16は折敷、17は筥状木製品、18は用途不明木製品、19は毬杖の玉と思われる木製品。

F・池（図66、図版11）

池1

グリット：調査区中央～東側に位置し、B～D－5～12

深さ：池2・3に削平されていたが、第3b面から深さ140cm程である。

概要：1区池2の掘り方裏込を調査していた際、掘り方壁面を観察すると、当初は中世基盤層と思われた地層中に中世遺物が含まれていることが確認された。そこで第3b面の調査終了後に第1～5トレンチを設定して遺構確認を実施したところ、先述したように各トレンチで池2・3より先行した遺構で中世地山を掘削した落ち込みが検出された。池1は中世基盤層となる黒褐色粘質土より掘り込まれた遺構であり、等遺跡で検出された池跡を含めた中世遺構群の中で最も古いものと考えられる。

この遺構は、池2・3に見られた杭や土留板といった痕跡が認められないことから木組構造をもたない素彫りの造作であったと推測される。池底は縄文時代の海進・海退期に自然形成されたと推測できる波食台と、その上に自然堆積した海砂層から構成されており、海抜標高は5.5m前後である。

なお、池1出土遺物については先述した各トレンチのものである。

6. 中世以前の遺構・遺物

Ⅱ区第4トレンチ及び第5トレンチで検出された池1掘り方の確認調査を実施した際、明らかに中世基盤層中と、その下に自然堆積した海砂層まで掘り込んだ中世以前に属する遺構が確認されたので、トレンチを拡張して遺構検出を行った。その結果、中世遺物を含まない古代遺構の土壙状遺構4基と溝状遺構1条を検出した（図75・76）。それに伴う出土遺物は土師器、須恵器、瓦類（図77～86）などである。

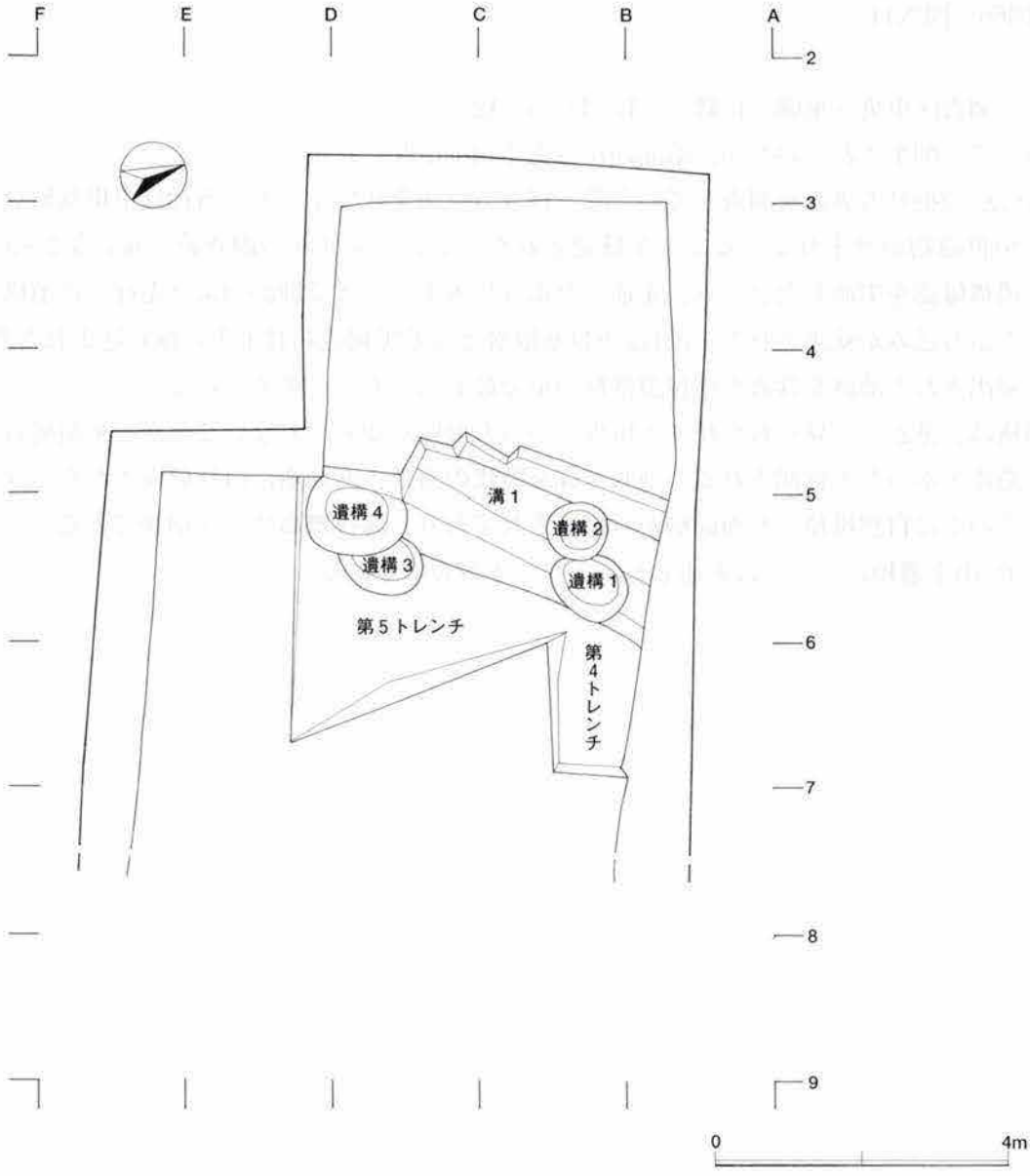


図75　中世以前遺構

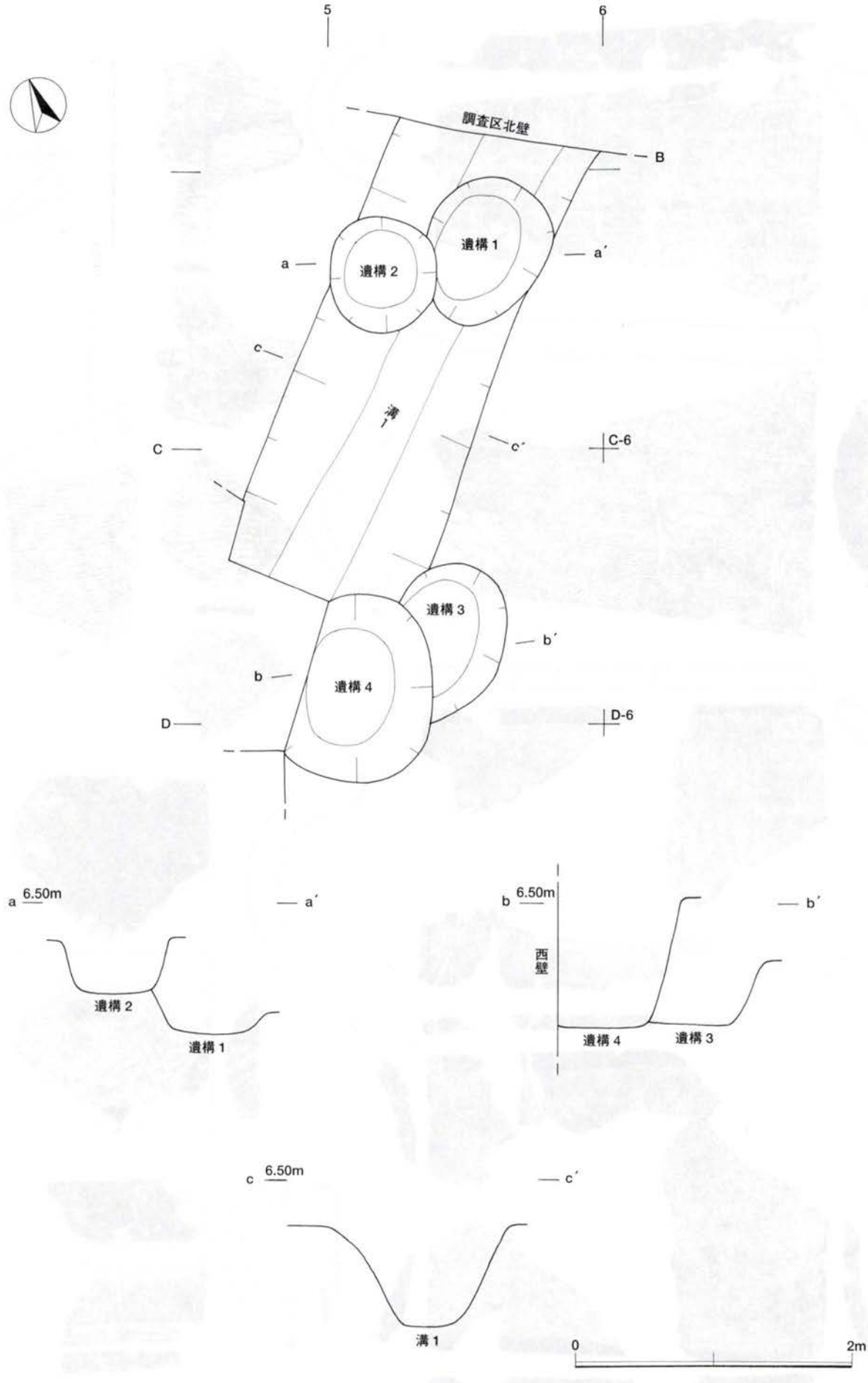


図76　中世以前遺構1～4・溝1

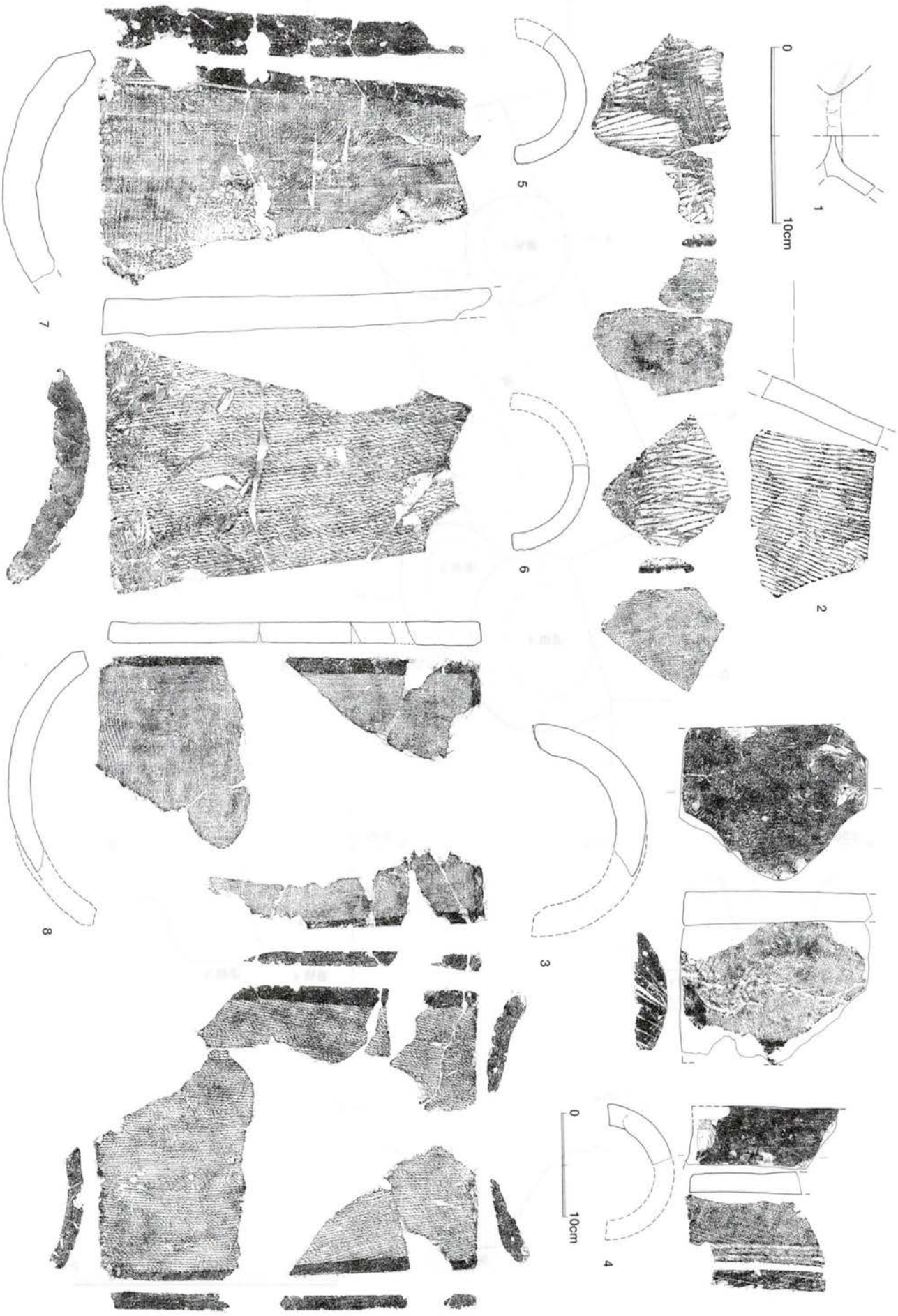


図77　中世以前遺構1出土遺物（1）

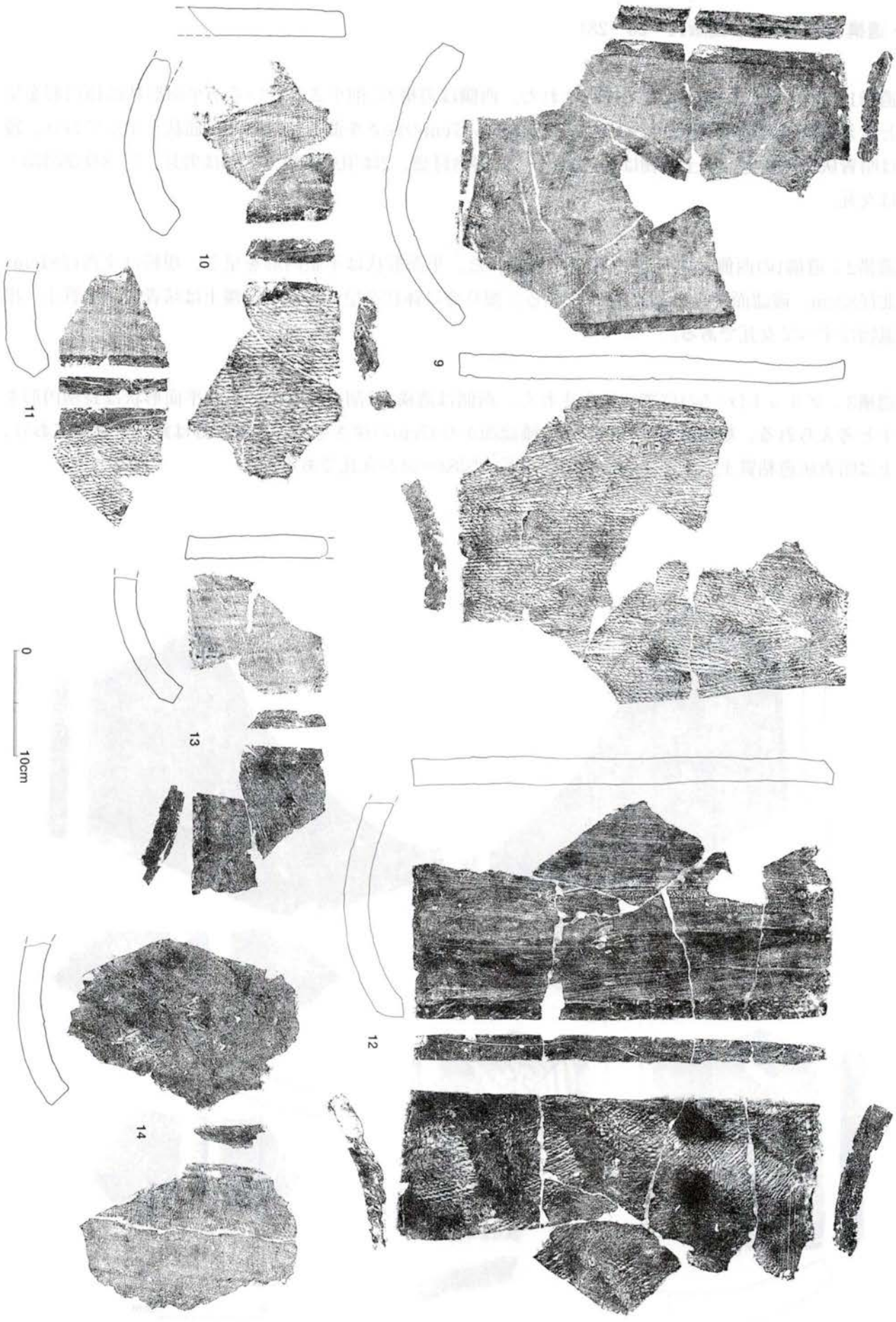


図78　中世以前遺構1出土遺物（2）

A・遺構（図75～85、図版11・26～28）

遺構1：グリットB－6の位置で検出された。西側は遺構2に削平されているが平面形状は楕円形を呈すと考えられる。規模は南北径93cm、確認面から17cmの深さを測る。掘り方は皿状を呈しており、覆土は暗青灰色粘質土。出土遺物は図77－1が土師器台付甕、2は須恵器甕、3～6は男瓦、7・8及び図78・79は女瓦。

遺構2：遺構1の西側、B－5の位置で検出された。平面形状は不整円形を呈し、規模は東西径81cm、南北径83cm、確認面から41cmの深さを測る。掘り方は鉢状を呈しており、覆土は暗青灰色粘質土。出土遺物はすべて女瓦である。

遺構3：グリットD－5の位置で検出された。西側は遺構4に削平されているが平面形状は長楕円形を呈すと考えられる。規模は南北径104cm、確認面から47cmの深さを測る。掘り方は鉢状を呈しており、覆土は暗青灰色粘質土。出土遺物は図81が男瓦、図82～84が女瓦である。

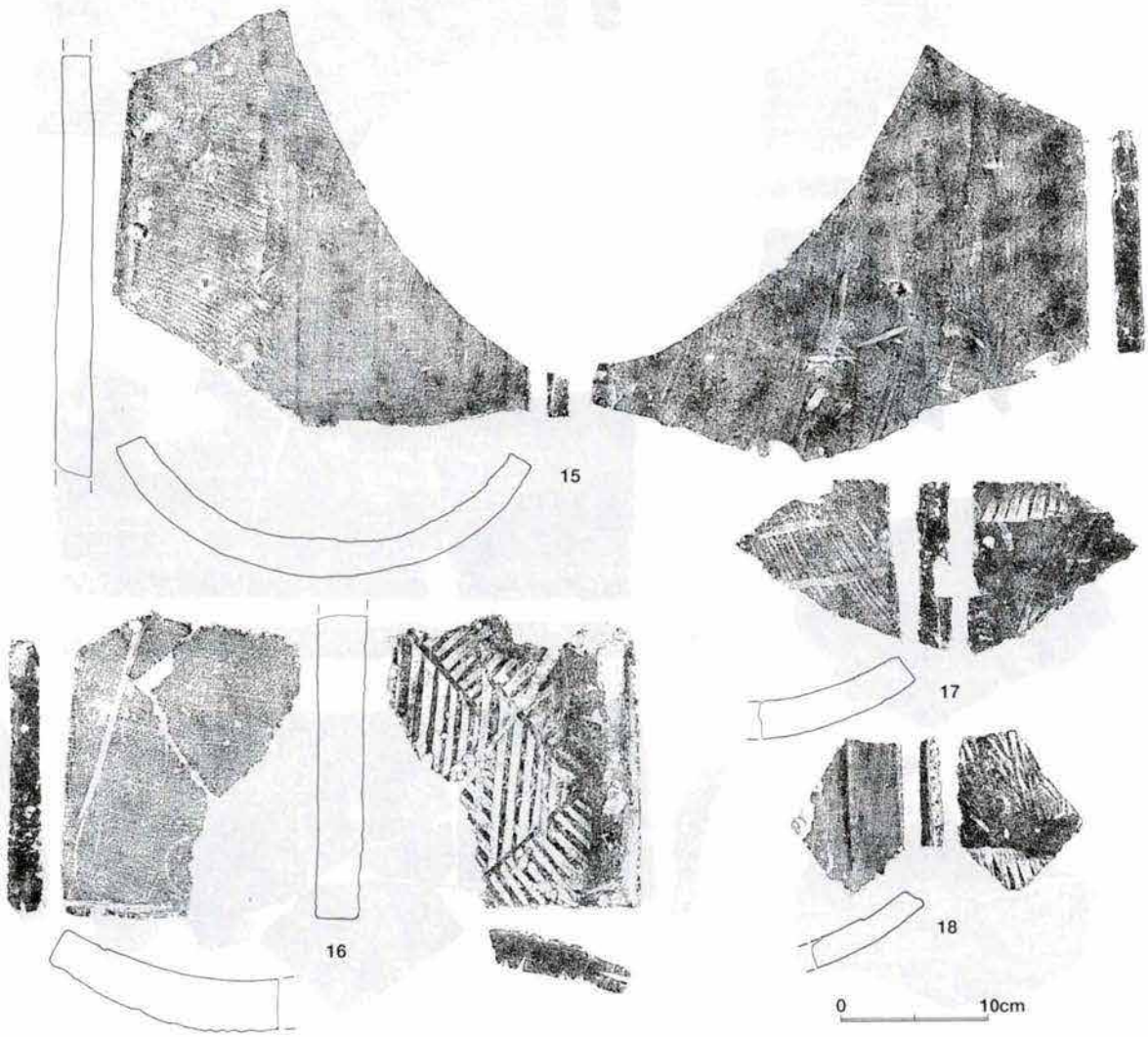


図79　中世以前遺構1出土遺物（3）

遺構4：遺構3と同様D－5の位置で検出された。東側は遺構3を掘削し、西側はトレンチ外に拡がっている。規模は南北径137cm、深さ96cmの深さを測る。掘り方は逆台形状を呈しており、覆土は暗青灰色粘質土。出土遺物は図85－1～3が男瓦、4～16が女瓦である。

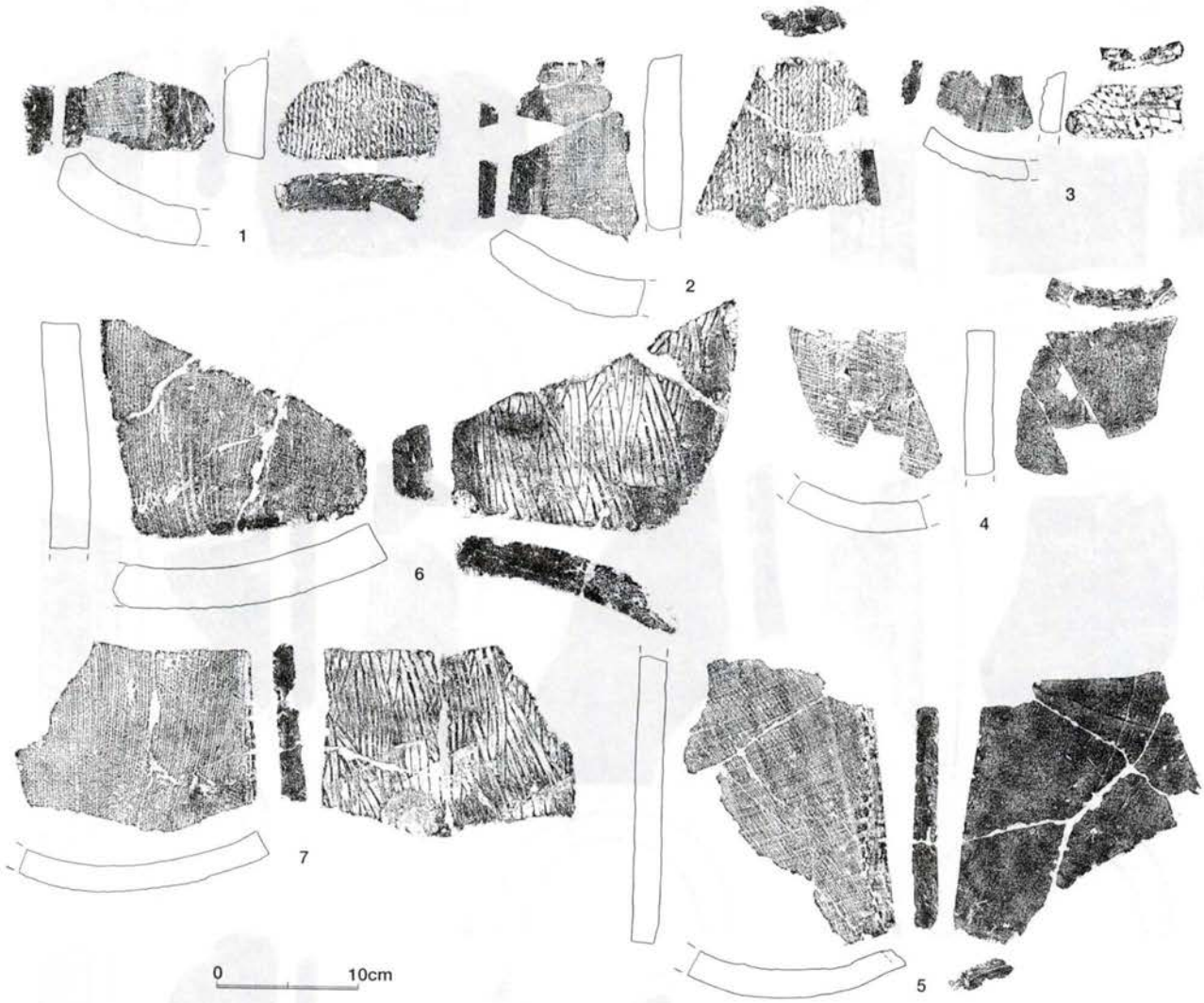


図80　中世以前遺構2出土遺物

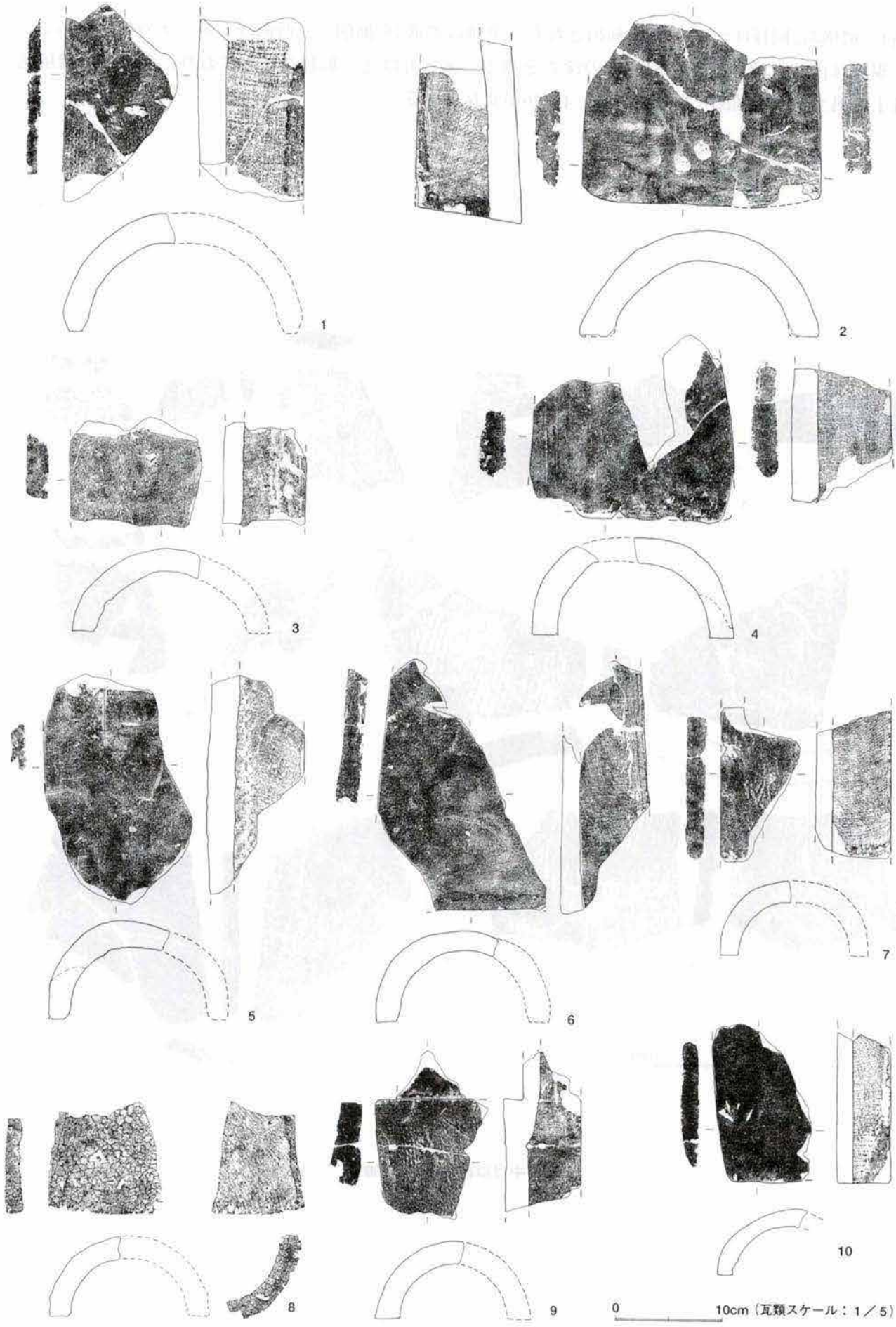


図81　中世以前遺構3出土遺物（1）

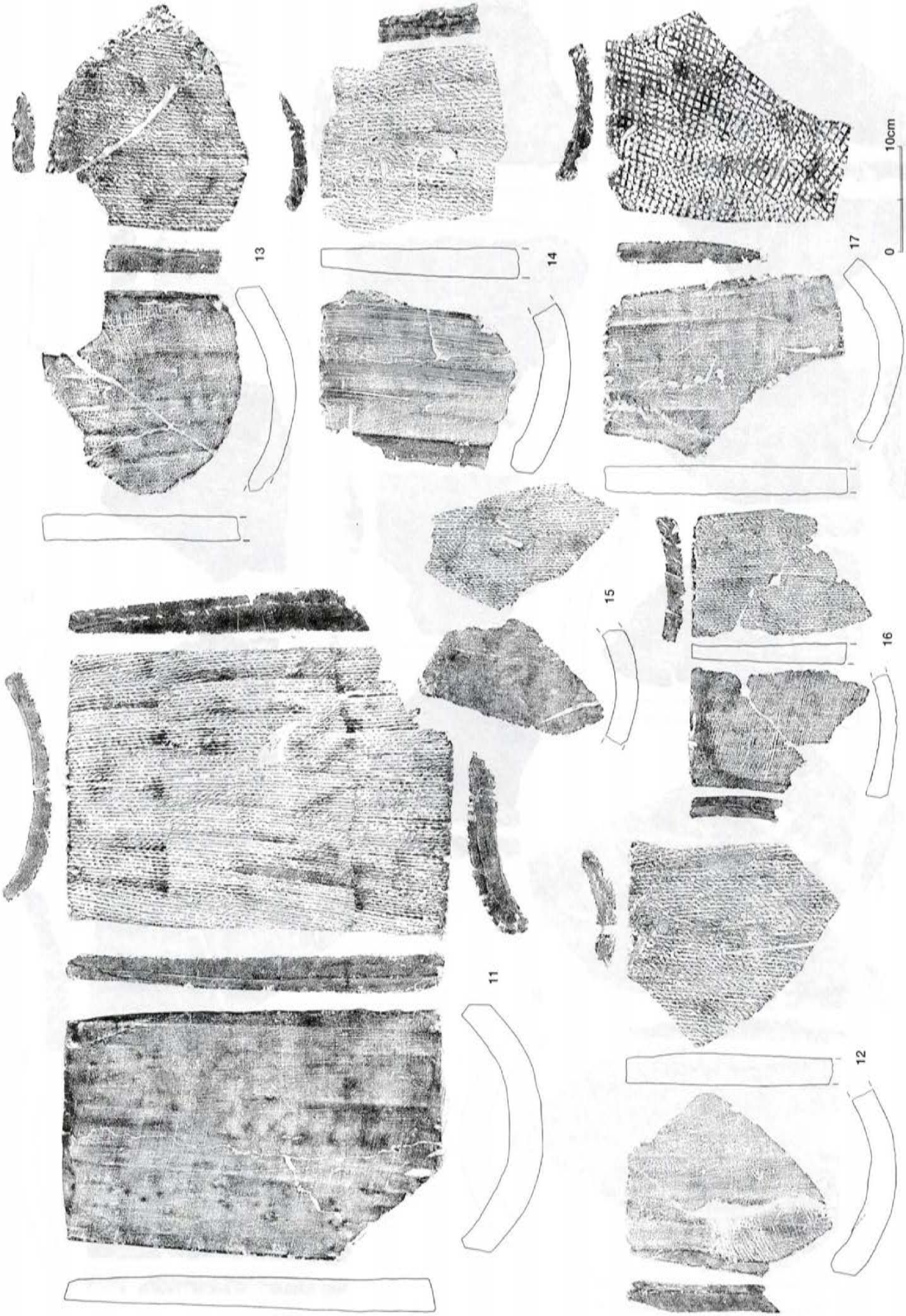


図82　中世以前遺構3出土遺物（2）

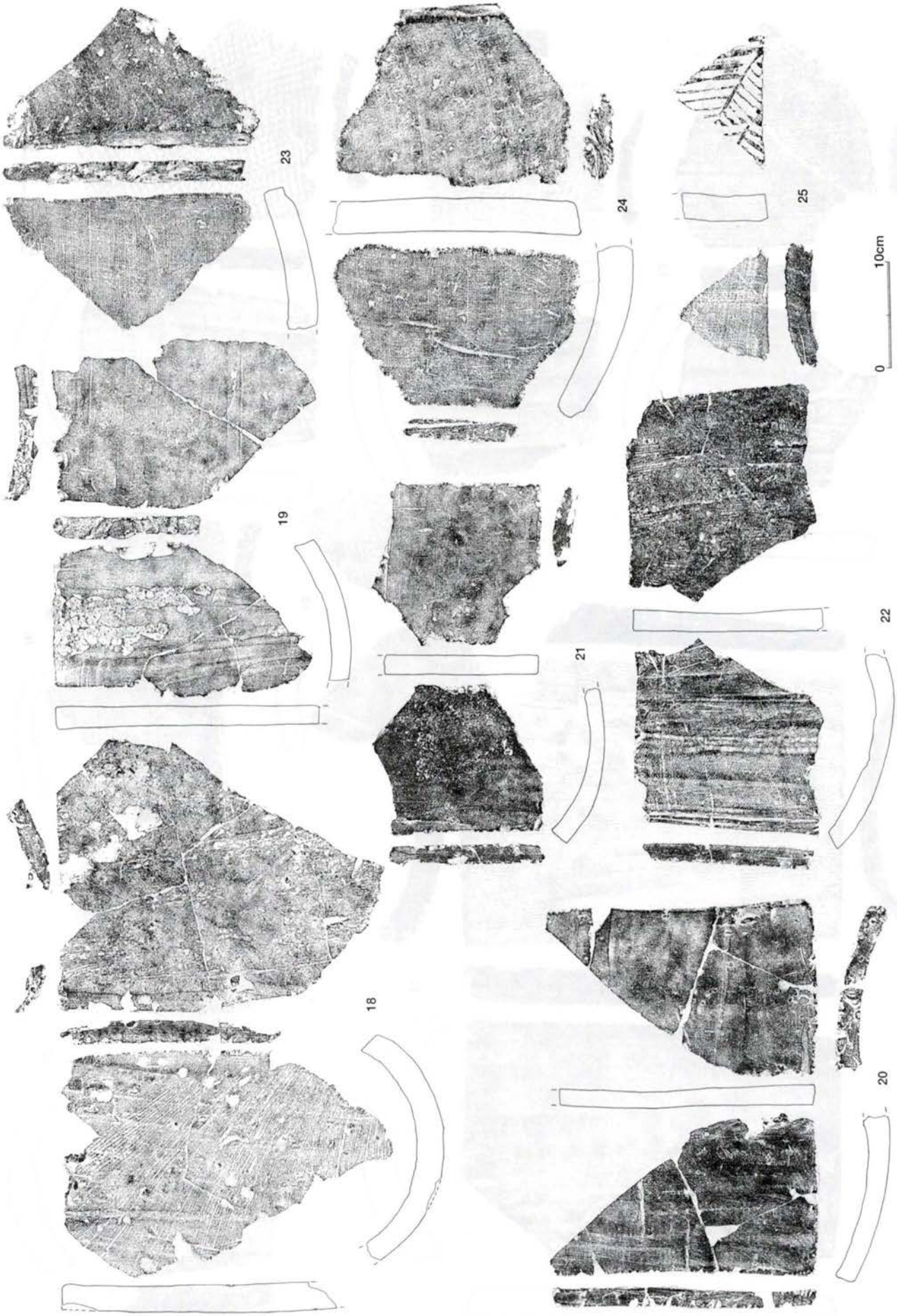


図83　中世以前遺構3出土遺物（3）

B・溝（図75・76・86、図版11・28）

グリットB～D－5～6の位置で検出され、南北側は調査区外に延びている。中世遺構の池1と古代の遺構1～4の土壙状遺構によって壊されており、検出されたすべての遺構の中で一番古い。軸方位は意識しているとは考えられない。確認された規模は、長さ5cm以上、幅141cm、深さ75cmを測り、掘り方の断面形状は逆台形状を呈している。覆土は褐鉄分を多く含む暗青灰色粘質土。

出土遺物は図86－1～3は男瓦、4～15が女瓦である。

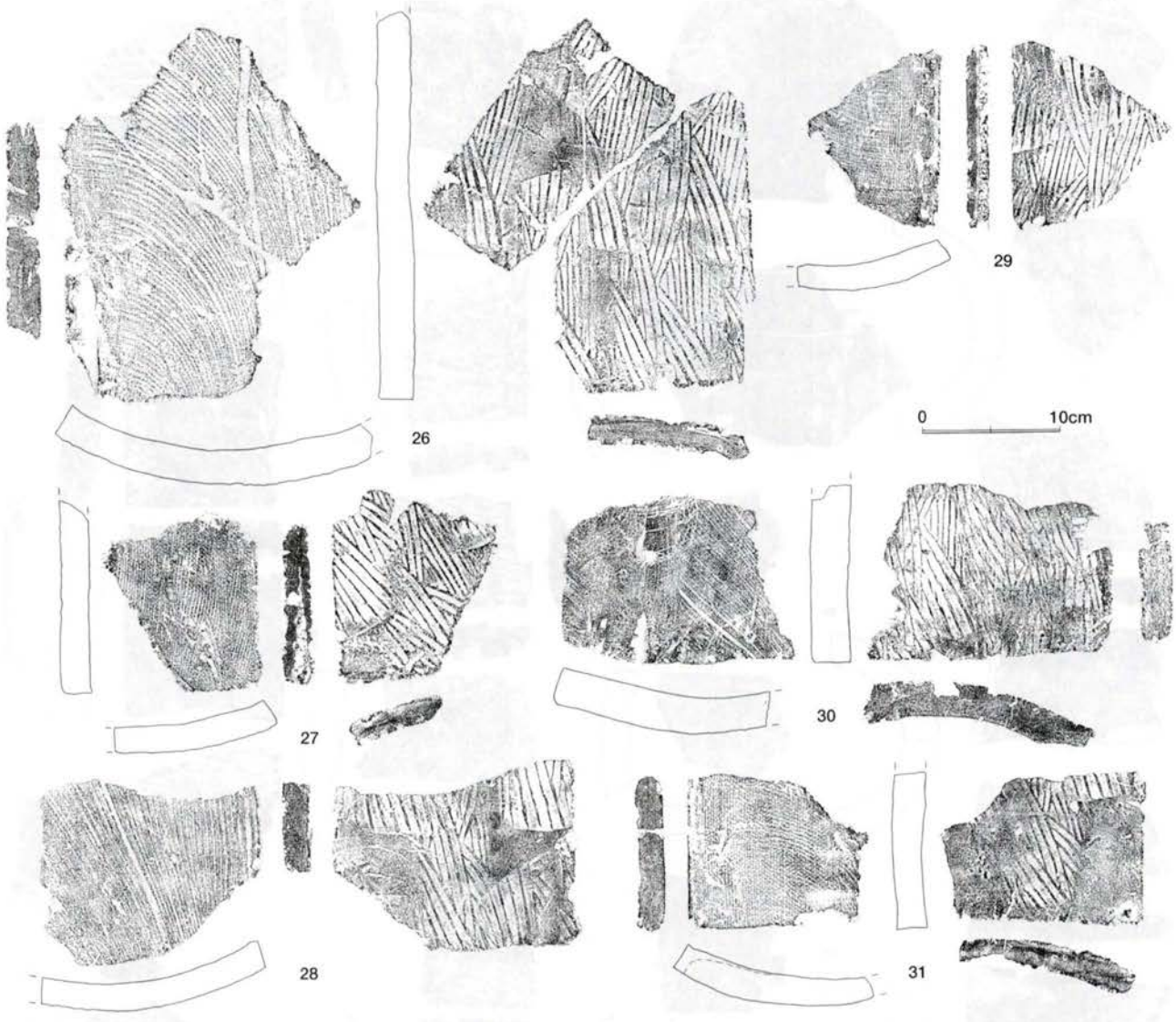


図84　中世以前遺構3出土遺物（4）

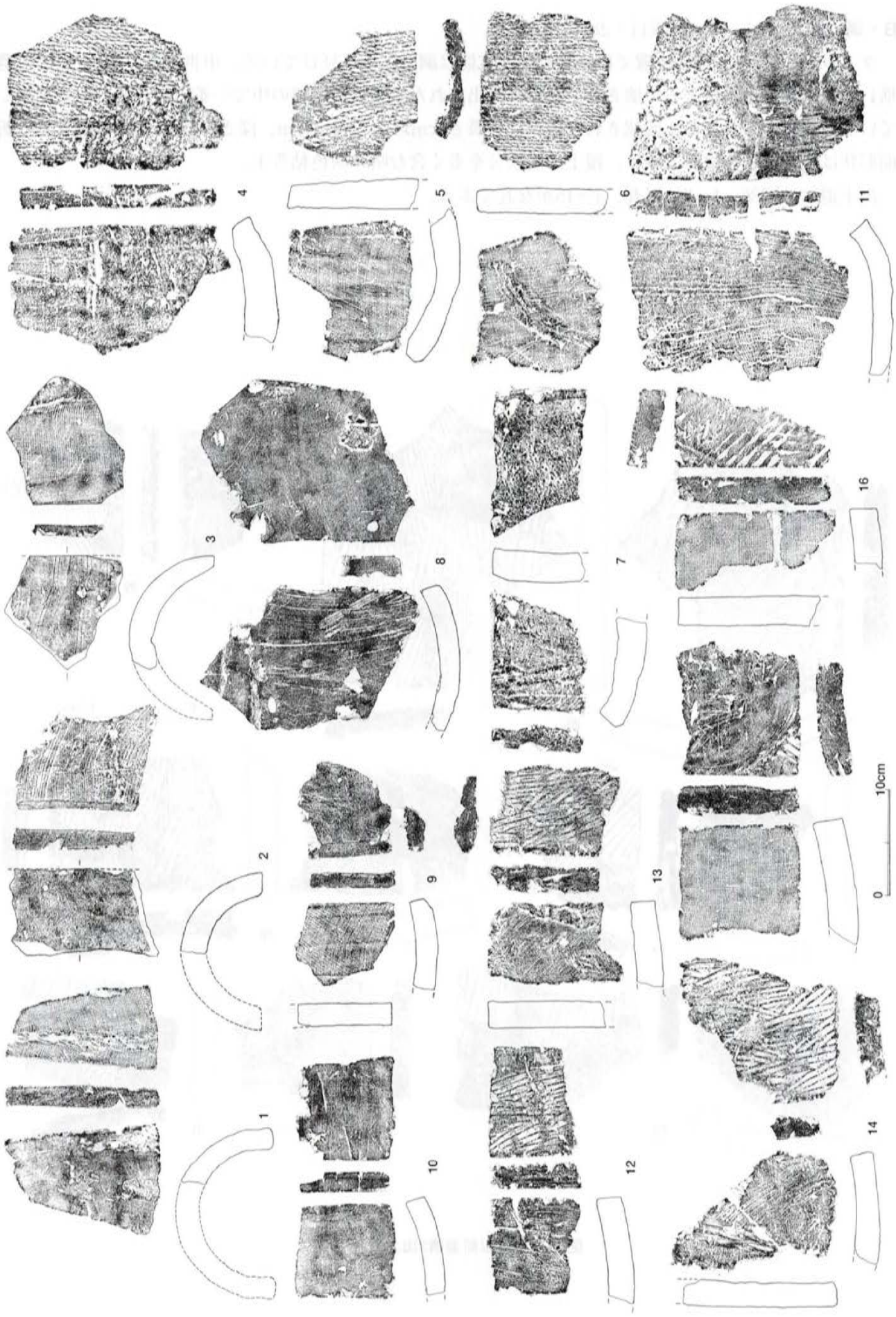


図85　中世以前遺構4出土遺物

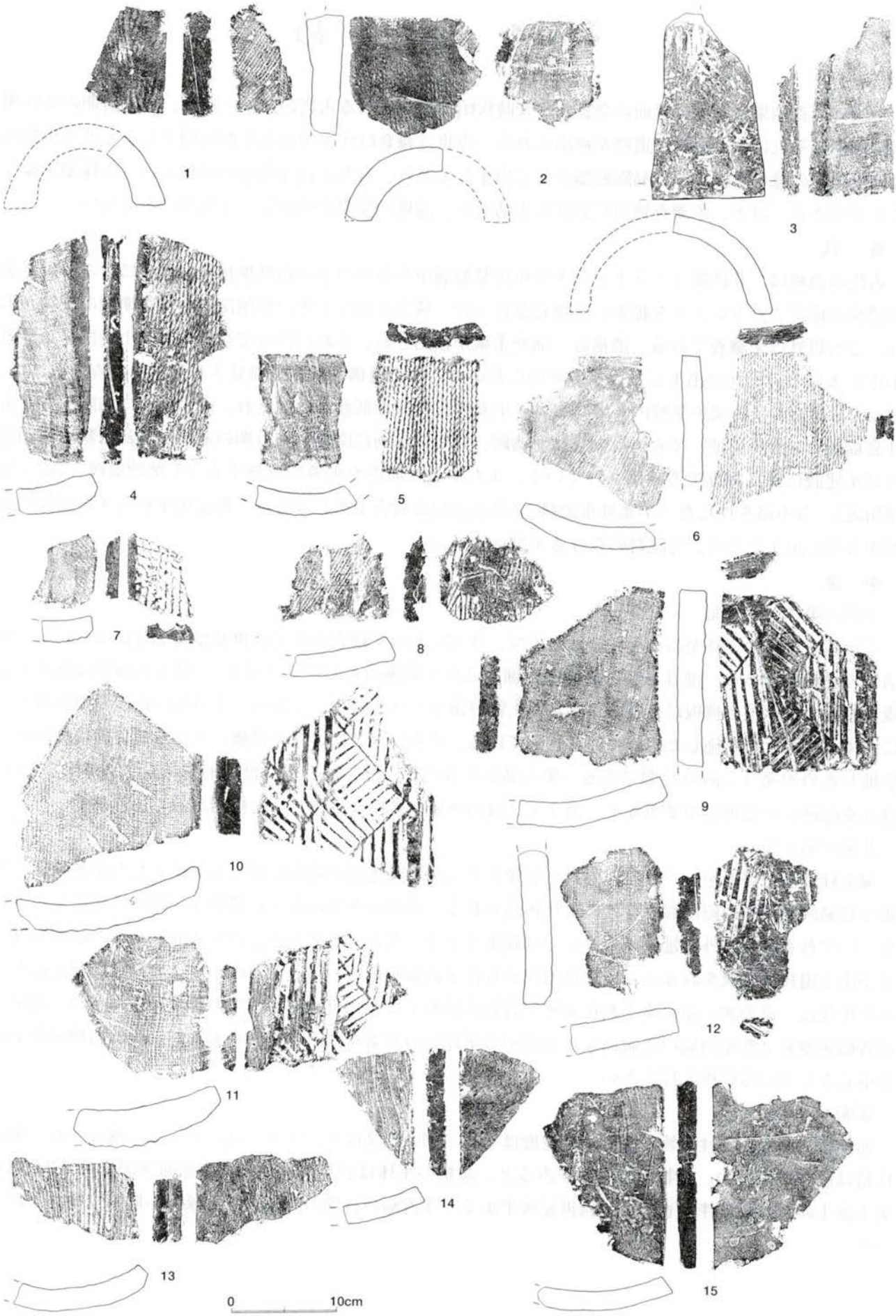


図86　中世以前溝1出土遺物

第4章　ま　と　め

今回の調査結果は、中世以前の奈良～平安時代頃と想定される古代の遺構・遺物、中世前期の４時期の生活面とそれに伴う遺構・遺物が検出された。中世は鎌倉時代を中心とした時期でしかも池や座敷飾り的な要素の強い高級品の貿易陶磁器が多く出土しており、有力な武士階級の屋敷といった様相を窺うことができる。以下、本調査地点における生活面と、遺構の変遷を概観してまとめにかえたい。

古　代

古代の遺構は、Ⅱ区第４・５トレンチで中世基盤層中からその下の自然堆積の海砂層に及ぶ中世以前の遺構が確認されトレンチを拡張して調査を行った。残念ながら工事の掘削深度や調査期間の制約があり、これ以外は未調査である。遺構は、溝や土壙が検出され、それに伴って奈良時代の土師器・須恵器小片と多量の古代瓦が出土した。本遺跡内において古代の遺構や遺物が発見された主な調査地点には、約200ｍ南方の「御成小学校内」では奈良～平安時代の鎌倉郡衙に比定され、同小学校に南隣する「市社会福祉センター用地」でも大型掘立柱建物跡、さらに郡衙に関連した時期の遺構がJR鎌倉駅西口周辺のビル建設に伴う調査でも検出されている。また本調査地点や東隣に位置する「千葉地遺跡」（紀ノ国屋用地）、今小路を挟んだ「千葉地東遺跡」（県水道局鎌倉営業所）からは７世紀後葉から８世紀代の瓦類が多量に出土しおり、寺院跡の存在も予想されている。

中　世

Ⅰ期＝第３ａ・ｂ面

木組構造を含む３時期の大規模な池と土壙、柱穴によって構成される中世基盤層上及びそれに近い生活面の遺構群である。池は当初、基盤層を掘り込んだ素掘のものから（池１）、第３ｂ面では埋立てで規模を縮小し木杭と横板による簡易な木組土留（池２）へと変化しており、その後に南辺の池汀線だけに頑丈な木組土留を施したものに作り替えている。さらに池３にゴミを投機しながら最終的に埋め戻し整地したのが第３ａ面の時期である。搬入品からみた年代は、池１が12世紀末葉から営為がはじまり、池３を廃絶した13世紀中葉頃まで、池２・３は13世紀前半期を主体とした様相がみてとれる。

Ⅱ期＝第２面

掘立柱建物や礎板をもつ柱穴、火災を想像させる焦土硬化面や被熱に遭って廃棄された座敷飾様の高級な貿易陶磁器類の磁器溜りなどにより構成される。調査区西端の掘立柱建物は３時期の建替えがみられ、いずれも調査区外に延びていることは確実である。火災の痕跡からこの生活面に画期の様相も窺えるが出土遺物の組成をみると、やはり前代から続き武家屋敷の一角とするのが妥当でろう。搬入品からみた年代は、常滑甕・龍泉窯系劃花文碗・高麗青磁瓶子など13世紀前半までの要素をもつもの、龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗や白磁口兀碗Ⅲなど13世紀中葉以降の要素を含んだ遺物もあるが、概ね13世紀後半期を中心としている時期と捉えたい。

Ⅲ期＝第１面

前代のような掘立柱建物を伴う遺構密度はなく、弱い地業面上に土壙と浅いピットで構成され、場の性格は詳らかでない。遺物から年代をみると、遺構の主体は13世紀後葉～14世紀前葉頃までであるが、第１面上の包含層に伴うものには14世紀後半まで下る古瀬戸後期の直縁大Ⅲや縁釉小Ⅲも少量含まれていた。

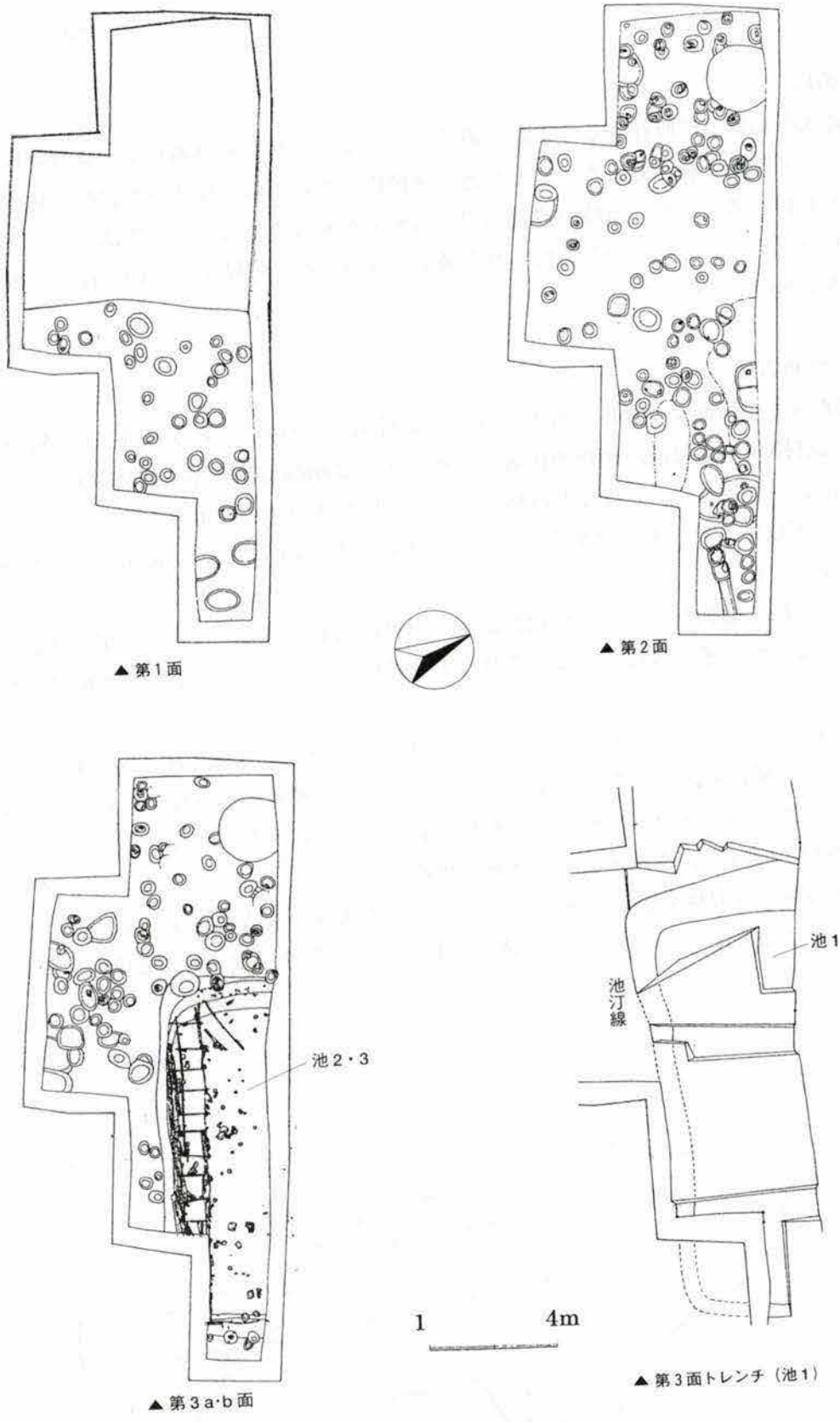


図87　中世遺構変遷図

第５章　今小路西遺跡の花粉化石

鈴木　茂（パレオ・ラボ）

１．はじめに

鎌倉市御成町15番地に所在する今小路西遺跡において行われた発掘調査で、鎌倉時代の池跡や古代と考えられている溝跡が検出された。これら池や溝跡内においては花粉化石が良好な状態で保存されている可能性が高いと考えられ、当時の遺跡周辺の古植生を検討するに当たり豊富なデータが得られることが予想された。こうしたことからこれら池や溝より採取された埋積土について花粉分析を行い、その結果および考察を以下に示した。

２．試料と分析方法

試料は調査区北壁断面より採取された１０点（試料No.１～10）である（図１）。各試料について簡単に記すと、試料No.１は褐色の植物遺体層で、その上位は植物遺体が多く認められる黒～黒褐色の粘土である。No.２～４（池２・３）は黒色粘土で、土丹片や木材小片が散在している。No.５～８（池１）はやわらかい黒色粘土で、カワラケ片、土丹片、木材片が認められる。No.９,10（古代溝）は砂が塊状に入る黒色粘土である。

時期については出土遺物から、池１が12世紀末～13世紀前葉、池２・３が13世紀中葉前後、古代溝が平安時代頃ではないかと考えられている。これら１０試料について以下のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（湿重約３～５ｇ）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸９：１濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

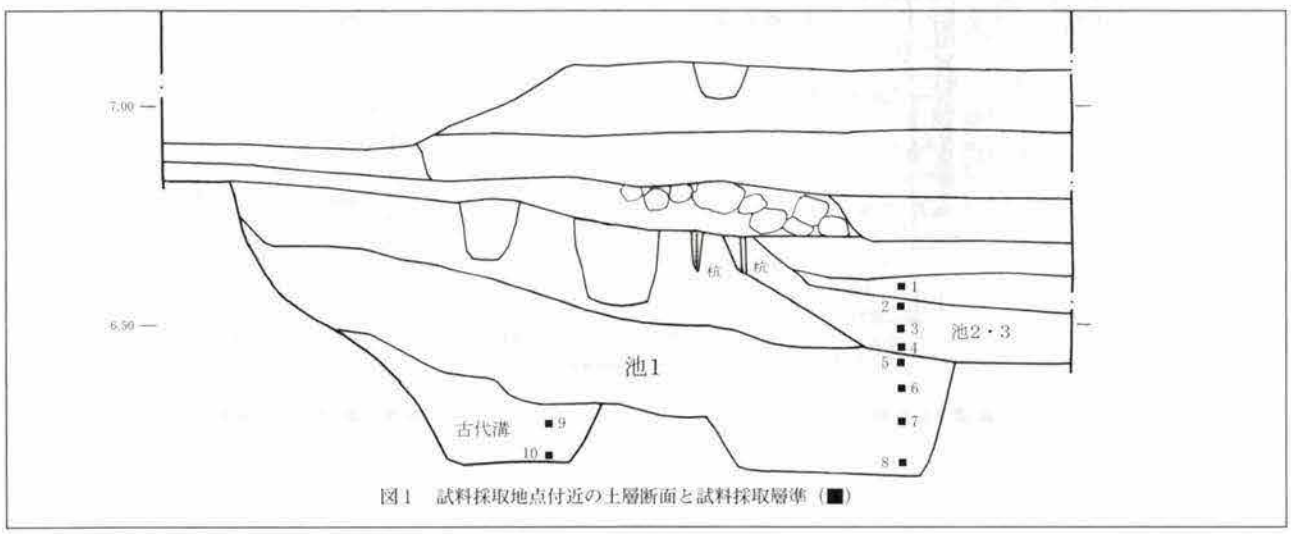


図１　試料採取地点付近の土層断面と試料採取層準（■）

表 1　産出花粉化石一覧表

和名	学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
樹木											
マキ属	*Podocarpus*	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	*Abies*	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-
ツガ属	*Tsuga*	-	1	4	2	1	-	1	4	-	-
マツ属複維管束亜属	*Pinus* subgen. *Diploxylon*	-	5	6	4	-	-	-	3	-	-
マツ属（不明）	*Pinus* (Unknown)	-	-	1	4	1	-	-	-	-	-
コウヤマキ属	*Sciadopitys*	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
スギ	*Cryptomeria japonica* D. Don	-	11	13	4	10	6	2	28	1	-
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	T.- C.	1	4	2	1	3	3	1	4	-	-
クマシデ属－アサダ属	*Carpinus - Ostrya*	3	2	1	2	4	2	2	2	-	-
カバノキ属	*Betula*	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属	*Alnus*	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-
ブナ	*Fagus crenata* Blume	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-
コナラ属コナラ亜属	*Quercus* subgen. *Lepidobalanus*	-	6	3	2	9	1	-	2	-	-
コナラ属アカガシ亜属	*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	1	5	6	1	5	3	5	4	-	-
クリ属	*Castanea*	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
シイノキ属－マテバシイ属	*Castanopsis - Pasania*	-	2	-	-	-	2	-	1	-	-
ニレ属－ケヤキ属	*Ulmus - Zelkova*	-	-	3	3	-	-	-	2	-	-
エノキ属－ムクノキ属	*Celtis-Aphananthe*	-	1	2	1	-	-	-	1	-	-
ブドウ属	*Vitis*	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
ノブドウ属	*Ampelopsis*	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
イボタノキ属	*Ligustrum*	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
草本											
ミクリ属	*Sparganium*	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヒルムシロ属	*Potamogeton*	-	-	-	-	22	1	7	-	-	-
オモダカ属	*Sagittaria*	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	Gramineae	595	322	157	58	62	25	36	76	1	1
カヤツリグサ科	Cyperaceae	2	13	3	5	5	1	2	3	-	-
イボクサ属	*Aneilema*	-	-	-	2	4	1	-	-	-	-
クワ科	Moraceae	6	3	5	4	104	22	12	5	-	-
サナエタデ節－ウナギツカミ節	*Polygonum* sect. Persicaria-Echinocaulon	-	1	11	3	2	2	-	2	-	-
他のタデ属	other Polygonum	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
アカザ科－ヒユ科	Chenopodiaceae - Amaranthaceae	12	35	59	20	40	21	10	14	-	-
スベリヒユ属	*Portulaca*	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科	Caryophyllaceae	-	1	2	-	2	-	-	1	-	-
コウホネ属	*Nuphar*	-	2	4	-	14	1	-	-	-	-
カラマツソウ属	*Thalictrum*	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
他のキンポウゲ科	other Ranunculaceae	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-
アブラナ科	Cruciferae	-	11	4	2	5	2	-	2	-	-
ワレモコウ属	*Sanguisorba*	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
他のバラ科	other Rosaceae	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	Leguminosae	3	1	1	-	1	-	-	-	-	-
セリ科	Umbelliferae	-	3	-	1	2	-	-	-	-	-
シソ科	Labiatae	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ナス属	*Solanum*	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオバコ属	*Plantago*	-	-	1	-	7	3	1	16	-	-
ヘクソカズラ属	*Paederia*	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-
ベニバナ属	*Carthamus*	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヨモギ属	*Artemisia*	138	95	35	16	26	15	12	1	-	1
他のキク亜科	other Tubuliflorae	5	6	13	-	3	-	-	1	-	-
タンポポ亜科	Liguliflorae	2	2	6	4	2	5	1	3	-	-
シダ植物											
ゼンマイ科	Osmundaceae	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
単条型胞子	Monolete spore	1	6	7	10	-	2	1	5	6	3
三条型胞子	Trilete spore	2	2	6	1	1	-	-	2	1	-
回虫	*Ascaris*	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
鞭虫	*Trichuris*	1	15	5	3	10	6	2	2	-	-
肝吸虫	*Clonorchis*	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
樹木花粉	Arboreal pollen	6	46	45	24	35	19	11	53	4	0
草本花粉	Nonarboreal pollen	768	501	306	116	302	100	81	127	1	2
シダ植物胞子	Spores	3	9	13	13	1	2	1	7	7	3
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	777	556	364	153	338	121	93	187	12	5
不明花粉	Unknown pollen	2	3	10	8	28	8	11	9	5	0

T．－C．はTaxaceae-Cephalotaxaceae-Cupresaceaeを示す

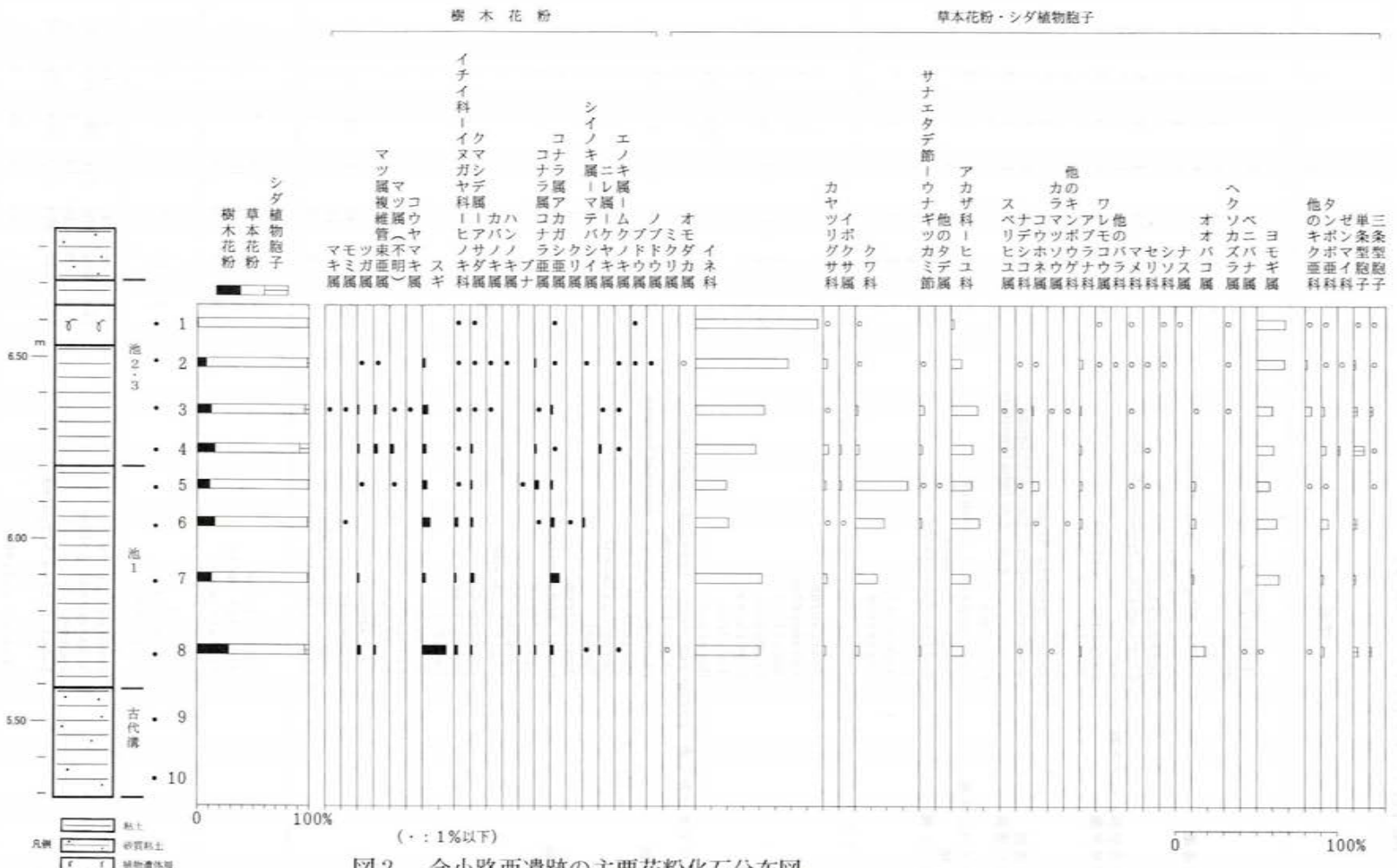


図2　今小路西遺跡の主要花粉化石分布図

（出現率は全花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した）

3．分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉21、草本花粉28、形態分類を含むシダ植物胞子３の総計52である。また図表には示していないが寄生虫卵が３分類群認められた。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表１に、それらの分布を図２に示したが、No.９,10については得られた花粉・胞子数が非常に少なく分布図として示すことができなかった。なお、分布図は全花粉・胞子総数を基数とした百分率で示した。また、表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示している。

検鏡の結果、草本花粉の占める割合が高く、多くは90%前後を示している。少ない樹木花粉のうちスギがNo.８においてやや高い出現率を示している。またアカガシ亜属も下部試料において連続して１%を越えている。一方コナラ属コナラ亜属は中・上部試料において連続して検出されるようになり、マツ属複維管束亜属（アカマツやクロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）やイチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科（以後ヒノキ類と略す）も同様の傾向を示している。草本類ではイネ科が最も多く、最上部では約77%を示している。クワ科は下部より上部に向かい増加してNo.５では30%を越えるが、No.４より上位では１%前後に急減している。ヨモギ属は10%前後の出現率を示しており、最上部では約18%に達している。水生植物のコウホネ属（抽水植物）が中・上部試料において検出されており、No.５では約４%と花粉生産量の少ない水生植物としては比較的高い出現率を示している。また同様の傾向が同じ水生植物のイボクサ族（抽水植物）やヒルムシロ属（浮葉植物）にも認められる。さらにサナエタデ節ーウナギツカミ節（以後タデ類と略す）も中・上部試料において連続して検出されている。その他、オオバコ属はNo.８でやや高い出現率を示すなど中・下部試料で連続して１%を越え、タンポポ亜科は多くの試料で１%を越えている。

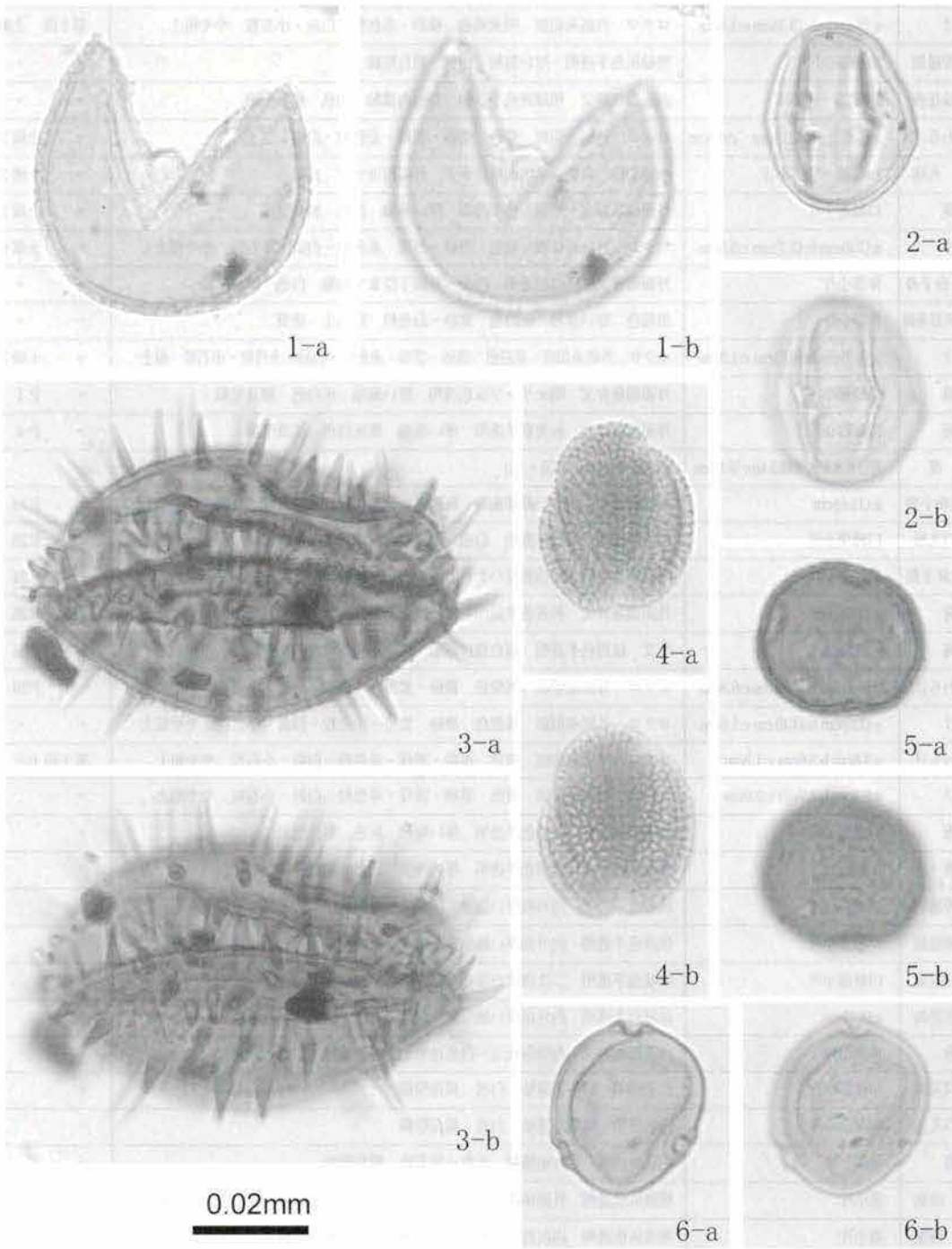
4．遺跡周辺の古植生

池１は12世紀末～13世紀前葉と考えられており、この時期の森林植生はスギを主体にツガ属やヒノキ類を交えた針葉樹類が目立って生育していたとみられる。またアカガシ亜属を中心とした照葉樹林もみられたであろう。

この池１には抽水植物のコウホネ属が生育していたとみられ、試料No.５の堆積期頃には多く生育していた可能性が考えられる。また同じ抽水植物のイボクサ属や浮葉植物のヒルムシロ属といった水生植物も生育していたであろう。この池周辺にはアカザ科ーヒユ科やヨモギ属、タンポポ亜科などの雑草類が多く生育しており、その他道端雑草のオオバコ属などがみられたと推測される。またクワ科が急増しており、池周辺に生育していたとみられる。このクワ科としてはヤマグワなどの樹木やカナムグラなどの草本が考えられるが、現時点ではどちらなのか、あるいは両方生育していたか等については詳しい分類できず不明である。なおイネ科が多く検出されており、その多くがイネと同様の表面模様を呈している。こうしたことから池に流入する水路などを通して稲作地よりイネの花粉が大量に混入したとみられ、これは次の池２・３の時期についても同様であるものの稲作が行われていた場所については不明である。

池２・３は13世紀中葉前後と考えられており、この時期もスギを主体とした針葉樹林やアカガシ亜属などの照葉樹林が依然として成立していたとみられる。またこの時期になるとニヨウマツ類の二次林も目立つようになったと推測される。この時期の池内にはやはりコウホネ属が生育していたと考えられるが、ヒルムシロ属はみられなくなったと推測される。この池周辺にはこの時期もアカザ科ーヒユ科やタデ類、ヨモギ属などの雑草類が生育していたが、アカザ科ーヒユ科は減少する傾向がみられ、池１期で目立ったオオバコ属やタンポポ亜科も少なくなったようである。反対にヨモギ属やこのヨモギ属を除くキク亜

科は増加したとみられ、つる植物のヘクソカズラ属もみられるようになったと推測される。
以上が今小路西遺跡における12世紀末～13世紀中葉前後の古植生と推測されるが、そのうち森林については樹木花粉の占める割合が非常に小さいことから森林としては貧弱なものであったと推察される。また古代の古植生についてはほとんど花粉化石が認められなかったことから検討することができなかった。その要因については不明であるが、一因として溝が無機物によって短時間に埋積されてしまったのではないかと思われる。



図版　今小路西遺跡の花粉化石（scale bar：0.02mm）

1：スギ　PLC.SS 4013　No.2

2：コナラ属アカガシ亜属　PLC.SS 4014　No.2

3：コウホネ属　PLC.SS 4016　No.5

4：アブラナ科　PLC.SS 4015　No.5

5：オオバコ属　PLC.SS 4018　No.8

6：クワ科　PLC.SS 4017　No.5

表3　出土遺物観察表（1）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
8-1	かわらけ	a:(8.2)cm b:(5.3)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	第1面　土壙1
8-2	青磁　折縁Ⅲ	口縁部小片	明緑灰色半透明　厚い施釉　白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
8-3	青磁　輪花碗	口縁部～底部片	内底面蓮華文　明緑灰色半透明　高台内露胎　白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
8-4	極小かわらけ	a:(5.0)cm b:(3.3)cm　c:0.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　土壙2
8-5	土器質　火鉢	口縁部～底部小片	輪積技法　黄橙色　内面横位ナデ　外面縦位ナデ　良好	〃　土壙3
8-6	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　明緑灰色半透明　厚い施釉　白色　精良堅緻	〃　土壙5　龍泉窯系
8-7	かわらけ	a:(7.8)cm b:(3.7)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　土壙6
8-8	青白磁·合子身	体部小片	外面蓮弁文　灰白色透明　内面・外面下位まで施釉　白色　精良堅緻	〃　〃
8-9	黒褐釉·天目茶碗	体部小片	黒褐色　厚い施釉　灰白色　微砂・白色粒　精良土　硬質	〃　〃　舶載
8-10	かわらけ	a:(8.0)cm b:(6.0)cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒・小石粒　粗土	〃　土壙7
8-11	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　明オリーブ灰色透明　厚い施釉　灰白色　精良堅緻	〃　P1　龍泉窯系
8-12	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰青色半透明　厚い施釉　明灰白色　精良堅緻	〃　P4　龍泉窯系
8-13	石製品　硯	残存長:8.6cm 残幅:2.4cm 厚:1.7cm	凝灰岩質 形状:逆台形 赤灰色。P14	
8-14	瀬戸 緑釉小皿	a:(11.8)cm	灰緑色透明　内外口縁部施釉　灰白色　微砂　精良土　良好　外面煤付着	〃　P19
8-15	白磁　口兀Ⅲ	口縁部小片	白色半透明　口唇部露胎　白色　精良堅緻　口唇部煤付着	〃　P23
8-16	常滑 捏鉢Ⅱ類	口縁部小片	内面斜位ナデ　外面斜位ハケ目　暗赤褐色　砂粒・小石粒多量	〃　P24
8-17	青磁　碗	a:(12.0)cm	外面鎬蓮弁文　灰青色半透明　内外面厚施釉　明灰色　精良堅緻	〃　P25　龍泉窯系
8-18	青磁　碗	b.(5.5)cm	無文　緑褐色半透明　高台畳付露胎　灰色～黄灰色　精良堅緻	〃　P26　龍泉窯系
8-19	極小かわらけ	a:(4.4)cm b:(3.4)cm c:0.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　P30
8-20	かわらけ	a:(7.6)cm b:(4.8)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
8-21	極小かわらけ	a:3.8cm b:3.0cm c:1.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	第1面上
8-22	かわらけ	a:6.4cm b:4.7cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃
8-23	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰緑色半透明　厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
8-24	青磁　碗	b.5.4cm	外面鎬蓮弁文　灰緑色半透明　厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
8-25	青磁　折縁Ⅲ	口縁部小片	灰緑色半透明　内外面厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
8-26	青磁　折縁Ⅲ	口縁部小片	灰緑色半透明　内外面厚い施釉　二次焼成の為微気泡あり　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
8-27	青磁　折腰Ⅲ	口縁部小片	灰緑色半透明　二次焼成の為釉変色　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
8-28	青磁　折腰Ⅲ	a:(8.6)cm	灰緑色半透明　内外面厚い施釉　二次焼成あり　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
8-29	白磁　碗	体部小片	外面鎬蓮弁文　内面印花文　白色透明　内外面施釉　白色　精良堅緻	〃
8-30	白磁　口兀Ⅲ	口縁部小片	白色透明　口唇部露胎　白色　精良堅緻	〃
8-31	白磁　口兀Ⅲ	口縁部小片	白色透明　口唇部露胎　白色　精良堅緻	〃
8-32	白磁　壺	体部小片	明灰色透明　内外面施釉　灰色～灰茶色　精良堅緻	〃
8-33	青白磁　梅瓶	蓋小片	明青灰色透明　外面体部～天頂部施釉　内面～口唇部露胎　灰白色　精良堅緻	〃
8-34	青白磁　梅瓶	蓋小片	明青灰色透明　内面露胎　外面施釉　明灰白色　精良堅緻	〃
8-35	青白磁　水注	b:(4.0)cm	明青灰色半透明　外面体部施釉　明灰白色　精良堅緻	〃
8-36	青白磁　合子身	合わせ口縁部　a:(4.0)cm	外面縦位条線筋彫り　明青色透明　合わせ上面～外面下位施釉　白色　精良堅緻	〃
8-37	青白磁　合子身	合わせ口縁部　a:(8.0)cm	外面蓮弁文型押　明青色半透明　合わせ上面～外面下位施釉　灰褐色　精良堅緻	〃
8-38	青白磁　袋物	体部小片	草花文の貼り付か　明青色半透明　内面露胎　外面施釉　白色　精良堅緻	〃
8-39	緑釉　盤	口縁部小片	明緑灰色 二次焼成の為白濁・変色 内外面施釉 明灰褐色 褐色・白色砂粒 良土 良好 硬質	〃　図8-40～42と同一か
8-40	緑釉　盤	底部小片	暗緑色～赤褐色半透明 内面施釉二次焼成の為剥離変色 明黄褐色 褐色砂粒 良土 良好 硬質	〃
8-41	緑釉　盤	底部小片	暗緑色～赤褐色半透明 内面施釉二次焼成の為剥離・変色 明黄褐色 褐色砂粒 良土 良好 硬質	〃
8-42	緑釉　盤	底部小片	暗緑色～赤褐色半透明 内面施釉二次焼成の為剥離・変色 明黄褐色 褐色砂粒 良土 良好 硬質	〃
8-43	褐釉　甕	体部小片	褐色不透明発色悪い 内外面施釉 灰褐色 灰色・白色・褐色砂粒 精良土 良好 硬質	〃
8-44	瀬戸　天目茶碗	a:(12.0)cm	黒色～灰褐色不透明　内外面施釉　明褐灰色　微砂　精良土　硬質	

表4　出土遺物観察表（2）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
8-45	瀬戸　卸皿	口縁部小片	灰黄緑色不透明　内外面厚い施釉二次焼成の為白濁　灰黄色　微砂　精良土　良好　硬質	第1面上
8-46	瀬戸 直円大皿	口縁部小片	灰黄緑色半透明　内外面施釉口唇部白濁　黄灰色　微砂　精良土　良好　硬質	〃
8-47	瀬戸 緑釉小皿	口縁部小片	灰黄緑色半透明　口縁部内外面施釉内面刷毛塗りの様な朱付着　黄灰色　精良土　良好　硬質	〃
8-48	瀬戸　卸皿	口縁部小片	卸目は筋状の彫り　灰黄緑色半透明　内外面施釉口唇部白濁　黄灰色　精良土　良好　硬質	〃
8-49	碧石　白	長:2.0cm 幅:1.4cm 厚:0.6cm	不整円形	〃
8-50	火打石	長:1.1cm 幅:1.0cm 厚：0.7cm	磨滅か磨き痕あり　石英質	〃
16-1	かわらけ	a:(7.9)cm b:(5.3)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	第2面　建1ハ-1
16-2	かわらけ	a:8.3cm b:6.7cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色 微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
16-3	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰緑色半透明　厚い施釉　白色　精良堅緻	〃　建2イ-1
16-4	かわらけ	a:12.8cm b:8.2cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　建2イ-3
16-5	白磁　口兀碗	口縁部小片	白色半透明　口唇部露胎　貫入あり　灰白色　精良堅緻	〃　〃
16-6	常滑　捏鉢Ⅰ類	a:(26.0)cm	灰色　内外面横位ナデ　口縁部～内面降灰　砂粒・白色粒・小石粒少量	〃　〃
16-7	銅銭		皇宋通宝　北宋銭　初鋳年1038年	〃　〃
16-8	かわらけ	a:(12.0)cm b:(8.7)cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　建2ロ-2
16-9	男瓦(丸瓦)	筒部径18.2cm	凸面縄目叩き後、擦り消し　凹面布目痕　灰褐色　砂粒・雲母・黒色粒・小石粒　粗土	〃　建3イ-3
16-10	かわらけ	a:(8.2)cm b:(6.0)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　建3ロ-2
16-11	白磁　口兀皿	口縁部小片	明灰色不透明　口唇部露胎　明灰色　精良堅緻	〃　〃
16-12	かわらけ	a:(7.5)cm b:(5.6)cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　土壙1
16-13	白磁　水注	頸部径:11.0cm 注口径:1.2cm	水青色透明　外面施釉二次焼成の為釉薬白濁　白色　精良堅緻	〃　〃
16-14	常滑　甕	縁帯幅:2.8cm	内外面横位ナデ　内面横位刷毛目痕　暗赤褐色　口縁～外面降灰　灰色　砂粒・小石粒多量	〃　〃
16-15	常滑　甕	縁帯幅:2.8cm	内外面横位ナデ　内面横位刷毛目痕　暗赤褐色　口縁部・胴部降灰　灰色　砂粒・小石粒多量	〃　〃
16-16	かわらけ	a:(11.6)cm b:(6.8)cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　土壙3
16-17	土器質　火鉢	口縁部～体部小片	内外面横位ナデ　灰色　砂粒・雲母・黒色粒・白色粒・小石粒　粗土　良好	〃　〃
16-18	かわらけ	a:(12.0)cm b:(7.1)cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土　内底部穿孔あり	〃　土壙4
16-19	かわらけ	a:(13.0)cm b:(7.6)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・小石粒　粗土	〃　〃
16-20	白磁　口兀皿	口縁部～体部片	型押しの印花文　口唇部露胎　白色透明　白色　精良堅緻	〃　〃
16-21	青白磁　袋物	胴部径(4.4)cm	水青色不透明　外面施釉二次焼成の為釉薬白濁　白色　精良堅緻	〃　土壙5
16-22	青白磁　袋物	体部小片	水青色不透明　外面施釉二次焼成の為釉薬白濁　白色　精良堅緻	〃　〃
16-23	極小かわらけ	a:(4.0)cm b:(3.2)cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土　コースター型	〃　土壙6
16-24	かわらけ	a:(8.2)cm b:(4.2)cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・小石粒　粗土	〃　〃
16-25	かわらけ	a:(8.4)cm b:(6.0)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
16-26	かわらけ	a:(7.6)cm b:(6.6)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
16-27	かわらけ	a:(11.8)cm b:(7.4)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・土丹粒　粗土	〃　〃
16-28	かわらけ	a:(12.0)cm b:(7.2)cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・土丹粒　粗土	〃　〃
16-29	かわらけ	a:(12.8)cm b:(7.8)cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・土丹粒　粗土	〃　〃
16-30	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　深緑色透明　つやあり　微気泡ややあり　灰色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
16-31	青磁　折縁皿	口縁部片	灰緑色半透明　二次焼成の為釉薬白濁・失透　灰色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
16-32	青磁　折縁皿	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰緑色不透明　一部釉薬白濁失透　明灰色～灰橙色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
16-33	青白磁　水注	体部小片	水色半透明　外面施釉内面露胎　白色　精良堅緻　把手部分か	〃　〃
16-34	常滑　甕	a:(50.0)cm b:(21.0)cm c:(72.6)cm	赤褐色　口縁部～肩部降灰　灰褐色　砂粒・白色粒・小石粒多量	〃　〃
17-35	土器質　火鉢	口縁部～底部片	黄橙色 内外面横位ナデ 外部下位指頭痕 底部離れ砂 砂粒・雲母・赤色粒・小石粒 粗土 良好	〃　〃
17-36	滑石製　鍋	口縁部片	口縁部・外面体部の一部ノミ状工具の加工痕、外面体部の一部にヘラ状工具の加工痕	〃　〃
17-37	滑石製　鍋	a:(15.8)cm b:(12.8)cm c:5.4cm	口唇部・鍔部を削り、五弁の輪花にしている	〃　〃
17-38	極小かわらけ	a:5.1cm b:3.9cm c:1.0cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒　やや粗土	〃　土壙7

表5　出土遺物観察表（3）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
17-39	かわらけ	a:7.8cm b:6.6cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	第2面　土壙7
17-40	かわらけ	a:(8.0)cm b:(5.3)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
17-41	かわらけ	a:8.4cm b:5.2cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　やや粗土	〃　〃
17-42	かわらけ	a:(8.3)cm b:(5.6)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
17-43	かわらけ	a:(12.8)cm b:(7.0)cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃
17-44	かわらけ	a:(13.4)cm b:(8.5)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
17-45	かわらけ	a:(13.8)cm b:(8.5)cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
17-46	白磁　口兀皿	a:(8.6)cm b.(6.0)cm c.2.6cm	内面に周回する沈線あり　灰色透明　口唇部外底面露胎　白色　やや堅緻	〃　〃
17-47	青白磁　梅瓶	肩部片	外面体部に牡丹文　青色半透明　内外面施釉　灰白色　精良堅緻	〃　土壙8
17-48	青白磁　梅瓶	胴部片	外面体部に牡丹文　青色半透明　内外面施釉　灰白色　精良堅緻	〃　〃
17-49	青白磁　梅瓶	b.(9.4)cm	外面下位と高台境に二重沈線　外面牡丹文　水色半透明　内外面施釉　精良堅緻	〃　〃
17-50	青白磁　梅瓶	注口径:1.4cm　内径:0.5cm	青色半透明　内外面施釉　灰白色　精良堅緻	〃　〃
17-51	かわらけ	a:(7.4)cm b:(5.0)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　土壙11
17-52	かわらけ	a:7.6cm b:5.7cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
17-53	かわらけ	a:(7.7)cm b:(5.4)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
17-54	かわらけ	a:(7.8)cm b:(5.8)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
17-55	かわらけ	a:(12.2)cm b:(8.4)cm c:2.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
17-56	鉄釘	残長:10.1cm　幅:0.5cm	角釘	〃　〃
17-57	かわらけ	a:7.1cm b:5.5cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　土壙12
17-58	かわらけ	a:(7.7)cm b:(5.8)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
17-59	かわらけ	a:7.7cm b:5.7cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
17-60	かわらけ	a:8.0cm b:5.1cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土　口縁部注口あり	〃　〃
17-61	かわらけ	a:(11.3)cm b:(7.4)cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
17-62	かわらけ	a:(11.7)cm b:(7.4)cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
17-63	白磁　碗	口縁部小片	外面片切彫り　白色透明　口唇部露胎　灰白色　精良堅緻	〃　〃
18-1	青磁　碗	a:(9.9)cm	外面鎬蓮弁文　灰緑色不透明　内外面厚い施釉　明灰白色　精良堅緻	〃　磁器溜り　龍泉窯系
18-2	青磁　碗	a:(16.2)。	外面鎬蓮弁文　明灰緑色不透明　内外面厚い施釉　明灰白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
18-3	青磁　碗	a:(12.8)cm b:3.8cm c:5.4cm	口縁は6弁の輪花か　明灰緑色半透明　高台畳付露胎　灰白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
18-4	青磁　碗	口縁部小片	内面条線内に劃花文　灰緑色半透明　内外面厚い施釉　灰白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
18-5	青磁　碗	a:(11.0)cm b:2.8cm c:4.1cm	内面口縁部を周回する条線内劃花文　明灰青色半透明　高台畳付内露胎　白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
18-6	青磁　碗	a:10.8cm b:5.4cm c:3.5cm	底内を周回する沈線内に劃花文　灰緑色不透明　内外面厚い施釉　灰白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
18-7	青磁　折縁皿	a:21.4cm b:8.8cm c:5.0cm	内底面2段の沈線・双魚文の貼付　明緑灰色不透明　高台畳付露胎　明灰色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
18-8	青磁　折縁皿	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰緑色不透明　内外面厚い施釉　貫入あり　灰白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
18-9	青磁　酒会壺	底径:8.4cm　胴部最大径:15.0cm	外面鎬蓮弁文　明緑灰色不透明　高台畳付露胎　明灰白色　精良堅緻	〃　〃　今小路1990参考
18-10	白磁　口兀皿	口縁・底部片　b:(5.0)cm	内面型押印花文　白色透明　口唇部露胎　高台畳付露胎か　白色　精良堅緻	〃　〃　景徳鎮窯か
18-11	白磁　水注	口縁部～底部破片	蕨・花の型押印花文　瓜型か　白色半透明　内外面薄い施釉　白色　精良堅緻	〃　〃
18-12	青白磁　梅瓶	a:(3.6)cm	水青色半透明　二次焼成の為一部白濁　灰白色　精良堅緻	〃　〃
18-13	青白磁　梅瓶	体部～底部破片	外面櫛描渦巻文　水青色半透明　内面体部薄め　外面やや厚い施釉　明灰白色　精良堅緻	〃　〃　今小路1990参考
18-14	青白磁　梅瓶	口縁部～肩部小片	3本の櫛描渦巻文　外面水青色・内面灰色半透明　内外面施釉　明灰白色　精良堅緻	〃　〃
18-15	青白磁　梅瓶	肩部小片	6条の櫛描文　水青色透明　内面薄め・外面やや厚い施釉　明灰白色　精良堅緻	〃　〃
18-16	青白磁　器台か	口縁部小片	外面2条の凸帯　青色不透明　内外面施釉一部露胎　白色　精良堅緻	〃　〃　図18-17と同一か
18-17	青白磁　器台か	体部片	外面陰・陽刻のレリーフ　青色不透明　内外面施釉　白色　精良堅緻	〃　〃
18-18	青白磁　花瓶	体部～底部片	水青色半透明　高台内露胎・釉薬の掻き取り　明灰白色　精良堅緻	〃　〃
18-19	吉州窯　碗	a:(16.8)cm b:(5.2)cm c:6.2cm	褐色　内面～外面下位厚い施釉　外面釉ダレ白濁　明灰色　精良堅緻	〃　〃

表6　出土遺物観察表（4）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
18-20	緑釉　盤	口縁部～底部破片	緑色～茶褐色 外面底部露胎一部銀化 灰黄褐色 赤褐色粒・白色粒・黒色粒 やや粗土 良好 硬質	第２面　磁器溜り
18-21	緑釉　盤	体部～底部片	底部筋彫り条線 緑色～茶褐色 灰黄褐色 赤褐色粒・白色粒・黒色粒 やや粗土 良好 硬質	〃　〃 図18-20~23と同一か
18-22	緑釉　盤	底部小片	赤褐色 外面露胎二次焼成の為か荒れる 黄橙色 赤褐色粒・白色粒・黒色粒 やや粗土 良好 硬質	〃　〃
18-23	緑釉　盤	底部小片	赤褐色 外面露胎二次焼成の為か荒れる 黄橙色 赤褐色粒・白色粒・黒色粒 やや粗土 良好 硬質	〃　〃
18-24	白かわらけ	b:(5.6)cm	ロクロ　外底糸切痕　明灰白色　微砂　精良土	〃　〃
18-25	石製品　硯	残長:12.8cm 幅:8.4cm	灰褐色～暗灰色　凝灰岩質　二次焼成の為剥離　隅を丸く加工した四葉硯	〃　〃
18-26	石製品　硯	小片	灰赤紫色　凝灰岩質　剥離片(二次焼成の影響か)	〃　〃
18-27	碁石　黒	長:2.0cm 幅:1.6cm 厚:0.5cm	不整円形　凝灰岩質	〃　〃
18-28	鉄釘	残長:8.0cm 幅:0.6cm 厚:0.5cm	角釘	〃　〃
18-29	鉄釘	残長:5.0cm 幅:0.6cm 厚:0.5cm	角釘	〃　〃
18-30	銅銭		元符通寶　北宋銭　初鋳年1098年	〃　〃
18-31	銅銭		開元通寶　唐銭　初鋳年621年	〃　〃
18-32	銅銭		咸平元寶　北宋銭　初鋳年998年	〃　〃
19-33	高麗青磁　梅瓶	a:(11.2)cm b:(17.0)cm c:50.0cm	牡丹・雲鶴文を白・黒で象嵌　青味の強い灰緑色　内外面施釉　灰色　精良堅緻	〃　〃 千葉地1982参考
20-1	青磁　碗	b:(5.2)cm	外面鎬蓮弁文　暗緑灰色　高台畳付露胎　灰色　精良堅緻	第２面　P２
20-2	青白磁　蓋	a:(3.4)cm 栓径:1.6cm	水色半透明　内外面施釉　明灰白色　精良堅緻	〃　P５
20-3	北部系山茶碗	高台径:(4.6)cm	ロクロ　外底糸切痕　貼付高台　高台部籾殻痕　灰色　微砂　精良土　軟質	〃　P７
20-4	土器質　火鉢	口縁部片	赤褐色～橙色　砂粒・白色粒・小石粒　粗土　良好　内面煤付着	〃　〃
20-5	かわらけ	a:(13.2)cm b:(8.6)cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　P11
20-6	碁石　黒	長:1.8cm 幅:1.5cm 厚:0.6cm	楕円形	〃　〃
20-7	かわらけ	a:(7.4)cm b:(5.4)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　やや粗土	〃　P12
20-8	かわらけ	a:(11.8)cm b:(6.2)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
20-9	常滑　捏鉢Ⅱ類	底部片	内面摩耗　外面下位ヘラ削り　赤褐色　砂粒・小石粒・長石粒少量	〃　〃
20-10	かわらけ	a:8.3cm b:5.9cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　P13
20-11	青磁　折縁鉢	a:(35.0)cm b:(20.7)cm c:(8.3)cm	内底面２本の沈線・外面鎬蓮弁文　灰緑色不透明　高台畳付露胎　明灰色　精良堅緻	〃　P14　龍泉窯系
20-12	かわらけ	a:7.9cm b:5.3cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　P16
20-13	極小かわらけ	a:(4.3)cm b:(3.4)cm c:0.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・小石粒　やや粗土	〃　P19
20-14	常滑　捏鉢Ⅰ類	口縁部片	内外面横位ナデ　表面灰色　灰色　砂粒・白色粒やや多量	〃　〃
20-15	銅銭		元祐通寶　北宋銭　初鋳年1086年	〃　P20
20-16	かわらけ	a:7.6cm b:5.8cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　P21
20-17	白磁　口兀皿	口縁部～体部片	内面型押し雷文・印花文外面１条の凸帯が周回　白色透明　口唇部露胎　白色　精良堅緻	〃　P25
20-18	女瓦(平瓦)	厚:2.2cm	凹面布目痕　凸面縄目叩痕　灰色　砂粒・白色粒・黒色粒　やや粗土　硬質	〃　P28
20-19	かわらけ	a:(7.4)cm b:(4.8)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　P29
20-20	かわらけ	a:(8.2)cm b:(6.5)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
20-21	火打石	残長:2.8cm 幅:2.4cm 厚:1.2cm	明黄白色　チャート	〃　P34
20-22	瀬戸　碗	a:(15.2)cm b:(5.0)cm	黄灰緑色半透明　外面下位～高台内露胎　内底面やや厚い施釉　明灰褐色　微砂　精良土　良好	〃　P39
20-23	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰黄緑色不透明　内外面厚い施釉　灰黄褐色　精良堅緻	〃　P43　龍泉窯系
20-24	青白磁　合子身	合わせ口縁部　a:(7.9)cm	型押蓮弁文　水色半透明　合わせ口縁部・外面下位露胎　白色　精良堅緻	〃　〃
20-25	備前　擂鉢	体部～底部片	内面６本の条線　内面摩耗　外面横位ナデ　茶赤色　灰色　赤色粒・白色粒　良土　良好	〃　〃
20-26	常滑　捏鉢Ⅰ類	a:(15.0)cm	内外面横位ナデ　口唇部～内面降灰　灰色　砂粒・白色粒・小石粒やや多量	〃　P44
20-27	銅銭		熙寧元寶　北宋銭　初鋳年1068年	〃　P45
20-28	かわらけ	a:(13.2)cm b:(7.3)cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土　灯明皿	〃　P46
20-29	褐釉　甕	体部小片	内面横位ナデ　黒灰色不透明　外面施釉内面薄い施釉か　黄灰褐色　良土　良好　やや堅緻	〃　〃
20-30	白磁　口兀皿	口縁部小片	内面印花文?　白色半透明　口唇部露胎　白色　精良堅緻	〃　P47

表7　出土遺物観察表（5）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
20-31	瀬戸　折腰皿	a:(9.2)cm	内外面横位ナデ・施釉　灰オリーブ色半透明　微砂・白色粒　良土　良好	〃　P47
20-32	瓦器　碗	口縁部小片	内面横位の暗文　表面黒色　灰白色　微砂　良土　煤付着	〃　〃　楠葉系
20-33	かわらけ	a:(8.0)cm b:(6.1)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　P48
20-34	かわらけ	a:(8.0)cm b:(5.7)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・小石粒・土丹粒　やや粗土	〃　〃
20-35	青白磁　水注	注口部小片	明青灰色半透明　内外面施釉　二次焼成の為釉薬白濁　明灰白色　精良堅緻	〃　P54
20-36	瀬戸　天目茶碗	体部小片	黒灰色　外面下位露胎　二次焼成の為変色　白灰色　微砂　精良土　良好	〃　P55
20-37	青磁　折縁皿	高台径:(8.0)cm	暗緑色　内外面厚い施釉　高台下位露胎　灰白色　精良堅緻　良好	〃　P60
20-38	かわらけ	a:8.3cm b:6.7cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　P66
20-39	かわらけ	a:(8.0)cm b:(6.1)cm c:(1.9)cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃　砂質かわらけ
20-40	瀬戸　洗	口縁部小片	外面周回する２本の沈線　明灰緑色透明　口唇部～外面施釉　灰白色　精良土　硬質　良好	〃　P71
20-41	瀬戸　折縁皿	b:(6.5)cm	明緑灰色透明　外面下位露胎　灰白色　微砂・白色粒・黒色粒　精良土	〃　P72
20-42	かわらけ	a:(5.0)cm b:(3.8)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　P76
20-43	石製品　硯	残長:5.9cm 幅:3.8cm 厚:1.3cm	長方硯　表面剥離	〃　P79
20-44	かわらけ	a:(12.3)cm b:(8.2)cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　良土　灯明皿	〃　建３イ-1
20-45	かわらけ	a:(7.4)cm b:(5.5)cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　P86
20-46	かわらけ	a:(7.9)cm b:(5.3)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
20-47	青磁　皿	a:(8.6)cm	灰色透明　灰色　精良堅緻	〃　〃　同安窯系
20-48	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰緑色半透明　内外面厚い施釉　灰白色　精良堅緻	〃　P89　龍泉窯系
20-49	北部系山茶碗	高台径:(5.6)cm	明灰白色　内面降灰　高台部籾殻痕　明灰白色　微砂・白色粒・黒色粒　精良土　硬質	〃　〃　龍泉窯系
20-50	かわらけ	a:13.2cm b:8.7cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土　良好	〃　P90
20-51	男瓦(丸瓦)	筒部径:13.3cm　厚:2.1cm	凸面縦横位ナデ　凹面布目痕　赤褐色　砂粒・白色粒・小石粒　粗土　良好　硬質	〃　P91
20-52	女瓦(平瓦)	厚:3.7cm	凹面布目・指頭痕　凸面平行条線叩目痕　褐灰色　砂粒・黒色粒・小石粒　粗土　良好　硬質	〃　〃
21-1	かわらけ	a:(3.8)cm b:(3.0)cm c:0.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	第２面上
21-2	かわらけ	a:(5.2)cm b:(4.0)cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　やや粗土	〃
21-3	かわらけ	a:7.4cm b:5.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・小石粒　やや粗土	〃
21-4	かわらけ	a:(7.6)cm b:(5.2)cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・小石粒　やや粗土	〃
21-5	かわらけ	a:7.6cm b:5.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃
21-6	かわらけ	a:8.6cm b:6.3cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃
21-7	かわらけ	a:7.5cm b:5.3cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃
21-8	かわらけ	a:(9.0)cm b:(6.4)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明灰褐色　微砂・雲母　良土	〃
21-9	かわらけ	a:(8.1)cm b:(5.0)cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・赤色粒　やや粗土	〃
21-10	かわらけ	a:(8.0)cm b:(5.7)cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
21-11	かわらけ	a:12.1cm b:8.0cm c:2.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃
21-12	かわらけ	a:(12.6)cm b:7.5cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃
21-13	かわらけ	a:(13.0)cm b:7.0cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃
21-14	かわらけ	a:(13.4)cm b:(9.3)cm c:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃
21-15	青磁　碗	a:(9.0)cm	外面鎬蓮弁文　暗灰緑色半透明　厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-16	青磁　端反碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰青色不透明　厚い施釉二次焼成の為白濁　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-17	青磁　碗	底部小片	外面鎬蓮弁文　灰黄緑色不透明　厚い施釉　畳付露胎　貫入あり　白濁　明灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-18	青磁　碗	a:(11.8)cm b:(6.0)cm c:(4.2)cm	外面鎬蓮弁文　深緑色半透明　厚い施釉　畳付露胎　白濁　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-19	青磁　碗	a:(13.8)cm	外面鎬蓮弁文　灰緑色半透明　厚い施釉　貫入あり　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-20	青磁　碗	a:(13.0)cm	外面鎬蓮弁文　灰緑色半透明　厚い施釉　つやあり　灰白色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-21	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰緑色半透明　厚い施釉　つやあり　灰白色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-22	青磁　碗	体部下位片	外面鎬蓮弁文　オリーブ灰色半透明　内外面施釉　気泡あり　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系

表8　出土遺物観察表（6）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
21-23	青磁　碗	b:(5.0)cm	内面底部沈線　灰緑色半透明　厚い施釉　高台内・畳付露胎　明灰色　精良堅緻	第２面上　龍泉窯系
21-24	青磁　鉢	a:(12.0)cm	外面鎬蓮弁文 灰青色不透明　厚い施釉　白濁　明灰白色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-25	青磁　皿	b:(12.0)cm	内面印刻蓮弁文　灰緑色不透明　厚い施釉　畳付露胎　灰白色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-26	青磁　折縁皿	口縁部小片	灰緑色半透明　やや厚い施釉　つやあり　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-27	青磁　折縁皿	口縁部小片	暗灰緑色不透明　厚い施釉　つやあり　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-28	青磁　折縁皿	口縁部小片	灰緑色半透明　厚い施釉　つやあり　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-29	青磁　折腰鉢	a:(8.5)cm	灰緑色半透明　厚い施釉　微気泡　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-30	青磁　折腰鉢	口縁部小片	灰青色不透明　厚い施釉　白濁　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-31	青磁　折腰鉢	a:(4.0)cm	灰青色不透明　厚い施釉　畳付露胎　白濁　明灰白色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-32	青磁　天目台	a:8.0cm	明灰緑色半透明　厚い施釉　口唇部露胎　貫入あり　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-33	青磁　水注	口縁部小片	外面唐草文の陽刻　灰緑色半透明　厚い施釉　明灰白色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-34	青磁　香炉	口縁部小片	灰緑色不透明　厚い施釉　二次焼成の為変色　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-35	青磁　袋物か	体部小片	灰緑色半透明　厚い施釉　貫入あり　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
21-36	白磁　口兀碗	a:(14.2)cm	内面体部印花文　白色透明　口唇部露胎　白色　精良堅緻	〃
21-37	白磁　口兀皿	a:(12.8)cm	白色半透明　厚い施釉　口唇部露胎　貫入あり　白色　精良堅緻	〃
21-38	白磁　口兀皿	口縁部小片	黄灰色半透明　口唇部露胎　黄灰色　精良堅緻	〃
21-39	白磁　口兀皿	口縁部小片	灰白色　口唇部露胎　貫入あり　白色　精良堅緻	〃
21-40	白磁　口兀皿	口縁部小片	底面沈線　明灰白色半透明　口唇部露胎　つやあり　灰白色　精良堅緻	〃
21-41	白磁　口兀皿	b:(7.0)cm	底面沈線　明灰白色半透明　口唇部露胎　つやあり　明灰白色　精良堅緻	〃
21-42	白磁　口兀皿	口縁部小片	内面底部印花文　白色透明　口唇部露胎　つやあり　白色　精良堅緻	〃
21-43	白磁　四耳壺	a:(10.0)cm	灰白色半透明　つやあり　灰色　精良堅緻	〃
21-44	白磁　四耳壺	最大胴部径:(14.6)cm	灰白色不透明　やや厚い施釉　二次焼成の為変色　灰色　精良堅緻	〃
21-45	白磁　四耳壺	体部小片	灰白色半透明　貫入・つやあり　明灰褐色　精良堅緻	〃
21-46	白磁　四耳壺	(6.8)cm	灰白色半透明　外面高台～高台内露胎　貫入あり　明灰褐色　精良堅緻	〃
21-47	白磁　水滴蓋	a:(2.6)cm	周縁輪花状　白色半透明　天頂部施釉　合わせ口縁～内面露胎　白色　精良堅緻	〃
21-48	青白磁　梅瓶	b:(3.0)cm	灰白色　外面施釉　底部・内面露胎　つやあり　明灰色　精良堅緻	〃
21-49	青白磁　梅瓶	a:(3.4)cm	明青灰色半透明　内外面施釉　微気泡・貫入あり　灰白色　精良堅緻	〃
21-50	青白磁　水注	b:(8.2)cm	鎬蓮弁・劃花文か 明青灰色半透明 外面厚い施釉 貫入あり 失透 灰白色　精良堅緻	〃
21-51	青白磁　香炉	b:(4.0)cm	外面条線陰刻　明青灰色透明　やや厚い施釉　貫入・つやあり　灰色　精良堅緻	〃
21-52	緑釉　盤	口縁部小片	赤褐色　二次焼成の為変色　灰色　砂粒・褐色粒・小石粒　粗土　硬質　良好	〃
21-53	緑釉　盤	口縁部小片	黒緑色　内外面施釉一部銀化　褐色～白灰色　砂粒・石英　粗土　硬質　良好	〃
21-54	緑釉　盤	口縁部小片	緑色　内外面施釉　器壁剥離　灰色　砂粒　粗土　硬質　良好	〃
21-55	褐釉　甕	体部小片	外面褐色一部釉ダレ　内面茶褐色　横位ナデ・刷毛目痕　灰紫色　粗土　良好	〃
21-56	瀬戸　入子	a:(4.0)cm b:(2.5)cm c:1.3cm	8弁輪花状　底部糸切痕　灰白色　口縁部降灰　微砂　精良土　良好　硬質	〃
21-57	瀬戸　入子	b:(2.8)cm	外底糸切痕　灰色　内底部弱い降灰　灰色　微砂　精良土　良好　硬質	〃
21-58	瀬戸　入子	b:(3.8)cm	外底糸切痕　黄灰色　内底部降灰　明灰色　微砂　精良土　良好　硬質	〃
21-59	瀬戸　天目茶碗	口縁部小片	黒褐色　内面上位～外面施釉　黄白色　精良土　良好　硬質	〃
21-60	瀬戸　天目茶碗	体部片	黒褐色　赤銅色の釉ダレ　黄白色　精良土　良好　硬質	〃
21-61	北部系山茶碗	底部小片	ロクロ　貼付高台　籾殻痕　灰白色　内外面横位ナデ　灰白色　微砂　精良土　良好　硬質	〃
21-62	瀬戸　四耳壺	a:(11.6)cm	内面黄灰緑色　外面明灰白色一部剥離　灰色　微砂・白色粒・褐色粒　精良土　良好　硬質	〃
21-63	瀬戸　壺	b:7.3cm	ロクロ　外底糸切痕　茶灰色　内外面横位のナデ　灰色　微砂　精良土　良好　硬質	〃
21-64	瀬戸　四耳壺	肩部	オリーブ灰色　内面露胎　外面施釉　灰色　微砂・灰色粒　精良土　良好　硬質	〃
21-65	瀬戸　小壺	口縁部小片	黄灰緑色半透明　内外面施釉一部白濁　黄褐色　微砂　精良土　良好　硬質	〃
21-66	瀬戸　袋物	a:(9.0)cm	灰緑色不透明　内面上位～外面施釉　二次焼成の為白濁　灰褐色　微砂　精良土　良好　硬質	〃

表9　出土遺物観察表（7）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
21-67	瀬戸　瓶子	胴部片	外面縦位の条線　灰緑色透明　内外面施釉　貫入あり　灰褐色　微砂　精良土　良好　硬質	第2面上
21-68	瀬戸　香炉	高台径:(6.0)cm	外底ヘラ削り　内面灰色透明　内面緑灰色半透明の釉ダレ　灰色　微砂　精良土　良好　硬質	〃
21-69	常滑　甕	口縁～体部片　縁帯幅:2.4cm	輪積技法　N字状口縁　暗赤褐色　内外面横位ナデ・降灰　灰色　砂粒やや多量	〃
21-70	常滑　甕	口縁～体部片　縁帯幅:4.0cm	輪積技法　N字状口縁　灰色　内外面横位ナデ・降灰　灰色　砂粒・小石粒やや多量	〃
22-71	常滑　甕	b:(25.0)cm	輪積技法　砂目底　明赤褐色　内面降灰　明赤褐色　砂粒・小石粒少量	〃
22-72	常滑　捏鉢Ⅰ類	b:(12.0)cm	輪積技法　貼付高台　褐灰色　内面摩耗　褐灰色　砂粒・黒色粒・小石粒多量	〃
22-73	常滑　捏鉢Ⅰ類	底部小片	輪積技法　貼付高台　灰白色　内面降灰・摩耗　灰白色　砂粒・小石粒多量	〃
22-74	常滑　捏鉢Ⅰ類	底部小片	輪積技法　貼付高台　重ね焼きの癒着痕　明褐灰色　内面摩耗　明褐灰色　砂粒多量	〃
22-75	亀山　甕	b:(7.3)cm	砂目底　茶灰色　内外面横位ナデ　灰色　砂粒・長石　良土　良好	〃
22-76	土器質　火鉢	底部小片	暗灰黄色～黒褐色　外底磨滅　内外面横位ナデ　明黄褐色　砂粒・黒色粒　粗土　良好	〃
22-77	女瓦(平瓦)	厚:2.4cm	凹面布目痕縦位擦り消し　凸面横位ナデ　側面ヘラ削り　茶褐色　砂粒・黒色粒　良土	〃
22-78	女瓦(平瓦)	厚:2.5cm	一枚作り　凹面布目痕　凸面綾杉文叩目痕　側面ヘラ削り　灰黒色　砂粒・小石粒　良土	〃
22-79	滑石製　鍋	残長:4.6cm 幅:(7.3)cm	内面～外面上位再加工の痕跡　外面下位加工痕　スタンプか	〃
22-80	滑石製品	長:3.2cm 幅:2.0cm 厚:1.1cm	斜状幾何文　灰色	〃
22-81	滑石製品	長:6.0cm 幅:4.5cm 厚:1.4cm	加工痕あり　滑石鍋の転用か	〃
22-82	砥石	残長:9.0cm 幅:3.9cm 厚:2.9cm	明黄褐色　天草系か	〃
22-83	砥石	残長:3.4cm 幅:2.2cm 厚:1.3cm	緑味灰白色　中砥　粘板岩	〃
22-84	火打石	長:2.3cm 幅:1.6cm 厚:1.0cm	明灰白色不透明　一部打痕あり	〃
22-85	碁石　黒	長:1.7cm 幅:1.7cm 厚:0.5cm	楕円形	〃
22-86	鉄製品	残長:2.6cm 幅:0.4cm 厚:0.4cm	断面四角形　かすがいか	〃
22-87	銅銭		皇宋通宝　北宋銭　初鋳年1038年	〃
22-88	銅銭		皇宋通宝　北宋銭　初鋳年1038年	〃
22-89	銅銭		元豊通宝　北宋銭　初鋳年1078年	〃
30-1	かわらけ	a:(11.8)cm b:(7.5)cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	第3a面　土壙1
30-2	かわらけ	a:(8.8)cm b:(6.9)cm c:1.4cm	手捏ね　外面指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　土壙2
30-3	青白磁　合子身	b:(7.0)cm	子持ち合子 細かい蓮弁文 体部下位～底部露胎 水青色半透明 灰白色 精良堅緻	〃　〃
30-4	男瓦(丸瓦)	厚:2.1cm	凸面横・斜位ナデ　凹面布目痕・横位ナデ　灰色　砂粒・白色粒　やや粗土　良好	〃　〃
30-5	かわらけ	a:(7.7)cm b:(6.1)cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・土丹粒　良土	〃　P3
30-6	かわらけ	a:(8.5)cm b:(6.1)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　P5
30-7	白かわらけ	a:(10.7)cm b:(8.8)cm c:2.5cm	手捏ね　外底指頭痕　灰白色　微砂・雲母・白色粒　良土	〃　〃
30-8	青磁　碗	口縁部小片	外面鎬蓮弁文　灰オリーブ色不透明　内外面施釉　灰色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
30-9	女瓦(平瓦)	厚:1.6cm	凹面布目痕・糸切痕 凸面離れ砂・綾杉文叩目痕 橙色 砂粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
30-10	女瓦(平瓦)	厚:1.7cm	凹面布目痕・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰褐色 砂粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
30-11	かわらけ	a:7.6cm b:5.7cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　P6
30-12	かわらけ	a:7.5cm b:6.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
30-13	男瓦(丸瓦)	厚:1.4cm	凸面布目痕・横位ナデ　凹面綾杉文叩目痕 灰白色 砂粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
30-14	女瓦(平瓦)	厚:1.5cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 黄橙色 砂粒・白色粒 やや粗土 良好 硬質	〃　〃
30-15	かわらけ	a:(7.6)cm b:(4.9)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　P7
30-16	かわらけ	a:(7.6)cm b:(5.6)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母。赤色粒・白針　良土	〃　P8
30-17	白かわらけ	a:(8.6)cm b:(6.8)cm c:1.4cm	手捏ね　外底指頭痕　灰白色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
30-18	女瓦(平瓦)	厚:1.9cm	凹面布目・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒・白色粒 やや粗土 良好 硬質	〃　〃
30-19	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
30-20	女瓦(平瓦)	厚:2.1cm	凹面布目・糸切痕 凸面丁寧なナデ 黄橙色 砂粒・赤色粒 良土 良好 硬質	〃　P9
30-21	男瓦(丸瓦)	厚:2.4cm	凸面縦・横位の丁寧なナデ 凹面布目・糸切痕・縦位ナデ 灰白色 砂粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃　P10

表10　出土遺物観察表（8）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
30-22	女瓦(平瓦)	厚:2.4cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰白色 砂粒・白色粒 良土 良好 硬質	第3a面　P10
30-23	女瓦(平瓦)	厚:1.5cm	凹面布目・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 橙色 砂粒・白色粒 やや粗土 良好 硬質	〃　〃
30-24	かわらけ	a:(8.6)cm b:(7.2)cm c:1.6cm	手捏ね 外底指頭痕 黄橙色 微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒 良土	〃　P12
30-25	女瓦(平瓦)	厚:1.2cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
31-1	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目・糸切痕 凸面格子叩目痕 灰黒色 砂粒・黒色粒 良土 やや甘い	第3b面　土壙4
31-2	女瓦(平瓦)	厚:2.1cm	凹面離れ砂・布目痕 凸面離れ砂・縄目叩き痕 黄味灰白色 砂粒・黒色粒 良土 良好	〃　〃
31-3	土師器　甕	a:(18.4)cm	内外面横位ナデ 橙色 微砂・雲母・赤色粒 良好	〃　土壙5
31-4	男瓦(丸瓦)	厚:2.0cm	凸面離れ砂・縄目叩き痕 凹面布目痕 灰色 砂粒・黒色粒 良土 良好	〃　〃
31-5	男瓦(丸瓦)	厚:1.6cm	凸面綾杉文叩目痕 凹面布目痕縦位ナデ 灰色 砂粒・白色粒 良土	〃　P11
31-6	瀬戸　卸皿	b:(8.7)cm c:1.0cm	内底面卸目 外底面糸切痕 灰白色 微砂・白色粒 良土 良好	〃　P16
31-7	かわらけ	a:(9.4)cm b:(7.5)cm c:1.6cm	手捏ね 外底指頭痕 明黄褐色 微砂・雲母・白針・赤色粒 やや粗土	〃　P17
31-8	女瓦(平瓦)	厚:3.0cm	凹面布目・糸切痕 凸面縄目叩き痕 灰黄色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 粗土 やや甘い	〃　P19
31-9	女瓦(平瓦)	厚:2.5cm	凹面布目・指頭痕 凸面縄目叩き痕 灰黒色 砂粒・黒色粒・白色粒 良土 良好	〃　P27
31-10	須恵器	体部片	2本の横位沈線 灰白色 砂粒 良土 良好 硬質	〃　P34
31-11	女瓦(平瓦)	厚:2.5cm	凹面布目痕 凸面縦・横位ナデ 側面ヘラ削り 灰白色 砂粒・黒色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
31-12	女瓦(平瓦)	厚:1.9cm	凹面布目痕・ヘラ削り 凸面綾杉文叩目痕 灰黒色 砂粒・石粒 やや粗土 良好 硬質	〃　P40
31-13	女瓦(平瓦)	厚:3.0cm	凹面布目・指頭痕 凸面縄目叩き痕 灰黒色 砂粒・石粒 粗土 良好 硬質	〃　P43
31-14	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目痕 凸面叩目不明 側面ヘラ削り 灰黒色 砂粒・石粒 良土 良好 硬質	〃　P49
31-15	女瓦(平瓦)	厚さ:1.8cm	凹面布目痕 凸面叩目不明 側面ヘラ削り 黄橙色 砂粒・石粒 良土 良好 硬質	〃　〃
31-16	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 側面ヘラ削り 橙色 砂粒・黒色粒 良土 良好 硬質	〃　P58
31-17	土師器　高坏	胴部径:(3.3)cm	横ナデ・磨き 脚部貼付 黄橙色 微砂・雲母・白針・白色粒・黒色粒 やや粗土	〃　P59
31-18	男瓦(丸瓦)	筒部径:(12.3)cm 厚:0.9cm	行基葺(無段式) 凸面平行状叩目痕・横位ナデ 凹面布目痕 灰黒色 砂粒 良土 良好 硬質	〃　〃
32-19	男瓦(丸瓦)	筒部径:18.0cm 厚:2.2cm	凸面乱雑なヘラナデ・削り剥離大 凹面布目・糸切り・指頭痕 明黄褐色 砂粒・小石粒 粗土	〃　P48
32-20	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰白色 砂粒・白色粒・黒色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
32-21	女瓦(平瓦)	厚:2.9cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰白色 砂粒・雲母・白色粒・黒色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
32-22	女瓦(平瓦)	厚:2.2cm	凹面布目痕 凸面丁寧なナデ 灰白色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
33-1	かわらけ	a:(8.0)cm b:(5.8)cm c:1.8cm	ロクロ 外底糸切痕 橙色 微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒 粗土	第3面　池3上層
33-2	かわらけ	a:(8.2)cm b:(6.7)cm c:1.5cm	ロクロ 外底糸切痕 明黄褐色 微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒 やや粗土 注口あり	〃　〃
33-3	穿孔かわらけ	a:(8.9)cm b:(6.7)cm c:1.8cm	底部中央に穿孔 ロクロ 外底糸切痕 黄橙色 微砂多し・雲母・赤色粒・白針 やや粗土	〃　〃
33-4	かわらけ	a:(8.6)cm b:(6.8)cm c:1.8cm	手捏ね 外底指頭痕 黄橙色 微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒 やや粗土	〃　〃
33-5	青磁　碗	口縁部小片	細目鎬蓮弁文 明緑灰色不透明 貫入・気泡あり 灰色 精良堅緻	〃　〃 龍泉窯系
33-6	青磁　碗	口縁部小片	鎬蓮弁文 明緑灰色不透明 厚い施釉 灰色 精良堅緻	〃　〃 龍泉窯系
33-7	青磁　碗	口縁部小片	灰青色不透明 厚い施釉 貫入・気泡あり 灰白色 精良堅緻 硬質	〃　〃 龍泉窯系
33-8	青磁　碗	高台径:(3.2)cm	鎬蓮弁文 明緑灰色半透明 畳付除き厚い施釉 貫入あり 灰色 精良堅緻	〃　〃 龍泉窯系
33-9	青磁　折縁皿	a:(20.0)cm	暗緑灰色半透明 厚い施釉 貫入あり 灰色 精良堅緻	〃　〃 龍泉窯系
33-10	青磁　折縁皿	口縁部～体部小片	灰緑色不透明 厚い施釉 二次焼成受ける 灰色 精良堅緻	〃　〃 龍泉窯系
33-11	白磁　口兀皿	a:(10.8)cm	灰白色半透明 口唇部露胎 白色 精良堅緻	〃　〃
33-12	白磁　口兀皿	口縁部小片	灰白色半透明 口唇部露胎 白色 精良堅緻	〃　〃
33-13	褐釉　壺	胴部小片	暗褐色 内外面施釉 内面横位ナデ 灰褐色 精良堅緻 硬質	〃　〃
33-14	北部系山茶碗	a:(15.5)cm	灰色 内外面横位ナデ 口唇部～内面降灰 灰色 微砂質 精良土 良好 硬質	〃　〃
33-15	常滑　甕	a:(40.0)cm 縁帯幅:2.6cm	肩部菊矢羽叩文 茶褐色～暗褐色 口縁部～肩部降灰 粗砂・小石粒多量	〃　〃
33-16	宇瓦(軒平瓦)	瓦当厚:3.3cm 顎長:10.0cm 厚:2.2cm	三重弧文型挽き施文 顎貼付技法 表面灰褐色 芯部灰色 砂粒・白針・黒色粒 やや硬質	〃　〃
33-17	男瓦(丸瓦)	筒部径:14.5cm 厚:1.4cm	凸面縦位ヘラナデ 凹面布目痕 灰黄色～橙灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗土 良好	〃　〃
33-18	女瓦(平瓦)	厚:1.9cm	凹面布目・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 良土 良好 硬質	〃　〃

表11　出土遺物観察表（9）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
33-19	砥石	残長:9.5cm 幅:7.5cm 厚:6.5cm	中砥　天草産　明黄色に縞状に赤褐色が混じる	第3面　池3上層
33-20	漆器　碗	b:(7.0)cm	輪高台　黒漆地に朱漆で葵文を手描き施文	〃　〃
33-21	漆器　碗	a:(15.0)cm b:(6.3)cm c:5.7cm	ロクロ　輪高台　底部を除き黒漆を塗布　内面中位～底部黒色物付着	〃　〃
33-22	木製品	残長:16.7cm 幅:7.6cm 厚:0.4cm	呪術用具特殊杓子	〃　〃
33-23	木製品　曲物	径:20.4cm 厚:1.2cm	底板	〃　〃
34-24	木製品　箸	長:23.3cm 幅:6mm 厚:0.7cm	丸棒状に面取削り　両端尖り気味に加工	〃　〃
34-25	木製品　菜箸	長:23.8cm 径:約1.0cm	丸棒状に面取削り丸味を持つ　下端尖り気味に加工	〃　〃
34-26	金剛草履板芯	長:22.3cm 幅:9.8cm 厚:0.2cm	2枚の薄板を芯に編む　先端内寄りの左右に小孔・切込加工　表裏面藁圧痕	〃　〃
34-27	木製品　差歯下駄	下端幅:推定12.2cm	上部～下部に向かい扇形に広がり厚さが薄くなる　上面1cm程の木釘　下駄の歯部か	〃　〃
34-28	用途不明木製品	長:4.7cm 厚:0.4cm	周縁八角形に加工　中央に孔が穿けられる　断面台形状	〃　〃
35-1	かわらけ	a:(7.6)cm b:(4.9)cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	A3類　池3中層
35-2	かわらけ	a:(7.5)cm b:(5.0)cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
35-3	かわらけ	a:7.8cm b:4.8cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
35-4	かわらけ	a:7.8cm b:4.8cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-5	かわらけ	a:8.0cm b:4.8cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-6	かわらけ	a:7.9cm b:5.0cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-7	かわらけ	a:(7.9)cm b:(5.0)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-8	かわらけ	a:7.9cm b:5.3cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-9	かわらけ	a:8.2cm b:5.6cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-10	かわらけ	a:(8.0)cm b:5.0cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-11	かわらけ	a:(8.0)cm b:(4.2)cm c:2.3cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-12	かわらけ	a:(9.0)cm b:5.2cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母 良土	A3かA2類
35-13	かわらけ	a:10.4cm b:4.6cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	A2類
35-14	かわらけ	a:12.2cm b:5.9cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-15	かわらけ	a:(12.8)cm b:(5.0)cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-16	かわらけ	a:12.4cm b:6.1cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-17	かわらけ	a:(12.2)cm b:(5.2)cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-18	かわらけ	a:(12.6)cm b:(5.5)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-19	かわらけ	a:13.2cm b:6.0cm c:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-20	かわらけ	a:13.2cm b:6.2cm c:3.9cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-21	かわらけ	a:13.5cm b:5.9cm c:4.0cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-22	かわらけ	a:(13.4)cm b:(6.2)cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　黄橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-23	かわらけ	a:(13.8)cm b:(6.6)cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母 良土	〃　〃
35-24	かわらけ	a:7.6cm b:6.2cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	B3類　〃
35-25	かわらけ	a:7.7cm b:5.8cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
35-26	かわらけ	a:7.8cm b:6.4cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
35-27	かわらけ	a:7.8cm b:6.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕 明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
35-28	かわらけ	a:7.8cm b:6.4cm c:2.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
35-29	かわらけ	a:7.4cm b:5.4cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色 微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
35-30	かわらけ	a:7.7cm b:5.4cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色 微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
35-31	かわらけ	a:7.4cm b:5.5cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色 微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
35-32	かわらけ	a:(7.2)cm b:(5.9)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色 微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
35-33	かわらけ	a:7.5cm b:6.3cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色 微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
35-34	かわらけ	a:7.8cm b:6.2cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃

表12　出土遺物観察表（10）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
35-35	かわらけ	a:7.6cm b:6.2cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	B３類　第３面　池３中層
35-36	かわらけ	a:7.8cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-37	かわらけ	a:7.8cm b:7.0cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-38	かわらけ	a:7.8cm b:6.6cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-39	かわらけ	a:8.4cm b:7.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-40	かわらけ	a:8.3cm b:6.9cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-41	かわらけ	a:8.3cm b:6.9cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-42	かわらけ	a:(8.4)cm b:(6.5)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-43	かわらけ	a:7.3cm b:5.9cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄褐色　微砂・雲母・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
35-44	かわらけ	a:7.7cm b:5.8cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
35-45	かわらけ	a:7.6cm b:4.7cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-46	かわらけ	a:(7.8)cm b:(5.9)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-47	かわらけ	a:7.7cm b:5.7cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-48	かわらけ	a:7.8cm b:5.2cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-49	かわらけ	a:7.5cm b:5.4cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針 良土	〃　〃　〃
35-50	かわらけ	a:7.6cm b:5.1cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
35-51	かわらけ	a:(7.8)cm b:(5.0)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-52	かわらけ	a:7.8cm b:5.8cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-53	かわらけ	a:7.6cm b:5.3cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-54	かわらけ	a:7.8cm b:5.4cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-55	かわらけ	a:7.8cm b:5.7cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-56	かわらけ	a:7.6cm b:6.1cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-57	かわらけ	a:7.7cm b:6.3cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-58	かわらけ	a:7.8cm b:5.5cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-59	かわらけ	a:(7.8)cm b:(6.0)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-60	かわらけ	a:7.9cm b:6.2cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-61	かわらけ	a:7.9cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-62	かわらけ	a:7.6cm b:5.5cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-63	かわらけ	a:7.5cm b:5.1cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針 良土	〃　〃　〃
35-64	かわらけ	a:7.6cm b:5.5cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-65	かわらけ	a:(7.4)cm b:(5.4)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・白針　良土	〃　〃　〃
35-66	かわらけ	a:(7.3)cm b:(4.9)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針 良土	〃　〃　〃
35-67	かわらけ	a:(7.6)cm b:(6.0)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃　〃　〃
35-68	かわらけ	a:7.4cm b:5.6cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-69	かわらけ	a:(7.6)cm b:6.2)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-70	かわらけ	a:(7.8)cm b:(5.2)cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　良土	〃　〃　〃
35-71	かわらけ	a:8.0cm b:5.7cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・小石粒 粗土	〃　〃　〃
35-72	かわらけ	a:(8.4)cm c:(6.4)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-73	かわらけ	a:(7.8)cm b:(5.8)cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針 灯明皿　良土	〃　〃　〃
35-74	かわらけ	a:(7.6)cm b:(5.4)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・白針　良土	〃　〃　〃
35-75	かわらけ	a:8.2cm b:5.5cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃　〃　〃
35-76	かわらけ	a:(8.0)cm b:(6.2)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-77	かわらけ	a:8.2cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-78	かわらけ	a:(8.0)cm b:(5.6)cm c:2.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃　〃　〃

表13　出土遺物観察表（11）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
35-79	かわらけ	a:(7.9)cm b:(6.0)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	B３類　第３面　池３中層
35-80	かわらけ	a:8.0cm b:5.9cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・白針　良土	〃　〃　〃
35-81	かわらけ	a:(7.0)cm b:(5.4)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃　〃　〃
35-82	かわらけ	a:7.4cm b:5.2cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-83	かわらけ	a:7.4cm b:5.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
35-84	かわらけ	a:(7.4)cm b:(5.6)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・白針　良土	〃　〃　〃
35-85	かわらけ	a:(7.7)cm b:(5.3)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-86	かわらけ	a:(7.7)cm b:(5.4)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂　良土	〃　〃　〃
35-87	かわらけ	a:7.6cm b:5.9cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
35-88	かわらけ	a:7.6cm b:5.6cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-89	かわらけ	a:7.6cm b:6.3cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-90	かわらけ	a:7.8cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-91	かわらけ	a:(7.8)cm b:(5.6)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-92	かわらけ	a:8.2cm b:6.4cm c:2.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-93	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
35-94	かわらけ	a:7.6cm b:6.2cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
35-95	かわらけ	a:8.0cm b:6.2cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-96	かわらけ	a:8.2cm b:6.1cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-97	かわらけ	a:8.1cm b:5.8cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-98	かわらけ	a:7.7cm b:6.1cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-99	かわらけ	a:8.2cm b:6.6cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
35-100	かわらけ	a:7.7cm b:5.8cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-101	かわらけ	a:(7.6)cm b:5.6cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-102	かわらけ	a:7.4cm b:5.9cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-103	かわらけ	a:7.6cm b:5.4cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-104	かわらけ	a:7.4cm b:6.4cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
35-105	かわらけ	a:7.5cm b:5.5cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-106	かわらけ	a:7.3cm b:5.9cm c:2.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-107	かわらけ	a:7.7cm b:4.8cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
35-108	かわらけ	a:7.9cm b:5.6cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-109	かわらけ	a:(8.0)cm b:(5.4)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-110	かわらけ	a:8.0cm b:6.5cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-111	かわらけ	a:8.2cm b:5.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-112	かわらけ	a:8..0 b:6.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　良土	〃　〃　〃
35-113	かわらけ	a:(8.0)cm b:(6.0)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-114	かわらけ	a:(8.4)cm b:(6.7)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-115	かわらけ	a:7.8cm b:5.0cm 2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
35-116	かわらけ	a:7.8cm b:5.0cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・白針　良土	〃　〃　〃
35-117	かわらけ	a:8.4cm b:6.8cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
35-118	かわらけ	a:8.4cm b:6.2cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
36-119	かわらけ	a:(10.9)cm b:(7.2)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-120	かわらけ	a:11.9cm b:8.1cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-121	かわらけ	a:11.6cm b:8.9cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-122	かわらけ	a:11.9cm b:7.4cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃

表14　出土遺物観察表（12）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
36-123	かわらけ	a:11.0cm b:8.6cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	B１類　第３面上　池３中層
36-124	かわらけ	a:(11.8)cm b:(8.0)cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-125	かわらけ	a:11.6cm b:7.2cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-126	かわらけ	a:11.7cm b:8.3cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-127	かわらけ	a:(11.6)cm b:(8.2)cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-128	かわらけ	a:11.8cm b:8.0cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-129	かわらけ	a:11.8cm b:7.8cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-130	かわらけ	a:11.9cm b:9.1cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-131	かわらけ	a:11.8cm b:7.4cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-132	かわらけ	a:11.8cm b:7.7cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-133	かわらけ	a:(12.1)cm b:(8.8)cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-134	かわらけ	a:12.5cm b:8.5cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
36-135	かわらけ	a:12.3cm b:8.5cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-136	かわらけ	a:12.8cm b:8.0cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒　良土	〃　〃　〃
36-137	かわらけ	a:12.1cm b:7.8cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-138	かわらけ	a:12.2cm b:8.2cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
36-139	かわらけ	a:12.2cm b:9.0cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-140	かわらけ	a:(12.1)cm b:(7.4)cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-141	かわらけ	a:12.2cm b:8.4cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-142	かわらけ	a:12.1cm b:8.4cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-143	かわらけ	a:12.1cm b:7.7cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒　良土	〃　〃　〃
36-144	かわらけ	a:12.8cm b:8.0cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
36-145	かわらけ	a:12.2cm b:8.1cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-146	かわらけ	a:11.9cm b:8.0cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-147	かわらけ	a:(12.6)cm b:(8.0)cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-148	かわらけ	a:12.2cm b:8.0cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-149	かわらけ	a:(11.8)cm b:(7.3)cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-150	かわらけ	a:12.2cm b:7.7cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
36-151	かわらけ	a:11.8cm b:7.6cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-152	かわらけ	a:12.2cm b:7.4cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-153	かわらけ	a:12.1cm b:7.7cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-154	かわらけ	a:11.9cm b:6.7cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒・小石粒　粗土	〃　〃　〃
36-155	かわらけ	a:(12.0)cm b:(8.0)cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-156	かわらけ	a:(12.0)cm b:(7.8)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-157	かわらけ	a:12.0cm b:7.7cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
36-158	かわらけ	a:12.5cm b:7.5cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土　灯明皿	〃　〃　〃
36-159	かわらけ	a:(12.4)cm b:(7.3)cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
36-160	かわらけ	a:12.2cm b:8.8cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
36-161	かわらけ	a:(12.7)cm b:(7.6)cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
36-162	かわらけ	a:12.3cm b:8.0cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
36-163	かわらけ	a:(12.1)cm b:(8.5)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
36-164	かわらけ	a:12.3cm b:7.9cm c:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-165	かわらけ	a:(12.0)cm b:(8.8)cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
36-166	かわらけ	a:12.4cm b:8.8cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃

表15　出土遺物観察表（13）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
36-167	かわらけ	a:11.8cm b:9.1cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	B１類　第３面　池３中層
36-168	かわらけ	a:12.4cm b:8.2cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
36-169	かわらけ	a:11.8cm b:7.2cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
36-170	かわらけ	a:(12.7)cm b:(8.8)cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
36-171	かわらけ	a:12.9cm b:9.0cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
37-172	かわらけ	a:12.1cm b:8.5cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
37-173	かわらけ	a:12.6cm b:8.1cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
37-174	かわらけ	a:12.5cm b:8.2cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
37-175	かわらけ	a:12.5cm b:9.1cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
37-176	かわらけ	a:12.7cm b:8.4cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒	〃　〃　〃
37-177	かわらけ	a:(13.0)cm b:(8.4)cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土　灯明皿	〃　〃　〃
37-178	かわらけ	a:13.0cm b:8.3cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・小石粒　良土	〃　〃　〃
37-179	かわらけ	a:(13.1)cm b:(9.2)cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
37-180	かわらけ	a:12.8cm b:9.2cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
37-181	かわらけ	a:12.9cm b:8.5cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
37-182	かわらけ	a:(12.8)cm b:(8.0)cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
37-183	かわらけ	a:(13.0)cm b:(8.7)cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
38-184	かわらけ	a:7.7cm b:6.6cm c:1.5cm	手捏ね　外底指頭痕　黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	C３類　〃　〃
38-185	かわらけ	a:(7.4)cm b:(6.9)cm c:1.8cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-186	かわらけ	a:(8.0)cm b:(7.3)cm c:1.7cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-187	かわらけ	a:(8.0)cm b:(7.0)cm c:1.7cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-188	かわらけ	a:8.0cm b:7.3cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-189	かわらけ	a:8.2cm b:7.3cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
38-190	かわらけ	a:(8.2)cm b:(7.0)cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-191	かわらけ	a:8.3cm b:7.7cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-192	かわらけ	a:(8.6)cm b:(7.9)cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-193	かわらけ	a:(8.4)cm b:(7.1)cm c:1.8cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-194	かわらけ	a:(8.6)cm b:(7.9)cm c:1.8cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-195	かわらけ	a:(9.4)cm b:(8.8)cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
38-196	穿孔かわらけ	底部片	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	B１類　〃　〃
38-197	かわらけ	a:(6.0)cm b:(4.2)cm c:1.1cm	内折れかわらけ　ロクロ　外底糸切痕　見込みナデなし　橙色　微砂・雲母　良土	A類　〃　〃
38-198	特大かわらけ	a:19.7cm b:10.8cm c:7.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	第３面　池３中層
38-199	白かわらけ	a:(8.2)cm b:(7.4)cm c:2.1cm	手捏ね　外底指頭痕　灰白色　微砂　良土　灯明皿	〃　〃
38-200	白かわらけ	a:(8.8)cm b:(7.2)cm c:1.5cm	手捏ね　外底指頭痕　灰白色　微砂　良土	〃　〃
38-201	白かわらけ	a:(11.1)cm b:(10.4)cm	手捏ね　外底指頭痕　灰白色　微砂　良土	〃　〃
38-202	青磁　碗	a:(12.3)cm	鎬蓮弁文　緑灰色半透明　灰白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
38-203	青磁　碗	a:(14.5)cm	鎬蓮弁文　オリーブ灰色半透明　厚い施釉　灰白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
38-204	青磁　碗	口縁部小片	鎬蓮弁文　オリーブ灰色半透明　灰白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
38-205	青磁　碗	口縁部小片	鎬蓮弁文　オリーブ灰色半透明　灰白色　精良堅緻	〃　〃　龍泉窯系
38-206	吉備系土器碗	高台径:4.2cm	貼付高台　灰白色　微砂　良土　良好	〃　〃
38-207	褐釉　甕	a:(15.0)cm	褐色不透明　厚い施釉・釉ダレ　灰茶褐色　黒色粒・白色粒・灰褐色粒　良土　良好　硬質	〃　〃
38-208	褐釉　甕	胴部片	褐色不透明　厚い施釉・釉ダレ　灰茶褐色　黒色粒・白色粒・灰褐色粒　良土　良好　硬質	〃　〃
38-209	山茶碗	高台径:8.6cm	貼付高台　表面・芯部灰色　微砂・白色粒　良土　良好　硬質	〃　〃
38-210	常滑　捏鉢Ⅰ類	a:(17.8)cm	灰色　内面～外面上位横位ナデ　外面中位ヘラによる整形　灰色　砂粒・白色粒多量	〃　〃

表16　出土遺物観察表（14）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
38-211	常滑 捏鉢Ⅰ類	a:(19.7)cm	灰色　ヘラ成形　灰白色　砂粒・白色粒少量	第3面　池3中層
38-212	常滑 捏鉢Ⅰ類	a:(25.3)cm	灰オリーブ色　内面中位～外面横位ナデ　内面中位磨滅　灰色　砂粒・小石粒少量	〃　〃
38-213	常滑 捏鉢Ⅰ類	b:(14.4)cm	外底糸切痕　貼付高台　灰色　内面磨滅　外面横位ナデ　灰白色　砂粒・小石粒少量	〃　〃
38-214	常滑 捏鉢Ⅰ類	b:(13.8)cm	外底糸切痕　貼付高台　灰オリーブ色　内面磨滅　外面横位ナデ　灰色　砂粒・小石粒少量	〃　〃
38-215	常滑 捏鉢Ⅰ類	b:(9.9)cm	粉殻痕　貼付高台　灰色　内面横位ナデ　底部指頭痕　外面ヘラ成形　灰白色　砂粒少量	〃　〃
38-216	常滑 捏鉢Ⅰ類	a:(31.6)cm	内面降灰オリーブ色　外面褐色　灰色　砂粒・白色粒・黒色粒少量	〃　〃
39-217	常滑　甕	a:(43.4)cm	輪積技法　横位ナデ　内面上位～外面降灰　褐色　砂粒・白色粒少量	〃　〃
39-218	常滑　甕	a:(34.8)cm	輪積技法　横位ナデ・指頭痕・ヘラ整形　降灰　オリーブ灰色　砂粒・小石粒やや多量	〃　〃
39-219	常滑　甕	b:(14.7)cm	砂目底　外面斜位刷毛目・指頭痕・ヘラ整形　降灰　暗赤褐色　砂粒・白色粒少量	〃　〃
39-220	瓦器　碗	a:(10.1)cm b:(9.8)cm c:3.2cm	手捏ね　内底面菊花・内面～外面上位横位条線の暗文　灰色～黒灰色　微砂　精良土　良好	〃　〃　楠葉系
39-221	瓦器　碗	a:(11.0)cm b:(10.2)cm c:(2.6)cm	手捏ね　内底面菊花・内面～外面上位横位条線の暗文　黒灰色　精良土　微砂　良好	〃　〃　楠葉系
39-222	瓦器　碗	口縁部～体部小片	内底面菊花・内面～外面上位横位条線の暗文　明灰褐色　微砂　精良土　良好	〃　〃　楠葉系
39-223	宇瓦(軒平瓦)	推定厚:3.8cm	重弧文型挽施文　顎貼付技法　灰色　砂粒・白針・黒色粒　やや硬質	〃　〃
39-224	須恵器　甕	体部小片	灰色　内面横位ナデ　外面叩目痕　灰褐色　砂粒・白色粒　良土　良好　硬質	〃　〃
39-225	滑石製　硯	残長:9.0cm 幅5.3cm 厚:1.9cm	灰色　滑石鍋→温石→硯に転用か	〃　〃
39-226	鉄製品　刃子	全長:29.4cm 刀長:20.2cm 茎:9.2cm	保存状態極めて良好地金残る　茎の刀区寄りに径5mm程の目釘穴あり	〃　〃
39-227	鉄製品　刃子	全長:28.2cm 刀長:19.4cm 茎:8.8cm	保存状態極めて良好地金残る　茎の刀区寄りに径4mm程の目釘穴あり	〃　〃
39-228	鉄製品　小刀	全長:18.5cm 刃高:9mm 刃厚:0.25cm	腐食が進んでいるがほぼ全長判る　後端部2ヶ所に目釘穴あり	〃　〃
39-229	鉄製品　釘	残長:11.3cm 幅:6mm 厚:0.5cm	角釘	〃　〃
39-230	銅製品	残長:9.8cm 幅:9mm 厚:0.15cm	飾金具又は小札か　上面のみ黒漆を塗布　剥離部分多し　両側に小孔あり	〃　〃
39-231	銅銭		開元通宝　唐銭　初鋳年845年	〃　〃
39-232	銅銭		開元通宝　唐銭　初鋳年845年	〃　〃
39-233	銅銭		天聖元宝　北宋銭　初鋳年1023年	〃　〃
39-234	銅銭		周通元宝　後周銭　初鋳年955年	〃　〃
39-235	銅銭		景徳元宝　北宋銭　初鋳年1004年	〃　〃
39-236	銅銭		元豊通宝　北宋銭　初鋳年1078年	〃　〃
39-237	銅銭		宣和通宝　北宋銭　初鋳年1119年	〃　〃
39-238	骨製品　笄	長さ:16.5cm 幅:1.3cm 厚:0.25cm	頂部に小孔　鹿の四肢骨を刃物で削り出し、全面を丁寧に研磨	〃　〃
39-239	骨製品　笄	残長：10.2cm 幅:8mm 厚:0.25cm	頂部～中央部片全体に丁寧な研磨が施される	〃　〃
40-240	漆器　椀	a:(12.8)cm b:(6.5)cm c:5.0cm	黒漆地に朱漆で三つ巴のスタンプ	〃　〃
40-241	漆器　椀	b:(7.8)cm	黒漆地に朱漆で紅葉のスタンプ	〃　〃
40-242	漆器　椀	体部片	黒漆地に朱漆で亀甲に花菱のスタンプ	〃　〃
40-243	漆器　椀	底部小片	黒漆地に朱漆でカタバミを手描きか	〃　〃
40-244	漆器　椀	底部小片	黒漆地に朱漆で模様を手描きか　一部焦げあり	〃　〃
40-245	漆器　椀	a:(15.8)cm	黒漆塗布	〃　〃
40-246	漆器　椀	b:(7.2)cm	黒漆塗布	〃　〃
40-247	漆器　椀	a:(13.0)cm b:(6.8)cm c:3.8cm	黒漆塗布　光沢あり	〃　〃
40-248	漆器　椀	a:(16.0)cm b:(10.2)cm c:(5.1)cm	黒漆地に朱漆で笹文を手描きか　外底面楔状の切り込み　漢数字の「二」か	〃　〃
40-249	漆器　椀	a:(15.7)cm	黒漆塗布	〃　〃
40-250	漆器　皿	a:9.7cm b:7.2cm c:1.3cm	黒漆地に朱漆で撫子文のスタンプ	〃　〃
40-251	漆器　皿	a:8.9cm b:6.5cm c:1.0cm	黒漆地に朱漆で三つ巴のスタンプ	〃　〃
40-252	漆器　皿	a:(8.8)cm b:(6.8)cm c:1.1cm	黒漆地に朱漆でカタバミのスタンプ	〃　〃
40-253	漆器　皿	a:(8.8)cm b:(6.1)cm c:0.9cm	黒漆地に朱漆で双葉文を描く	〃　〃
40-254	漆器　皿	a:8.9cm	黒漆塗布	〃　〃

表17　出土遺物観察表（15）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
40-255	漆器　皿	a:(8.9)cm	黒漆塗布	第3面　池3中層
40-256	木製品　櫛	長:4.9cm 残幅:3.1cm 厚:1.0cm	両端破損　頭部丸く細かい櫛目	〃　〃
40-257	木製品　櫛	長:3.7cm 残幅:3.9cm 厚:0.9cm	黒漆塗布　頭部丸く粗い櫛目	〃　〃
40-258	木製品　櫛	長:4.2cm 幅:3.5cm 厚:0.7cm	薄い黒漆塗布　比較的細かい櫛目　横櫛	〃　〃
40-259	木製品　箸	長:25.1cm 幅:0.7cm 厚:0.65cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖り気味	〃　〃
40-260	木製品　箸	長:25.9cm 幅:0.65cm 厚:0.6cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖り気味	〃　〃
40-261	木製品　箸	長:24.6cm 幅:0.6cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖り気味	〃　〃
40-262	木製品　箸	長:24.1cm 幅:0.6cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面六角形に加工　両端尖り気味	〃　〃
40-263	木製品　箸	長:24.1cm 幅:0.7cm 厚:0.6cm	鋭利な刃物で断面六角形に加工　両端尖り気味	〃　〃
40-264	木製品　箸	長:20.0cm以上 幅:6mm 厚:0.65cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖り気味	〃　〃
40-265	用途不明木製品	長:25.2cm 幅:1.0cm 厚:0.8cm	刃物で断面多角形に加工　下端尖り気味	〃　〃
40-266	木製品　壺杓子	残長:31.3cm 柄幅:1.2cm 厚:1.0cm	上半黒漆塗布　側面観は緩いS字状　柄完形・壺部分半分消失　柄断面逆蒲形	〃　〃
40-267	木製品　杓子	長さ:26.7cm 幅:4.6～5.2cm 厚:0.7cm	全体丸味を帯びた削り　一部煤付着	〃　〃
41-268	木製品　曲物	直径:32.0cm 残幅:6.4cm 厚:0.5cm	底板　断面弱い台形　留め具に桜皮使用	〃　〃
41-269	木製品　曲物	直径:32.0cm 残幅:6.4cm 厚:0.5cm	底板　断面弱い台形　側縁丁寧な面取　全面弱い横位の押圧痕	〃　〃
41-270	木製品　曲物	短径:13.0cm 長径:22.0cm	底板　側縁丁寧な削り　裏面腐食大きい	〃　〃
41-271	木製品　曲物	直径:22.0cm 残幅:16.0cm 厚:0.35cm	底板　断面台形	〃　〃
41-272	木製品　曲物	直径:15.0cm 厚:0.65cm	底板　断面台形　側縁細かく丸くする為の削り	〃　〃
41-273	木製品　曲物	直径:13.4cm 厚:0.4cm	蓋又は底板　両側周縁部小孔　周縁側面を斜めに整形	〃　〃
41-274	木製品　曲物	直径:12.8cm 厚:0.7cm	蓋又は底板　両側周縁部2孔1組の小孔が穿つ　周縁側面を斜めに面取整形	〃　〃
41-275	木製品　円盤	直径:9.4cm 厚:0.2cm	微かに側縁が傾斜して加工されている　油脂状の汚れ	〃　〃
41-276	用途不明木製品	4×3.1cm 厚:2.9cm	中央部台形の窪み　ノミで加工か	〃　〃
41-277	木製品　つまみか	長:16.8cm 残幅:1.8cm 厚:1.5cm	角に丸味を持たせた台形　留め具として両端に2本の腐食した釘が残る	〃　〃
41-278	木製品　箱	20.8cm×3.4cm 厚:0.65cm	片側端部に2孔1組の小孔が穿つ	〃　〃
41-279	用途不明木製品	8.2×9.0cm 厚:1.0cm	八角形で周縁が傾斜して加工　中央部木釘が打ち込まれている	〃　〃
41-280	用途不明木製品	9.6×8.4cm 厚:1.0cm	八角形で周縁が傾斜して加工　中央部穿孔あり	〃　〃
41-281	木製品　木錘	長:8.5cm 径:1.8～2.2cm	下端部がやや細い丸棒状　糸を結ぶ為上方に彫り込みを刻む	〃　〃
41-282	用途不明木製品	8.0×3.0cm	両端丸く加工　中央部に切り込みが入る	〃　〃
41-283	木製品　箆	長:18.3cm 幅:1.2cm	刃物で断面多角形に加工　下端尖り気味	〃　〃
41-284	木製品　箆	長:16.2cm 中央幅:1.0cm 厚:0.6cm	断面蛇型　先端を尖らせ両面斜めに削る	〃　〃
41-285	木製品　箆	長:23.7cm 幅:1.8cm	断面楕円形　先端尖らす　木釘が打ち込まれる	〃　〃
41-286	木製品　箆	長:23.2cm 中央幅:1.9cm 厚:0.9cm	断面かまぼこ型　上面木目に沿った面取やや丸味を持つ　下面比較的平らな削り加工	〃　〃
41-287	木製品　箆	長:20.1cm 幅:1.6cm	先端尖らし漆が付着	〃　〃
41-288	木製品　箆	長:22.6cm 幅:1.2cm	断面多角形に加工　先端尖らす	〃　〃
41-289	木製品　錐	柄残長:19.2cm 錐刃残長:3.5cm	八角形以上に面取丸味を持たす　刃との根付け部分を円錐に加工	〃　〃
42-290	木製品　箆	12.9×1.5cm	先端尖らしやや平に加工	〃　〃
42-291	木製品箆状工具	19.8×0.8cm	両端尖らす　片側平に加工	〃　〃
42-292	金剛草履板芯	長:23.5cm 幅:10.2cm 厚:0.3cm	先端鼻緒の小孔あり　中央側縁方形の抉り　縄目状の腐食痕多量　縄編痕	〃　〃
42-293	金剛草履板芯	長:23.4cm 幅:(10.0)cm 厚:0.4cm	先端・中央部鼻緒の小孔　先端近くL字の抉り　側縁方形の抉り　縄編痕	〃　〃
42-294	金剛草履板芯	長:23.0cm 幅:9.5cm 厚:0.1～0.3cm	先端・中央部鼻緒の小孔　先端近くL字の抉り　側縁方形の抉り　縄編痕	〃　〃
42-295	金剛草履板芯	長:23.4cm 幅:(10.0)cm 厚:0.3cm	先端・中央部鼻緒の小孔　先端近くL字の抉り　側縁方形の抉り　縄編痕	〃　〃
42-296	金剛草履板芯	長:23.5cm 幅:10.0cm 厚:0.25～0.4cm	先端・中央部鼻緒の小孔　先端近くL字の抉り　側縁方形の抉り　縄編痕　側縁面取	〃　〃
42-297	金剛草履板芯	長:22.3cm 幅:9.6cm 厚:0.3cm	先端・中央部鼻緒の小孔　先端近くL字の抉り　側縁方形の抉り　縄編痕	〃　〃
42-298	金剛草履板芯	長:23.0cm 幅:10.2cm 厚:0.25～0.3cm	先端・中央部鼻緒の小孔　先端近くL字の抉り　側縁方形の抉り　縄編・腐食痕	〃　〃

表18　出土遺物観察表（16）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
42-299	金剛草履板芯	長:22.4cm 幅:10.0cm 厚:0.25～0.3cm	先端部鼻緒の小孔　中央・中央先端部に抉り　縄編痕　腐食物付着	第３面　池３中層
42-300	金剛草履板芯	長:22.5cm 幅:10.2cm 厚:0.15～0.3cm	先端部鼻緒の小孔　中央縁側方形の抉り　縄目状の圧痕	〃　〃
43-301	木製品　下駄歯	残長:18.5cm 幅:19.0cm 厚:6.6cm	３ヶ所に切断か斜位の鋸引きの様な削りあり　再加工か	〃　〃
43-302	木製品　下駄歯	残長:6.2cm 幅:9.3cm 高:(2.2)cm	歯部損傷後再加工か　後穴の部位に鋸痕あり　腐食大	〃　〃
43-303	木製品　下駄歯	幅:(17.0)cm 高:(10.8)cm 厚:3.1cm	台形の切り出し　丁寧な面取を施す	〃　〃
43-304	木製品　扇	長:33.1cm 幅:1.5cm 厚:0.2～0.3cm	短冊型　木釘を差し込む　５枚で作られる	〃　〃
43-305	木製品　扇	長:39.5cm幅:1.1～1.6cm厚:0.4cm	短冊型　木釘を差し込む　７枚で作られる	〃　〃
44-306	木製品　折敷	長:32.5cm 残幅:13.8cm 厚:0.6cm	中央側縁に桜皮の留め跡　手斧痕　刃物による傷か　堅い柾目材	〃　〃
44-307	木製品　折敷	長:24.6cm 残幅:17.0cm 厚:0.3cm	３方に枠止めの通し穴と紐が残る　腐食した有機物付着	〃　〃
44-308	木製品　折敷	長:25.5cm 残幅:16.0cm 厚:2.5cm	板状の押圧痕　堅い柾目材	〃　〃
44-309	木製品　墨書折敷	長:19.4cm 残幅:3.8cm 厚:0.1cm	両面墨書痕　重ね書きしたもの　文字判読不明	〃　〃
44-310	木製品　墨書折敷	長:25.9cm 残幅:5.3cm 厚:0.2cm	両面墨書痕　薄板で両角隅を丸く加工　上面三鱗と判読不明文字　下面文字判読不明	〃　〃
44-311	木製品　墨書折敷	径:11.1cm 厚:0.2cm	小刀で円形に加工　上面「十六」の墨書　コースター状に使用か	〃　〃
44-312	木製品　墨書折敷	径:12.2cm 厚:0.2cm	小刀で円形に加工　上面墨書残すが文字判読不明	〃　〃
44-313	木製品　折敷	径:10.6～11.7cm 厚:0.2cm	四隅を丸く加工	〃　〃
44-314	木製品　折敷	径:11.5cm 厚:0.15cm	小刀で円形に加工	〃　〃
44-315	木製品　墨書折敷	径:9.2cm 厚:0.15cm	小刀で円形に加工　上面「五十六」の墨書	〃　〃
44-316	木製品　墨書折敷	残長:14.0cm 幅:2.0cm 厚:0.1cm	上面墨書　文字判読不明	〃　〃
44-317	木製品　墨書折敷	長:10.6cm 幅:5.1cm 厚:0.2cm	周縁小刀で加工小判型に成形　上面墨書文字判読不明	〃　〃
45-318	木製品　独楽	径:7.0cm 高:3.0cm	上面平面に削る　下位丸味の強い円錐形　芯棒円筒に削り出し	〃　〃
45-319	木製品　独楽	径:6.2cm 高:5.3cm	１本取り　上面・下面平に削る　上位円形　下位円錐形　芯棒は釘 残存長:0.7cm	〃　〃
45-320	木製品　毬状の球	長:6.8cm 幅:5.0cm 厚:3.6cm	全体に丸味を持たせるように加工	〃　〃
45-321	木製品　毬状の球	径:4.5cm	破損箇所あり	〃　〃
45-322	木製品　人形頭	残長:6.4cm	頭部は目・鼻・口・耳を精緻に表現　頭部に細い棒状の加工痕跡有り　操り人形のカシラ	〃　〃
45-323	木製品　人形代	高:8.8cm 幅:1.4×1.8cm	墨で烏帽子・目・口・髭を塗る　下底面節穴の様な穿孔あり　柾目材	〃　〃
45-324	木製品　舟形代	長:13.3cm 幅:3.3cm 深さ:1.6cm	一木作り　内面くり抜き(船内帆柱・櫂・トモ・船尾) 内底中央部穿孔あり	〃　〃
45-325	木製品　形代	長:20.0cm 幅:2.5cm 厚:0.5cm	腐食激しい　側縁面取を施す	〃　〃
45-326	木製品　刀形代	全長:18cm身:7.8cm茎:10.2cm厚:0.5cm	刀身にに比べ茎が長く刀区は下側のみ　上面刀身部を削り整形　下面平	〃　〃
45-327	木製品　形代か	長:12.3 最大幅:3.5cm 厚:0.5cm	先端尖らせ上位隅面取	〃　〃
45-328	木製品　鳥形代か	長:9.4cm 最大幅:8.0cm 厚:0.1cm	全体を鋭利な刃物で作成	〃　〃
45-329	木製品　形代	長:12.0cm 幅:5.8cm 厚:2.5～3.0cm	鳥形か　先端～尾の部分を三角形に鋭く削る	〃　〃
45-330	木製品　鳥形代か	縦材長:26.9cm 横材長:26.9cm	縦板側縁に沿って縦位に２ヶ所切り込みを施し横材をはめ込む	〃　〃
45-331	用途不明木製品	残長:11.5cm 幅3.8cm 厚:0.5～0.6cm	先端鋭く削る　穴・首部分は雑な面取	〃　〃
45-332	木製品　舟形代か	長:9.1cm 最大幅:2.9cm 厚:0.7cm	上端やや尖らせる　隅に面取加工を施す	〃　〃
45-333	用途不明木製品	縦:3.7cm 横:4.0cm 厚:0.9cm	四隅を面取加工	〃　〃
45-334	用途不明木製品	残長:23.8cm最大幅:2.5cm厚:2.0cm	頂部・刻り部面取　断面丸形　角棒部断面やや長方形　四隅面取	〃　〃
45-335	用途不明木製品	長:24.0cm 最大幅:2.8cm 厚:1.6cm	先端やや尖り気味で直線的に削る　木釘が打ち込まれる	〃　〃
46-1	かわらけ	a:7.6cm b:5.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・赤色粒　やや粗土	第３面　池３下層
46-2	かわらけ	a:7.6cm b:6.4cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・赤色粒・小石粒　やや粗土	〃　〃
46-3	かわらけ	a:7.8cm b:6.0cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・赤色粒　やや粗土　灯明皿	〃　〃
46-4	かわらけ	a:7.6cm b:6.6cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・赤色粒・小石粒　粗土	〃　〃
46-5	かわらけ	a:8.1cm b:6.2cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・赤色粒・小石粒　粗土	〃　〃
46-6	かわらけ	a:(8.0)cm b:6.0cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
46-7	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃

表19　出土遺物観察表（17）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
46-8	かわらけ	a:7.8cm b:5.6cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　粗土	第3面　池3下層
46-9	かわらけ	a:(7.6)cm b:(6.1)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-10	かわらけ	a:7.9cm b:6.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・小石粒　粗土　灯明皿	〃　〃
46-11	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-12	かわらけ	a:8.2cm b:5.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白色粒　良土	〃　〃
46-13	かわらけ	a:7.8cm b:6.1cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-14	かわらけ	a:8.2cm b:6.6cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-15	かわらけ	a:8.0cm b:6.3cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-16	かわらけ	a:8.0cm b:5.5cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃
46-17	かわらけ	a:8.0cm b:6.1cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・小石粒　粗土	〃　〃
46-18	かわらけ	a:8.0cm b:6.2cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
46-19	かわらけ	a:7.6cm b:5.6cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　粗土	〃　〃
46-20	かわらけ	a:8.1cm b:6.6cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
46-21	かわらけ	a:8.1cm b:6.3cm c:2.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
46-22	かわらけ	a:8.0cm b:6.7cm c:2.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
46-23	かわらけ	a:8.4cm b:6.6cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　粗土	〃　〃
46-24	かわらけ	a:8.4cm b:5.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
46-25	かわらけ	a:(8.2)cm b:(6.0)cm c:(1.9)cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-26	かわらけ	a:8.7cm b:6.4cm c:2.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
46-27	かわらけ	a:8.5cm b:6.8cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-28	かわらけ	a:8.5cm b:7.0cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-29	かわらけ	a:8.6cm b:6.2cm c:1.65cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　粗土	〃　〃
46-30	かわらけ	a:8.6cm b:7.4cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-31	かわらけ	a:7.0cm b:4.7cm c:2.4cm	ロクロ　外底糸切痕　灰黒色　微砂・雲母・白色粒　精良土　灯明皿	〃　〃
46-32	かわらけ	a:11.8cm b:7.9cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
46-33	かわらけ	a:(11.6)cm b:(7.0)cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-34	かわらけ	a:(11.6)cm b:(7.6)cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-35	かわらけ	a:(11.8)cm b:7.4cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-36	かわらけ	a:12.0cm b:8.2cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃
46-37	かわらけ	a:12.0cm b:7.8cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-38	かわらけ	a:12.0cm b:8.0cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-39	かわらけ	a:12.3cm b:8.0cm c:3.15cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
46-40	かわらけ	a:12.0cm b:7.4cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
46-41	かわらけ	a:(11.8)cm b:(8.6)cm c:2.95cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-42	かわらけ	a:12.2cm b:8.4cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-43	かわらけ	a:12.4cm b:8.6cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-44	かわらけ	a:12.0cm b:7.8cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-45	かわらけ	a:(12.0)m b:(9.0)cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃
46-46	かわらけ	a:12.4cm b:8.5cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
46-47	かわらけ	a:12.4cm b:8.1cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
46-48	かわらけ	a:12.4cm b:8.2cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-49	かわらけ	a:(12.4)cm b:(8.6)cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-50	かわらけ	a:12.6cm b:9.0cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-51	かわらけ	a:11.7cm b:8.0cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃

表20　出土遺物観察表（18）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
46-52	かわらけ	a:13.0cm b:8.8cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	第3面　池3下層
46-53	かわらけ	a:13.6cm b:9.4cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃
46-54	かわらけ	a:(13.4)cm b:6.4cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒　良土	〃　〃
46-55	かわらけ	a:8.0cm b:7.2cm c:1.7cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・白針・小石粒　粗土	〃　〃
46-56	かわらけ	a:8.4cm b:8.0cm c:2.1cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白色粒　良土　灯明皿	〃　〃
46-57	かわらけ	a:8.4cm b:7.5cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
46-58	かわらけ	a:8.2cm b:7.8cm c:2.1cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃
46-59	かわらけ	a:8.4cm b:7.3cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　粗土	〃　〃
46-60	かわらけ	a:8.4cm b:7.8cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-61	かわらけ	a:8.4cm b:7.6cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
46-62	かわらけ	a:8.4cm b:7.6cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃
46-63	かわらけ	a:(8.8)cm b:(7.2)cm c:1.4cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃
46-64	かわらけ	a:(8.6)cm b:(8.0)cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃
46-65	かわらけ	a:(13.6)cm b:(11.8)cm c:(3.4)cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
46-66	白かわらけ	a:11.4cm b:10.7cm c:2.9cm	手捏ね　外底指頭痕　灰白色　微砂　良土	〃　〃
46-67	瀬戸　合子	a:4.2cm b:3.5cm c:1.8cm	蓮弁型押し　灰黄緑色透明　外面体部～下位施釉　黄灰色　微砂　精良土　良好　硬質	〃　〃
46-68	南部系山茶碗	b:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　灰白色　微砂・雲母・石粒　粗土　良好　硬質　小皿か	〃　〃
46-69	常滑　三筋壺	a:10.5cm b:7.8cm c:25.0cm	2条の筋彫線が3組周回　灰色～灰緑色　降灰　灰色　砂粒少量	〃　〃
47-70	常滑　甕	a:(33.0)cm	輪積技法　暗赤褐色　降灰　横位ナデ・指頭痕　灰色　砂粒・長石粒少量	〃　〃
47-71	常滑　甕	a:(36.6)cm	輪積技法　暗赤褐色　降灰　横位ナデ・指頭痕　灰色　砂粒・長石・赤色粒少量	〃　〃
47-72	常滑　捏鉢Ⅰ類	高台径:(14.8)cm	輪積技法　貼付高台　灰色　横位ナデ　灰色　砂粒・長石粒多量	〃　〃
47-73	須恵器　台付壺	b:13.4cm	灰黒色 内外面横位ナデ・指頭痕 灰黒色 微砂・白色粒・黒色粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃　〃
47-74	男瓦(丸瓦)	筒部径:11.2cm 厚:1.4cm	凸面綾杉文叩目痕　凹面布目痕　灰色　砂粒・白色粒　良土　良好　やや硬質	〃　〃
47-75	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目・糸切痕 凸面斜格子文 灰黒色 砂粒・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 やや硬質	〃　〃
47-76	女瓦(平瓦)	厚:2.2～2.5cm	凹面布目痕　凸面横位ナデ　灰色　砂粒・黒色粒　良土　良好　硬質	〃　〃
47-77	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目痕・横位指ナデ 凸面横位ナデ 明灰黒色 砂粒・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 硬質	〃　〃
47-78	骨製品　根付	長:3.4cm 幅:3.2cm 高:3.2cm	馬具・武具に用いた物か　中央に穴が通る　鹿の角の加工品か	〃　〃
47-79	漆器　椀	a:(13.0)cm b:(7.1)cm c:4.4cm	黒漆地に朱漆で菱形文を描く	〃　〃
48-80	漆器　椀	a:15.7cm b:6.5cm c:4.8cm	ロクロ　平高台　底部以外黒漆塗布	〃　〃
48-81	漆器　椀	b:(6.7)cm	輪高台　黒漆地に朱漆で組合せ菊花文のスタンプ　底部以外黒漆地	〃　〃
48-82	漆器　皿	a:(11.4)cm b:(7.6)cm c:2.7cm	ロクロ　平高台　底部以外黒漆塗布	〃　〃
48-83	漆器　皿	底部小片	文様不明　黒漆塗布	〃　〃
48-84	漆器　皿	a:9.0cm b:6.3cm c:1.4cm	黒漆地に朱漆で楓の意匠をスタンプ	〃　〃
48-85	漆器　皿	a:(9.1)cm b:(6.4)cm c:1.5cm	黒漆地に朱漆で菊花文を描く	〃　〃
48-86	漆器　皿	a:8.2cm b:5.6cm c:1.5cm	ロクロ　平高台　黒漆塗布	〃　〃
48-87	木製品　櫛	残長:8.7cm 高:4.4cm 厚:0.8cm	梳櫛　黒漆塗布	〃　〃
48-88	木製品　曲物	径:28.2cm 厚:0.8～0.12cm	底板　側板を止める桜皮残る　側板の圧痕・継部分に焼痕・腐食物痕あり　摩耗激しい	〃　〃
48-89	木製品　曲物	径:16.8cm 厚:0.75cm	底板　断面やや台形状　表面平坦に仕上げる　周縁1ヶ所に木釘あり	〃　〃
48-90	木製品　曲物	径:17.0cm 厚:0.65cm	底板　断面台形状　表面幅広の削り加工で平坦に仕上げる	〃　〃
48-91	木製品　曲物	径:13.2cm 厚:0.7cm	底板　柾目材	〃　〃
48-92	木製品　曲物	径:17.0cm 厚:0.8cm	底板　側縁やや磨滅、僅かに傾斜して加工　油脂状の汚れあり	〃　〃
48-93	木製品　折敷	長:25.0cm 残幅:22.5cm 厚:0.2cm	刃物のような痕跡あり	〃　〃
49-94	木製品　折敷	残長:26.2cm 厚:0.2cm	四隅面取　側縁1ヶ所に小孔あり	〃　〃
49-95	木製品　折敷	長:15.1cm残幅:14.5cm厚:0.1～0.15cm	四隅面取　所々にシミが見られる	〃　〃

表21　出土遺物観察表（19）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
49-96	木製品　折敷	長:24.5cm 残幅:7.4cm 厚:0.2～0.3cm	断面方形　側縁小孔あり	第３面　池３下層
49-97	木製品　折敷	縦幅:(15.9)cm 横幅15.7cm 厚:0.15cm	四隅を大きく切り落とす　各辺中央・隅に小孔を穿つ　上端中央の小孔に木釘が残る	〃　〃
49-98	木製品　墨書折敷	残縦幅:12.8cm 横幅:4.7cm 厚:0.15cm	上面墨書文字判読不明　下面墨書痕らしきものあり	〃　〃
49-99	木製品　墨書折敷	残長:7.2cm 幅:2.2cm 厚:0.1cm	墨書文字文字判読不明　折敷として使用後加工か	〃　〃
49-100	木製品　折敷	縦幅:19.0cm 残横幅:5.1cm 厚:0.4cm	木目の細かい薄板を加工　両端に緩やかなカーブを持たせる	〃　〃
49-101	木製品　火切臼か	長:18.2cm 幅:6.9cm 厚:0.3～0.4cm	側縁の小孔は規則性あり　箱物の二次加工か	〃　〃
49-102	木製品　加工品	径:7.9cm 厚:0.15cm	大型で隅を丸く加工　周縁内側に圧痕を部分的に残す　上辺中央に小孔あり	〃　〃
49-103	木製品　つまみか	長:27.0cm 幅:1.9cm 厚:0.8cm	容器蓋のつまみ部分か　上・側面黒漆塗布　左右端部・中央部の３孔に木釘残存	〃　〃
49-104	木製品　箱	長:28.7cm 残幅:8.2cm	木釘９本残存	〃　〃
50-105	木製品　折敷	横幅:31.6cm 残縦幅:10.9cm 厚:0.4cm	隅を丸く加工　周縁内側部分的に圧痕を残す　上辺中央に小孔	〃　〃
50-106	木製品　箸	長:21.9cm 幅:0.7cm 厚:0.5cm	両端尖るように面取加工を施す	〃　〃
50-107	木製品　箸	長:23.8cm 幅:0.6cm 厚:0.5cm	両端尖るように面取加工を施す	〃　〃
50-108	木製品　菜箸	長:24.1cm以上 幅:0.9cm 厚:0.7cm	丸棒状で面取加工　先端尖らす	〃　〃
50-109	木製品　菜箸	長:26.7cm 幅:0.7cm 厚:0.6cm	両端尖るように面取加工を施す	〃　〃
50-110	木製品　菜箸	長さ:26.2cm 幅:0.9cm 厚:0.9cm	丸棒状で面取加工　下端細目削り・焼焦げている	〃　〃
50-111	木製品　菜箸	長:27.4cm 幅:1.1cm 厚:0.9cm	丸棒状で面取加工　両端欠損　下端焼焦げている	〃　〃
50-112	木製品　菜箸	長:29.0cm 幅:1.1cm 厚:1.0cm	丸棒状で面取加工　片端やや細め　使用により焼焦げている	〃　〃
50-113	木製品　菜箸か	長:39.5cm 中央径:1.3cm 両端径:1.0cm	丸棒状で両端やや細くなるように面取	〃　〃
50-114	用途不明木製品	長:45.3cm 幅:1.7cm 厚:1.0cm	片端尖り気味に面取　先端焼焦げている　下面加工せず　頂部Ｖ字の切込み	〃　〃
50-115	木製品　扇子	残長7.4cm 幅:1.6cm 厚:0.2cm	板状で茎部両側縁を弱く削り加工　木釘で固定する為孔(径4.5mm)を穿つ	〃　〃
50-116	木製品　人形代	長:11.6cm 幅:2.5cm 厚:1.4cm	烏帽子・頭部削り出す　目・眉・鼻・口・耳を線刻で表現　先端尖るように加工	〃　〃
50-117	木製品　鳥形代	長:11.3cm 高:1.8cm 厚:0.9cm	薄板材から鳥の側面を表現　嘴～尾羽を削り出す　翼は深い削り込み　蒸がモチーフか	〃　〃
50-118	木製品　独楽	径:5.2cm 残高:2.5cm	ほぼ円形の平面　断面逆台形状　芯部欠損　芯・付根の周囲に５個の円が施されている	〃　〃
50-119	木製品　俵状の球	径:4.3cm	全体を削り球状にする	〃　〃
50-120	用途不明木製品	長:3.8cm 幅:3.6cm 厚:1.0cm	板材を角形に加工したもの	〃　〃
50-121	木製品　建具	残長:13.4cm 幅:2.6cm 厚:1.5cm	格子材の横桟か　両端欠損失部分に釘穴あり	〃　〃
50-122	用途不明木製品	長:12.8cm 残幅:1.5cm 厚:1.6cm	表面に削り加工あり	〃　〃
50-123	金剛草履板芯	長:20.5cm 幅:9.0cm 厚:0.2cm	先端中央寄りにそれぞれ１ヶ所小孔　側縁やや後方に方形の切込み	〃　〃
50-124	金剛草履板芯	長:22.8cm 幅:9.9cm 厚:0.25cm	左上部欠損　先端中央寄りに小孔　側縁やや後方に方形の切込み　両面藁を編んだ圧痕	〃　〃
50-125	金剛草履板芯	長:23.4cm 幅:10.0cm 厚:0.2cm	右上部欠損　先端中央寄りに小孔　側縁やや後方に方形の切込み　両面藁を編んだ圧痕	〃　〃
51-1	かわらけ	a:8.1cm b:5.2cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　内底中央弱い横位ナデ	A３類　第３面　池３北東遺物溜
51-2	かわらけ	a:8.2cm b:5.1cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土	〃　〃　〃
51-3	かわらけ	a:8.2cm b:4.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂　良土　摩耗の為内底調整不明	〃　〃　〃
51-4	かわらけ	a:8.1cm b:5.5cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂　精良土	〃　〃　〃
51-5	かわらけ	a:8.2cm b:4.9cm c:2.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-6	かわらけ	a:8.3cm b:5.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-7	かわらけ	a:8.3cm b:5.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・雲母　良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-8	かわらけ	a:8.2cm b:5.3cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-9	かわらけ	a:8.2cm b:4.6cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　灰黄色　微砂　精良土　内定未調整	〃　〃　〃
51-10	かわらけ	a:8.2cm b:4.9cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-11	かわらけ	a:8.3cm b:4.9cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-12	かわらけ	a:8.3cm b:5.2cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-13	かわらけ	a:8.5cm b:5.2cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-14	かわらけ	a:8.2cm b:5.2cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂　精良土　内底中央弱い横位ナデ	〃　〃　〃

表22　出土遺物観察表（20）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
51-15	かわらけ	a:8.2cm b:5.2cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	A３類　第３面　池３北東遺物溜
51-16	かわらけ	a:8.3cm b:5.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土　内底中央弱い横位ナデ	〃　〃　〃
51-17	かわらけ	a:8.7cm b:5.7cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
	かわらけ	a:8.4cm b:5.3cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-19	かわらけ	a:8.0cm b:5.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-20	かわらけ	a:8.2cm b:4.7cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土　内底中央弱い横位ナデ	〃　〃　〃
51-21	かわらけ	a:8.4cm b:5.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-22	かわらけ	a:8.2cm b:4.7cm c:2.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　良土　内底調整不明	〃　〃　〃
51-23	かわらけ	a:8.2cm b:4.9cm c:2.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-24	かわらけ	a:8.2cm b:4.9cm c:2.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-25	かわらけ	b:5.0cm c:1.6cm以上	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　内底中央弱い横位ナデ	〃　〃　〃
51-26	かわらけ	a:10.6cm b:4.3cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土	A２類　〃　〃
51-27	かわらけ	a:11.2cm b:5.0cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-28	かわらけ	a:11.0cm b:4.7cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂少量　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-29	かわらけ	a:12.0cm b:5.2cm c:3.9cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂少量・雲母　精良土　内底未調整	A１類　〃　〃
51-30	かわらけ	a:12.3cm b:6.4cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・良土	〃　〃　〃
51-31	かわらけ	a:12.6cm b:5.7cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂やや多量・雲母　良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-32	かわらけ	a:12.7cm b:6.0cm c:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-33	かわらけ	a:12.8cm b:5.5cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂少量・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-34	かわらけ	a:12.8cm b:5.8cm c:3.9cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄橙色　微砂少量・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-35	かわらけ	a:12.6cm b:5.7cm c:3.9cm	ロクロ　外底糸切痕　灰黄色　微砂少量・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-36	かわらけ	a:12.6cm b:5.1cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　精良土	〃　〃　〃
51-37	かわらけ	a:12.6cm b:6.0cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　内底中央弱い横位ナデ	〃　〃　〃
51-38	かわらけ	a:13.1cm b:5.9cm c:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量　精良土　内底弱い横位ナデ	〃　〃　〃
51-39	かわらけ	a:13.4cm b:5.5cm c:3.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-40	かわらけ	a:13.5cm b:6.0cm c:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-41	かわらけ	a:13.3cm b:6.3cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄橙色　微砂少量　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-42	かわらけ	a:13.3cm b:6.3cm c:3.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量　精良土　紛質	〃　〃　〃
51-43	かわらけ	a:13.2cm b:5.6cm c:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂やや多量・雲母　良土　内底中央弱い横位ナデ	〃　〃　〃
51-44	かわらけ	a:13.4cm b:6.0cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂少量・雲母　精良土　内底中央弱い横位ナデ	〃　〃　〃
51-45	かわらけ	a:13.3cm b:5.8cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂少量　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-46	かわらけ	a:12.6cm b:6.0cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土	〃　〃　〃
51-47	かわらけ	a:12.8cm b:5.9cm c:3.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂やや多量・雲母　良土内底未調整	〃　〃　〃
51-48	かわらけ	a:13.4cm b:6.3cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-49	かわらけ	a:13.1cm b:5.3cm c:3.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量・雲母　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-50	かわらけ	a:13.4cm b:5.8cm c:4.0cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-51	かわらけ	a:13.3cm b:5.7cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
51-52	かわらけ	a:13.0cm b:6.0cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂少量　精良土　内底弱い横ナデ　灯明皿	〃　〃　〃
51-53	かわらけ	a:12.8cm b:5.4cm c:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　灰黄色　微砂少量　精良土　粉質　内底未調整　灯明皿	〃　〃　〃
51-54	かわらけ	a:13.0cm b:5.8cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量　精良土　内底未調整　灯明皿	〃　〃　〃
51-55	かわらけ	a:13.4cm b:6.2cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂少量　精良土　内底未調整	〃　〃　〃
52-56	かわらけ	a:7.7cm b:6.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	B３類　〃　〃
52-57	かわらけ	a:7.9cm b:5.8cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-58	かわらけ	a:8.0cm b:6.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃

表23　出土遺物観察表（21）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
52-59	かわらけ	a:7.7cm b:6.6cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・土丹粒　やや粗土	B3類　第3面　池3北東遺物溜
52-60	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-61	かわらけ	a:7.9cm b:6.3cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-62	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-63	かわらけ	a:7.9cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-64	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-65	かわらけ	a:8.2cm b:6.4cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-66	かわらけ	a:8.1cm b:6.4cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-67	かわらけ	a:8.0cm b:6.2cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒	〃　〃　〃
52-68	かわらけ	a:8.2cm b:6.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-69	かわらけ	a:7.5cm b:5.7cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-70	かわらけ	a:7.8cm b:5.4cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-71	かわらけ	a:7.6cm b:5.4cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-72	かわらけ	a:7.5cm b:5.3cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-73	かわらけ	a:7.6cm b:5.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-74	かわらけ	a:7.8cm b:6.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-75	かわらけ	a:7.5cm b:5.3cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-76	かわらけ	a:7.7cm b:5.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-77	かわらけ	a:7.7cm b:5.3cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
52-78	かわらけ	a:7.7cm b:5.8cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-79	かわらけ	a:7.6cm b:6.1cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
52-80	かわらけ	a:7.4cm b:5.2cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-81	かわらけ	a:7.7cm b:5.6cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-82	かわらけ	a:7.8cm b:5.8cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
52-83	かわらけ	a:7.9cm b:5.8cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-84	かわらけ	a:7.7cm b:6.1cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-85	かわらけ	a:7.8cm b:5.9cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-86	かわらけ	a:7.9cm b:6.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-87	かわらけ	a:7.9cm b:6.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-88	かわらけ	a:7.9cm b:6.0m c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-89	かわらけ	a:7.9cm b:6.1cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-90	かわらけ	a:8.1cm b:5.8cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-91	かわらけ	a:8.1cm b:6.6cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
52-92	かわらけ	a:8.1cm b:6.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
52-93	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-94	かわらけ	a:8.1cm b:6.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-95	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
52-96	かわらけ	a:8.1cm b:6.6cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-97	かわらけ	a:7.9cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-98	かわらけ	a:7.8cm b:5.2cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-99	かわらけ	a:7.8cm b:5.7cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-100	かわらけ	a:7.9cm b:5.3cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-101	かわらけ	a:8.0cm b:5.8cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-102	かわらけ	a:7.8cm b:5.8cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃

表24　出土遺物観察表（22）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
52-103	かわらけ	a:7.9cm b:5.9cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　やや粗土	B3類　第3面　池3北東遺物溜
52-104	かわらけ	a:8.0cm b:6.1cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-105	かわらけ	a:7.9cm b:6.1cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-106	かわらけ	a:7.9cm b:5.6cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多目・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-107	かわらけ	a:8.0cm b:5.9cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-108	かわらけ	a:8.0cm b:5.6cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
52-109	かわらけ	a:8.0cm b:5.7cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-110	かわらけ	a:8.0cm b:6.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-111	かわらけ	a:7.8cm b:5.7cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-112	かわらけ	a:8.4cm b:6.7cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-113	かわらけ	a:8.4cm b:6.4cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅橙色　微砂多量・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-114	かわらけ	a:8.1cm b:6.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-115	かわらけ	a:8.1cm b:6.6cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-116	かわらけ	a:8.1cm b:5.8cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-117	かわらけ	a:8.2cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-118	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-119	かわらけ	a:8.3cm b:6.4cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-120	かわらけ	a:8.0cm b:6.2cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多目・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-121	かわらけ	a:8.1cm b:6.5cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-122	かわらけ	a:8.2cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-123	かわらけ	a:8.2cm b:6.6cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
52-124	かわらけ	a:8.3cm b:6.3cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-125	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-126	かわらけ	a:8.0cm b:6.2cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-127	かわらけ	a:8.1cm b:6.4cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多目・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-128	かわらけ	a:8.2cm b:6.1cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-129	かわらけ	a:8.2cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-130	かわらけ	a:8.1cm b:6.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・小石粒　やや良土	〃　〃　〃
52-131	かわらけ	a:8.1cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
52-132	かわらけ	a:8.2cm b:5.8cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-133	かわらけ	a:8.1cm b:5.9cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-134	かわらけ	a:8.2cm b:5.6cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-135	かわらけ	a:8.3cm b:6.0cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-136	かわらけ	a:8.0cm b:5.5cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-137	かわらけ	a:8.2cm b:5.9cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-138	かわらけ	a:8.2cm b:6.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
52-139	かわらけ	a:8.0cm b:5.4cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-140	かわらけ	a:8.1cm b:6.0cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-141	かわらけ	a:8.1cm b:6.2cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-142	かわらけ	a:8.3cm b:6.4cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-143	かわらけ	a:8.1cm b:6.2cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-144	かわらけ	a:8.1cm b:6.4cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-145	かわらけ	a:8.2cm b:6.1cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-146	かわらけ	a:8.0cm b:5.8cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃

表25　出土遺物観察表（23）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
52-147	かわらけ	a:8.0cm b:6.7cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針　粗土	B3類　第3面　池3北東遺物溜
52-148	かわらけ	a:8.3cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-149	かわらけ	a:8.4cm b:7.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-150	かわらけ	a:8.1cm b:6.4cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-151	かわらけ	a:8.0cm b:5.7cm c:2.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-152	かわらけ	a:8.3cm b:6.5cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹　粗土	〃　〃　〃
52-153	かわらけ	a:8.3cm b:6.3cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-154	かわらけ	a:8.2cm b:5.9cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-155	かわらけ	a:8.3cm b:5.9cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-156	かわらけ	a:8.2cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
52-157	かわらけ	a:8.2cm b:5.7cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土　良好	〃　〃　〃
52-158	かわらけ	a:8.2cm b:6.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-159	かわらけ	a:8.0cm b:6.1cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-160	かわらけ	a:8.4cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-161	かわらけ	a:8.2cm b:6.2cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多目・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-162	かわらけ	a:8.2cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-163	かわらけ	a:8.3cm b:5.9cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針　土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-164	かわらけ	a:8.2cm b:5.7cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-165	かわらけ	a:8.2cm b:6.1cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄当職　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-166	かわらけ	a:8.3cm b:6.1cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-167	かわらけ	a:8.0cm b:5.6cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-168	かわらけ	a:8.1cm b:5.6cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-169	かわらけ	a:7.9cm b:5.6cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-170	かわらけ	a:8.1cm b:6.9cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-171	かわらけ	a:8.4cm b:6.1cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-172	かわらけ	a:8.2cm b:6.4cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-173	かわらけ	a:8.0cm b:6.1cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-174	かわらけ	a:8.0cm b:6.2cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
52-175	かわらけ	a:8.2cm b:6.3cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-176	かわらけ	a:8.2cm b:6.0cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-177	かわらけ	a:8.3cm b:6.5cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-178	かわらけ	a:8.3cm b:6.7cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-179	かわらけ	a:8.2cm b:6.1cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
52-180	かわらけ	a:8.3cm b:6.6cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-181	かわらけ	a:8.1cm b:6.0cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-182	かわらけ	a:8.1cm b:5.8cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-183	かわらけ	a:8.1cm b:6.1cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-184	かわらけ	a:8.0cm b:5.7cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-185	かわらけ	a:8.2cm b:6.2cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-186	かわらけ	a:8.3cm b:6.0cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-187	かわらけ	a:8.4cm b:5.8cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
52-188	かわらけ	a:8.4cm b:5.9m c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-189	かわらけ	a:8.2cm b:6.3cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
52-190	かわらけ	a:7.9cm b:5.9cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃

表26　出土遺物観察表（24）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
52-191	かわらけ	a:8.5cm b:5.9cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	B3類　第3面　池3北東遺物溜
52-192	かわらけ	a:8.4cm b:6.0cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
52-193	かわらけ	a:8.3cm b:6.0cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-194	かわらけ	a:7.5cm b:5.4cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
53-195	かわらけ	a:7.7cm b:5.6cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
53-196	かわらけ	a:7.6cm b:5.5cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
53-197	かわらけ	a:7.6cm b:5.3cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-198	かわらけ	a:8.4cm b:6.3cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
53-199	かわらけ	a:7.8cm b:5.8cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-200	かわらけ	a:7.8cm b:5.8cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-201	かわらけ	a:7.8cm b:5.6cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂。赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
53-202	かわらけ	a:8.0cm b:5.9cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
53-203	かわらけ	a:8.0cm b:5.7cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
53-204	かわらけ	a:8.1cm b:6.1cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-205	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-206	かわらけ	a:8.0cm b:5.9cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-207	かわらけ	a:8.0cm b:5.8cm b:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
53-208	かわらけ	a:8.1cm b:5.8cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
53-209	かわらけ	a:8.0cm b:5.7cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
53-210	かわらけ	a:8.0cm b:6.0cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-211	かわらけ	a:8.2cm b:6.4cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-212	かわらけ	a:8.2cm b:6.2cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-213	かわらけ	a:8.3cm b:6.3cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-214	かわらけ	a:8.2cm b:5.9cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
53-215	かわらけ	a:8.3cm b:6.1cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-216	かわらけ	a:8.4cm b:6.3cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-217	かわらけ	a:8.0cm b:5.4cm c:2.0cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-218	かわらけ	a:8.2cm b:5.5cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-219	かわらけ	a:8.2cm b:6.6cm c:2.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
53-220	かわらけ	a:7.8cm b:4.5cm c:2.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
53-221	かわらけ	a:12.0cm b:8.0cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	B I 類　〃　〃
53-222	かわらけ	a:11.8cm b:7.9cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-223	かわらけ	a:12.1cm b:8.1cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-224	かわらけ	a:12.0cm b:8.0cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
53-225	かわらけ	a:12.1cm b:8.3cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-226	かわらけ	a:12.3cm b:7.5cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-227	かわらけ	a:12.0cm b:8.0cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
53-228	かわらけ	a:12.3cm b:8.1cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
53-229	かわらけ	a:12.5cm b:7.9cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-230	かわらけ	a:12.3cm b:8.0cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土　灯明皿	〃　〃　〃
53-231	かわらけ	a:12.0cm b:7.9cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
53-232	かわらけ	a:(12.2)cm b:7.0cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-233	かわらけ	a:12.2cm b:7.4cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒　良土	〃　〃　〃
53-234	かわらけ	a:12.3cm b:8.0cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂多量・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃

表27　出土遺物観察表（25）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
53-235	かわらけ	a:12.4cm b:8.3cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	B1類　第3面　池3北東遺物溜
53-236	かわらけ	a:12.5cm b:8.3cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-237	かわらけ	a:12.5cm b:7.4cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-238	かわらけ	a:12.3cm b:7.5cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-239	かわらけ	a:12.3cm b:8.6cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　灯明皿	〃　〃　〃
53-240	かわらけ	a:12.5cm b:8.1cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
53-241	かわらけ	a:12.7cm b:8.4cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-242	かわらけ	a:12.6cm b:8.3cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
53-243	かわらけ	a:12.4cm b:9.2cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　灯明皿	〃　〃　〃
53-244	かわらけ	a:12.4cm b:7.9cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂多量・赤色粒・白針　粗土　灯明皿	〃　〃　〃
53-245	かわらけ	a:12.4cm b:8.2cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
53-246	かわらけ	a:12.6cm b:8.4cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-247	かわらけ	a:12.8cm b:8.8cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
53-248	かわらけ	a:12.8cm b:8.2cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
53-249	かわらけ	a:12.9cm b:8.3cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-250	かわらけ	a:12.7cm b:8.6cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-251	かわらけ	a:12.8cm b:8.1cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
53-252	かわらけ	a:12.7cm b:8.6cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
53-253	かわらけ	a:12.8cm b:7.6cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃　〃　〃
53-254	かわらけ	a:12.9cm b:8.4cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
53-255	かわらけ	a:13.0cm b:8.3cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
53-256	かわらけ	a:13.0cm b:8.2cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-257	かわらけ	a:12.1cm b:8.4cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
54-258	かわらけ	a:11.9cm b:8.1cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-259	かわらけ	a:12.2cm b:8.5cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-260	かわらけ	a:12.1cm b:8.1cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
54-261	かわらけ	a:12.0cm b:8.0cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土　灯明皿	〃　〃　〃
54-262	かわらけ	a:12.3cm b:8.0cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-263	かわらけ	a:12.3cm b:8.2cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-264	かわらけ	a:12.2cm b:7.5cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃　〃
54-265	かわらけ	a:12.2cm b:7.9cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
54-266	かわらけ	a:11.7cm b:8.5cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-267	かわらけ	a:11.8cm b:8.0cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
54-268	かわらけ	a:12.2cm b:8.1cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　浅橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
54-269	かわらけ	a:12.2cm b:7.9cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-270	かわらけ	a:12.3cm b:7.5cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂多量・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
54-271	かわらけ	a:12.2cm b:7.2cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-272	かわらけ	a:12.2cm b:7.4cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
54-273	かわらけ	a:12.3cm b:8.6cm c:2.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-274	かわらけ	a:12.2cm b:8.8cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・白針・土丹粒　やや良土	〃　〃　〃
54-275	かわらけ	a:12.0cm b:8.4cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-276	かわらけ	a:13.cm b:8.6cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-277	かわらけ	a:12.6cm b:8.3cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
54-278	かわらけ	a:12.4cm b:8.5cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃

表28　出土遺物観察表（26）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
54-279	かわらけ	a:12.4cm b:7.8cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・白色粒　粗土	B1類　第3面　池3北東遺物溜
54-280	かわらけ	a:12.5cm b:8.5cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-281	かわらけ	a:12.5cm b:7.8cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-282	かわらけ	a:12.8cm b:8.3cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・小石粒	〃　〃　〃
54-283	かわらけ	a:13.0cm b:8.4cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
54-284	かわらけ	a:12.3cm b:8.0cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
54-285	かわらけ	a:12.3cm b:8.3cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-286	かわらけ	a:(12.1)cm b:8.6cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
54-287	かわらけ	a:12.2cm b:8.2cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-288	かわらけ	a:12.1cm b:8.2cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-289	かわらけ	a:12.2cm b:7.9cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-290	かわらけ	a:12.5cm b:8.1cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
54-291	かわらけ	a:12.5cm b:8.6cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-292	かわらけ	a:12.4cm b:8.3cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-293	かわらけ	a:12.3cm b:8.8cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-294	かわらけ	a:12.4cm b:8.0cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
54-295	かわらけ	a:12.8cm b:8.4cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
54-296	かわらけ	a:12.7cm b:8.6cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-297	かわらけ	a:12.3cm b:8.6cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-298	かわらけ	a:13.0cm b:8.8cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-299	かわらけ	a:13.1cm b:8.6cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-300	かわらけ	a:12.6cm b:8.2cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
54-301	かわらけ	a:13.2cm b:8.9cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂多量・白針・小石粒・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-302	かわらけ	a:13.0cm b:9.0cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-303	かわらけ	a:12.4cm b:8.9cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂多量・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃　〃
54-304	かわらけ	a:12.4cm b:8.4cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂多量・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
54-305	かわらけ	a:12.7cm b:8.6cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
54-306	かわらけ	a:12.6cm b:8.0cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・白針・土丹粒　良土	〃　〃　〃
54-307	かわらけ	a:12.5cm b:8.6cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-308	かわらけ	a:12.5cm b:8.3cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
54-309	かわらけ	a:12.5cm b:8.3cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂多量・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
54-310	かわらけ	a:12.5cm b:8.2cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
54-311	かわらけ	a:12.8cm b:9.0cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒	〃　〃　〃
54-312	かわらけ	a:13.1cm b:7.7cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　良土　灯明皿	〃　〃　〃
55-313	かわらけ	a:12.4cm b:8.6cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-314	かわらけ	a:12.4cm b:9.4cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂多量・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
55-315	かわらけ	a:12.3cm b:8.9cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃　〃
55-316	かわらけ	a:12.5cm b:8.7cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-317	かわらけ	a:12.4cm b:9.2cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　やや粗土　灯明皿	〃　〃　〃
55-318	かわらけ	a:12.9cm b:4.3cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-319	かわらけ	a:12.8cm b:9.0cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　やや良土	〃　〃　〃
55-320	かわらけ	a:12.6cm b:7.5cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-321	かわらけ	a:(12.5)cm b:8.6cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-322	かわらけ	a:12.5cm b:8.3cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃

表29　出土遺物観察表（27）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
55-323	かわらけ	a:12.4cm b:8.8cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	B1類　第3面　池3北東遺物溜
55-324	かわらけ	a:12.8cm b:8.4cm c:3.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
55-325	かわらけ	a:12.6cm b:8.6cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-326	かわらけ	a:12.8cm b:8.4cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃　〃
55-327	かわらけ	a:13.0cm b:9.4cm c:3.7cm	ロクロ　外底糸切痕　浅黄色　微砂・赤色粒。白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-328	かわらけ	a:13.0cm b:9.5cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-329	かわらけ	a:13.2cm b:9.2cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-330	かわらけ	a:8.0cm b:6.7cm c:1.7cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂多い・白針　良土　内底ナデ不明瞭	C3類　〃　〃
55-331	かわらけ	a:7.8cm b:6.1cm c:1.6cm	手捏ね　外底指頭痕　浅黄色　微砂多い・白針・赤色粒　良土　強いナデ	〃　〃　〃
55-332	かわらけ	a:8.1cm b:6.6cm c:1.6cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂多い・白針良土　見込み～口縁ナデ強し	〃　〃　〃
55-333	かわらけ	a:8.3cm b:6.5cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
55-334	かわらけ	a:8.4cm b:7.0cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
55-335	かわらけ	a:8.4cm b:6.6cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
55-336	かわらけ	a:8.6cm b:7.6cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
55-337	かわらけ	a:8.4cm b:6.9cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-338	かわらけ	a:8.4cm b:7.1cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
55-339	かわらけ	a:8.5cm b:7.9cm c:2.1cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
55-340	かわらけ	a:8.6cm b:7.4cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
55-341	かわらけ	a:8.7cm b:7.5cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
55-342	かわらけ	a:8.8cm b:7.6cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
55-343	かわらけ	a:8.7cm b:7.3cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-344	かわらけ	a:8.6cm b:7.3cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
55-345	かわらけ	a:8.8cm b:7.9cm c:1.8cm	手捏ね　外底指頭痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-346	かわらけ	a:8.8cm b:7.7cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・赤色粒・白針・粗土	〃　〃　〃
55-347	かわらけ	a:8.8cm b:7.9cm c:2.1cm	手捏ね　外底指頭痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃　〃
55-348	かわらけ	a:8.7cm b:7.9cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　浅黄色　微砂・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃　〃　〃
55-349	かわらけ	a:8.5cm b:7.6cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
55-350	かわらけ	a:8.6cm b:7.5cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・赤色粒・白針　粗土	〃　〃　〃
55-351	かわらけ	a:12.4cm b:10.4cm c:3.2cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・白針　良土	C1類　〃　〃
55-352	かわらけ	a:12.4cm b:10.8cm c:3.5cm	手捏ね　外底指頭痕　浅黄色　微砂・白針　良土　ナデ弱く不明瞭	〃　〃　〃
55-353	極小かわらけ	a:5.8cm b:3.8cm c:1.1cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂　精良土　内底中央弱い横位ナデ	〃　〃　〃
55-354	かわらけ	a:11.7cm b:11.0cm c:3.4cm	手捏ね　外底指頭痕　灰白色　微砂少量　精良土　表面滑らか	〃　〃　〃
56-355	白磁　口兀碗	a:(13.6)cm	緑味灰白色不透明　薄い施釉　灰白色　精良堅緻	〃　〃
56-356	銅銭		元豊通宝　北宋銭　初鋳年1078年	〃　〃
56-357	木製品　箸	長:26.9cm 幅：0.75cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-358	木製品　箸	長:26.7cm 幅:0.5cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-359	木製品　箸	長:25.2cm 幅:0.7cm 厚:0.6cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-360	木製品　箸	長:25.1cm 幅:0.7cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-361	木製品　箸	長:24.8cm 幅:0.7cm 厚:0.55cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-362	木製品　箸	長:24.8cm 幅:0.55cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-363	木製品　箸	長:25.0cm 幅:0.6cm 厚:0.65cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-364	木製品　箸	長:24.3cm 幅:0.6cm 厚:4.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-365	木製品　箸	長:24.2cm 幅:0.65cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-366	木製品　箸	長:23.0cm 幅:0.6cm 厚:0.55cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃

表30　出土遺物観察表（28）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
56-367	木製品　箸	長:23.1cm 幅:0.6cm 厚:0.55cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	第3面　池3北東遺物溜
56-368	木製品　箸	長:23.0cm 幅:0.75cm 厚:0.45cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-369	木製品　箸	長:22.3cm 幅:0.45cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-370	木製品　箸	長:21.7cm 幅:0.6cm 厚:0.6cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
56-371	木製品　折敷	縦幅:26.0cm 横幅:25.3cm 厚:0.1cm	薄く柾目に剥ぎ取り方形にし四隅を面取　小孔あり　左辺に桜皮の留め跡	〃　〃
56-372	木製品　折敷	残縦幅:15.2cm 横幅:30.5cm 厚:0.1cm	薄く柾目に剥ぎ取り方形に加工　隅を面取	〃　〃
56-373	木製品　折敷	残縦幅:16.4cm 横幅:24.6cm 厚:0.3cm	薄く柾目に剥ぎ取り方形に加工　隅を面取　上・左辺の側縁に小孔を穿つ	〃　〃
56-374	木製品　墨書折敷	長:25.7cm 残幅:4.9cm 厚:0.15cm	両面に墨書痕を残す　文字判読不明	〃　〃
57-375	木製品　箸箸	残長:32.8cm 幅:1.2cm	板を縦割りにし粗削りで棒状に加工　先端側やや細く削る	〃　〃
57-376	折敷加工品	残縦幅:2.5cm 横幅:5.4cm 厚:1cm	折敷を刃物で切断　隅丸く加工　中央に小孔あり	〃　〃
57-377	用途不明木製品	残縦幅:5.7cm 横幅:13.5cm 厚:3cm	カマボコ状に薄板を加工　下端中央にV字型の切込み　中央から右側に小孔3ヶ所穿つ	〃　〃
57-378	用途不明木製品	残縦幅:2.2cm 横幅:8.0cm 厚:1.0cm	カマボコ型中央に長方形の孔を荒く削る　下面中央に凸部削り出し　把手又は蓋摘みか	〃　〃
57-379	用途不明木製品	残長:15.1cm 厚:0.35cm	木目の強い薄板を加工 上端は両側から切込み入れ先端尖らせる 平面形の鳥又は人形代か	〃　〃
57-380	木製品　人形代	長:14.8cm 幅:4.6cm 厚:0.65cm	木目の強い板材を加工　上部烏帽子下部は幅が狭くなるように削る　先端尖らす	〃　〃
57-381	金剛草履板芯	長:22.7cm 残幅:3.7cm 厚:0.3cm	先端・中央部鼻緒の小孔　先端近くL字の抉り　側縁方形の抉り　縄編痕	〃　〃
57-382	金剛草履板芯	長:22.7cm 残幅:4.7cm 厚:0.4cm	先端・中央部鼻緒の小孔　先端近くL字の抉り　側縁方形の抉り　縄編痕	〃　〃
59-1	かわらけ	a:(7.5)cm b:(5.1)cm c:1.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　良土　灯明皿	第3面　池3裏込中
59-2	かわらけ	a:(7.8)cm b:(5.1)cm c:1.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒　良土	〃　〃
59-3	かわらけ	a:(8.1)cm b:(5.3)cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　良土　搬入品	〃　〃
59-4	かわらけ	a:7.9cm b:6.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-5	かわらけ	a:(8.1)cm b:(6.5)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土　灯明皿	〃　〃
59-6	かわらけ	a:8.3cm b:6.0cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃
59-7	かわらけ	a:(8.1)cm b:(6.1)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-8	かわらけ	a:8.2cm b:6.5cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　粗土	〃　〃
59-9	かわらけ	a:8.2cm b:5.9cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土　灯明皿	〃　〃
59-10	かわらけ	a:8.5cm b:6.4cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-11	かわらけ	a:(9.8)cm b:(7.0)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　粗土	〃　〃
59-12	かわらけ	a:12.0cm b:8.4cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒　やや粗土　灯明皿	〃　〃
59-13	かわらけ	a:(12.3)cm b:(9.5)cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-14	かわらけ	a:12.7cm b:7.8cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-15	かわらけ	a:12.7cm b:8.4cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-16	かわらけ	a:12.5cm b:8.9cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-17	かわらけ	a:12.8cm b:8.1cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土　灯明皿	〃　〃
59-18	かわらけ	a:(8.0)cm b:(6.3)cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・小石粒　粗土	〃　〃
59-19	かわらけ	a:8.5cm b:7.4cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
59-20	かわらけ	a:8.5cm b:7.3cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-21	かわらけ	a:8.6cm b:7.4cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
59-22	かわらけ	a:(8.4)cm b:(7.4)cm c:1.9cm	手捏ね　外底糸切痕　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-32	かわらけ	a:(8.7)cm b:(7.9cm c:2.0cm	手捏ね　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-24	かわらけ	a:(8.4)cm b:(7.4)cm c:1.9cm	手捏ね　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土　やや粗土	〃　〃
59-25	かわらけ	a:8.8cm b:7.9cm c:2.0cm	手捏ね　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土　灯明皿	〃　〃
59-26	かわらけ	a:8.6cm b:7.5cm c:2.0cm	手捏ね　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
59-27	かわらけ	a:12.8cm b:11.1cm c:3.2cm	手捏ね　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
59-28	白かわらけ	a:(11.5)cm b:(10.2)cm	手捏ね　外底糸切痕　灰白色　微砂・雲母　良土	〃　〃

表31　出土遺物観察表（29）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
59-29	瓦器　輪花碗	a:(10.0)cm	内面３本の横位の条線の暗文　表面黒灰色　灰黒色　微砂・白色粒　良土	第３面　池３裏込中
59-30	青磁　折縁皿	口縁～体部片	緑灰色半透明　内外面やや厚い施釉　灰白色　精良堅緻	〃　〃
59-31	瀬戸　洗	a:(28.8)cm b:(23.2)cm c:(6.9)cm	灰緑色半透明　内外面薄くハケ塗り　釉白濁　灰色　微砂　白色粗砂　黒色粒　精良土	〃　〃
59-32	須恵器　甕	体部小片	内面同芯円文　外面灰釉　灰色　黒色微砂・雲母・白色粒　良土	〃　〃
59-33	男瓦(丸瓦)	厚:1.5～1.9cm	凸面離れ砂　縦位ナデ　凹面布目痕　灰黒色　白色粒　良土　良好　やや硬質	〃　〃
59-34	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.2cm	凹面布目痕　糸切り痕　凸面縦位ナデ　綾杉文叩目痕　灰色　砂粒　良土　良好	〃　〃
59-35	女瓦(平瓦)	厚:1.5～1.8cm	凹面布目痕　糸切り痕　凸面横位ナデ　綾杉文叩目痕　黒灰色　砂粒　黒色粒　良土　良好	〃　〃
59-36	滑石製　鍋	胴～底部片	内底部に加工痕あり	〃　〃
59-37	砥石	残長:8.9cm 幅:3.5cm 厚:1.4cm	明黄褐色　上面に刃物痕あり　側面にノミ状工具の加工痕あり	〃　〃
59-38	漆器　皿	a:(9.8)cm b:(7.6)cm c:1.8cm	内外面黒漆塗布	〃　〃
59-39	漆器　椀	a:(14.0)cm b:(8.0)cm c:4.1cm	黒漆地に朱漆で双葉葵文を描く	〃　〃
59-40	木製品　蓋	径:17.5cm 厚:0.6～0.65cm	１枚板を円形に加工　筋状の押圧痕　中央に木釘	〃　〃
59-41	用途不明木製品	径:7.5cm 厚:0.45cm	上端部欠損　下端部コ字型の切込　左上楕円形の小孔　右下木釘あり　周縁側面面取	〃　〃
59-42	木製品　曲物	径:18.8cm 厚:0.4cm	底板　周縁を面取整形　右上周縁部小孔を穿つ　蓋の可能性もあり	〃　〃
59-43	木製品　曲物	径:14.0cm 厚:0.7cm	底板　円形に加工　面取の角を丁寧に消す　断面台形　外縁止め釘痕	〃　〃
60-44	木製品　箸	長:21.8cm 幅:7.5mm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
60-45	木製品　箸	長:25.8cm 幅:0.7cm 厚:0.55cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
60-46	木製品　箸	長:28.1cm以上 幅:0.9cm 厚:0.65cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
60-47	木製品　菜箸	長:26.0cm 幅:1.3cm 厚:0.8cm	天辺軽く面取　胴部八角形　先端緩やかに細く削る	〃　〃
60-48	木製品　箆	長:31.3cm 幅:1.6cm 厚:0.7cm	先端一部箆状に削る　片方やや先細に雑に削る　断面六角形	〃　〃
60-49	木製品　箆か	全長:16.4cm 幅:1.2cm 厚:0.8cm	角棒を先端尖らせる　下端は先端に向けて薄く加工	〃　〃
60-50	木製品　箆	長:17.2cm 幅:1.6cm 厚:0.6cm	先端緩やかな箆状に削る　後端鋭く楔状に短く削る　胴部断面六角形	〃　〃
60-51	木製品　刀形	長:36.2cm	上端丸棒状　頭部のように太く頂部は丸味を帯びる　下端は薄目の刀形に粗く削る	〃　〃
60-52	木製品　墨書折敷	残長:13.3cm 残幅:2.4cm 厚:0.15cm	折敷小片　両面に墨書が見られる　下方に「佛法」と読める文字あり	〃　〃
60-53	木製品　墨書折敷	長:25.8cm 残幅:3.7cm 厚:0.15cm	片面に文字とも戯画ともつかない墨書　手習い・筆慣えの可能性もあり	〃　〃
60-54	木製品　容器	長:15.9cm 残幅:6.2cm 底部厚:1.0cm	外底面丸ノミのような工具で型押しした雲文あり	〃　〃
60-55	木製品　刀子の鞘	残長:7.5cm 幅:2.8cm 片面厚:0.5cm	刃を納める抉りが腐食し薄い	〃　〃
60-56	木製品　木栓	長:7.5cm 径:1.2～1.6cm	円形に頭部を削り出す　円筒状に滑らかで丁寧な削り　一部損傷	〃　〃
60-57	木製品　櫛	残幅:10.4cm 残高:3.0cm 棟厚:0.9cm	薄い黒漆塗布　両端・歯の中～先端欠損　密な歯の梳き櫛	〃　〃
61-1	かわらけ	a:8.5cm b:7.1cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	第３面　池２
61-2	かわらけ	a:(8.6)cm b:(6.4)cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃
61-3	かわらけ	a:12.1cm b:8.4cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃　〃
61-4	かわらけ	a:(12.3)cm b:(8.5)cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
61-5	かわらけ	a:12.4cm b:8.6cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃　〃
61-6	かわらけ	a:(13.0)cm b:(9.2)cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
61-7	かわらけ	a:(8.3)cm b:(6.4)cm c:1.8cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒　粗土	〃　〃
61-8	かわらけ	a:(9.0)cm b:(6.6)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃　〃
61-9	かわらけ	a:(12.9)cm b:(11.0)cm c:3.4cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃　〃
61-10	東美濃系山茶碗	a:(14.4)cm b:(6.6)cm c:5.2cm	灰色　外底糸切痕　籾殻痕　貼付高台　内底部摩耗　灰色　砂粒含むが精良土　良好	〃　〃
61-11	土師器　甕	口縁部小片	黄橙色 内底中位～口縁部横位ナデ 外面中位ヘラナデ 砂粒・雲母・赤色粒・白針・小石粒 良好	〃　〃
61-12	男瓦(丸瓦)	筒部径:18.4cm　厚:1.3～1.8cm	凸面縦位指頭・ヘラナデ 凹面布目痕 灰黒色 砂粒・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 やや硬質	〃　〃
61-13	男瓦(丸瓦)	厚:1.2～1.5cm	凸面縦位の丁寧なナデ 凹面布目・糸切痕・縦位ナデ 暗灰色 砂粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
61-14	男瓦(丸瓦)	筒部径:14.2cm　厚:1.1～1.3cm	凸面縦位・斜位ナデ　凹面布目痕　縦位ナデ　暗灰色　砂粒・白色粒　良土　良好　硬質	〃　〃
61-15	女瓦(平瓦)	厚:2.2cm	凹面布目・模骨痕　凸面縦位縄目叩き痕　明橙色　砂粒　やや粗土　良好　硬質	〃　〃

表32　出土遺物観察表（30）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
61-16	女瓦(平瓦)	厚:1.7～2.7cm	凹面布目・糸切痕　凸面縄目叩き痕・縦位ナデ　橙色　砂粒・白色粒　良土　良好　硬質	第3面　池2
61-17	女瓦(平瓦)	厚:1.9～2.4cm	凹面布目・糸切痕 縦・斜位ナデ 凸面縄目痕 縦・斜位ナデ 灰色 砂粒・黒色粒 良土 良好 硬質	〃　〃
61-18	女瓦(平瓦)	厚:2.7cm	凹面布目痕　凸面縄目痕　灰色　砂粒・黒色粒・白色粒　やや粗土　良好　やや硬質	〃　〃
61-19	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.5cm	凹面布目痕 凸面斜格子叩目痕 灰黒色 砂粒・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 やや硬質	〃　〃
61-20	女瓦(平瓦)	厚:1.65cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰黒色 砂粒・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 やや硬質	〃　〃
61-21	女瓦(平瓦)	厚:2.2cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰黒色 砂粒・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 やや硬質	〃　〃
61-22	女瓦(平瓦)	厚:1.7～2.3cm	凹面布目・糸切痕・縦位ナデ 凸面綾杉文叩目痕・横位ナデ 灰色 砂粒 やや粗土 良好 やや硬質	〃　〃
61-23	女瓦(平瓦)	厚:2.1cm	凹面布目痕 凸面横位ヘラナデ・斜位叩目痕 灰色 砂粒・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 硬質	〃　〃
61-24	女瓦(平瓦)	厚:1.3～1.9cm	凹面布目・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 橙色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒 良土 良好 硬質	〃　〃
62-25	木製品　菜箸	長:35.3cm 幅:1.1cm 厚:0.7～1.0cm	刃物による加工　断面多角形	〃　〃
62-26	木製品　箸	残長:18.6cm 幅:0.5cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工	〃　〃
62-27	木製品　箸	長:20.4cm 幅:0.7cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
62-28	木製品　箸	長:20.2cm 幅:0.5cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
62-29	木製品　箸	長:22.0cm 幅:0.7cm 厚:0.6cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖るように整形	〃　〃
62-30	金剛草履板芯	長:23.2cm 幅:10.1cm 厚:0.3cm	先端・中央よりにそれぞれ1ヶ所小孔　側縁方形の抉り　縄編痕	〃　〃
62-31	金剛草履板芯	残長:8.6cm 残幅:3.6cm 厚:0.3cm	先端近くL字の抉り	〃　〃
62-32	木製品　刀形代	残長:13.4cm 幅:2.75cm 厚:0.1cm	片側をやや鋭く加工	〃　〃
62-33	用途不明木製品	残長:27.0cm残幅:2.6cm厚:0.8cm	断面台形	〃　〃
63-1	かわらけ	a:(7.4)cm b:(5.4)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	第3a面上
63-2	かわらけ	a:(7.8)cm b:(4.7)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃
63-3	かわらけ	a:7.4cm b:5.4cm c:1.65cm	ロクロ 外底糸切痕 橙色 微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒 粗土 粉質	〃
63-4	かわらけ	a:7.4cm b:5.4cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　粗土	〃
63-5	かわらけ	a:(8.0)cm b:(5.2)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃
63-6	かわらけ	a:(8.0)cm b:(5.5)cm c:1.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃
63-7	かわらけ	a:(7.8)cm b:(5.9)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃
63-8	かわらけ	a:7.8cm b:5.6cm c:1.55cm	ロクロ 外底糸切痕 黄橙色 微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒 粗土 粉質	〃
63-9	かわらけ	a:(8.0)cm b:(6.0)cm c:1.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針 粗土	〃
63-10	かわらけ	a:(8.1)cm b:(5.5)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃
63-11	かわらけ	a:(8.6)cm b:(6.2)cm c:1.9cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃
63-12	かわらけ	a:8.4cm b:5.5cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃
63-13	かわらけ	a:(12.4)cm b:(7.4)cm c:3.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃
63-14	かわらけ	a:(12.6)cm b:(8.2)cm c:3.0cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃
63-15	かわらけ	a:(13.4)cm b:(7.6)cm c:3.5cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃
63-16	白かわらけ	b:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　灰白色　微砂・雲母　良土	〃
63-17	青磁　碗	a:(13.2)cm	鎬蓮弁文　灰緑色不透明　厚い施釉　若干気孔含む　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系Ⅰ-5類
63-18	青磁　碗	口縁～体部小片	鎬蓮弁文 明青灰色半透明 厚い施釉 やや粗い貫入 精良堅緻	〃　龍泉窯系
63-19	青磁　碗	口縁部小片	鎬蓮弁文　暗黄褐色半透明　細かい貫入　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系Ⅰ-5類
63-20	青磁　碗	復元高台径:3.5cm	鎬蓮弁文　灰緑色半透明　高台畳付除きやや厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系Ⅱ-2類
63-21	青磁　碗	口縁～体部小片	鎬蓮弁文　灰緑色半透明　厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
63-22	青磁　碗	口縁部小片	劃花文　暗黄褐色半透明　細かい貫入　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系Ⅰ-2類
63-23	青磁　折縁Ⅲ	a:(16.2)cm	鎬蓮弁文　明灰緑色半透明　つやあり　厚い施釉　灰白色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
63-24	青磁　折縁Ⅲ	a:(20.8)cm	内面劃花文 外面沈線 明灰緑色半透明 つやあり 厚い施釉 灰白色 精良堅緻	〃　龍泉窯系
63-25	青磁　折縁Ⅲ	底部小片	貼り付双魚文　灰緑色半透明　厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
63-26	青磁　折縁Ⅲ	高台部小片	灰緑色半透明　高台畳付除き厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系

表33　出土遺物観察表（31）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
63-27	青磁　折腰皿	高台径:5.5cm	暗灰緑色不透明 高台畳付除き厚い施釉 表面気泡含む 灰色 精良堅緻	第3a面　龍泉窯系
63-28	青磁　花瓶	胴部小片	暗灰緑色不透明 厚い施釉 二次焼成受け全体に気泡含む 灰白色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
63-29	青磁　香炉	体部小片	灰緑色半透明　厚い施釉　灰白色　精良堅緻	〃
63-30	白磁　口兀皿	口縁～体部小片	灰白色半透明 口唇部露胎 細かい貫入 表面気泡含む 灰白色 精良堅緻	〃
63-31	白磁　口兀皿	口縁～体部小片	緑味灰白色不透明　口唇部露胎　灰白色　精良堅緻	〃
63-32	白磁　口兀皿	口縁～体部小片	灰白色不透明 口縁部タール付着 灰白色　精良堅緻 灯明皿として使用か	〃
63-33	白磁　口兀皿	口縁～体部小片	灰白色半透明　口唇部露胎　灰白色　精良堅緻	〃
63-34	白磁　合子身	口縁～体部小片	淡灰緑色半透明　細かい貫入あり　微気孔含む　白色　精良堅緻	〃
63-35	青白磁　華瓶	小片	淡水青色半透明　二次焼成受け表面気泡含む　灰白色　精良堅緻	〃
63-36	青白磁　梅瓶	a:(3.6)cm	灰緑色不透明 細かい貫入あり 二次焼成を受け釉濁る 精良堅緻	〃
63-37	青白磁　水注	小片	水青色半透明　二次焼成受け表面ザラつく 白色　精良堅緻	〃
63-38	青白磁　台付小瓶	高台径:(4.2)cm	淡水青色不透明 内面～高台畳付露胎 釉濁る 白色 精良堅緻	〃
63-39	緑釉　盤	口縁部～底部小片	筋彫の条線 緑色～褐色 口縁部玉縁状 明黄褐色～橙色 砂粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
63-40	緑釉　盤	底部片	筋彫の条線 緑色～褐色 内底面施釉 明黄褐色～橙色 砂粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
63-41	緑釉　盤	底部片	筋彫の条線 緑色～褐色 内底・外面下位施釉 明黄褐色～橙色 砂粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
63-42	褐釉　甕	体部小片	内面灰褐色　外面褐色 二次焼成を受け変色　黄褐灰色　微砂・黒色粒　精良堅緻	〃
63-43	褐釉　甕	体部小片	内面灰褐色　外面褐色 二次焼成を受け変色　黄褐灰色　微砂・黒色粒　精良堅緻	〃
63-44	褐釉　甕	体部小片	内面灰褐色　外面褐色 二次焼成を受け変色　黄褐灰色　微砂・黒色粒　精良堅緻	〃
63-45	瀬戸　底卸目皿	底部片	淡緑灰色　4本の条線 高台内ヘラによる卸目あり 灰白色 微砂 良土 良好 硬質	〃
63-46	北部系山茶碗	口縁部小片	灰白色　微砂　精良土　良好　硬質	〃
63-47	常滑　捏鉢Ⅰ類	口縁部片	灰白色　砂粒・小石粒少量	〃
63-48	常滑　捏鉢Ⅰ類	高台径:(10.4)cm	灰色　砂粒・小石粒少量　内底部摩耗	〃
63-49	常滑　捏鉢Ⅰ類	口縁部片	灰白色　砂粒・小石粒少量	〃
63-50	常滑　無頸壺	口縁部小片	灰色　砂粒・白色粒少量　口唇部内側に折れる	〃
63-51	常滑　甕	胴部片	暗灰褐色　砂粒・小石粒・長石粒少量	〃
63-52	常滑　甕	b:(17.4)cm	輪積技法　赤褐色　離れ砂　外面ヘラ削り　砂粒・小石粒・長石粒少量	〃
63-53	瓦器　輪花碗	口縁部小片	灰黒色 内面～外面上位横位暗文 内外面横位ナデ 底部指頭痕 灰色 微砂 精良土 良好	〃　楠葉系
63-54	瓦器　碗	a:(12.0)cm	灰黒色～灰白色による帯状3色　内外面横位ナデ　灰黒色～灰白色　微砂　良土　良好	〃　産地不明
63-55	土器質　火鉢	a:(34.0)cm b:(24.2)cm c:10.1cm	底部糸切痕 明黄褐色 内面ハケナデ 外面指頭痕 砂粒・雲母・白針・黒色粒 粗土 良好	〃
63-56	土器質　火鉢	a:(39.8)cm	黄橙色 内面未通の孔あり 外面3条のハケ目・指頭痕 砂粒・雲母・赤色粒・白針 粗土 良好	〃
64-57	女瓦(平瓦)	厚:2.65cm	凹面離れ砂・布目痕　凸面細かい縄目叩き痕　灰色　砂粒・雲母　良土　良好　硬質	〃
64-58	女瓦(平瓦)	厚:2.5cm	凹面布目・模骨痕 凸面縄目叩き痕 灰白色 砂粒・白色粒 やや粗土　良好　硬質	〃
64-59	女瓦(平瓦)	厚:3.0cm	凹面布目・模骨痕　凸面縄目叩き痕　灰色　砂粒・灰色粒・雲母　粗土　やや甘い　硬質	〃
64-60	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目・模骨痕　凸面斜格子叩き目痕　灰色　砂粒　良土　良好　硬質	〃
64-61	女瓦(平瓦)	厚:1.8cm	凹面布目・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕・横位ナデ 灰色 砂粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃
64-62	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目・糸切痕 凸面縄目叩き痕・縦位ナデ 灰色 砂粒・雲母・黒色粒 良土 良好 硬質	〃
64-63	女瓦(平瓦)	厚:2.8cm	凹面布目・糸切・指頭痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒・雲母 良土 良好 硬質	〃
64-64	滑石製　硯	残長:12.1cm 残幅:9.0cm 厚:2.8cm	石鍋底部を加工　上面海・陸部からなる長方硯の彫込み	〃
64-65	石製品　硯	残長:3.0cm 残幅:5.9cm 厚:1.8cm	上面陸部除き筋彫り　全体的に傷多し　長方硯	〃
64-66	石製品　硯	残長:4.2cm 残幅:4.4cm 厚:1.0cm	青黒色粘板岩　小型長方硯　海部損失　上面周縁に沈線隅に波頭文の線彫り	〃
64-67	滑石製　温石	残長:7.1cm 残幅:4.4cm 厚:1.2cm	滑石鍋底部を加工　両面刃物による削り整形後、擦痕　上部径1.3cmの円孔あり	〃
64-68	石製品　砥石	残長:6.7cm 残幅:4.6cm 厚:1.3～1.6cm	淡黄褐色　ノミ状工具による切り離し痕　中砥	〃
64-69	銅銭		熙寧元寶 北宋銭　初鋳年1068年	〃
64-70	銅銭		開元通寶 唐銭　初鋳年621年	〃

表34　出土遺物観察表（32）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
64-71	銅銭		嘉祐通宝 北宋銭　初鋳年1056年	第3a面
64-72	銅銭		熙寧元宝 北宋銭　初鋳年1068年	〃
64-73	銅銭		政和通宝 北宋銭 初鋳年1111年	〃
64-74	銅銭		判読不明	〃
65-1	かわらけ	a:(7.1)cm b:(4.8)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂　良土	第3b面上
65-2	かわらけ	a:(7.4)cm b:(5.0)cm c:2.5cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
65-3	かわらけ	a:(7.5)cm b:(5.8)cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃
65-4	かわらけ	a:(7.6)cm b:(5.0)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
65-5	かわらけ	a:7.8cm b:6.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　土丹粒　良土	〃
65-6	かわらけ	a:(7.8)cm b:5.2cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
65-7	かわらけ	a:7.9cm b:5.3cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
65-8	かわらけ	a:(8.0)cm b:(6.6)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　良土	〃
65-9	かわらけ	a:(8.0)cm b:(5.4)cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　良土	〃
65-10	かわらけ	a:8.2cm b:5.9cm c:1.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
65-11	かわらけ	a:8.2cm b:6.8cm c:1.7cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃
65-12	かわらけ	a:(8.7)cm b:(6.3)cm c:1.8cm	ロクロ 外底糸切痕 明黄褐色 微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒 やや粗土	〃
65-13	かわらけ	a:(11.6)cm b:(7.0)cm c:2.5cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃
65-14	かわらけ	a:(11.9)cm b:(4.4)cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒　良土	〃
65-15	かわらけ	a:12.0cm b:7.6cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
65-16	かわらけ	a:(12.2)cm b:(8.4)cm c:2.9cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母　良土	〃
65-17	かわらけ	a:12.3cm b:8.6cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　やや粗土	〃
65-18	かわらけ	a:(12.6)cm b:(8.6)cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃
65-19	かわらけ	a:(13.0)cm b:(6.6)cm c:3.2cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・赤色粒　良土	〃
65-20	かわらけ	a:(13.2)cm b:(6.0)cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒　良土	〃
65-21	かわらけ	a:(13.3)cm b:(10.0)cm c:3.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃
65-22	かわらけ	a:(8.8)cm b:(8.3)cm c:2.0cm	手捏ね　外底指頭痕 明黄褐色 微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒 やや粗土	〃
65-23	かわらけ	a:(8.8)cm b:(8.0)cm c:1.7cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃
65-24	かわらけ	a:(8.8)cm b:(7.2)cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕 黄橙色 微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒 やや粗土	〃
65-25	かわらけ	a:(11.7)cm b:(10.1)cm c:3.5cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃
65-26	青磁　碗	a:(11.0)cm	鎬蓮弁文 暗灰緑色半透明 細かい貫入あり 精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-27	青磁　碗	口縁～体部片	鎬蓮弁文　暗灰緑色半透明　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-28	青磁　碗	口縁～体部片	鎬蓮弁文　暗黄灰緑色半透明　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-29	青磁　碗	口縁～体部小片	鎬蓮弁文 淡黄褐色不透明　細かい貫入　二次焼成の為変色 精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-30	青磁　碗	口縁～体部片	鎬蓮弁文 暗灰緑色半透明 やや粗い貫入あり 精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-31	青磁　碗	口縁～体部片	鎬蓮弁文　明灰緑色半透明　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-32	青磁　碗	口縁～体部片	鎬蓮弁文　淡灰緑色不透明　内外面厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-33	青磁　碗	口縁～体部片	外面鎬蓮弁文 内面劃花文 淡灰緑色半透明 灰白色 精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-34	青磁　碗	口縁部～体部小片	鎬蓮弁文 灰緑色不透明 二次焼成受け釉白濁 灰色 精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-35	青磁　碗	高台径:(4.2)cm	鎬蓮弁文 明灰緑色不透明 高台畳付～高台内露胎 粗い貫入 灰色 気孔あり 精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-36	青磁　碗	高台径:(3.2)cm	鎬蓮弁文 オリーブ灰色半透明 粗い貫入 高台畳付除き厚い施釉 灰色 気孔あり 精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-37	青磁　碗	高台部～体部小片	鎬蓮弁文 淡灰緑色半透明 やや粗い貫入 高台畳付除きやや厚い施釉 灰白色 精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-38	青磁　碗	高台部～体部小片	鎬蓮弁文 明灰緑色半透明 粗い貫入 高台畳付除き厚い施釉 灰白色 気孔あり 精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-39	青磁　折縁皿	口縁部小片	灰緑色不透明　厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
65-40	青磁　折縁皿	口縁部小片	蓮弁文 淡灰緑色半透明 やや粗い貫入 厚い施釉 精良堅緻	〃　龍泉窯系

表35　出土遺物観察表（33）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
65-41	青磁　香炉か	口縁部小片	貼付あるが不明　淡灰緑色半透明　厚い施釉　灰白色　精良堅緻	第３ｂ面上　　龍泉窯系
65-42	白磁　口兀皿	口縁部～体部小片	灰白色半透明　口唇部露胎　白色　精良堅緻	〃
65-43	白磁　口兀皿	口縁部小片	淡灰白色半透明　ごく薄い施釉　口唇部露胎 気泡含む　淡灰白色　精良堅緻	〃
65-44	白磁　口兀皿	口縁部小片	淡灰白色半透明　ごく薄い施釉　口唇部露胎 淡灰白色　精良堅緻	〃
65-45	白磁　口兀皿	底径:(5.2)cm	淡灰白色半透明　ごく薄い施釉　白色　精良堅緻	〃
65-46	白磁　口兀皿	底径:(5.8)cm	淡灰緑色半透明　灰白色　精良堅緻	〃
65-47	白磁　口兀皿	底径:(6.4)cm	緑味灰白色不透明　やや粗い貫入 底部釉掻き取り 灰白色 精良堅緻	〃
65-48	白磁　小壺	底径:(3.3)cm	やや水色がかった白色不透明　体部下位～底部露胎　白色　精良堅緻	〃
65-49	白磁　小壺	底径:(3.3)cm	やや水色がかった白色不透明　体部下位～底部露胎　白色　精良堅緻	〃
65-50	青白磁口兀小皿	口縁部小片	珠文　櫛描文　水青色半透明　口唇部露胎　白色　精良堅緻	〃
65-51	青白磁　小皿	復元高台径:2.4cm	内面菊花文　水青色半透明　高台部～高台内露胎　白色　精良堅緻	〃
65-52	青白磁　合子蓋	小片	花文か種子の文　淡水青色半透明　内面露胎　灰白色　精良堅緻	〃
65-53	青白磁　合子蓋	小片	周縁輪花状 淡灰緑色 内外面施釉 灰白色 精良堅緻	〃
65-54	青白磁　合子蓋	小片	淡灰緑色半透明　内面露胎　灰白色　精良堅緻	〃
65-55	青白磁　合子身	a:(6.0)cm	幅の狭い蓮弁文　淡水青色半透明　灰白色　精良堅緻	〃
65-56	青白磁　水注	注口部口径:0.9cm	淡水青色半透明 灰白色 精良堅緻 注口部上面に刃物の削り痕あり	〃
65-57	褐釉　壺	体部小片	茶褐色　内外面施釉　内面横位ナデ　灰白色　砂粒　やや粗土　良好　やや軟質	〃
65-58	褐釉　壺	体部小片	緑味灰褐色 外面施釉 内面横位ナデ 暗灰色 砂粒 精良土 良好 硬質	〃
65-59	褐釉　壺	体部小片	暗赤灰褐色 外面施釉 内面横位ナデ 赤灰褐色 砂粒 精良土 良好　硬質	〃
65-60	瀬戸　灰釉碗	a:(16.8)cm	灰緑色　ハケ塗り　細かい貫入 内外面横位ナデ 灰白色 微砂 精良土 良好 硬質	〃
65-61	瀬戸　卸皿	a:(14.4)cm	灰白色　内外面の灰釉剥落　灰白色　微砂　精良土　良好　硬質	〃
65-62	瀬戸　折縁深皿	口縁部小片	灰緑色 ハケ塗り 細かい貫入あり　灰白色　微砂 精良土　良好　硬質	〃
65-63	山茶碗	高台径:5.4cm	糸切痕 内外面横位ナデ 内底面ナデ 降灰 灰白色 微砂 精良土 良好 硬質	〃
65-64	常滑　捏鉢Ⅰ類	口縁部小片	明褐灰色　内外面横位ナデ・指頭痕　明褐灰色　砂粒・小石粒多量	〃
65-65	常滑　捏鉢Ⅰ類	口縁部小片	明褐灰色　内外面横位ナデ　明灰褐色　砂粒・雲母・小石粒多量	〃
65-66	常滑　捏鉢Ⅰ類	b:(12.6)cm	明灰褐色 内面・高台部横位ナデ 外面ヘラ削り 明褐灰色 砂粒・黒色粒多量	〃
65-67	灯明台	灯明芯口径:0.8cm	白かわらけ質　白色　微砂	〃
65-68	土師器	b:(4.6)cm	ロクロ　黄橙色　外面横位ナデ　微砂・雲母・赤色粒　良土　良好	〃
65-69	女瓦(平瓦)	厚:3.0～3.3cm	凹面布目痕 ヘラナデ 凸面縄目叩き痕 指ナデ 褐灰色 砂粒・雲母 良土 良好 硬質	〃
65-70	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.3cm	凹面布目痕 横位ヘラナデ 凸面縦位指ナデ 灰色 砂粒・小石粒 粗土 良好 硬質	〃
65-71	女瓦(平瓦)	厚:1.1cm	凹面布目痕 縦位ナデ 凸面綾杉文叩目痕 ナデ調整 褐灰色 砂粒 粗土 良好 硬質	〃
65-72	漆器　椀	高台径:7.2cm	黒漆塗布　粗いハケ塗り　「ハ」字形高台　器肉厚め	〃
67-1	かわらけ	a:8.2cm b:6.2cm c:1.55cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	第１トレンチ上層
67-2	かわらけ	a:(8.6)cm b:(7.0)cm c:1.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土　砂質	〃
67-3	かわらけ	a:(9.6)cm b:(7.0)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃
67-4	かわらけ	a:(9.0)cm b:(7.0)cm c:2.2cm	ロクロ　外底糸切痕　赤褐色　微砂・小石粒　良土　砂質　良好	〃
67-5	かわらけ	a:(9.6)cm b:(8.1)cm c:1.95cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃
67-6	かわらけ	a:(12.0)cm b:(8.0)cm c:2.95cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃
67-7	かわらけ	a:(12.8)cm b:(9.0)cm c:3.4cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
67-8	かわらけ	a:(12.6)cm b:(9.0)cm c:2.7cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃
67-9	かわらけ	a:13.8cm b:9.9cm c:3.3cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒　粗土	〃
67-10	かわらけ	a:(8.4)cm b:(7.0)cm c:1.8cm	手捏ね 外底指頭痕 明黄褐色 微砂・雲母・赤色粒・白針・土丹粒 粗土	〃
67-11	かわらけ	a:(8.8)cm b:(6.7)cm c:1.8cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃
67-12	かわらけ	a:(9.0) b:(8.0)cm c:(1.6)cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒　良土	〃

表36　出土遺物観察表（34）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
67-13	青磁　碗	小片	劃花文　暗緑灰色透明　内外面薄い施釉　灰色　精良堅緻	第1トレンチ上層
67-14	青磁　碗	b:(4.8)cm	劃花文　内底面銘スタンプ　灰緑色透明　厚い施釉　灰色　精良堅緻	〃　龍泉窯系
67-15	常滑　甕	b:(15.0)cm	輪積技法 褐色 離れ砂 内面降灰 外面ヘラ削り・指頭痕 小石粒・長石粒・砂粒少量	〃
67-16	須恵器　甕	体部片	灰色　内面同心円状の叩き目　外面平行状叩き目　微砂・小石　良土　良好	〃
67-17	女瓦(平瓦)	厚:1.5～2.1cm	凹面布目痕 ナデ調整 ヘラ削り 凸面縄目叩き痕 灰褐色 砂粒・白色粒 粗土 良好 硬質	〃
67-18	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.1cm	凹面布目痕 ナデ整形 凸面綾杉文叩目痕 灰褐色 砂粒・雲母 粗土 良好 硬質	〃
67-19	女瓦(平瓦)	厚:1.2～1.55cm	凹面布目痕 縦位ナデ 凸面綾杉文叩目痕 ナデ調整 灰黄褐色 砂粒・黒色粒 粗土 良好 硬質	〃
67-20	女瓦(平瓦)	厚:1.8～2.1cm	凹面布目・模骨痕 凸面縄目叩き痕 縦横ナデ 橙色 砂粒・黒色粒・白色粒 粗土 良好 硬質	〃
67-21	女瓦(平瓦)	厚:2.9～3.8cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 褐灰色 砂粒・黒色粒・小石粒 粗土 良好 硬質	〃
67-22	木製品　椀	b:(9.9)cm	黒漆塗布　高台削り出し　厚手の木地	〃
67-23	漆器皿加工品	径:8.4cm	皿周縁を面取加工　穿孔中に木のつまみも様なものあり　蓋か	〃
67-24	用途不明木製品	長:3.2cm 幅:3.7cm 残高:3.9cm	全体に丸味を持たせる様に加工　一部破損	〃
67-25	木製品　舟形代	残長:13.3cm 幅:3.3cm 高:1.6cm	船尾部分欠失 船首～船尾にかけ丸味をつける 上面ノミ状工具で長方形に刻り貫を施す	〃
67-26	木製品 墨書木片	長:24.1cm 幅:4.3cm 厚:0.4cm	薄板片　上面文字らしきものあり	〃
67-27	用途不明木製品	長:19.0cm 幅:1.4cm 厚:1.1cm	断面多角形　全体に加工痕あり	〃
68-1	かわらけ	a:9.4cm b:6.4cm c:2.1cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	第1トレンチ下層
68-2	かわらけ	a:(13.0)cm b:(8.4)cm c:(3.7)cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・土丹粒　良土	〃
68-3	かわらけ	a:(12.4)cm b:(8.0)cm c:(3.8)cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　良土	〃
68-4	かわらけ	a:(9.4)cm b:(8.0)cm c:(1.8)cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃
68-5	かわらけ	a:(13.4)cm b:(12.2)cm c:(3.1)cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃
68-6	渥美　捏鉢	口縁部小片	輪積技法 灰黒色 つやあり 横位ナデ・ハケ目痕 灰色 砂粒・白色粒・白針 やや粗土 硬質	〃
68-7	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.3cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰色～灰褐色 砂粒・雲母・白色粒・小石粒 良土 良好 硬質	〃
68-8	女瓦(平瓦)	厚:1.7～1.9cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰黄橙色 砂粒・雲母・白色粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
68-9	女瓦(平瓦)	厚:1.7～2.0cm	凹面糸切・布目痕 凸面縄目叩き痕 暗灰色～灰褐色 砂粒・雲母・白色粒・小石粒 粗土 良好 硬質	〃
69-1	かわらけ	a:(8.2)cm b:(5.6)cm c:(2.05)cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・小石粒　やや粗土	第2トレンチ上層
69-2	かわらけ	a:(8.2)cm b:(6.0)cm c:(2.0)cm	ロクロ　外底糸切痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃
69-3	かわらけ	a:(8.5)cm b:(7.8)cm c:(2.0)cm	ロクロ 外底糸切痕 灰橙色 微砂・雲母・白針・赤色粒 やや粗土　灯明皿	〃
69-4	かわらけ	a:(9.0)cm b:(6.8)cm c:(1.7)cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針・小石粒　やや粗土	〃
69-5	かわらけ	a:9.0cm b:8.6cm c:(2.0)cm	手捏ね 外底指頭痕 明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒 粗土	〃
69-6	かわらけ	a:(9.0)cm b:(7.8)cm c:(1.8)cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃
69-7	かわらけ	a:13.0cm b:11.6cm c:3.3cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・土丹粒　やや粗土	〃
69-8	渥美　甕	肩部小片	横位4条の筋彫線 灰緑色不透明 釉白濁・剥離 灰色 砂粒・黒色粒少量	〃
69-9	須恵器　甕	体部小片	内面灰色 半円形の弱い叩き目 外面灰黒色 平行条線痕 灰色 微砂 小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
69-10	男瓦(丸瓦)	筒部径:16.0cm　厚:1.7cm	凸面縦位押圧痕 凹面布目・糸切・接ぎ目痕 灰色 砂粒・黒色粒 良土 やや甘い 軟質	〃
69-11	男瓦(丸瓦)	筒部径:12.0cm　厚:1.7～2.1cm	凹面布目痕 凸面押圧痕 横位ナデ 赤褐色 砂粒・白色粒・小石粒 粗土 良土 硬質	〃
69-12	女瓦(平瓦)	厚:1.5～1.7cm	凹面押圧・布目痕 凸面縄目叩き痕 縦位ナデ 赤褐色 微砂・白色粒・小石粒 粗土 良好 硬質	〃
69-13	女瓦(平瓦)	厚:1.9～2.1cm	凹面布目・ヘラ状削り痕 凸面指頭痕 丁寧なナデ 灰色 砂粒・黒色粒・白色粒 良土 良好 軟質	〃
69-14	女瓦(平瓦)	厚:2.5cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒 やや粗土 良好 軟質	〃
69-15	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.3cm	凹面糸切・布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰黒色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒 やや粗土 良好 軟質	〃
69-16	女瓦(平瓦)	厚:1.9～2.0cm	凹面布目痕 縦位ナデ 凸面綾杉文叩目痕 ナデ調整 灰色 砂粒・黒色粒 良土 良好 軟質	〃
69-17	女瓦(平瓦)	厚:(2.5～2.6)cm	凹面縄目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色砂粒・雲母・黒色粒・白色粒・小石粒 やや粗土 良好 軟質	〃
69-18	用途不明木製品	長:13.8cm 幅:1.9cm 厚:0.4cm	薄板材 両端尖らせる 上部2ヶ所丸味を持つ 刻入込み 下部は緩いカーブを持つ	〃
69-19	用途不明木製品	長:15.0cm 幅:3.5cm 厚:0.7cm	上部欠失　下部焼痕あり　中央やや下に径9mmの穿孔　片側側縁に加工痕が見られる	〃
69-20	木製品　箸	長:22.2cm 幅:0.6cm 厚:0.35cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖り気味	〃

表37　出土遺物観察表（35）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
69-21	木製品　箸	長19.5cm 幅:0.6cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　両端尖り気味	第2トレンチ上層
70-1	かわらけ	b:(9.2)cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土　砂質	第2トレンチ下層
70-2	かわらけ	b:(5.0)cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土　砂質	〃
70-3	かわらけ	b:(5.0)cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
70-4	かわらけ	a:9.2cm b:7.0cm c:1.6cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃
70-5	かわらけ	a:(9.6)cm b:(8.6)cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母　良土	〃
70-6	かわらけ	a:(12.6)cm b:(8.6)cm c:3.2cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
70-7	かわらけ	a:(13.2)cm b:(11.8)cm c:2.4cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母　良土	〃
70-8	かわらけ	b:(4.0)cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母　良土　内底部に穿孔あり	〃
70-9	男瓦(丸瓦)	厚:1.6～2.2cm	凸面縄目叩き痕 横位ヘラナデ 凹面布目痕 縦位ナデ 褐灰色 砂粒・白色粒 粗土 良好 硬質	〃
70-10	男瓦(丸瓦)	筒部径:14.5cm	凸面綾杉文叩目痕 凹面布目痕 明褐灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
70-11	男瓦(丸瓦)	厚:1.2～1.3cm	凸面綾杉文叩目痕 凹面布目痕 赤褐色 砂粒・雲母・赤色粒 良土 良好 硬質	〃
70-12	男瓦(丸瓦)	筒部径:19.2cm	凸面縄目叩き痕 横位ナデ 凹面布目痕 糸切痕 灰色 砂粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
70-13	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.4cm	凹面布目痕　凸面縄目叩き痕　灰褐色　砂粒・黒色粒　粗土　良好　硬質	〃
71-1	かわらけ	a:8.4cm b:7.7cm c:1.4cm	ロクロ 外底糸切痕 明黄褐色 微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒 粗土	第3トレンチ
71-2	かわらけ	a:(8.1)cm b:(7.1)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒　やや粗土	〃
71-3	かわらけ	a:8.7cm b:7.1cm c:2.0cm	手捏ね 外底指頭痕 黄橙色 微砂・雲母・赤色粒・白針・小石粒・土丹粒 粗土	〃
71-4	かわらけ	a:(9.1)cm b:(7.6)cm c:1.5cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母　精良土	〃
71-5	かわらけ	a:(14.0)cm b:(8.2)cm c:(3.0)cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針・小石粒　やや粗土	〃
71-6	女瓦(平瓦)	厚:2.2cm	凹面布目・模骨痕 凸面ヘラナデ成形 赤灰色 砂粒・黒色粒・白色粒・赤色粒 良土 やや甘い	〃
71-7	女瓦(平瓦)	厚:2.1cm	凹面布目痕 凸面ヘラ削り ナデ成形 灰黒色 砂粒・黒色粒・白色粒・赤色粒・白針 粗土 軟質	〃
71-8	女瓦(平瓦)	厚:1.4cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰白色 砂粒・黒色粒・白色粒・赤色粒 良土 良好 軟質	〃
71-9	女瓦(平瓦)	厚:1.8cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 黄橙色 砂粒・黒色粒・白色粒 良土 やや甘い やや軟質	〃
71-10	用途不明木製品	長:19.5cm 幅:1.4cm 厚:0.8cm	板材を縦割りにし下側を細くなるように加工	〃
72-1	かわらけ	a:(9.0)cm b:(7.0)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	第4トレンチ上層
72-2	かわらけ	a:(9.0)cm b:(6.2)cm c:1.6cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃
72-3	かわらけ	a:(9.0)cm b:(7.6)cm c:1.8cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　良土	〃
72-4	かわらけ	a:(12.8)cm b:(11.6)cm c:3.1cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃
72-5	かわらけ	a:(12.8)cm b:(11.4)cm c:3.4cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・赤色粒・白針　やや粗土	〃
72-6	白磁　玉縁碗	b:6.0cm	灰白色透明　内面施釉　つや・貫入あり　灰色　精良堅緻	〃
72-7	縄文土器	小片:4.0×7.0cm	二重沈線内に平行・縦位の沈線 灰褐色～赤褐色 微砂・雲母・白色粒・黒色粒・小石粒 やや粗土	〃
72-8	男瓦(丸瓦)	厚:1.8～2.2cm 筒部径:15.0cm	凸面丁寧なナデ　凹面布目痕 赤褐色 砂粒・雲母・白針 良土(粘性強い) 良好 硬質	〃
72-9	男瓦(丸瓦)	厚:1.2～1.4cm 筒部径:13.0cm	凸面平行条線痕 凹面布目痕 灰色 砂粒・雲母 良土 良好 軟質	〃
72-10	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.3cm	凹面布目・模骨痕 凸面横位ナデ 灰白色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
72-11	女瓦(平瓦)	厚:2.8cm	凹面布目・模骨痕 凸面縄目叩き痕 灰白色 砂粒・黒色粒・白色粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
72-12	女瓦(平瓦)	厚:2.2～2.,6cm	凹面布目・模骨痕 凸面縄目叩き痕 砂粒・赤色粒・白針・小石粒 やや粗土 良好 軟質	〃
72-13	女瓦(平瓦)	厚:1.5cm	凹面布目痕　凸面平行状叩き文　灰橙色　砂粒・白色粒　良土　良好　軟質	〃
73-1	かわらけ	b:(8.0)cm	ロクロ　外底糸切痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	第4トレンチ下層
73-2	かわらけ	a:13.6cm b:12.2cm c:3.4cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃
73-3	男瓦(丸瓦)	厚:2.2～2.7cm	凸面縄目叩き痕 丁寧なナデ 凹面布目痕 灰白色 砂粒・白針・小石粒 良土 軟質	〃
73-4	女瓦(平瓦)	厚:1.4～1.5cm	凹面布目痕 凸面丁寧なナデ 灰色　砂粒・白針・小石粒　良土　良好　軟質	〃
73-5	女瓦(平瓦)	厚:1.7～2.1cm	凹面布目・模骨痕 凸面縄目叩き痕 灰色～黄橙色 砂粒・白色粒・小石粒 粗土 良好 硬質	〃
73-6	女瓦(平瓦)	厚:2.8～3.4cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰褐色 砂粒・白針・小石粒・土丹粒 やや粗土 良好 軟質	〃
73-7	木製品　椀	b:(9.0)cm	柾目材　底部上圧で潰れている　摩耗大	〃

表38　出土遺物観察表（36）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
73-8	木製品　菜箸	長:30.3cm 幅:0.8cm 厚:0.9cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　片端尖り気味	第4トレンチ下層
73-9	金剛草履板芯	長:23.1cm 厚:0.25cm	先端・中央部鼻緒の小孔　先端近くL字の抉り　側縁方形の抉り　縄編痕	〃
73-10	用途不明木製品	径:1.4cm 中央孔径:0.8cm	黒漆塗布　径の異なる円筒状のものを差し込む　端面凸状に仕上げる　方端欠失	〃
73-11	木製品　_経	長:22.7cm 幅:1.5cm 厚:0.1cm	短冊形の薄板頂部を圭頭状に切り出す　上面墨書痕らしきもの残るが文字不明瞭	〃
73-12	木製品　_経	残長:9.0cm 幅:1.9cm 厚:0.1cm	短冊形の薄板片面に墨書文字が表されるが判読不明　□無阿弥陀□	〃
74-1	かわらけ	a:(8.9)cm b:(7.8)cm c:(2.2)cm	手捏ね　外底指頭痕　橙色　微砂・雲母・白針　精良土	第5トレンチ上層
74-2	かわらけ	a:(9.4)cm b:(7.8)cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　良土	〃
74-3	かわらけ	a:(9.4)cm b:(8.0)cm c:(2.0)cm	手捏ね　外底指頭痕　明応褐色　微砂・雲母・白針　良土	〃
74-4	かわらけ	a:(9.8)cm b:(8.5)cm c:(2.1)cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母・赤色粒　やや粗土	〃
74-5	かわらけ	a:(10.2)cm b:(8.5)cm c:(2.1)cm	手捏ね　外底指頭痕　明黄褐色　微砂・雲母　やや粗土	〃
74-6	青磁　折縁皿	底部小片	魚文 灰緑色半透明 厚い施釉 つや・貫入あり 白色 微気孔あり 精良堅緻	〃　龍泉窯系
74-7	青白磁　壺蓋	径:(7.2)cm 最大径:9.4cm 器高:1.3cm	蓮弁文 明青灰色透明 つやあり 灰白色 精良堅緻	〃
74-8	男瓦(丸瓦)	筒部径:14.0cm　厚:2.3cm	凸面横位ナデ　凹面布目痕 灰白色 砂粒・黒色粒　良土　良好　硬質	〃
74-9	女瓦(平瓦)	厚:2.5cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き・指頭痕 灰黒色 微砂・白色粒 良土 良好 硬質	〃
74-10	女瓦(平瓦)	厚:2.1cm	凹面布目痕 凸面格子叩き目痕 黄褐色　微砂粒・白色粒 良土　やや硬質	〃
74-11	女瓦(平瓦)	厚:2.3cm	凹面布目・模骨痕 凸面横位ナデ 灰色 砂粒・黒色粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃
74-12	かわらけ	a:(12.4)cm b:(9.6)cm c:4.0cm	ロクロ　外底糸切痕　橙色　微砂・雲母　精良土　砂質	第5トレンチ下層
74-13	かわらけ	a:(10.0)cm b:(8.2)cm c:1.9cm	手捏ね　外底指頭痕　黄橙色　微砂・雲母・白針　やや粗土	〃
74-14	女瓦(平瓦)	厚:2.2cm	凹面布目·模骨痕 凸面縄目叩き痕 黒灰色～橙色 砂粒·黒色粒·白色粒 良土 良好 硬質	〃
74-15	木製品　箸	長:24.5cm 幅:0.8cm 厚:0.5cm	鋭利な刃物で断面多角形に加工　片端尖り気味	〃
74-16	木製品　折敷	長:20.7cm 幅:18.6cm 厚:2～4cm	薄く柾目に剥ぎ取ったものを方形に加工　隅を面取加工	〃
74-17	ヘラ状木製品	長:25.9cm 幅:1.7cm 厚:4mm	先端部細く平たい　反対側は6面の面取加工　鳥形・剣形・刀形の可能性あり	〃
74-18	用途不明木製品	長:15.6cm 幅:6.0cm 厚:0.4～0.5cm	板材を方形に加工　隅を面取し再加工する　折敷的な周縁を有し底板の可能性もある	〃
74-19	木製品　遊戯具	径:(5.0)cm	ややいびつだが丁寧に加工　腐食・破損大　球体の一部か	〃
77-1	土師器　台付甕	b:4.6cm	黄橙色　内外面横位ナデ　一部剥離　微砂・雲母・白色粒・赤色粒　良土　良好	中世以前遺構1
77-2	須恵器　甕	体部小片	明灰色 内面ナデ 横位ヘラ削り 外面平行条線叩き 微砂・白針・黒色粒・白色粒 良好	〃
77-3	男瓦(丸瓦)	筒部径:20.2cm	凸面縄目叩き痕 凹面布目痕 灰褐色 砂粒·雲母·白色粒·褐色粒·小石粒 良土 良好 軟質	〃
77-4	男瓦(丸瓦)	筒部径:13.0cm	凸面丁寧なナデ 凹面布目痕 横位ナデ 灰色 砂粒・雲母・黒色粒 良土 良好 硬質	〃
77-5	男瓦(丸瓦)	筒部径:13.6cm　厚:1.6～1.9cm	凸面綾杉文叩目痕 横位ナデ 凹面布目痕 灰褐色 砂粒・雲母・白色粒 やや粗土 良好 硬質	〃
77-6	男瓦(丸瓦)	筒部径:15.0cm　厚:1.6～1.8cm	凸面綾杉文叩目痕 横位ナデ 凹面布目·糸切痕 灰黒色 砂粒・雲母 良土 良好 硬質	〃
77-7	女瓦(平瓦)	厚:2.8～3.4cm	凹面布目·糸切痕 凸面縄目叩き痕 明灰褐色 砂粒·雲母·白色粒·赤色粒 やや粗土 良好 軟質	〃
77-8	女瓦(平瓦)	厚:1.6～2.4cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 明黄褐色 砂粒·雲母·白色粒·小石粒 良土 やや甘い 軟質	〃
78-9	女瓦(平瓦)	厚:1.8～3.0cm	凹面布目·模骨痕 凸面縄目叩き痕 灰褐色 砂粒·雲母·黒色粒·白色粒·小石粒 良土 良好 硬質	〃
78-10	女瓦(平瓦)	厚:2.6～3.0cm	凹面布目·模骨痕 凸面縄目叩き痕 橙褐色 砂粒·雲母·白色粒·小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
78-11	女瓦(平瓦)	厚:2.7～3.0cm	凹面布目·模骨痕 凸面縄目叩き·押圧痕 灰色 砂粒·雲母·白色粒·小石粒 良土 良好 硬質	〃
78-12	女瓦(平瓦)	厚:2.2～2.6cm	凹面布目痕 縦位ナデ 凸面縄目叩き 砂粒·雲母·白色粒·黒色粒·小石粒 良土 良好 硬質	〃
78-13	女瓦(平瓦)	厚:1.9～2.1cm	凹面布目·模骨痕 凸面斜位ナデ 灰色～灰橙色 砂粒·雲母·赤色粒 良土 良好 硬質	〃
79-14	女瓦(平瓦)	厚:2.1～2.5cm	凹面布目·糸切痕 凸面縦·横·斜位ナデ 灰橙色 砂粒·土丹粒·小石粒 粗土 良好 硬質	〃
79-15	女瓦(平瓦)	厚:1.8～2.8cm	凹面布目·模骨痕 凸面縦位ナデ 明灰褐色 砂粒・雲母 やや粗土 良好 硬質	〃
79-16	女瓦(平瓦)	厚:2.5～3.4cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒·雲母·黒色粒·白色粒·小石粒 良土 良好 軟質	〃
79-17	女瓦(平瓦)	厚:2.3～2.5cm	凹面布目·糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒·雲母·黒色粒·小石粒 良土 良好 硬質	〃
79-18	女瓦(平瓦)	厚:1.6～1.8cm	凹面布目·模骨痕 凸面横位ナデ 綾杉文叩目痕 灰黒色 砂粒·雲母·黒色粒 良土 良好 硬質	〃
80-1	女瓦(平瓦)	厚:2.8～3.0cm	凹面布目痕 縦位ヘラナデ 凸面縄目痕 灰色 砂粒·雲母·白色粒·小石粒 やや粗土 良好 硬質	中世以前遺構2
80-2	女瓦(平瓦)	厚:2.2～2.6cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰橙色 砂粒·雲母·白色粒·赤色粒·小石粒 良土 良好 軟質	〃

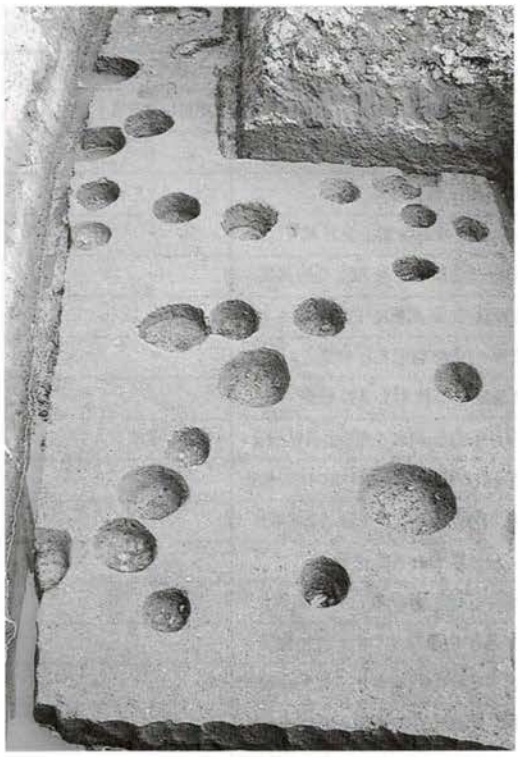
表39　出土遺物観察表（37）

図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
80-3	女瓦(平瓦)	厚:1.2～1.5cm	凹面布目·押圧痕 凸面格子叩き痕 黒灰色 砂粒・雲母・白色粒・黒色粒 良土 良好 硬質	中世以前遺構 2
80-4	女瓦(平瓦)	厚:1.9～2.0cm	凹面布目·模骨痕 凸面斜位ナデ 灰色～灰橙色 砂粒・白色粒·小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
80-5	女瓦(平瓦)	厚:1.8～2.0cm	凹面布目·模骨痕 凸面丁寧なナデ 灰色 砂粒·雲母·白色粒·黒色粒 良土 良好 硬質	〃
80-6	女瓦(平瓦)	厚:2.6～2.9cm	凹面糸切·布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒·雲母·白色粒·小石粒 やや粗土 良好 軟質	〃
80-7	女瓦(平瓦)	厚:1.8～1.9cm	凹面糸切·布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 微砂·雲母·白色粒·小石粒 良土 良好 硬質	〃
81-1	男瓦(丸瓦)	筒部径:21.4cm　厚:2.3～2.7cm	凸面縄目叩き痕 凹面布目痕 ナデ調整 砂粒·雲母·赤色粒·小石粒 良土 良好 やや軟質	中世以前遺構 3
81-2	男瓦(丸瓦)	筒部径:22.4cm　厚:2.4～3.0cm	凸面端面ヘラ削り 凹面布目痕 ナデ調整 灰色 砂粒·雲母·小石粒 良土 良好 硬質	〃
81-3	男瓦(丸瓦)	筒部径:19.2cm　厚:2.0～2.4cm	凸面ナデ調整 端面ヘラ削り 凹面布目·指頭痕 黒灰色 砂粒·小石粒 良土 良好 硬質	〃
81-4	男瓦(丸瓦)	筒部径:19.0cm　厚:2.5cm	凸面ナデ調整 凹面布目痕 縦位ナデ 暗灰色 砂粒·雲母·白針·小石粒 良土 良好 硬質	〃
81-5	男瓦(丸瓦)	筒部径:17.0cm　厚:2.0～2.7cm	凸面ナデ調整 端面ヘラ削り 凹面布目痕 灰色 砂粒·白針·小石粒 良土 良好 やや軟質	〃
81-6	男瓦(丸瓦)	筒部径:16.4cm　厚:2.0～2.6cm	凸面ナデ調整 端面ヘラ削り 凹面布目痕 黒灰色 砂粒·白針·小石粒 良土 良好 硬質	〃
81-7	男瓦(丸瓦)	筒部径:13.0cm　厚:1.8cm	凸面ナデ調整 端面ヘラ削り 凹面布目痕 黒灰色 砂粒·雲母·小石粒 良土 良好 硬質	〃
81-8	男瓦(丸瓦)	筒部径:15.0cm　厚:2.0～2.1cm	凸面横位ナデ 凹面糸切・布目痕 茶褐色 砂粒·雲母·白針·小石粒 良土 良好 硬質	〃
81-9	男瓦(丸瓦)	筒部径:15.0cm　厚:2.1cm	凸面ナデ調整 端面ヘラ削り 凹面布目痕 黒灰色 砂粒·雲母·小石粒 良土 良好 硬質	〃
81-10	男瓦(丸瓦)	筒部径:12.9cm　厚:1.7cm	凸面ナデ調整 端面ヘラ削り 凹面布目痕 灰色 微砂·小石粒 良土 良好 硬質	〃
82-11	女瓦(平瓦)	厚:3.1cm	凹面布目·模骨痕 凸面縄目叩き痕 灰白色 砂粒·雲母·黒色粒·白色粒 良土 良好 硬質	〃
82-12	女瓦(平瓦)	厚:2.2cm	凹面布目·糸切・模骨痕 凸面縄目叩き痕 灰色 砂粒·雲母·小石粒 良土 良好 硬質	〃
82-13	女瓦(平瓦)	厚:2.4cm	凹面布目·模骨痕 凸面縄目叩き痕 灰色 砂粒·雲母·黒色粒·白色粒·小石粒 良土 良好 硬質	〃
82-14	女瓦(平瓦)	厚:2.8cm	凹面布目·模骨痕 凸面縄目叩き痕 灰色 砂粒·雲母·黒色粒·白色粒·小石粒 良土 良好 硬質	〃
82-15	女瓦(平瓦)	厚:2.1cm	凹面布目·模骨痕 凸面縄目叩き痕 赤灰色 砂粒·雲母·白色粒 良土 やや甘い やや軟質	〃
82-16	女瓦(平瓦)	厚:1.5cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 ナデ成形 灰白色 砂粒·雲母·黒色粒·白色粒 良土 良好 硬質	〃
82-17	女瓦(平瓦)	厚:1.7～2.2cm	凹面布目·模骨痕 凸面格子叩き痕 灰褐色 砂粒·雲母·白針·黒色粒 粗土 良好 軟質	〃
83-18	女瓦(平瓦)	厚:2.1～2.8cm	凹面布目·模骨·糸切痕 凸面縦位ナデ 灰褐色 砂粒·雲母·白色粒·小石粒 粗土 良好 硬質	〃
83-19	女瓦(平瓦)	厚:1.7～2.1cm	凹面布目痕 凸面横位ナデ 明灰褐色～灰褐色 砂粒·雲母·白色粒 良土 良好 硬質	〃
83-20	女瓦(平瓦)	厚:1.5～1.9cm	凹面布目痕 凸面縦横位ナデ 灰褐色 砂粒·黒色粒·白色粒 良土 良好 硬質	〃
83-21	女瓦(平瓦)	厚:1.5～1.8cm	凹面布目痕 凸面縦横位ナデ 灰褐色 砂粒·雲母·小石粒 良土 良好 硬質	〃
83-22	女瓦(平瓦)	厚:1.7～2.1cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰褐色 砂粒·黒色粒·白色粒·小石粒 粗土 良好 硬質	〃
83-23	女瓦(平瓦)	厚:2.9cm	凹面布目痕 凸面横位ナデ 灰白色 砂粒·白色粒 精良土 良好 硬質	〃
83-24	女瓦(平瓦)	厚:2.5～3.3cm	凹面布目痕 凸面横位ナデ 灰褐色 砂粒·雲母·黒色粒·白色粒·小石粒 粗土 良好 軟質	〃
83-25	女瓦(平瓦)	厚:2.5cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰褐色 砂粒·白色粒 良土 良好 硬質	〃
84-26	女瓦(平瓦)	厚:2.5cm	凹面布目·糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰白色 砂粒·白色粒 精良土 良好 硬質	〃
84-27	女瓦(平瓦)	厚:1.9cm	凹面布目·糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 赤褐色 砂粒·白色粒 精良土 良好 硬質	〃
84-28	女瓦(平瓦)	厚:2.1cm	凹面布目·糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒·白色粒 精良土 良好 硬質	〃
84-29	女瓦(平瓦)	厚:2.2cm	凹面布目·糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒·黒色粒・白色粒 精良土 良好 硬質	〃
84-30	女瓦(平瓦)	厚:2.6cm	凹面糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰黒色 微砂·白色粒 精良土 良好 硬質	〃
84-31	女瓦(平瓦)	厚:2.4m	凹面布目·糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 赤褐色 砂粒·白色粒 精良土 良好 硬質	〃
85-1	男瓦(丸瓦)	筒部径:16.6cm　厚:2.0～2.2cm	凸面横位ナデ 凹面布目痕 鈍い橙色 砂粒·雲母·小石粒 粗土 良好 硬質	中世以前遺構 4
85-2	男瓦(丸瓦)	筒部径:15.2cm　厚:2.2～2.5cm	凸面横位ナデ 凹面布目痕 灰褐色～鈍い橙色 砂粒·黒色粒·小石粒 粗土 良好 硬質	〃
85-3	男瓦(丸瓦)	筒部径:15.6cm　厚:1.0～2.3cm	凸面筋状の模様 凹面布目痕 灰褐色 砂粒·白色粒 良土 良好 硬質	〃
85-4	女瓦(平瓦)	厚:2.0～3.1cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰褐色 砂粒·雲母·黒色粒·小石粒 粗土 良好 軟質	〃
85-5	女瓦(平瓦)	厚:1.9～2.7cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰褐色 砂粒·黒色粒 粗土 良好 硬質	〃
85-6	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.3cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 明灰褐色 砂粒·雲母·黒色粒·小石粒 粗土 良好 硬質	〃
85-7	女瓦(平瓦)	厚:2.5～2.8cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰褐色 砂粒·白色粒·小石粒 粗土 良好 硬質	〃
85-8	女瓦(平瓦)	厚:1.9～2.0cm	凹面布目痕 凸面横位ナデ 灰褐色 砂粒·黒色粒 良土 良好 硬質	〃

表40　出土遺物観察表（38）

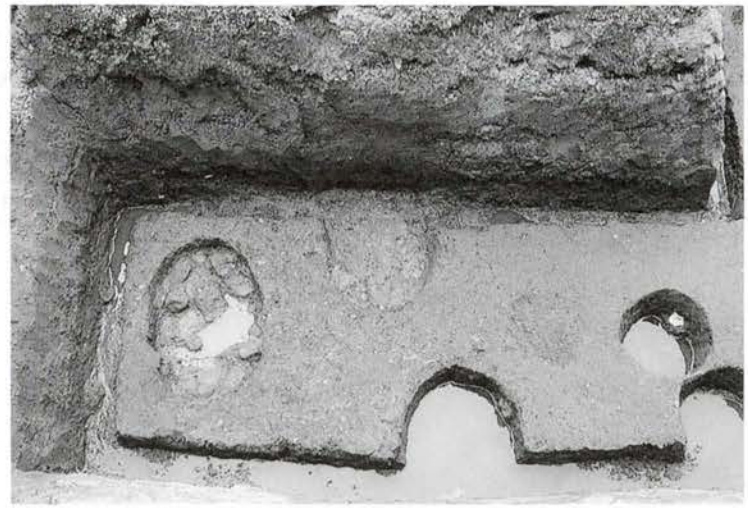
図・番号	種　類	法量（a.口径b.底径c.器高）	成形・特徴（文様・釉薬・胎土・素地・焼成など）	備考（遺構・その他）
85-9	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.1cm	凹面布目痕 凸面縦位ナデ 灰褐色～橙色 砂粒 良土 良好 硬質	中世以前遺構 4
85-10	女瓦(平瓦)	厚:1.9cm	凹面布目痕 凸面横位ヘラナデ 灰褐色 砂粒 良土 良好 硬質	〃
85-11	女瓦(平瓦)	厚:1.8～2.0cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰褐色 砂粒・雲母・白色粒 粗土 硬質	〃
85-12	女瓦(平瓦)	厚:2.4～2.5cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 明灰褐色 砂粒・黒色粒・小石粒 粗土 良好 軟質	〃
85-13	女瓦(平瓦)	厚:2.4～2.5cm	凹面布目・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰褐色 砂粒・黒色粒・白色粒 粗土 良好 硬質	〃
85-14	女瓦(平瓦)	厚:2.0～2.4cm	凹面布目・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 明黄褐色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 粗土 軟質	〃
85-15	女瓦(平瓦)	厚:2.7～2.8cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰褐色 砂粒・雲母・白色粒 粗土 良好 硬質	〃
85-16	女瓦(平瓦)	厚:2.6～2.8cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰褐色 砂粒・黒色粒・小石粒 粗土 良好 硬質	〃
86-1	男瓦(丸瓦)	筒部径:14.0cm　厚:3.0cm	凸面綾杉文叩目痕 凹面布目・糸切痕 灰色 砂粒・雲母・白色粒・白針 やや粗土 良好 硬質	中世以前溝 1
86-2	男瓦(丸瓦)	厚:2.0cm	凸面縄目叩き痕 凹面布目痕 灰白色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 粗土 やや甘い やや軟質	〃
86-3	男瓦(丸瓦)	筒部径:19.0cm　厚:2.3cm	凸面綾杉文叩目痕 凹面布目痕 灰白色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 軟質	〃
86-4	女瓦(平瓦)	厚:2.5cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 橙色 砂粒・黒色粒・白色粒 粗土 良好 硬質	〃
86-5	女瓦(平瓦)	厚:2.1cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰白色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 粗土 良好 硬質	〃
86-6	女瓦(平瓦)	厚:2.1cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 硬質	〃
86-7	女瓦(平瓦)	厚:2.3cm	凹面布目痕 凸面斜格子叩き痕 灰色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 やや粗土 良好 硬質	〃
86-8	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰黒色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 粗土 良好 軟質	〃
86-9	女瓦(平瓦)	厚:2.3cm	凹面布目・糸切痕 凸面綾杉文叩目痕 灰色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒・白針 やや粗土 良好 硬質	〃
86-10	女瓦(平瓦)	厚:3.0cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰白色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 良土 良好 硬質	〃
86-11	女瓦(平瓦)	厚:4.1cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰白色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 粗土 やや甘い 軟質	〃
86-12	女瓦(平瓦)	厚:2.7cm	凹面布目痕 凸面綾杉文叩目痕 灰白色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 良土 良好 軟質	〃
86-13	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目痕 凸面縄目叩き痕 灰黒色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒 良土 良好	〃
86-14	女瓦(平瓦)	厚:1.9cm	凹面布目痕 凸面丁寧なナデ 橙色 砂粒・雲母・黒色粒・白色粒・小石粒 やや粗土 良好 硬質	〃
86-15	女瓦(平瓦)	厚:2.0cm	凹面布目痕 凸面横位ナデ 灰白色 砂粒・白色粒・小石粒 良土 良好 硬質	〃

図版1

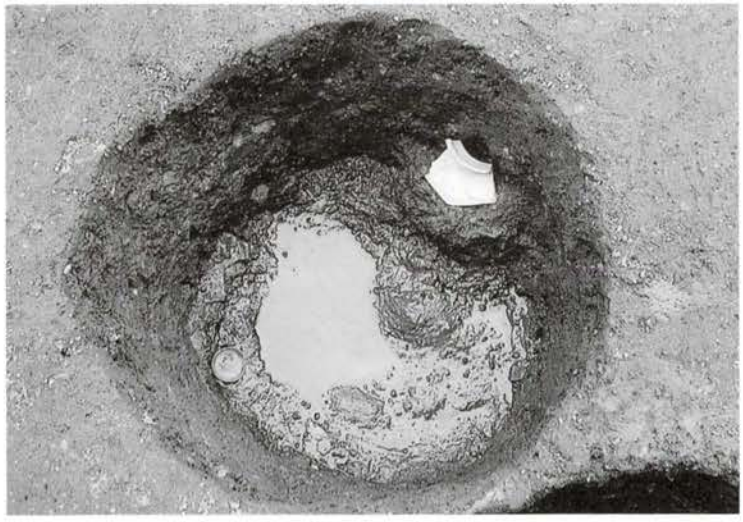


▲ a．Ⅰ区第1面全景（西から）

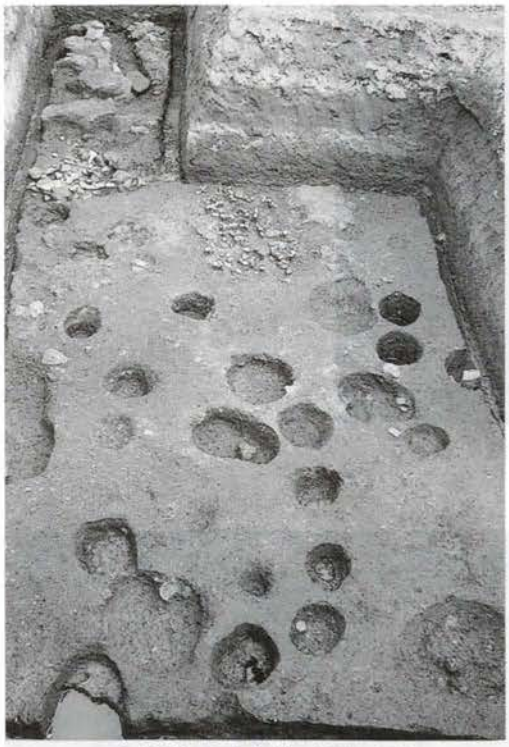
▲ b．Ⅰ区第1面全景（北から）



▲ c．土壙1～4〈北から〉

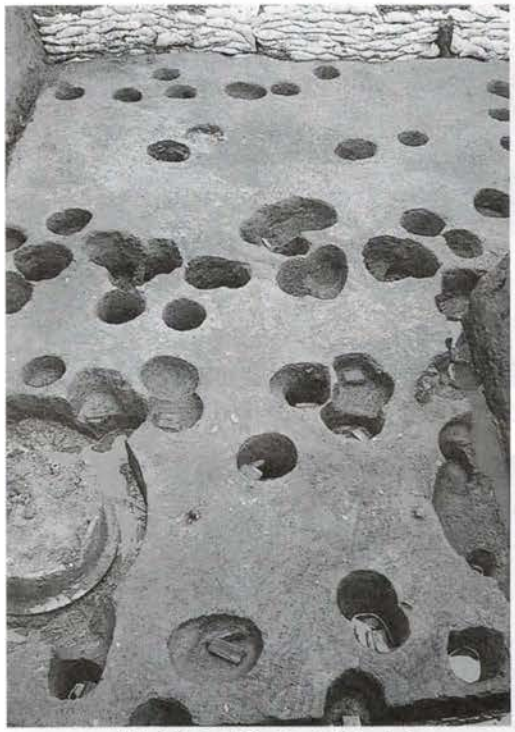


◀ d．土壙4（北東から）
（高麗青磁は第2面磁器溜りに属する）



▲ a．Ⅰ区第２面全景（西から）

▲ b．Ⅰ区第２面全景（北から）



▲ c．Ⅱ区第２面全景（西から）

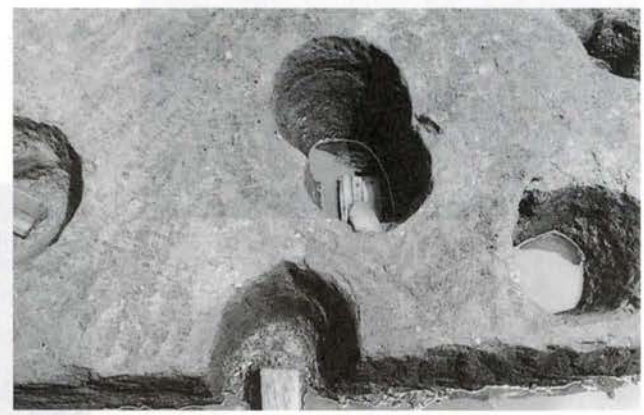
▲ d．Ⅱ区第２面全景（東から）

▲ e．第２面上磁器溜り（南から）

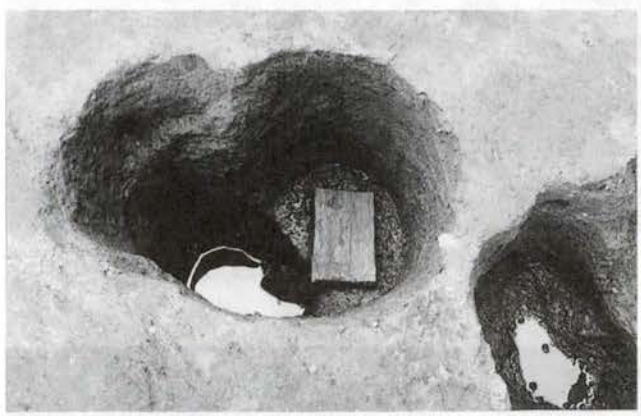
図版 3

▲ a．Ⅱ区第２面建物１～３柱穴列（西から）

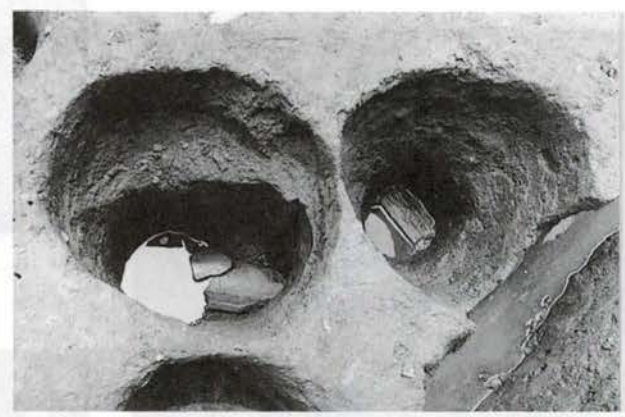
▲ b．建物１—ロ—１（西から）



▲ c．建物３—ロ—１・２—ロ—１（西から）



▲ d．建物２—ロ—３（東から）

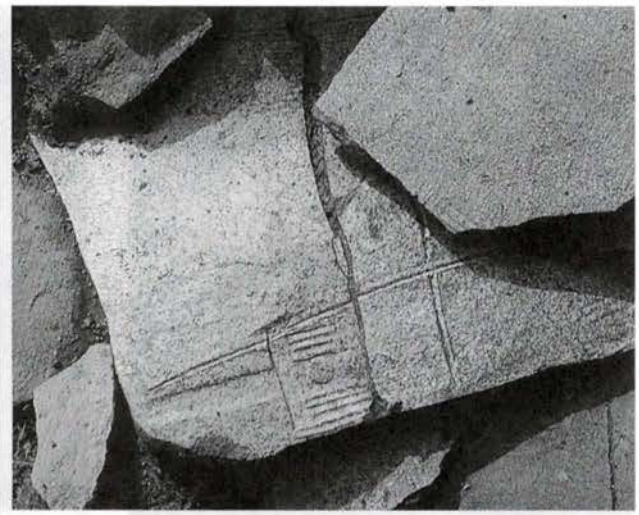


▲ e．建物３—イ—３・２—イ—３（東から）

▲ f．建物２—ハ—３（西から）

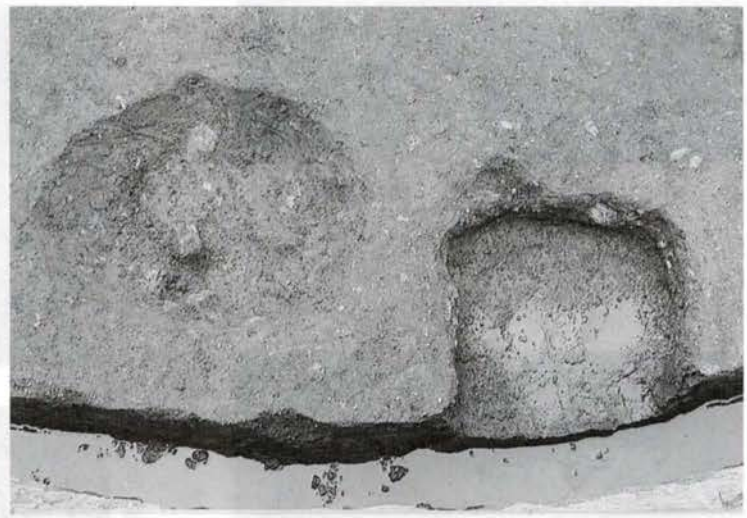
▲ g．建物３—ロ—２（南から）

▲ a．Ⅰ区第２面土壙６常滑甕出土状況（北から）



▲ b．常滑甕肩部ヘラガキ

◀ c．土壙７（東から）



▲ d．土壙８・９（西から）

▲ e．P24・P25（西から）

▲ f．P14青磁折縁鉢出土状況（西から）

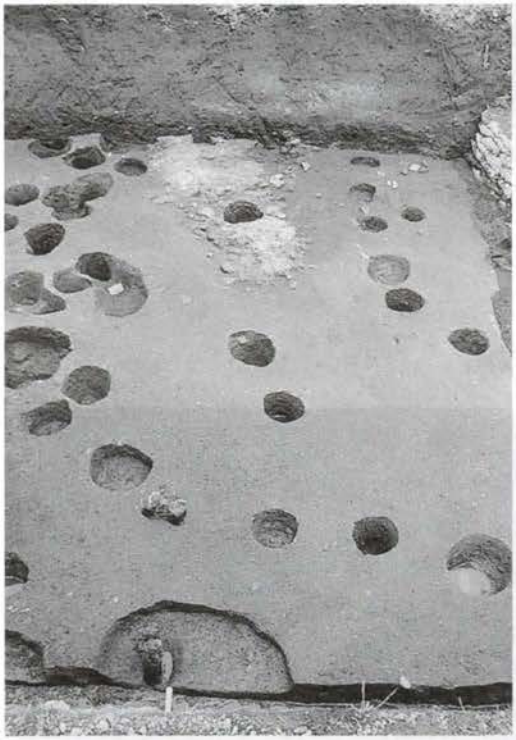
図版5

▲ a．Ⅰ区第3a面全景（西から）

▲ b．Ⅰ区第3a面全景（北から）

▶ d．第3a面上常滑溜り（北から）

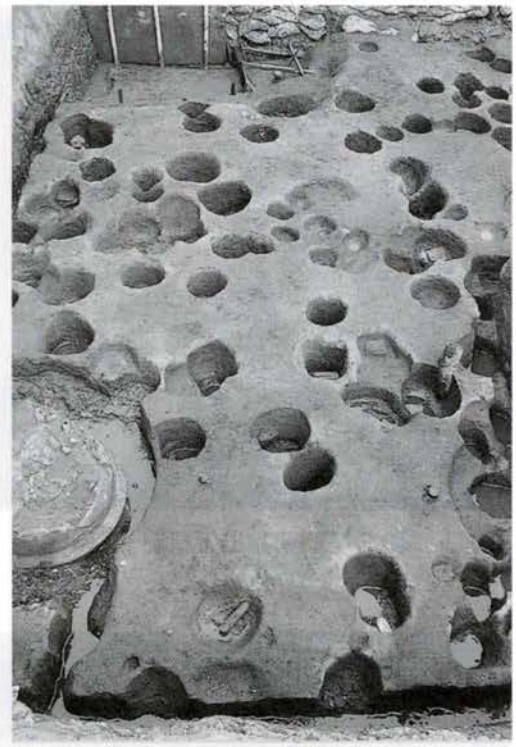
▶ e．第3a面上（北から）重弧文宇瓦出土状況



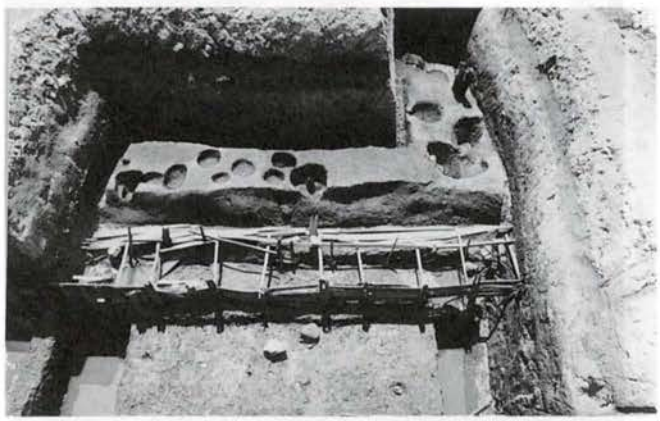
▲ c．Ⅱ区第3a面（南から）

Ⅱ区第3a面池3埋め戻し状況 f．▶（北から）

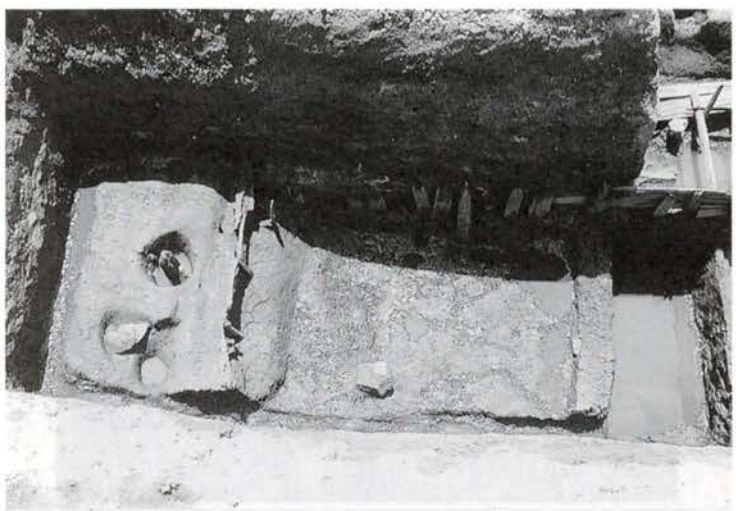
▲ a．Ⅱ区３ｂ面全景（東から）



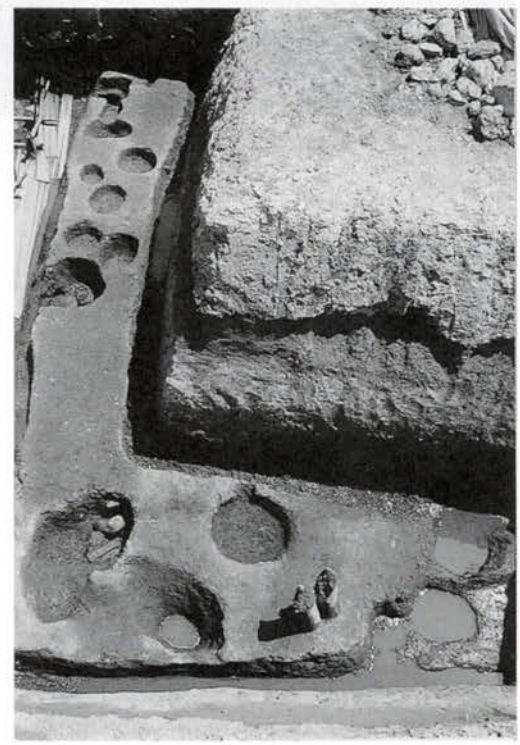
▲ b．Ⅱ区３ｂ面全景（西から）



▲ c．Ⅰ区３ｂ面（中央）全景（北から）



▲ d．Ⅰ区３ｂ面（東側）全景（北から）



▲ e．Ⅰ区３ｂ面（南側）全景（西から）

図版 7

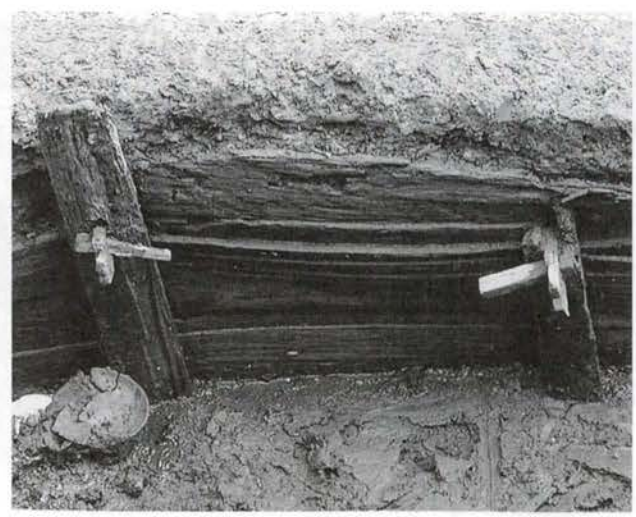
▲ a．池３下層遺物出土状況（西から）
裏込め調査前の状況

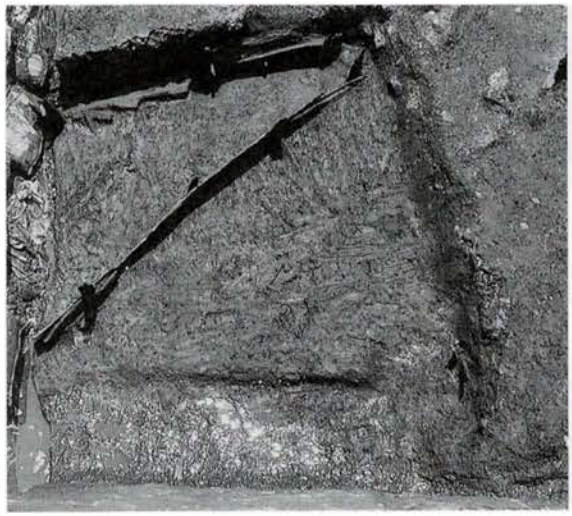
同左

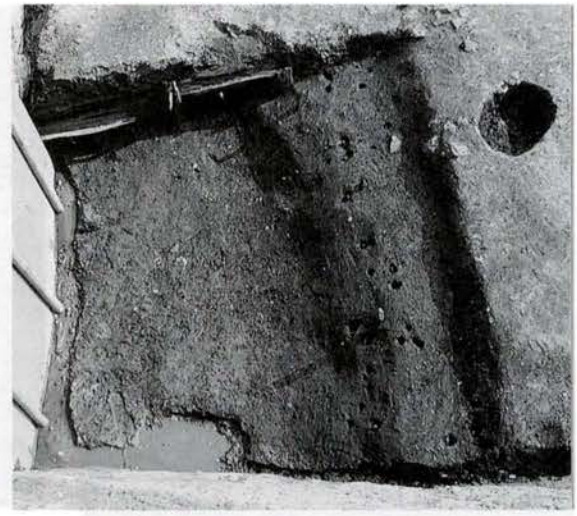
▲ b．池３裏込め部先行トレンチ（北から）

▲ c．池３裏込め部先土層堆積状況（西から）

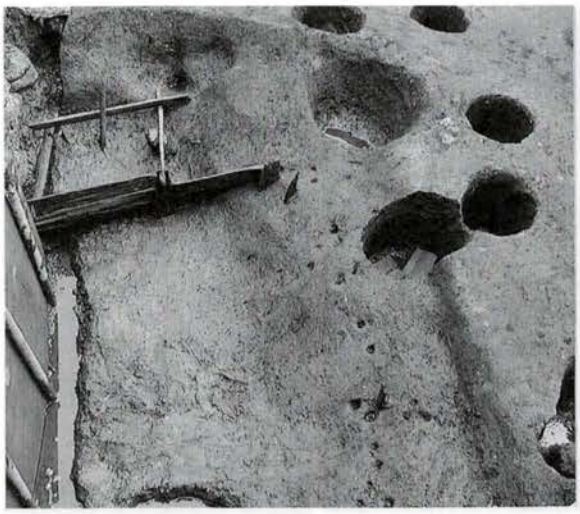
▲ d．東柱と控え材の組合わせ状況（北から）



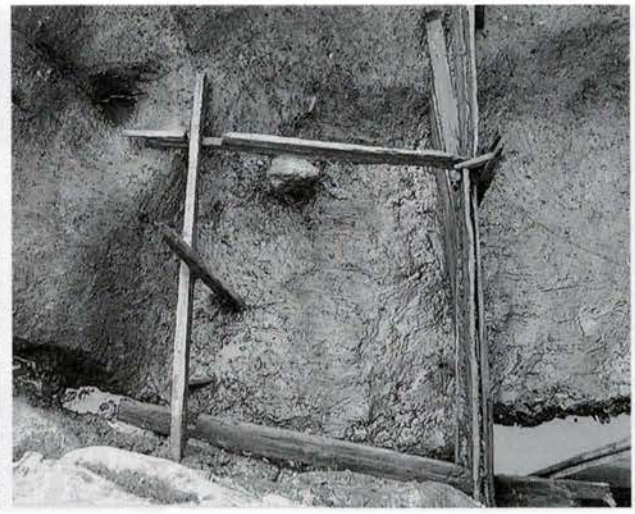




▲ a．池３西端検出状況（北から）
裏込め調査前の状況



▲ b．池３西端完掘状況（北から）

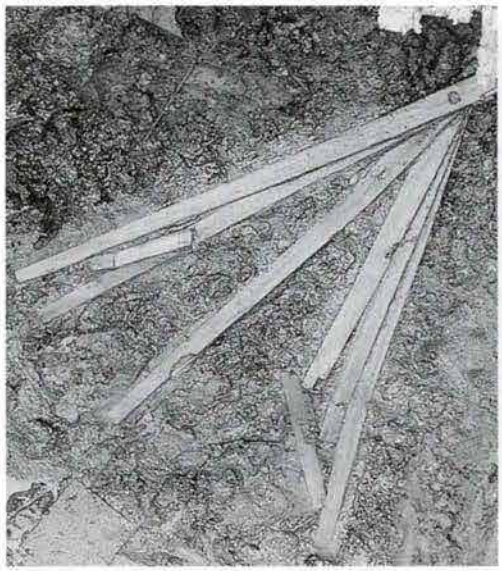


▲ c．池３西端裏込め木組み状況（東から）

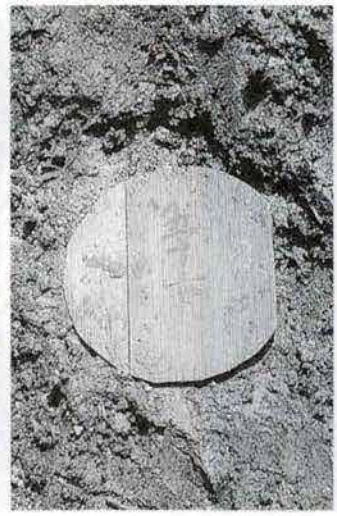
▲ d．池３東端（北から）

▲ e．池３北東遺物溜り（北から）

図版 9

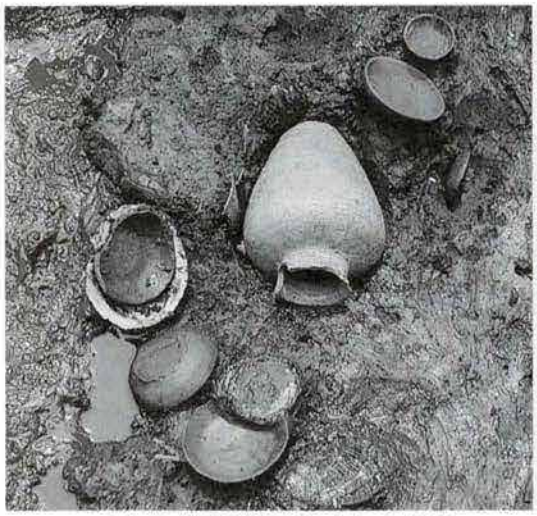


▲ a．池３中層扇出土状況（北から）

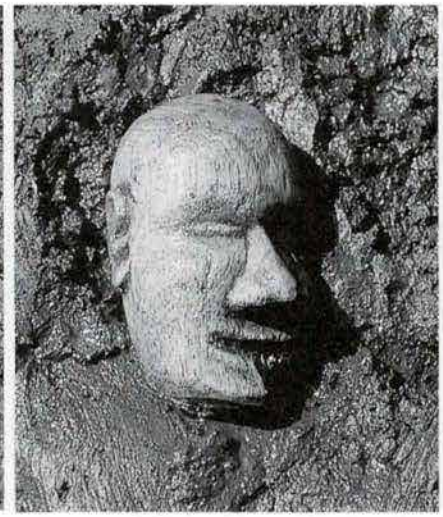


▲ b．墨書折敷出土状況（北から）

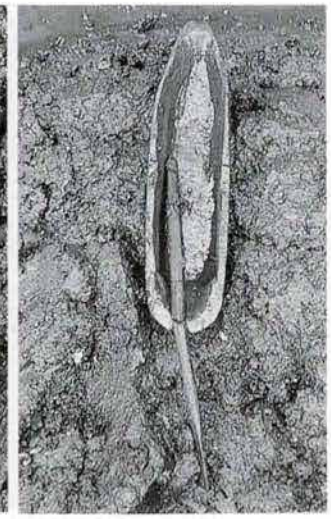
▲ c．独楽出土状況（北から）



▲ d．池３下層常滑三筋壺出土状況（北から）

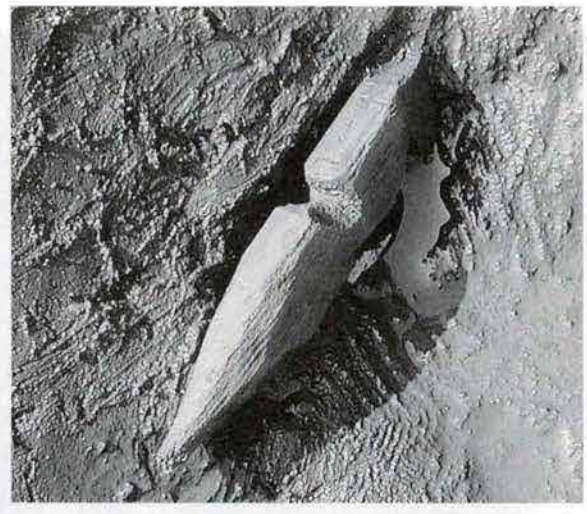


▲ e．木偶出土状況（北から）



▲ f．舟形代出土状況（南から）

▲ g．独楽出土状況（南から）

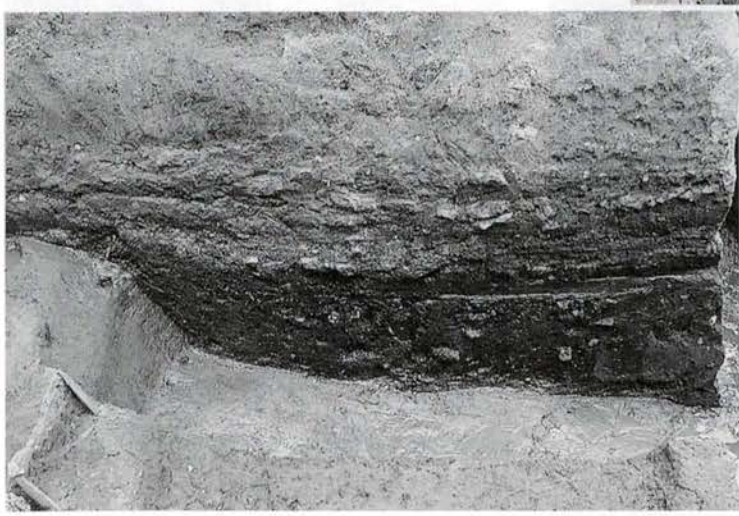


▲ h．人形代出土状況（南から）

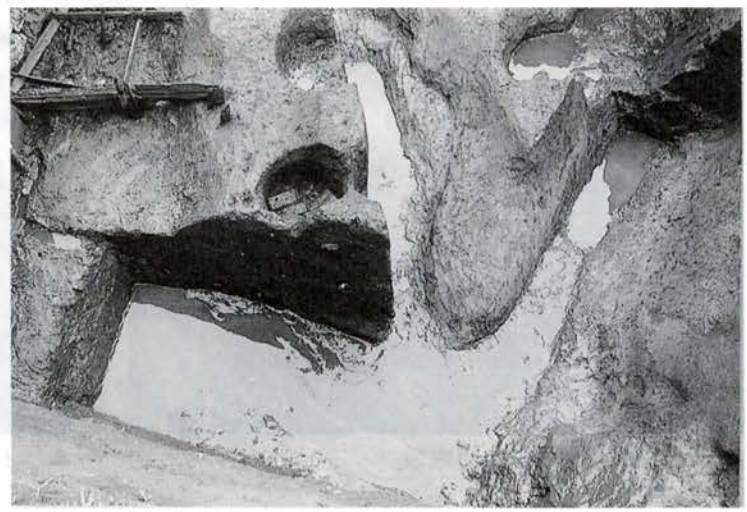
◀ a．第１トレンチ（北から）
底面は縄文時代の海進・海退期に形成された波蝕台である。

▼池1掘り方壁面

第２トレンチ（北から）b．▶

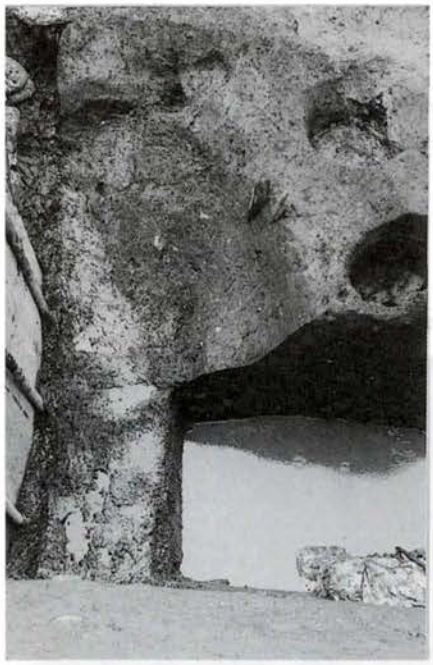


◀ c．第３トレンチ及び
調査区南壁土層堆積（北から）
左端池1掘り方壁面



第４・５トレンチ（北から）d．▶

図版11



▲　a．池２掘り方（北から）

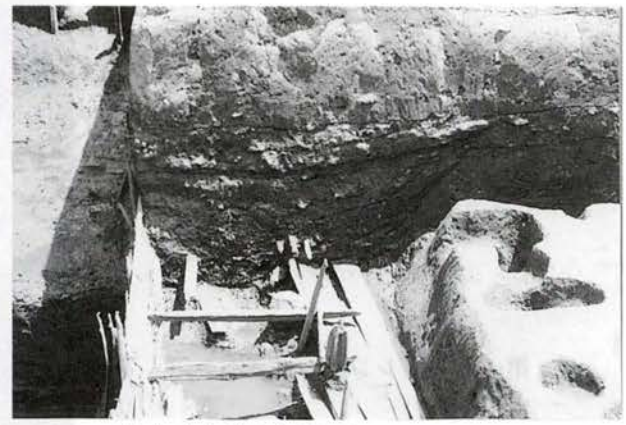
▲　b．池１掘り方（西から）

▼溝1

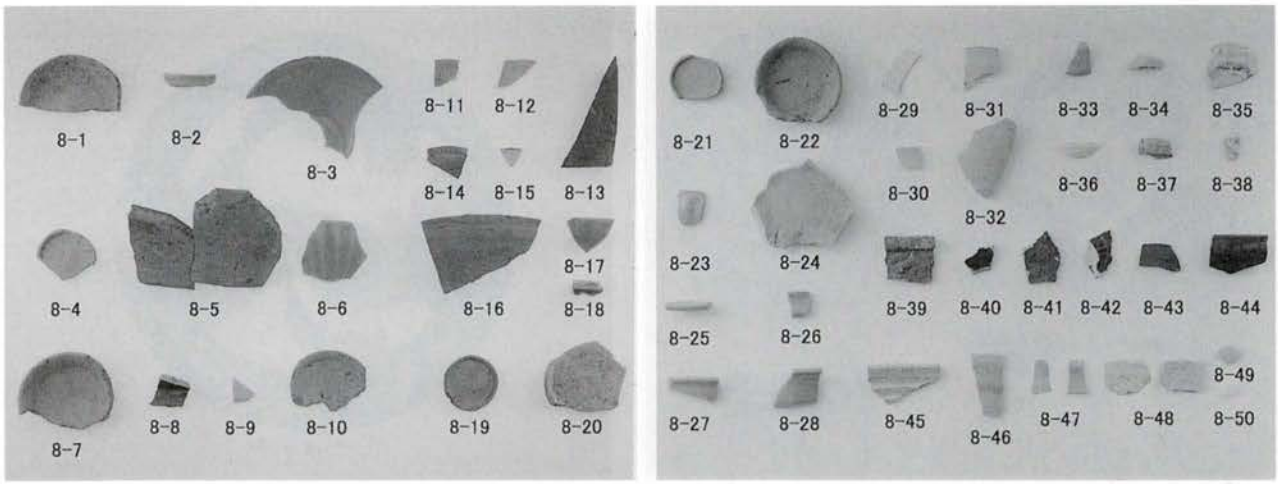
▲　c．中世以前　溝１（南から）

▲　d．中世以前　遺構１～４（北から）

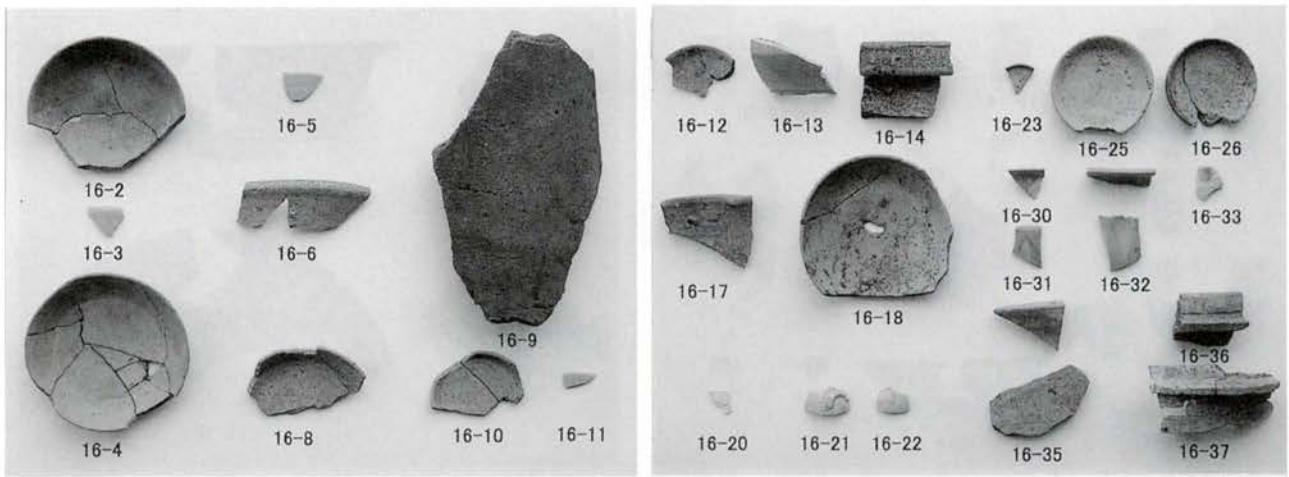
▲　e．調査区西壁土層堆積



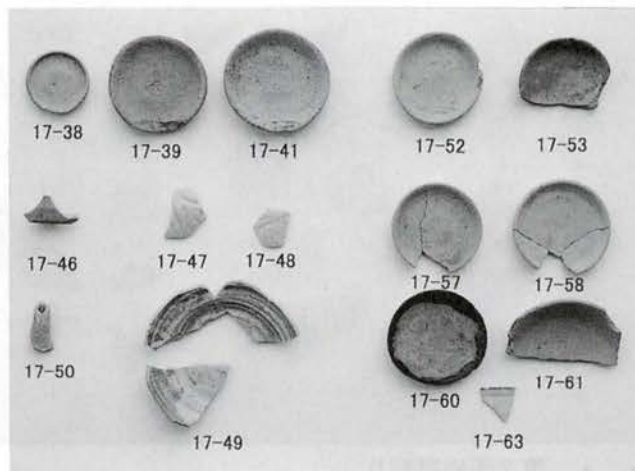
▲　f．調査区東壁土層堆積



▲ a．第1面土壙1～3・5～7　柱穴1・4 14・19・23～26・30　第1面上

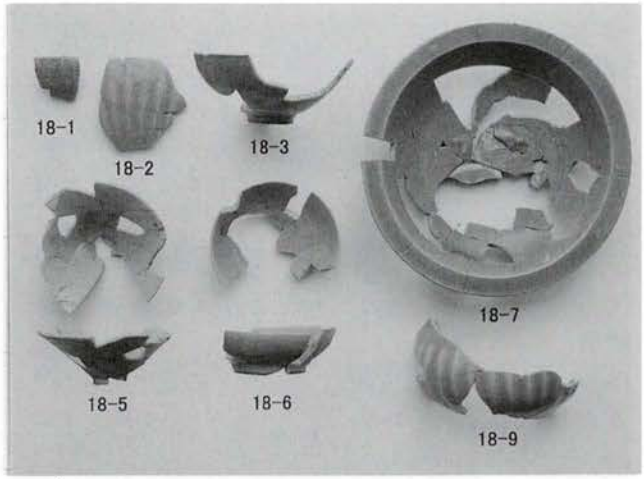


▲ b．第2面建物1～3　土壙1・3～6

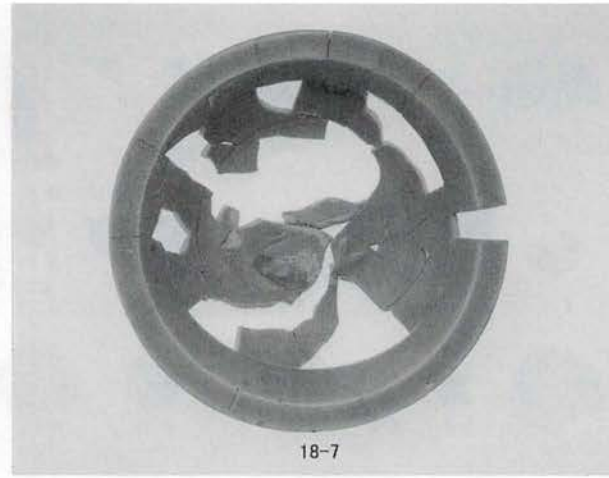


▲ c．第2面土壙7・11・12

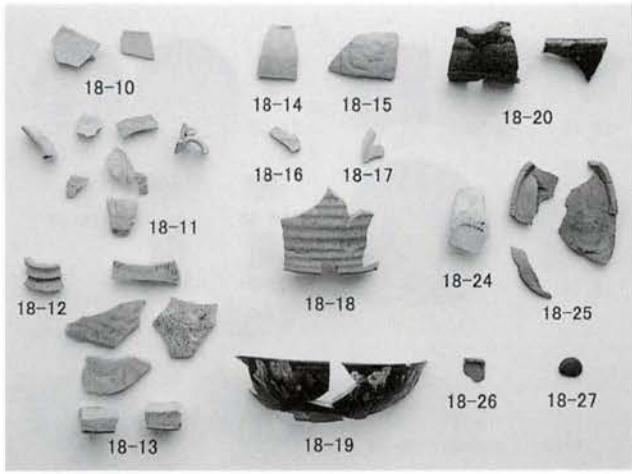
図版13

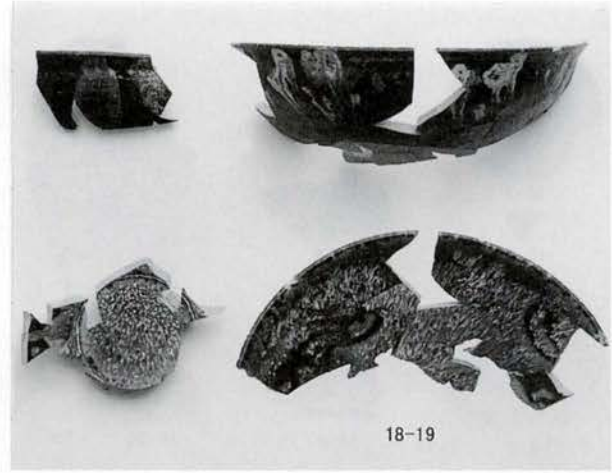


◆ 第２面　磁器溜り

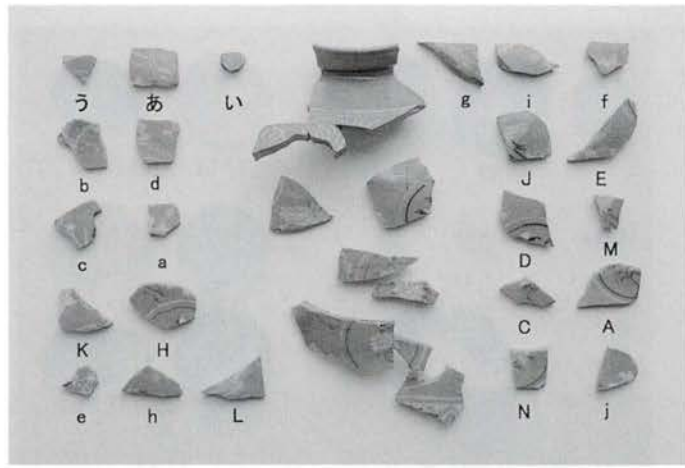


▲ 青磁　双魚文皿



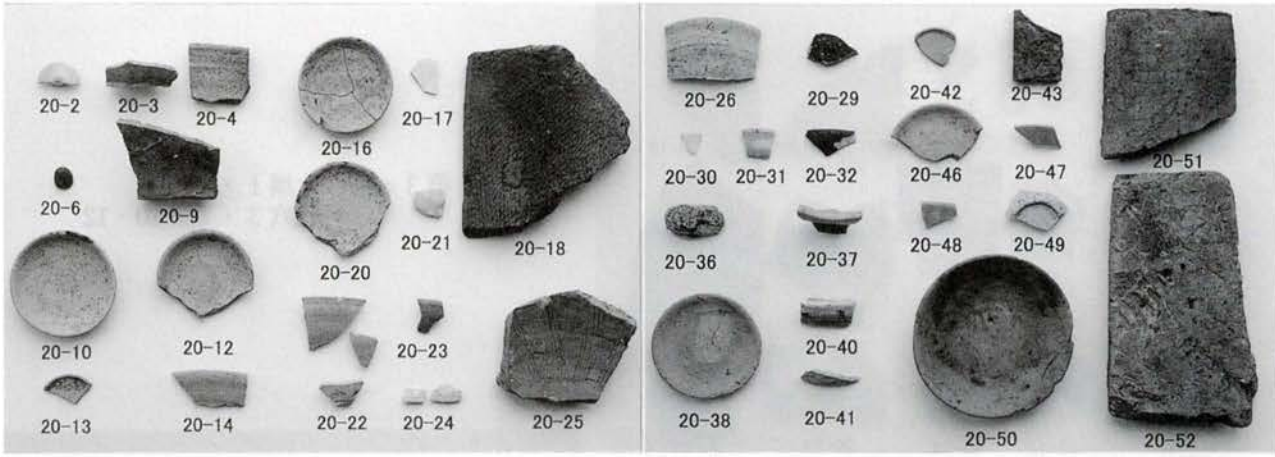


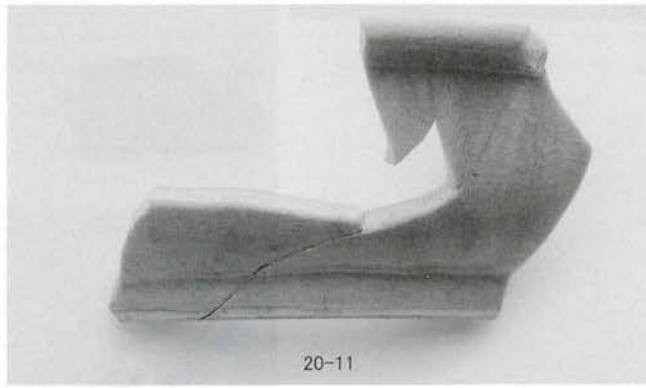
▲ 吉州窯碗



◀ 高麗青磁

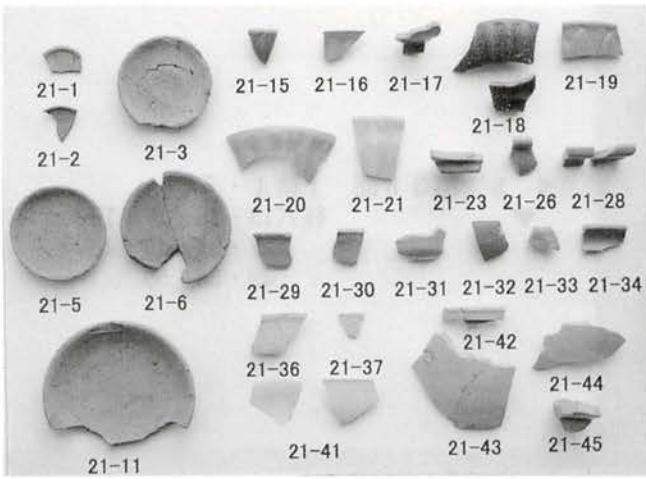
▲ a．第２面磁器溜り

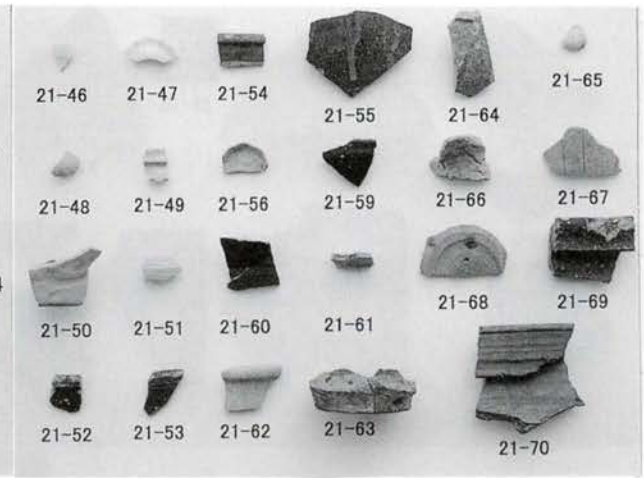




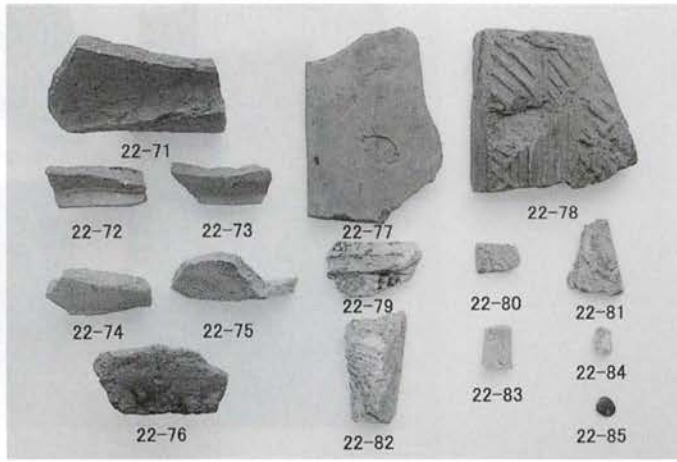
◀ 青磁　折緑鉢

▲a．第2面　柱穴2・5・7・11～14・16・19～21・28・29・34・39・43～45
48・54・55・60・66・71・72・79・86・89・90・91

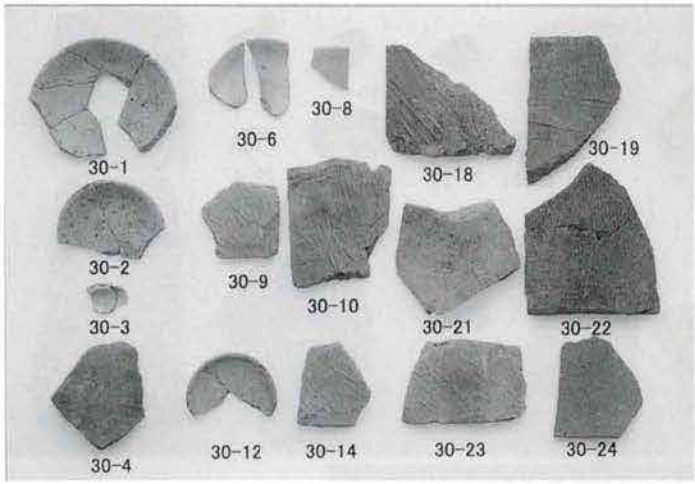




第2面上b．▲ ▶

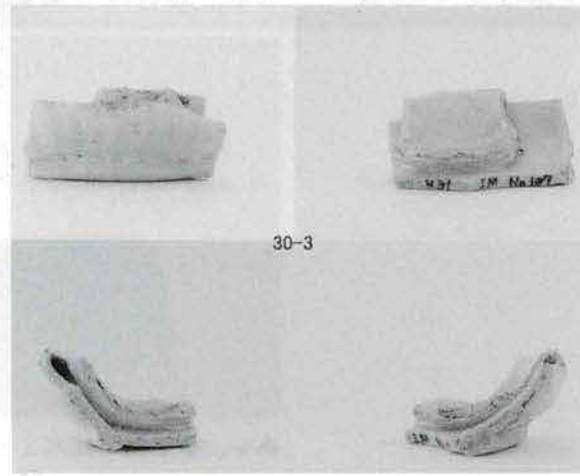


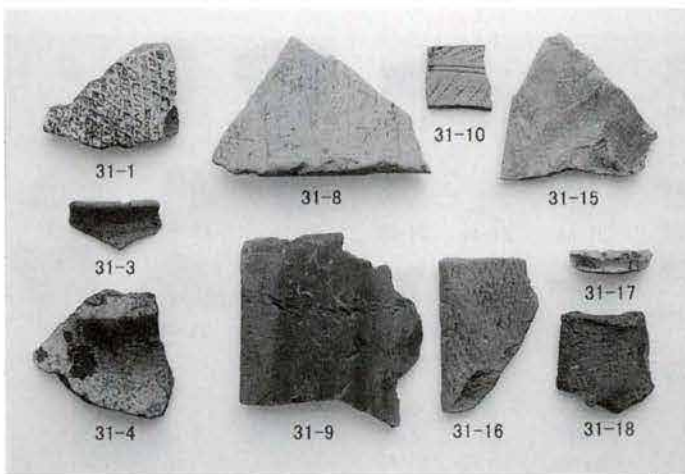
図版15



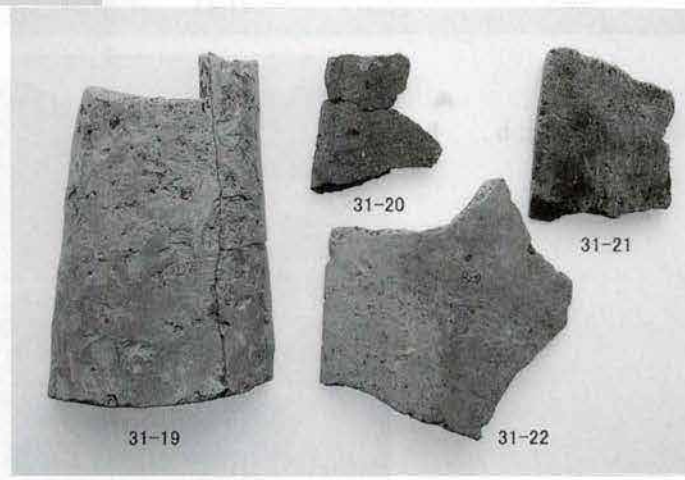
◀ a．第３ａ面　土壙１・２
▼　　柱穴３・５～10・12

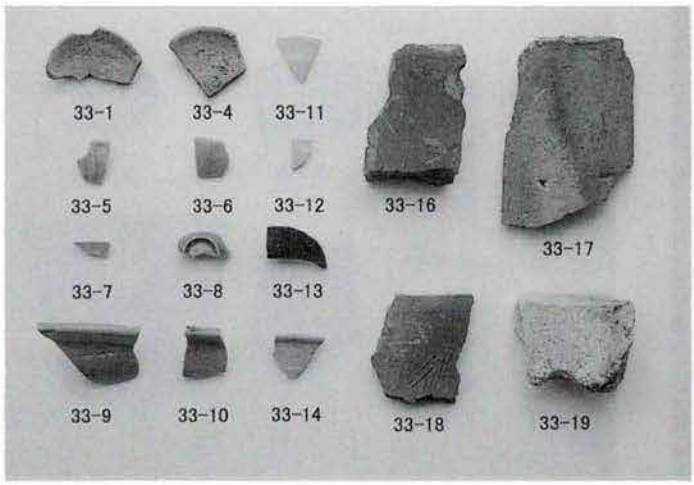
青白磁合子 ▶



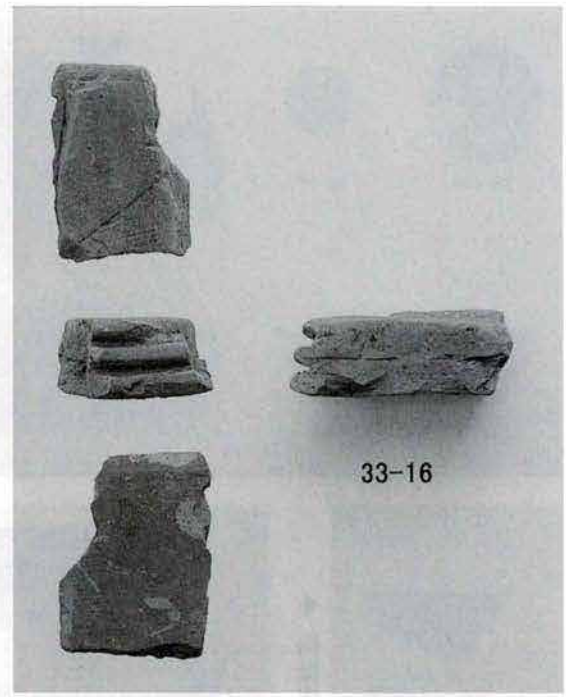


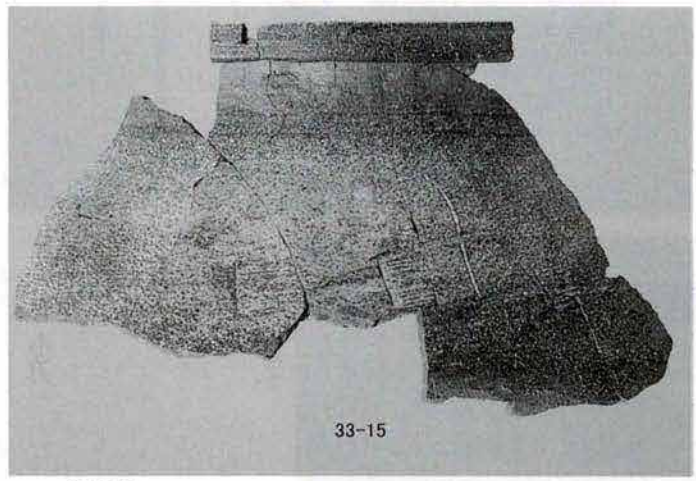
◀ b．第３ｂ面　土壙４・５
▼　　柱穴13・16・17・19
　　27・34・40・43
　　49・58・59



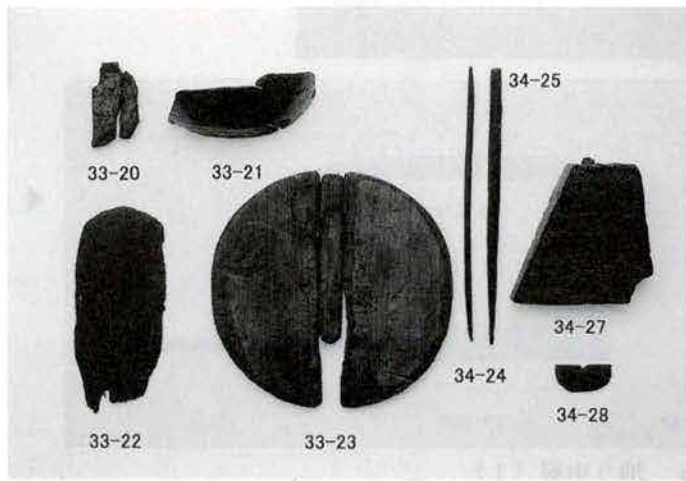


重弧文　宇瓦▶



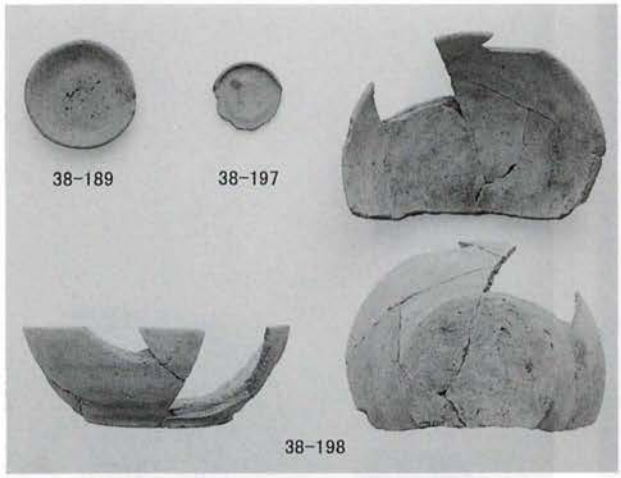


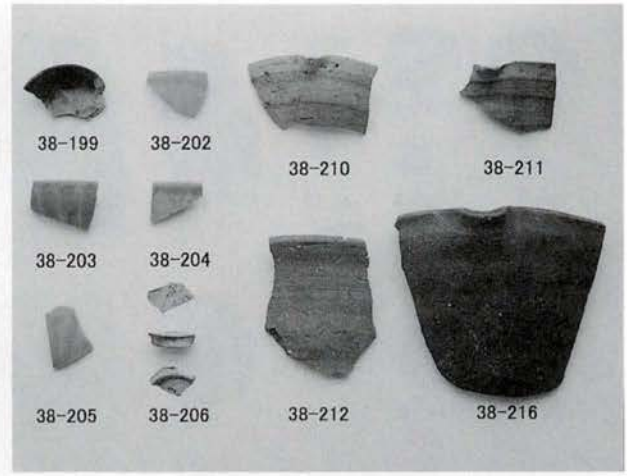
▲　常滑甕

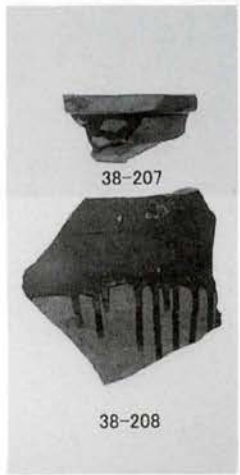


▲　a．池３上層

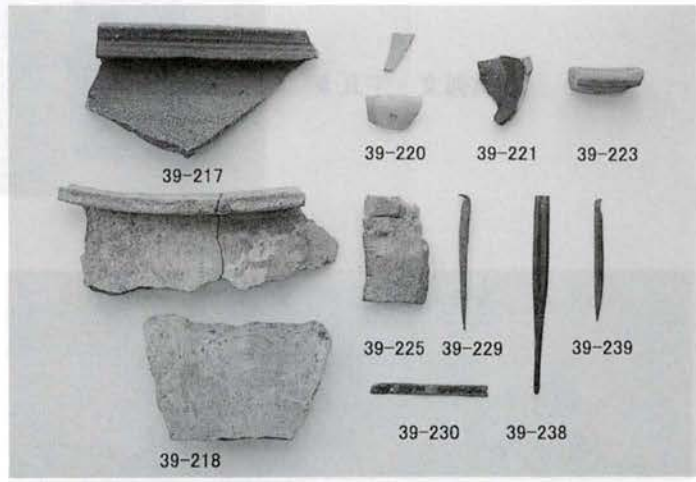
図版17



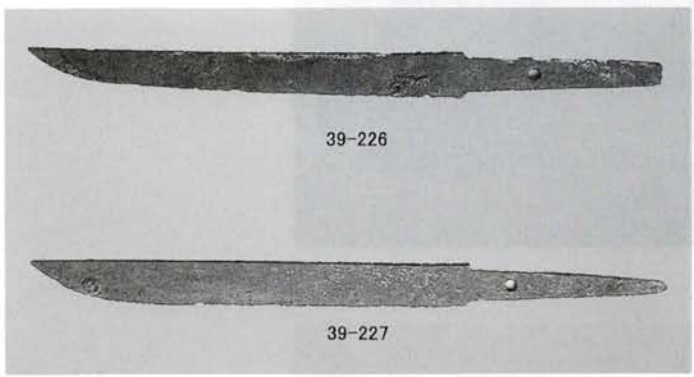




◀ 褐釉甕

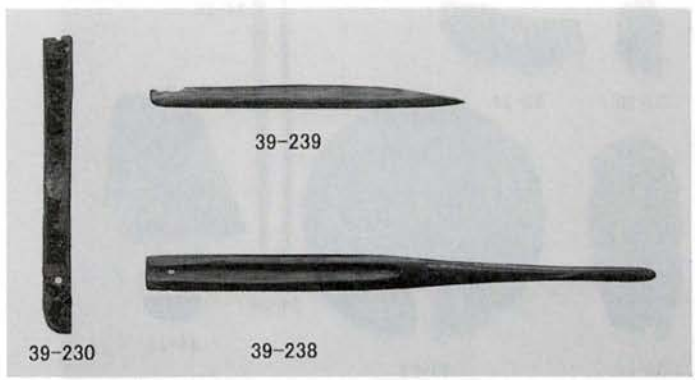


▶ 重弧文宇瓦



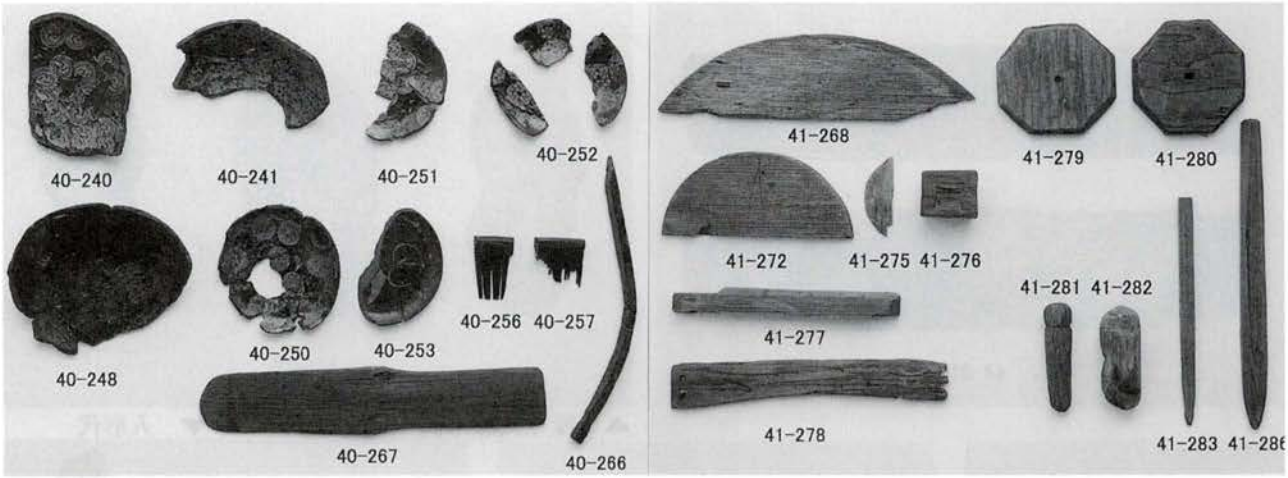
◀ 刀子

▶ 小刀

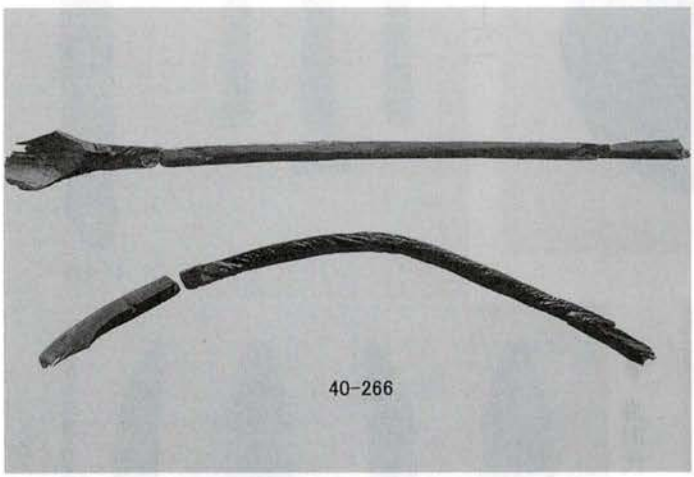


◀ 銅製品
骨製品　笄

▲ a．池３中層（１）

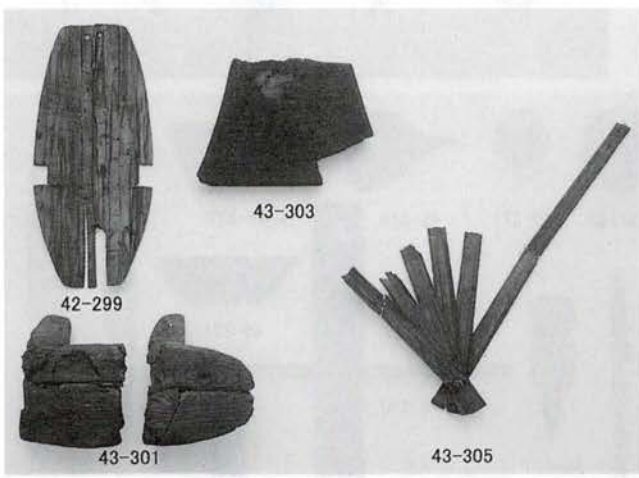


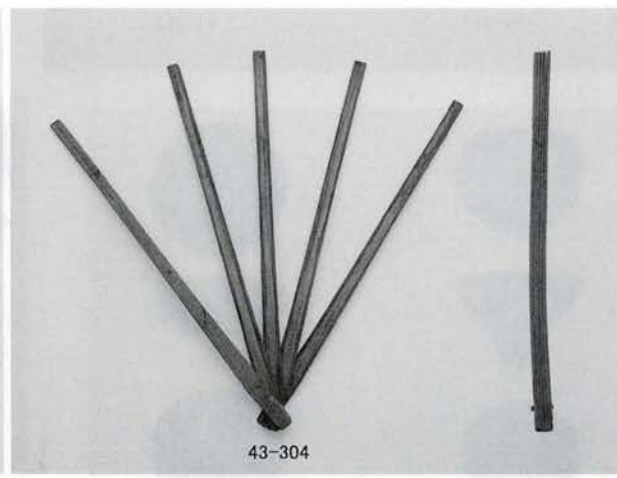
◀ 壺杓子



▶ 錐

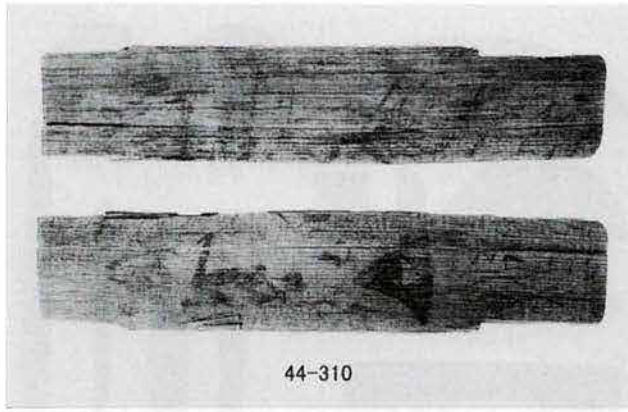
▼ 扇

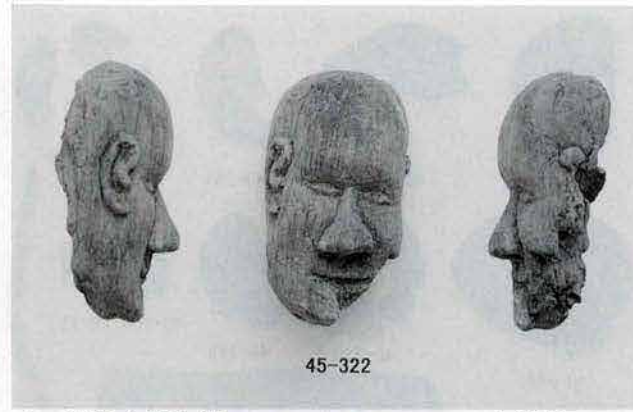




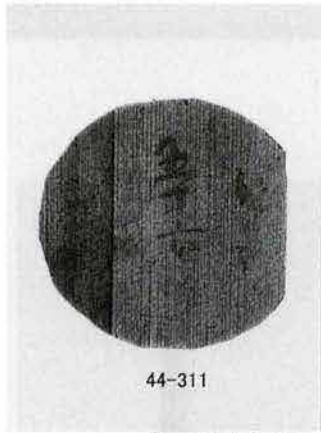
▲ a．池３中層（２）

図版19

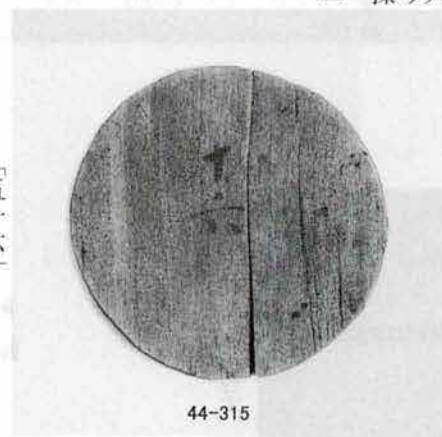




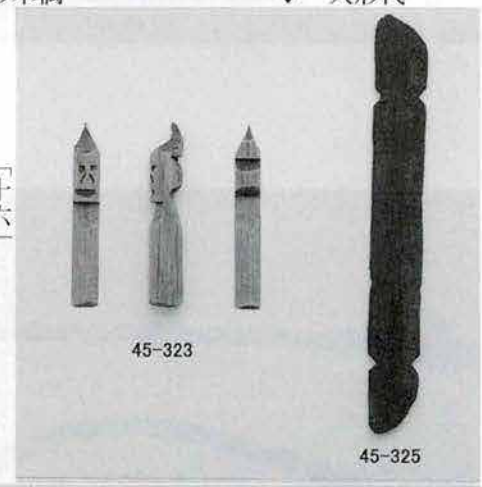
▲ 操り人形木偶　　▼ 人形代



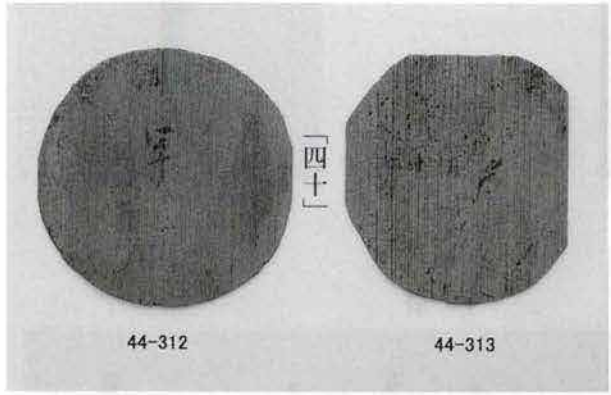
「五十六」



「十六」

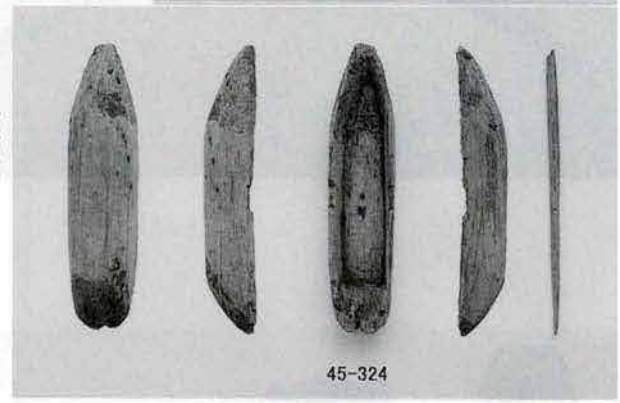


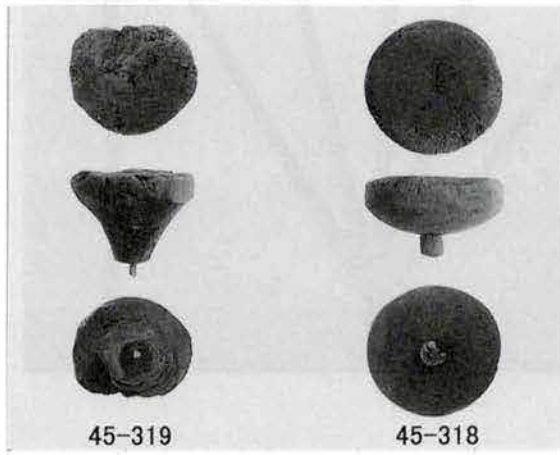
▲▼ 墨書折敷

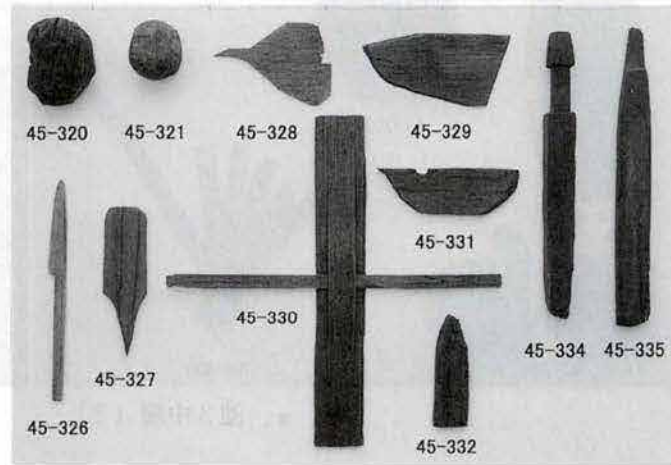


「四十」

▶ 舟形代

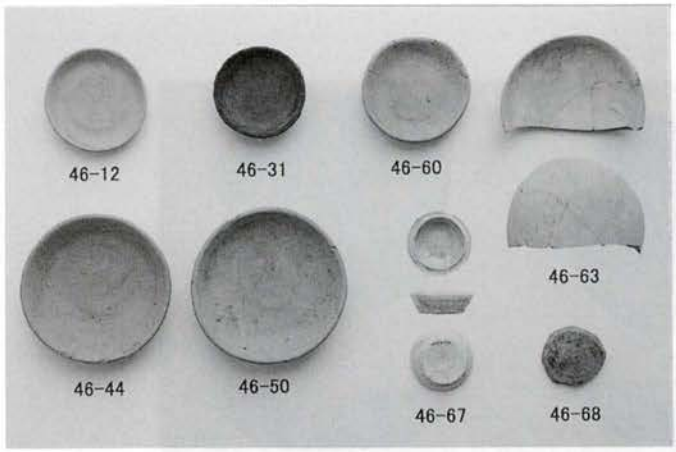




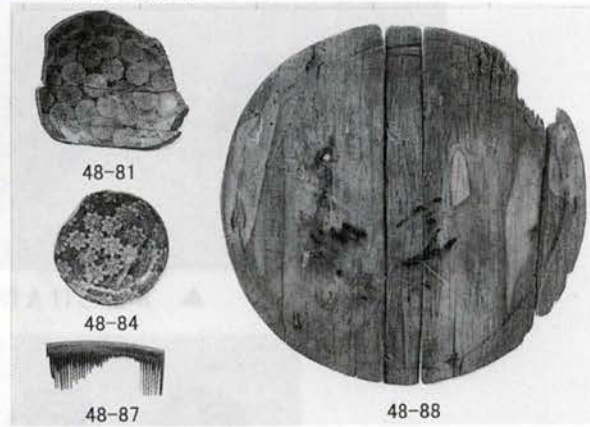


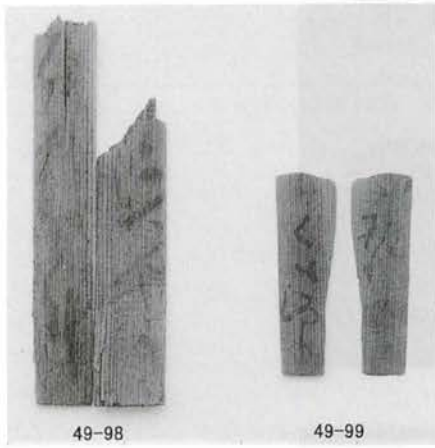
▲ 独楽

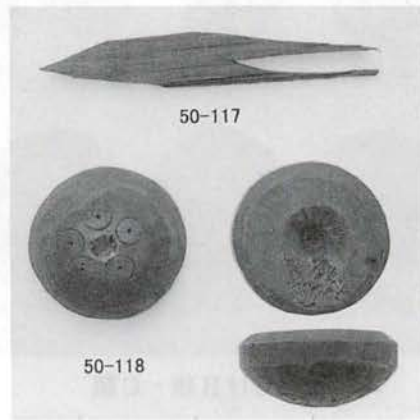
▲ a. 池３中層（３）



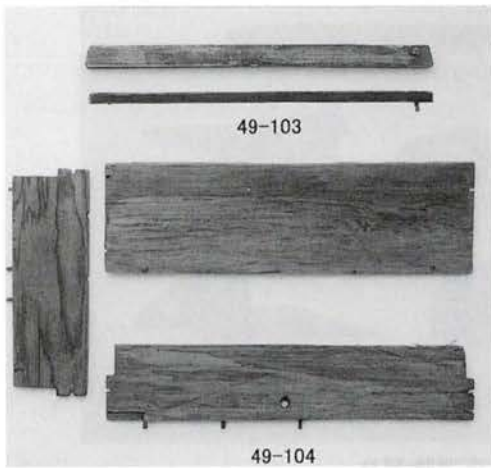
▲ 常滑三筋壺





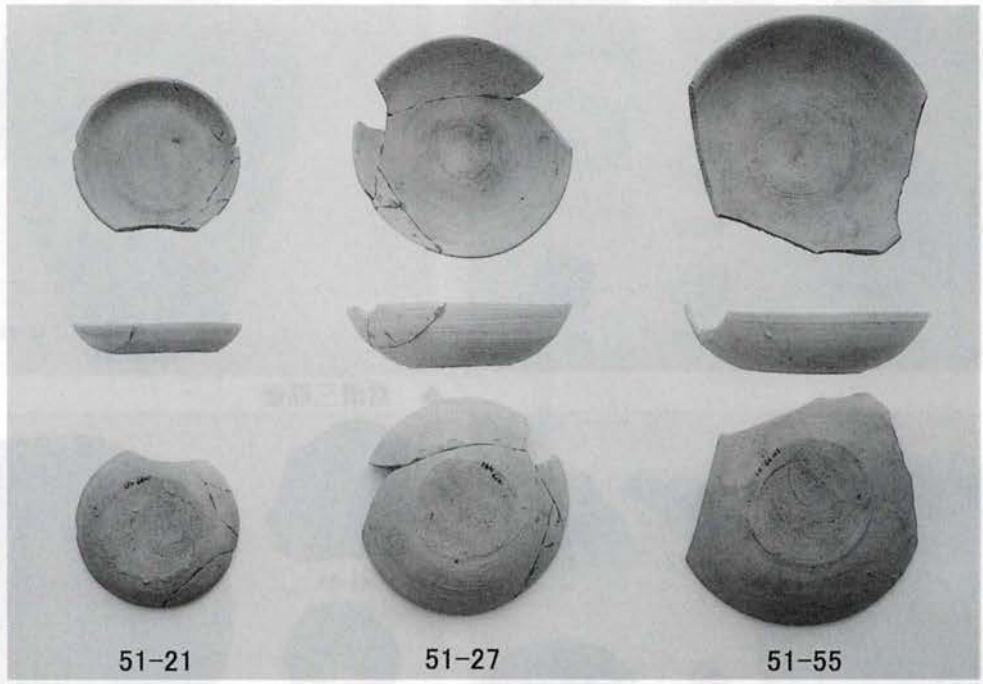


▲ 人形代

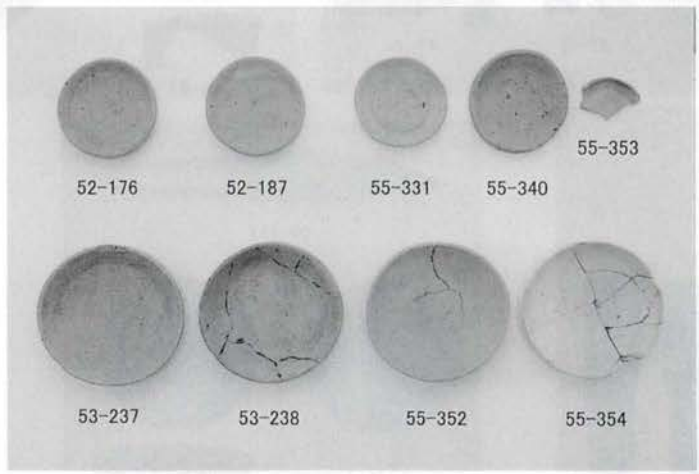


▲ a．池３下層

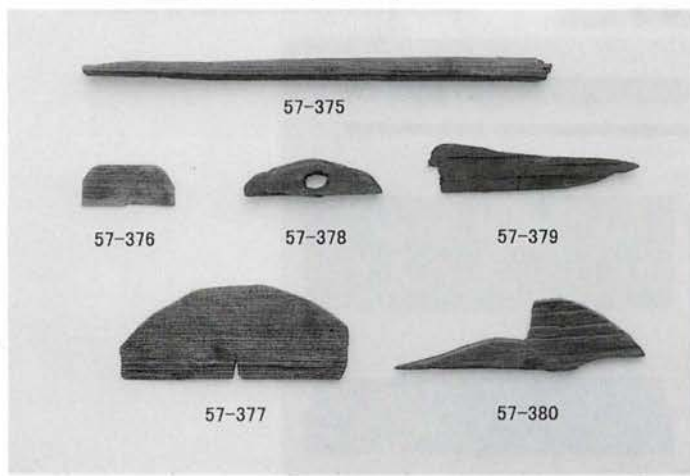
図版21



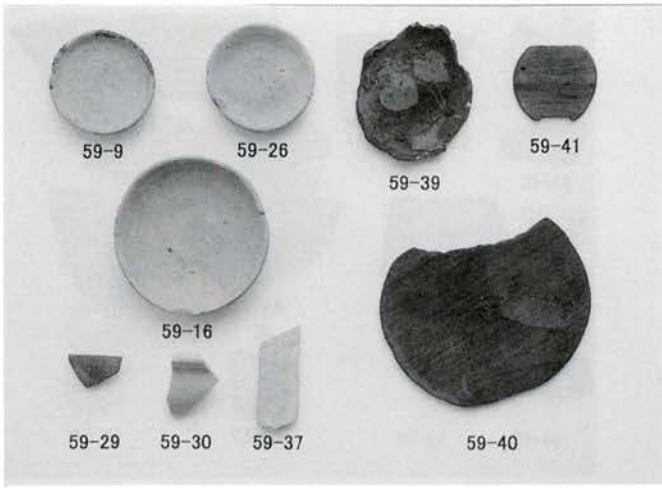
▲ かわらけA類



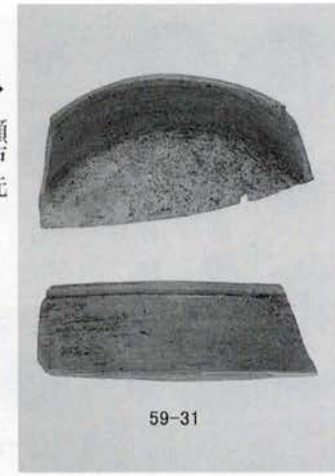
▲ かわらけB類・C類

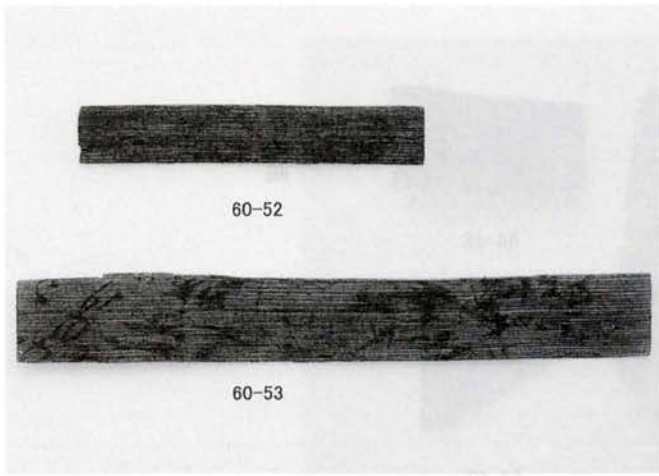


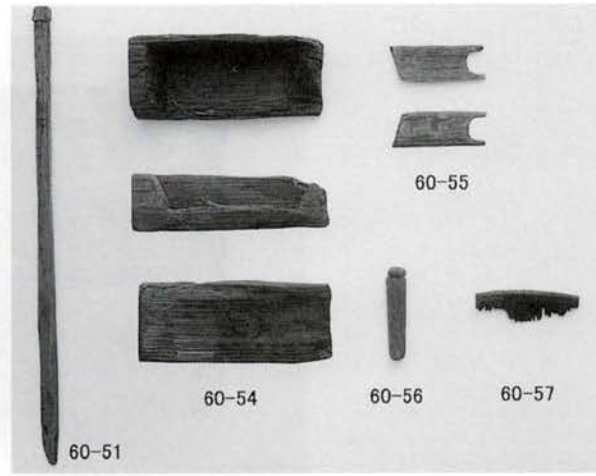
▲ a．池3北東遺物溜り



▶ 瀬戸洗

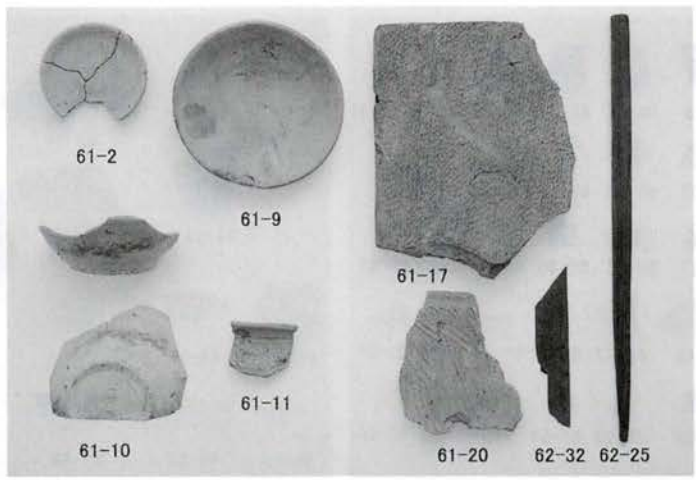






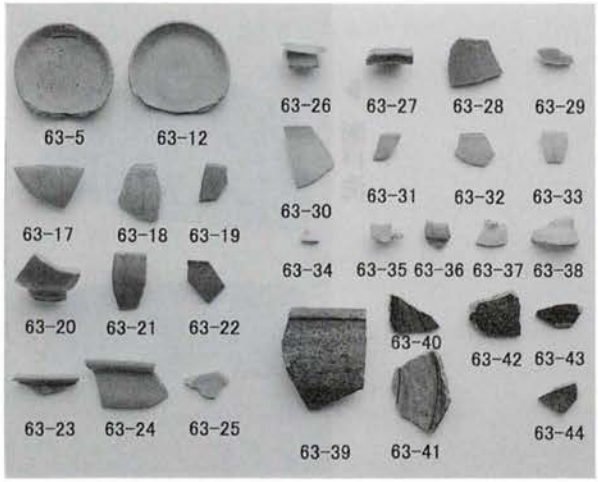
▲ 墨書折敷

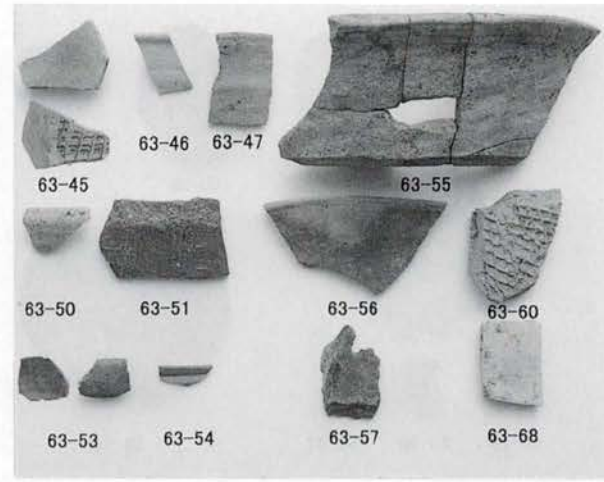
▲ a．池３裏込中

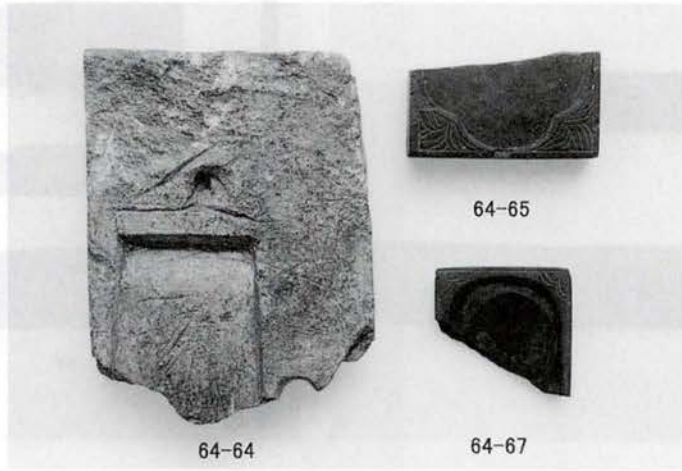


▲ b．池２

図版23

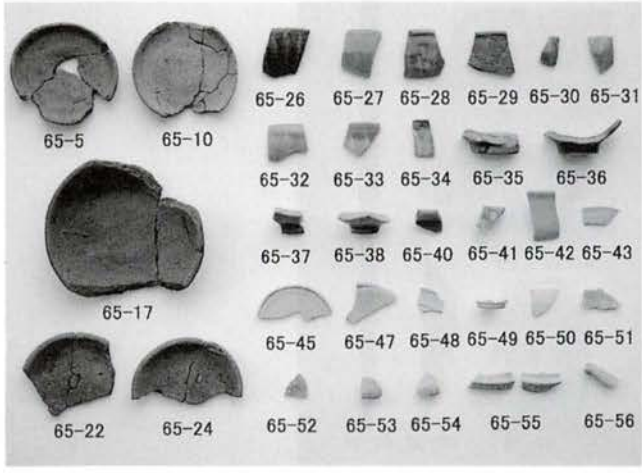


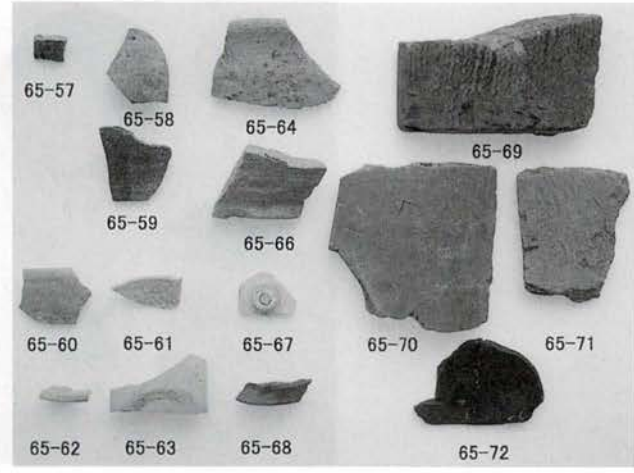




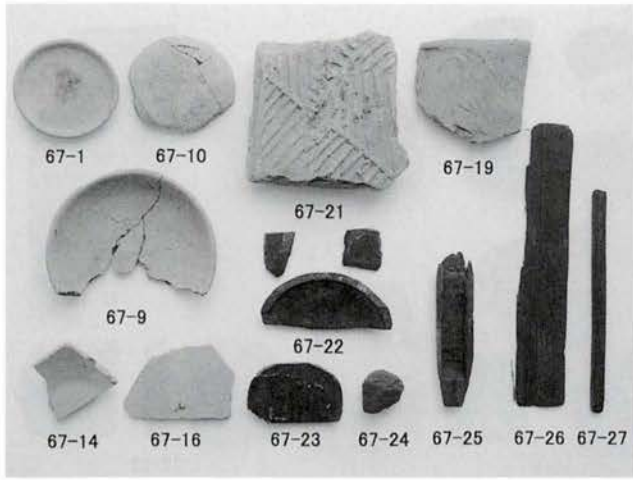
◀ 硯

▲ a．第３ａ面上

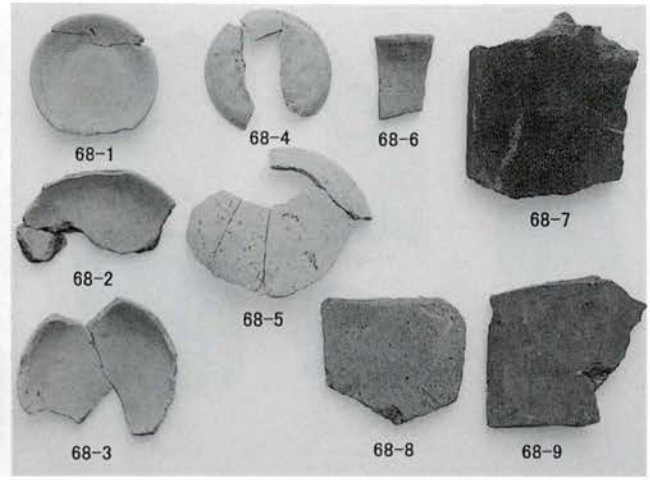




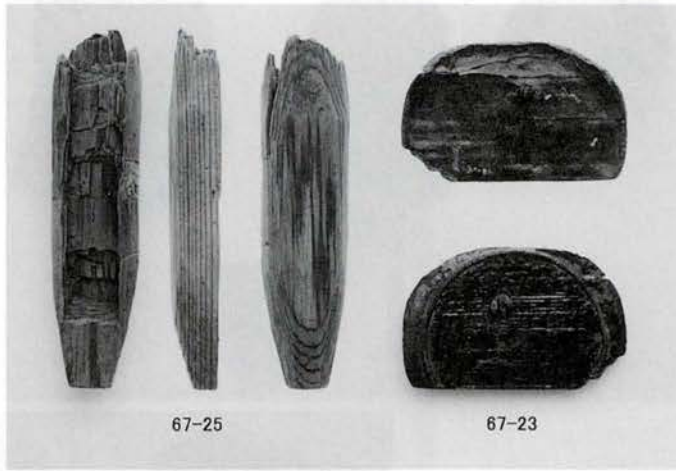
▲ b．第３ｂ面上



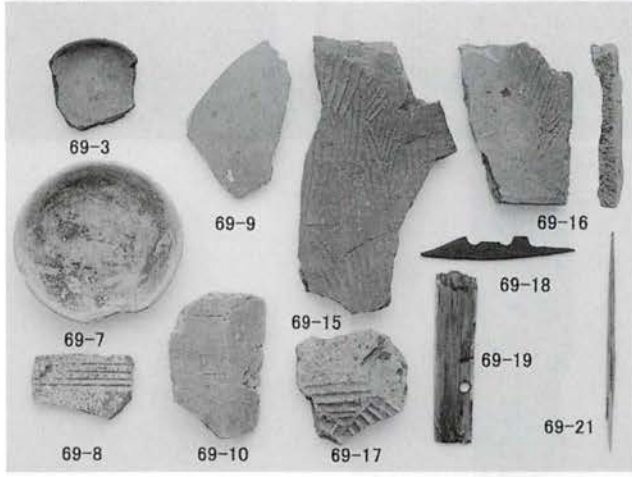
a．第1トレンチ上層



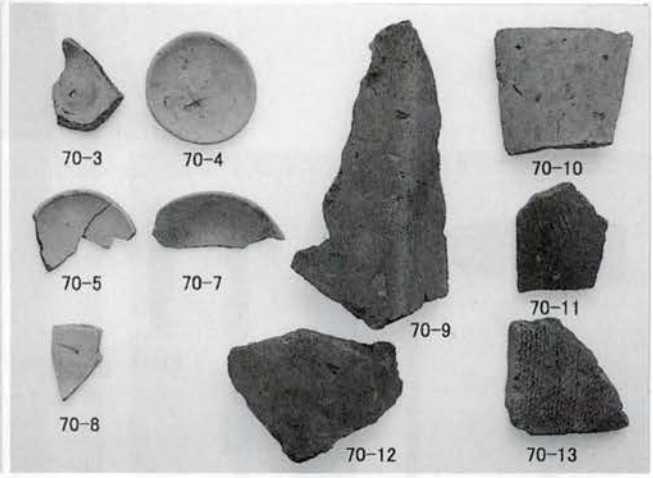
▲ b．第1トレンチ下層



▲ 舟形代　　漆器

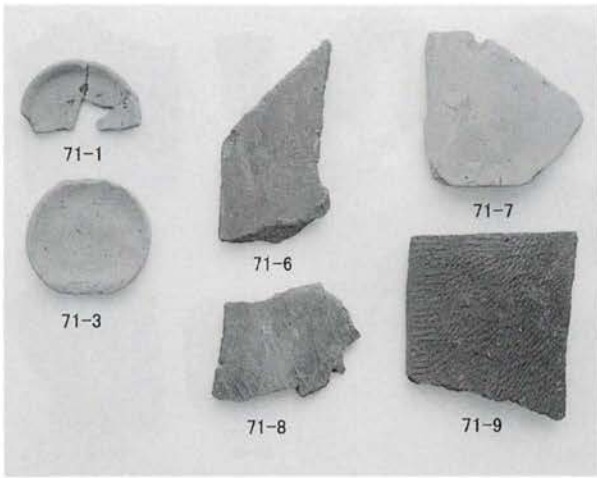


▲ c．第2トレンチ上層

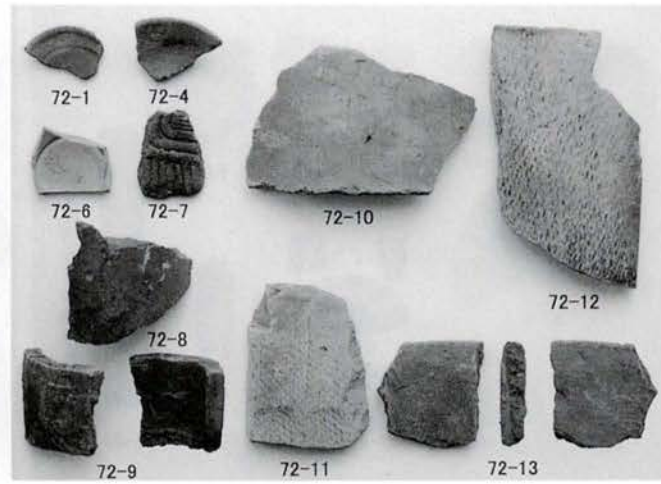


▲ d．第2トレンチ下層

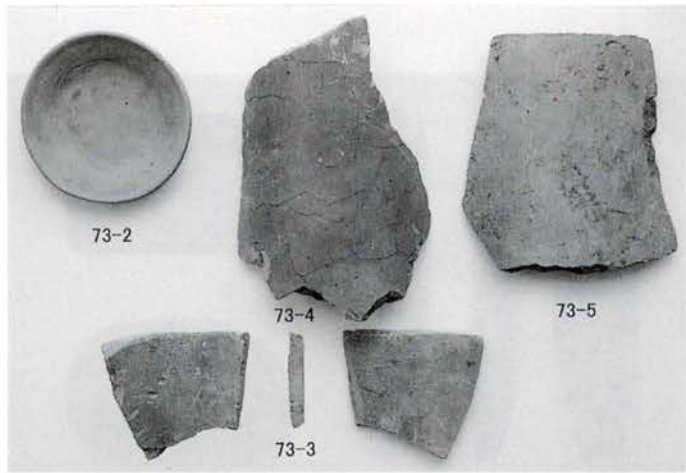
図版25



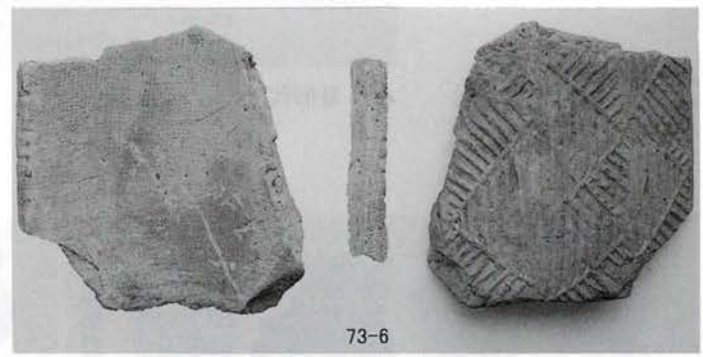
▲ a．第3トレンチ

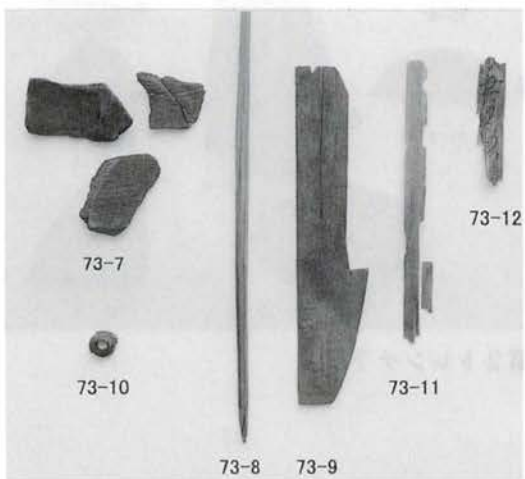


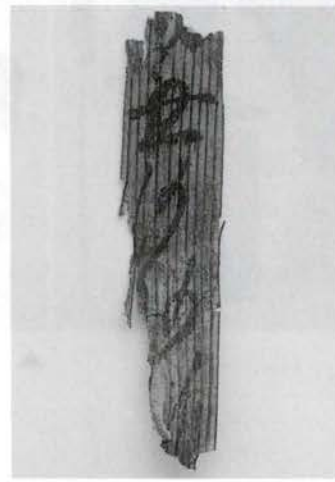
▲ b．第4トレンチ上層



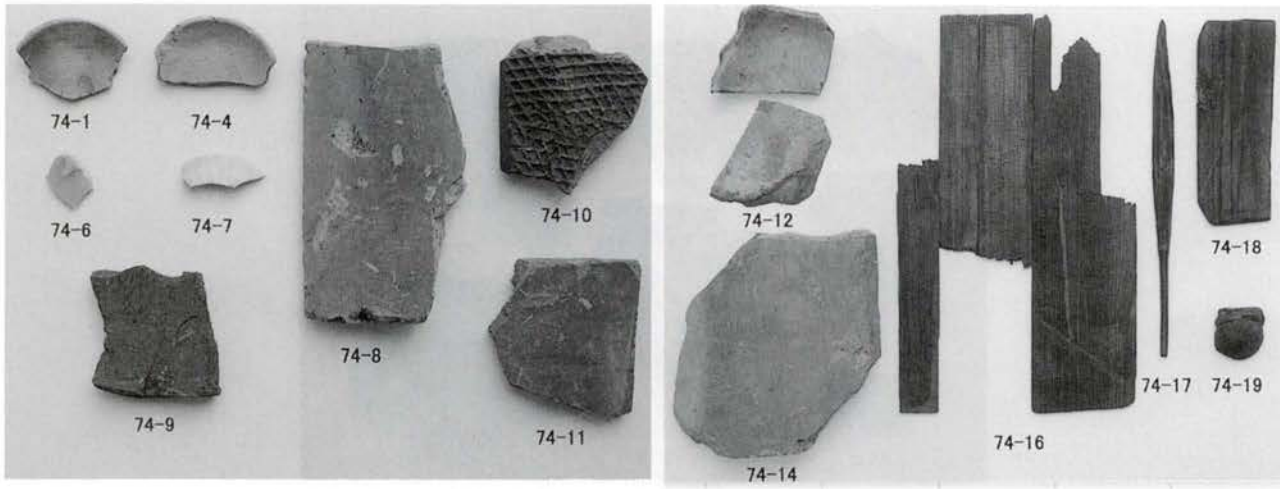
c．第4トレンチ下層



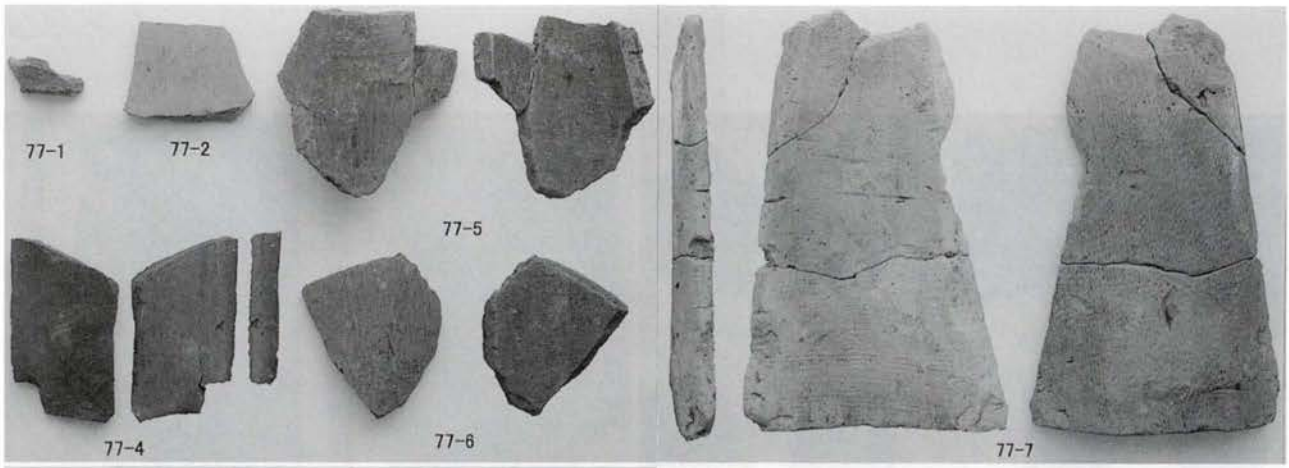


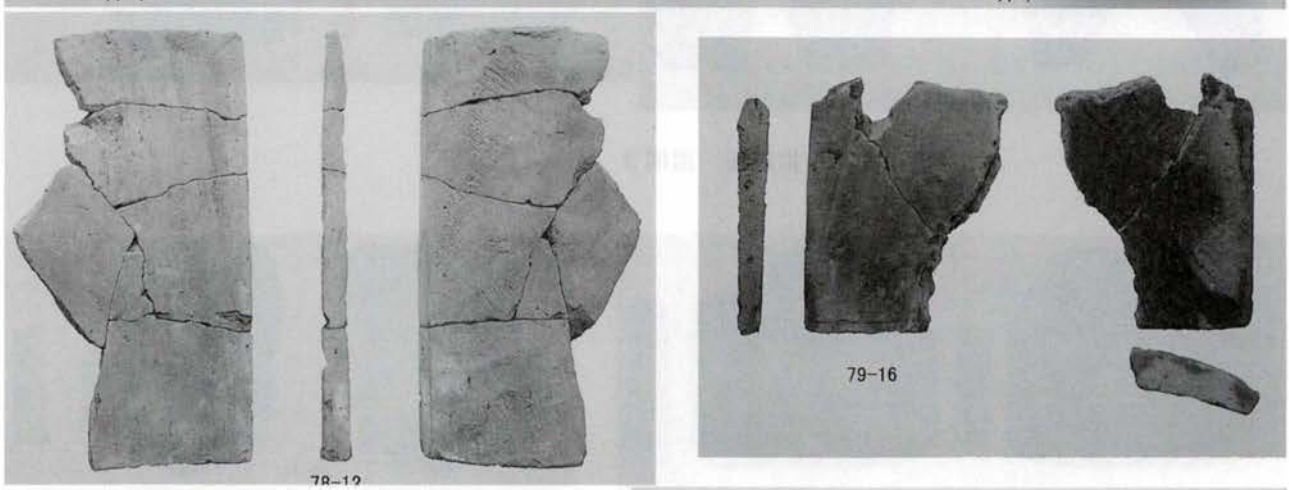


「南無阿弥陀仏」

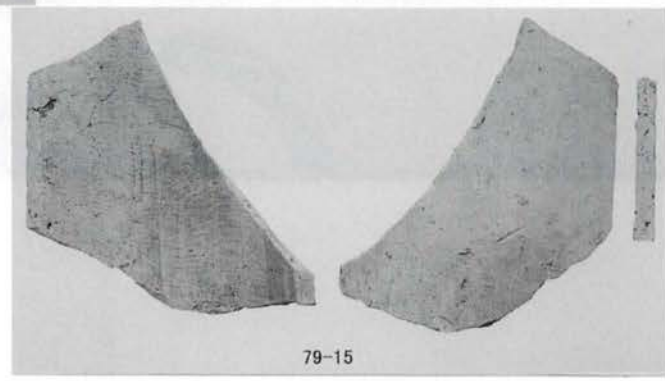


▲ a．第5トレンチ上層・下層

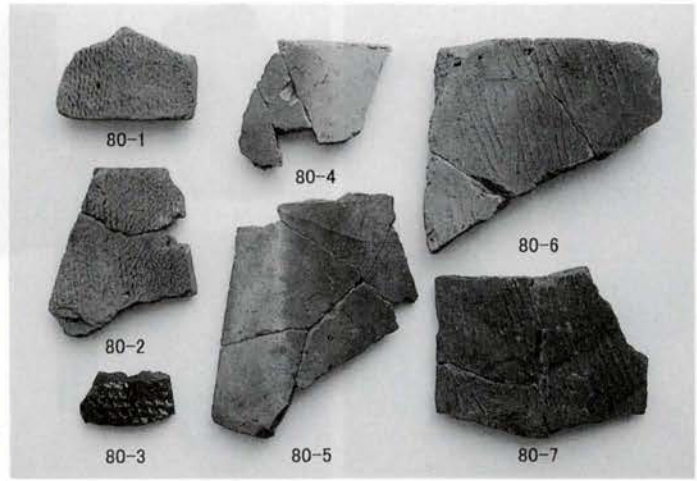




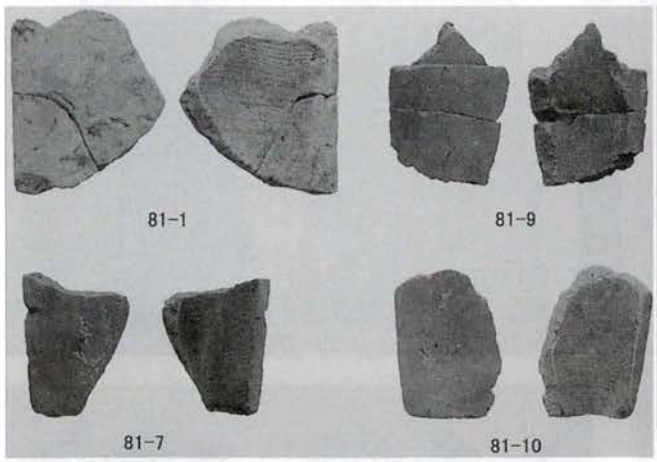
b．中世以前遺構1 ▲▶

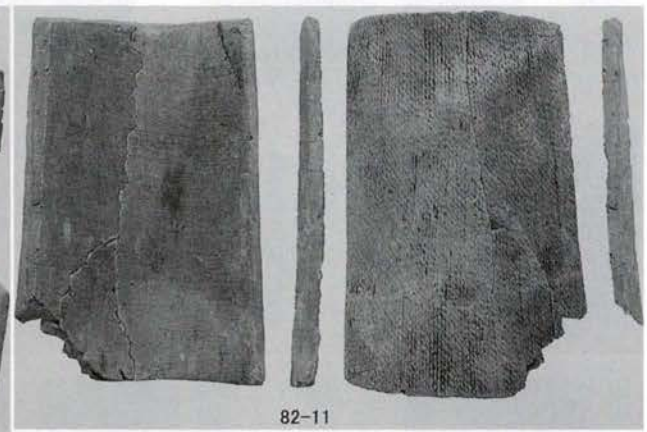


図版27

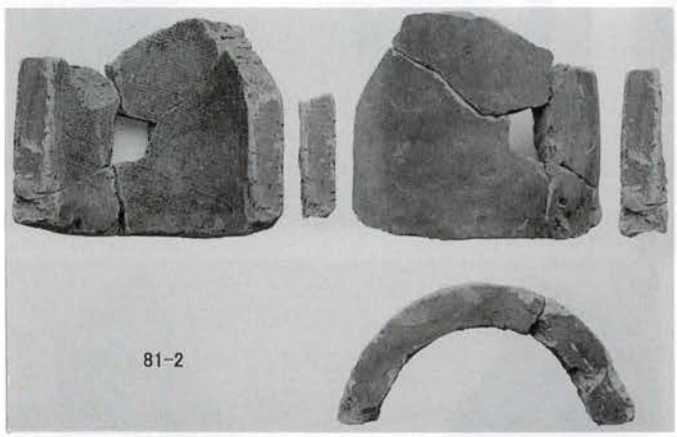


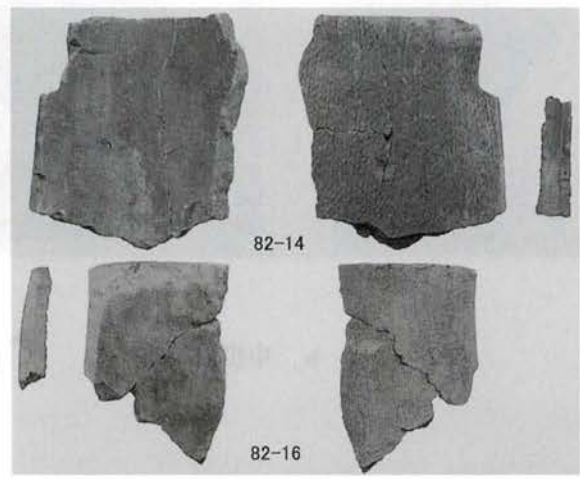
▲ a．中世以前　遺構2

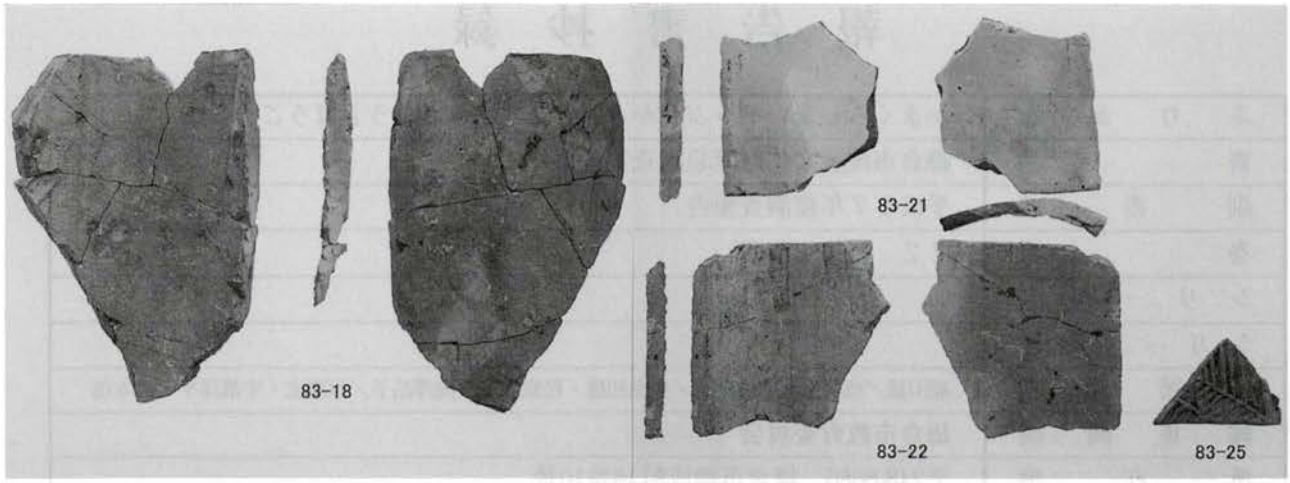


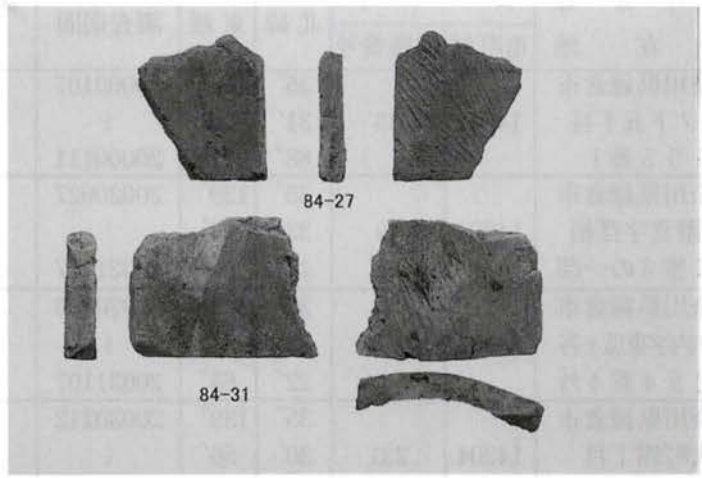


◆ b．中世以前　遺構3

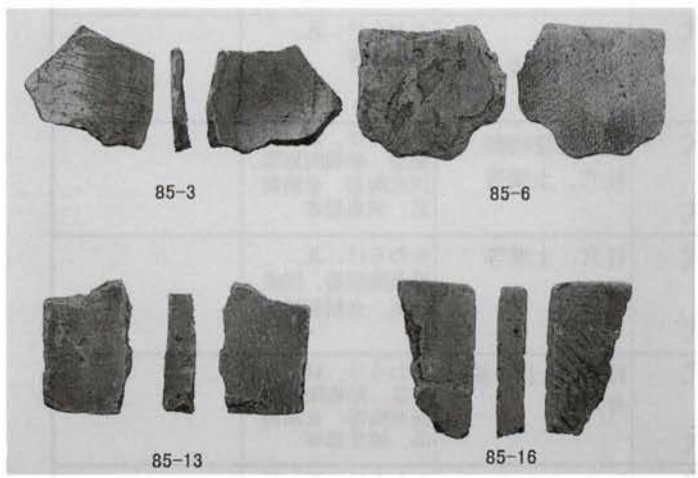




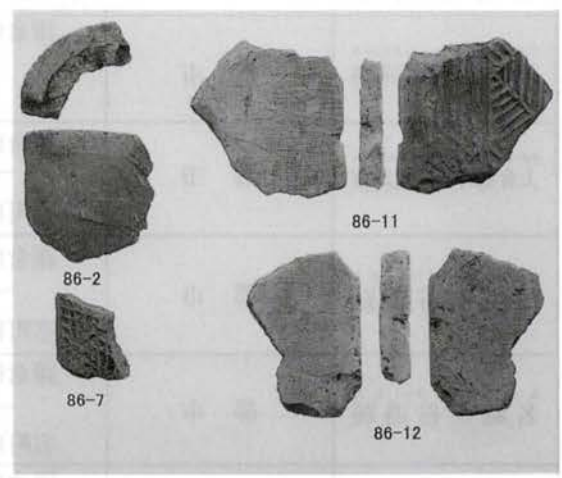




▲ a．中世以前　遺構3



▲ b．中世以前　遺構4



▲ c．中世以前　溝1

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書
副書名	平成１７年度調査報告
巻次	２２　（第１分冊）
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	福田誠／原廣志・須佐直子／馬淵和雄・松原康子／滝澤晶子／原廣志・宇都洋平・鈴木茂
編集機関	鎌倉市教育委員会
所在地	〒248-8686　鎌倉市御成町18番10号
発行年月日	西暦２００６年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
でんがくずしじゅうへんいせき 田楽辻子周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 雪ノ下五丁目 ５５５番１	14204	33	35° 31′ 88″	139° 56′ 61″	20000107 ～ 20000111	12.0	個人専用住宅
おおくらばくふしゅうへんいせいぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 二階堂字荏柄 ２７番３の一部	14204	49	35° 32′ 16″	139° 56′ 66″	20020927 ～ 20021127	52.39	個人専用住宅
にしうりがやついせき 西瓜ヶ谷遺跡	神奈川県鎌倉市 山ノ内字東瓜ヶ谷 １２９４番４外	14204	213	35° 33′ 22″	139° 54′ 63″	20020930 ～ 20021107	71.19	個人専用住宅
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	神奈川県鎌倉市 大町四丁目 ２３９５番2の一部	14204	231	35° 30′ 86″	139° 56′ 2″	20030212 ～ 20030317	30.00	個人専用住宅
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	神奈川県鎌倉市 御成町 ２００番2の一部	14204	201	35° 31′ 69″	139° 55′ 8″	20030303 ～ 20030619	124.00	個人専用住宅 (杭基礎構造)

収録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
でんがくずしじゅうへんいせき 田楽辻子周辺遺跡	都市	鎌倉時代	柱穴、土壙、溝跡	かわらけ、瓦、須恵器等	
おおくらばくふしゅうへんいせいぐん 大倉幕府周辺遺跡群	都市	鎌倉時代 ～ 室町時代	掘立柱建物跡、柱穴、土壙等	かわらけ、銭、石製品、舶載陶磁器、国産陶器、金属製品、須恵器等	
にしうりがやついせき 西瓜ヶ谷遺跡	都市	鎌倉時代 ～ 室町時代	柱穴、土壙等	かわらけ、瓦、舶載陶磁器、国産陶器、金属製品等	
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	都市	鎌倉時代 ～ 室町時代	柱穴、土壙、溝跡 井戸跡	かわらけ、銭、石製品、舶載陶磁器、国産陶器、金属製品、須恵器等	
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	都市	鎌倉時代 ～ 室町時代	柱穴、土壙、池跡、掘立柱建物跡、井戸跡等	かわらけ、瓦、石製品、舶載陶磁器、国産陶器、金属製品、木製品等	

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書　22
平成17年度　発掘調査報告（第１分冊）

発行日　平成18年３月31日

編　集
発　行　鎌倉市教育委員会

印　刷　有限会社 駒瀬印刷所